

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

だい たらう

# 台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

盛 岡 市  
(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

だい たらう

# 台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

# 序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置を取って参りました。

本報告書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成12年度に調査した台太郎遺跡第26次調査の結果をまとめたものであります。調査によって奈良～平安時代並びに中世の集落跡などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市開発部盛南開発課・盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に心より謝意を表します。

平成14年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 合 田 武

## 例 言

1. 本報告書は、盛岡市向中野字向中野3-5ほかに所在する、台太郎遺跡第26次調査の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と盛岡市・地域振興整備公団の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次の通りである。  
LE16-2269・ODT-00-26
4. 発掘調査期間は、平成12年4月19日～10月30日、発掘調査面積は13,662㎡である。  
室内整理期間は、平成12年11月1日～平成13年3月31日、  
平成13年8月1日～10月30日である。  
野外調査担当：杉沢昭太郎・半澤武彦・吉田里和・古館貞身・原美津子  
室内整理担当：杉沢昭太郎・半澤武彦・吉田里和
5. 本報告書の執筆は、Iを高橋與右衛門が、それ以外を杉沢・半澤・古館が担当し、編集は杉沢が行った。
6. 遺物等の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
  - ・石質鑑定…花崗岩研究会
  - ・鉄器保存処理…岩手県立博物館
  - ・炭化材同定…木炭協会
7. 座標点の測量、空中写真撮影は、次の機関に委託した。
  - ・座標点の測量…(株)吉田測量設計
  - ・空中写真…東邦航空(株)
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。  
盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛南開発課・地域振興整備公団
9. 野外調査や整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導を頂いた。(50音順・敬称略)  
井上雅孝(滝沢村教育委員会) 宇部則保(八戸市教育委員会)  
杉本良(北上市立埋蔵文化財センター) 長島栄一・松本知彦(仙台市教育委員会)  
村田晃一(宮城県教育庁)
10. 野外調査では盛岡市・滝沢村をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

## [本文目次]

序

例言

I 調査に至る経過	5	10 出土遺物	223
II 遺跡の位置と立地	5	(1) 土師器・須恵器	223
1 遺跡の位置と地形・地質	5	(2) 陶磁器	266
2 遺跡の立地	7	(3) 縄文土器ほか	266
3 基本層序	7	(4) 金属製品	266
4 周辺の遺跡と歴史的環境	8	(5) 土製品ほか	267
III 調査の方法と室内整理	15	(6) 石器・石製品	267
1 野外調査の方法	15	V まとめ	294
2 室内整理	17	土坑類観察表	146
IV 検出された遺構と遺物	29	焼土・炉跡観察表	170
1 古墳時代末から		溝跡観察表	190
平安時代の竪穴住居跡	29	柱穴計測表	215
2 中世の竪穴建物跡	130	土師器・須恵器観察表	279
3 竪穴状遺構	134	陶磁器観察表	291
4 掘立柱建物跡	136	縄文土器ほか観察表	291
5 土坑および墓壇（中世）	145	金属製品観察表	292
6 焼土・炉跡	170	銭貨観察表	292
7 溝跡	172	土製品ほか観察表	293
8 井戸跡	193	石器・石製品観察表	293
9 その他の遺構	196		

## [図版目次]

第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1	第21図 R A 405竪穴住居跡	37
第2図 遺跡の位置図	2	第22図 R A 407竪穴住居跡	38
第3図 遺跡周辺地形図	3・4	第23図 R A 409竪穴住居跡	39
第4図 遺跡周辺地形分類図	6	第24図 R A 410竪穴住居跡	40
第5図 基本土層柱状図	7	第25図 R A 412竪穴住居跡	42
第6図 周辺の遺跡分布図（古代）	9	第26図 R A 414竪穴住居跡	43
第7図 周辺の遺跡分布図（中・近世）	14	第27図 R A 416竪穴住居跡	44
第8図 グリッド配置図	15	第28図 R A 417竪穴住居跡	45
第9図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図	19・20	第29図 R A 418竪穴住居跡	47
第10図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図（1）	21・22	第30図 R A 421竪穴住居跡	48
第11図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図（2）	23	第31図 R A 438竪穴住居跡	49
第12図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図（3）	24	第32図 R A 439竪穴住居跡	50
第13図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図（4）	25・26	第33図 R A 441竪穴住居跡（1）	51
第14図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図（5）	27・28	第34図 R A 441竪穴住居跡（2）	52
第15図 R A 210竪穴住居跡	30	第35図 R A 442竪穴住居跡（1）	53
第16図 R A 234竪穴住居跡	31	第36図 R A 442竪穴住居跡（2）	54
第17図 R A 237竪穴住居跡	32	第37図 R A 444竪穴住居跡	56
第18図 R A 281竪穴住居跡	33	第38図 R A 445竪穴住居跡	58
第19図 R A 402竪穴住居跡	35	第39図 R A 446竪穴住居跡	60
第20図 R A 404竪穴住居跡	36	第40図 R A 447竪穴住居跡（1）	62

第41图	R A 447豎穴住居跡 (2)·····	63	第91图	R A 232豎穴建物跡·····	131
第42图	R A 448豎穴住居跡·····	64	第92图	R A 443豎穴建物跡·····	132
第43图	R A 449豎穴住居跡·····	66	第93图	R A 450豎穴建物跡·····	132
第44图	R A 451豎穴住居跡·····	67	第94图	R A 454豎穴建物跡·····	133
第45图	R A 455豎穴住居跡·····	68	第95图	R E 048·049豎穴状遺構·····	135
第46图	R A 456豎穴住居跡·····	70	第96图	R B 031·034掘立柱建物跡·····	137
第47图	R A 457豎穴住居跡·····	71	第97图	R B 035·036掘立柱建物跡·····	139
第48图	R A 458豎穴住居跡·····	73	第98图	R B 038掘立柱建物跡·····	140
第49图	R A 459豎穴住居跡·····	74	第99图	R B 039·040掘立柱建物跡·····	142
第50图	R A 460豎穴住居跡·····	75	第100图	R B 037·041掘立柱建物跡·····	144
第51图	R A 461豎穴住居跡·····	76	第101图	R D土坑 (1)·····	151
第52图	R A 214豎穴住居跡·····	78	第102图	R D土坑 (2)·····	152
第53图	R A 218豎穴住居跡·····	80	第103图	R D土坑 (3)·····	153
第54图	R A 312豎穴住居跡·····	81	第104图	R D土坑 (4)·····	154
第55图	R A 316豎穴住居跡·····	82	第105图	R D土坑 (5)·····	155
第56图	R A 397豎穴住居跡·····	84	第106图	R D土坑 (6)·····	156
第57图	R A 399豎穴住居跡·····	85	第107图	R D土坑 (7)·····	157
第58图	R A 400豎穴住居跡·····	87	第108图	R D土坑 (8)·····	158
第59图	R A 401豎穴住居跡·····	88	第109图	R D土坑 (9)·····	159
第60图	R A 403豎穴住居跡 (1)·····	90	第110图	R D土坑 (10)·····	160
第61图	R A 403豎穴住居跡 (2)·····	91	第111图	R D土坑 (11)·····	161
第62图	R A 406豎穴住居跡·····	92	第112图	R D土坑 (12)·····	162
第63图	R A 408豎穴住居跡·····	93	第113图	R D土坑 (13)·····	163
第64图	R A 411豎穴住居跡·····	95	第114图	R D土坑 (14)·····	164
第65图	R A 413豎穴住居跡·····	96	第115图	R D土坑 (15)·····	165
第66图	R A 415豎穴住居跡 (1)·····	97	第116图	R D土坑 (16)·····	166
第67图	R A 415豎穴住居跡 (2)·····	98	第117图	R D土坑 (17)·····	167
第68图	R A 419豎穴住居跡·····	100	第118图	R D土坑 (18)·····	168
第69图	R A 420豎穴住居跡·····	101	第119图	R D土坑 (19)·····	169
第70图	R A 422豎穴住居跡·····	102	第120图	R F烧土·炉跡 (1)·····	171
第71图	R A 423豎穴住居跡·····	104	第121图	R F烧土·炉跡 (2)·····	172
第72图	R A 424豎穴住居跡·····	106	第122图	R G溝跡 (1)·····	173·174
第73图	R A 425豎穴住居跡·····	107	第123图	R G溝跡 (2)·····	175
第74图	R A 426豎穴住居跡·····	108	第124图	R G溝跡 (3)·····	176
第75图	R A 427豎穴住居跡·····	110	第125图	R G溝跡 (4)·····	177·178
第76图	R A 429豎穴住居跡·····	111	第126图	R G溝跡 (5)·····	179·180
第77图	R A 430豎穴住居跡 (1)·····	113	第127图	R G溝跡 (6)·····	181
第78图	R A 430豎穴住居跡 (2)·····	114	第128图	R G溝跡 (7)·····	182
第79图	R A 431豎穴住居跡·····	116	第129图	R G溝跡 (8)·····	183
第80图	R A 432豎穴住居跡·····	117	第130图	R G溝跡 (9)·····	184
第81图	R A 433豎穴住居跡·····	119	第131图	R G溝跡 (10)·····	185
第82图	R A 434豎穴住居跡·····	120	第132图	R G溝跡 (11)·····	186
第83图	R A 435豎穴住居跡·····	121	第133图	R G溝跡 (12)·····	187
第84图	R A 437豎穴住居跡·····	122	第134图	R G溝跡 (13)·····	188
第85图	R A 440豎穴住居跡·····	123	第135图	R G溝跡 (14)·····	189
第86图	R A 452豎穴住居跡·····	125	第136图	R I 011·012·013井戸跡·····	195
第87图	R A 398豎穴住居跡·····	126	第137图	R Z 027方形周溝跡·····	197
第88图	R A 428豎穴住居跡·····	127	第138图	R Z 028円形周溝·R Z 023性格不明遺構·····	198
第89图	R A 436豎穴住居跡·····	128	第139图	柱穴群 (1)·····	200
第90图	R A 453豎穴住居跡·····	129			

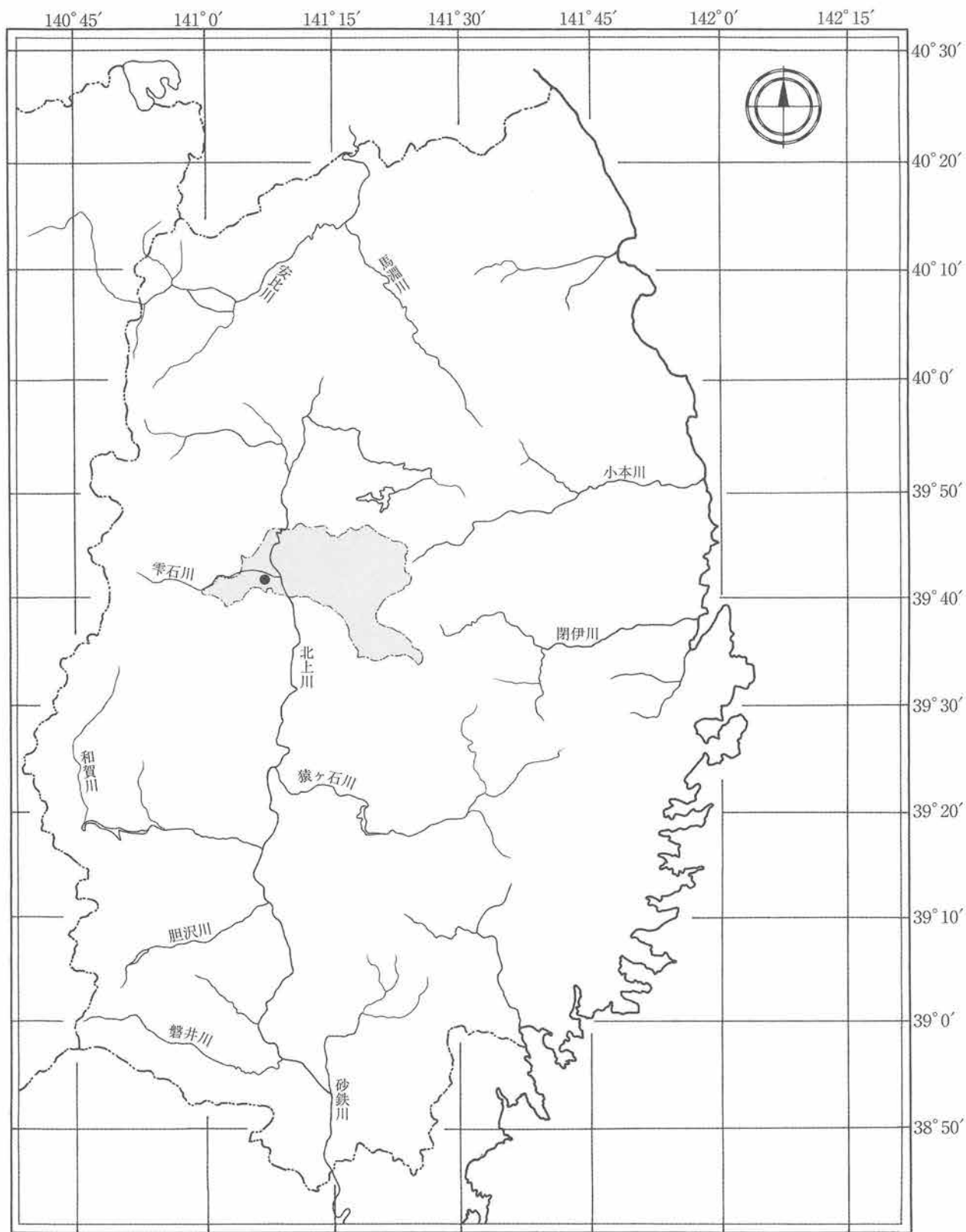
第140図	柱穴群 (2) .....	201 · 202	第180図	土師器・須恵器 (31) .....	255
第141図	柱穴群 (3) .....	203 · 204	第181図	土師器・須恵器 (32) .....	256
第142図	柱穴群 (4) .....	205 · 206	第182図	土師器・須恵器 (33) .....	257
第143図	柱穴群 (5) .....	207 · 208	第183図	土師器・須恵器 (34) .....	258
第144図	柱穴群 (6) .....	209	第184図	土師器・須恵器 (35) .....	259
第145図	柱穴群 (7) .....	210	第185図	土師器・須恵器 (36) .....	260
第146図	柱穴群 (8) .....	211	第186図	土師器・須恵器 (37) .....	261
第147図	柱穴群 (9) .....	212	第187図	土師器・須恵器 (38) .....	262
第148図	柱穴群 (10) .....	213	第188図	土師器・須恵器 (39) .....	263
第149図	柱穴群 (11) .....	214	第189図	土師器・須恵器 (40) .....	264
第150図	土師器・須恵器 (1) .....	225	第190図	土師器・須恵器 (41) .....	265
第151図	土師器・須恵器 (2) .....	226	第191図	陶磁器 (1) .....	268
第152図	土師器・須恵器 (3) .....	227	第192図	陶磁器 (2) .....	269
第153図	土師器・須恵器 (4) .....	228	第193図	縄文土器 .....	270
第154図	土師器・須恵器 (5) .....	229	第194図	金属製品 (1) .....	271
第155図	土師器・須恵器 (6) .....	230	第195図	金属製品 (2) .....	272
第156図	土師器・須恵器 (7) .....	231	第196図	銭貨 .....	273
第157図	土師器・須恵器 (8) .....	232	第197図	土製品他 .....	274
第158図	土師器・須恵器 (9) .....	233	第198図	石器・石製品 (1) .....	275
第159図	土師器・須恵器 (10) .....	234	第199図	石器・石製品 (2) .....	276
第160図	土師器・須恵器 (11) .....	235	第200図	石器・石製品 (3) .....	277
第161図	土師器・須恵器 (12) .....	236	第201図	石器・石製品 (4) .....	278
第162図	土師器・須恵器 (13) .....	237	第202図	出土土師器集成図1 .....	302
第163図	土師器・須恵器 (14) .....	238	第203図	出土土師器集成図2 .....	303
第164図	土師器・須恵器 (15) .....	239	第204図	出土土師器集成図3 .....	304
第165図	土師器・須恵器 (16) .....	240	第205図	出土土師器集成図4 .....	305
第166図	土師器・須恵器 (17) .....	241	第206図	出土土師器集成図5 .....	306
第167図	土師器・須恵器 (18) .....	242	第207図	出土土師器集成図6 .....	307
第168図	土師器・須恵器 (19) .....	243	第208図	出土土師器集成図7 .....	308
第169図	土師器・須恵器 (20) .....	244	第209図	出土土師器集成図8 .....	309
第170図	土師器・須恵器 (21) .....	245	第210図	出土土師器集成図9 .....	310
第171図	土師器・須恵器 (22) .....	246	第211図	出土土師器集成図10 .....	311
第172図	土師器・須恵器 (23) .....	247	第212図	出土土師器集成図11 .....	312
第173図	土師器・須恵器 (24) .....	248	第213図	出土土師器集成図12 .....	313
第174図	土師器・須恵器 (25) .....	249	第214図	出土土師器集成図13 .....	314
第175図	土師器・須恵器 (26) .....	250			
第176図	土師器・須恵器 (27) .....	251	付図1	台太郎遺跡15・18・23・26次、向中野館跡 遺構配置図	
第177図	土師器・須恵器 (28) .....	252	付図2	柱穴群	
第178図	土師器・須恵器 (29) .....	253	付図3	柱穴群	
第179図	土師器・須恵器 (30) .....	254			

## [写真図版目次]

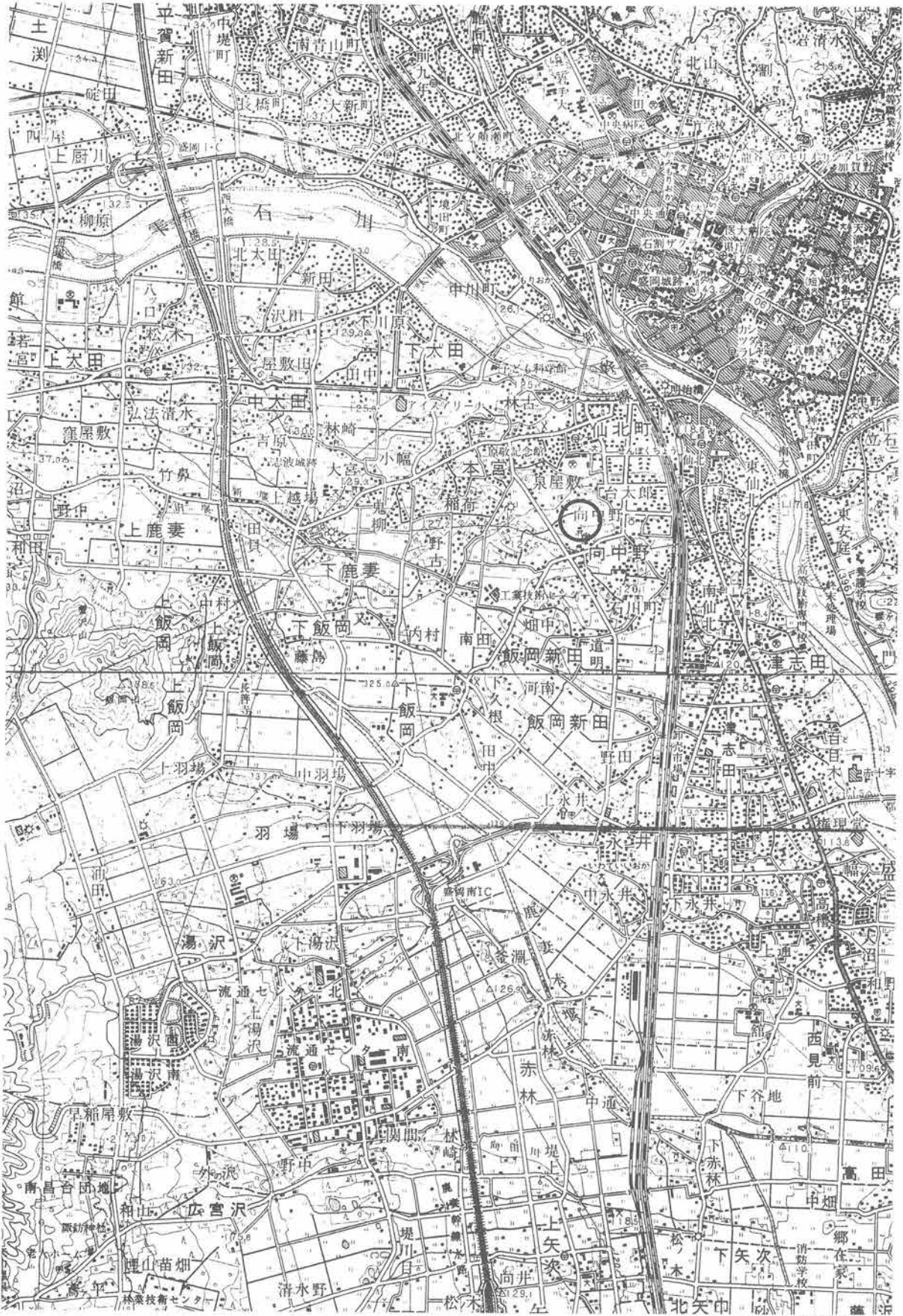
写真図版 1 遺跡全景 ……………319	写真図版48 R A 406 竪穴住居跡……………366
写真図版 2 遺跡近景 2 - D 他 ……………320	写真図版49 R A 408 竪穴住居跡……………367
写真図版 3 遺跡近景 4 - C ~ 5 - B ……………321	写真図版50 R A 411 竪穴住居跡……………368
写真図版 4 遺跡近景 2 D ~ 4 B ……………322	写真図版51 R A 413 竪穴住居跡……………369
写真図版 5 遺跡全景 ……………323	写真図版52 R A 415 竪穴住居跡……………370
写真図版 6 R A 210 竪穴住居跡……………324	写真図版53 R A 419 竪穴住居跡……………371
写真図版 7 R A 234 竪穴住居跡……………325	写真図版54 R A 420 竪穴住居跡……………372
写真図版 8 R A 237 竪穴住居跡……………326	写真図版55 R A 422 竪穴住居跡……………373
写真図版 9 R A 402 竪穴住居跡……………327	写真図版56 R A 423 竪穴住居跡……………374
写真図版10 R A 404 竪穴住居跡……………328	写真図版57 R A 424 竪穴住居跡……………375
写真図版11 R A 405 竪穴住居跡……………329	写真図版58 復元した R A 424 竪穴住居跡……………376
写真図版12 R A 407 竪穴住居跡……………330	写真図版59 R A 425 竪穴住居跡……………377
写真図版13 R A 409 竪穴住居跡……………331	写真図版60 R A 426 竪穴住居跡……………378
写真図版14 R A 410 竪穴住居跡……………332	写真図版61 R A 427 竪穴住居跡……………379
写真図版15 R A 412 竪穴住居跡……………333	写真図版62 R A 429 竪穴住居跡……………380
写真図版16 R A 414 竪穴住居跡……………334	写真図版63 R A 430 竪穴住居跡 ( 1 ) ……………381
写真図版17 R A 416 竪穴住居跡……………335	写真図版64 R A 430 竪穴住居跡 ( 2 ) ……………382
写真図版18 R A 417 竪穴住居跡……………336	写真図版65 R A 426・431・432・434 竪穴住居跡 383
写真図版19 R A 418 竪穴住居跡……………337	写真図版66 R A 431・432 竪穴住居跡 ……………384
写真図版20 R A 421 竪穴住居跡……………338	写真図版67 R A 433 竪穴住居跡……………385
写真図版21 R A 438・439 竪穴住居跡 ……………339	写真図版68 R A 435 竪穴住居跡……………386
写真図版22 R A 441 竪穴住居跡……………340	写真図版69 R A 437 竪穴住居跡……………387
写真図版23 R A 442 竪穴住居跡……………341	写真図版70 R A 440 竪穴住居跡……………388
写真図版24 R A 444 竪穴住居跡……………342	写真図版71 R A 452 竪穴住居跡……………389
写真図版25 R A 445 竪穴住居跡……………343	写真図版72 R A 398 竪穴住居跡……………390
写真図版26 R A 446 竪穴住居跡……………344	写真図版73 R A 428 竪穴住居跡……………391
写真図版27 R A 447 竪穴住居跡 ( 1 ) ……………345	写真図版74 R A 436 竪穴住居跡……………392
写真図版28 R A 447 竪穴住居跡 ( 2 ) ……………346	写真図版75 R A 232 竪穴建物跡……………393
写真図版29 R A 448 竪穴住居跡……………347	写真図版76 R A 443 竪穴建物跡……………394
写真図版30 R A 449 竪穴住居跡……………348	写真図版77 R A 450 竪穴建物跡……………395
写真図版31 R A 451 竪穴住居跡 ( 1 ) ……………349	写真図版78 R A 454 竪穴建物跡……………396
写真図版32 R A 451 竪穴住居跡 ( 2 ) ……………350	写真図版79 R E 048・049 竪穴状遺構 ……………397
写真図版33 R A 453・455 竪穴住居跡 ……………351	写真図版80 R B 031・034 掘立柱建物跡 ……………398
写真図版34 R A 456 竪穴住居跡……………352	写真図版81 R B 035~037 掘立柱建物跡 ……………399
写真図版35 R A 457 竪穴住居跡……………353	写真図版82 R B 038・039 掘立柱建物跡 ……………400
写真図版36 R A 458 竪穴住居跡……………354	写真図版83 R B 040・041 掘立柱建物跡 ……………401
写真図版37 R A 459 竪穴住居跡……………355	写真図版84 R D 586・596・622・626 土坑 ……………402
写真図版38 R A 460 竪穴住居跡……………356	写真図版85 R D 633~637 土坑 ……………403
写真図版39 R A 461 竪穴住居跡……………357	写真図版86 R D 639・643~645 土坑……………404
写真図版40 R A 214 竪穴住居跡……………358	写真図版87 R D 660・692・796・808・810 土坑 ……………405
写真図版41 R A 312 竪穴住居跡……………359	写真図版88 R D 814・819・820・822・823・825 土坑 ……………406
写真図版42 R A 316 竪穴住居跡……………360	写真図版89 R D 826~829 土坑 ……………407
写真図版43 R A 397 竪穴住居跡……………361	写真図版90 R D 830~833・926 土坑……………408
写真図版44 R A 399 竪穴住居跡……………362	写真図版91 R D 927~930 土坑 ……………409
写真図版45 R A 400 竪穴住居跡……………363	写真図版92 R D 931・933~936 土坑……………410
写真図版46 R A 401 竪穴住居跡……………364	写真図版93 R D 937・939~941 土坑……………411
写真図版47 R A 403 竪穴住居跡……………365	



写真図版94	R D942~944土坑	412	写真図版139	土師器・須恵器 (8)	457
写真図版95	R D945~948土坑	413	写真図版140	土師器・須恵器 (9)	458
写真図版96	R D949~951・953土坑	414	写真図版141	土師器・須恵器 (10)	459
写真図版97	R D954~956・971土坑	415	写真図版142	土師器・須恵器 (11)	460
写真図版98	R D972~975土坑	416	写真図版143	土師器・須恵器 (12)	461
写真図版99	R D976~979土坑	417	写真図版144	土師器・須恵器 (13)	462
写真図版100	R D980~983土坑	418	写真図版145	土師器・須恵器 (14)	463
写真図版101	R D984~987土坑	419	写真図版146	土師器・須恵器 (15)	464
写真図版102	R D988~991土坑	420	写真図版147	土師器・須恵器 (16)	465
写真図版103	R D992~995土坑	421	写真図版148	土師器・須恵器 (17)	466
写真図版104	R D996~999土坑	422	写真図版149	土師器・須恵器 (18)	467
写真図版105	R D I001・1002土坑	423	写真図版150	土師器・須恵器 (19)	468
写真図版106	R D 1003~1006土坑	424	写真図版151	土師器・須恵器 (20)	469
写真図版107	R D 1007~1011土坑	425	写真図版152	土師器・須恵器 (21)	470
写真図版108	R D 1012~1015土坑	426	写真図版153	土師器・須恵器 (22)	471
写真図版109	R D 1016~1019土坑	427	写真図版154	土師器・須恵器 (23)	472
写真図版110	R D 1020~1023土坑	428	写真図版155	土師器・須恵器 (24)	473
写真図版111	R D 1024~1027土坑	429	写真図版156	土師器・須恵器 (25)	474
写真図版112	R D 1028~1031土坑	430	写真図版157	土師器・須恵器 (26)	475
写真図版113	R D 1032~1035土坑	431	写真図版158	土師器・須恵器 (27)	476
写真図版114	R D 1036~1038土坑	432	写真図版159	土師器・須恵器 (28)	477
写真図版115	R F 024・052焼土・炉跡	433	写真図版160	土師器・須恵器 (29)	478
写真図版116	R F 053~056焼土・炉跡	434	写真図版161	土師器・須恵器 (30)	479
写真図版117	R F 057~059焼土・炉跡、R I 011井戸跡	435	写真図版162	土師器・須恵器 (31)	480
写真図版118	R I 012・013井戸跡、R G 045溝跡	436	写真図版163	土師器・須恵器 (32)	481
写真図版119	R G 045・229・231・235・352溝跡	437	写真図版164	土師器・須恵器 (33)	482
写真図版120	R G 073・088・170・200溝跡	438	写真図版165	土師器・須恵器 (34)	483
写真図版121	R G 223・224・228溝跡	439	写真図版166	土師器・須恵器 (35)	484
写真図版122	R G 242・319・321~323溝跡	440	写真図版167	土師器・須恵器 (36)	485
写真図版123	R G 307・315・318溝跡	441	写真図版168	土師器・須恵器 (37)	486
写真図版124	R G 320・324・325・327溝跡	442	写真図版169	土師器・須恵器 (38)	487
写真図版125	R G 326・328・329・331・332溝跡	443	写真図版170	土師器・須恵器 (39)	488
写真図版126	R G 331~336・338溝跡	444	写真図版171	土師器・須恵器 (40)	489
写真図版127	R G 339~342・354~358溝跡	445	写真図版172	土師器・須恵器 (41)	490
写真図版128	R G 340・351・354~358溝跡	446	写真図版173	土師器・須恵器 (42)	491
写真図版129	R Z 023性格不明遺構・R Z 028円形周溝跡	447	写真図版174	土師器・須恵器 (43)	492
写真図版130	R Z 027方形周溝跡	448	写真図版175	土師器・須恵器 (44)	493
写真図版131	現地説明会	449	写真図版176	土師器・須恵器 (45)、縄文土器 (1)・陶磁器 (1)	494
写真図版132	土師器・須恵器 (1)	450	写真図版177	縄文土器 (2)	495
写真図版133	土師器・須恵器 (2)	451	写真図版178	陶磁器 (2)	496
写真図版134	土師器・須恵器 (3)	452	写真図版179	陶磁器 (3)	497
写真図版135	土師器・須恵器 (4)	453	写真図版180	土製品、鉄製品 (1)	498
写真図版136	土師器・須恵器 (5)	454	写真図版181	鉄製品 (2)	499
写真図版137	土師器・須恵器 (6)	455	写真図版182	銭貨	500
写真図版138	土師器・須恵器 (7)	456	写真図版183	石器・石製品 (1)	501
			写真図版184	石器・石製品 (2)	502
			写真図版185	石器・石製品 (3)	503
			写真図版186	石器・石製品 (4)	504

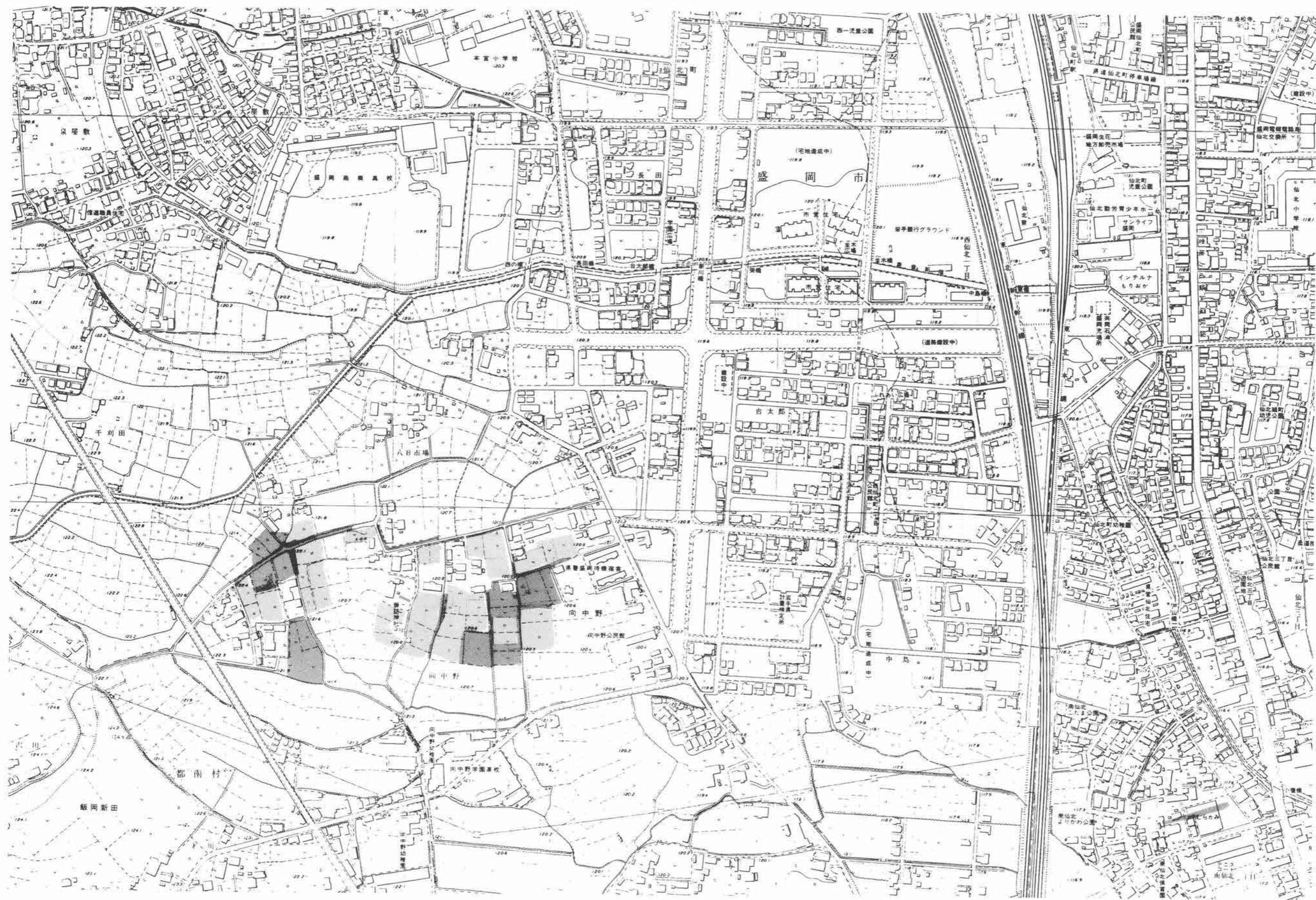


第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2図 遺跡の位置図

1:50,000 盛岡



第3図 遺跡周辺地形図 (1:5,000)

(濃:26次調査、薄:23次調査)

## I 調査に至る経過

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が、地域振興整備公団に対して事業申請を行い、これを受けて公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間に事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施される事となった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱いに付いても協議を重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることになった。

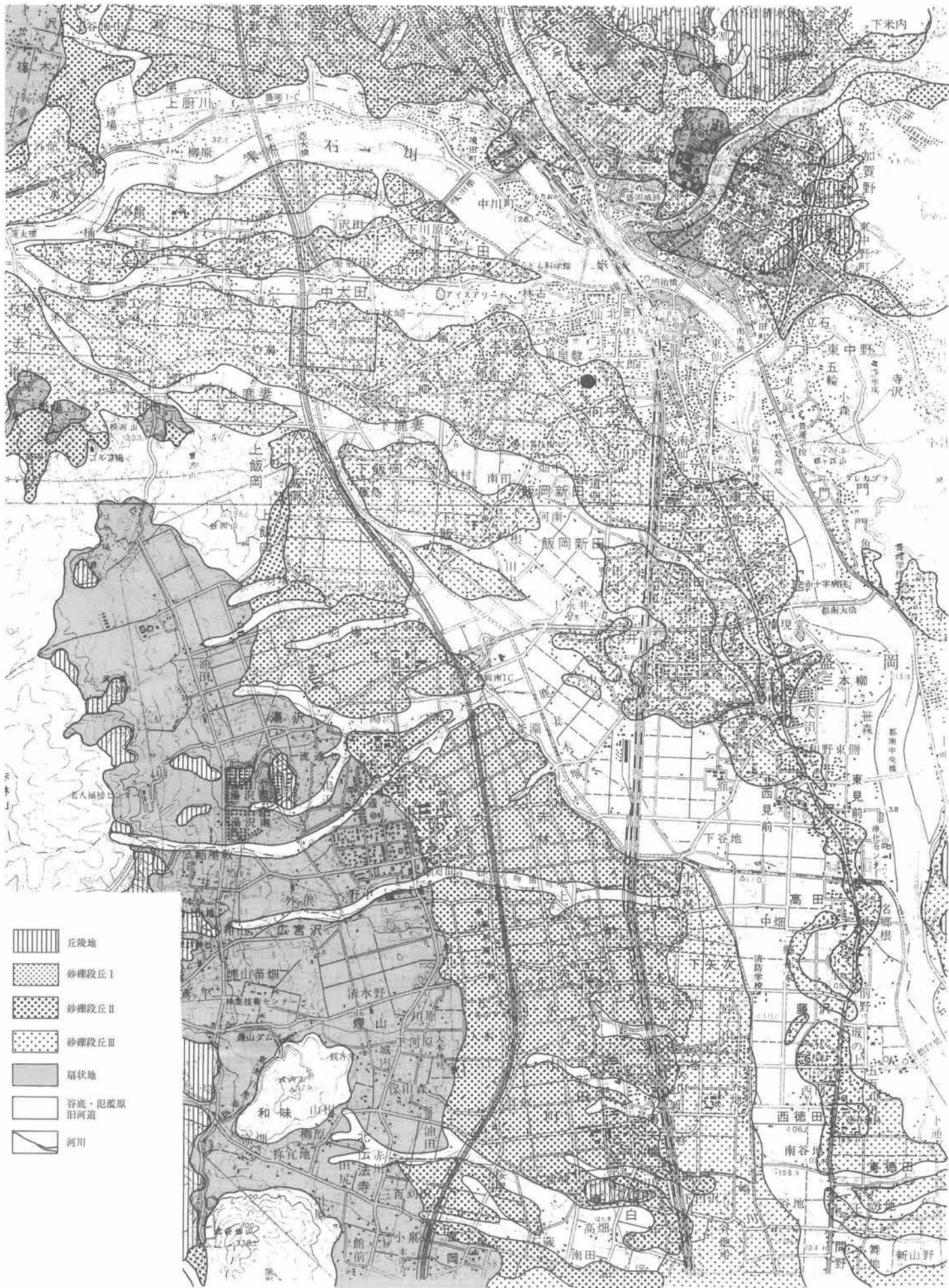
当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成11年の事業として確定した。これを受けて、平成11年4月1日に（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長の間で委託契約を締結し発掘調査を実施する事となった。台太郎遺跡の23次調査は平成11年4月16日に開始され、同年11月15日に終了した。

## II 遺跡の位置と立地

### 1 遺跡の位置と地形・地質

台太郎遺跡の所在する盛岡市は岩手・宮城両県を全長249kmに渡って流れる東北地方最大の河川、北上川の中流域に発達した都市であり、市内には更に支流として雫石川・中津川・梁川が合流する非常に河川と関係が深い街である。第4図に盛岡市周辺の地形分類図を示すが、遺跡が存在する盛岡市南部は奥羽山脈から供給された土砂を雫石川が運び、下流に平野を形成する扇状地形の中にある。扇状地の形成後、支流の開析が及び、結果として遺跡周辺の現地形は低位段丘面として残されている。

低位段丘面の下には支流の河川堆積による沖積面が広がっているが、度重なる氾濫と流路の変化を繰り返した結果、しばしば部分的に旧川床が沼地や湿地の形で残ったのがこの地域の地形的特徴であり、今回の調査からも大小に及んでその影響と思われる堆積・地形・地質変化の痕跡が確認されている。また、地図や航空写真からもこの様子は明確に読みとることが可能である。



第4図 遺跡周辺地形分類図

## 2 遺跡の立地

台太郎遺跡の東約1.5kmには国道4号線が走り、その西側に隣接して遺跡の東約900mにはJR東日本旅客鉄道東北本線と仙北町駅、及び東北新幹線高架橋が存在している。隣接して旧「奥州道中」街道と江戸時代には南部藩の政策に伴って商業に発達した仙北町・同心町が作られた仙北組町があり、現在でも江戸の風情を今に伝える古い商家等の町並みを見ることができる。

台太郎地区は街道筋から見て仙北町の裏手にあたり、遺跡の北1.5kmを流れる雫石川によって形成された低位段丘上に立地している。古くは流路がこの場所を貫流したこともあり、堆積物によって地味が肥えていたため近年まで同様の環境を持つ盛岡西部太田・飯岡地区へと続く水田・畑作地帯の一角を成し、今回調査を実施した区域の現況も田畑が広がる農村風景の一部であった。現在は調査の原因でもある盛南開発新市街地区域の対象となった為、水田等からの開発造成が随所で進行中であり、遺跡名である「台太郎」も平成11年をもって全て字名を「向中野」内の町名に統合・廃止され、通称として残るのみとなっている。

## 3 基本層序

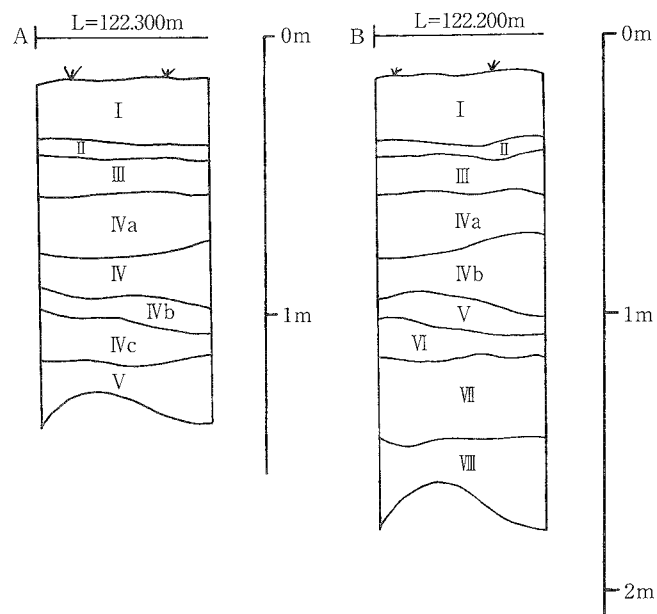
調査区は遺跡全体の中で中央から南側半分を部分的に調査する形となり、東から西へとなだらかに高くなっている。また旧地表面に関しては、これも河川の削剥によって北側から南側へ緩やかに下がっている。しかしながら全体的に耕地整備により地形改変を受ける箇所も少なくはなく、各所にその影響は現れていた他、調査区の面積が13,662㎡強と広大なため、表土下の地層には部分的な箇所でのみ含まれる層も存在し、決して一様ではない。その中で第5図はそれぞれ調査区東側4Eグリッドと西側3-Dグリッドで記録した代表的な基本層序を柱状模式図であらわしたものである。

I層：黒褐色～暗褐色土。現在の表土層で休耕田及び畑地の耕作土である。層厚は10～30cmである。

II層：褐色粘土で、層厚は3～4cm前後を測る。旧水田面の床土で下部には赤褐色の水酸化鉄の集積が顕著に見られる

III層：黒褐色シルト質土。上層の黒褐色土と下層の漸移層である。層厚は0～20cmで遺物を包含する。

IVa層：褐色シルト質土。層厚は10～60cmで本遺跡における遺構検出面である。全体に堅く締まり粘性がある。



第5図 基本土層柱状図

IV b層：黄褐色シルト質土。締まりがあり粘性もある。層厚は10～30cm。

IV c層：黄褐色砂質シルト。層厚は0～30cmで遺跡内では部分的に確認される。

V層：段丘の基盤をなす砂礫層である。層厚は確認していない。遺跡南側の4A区等ではIV層を挟まないでⅢ層の次に現れる。砂や礫の堆積状況により細分可能である。下部には径10～30cm大の礫が見られる。

## 4 周辺の遺跡と歴史的環境

### (1) 古代

古代における盛岡周辺の歴史を文献に求めようとする、限界がある。政権所在地から遠隔なる所以であろうか。丁度、中華帝国の縁辺にあつて、東夷とさげすまれた古代の日本と同等の感がする。

今、古書を繙いて岩手の古代を知ろうとすれば、最古の記録として上げられるのが『続日本紀』に靈龜元(715)年10月29日の条に次の様な記録である。「蝦夷の須賀君古麻比留等言上。先祖以来、貢獻昆布は、常にこの地に採りて、年時を欠かず。いま国府郭下相い去ること道遠く、往還旬を累ねて甚だ辛苦多し。閉村に便りて郡家を建て、百姓に同じくし、共に親族を率いて永く貢ぎを欠かさむと云う。」ここでいう閉村とは、今も昆布が採取される下閉伊郡内の沿岸部である事が想像される。あまりにも断片的な史料ではあるが、文中にはいくらかの示唆に富む記述がある。それは、「先祖以来」の4文字である。少なくとも715年段階で、中央政府への貢納が平和的に行われており、それが、以前から続けられていることを物語っている。

この時点では、中央政府の推進する律令体制には未だ組み込まれてはいないが、中央政府に入貢し、対する下賜が行われていたであろう事は、該期の古墳より出土する和同開珎、?帯金具等から推測される。

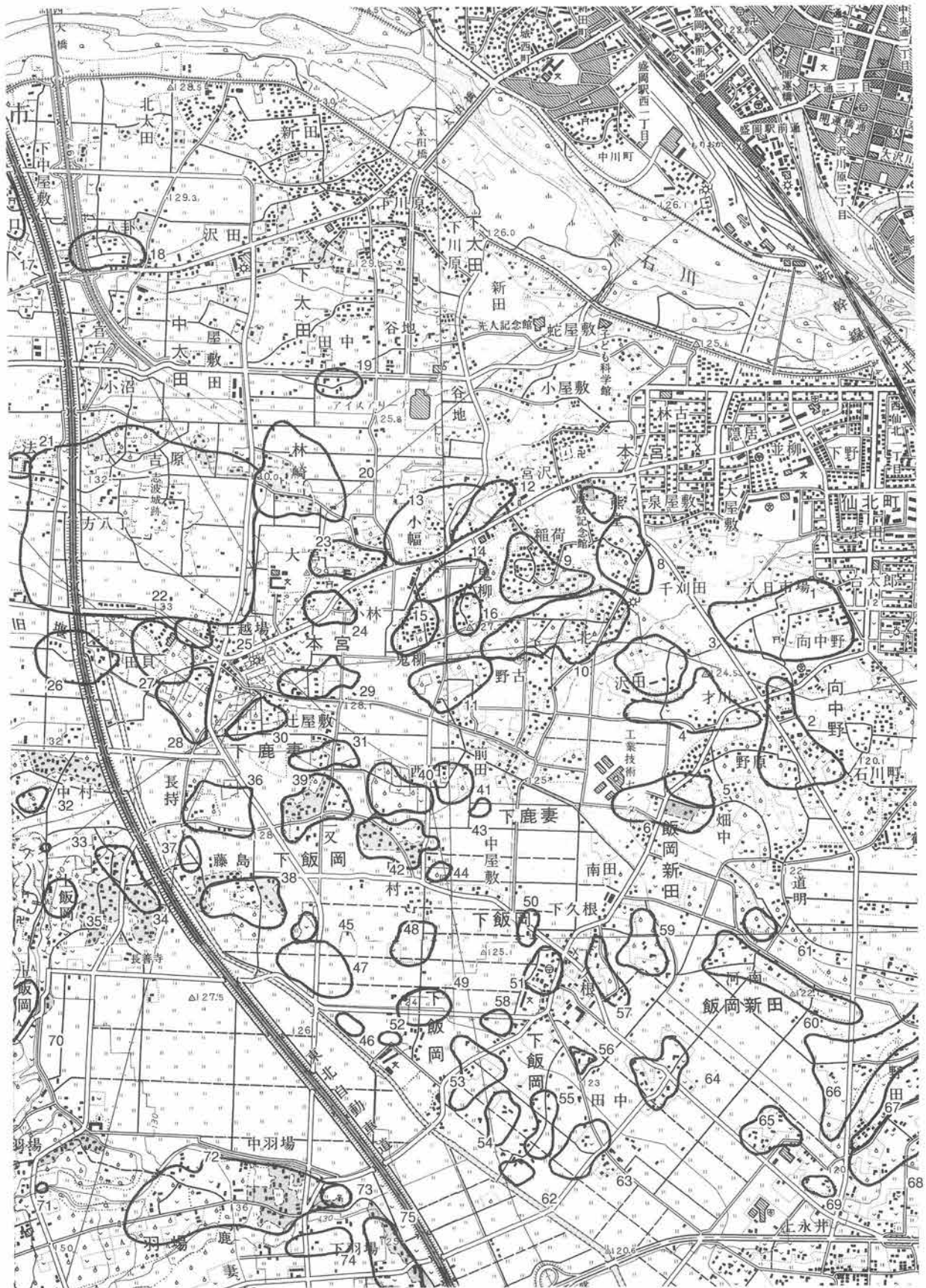
降って、宝龜五(774)年、海道(北上川流域)のエミシが反乱し、桃生城に侵攻して西の郭を突破するという事件が起こる。これを契機として、以後中央政府とエミシとの関係は、俗に言う「東北大戦争」へと突入していく。

宝龜七(776)年には「出羽の国の志波村の賊、叛逆し国と相戦う」、「陸奥軍三千人を発して胆沢の賊を伐つ」(『続日本紀』)とあり、ここでは、明らかに中央政府の方針は賊に対しての征討に転換している。同時にこの条項は、志波、胆沢の地名の初見でもある。さらに、宝龜十一(780)年にはエミシの伊治郡大領の伊治公 麻呂が按察使の紀広純を伊治城で殺害し、さらに多賀城の国府をおそい、建物に放火するという事件が起こった。以後30年に渡る中央政府による蝦夷征伐が行われることになる。

延暦八(789)年には征東大將軍紀古佐美等の討伐に対するアテルイ等の抵抗、降って延暦十三(794)年になると、時の桓武天皇による「新都の造営と奥羽両国の征討」という2大政策による征東大使大伴弟麻呂、副使坂上田村麻呂等の討伐が行われたが、不完全であった。さらに延暦二十(801)年には征夷大將軍となった坂上田村麻呂による大がかりな征討が行われ、延暦二十一(802)年には胆沢城が造営されて、翌延暦二十二(803)年には志波城が築かれている。この事実を見れば、坂上田村麻呂による討伐は成功を収めており、弘仁二(811)年正月には和我、稗縫、斯波の三郡がおかれ、中央政府の支配下におかれることになった。また、同年4月に征夷將軍となった文室綿麻呂による志波城以北の幣伊・爾薩体の征討が行われ、同年10月には蝦夷平定の報告がなされている。

但し、この間には、中央政府の所謂「夷をもって夷を制す」の方策が行われており、エミシ側には村ごと





第6図 周辺の遺跡分布図(古代)

に反政府的な、或いは親政府的な独自の行動が見られる。たとえば、延暦十一（792）年に「斯波村の夷胆沢公阿奴志己ら、王化に帰せんとするも伊治村の俘に妨げられて果たさざるを訴える」（『類聚国史』）例や、弘仁二（811）年には「爾薩体の伊加古らが兵をととのえ、都母村にあった幣伊村の夷を誘っており、これを討たんとする邑良志閑の降俘都留岐に米100斛を与える」（『日本後期』）等の記事はこの辺りの事情をよく表している。

本遺跡の周辺を概観すると、雫石川を挟んで右岸と左岸では相対的な様相を呈している。左岸の台地上には大館遺跡群をはじめとした縄文時代の集落遺跡が数多く分布しているが、右岸の沖積段丘面上には縄文時代の遺構は陥し穴状遺構が散在する程度となり、住居跡を持つ集落遺跡は確認されていない。しかし古代特にも7世紀代以降には遺跡数が急増する。しかも集落遺跡に止まらず古墳群、城柵跡も確認されている。

盛岡市周辺における古墳は所謂終末期古墳群であり古墳時代の終わり頃から奈良時代にかけて造られたものである。代表的なものとしては太田蝦夷森古墳群があげられるが、他に上田蝦夷森古墳群、飯岡地区に高館古墳、三本柳地区に大道西古墳、矢巾町には藤沢狄森古墳群、白沢狄森古墳群などが確認されている。

これらの古墳の形態を宮城県北部の古墳形態の退化形態と捉える考えもあるが、むしろ群馬県北部山間地域や埼玉県秩父地方あるいは東京都の丘陵などで7世紀ごろ発達していた積石塚古墳群との関係を指摘する考えもある。このように7世紀に入り、集落の急増と古墳群の形成という事実は、古墳文化圏からの人の移動、特に関東西部から中部山地、あるいは北陸との関係を示唆するものかもしれない。

7世紀代の古墳からの出土遺物は、上田蝦夷森古墳群からは衝角付冑が、藤沢狄森古墳群からは直刀が出土しており何れも軍事的な雰囲気を感じさせるものである。8世紀代になると、太田蝦夷森古墳群では蕨手刀、直刀、勾玉、切子玉、ガラス製小玉、管玉の他に和同開珎、?帯金具が出土しており、軍事的のみならず、中央勢力との結びつきを感じさせるものである。

またこれら古墳群と対応する集落遺跡として、八卦・百目木・西鹿渡・台太郎・本宮熊堂B等の存在が知られている。この中で、現在も発掘調査が継続して行われている遺跡もあるが、百目木遺跡については昭和53年に旧都南村教育委員会により調査が行われ報告書が刊行されている。ここからは奈良時代の竪穴住居跡が約40棟、平安時代の竪穴住居跡が約40棟検出されている。奈良時代の竪穴住居跡について見ると、大形の住居が7棟で、その他は小形であり、大形住居の周囲に小形の住居が存在するという傾向が見られる。しかもこれらは住居同士の重複は見られず、ほぼ同時代と思われるものである。これが平安時代になると大形住居は減少し、やや小形に均一化され、配置も散在的となる。このことは、本宮熊堂B遺跡に於いても同様の傾向が見られ、台太郎遺跡についても一部同様の傾向が見て取れる。この変化の要因を考えるに、社会情勢の変革がその一因になっていると思われる。所謂、中央政府の進出により、それまでの社会体制が壊され志波城をセンターとする、行政下に組み込まれていくと考えるのは早計であろうか。 (古館貞身)

#### 引用参考文献

「志波城跡Ⅰ」 1981 盛岡市教育委員会 「安倍館・里館遺跡」 -昭和61年度発掘調査概報- 1987 盛岡市教育委員会  
「安倍館遺跡」 -厨川城跡の調査- 1999 盛岡市教育委員会 「盛岡市の歴史」(上) 1991 長岡高人  
「図説 岩手県の歴史」 1995 河出書房 「岩手県の歴史」 1999 山川出版

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
1	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽口・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝・堀跡・井戸跡・炉跡
2	向中野館	城館跡・集落跡	古代・中世	土師器・陶磁器・竪穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
3	飯岡沢田	集落跡	古代	竪穴住居跡・古墳
4	飯岡才川	集落跡	縄文・古代	土師器・陥し穴・溝跡
5	細谷地	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
6	矢盛	散布地	古代	土師器
7	本宮熊堂A	集落跡	古代	土師器
8	本宮熊堂B	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
9	稲荷	集落跡	古代	土師器
10	野古A	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
11	野古B	散布地	古代	土師器
12	宮沢	集落跡	古代	土師器
13	小幡	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡・溝跡・土坑・円形周溝
14	鬼柳A	集落跡	古代	土師器
15	鬼柳B	集落跡	古代	土師器
16	鬼柳C	集落跡	古代	土師器
17	八ツ口	散布地	古代	土師器
18	八掛	集落跡	古代	土師器・土坑・竪穴住居跡
19	田中	散布地	古代	土師器
20	林崎	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡・掘立柱建物跡
21	小沼	集落跡	古代	土師器・緑釉陶器・竪穴住居跡
22	志波城	城柵跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・門跡・築地・堀跡・大溝
23	大宮北	集落跡	古代	土師器
24	大宮	集落跡	古代・中世	土師器・竪穴住居跡
25	鬼柳一里塚	塚跡	近世	
26	新堰端	城柵跡	縄文・古代	縄文土器（晩期）・土師器・土坑・大溝・竪穴住居跡
27	竹花前	集落跡	古代	土師器・緑釉陶器・竪穴住居跡
28	田貝	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
29	石仏	集落跡	古代	土師器
30	水門	集落跡	古代	土師器
31	上越場A	集落跡	古代	土師器
32	上越場B	集落跡	古代	土師器
33	堤	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
34	高館古墳跡	古墳	古代	鍔手刀・切子玉・土師器
35	大柳Ⅰ	集落跡	古代	土師器・須恵器
36	大柳Ⅱ	散布地	古代?	土師器?
37	辻屋敷	集落跡	古代	土師器
38	藤島Ⅰ	集落跡	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器
39	藤島Ⅱ	散布地	平安	土師器
40	二又	散布地	古代	土師器・須恵器
41	西田A	集落跡	古代	土師器
42	西田B	集落跡	古代	土師器・須恵器
43	内村	集落跡	古代	土師器・須恵器
44	前田	集落跡	古代	土師器
45	中屋敷	散布地	古代	土師器
46	遺跡名不明	散布地	古代	土師器・須恵器
47	飯岡林崎Ⅱ	集落跡	古代	土師器・須恵器・硯・竪穴住居跡
48	飯岡林崎Ⅰ	集落跡	古代	土師器
49	深淵Ⅰ	集落跡	古代	竪穴住居跡
50	深淵Ⅱ	集落跡	古代	竪穴住居跡
51	高屋敷Ⅰ	散布地	古代	須恵器
52	高屋敷Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器
53	上新田	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
54	熊堂Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器・石器・土師器・竪穴住居跡
55	熊堂Ⅲ	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
56	熊堂Ⅱ	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
57	西	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
58	下久根Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
59	下久根Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
60	石持	散布地	古代	土師器・須恵器
61	夕覚	散布地	古代	土師器
62	法領権現塚	祭祀跡		
63	南谷地	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
64	田中	集落跡	古代	土師器・須恵器・打製石器・石斧
65	松島	集落跡	古代	土師器・須恵器
66	葛本	散布地	古代	土師器・打製石器
67	横屋	集落跡	古代	土師器・須恵器
68	陣当	集落跡	古代	
69	長沼	散布地	古代	
70	境田	散布地	古代	土師器
71	赤坂Ⅱ	散布地	平安?	土師器
72	砂子塚	散布地	古代	塚
73	隠幡	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器
74	新井田Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器
75	新井田Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器
76	新田	集落跡	古代	土師器・須恵器

## (2) 中世

本遺跡が位置する盛岡市及びその周辺における中世の様相について年表を作成し、簡単にまとめてみた。

西暦	和暦	事 項		備 考	
1189	文治5年	源頼朝が奥州藤原氏を追討。その際、功績のあった御家人として工藤小次郎行光が岩手郡を、北上川東岸の岩手郡と紫波郡を河村秀清が、糠部郡を南部光行などがそれぞれを賜る。志和郡は足利義兼（後の斯波氏）、岩手郡滴石は滴石氏。		岩手・紫波郡地方の地頭として勢力を振った上関・田頭・栗谷川・煙山・飯岡等は工藤の一族、沼宮内・川口・洪民・下田・玉山・日戸・乙部・大萱生・大巻・佐比内・長岡・江柄などは河村の一族。	
1333	元弘3年	鎌倉幕府倒れる。北畠顕家、義良親王らと奥州に下向。鎌倉時代の末頃、斯波家氏は奥州斯波郡に下向、同郡高水寺城に在城、斯波氏の祖になったと伝える。			
1335	建武2年	足利尊氏、斯波家長を陸奥守に任命。			
1336	建武3年、 延元元年	室町幕府成立。後醍醐天皇、吉野へ移る。		この頃、福士氏が不来方館に入る。	
1340	興国元年	南部政長、岩手郡の西部を固めている（西根要害）。滴石氏は当時有力な南朝方で斯波氏に抵抗。	和賀一族、南北両朝に分かれる（煤孫城攻撃）	北朝方は岩手郡の南方に勢力を強めていく。河村氏にも南朝方があるが、斯波氏・稗貫氏・和賀氏の一部は北朝方として活発に動いていた。	
1341	興国2年	4月、盛岡付近に於いて、南朝勢と北朝勢が衝突、稗貫出羽守その他討ち取る。（南朝方は南部氏・滴石氏・和賀氏・河村氏等）そのまま南進。	1341年2月、北朝方の和賀郡岩崎城を攻撃。その時足利方の鬼柳三郎兵衛が討死。		
1342	興国3年	南朝勢、三迫（宮城県）で石塔良房等に大敗。	南朝勢の南進計画が挫折。石塔義房はそのまま北上地方に進出。		
1343	興国4年	敗れた南朝方の陸奥国司、北畠顕信は滴石城に逃れる。	石塔勢の北方遠征は不成功に終わり、代わって1346貞和2年、吉良貞家・北畠國氏の両探題が奥州に下る。		
1348	貞和4年	北畠顕信が滴石に在ることにより、和賀氏内部にも動揺。	鬼柳盛胤（嫡孫）が北畠氏に通ずる。		
1349	貞和5年	吉良貞家の指令で、飯野伊賀氏（磐城郡）・宮城留守氏・和賀鬼柳氏は共に滴石方面の攻略を策して進軍。			
1350	観応元年	観応の擾乱により北朝方分裂。			
1351	観応2年	上田城の攻防と和議を伝える書状あり。（顕信から南部氏へ）	北畠顕信、多賀国府を回復。南朝方の和賀行義の所領出羽仙北山本郡を経て国府へ。		
1352	(正平7年)	多賀国府は再び吉良方の手に落ちる。			滴石氏の動向はこのころ明らかではない。
1353	(正平8年)				宮城郡方面の合戦に吉良方が大勝して以来、奥州の南朝勢力は次第に衰微していった。
1354	文和3年	斯波家兼が奥州管領として多賀国府に入る。大崎氏を称する。			
1392	明德2年	南北両朝合体なる。		盛岡以南は斯波氏の勢力圏、岩手山以北は南部氏。	
1395	応永2年	盛岡市本宮、大宮神社の罅口	応永年間頃には岩手郡に南部氏とつながりのある福士氏が不来方に在り、近郷を領していたようである。雫石にはこの頃戸沢氏。		
1435	永享7年	和賀・稗貫両群中に兵乱起き大騒動になるという。	南部氏は斯波御所ともに軍を派遣したとある。		
		天文頃より更に地方豪族間の擾乱絶えず、永禄・天正年間には特に甚だしかった。			
1540	天文9年	南部（三戸）晴政は叔父の高信を岩手郡進攻に当て、滴石城に戸沢氏を攻略した。	沼宮内・川口・洪民・玉山・一方井・平館・田頭の諸氏はこれに従い、郡内諸族の大半を傘下に収めた。		

西暦	和暦	事 項		備 考
1540	天文9年	高信軍が滴石より引くや斯波氏勢力が岩手郡に侵入。岩手郡の大半を掌握。	斯波氏は一族を岩手郡の滴石、猪去に配置し、高水寺城とあわせて斯波の三御所と称せられた。	斯波氏では厨川工藤氏と婚姻。
		以後、天正14・15年頃まで盛岡地方は斯波氏の影響下に置かれた。		紫波館士として飯岡庄八の名が見える。また、太田氏は飯岡氏（飯岡の領主）、小屋敷氏と共に紫波殿家人とある。
1572	元龜3年	南部・斯波領の農民の紛争。南部勢が斯波領に攻め込む。稗貫氏の調停で和議を結ぶ。	斯波安芸守、飯岡館の飯岡氏を攻撃。	斯波氏では九戸政実の弟を養子として迎える（高田吉兵衛）。時期不明：不來方に福士氏（三戸南部の被官として足利初期頃より）、上田方面に上田氏、米内には米内氏（秋田安東氏の分流と称する）、中津川の南に浅岸氏、厨川に工藤（または栗谷川氏）、大釜氏（和賀氏の支流と称する）、武田氏（甲州武田の分かれと称する）、雫石川南には斯波支族の猪去氏、太田館の達曾部氏、本宮向中野の田村氏らが居住していた。
1582	天正10年	田子城主信直、三戸南部家を嗣ぐ。		
1586	天正14年	南部信直は岩手郡に南進して滴石斯波氏を討った。	南部氏が盛岡方面を再び掌握。（大釜・鶴飼・工藤・福士・玉山・日戸・米内・淡民・川口・沼宮内の諸士を従える）	
〃	〃	斯波氏、中野城を囲む（高田吉兵衛・九戸政実の弟で中野修理と改、斯波氏の女婿で高田を領していたが出奔）が福士伊勢の加勢により退散。	中野在城は僅かで天正19（1591）年頃には既に志和郡片寄に移っていたようである。	
1588	天正16年	南部信直は志和郡に侵入、高水寺城を落とす。斯波氏滅亡。		
1590	天正18年	南部信直、小田原参陣。奥州仕置。		信直、秀吉より南部内七郡（糠部・鹿角・閉伊・岩手・志和・久慈・遠野）を安堵される。
1591	天正19年	九戸政実の乱。		
1599	慶長4年	南部信直、福岡城で没し、利直があとを嗣ぐ。		

参考文献

盛岡市史 第1巻 昭和26年 盛岡市史編纂委員会  
 図説岩手県の歴史 図説日本の歴史3 1995 細井計他 河出書房新社  
 岩手県の歴史 1972 森嘉兵衛 出川出版社

岩手史叢 第1～4、9巻 昭和48・49・57年 岩手県文化財愛護協会  
 南部叢書 第1・2・5冊 昭和2～4年 南部叢書刊行会  
 盛岡市の歴史 上 平成3年 岩手県文化財愛護協会  
 岩手県史 第二巻 中世篇上 昭和36年

台太郎遺跡23次調査 周辺の遺跡一覧表（中・近世）

番号	遺跡名	種 別	時 代	遺構・遺物など
1	向中野館	城館跡・集落跡	平安・中世	土師器・陶磁器、竪穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
2	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽口、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝・堀跡・井戸跡・炉跡
3	鍛冶町一里塚	一里塚	近世	塚残存せず
4	花垣館 (花坂館)	城館跡	中世	郭
5	中野館	城館跡	中世	
6	新山館	城館跡・集落跡	古代・中世・近世	土師器、竪穴住居跡・井戸・藩校跡
7	葛西館	城館跡	縄文～古代・中世	縄文土器、郭・腰郭
8	安庭館	城館跡・散布地	縄文～中世	縄文土器（中・後期）・土師器、郭・腰郭
9	安倍館 (厨川城)	城館跡・散布地	縄文・中世	縄文土器（早期）・陶磁器、郭・堀跡
10	宿田南	集落跡	中世・近世	陶磁器・建物跡
11	愛宕山	寺院跡	近世	寺院基壇跡
12	盛岡城	城館跡	中世・近世	かわらけ・陶磁器・瓦、石垣・堀・柵跡
13	慶善館 (不來方北館)	城館跡	中・近世	
14	淡路館 (不來方南館)	城館跡	中・近世	



第7図 周辺の遺跡分布図(中・近世)

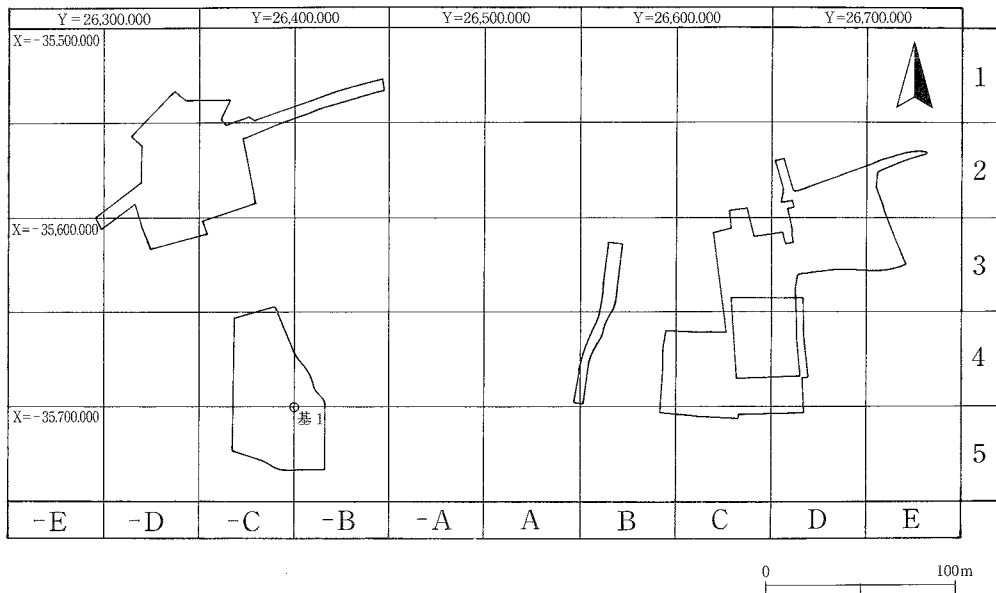
### Ⅲ 調査の方法と室内整理

#### 1. 野外調査の方法

##### (1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平面直角座標（第X系）に合わせた。本遺跡のこれまでの調査で用いられたグリッドと同じ方式である。調査区内に基点を数ヶ所設け、これを東西及び南北方向に結んで基準線を設定した。基準線を延長して大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を25等分して一辺2mとしている。大グリッドは原点から南方向にはⅠ・Ⅱ・Ⅲ…の番号、東方向にはA・B・C…のアルファベットを付してⅠA・ⅡAと呼称した。さらに小グリッドも北から1～25、西からa～yを付しⅠA1a・ⅠB3d等の基本グリッドを設定した。26次調査の基準杭の座標は以下の通りである。

基1  $X = -35,700.000$        $Y = 26,400.000$



第8図 グリッド配置図

## (2) 粗掘り・遺構検出

雑物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、層位の検討、遺構の確認面を把握した。現況が休耕地・畑地であったために調査区の大部分では古代・中世の生活面は残存しておらず、多くは遺構確認面まで重機を用いて表土及び耕作土を除去した。ただ遺物を多く包含する層は人力によって表土を除去した。遺構の確認は表土を除去した面を芝ジョレン、両刃鎌で平滑にしプランを確認するようにした。

## (3) 遺構の命名

検出された遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に従い、次の通りに行っている。各遺構の番号は昨年度調査からの通し番号と欠番となっていたもの等で付した。

竪穴住居跡……R A〇〇	掘立柱建物跡……R B〇〇	柱穴列 ……R C〇〇
土 坑……R D〇〇	竪穴状遺構 ……R E〇〇	炉・焼土……R F〇〇
溝跡・堀跡……R G〇〇	井戸跡 ……R I〇〇	その他 ……R Z〇〇

## (4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構を4分法、土坑類・焼土については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構の平面実測にあたっては原則として簡易遣り方測量で1m方眼に細分したメッシュを用いて行った。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。なお、カマド・焼土・炉については1/10の縮尺を用いた。遺構内出土の遺物は、埋土の場合上層・下層に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土した層位を記して取り上げた。

古墳時代末～平安時代の竪穴住居跡には貼床が施されるものが多かった。基本的に竪穴住居跡は4分法により断面図を2方向で作成しているが、この内の断面1方向にのみ貼床の掘り方を実測し、もう一つの断面図は省略している。これは作業の迅速化を狙ってのことで、竪穴住居跡の断面図の一方に貼床が表現されていれば素直に両方の断面図に本来、表現されるものだと解釈して頂きたい。それから貼床の除去方法であるが、竪穴住居跡に伴う柱穴や諸施設を検出するという目的を優先させるため、平坦に掘り下げを行った。そのため当時の掘り方を平面図に記録する作業はやらなかった。掘り方についてはこれまでの事例と大きく異なるものは無かったことを前提として本文をみて頂きたい。

## (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ2台（モノクロ）と35mm判カメラ4～6台（モノクロ、カラー・リバーサル）を使用した。この他にボラロイドカメラを補助的な用途として用いた。撮影に当たっては



撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また各遺跡の調査終了直前には空中写真を撮影した。

## (6) その他

現地説明会を平成12年6月23日と9月30日に開催した。また5月17日には盛岡市教育委員会の小学校社会科学研究会の研修に協力した。その他、個人や団体の見学希望があった場合はすべてに応じ、遺跡の内容、出土遺物の説明をした。

## 2 室内整理

室内での作業は、遺構図面の点検と修正及びトレース、遺物の注記、接合・復元を優先させて行った。次に仕分け・登録、写真撮影・実測・拓本の作成を並行してすすめた。この後実測図の点検とトレースを行い、図版・写真図版の作成を順に行った。個々の整理方法及び図版の凡例は下記の通りである。

### (1) 遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面をもとに1/400・1000・2000で掲載した。

各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。

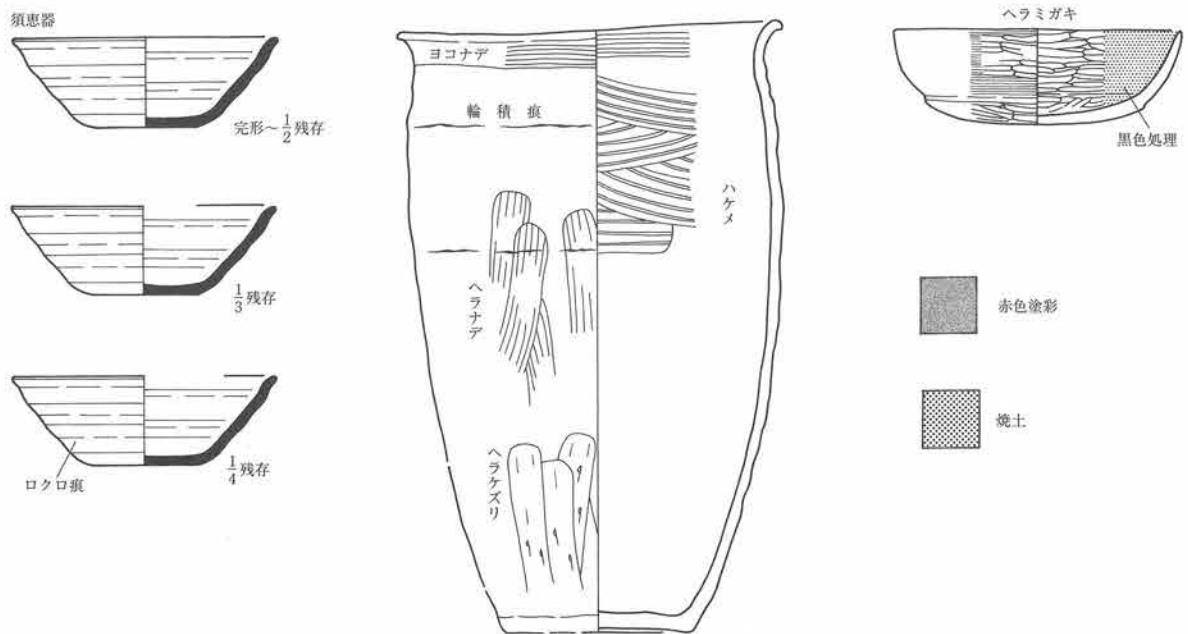
竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸跡・その他の遺構…1/60、掘立柱建物跡…1/100、焼土・炉断面…1/30、土坑…1/50、溝跡…平面1/300、断面1/40、柱穴…1/150 竪穴住居跡や掘立柱建物跡の軸方向は、座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北を示す（調査区の基準点1における真北方向角は、0度11分55秒西偏する）。竪穴住居跡の床面積は、壁面の下端をデジタル式のプランニメーター（エリアカーブメーター）によって3回計測し、この平均値を記載した。

## (2) 遺物

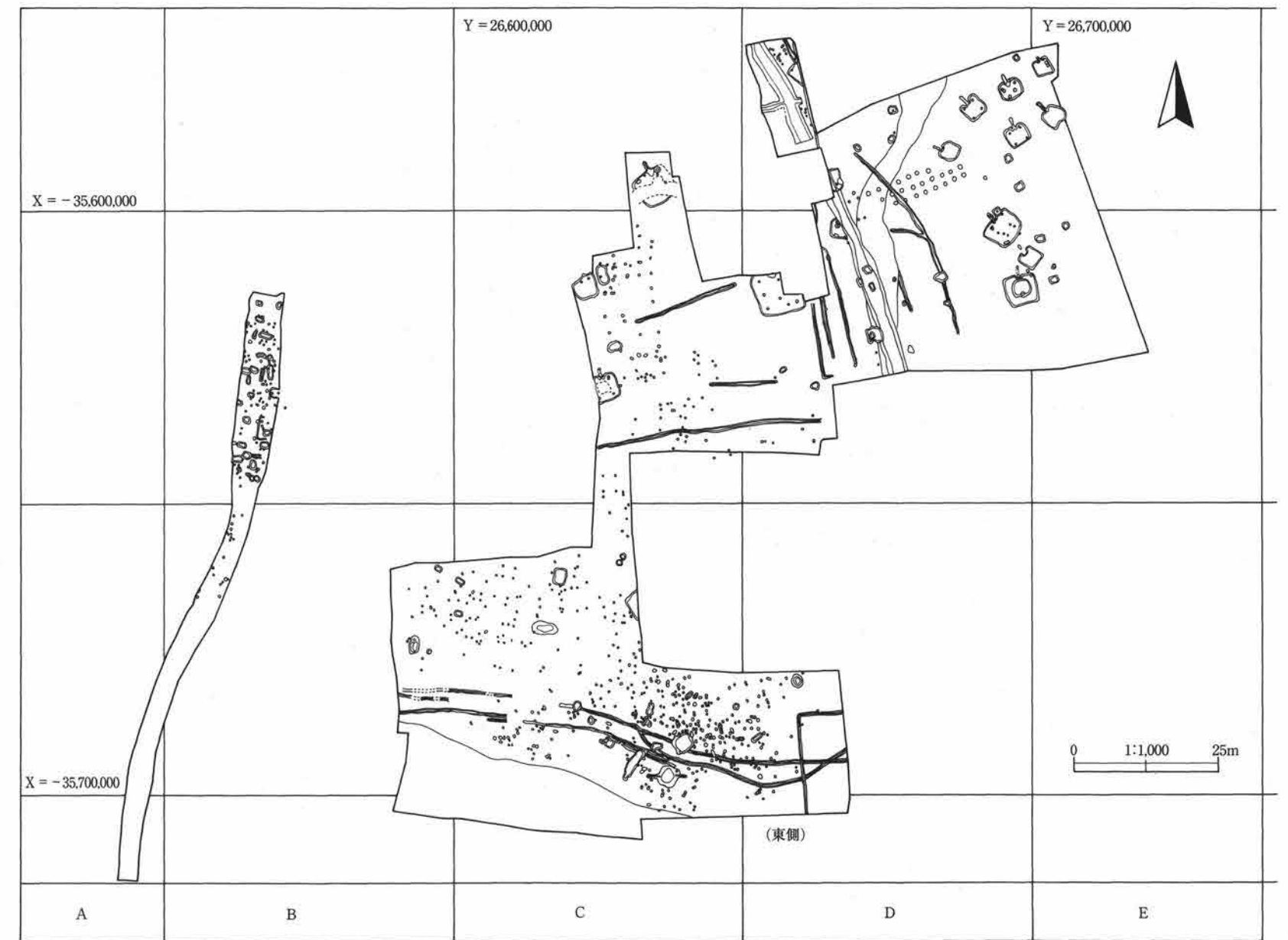
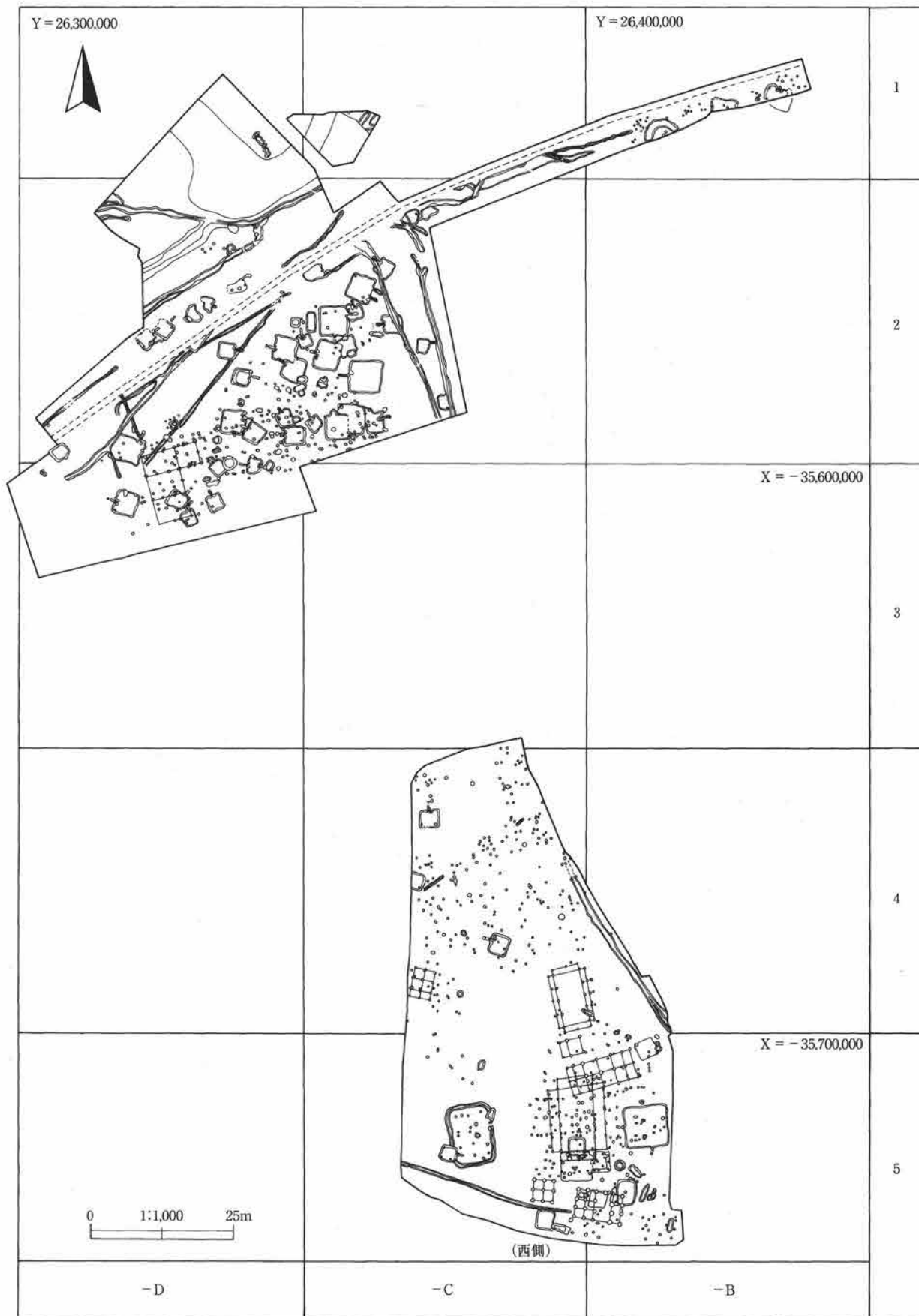
土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁・底部が $1/4$ 以上残存）に限ったが、一部は平面実測して掲載した。また、須恵器や銭貨などは拓本を用いた。掲載遺物の縮尺率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付けた。

土器・礫石器・拓本… $1/3$ 、大型の土器・石器… $1/4$ ・ $1/5$ 、その他の遺物… $1/2$ ・ $1/3$

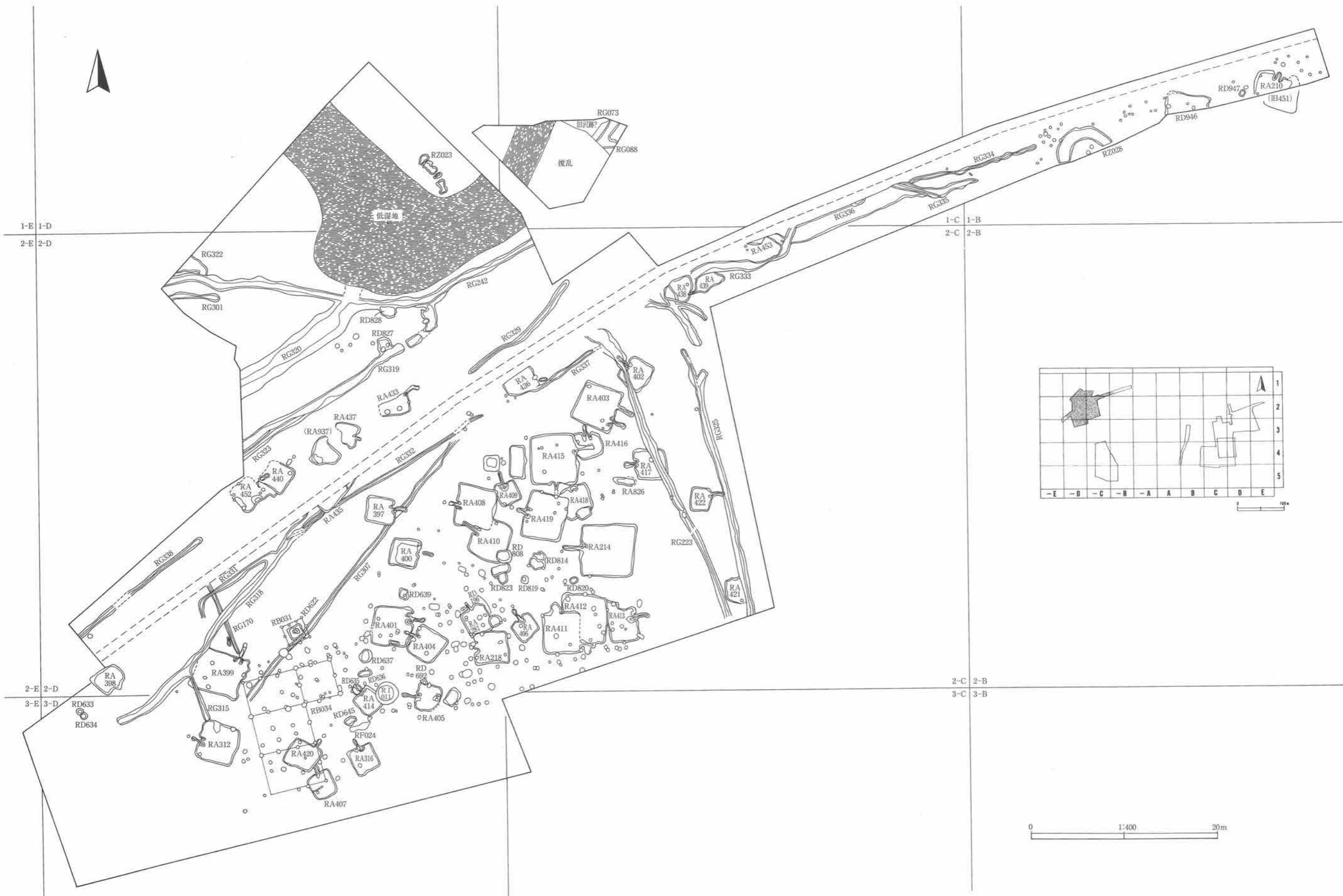
なお、遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。また、実測図版中に土器の調整技法の表現や、使用したスクリーントーンの指示については以下に示した。



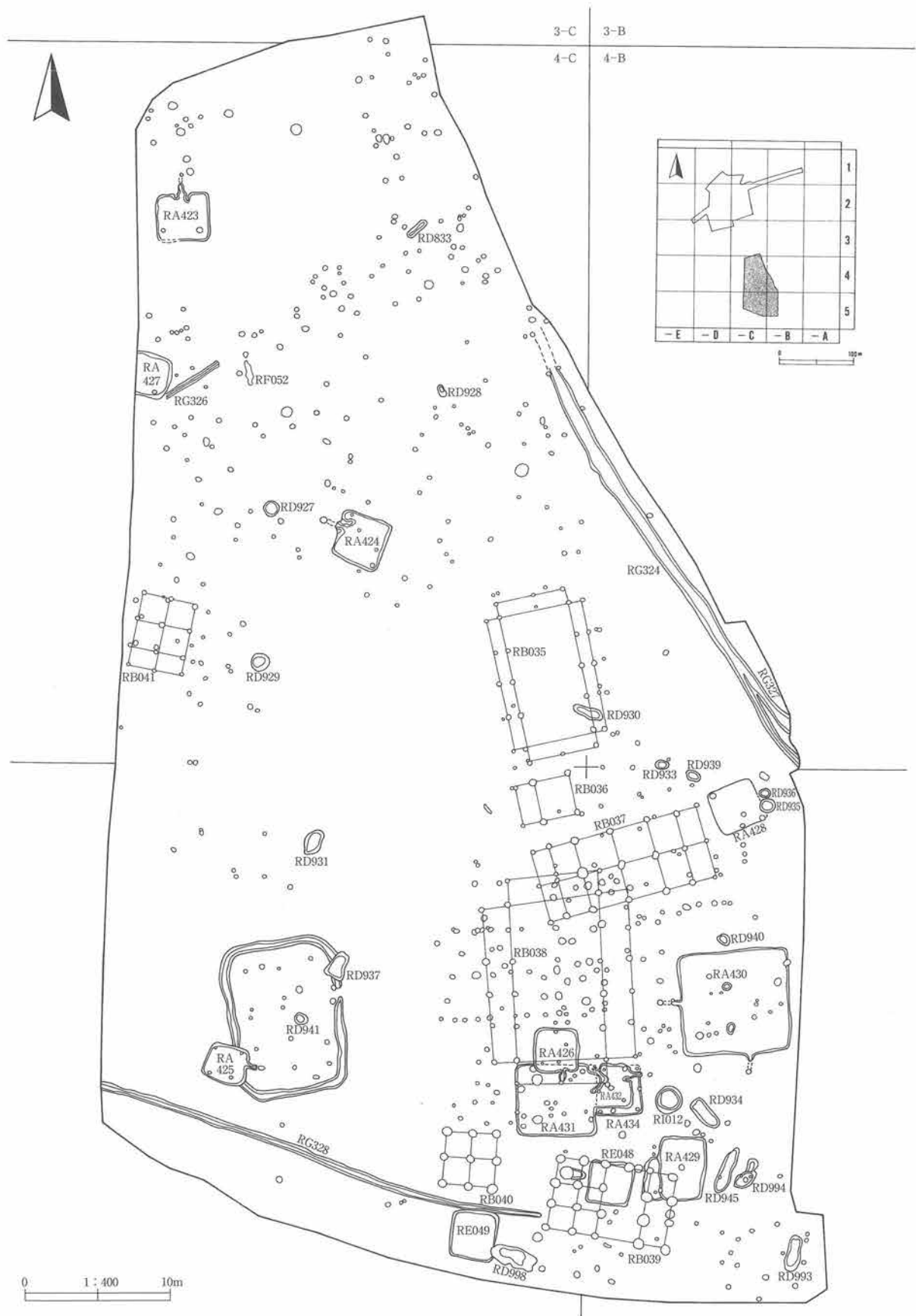
凡 例



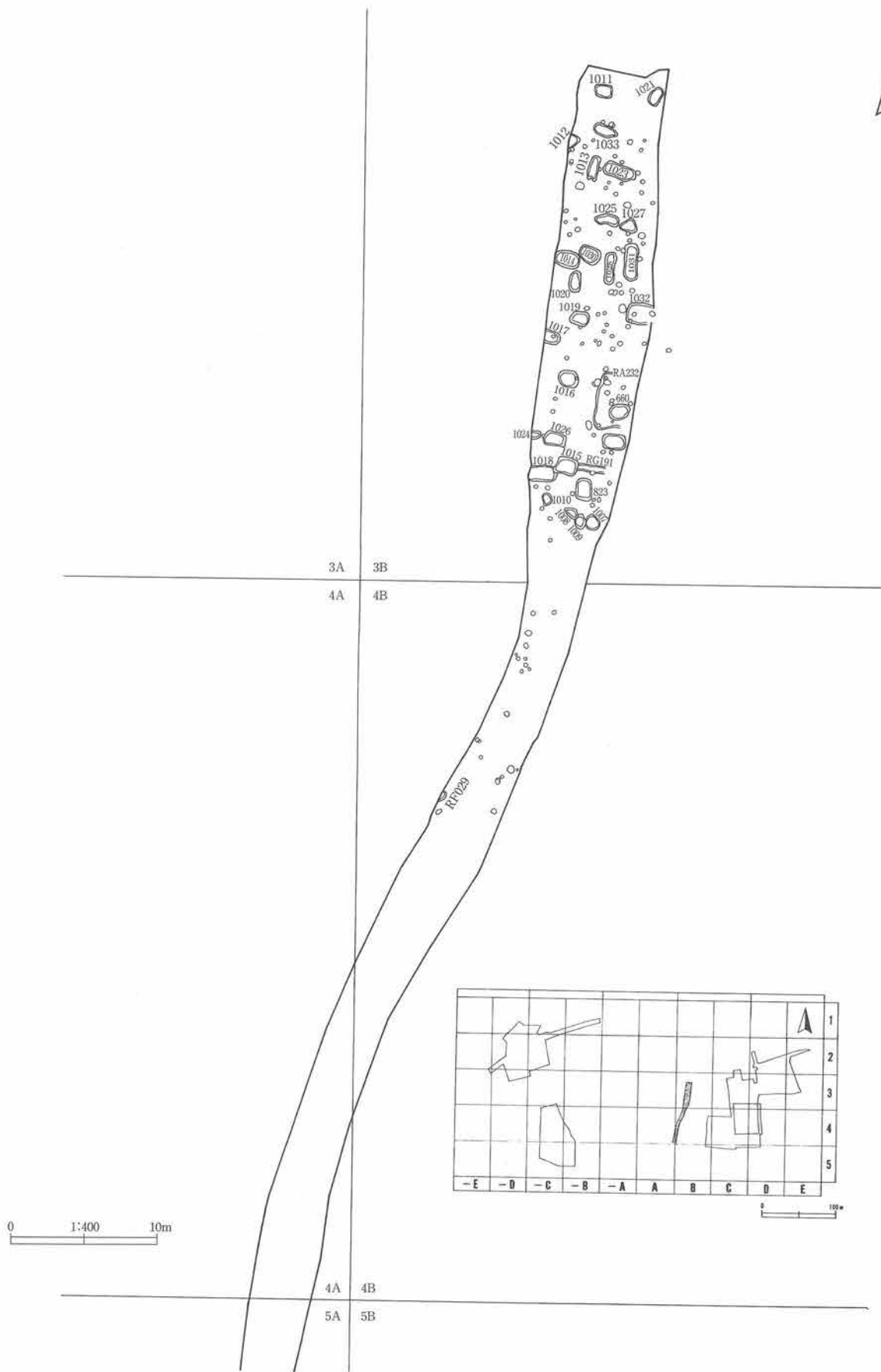
第9図 台太郎遺跡第26次調査遺構配置図



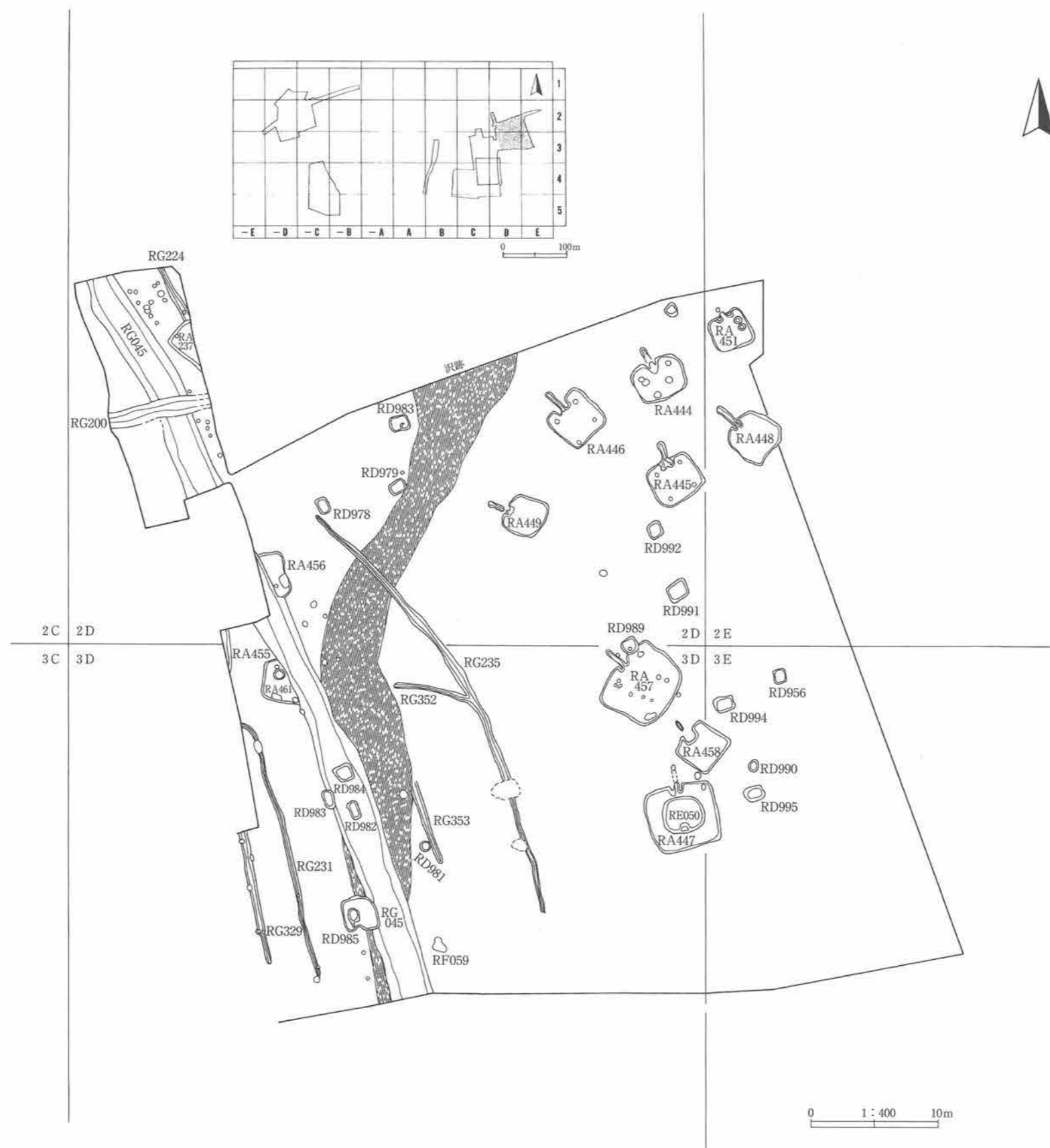
第10図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図 (1)



第11図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(2)



第12図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(3)



第13図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(4)



第14図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図 (5)



## IV 検出された遺構と遺物

### 1 古墳時代末から平安時代の竪穴住居跡

竪穴住居跡は古墳時代末から奈良時代・平安時代に属するものが合計68棟検出されている。台太郎遺跡の範囲は東西約700m、南北約500mと広大で、今回の26次調査ではこの遺跡の南半部において東部から南東端までと西側及び南西端に少し届かない地点を対象とし、その中の第3図で示した範囲を調査している。竪穴住居跡の分布を見ると古墳時代末から奈良時代の竪穴住居跡は調査区東側及びやや南東側と調査区西側に分布しており、平安時代の竪穴住居跡は調査区西側及び南西部にのみ分布する傾向がみられる。各遺構の事実記載に際し所在はグリッドと本遺跡中のどの辺に位置するかを簡単に記した。遺物については出土状況を中心とし、各遺物の諸特徴は第10節及び遺物観察表を別に作成した。なお、出土遺物に関しては、土器や石器がどれだけ出土しているのかを表現する一手段として遺物の個体数を示した。これは担当者が出土遺物のすべてを実見し、土器類でいえば口縁部や底部の破片を中心に各個体を見比べて主観的に数えたものであり破片数・重量などから計算式を用いて割出したものではない。また、遺構内出土遺物という括りにして埋土出土、床面出土の遺物を一緒にして数えている。つまりその遺構に伴うものと、そうでないものを混ぜて示している。但し掲載した遺物に関しては遺構に伴うものを前提としている。

#### R A 210竪穴住居跡（第15図、写真図版6）

〈位置・重複関係〉遺跡の西側にあたる1-B18rグリッドに位置している。

〈規模・形態・方向〉北西壁-南東壁で3.9mを測り平面形は隅丸方形となる。主軸方向はN-21°-Eで、床面積は7.0㎡である。本遺構の南側部分は23次調査で調査されている。

〈埋土〉自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、底面付近には黒褐色土と褐色土の混土が堆積。

〈壁〉検出面から46cm程残存しており、床面からは直立から外傾して立ち上がっている。

〈床面〉平坦で全面に貼床を施している。壁溝は見られなかった。

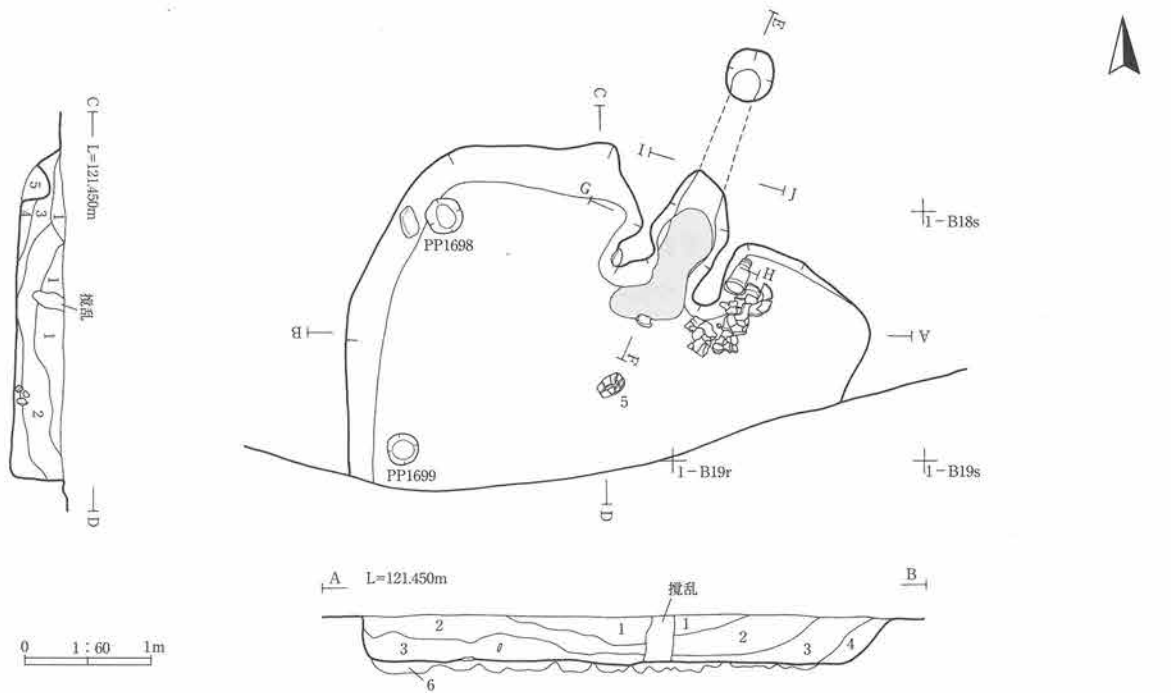
〈カマド〉北東壁のほぼ中央に構築されている。側壁は褐色土等につくられ、側壁の内側から焚き口部には焼土がよく残っていた。天井部は崩落し失われていたが支脚に使われたと見られる自然礫が倒立した状態で残っていた。煙道部は削り貫き式で燃焼部から煙出し底部へ向かう途中で一段低く掘り込まれている。

〈柱穴〉北西壁に沿って2基検出されている。

〈遺物〉（第150図、写真図版132・175）埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点、甕4点、球胴甕2点、甑1点が出土した。

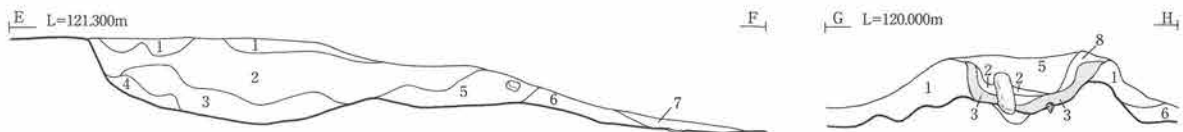
長胴甕1～3・甕4・球胴甕6はカマド袖部東脇からその場で潰れたような状態で出土した。5の甑は焚き口のやや南から同じくその場で潰れた状態で出土している。

〈時期〉奈良時代。



RA210 A-B・C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック少量含む。(7~10%)
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性に富む。縮まりやや弱。
3. 10YR2/2黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土。粘性有り。縮まりやや弱。
4. 10YR2/3黒褐色土と10YR4/4褐色土ブロック(袖の流れたもの?)との混合土 粘性有り。縮まりやや弱。
5. 10YR4/4褐色土(袖)
6. 10YR4/4褐色土と10YR2/2黒褐色土との混合土 粘性やや弱。縮まり有り。

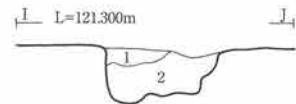


RA210 E-F

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。10YR4/4褐色土(地山) 焼土粒多く含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック少量含む。
4. 10YR2/2黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土 粘性有り。縮まりやや弱。
5. 10YR3/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。地山ブロック多く含む。
6. 10YR3/2黒褐色土と地山土との混合土 粘性やや弱。炭・焼土粒多く含む。
7. 10YR2/3黒褐色土 地山粒多く含む。粘性やや弱。縮まり有り。炭、焼土粒少量含む。
8. 10YR4/4褐色土 焼土と混合している。

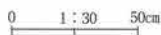
RA210 G-H

1. 地山(10YR4/4褐色土 粘性、縮まり有り)
2. 焼土、炭。10YR2/3黒褐色土との混合土。粘性、縮まり有り。
3. 焼土
4. 炭化物(焼土粒10YR2/3黒褐色土と混合する) 粘性、縮まり有り。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。地山ブロック多量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土と地山土との混合土 粘性、縮まり有り。

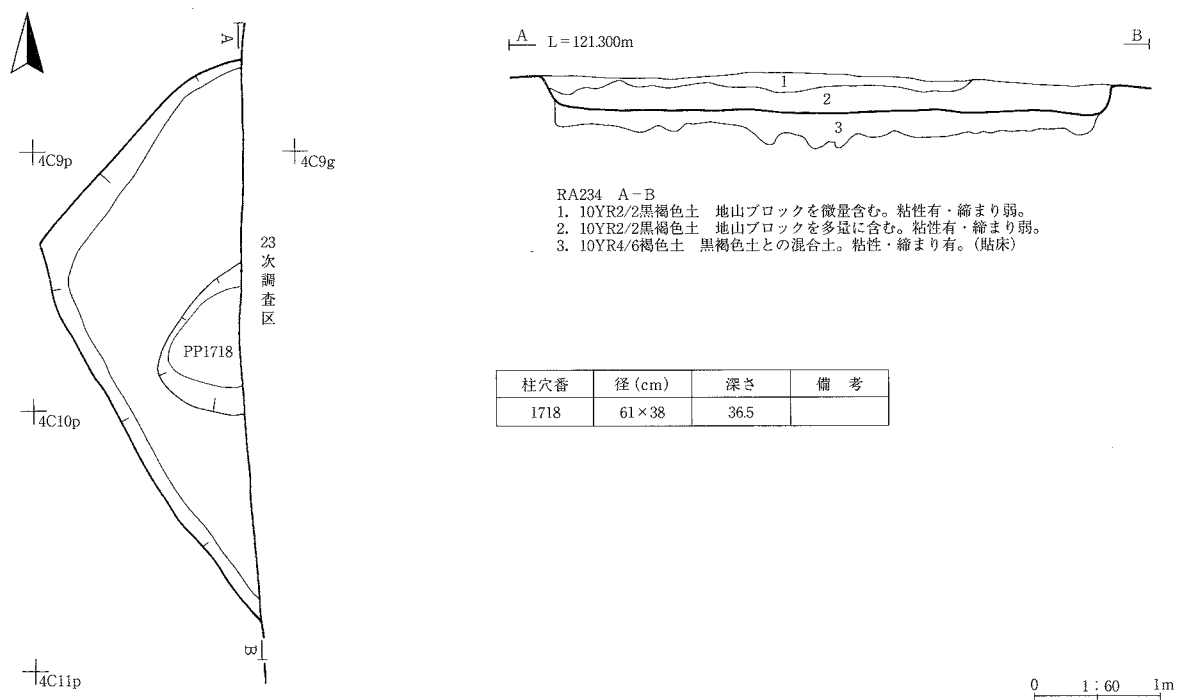


RA210 I-J

1. 地山
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック少量含む。



第15図 RA210竈穴住居跡



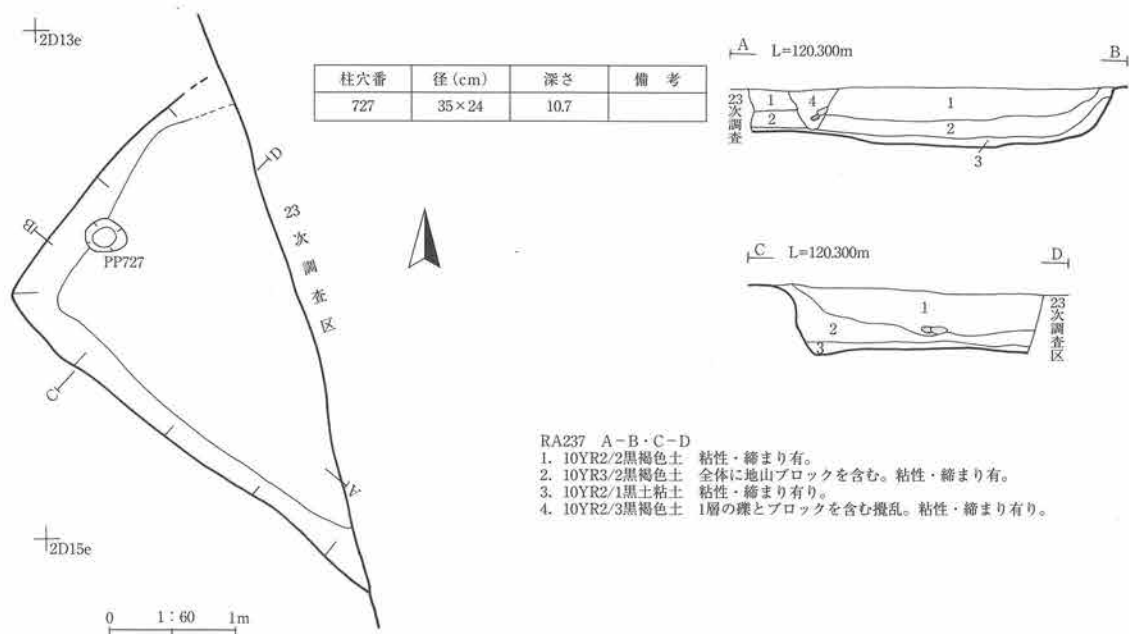
第16図 RA234竪穴住居跡

RA234 竪穴住居跡 (第16図、写真図版7)

- <位置・重複関係>遺跡の南東側にあたる4C9pグリッドに位置している。
- <規模・形態・方向>北西壁部分のみの検出である。残りの部分は23次調査で報告している。
- <埋土>自然堆積の様相を呈する。
- <壁>遺構の検出面からは24cm程が残存しており床面から直立気味に外傾している。
- <床面>平坦で全面を貼床とし壁溝はない。
- <その他>PPI1718は柱穴というよりも土坑に近い。
- <遺物>今回の調査では出土しなかった。
- <時期>奈良時代。

RA237 竪穴住居跡 (第17図、写真図版8)

- <位置・重複関係>調査区東、2D区西寄りに位置する。昨年度の調査区に隣接し、本遺構の大半は、23次調査で報告している。
- <遺物>今回の調査では出土しなかった。
- <時期>奈良時代。



第17図 RA237竪穴住居跡

RA281 竪穴住居跡 (第18図)

<位置・重複関係>遺跡の西側にあたる2-D21x区に位置する。RA218竪穴住居跡とRD796と重複関係にあり何れも本遺構の方が古い。23次調査で遺構の大半を検出しており報告書にも同じ遺構名で掲載している。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.1m、北東壁-南西壁で3.0mの隅丸方形プランを呈するが北東壁はやや歪である。床面積は5.5㎡で主軸方向はN-36°-Wである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面からの残存値は約25cmで、底面から幾分外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床とし平坦であるが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。カマド本体は自然礫を褐色土等で覆って作られていたようだが、側壁の一部が残存するのみである。燃烧部には35×25cmの範囲で焼土が見られ、その中に2個積まれた状態で自然礫を検出した。煙道部は刳り貫き式で燃烧部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられている。

<柱穴>1基検出されたが、本遺構にともなうものか判然としない。

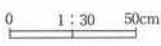
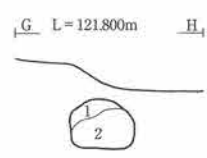
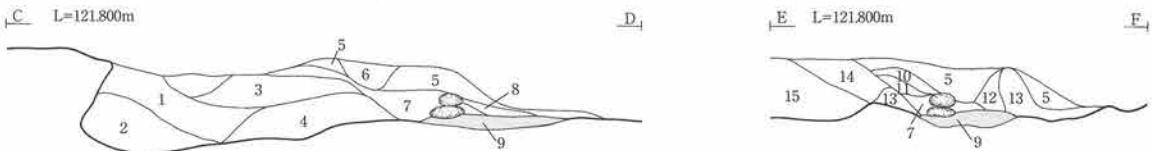
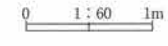
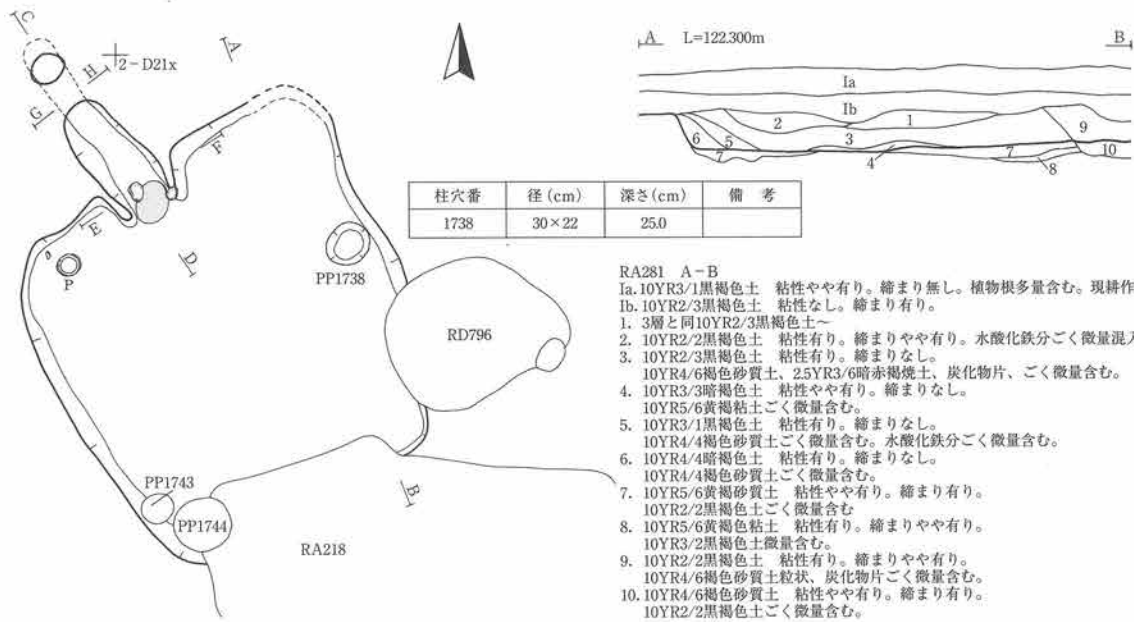
<遺物>(第197図、写真図版180) 今回の調査ではカマド袖部西脇から紡錘車(502)が出土している。

<時期>奈良時代。

RA402 竪穴住居跡 (第19図、写真図版9)

<位置・重複関係>遺跡西部にあたる2-C9hグリッドに位置する。RG223と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.0m、北東壁-南西壁で3.2mを測り、平面形は方形を基調とする。



- RA281 C-D·E-F·G-H
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりなし。炭化物、2.5YR5/4暗赤褐色土ごく微量含む。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。  
10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
2.5YR3/4暗赤褐色土焼土ブロックごく微量含む。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。  
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
  - 10YR3/2 粘性、締まりやや有り。  
2.5YR3/4暗赤褐色土、10YR2/1黒色土ごく微量含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 締まり、粘性やや有り。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
2.5YR3/4暗赤褐色土焼土ブロック、ごく微量含む。
  - 2.5YR3/4暗赤褐色土焼土 粘性有り、締まりやや有り。  
骨片、2.5YR6/6棕色土、10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
  - 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。大量の2.5YR3/4暗赤褐色土を含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
  - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。  
2.5YR4/6赤褐色土粒ごく微量含む。
  - 10YR5/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
  - 10YR5/4にふい黄褐色土、粘性、締まりやや有り。  
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。1のカマド袖部に続く。

第18図 RA281竪穴住居跡

床面積は8.1㎡、主軸方向はN-52°-Wである。

<埋土>黒褐色土に褐色土ブロックを含むが自然堆積で良いと思われる。

<壁>遺構検出面から15~25cm程残存しており、底面から外傾或いは直立気味に立ち上がっている。

<床面>全面に貼床を施し、平坦である。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁の中央部に設置されているがR G 223に切られているため残りが悪い。

<柱穴>なし。

<遺物>(第151図・写真図版 133、165) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏2~3点・甕3点・球胴甕1点・甗?1点、平安時代の坏1~2点・甕1点、剥片石器1点が出土した。

住居中央やや北東の床面より土師器坏7が上向きにほぼ完形の状態で見つかり、その隣りに9土師器甕があった。10の土師器甕片も南壁近くの床面から出土した。

<時期>奈良時代。

#### R A 4 0 4 竪穴住居跡 (第20図、写真図版10)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-D23v区に位置している。R A 401と重複し、本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が3.5m、北西壁-南東壁で3.5mと平面形は隅丸方形を呈する。床面積は10.2㎡、主軸方向はN-61°-Wである。

<埋土>自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は11~19cm程しかない。上面は遺構検出の際にかなり削ってしまった。

<床面>全面を貼床にしており、やや硬く締まっている。壁溝は持たない。

<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されていた。本体の天井部は残っておらず、側壁も崩壊が進んでいた。燃焼部の焼土も焚き口の外側へも散乱していた。側壁は黒褐色土で20~30cm程の河原石を覆ってつくられていた。芯材の礫は5個検出されている。煙道部は燃焼部から外側に緩やかに掘り下げられて煙出し底部が最も低くなっている。掘り込み式か削り貫き式か不明である。

<柱穴>床面まで下げた段階で1基検出されているが本遺構に伴うものか判然としない。

<その他>床面直上で焼土の広がりを検出した。その状況から本住居が焼失した際のものといった印象を持ったが、具体的な焼失状況については判らなかった。

<遺物>本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

<時期>R A 401との重複関係とカマドの設置場所から奈良時代と思われる。

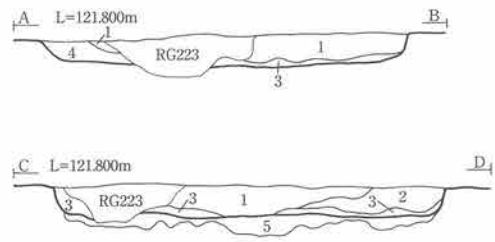
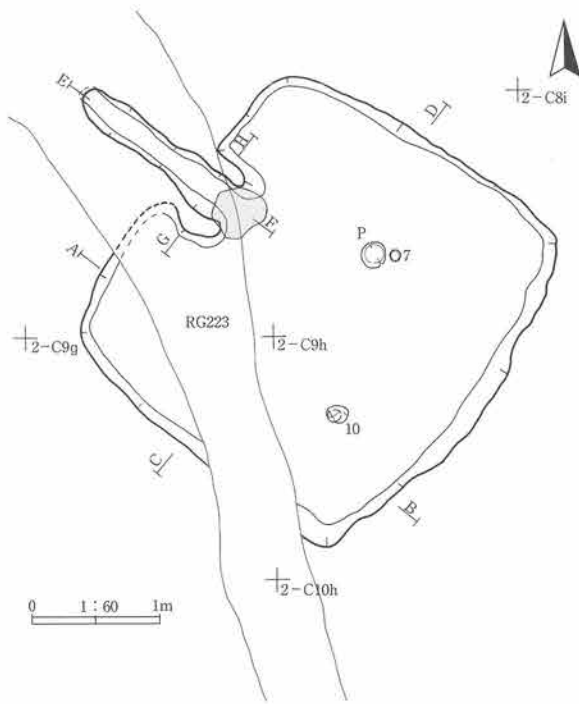
#### R A 4 0 5 竪穴住居跡 (第21図、写真図版11)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる3-D1vグリッドに位置している。R D 692と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北壁-南壁で3.0m、東壁-西壁が2.6mで平面形は不整な台形を呈する。床面積は約6.3㎡で主軸方向はN-80°-Wである。

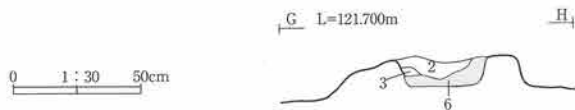
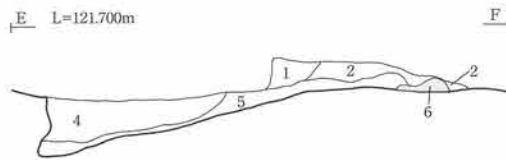
<埋土>黒褐色土中に地山ブロックを少量含む。自然堆積か人為堆積か不明である。

<壁>残存する壁は10cmに満たない。南東側の壁は遺構検出の段階で削ってしまった。



RA402 A-B・C-D

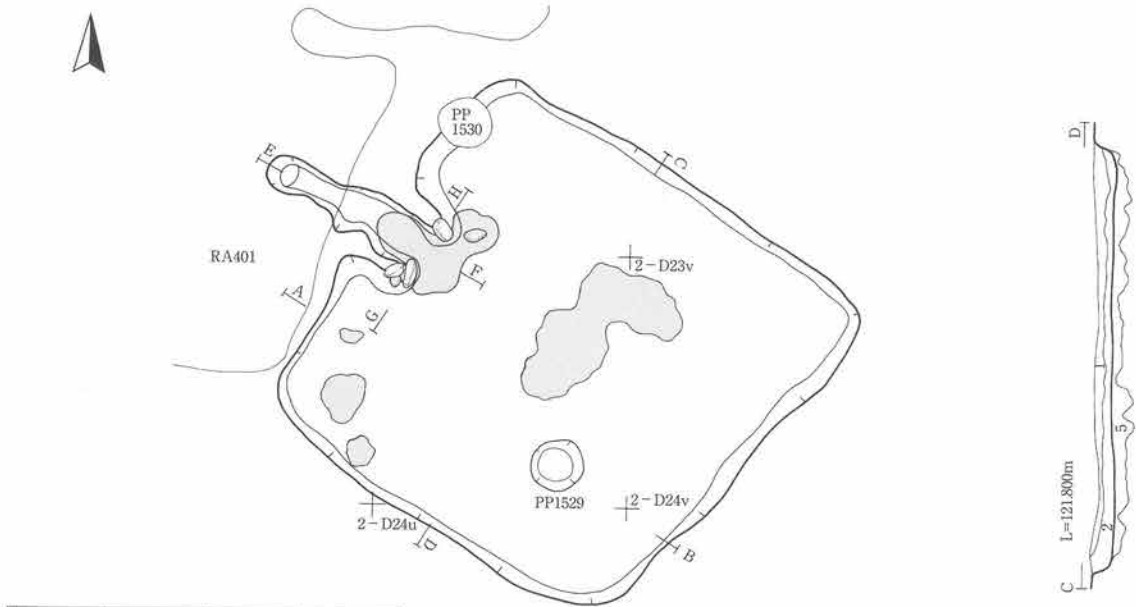
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。  
10YR4/4褐色土ブロック含む。セクション図に見られないが、焼土、炭化物混入。
- ※焼土、炭化物が混入している所では、遺物が集中的に出土している。またその出土状況は垂直に立っている破片や、甕が逆さにかぶさっていることからセクション面には現れていないが、一部分人為堆積が入っている可能性がある。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色土ブロック (40%) 混在。
4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。  
下層部に10YR4/4褐色土ブロックが混在。
5. 10YR4/6褐色土 粘性、締まりやや有り。  
10YR2/3黒褐色土 (25%程) と混じっている。



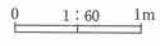
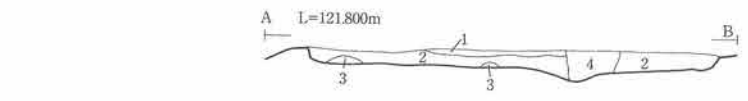
RA402 E-F・G-H

1. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性無し。締まり有り。  
(薄の埋土の可能性有り) 酸化鉄を部分的に含む。
2. 10YR3/1-3/3黒褐色～暗褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4-4/6) を斑状に含む。  
※崩落した天井の土 (暗褐色) 含むと考えられる。
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。2層の黒褐色土を少量含む。
4. 10YR4/4褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。黒褐色土が点在する。
5. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性無し。締まり有り。焼土、炭化物が混入する。
6. 5YR4/8赤褐色 (崩落した焼土) 粘性無し。締まりやや有り。炭化物少量含む。

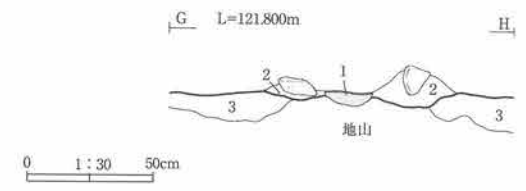
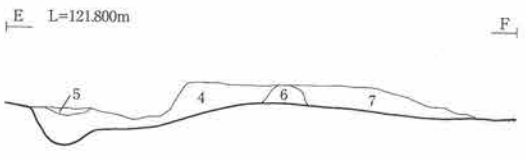
第19図 RA402竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1529	43×41	22.1	



- RA404 A-B・C-D
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
  - 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
  - 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性弱。締まっている。(貼床)



- RA404 E-F・G-H
- 5YR3/6暗赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 自然礫を入れている。粘性やや有り。締まっている。(袖)
  - 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量混。粘性やや有り。締まっている。(貼床)
  - 10YR2/3黒褐色土 焼土。炭粒含む。粘性、締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 焼土多量に含む。粘性弱。締まっている。
  - 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。

第20図 RA404竪穴住居跡



<床面>礫層に達したところを床面とし、平坦であるが貼床は施されていない。

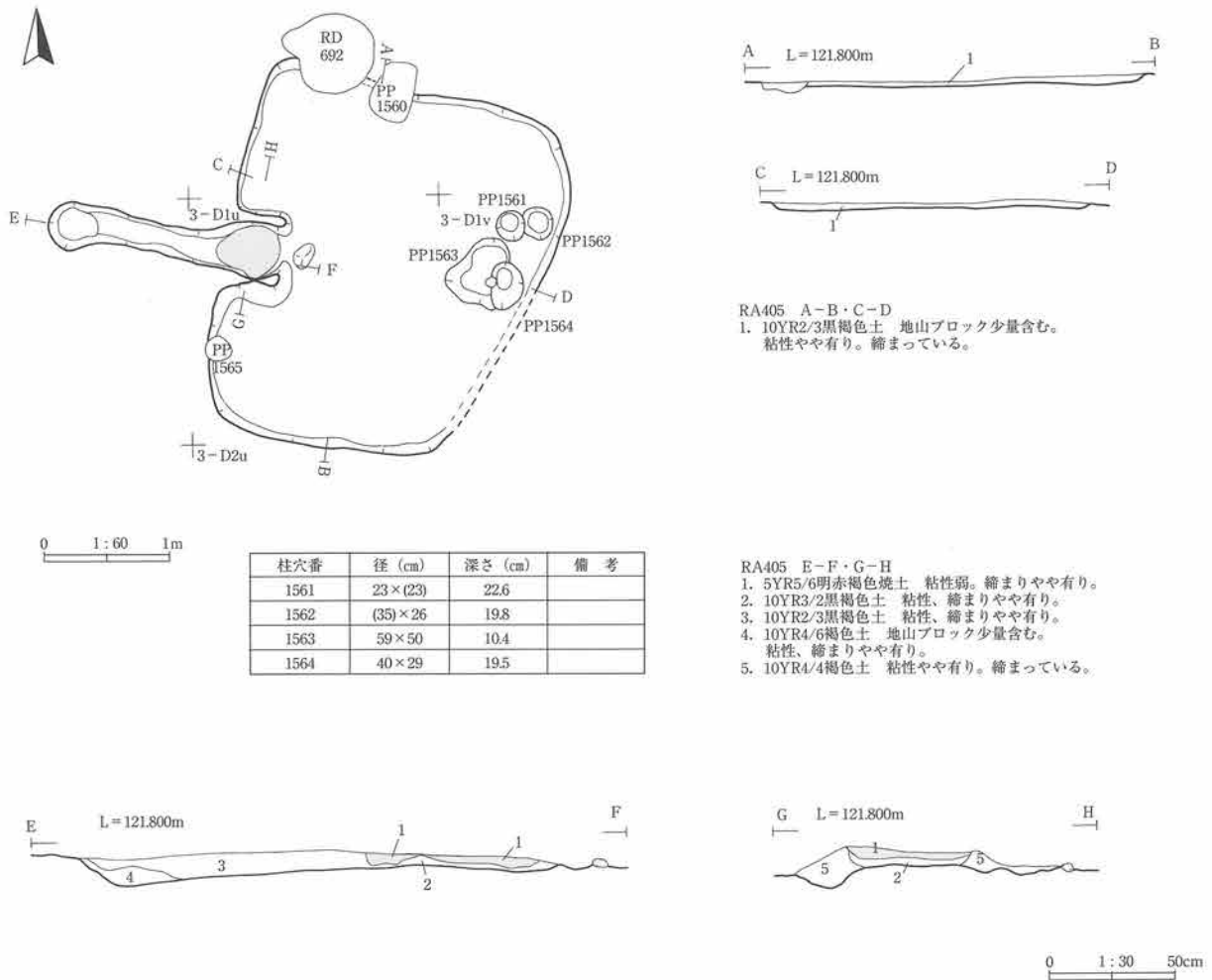
<カマド>西壁の中央やや南側に構築されている。本体部の側壁は褐色土でつくられているが、天井部は崩落し残っていない。燃焼部には52×40cmの範囲で焼土が見られ、煙道部はこの燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下がっている。

<柱穴>東壁際から4基検出したが本遺構には伴わないかもしれない。

<遺物> (第151図、写真図版133・165) 埋土及び床面などから個体数にして土師器甕1点・球胴甕1点が出土した。

12・13土師器甕は共にカマド精査中に出土した。

<時期>奈良時代。



第21図 RA405竪穴住居跡

RA407 竪穴住居跡 (第22図、写真図版12)

<位置・重複関係>遺跡西部にあたる3-D5pグリッドに位置している。RA420竪穴住居跡と重複し本遺構の方が古い。

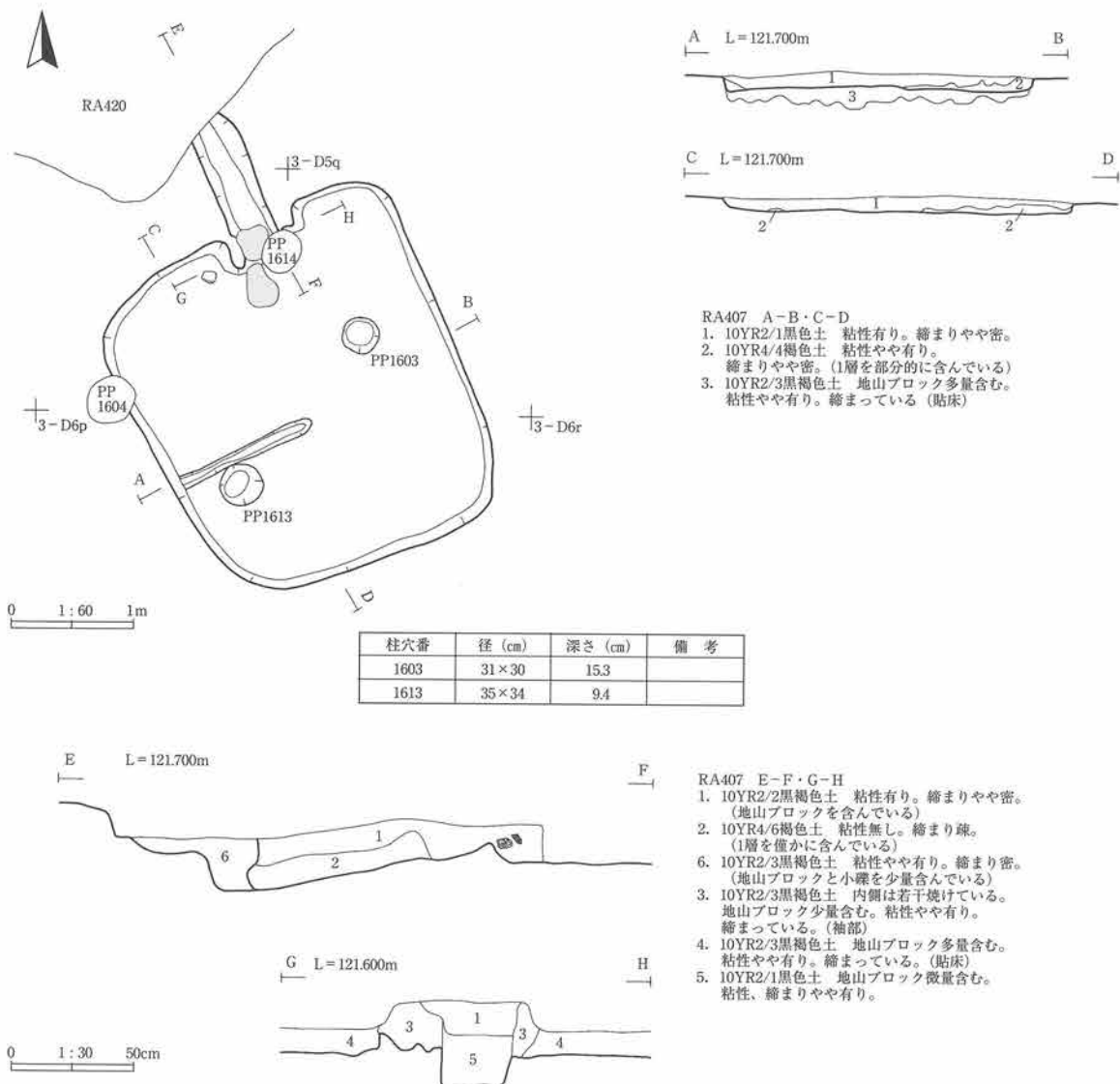
<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が2.9m、北東壁-南西壁では2.6mあり平面形は方形を基調としている。床面積は9.6㎡で主軸方向はN-25°-Wである。

<埋土>黒色土と褐色土で構成される自然堆積。

<壁>遺構検出面から8~14cm程しか残っていない。壁溝は南西壁から北東壁方向へ1.1m程直線的に伸びている。

<床面>平坦で全面貼床にしている。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されているが残りは悪い。カマド本体部の側壁は地山の土でつくられており焚き口及び燃焼部底面には焼土の広がりが見出された。煙道部の構造も不明であるが、燃焼部から外側



第22図 RA407竪穴住居跡

へ徐々に深く掘り下げられている。

<柱穴>床面から2基検出されたが本遺構に伴うものか把握できなかった。

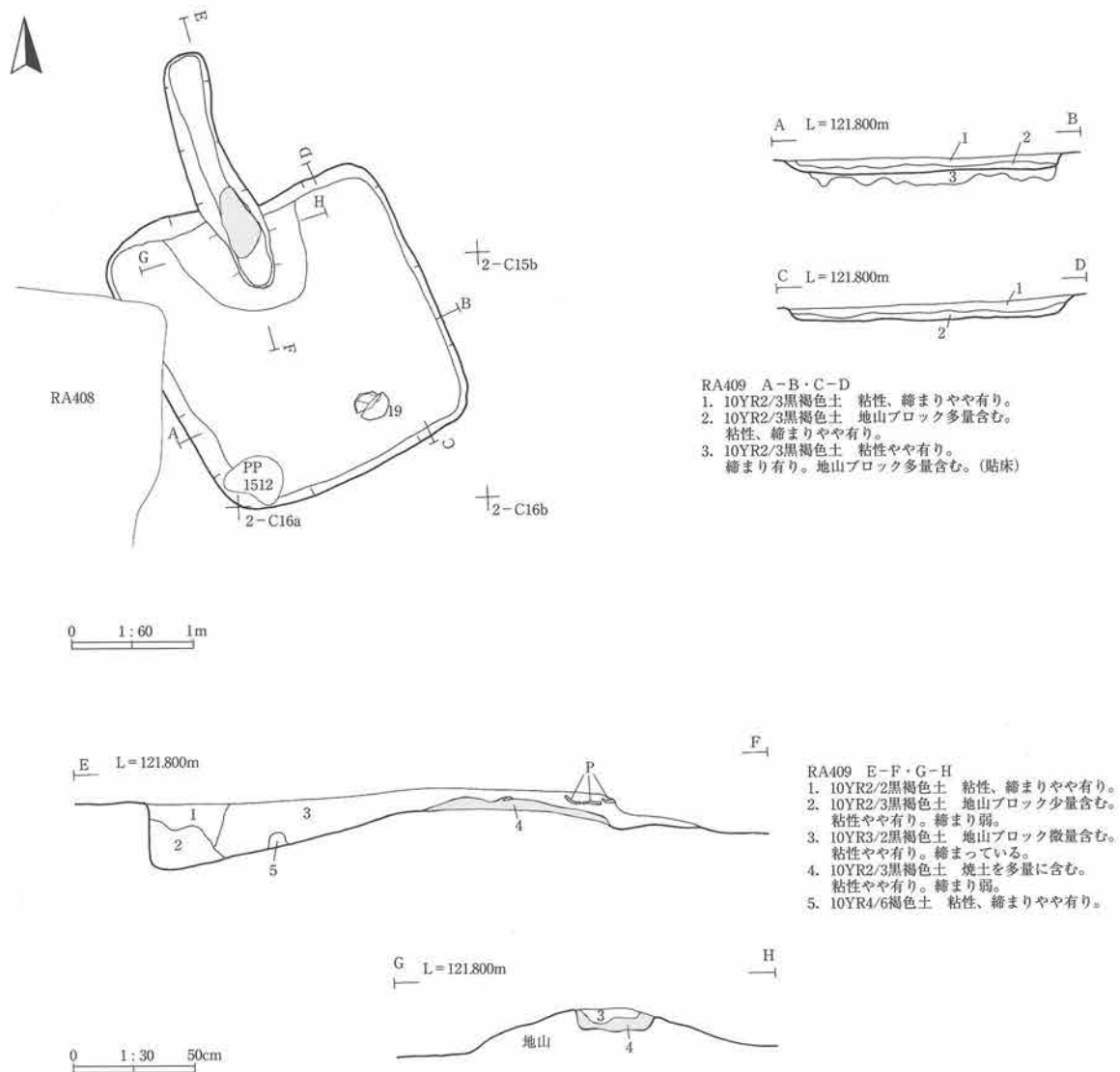
<遺物> (第151図、写真図版133・165) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器高坏1点・球胴甕1点・甑1点、平安時代の須恵器坏1点が出土している。

カマド精査中に14土師器高坏や17土師器甑が出土している。

<時期>奈良時代。

### RA409 竪穴住居跡 (第23図、写真図版13)

<位置・重複関係>遺跡西部にあたる2-C15aグリッドに位置している。RA408住居跡と重複し、本遺構の方が古い。



第23図 RA409竪穴住居跡

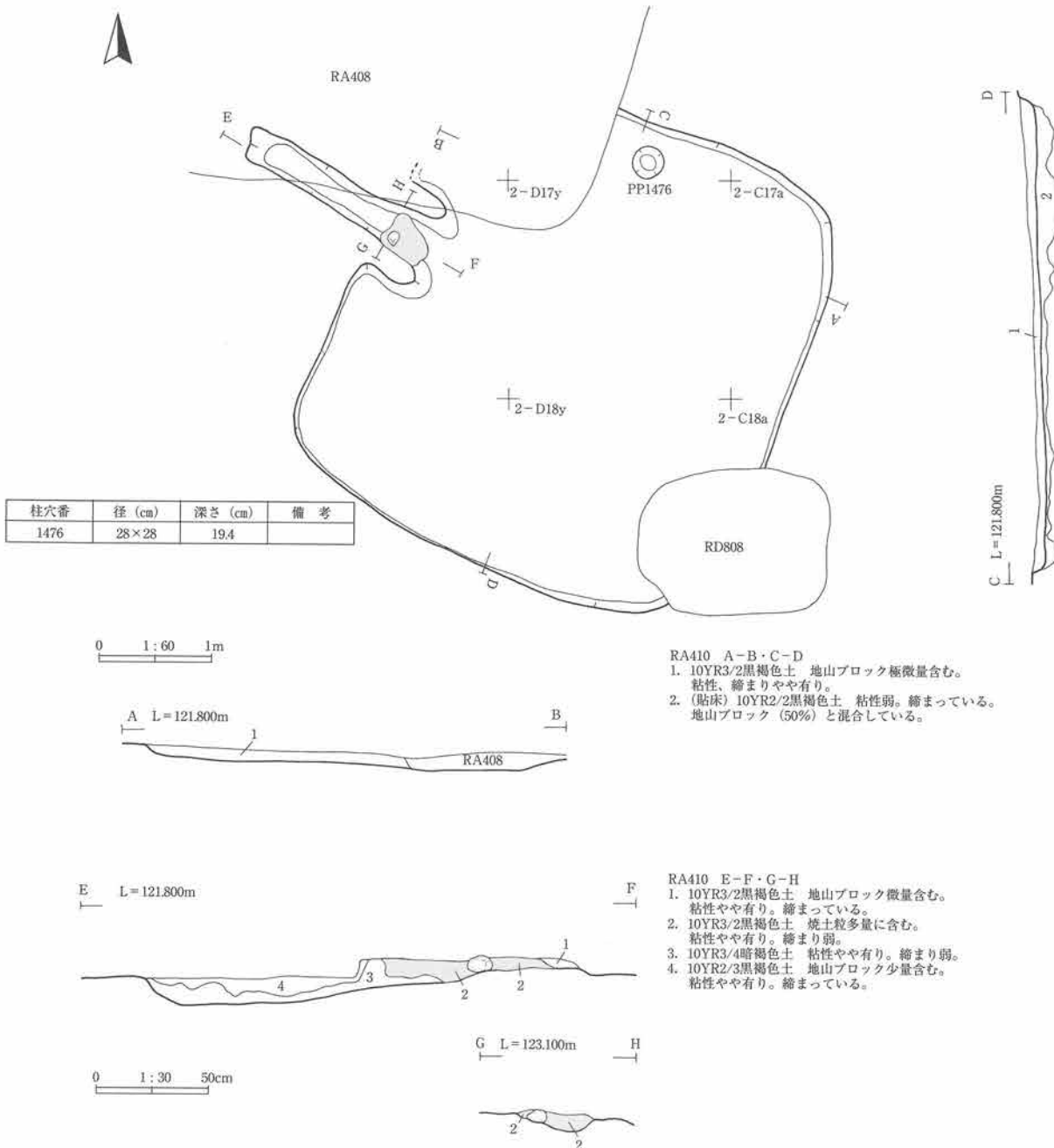
<規模・形態・方向>北西壁-南東壁2.5m、北東壁-南西壁で2.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は4.6㎡で主軸方向はN-15°-Wである。

<埋土>黒褐色土を主体とし、床面付近には地山ブロックを含むが自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は15~10cm程で、底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床するが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。本体部の側壁は地山を生かして構築されていたようだが、天井部は崩落し遺存しない。煙道は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下っている。削り貫き式か掘り込み式かは不明である。



第24図 RA410竪穴住居跡

<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されなかった。

<遺物> (第151図、写真図版133・165) 床面及び埋土から個体数にして土師器大型坏1点・甕1～2点・甌1点が出土した。

19の大型坏は南東壁近くの床面から上向きのまま少し潰れた状態で出土している。

<時期>奈良時代。

#### R A 4 1 0 竪穴住居跡 (第24図、写真図版14)

<位置・重複関係>本遺跡の西側中央部、2-D17y区に位置している。R A 408とR D 808と重複が認められ本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が4.4m、北西壁-南東壁で3.9mを測り、床面積は15.5㎡である。平面形は概ね隅丸方形を呈し、主軸方向はN-60°-Wを指す。

<埋土>地山ブロックをごく微量含む黒褐色土の単層。

<壁>13～10cm程しか残存していないが、底面からやや外傾して立ち上がっている。

<床面>底面は概ね平坦で全面を貼床としているが、硬く締まるものではない。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。カマド本体は地山を削りだしてつくられていたようだが、袖の下部のみしか残存しない。燃焼部付近には40×36cmの範囲で焼土があり、その中に自然礫が1点見られた。この礫が支脚であったと思われる。煙道部は燃焼部から煙出し底部へ緩やかに下っている。掘り込み式か刳り貫き式かは不明である。

<柱穴>北東壁近くより1基検出されている。

<遺物> (第152図、写真図版134・165) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器坏2点、甕2～3点、平安時代の土師器坏1点・甕1点、赤焼き坏2点が出土した。

土師器坏21・甕22・23は何れも埋土から出土している。

<時期>奈良時代。

#### R A 4 1 2 竪穴住居跡 (第25図、写真図版15)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C21e区に位置している。R A 411・413と重複し、何れも本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北壁-南壁が5.2m、東壁-西壁で4.9mあり、平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は23.2㎡で主軸方向は不明である。

<埋土>埋土下位に地山ブロックを少量含む黒褐色土の単層。

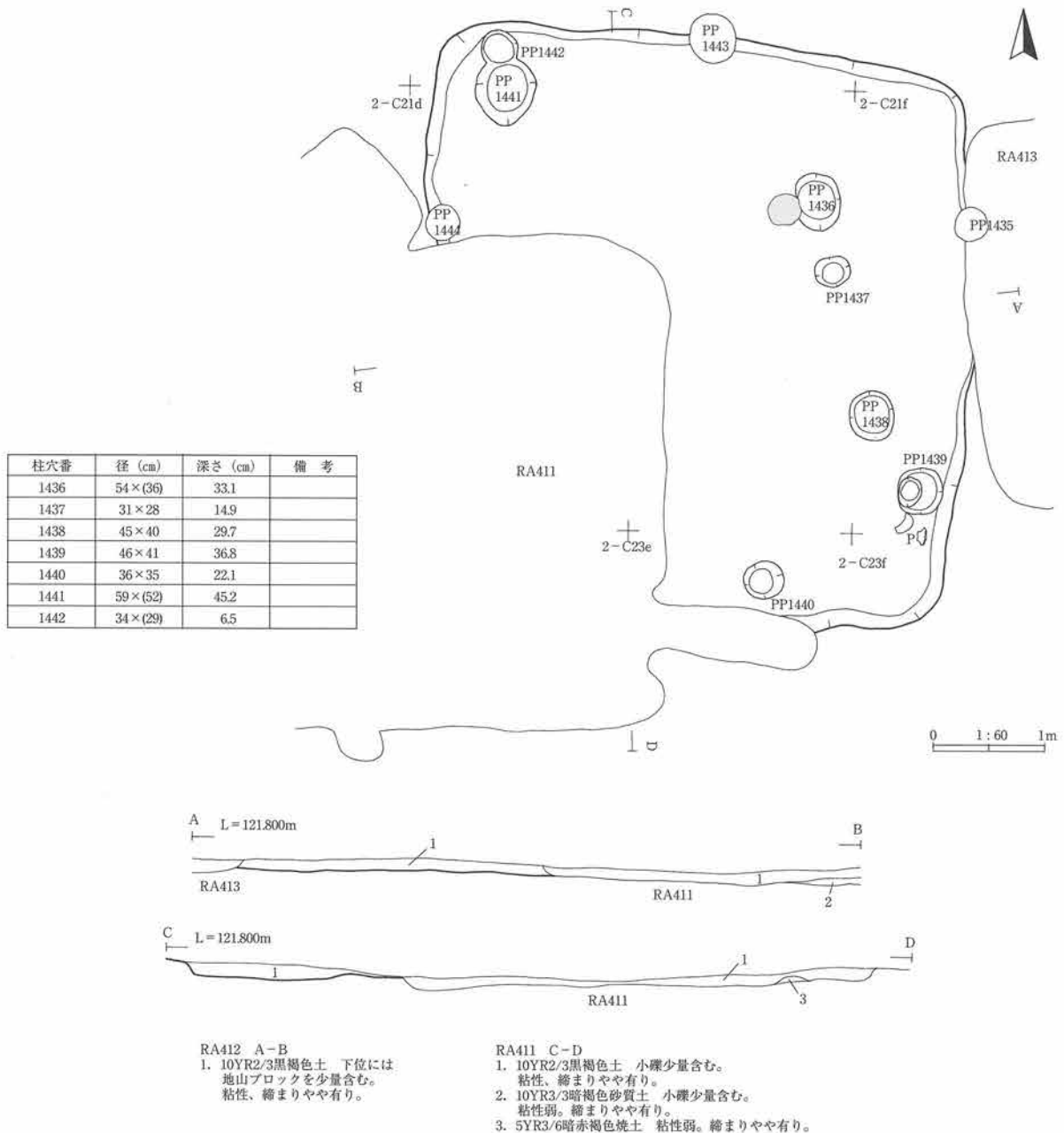
<壁>遺構検出面からの残存値は12～14cmしかない。

<床面>概ねは平坦であるが北西側では礫層が露出し幾分凹凸が見られる。貼床は施されない。

<カマド>検出されていない。恐らくは西壁もしくは南壁のR A 411竪穴住居跡と重複しているところに位置していたと思われる。

<柱穴>本遺構内からは7基の柱穴を検出したが、その配置に規則性を見出せない。本遺構に伴わない柱穴を含んでいる可能性も高い。

<その他>床面直上から30×27cmの範囲で焼土が見られた。



第25図 RA412竪穴住居跡

<遺物> (第152・191・195図、写真図版134・179・181) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器坏3点・長胴甕1点・球胴甕1点、平安時代の土師器坏1点、赤焼き坏2点、須恵器坏1～2点・甕類1点、近世以降の陶器碗1点(432)、煙管雁首1点(467)が出土している。

RA414 竪穴住居跡 (第26図、写真図版16)

<位置・重複関係>遺跡の西側にあたる3-D1rグリッドに位置している。RD414・RI011と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が2.65m、北東壁-南西壁では2.6mを測り平面形は台形状を呈する。床面積は約4.9㎡で主軸方向はN-42°-Wである。

<埋土>黒褐色土を主体とし壁際に暗褐色砂質土が堆積する自然堆積。

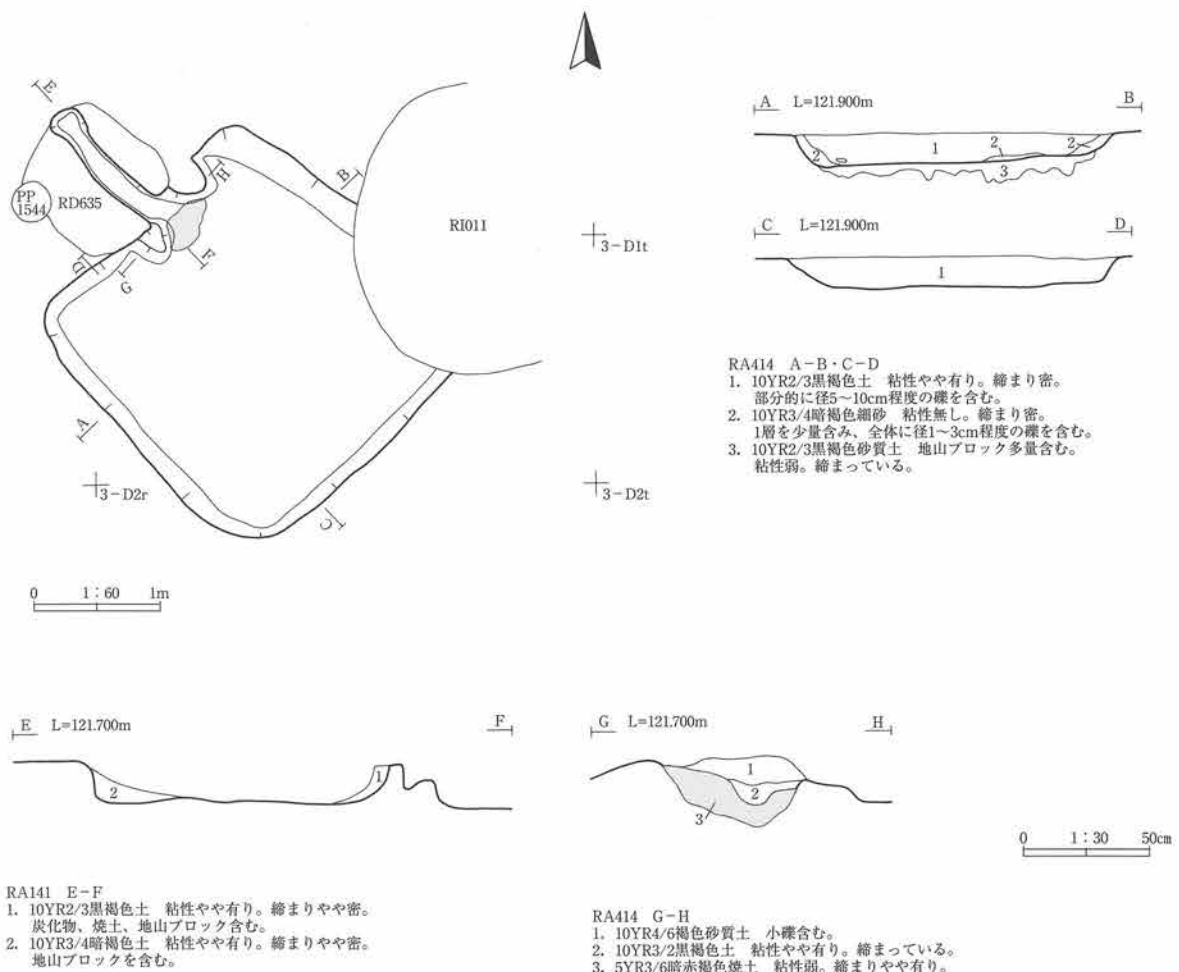
<壁>遺構を検出した面からは27~16cm程残存し、底面からは外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で硬く全面に貼床を施しており壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されていた。本体部の残りは良くないが袖部の状況から地山を削り出して構築されていたと思われ、燃烧部には焼土がみられる。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明で、RD635との重複もあり詳細を把握することはできなかった。

<遺物>なし。

<時期>遺物がなく断定はできないがカマドの方向から奈良時代と推測される。



第26図 RA414竪穴住居跡

RA416 竪穴住居跡 (第27図、写真図版17)

<位置・重複関係>遺跡の西側中央部にあたる2-C12eグリッドに位置している。RA415竪穴住居跡と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>西壁がRA415との重複により失われているが一辺が約2.9mの隅丸方形プランを呈すると思われる。主軸方向はN-10°-Wである。

<埋土>黒褐色土の単層で自然堆積か人為堆積か不明である。

<壁>遺構検出面からは13~16cm位残存し、底面からは外傾して立ち上がっている。

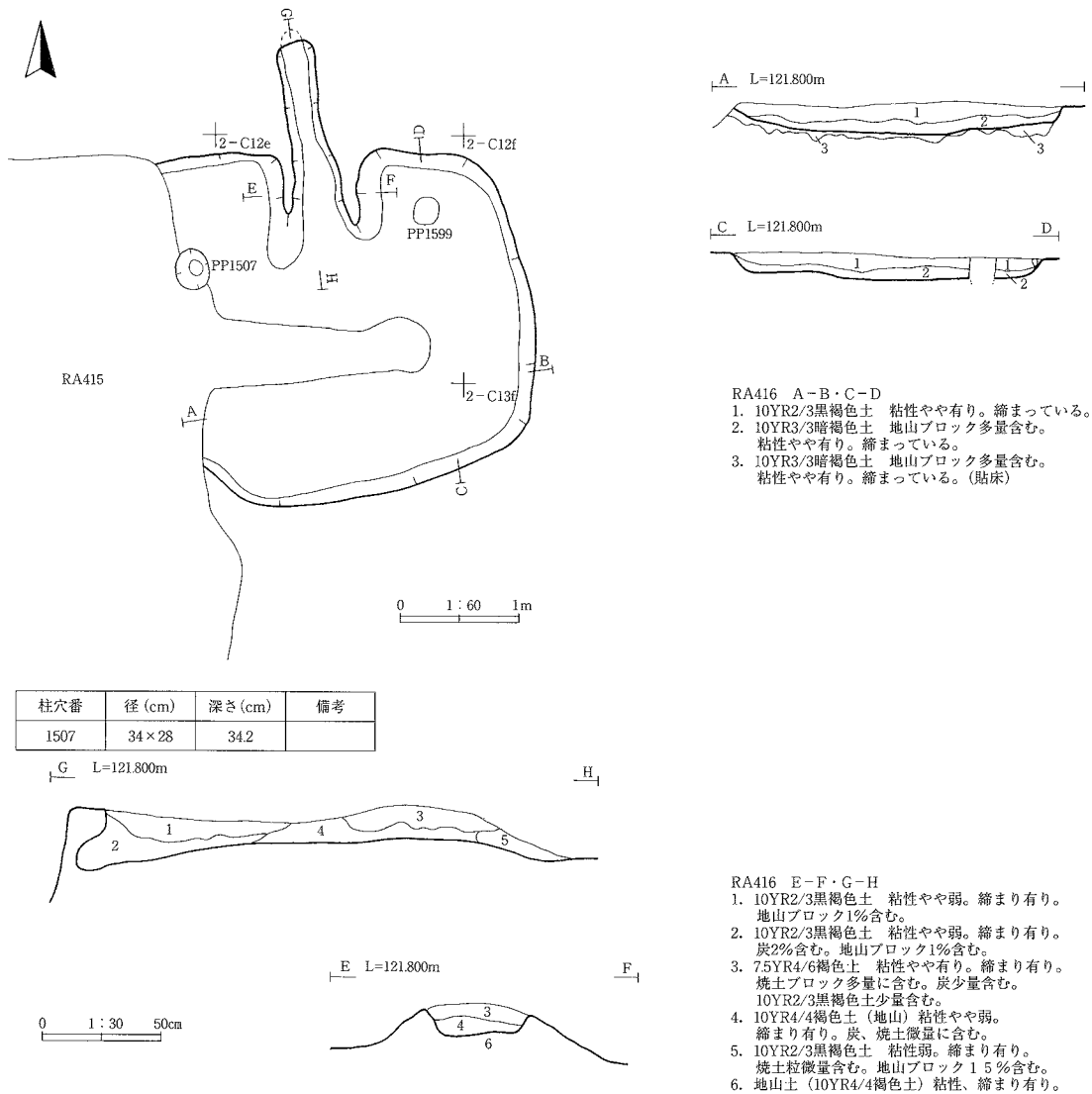
<床面>全面を貼床としており平坦でやや硬い。壁溝はもたない。

<カマド>北壁のほぼ中央に設置されていた。本体部は天井が崩落し残っていないものの袖部断面の状況から地山をそのまま使って構築していたようである。煙道は煙出し底部へ向けて緩やかに掘り下げられて反り返って立ち上がっている。

<柱穴>1基検出されているが本遺構に伴うものか判らなかった。

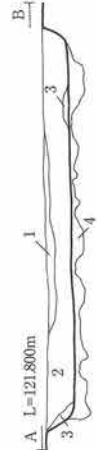
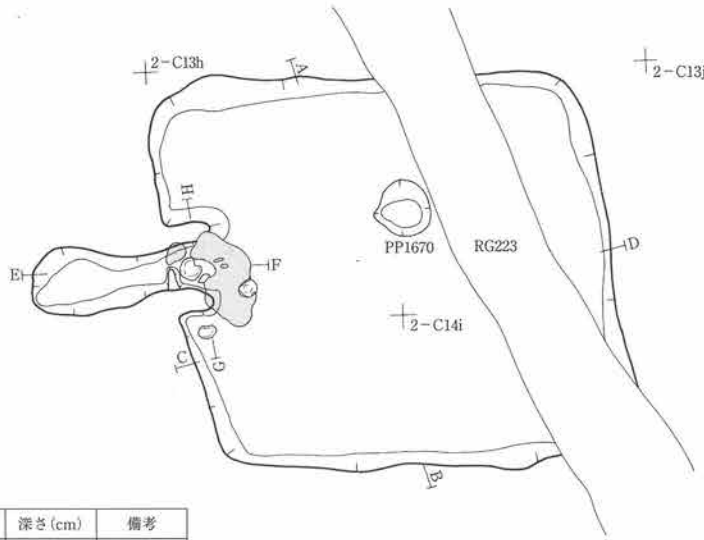
<遺物>出土しなかった。

<時期>RA415竪穴住居跡との重複関係から奈良時代の可能性がある。

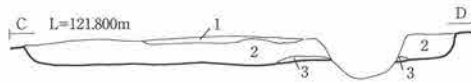
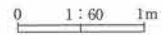


第27図 RA416竪穴住居跡

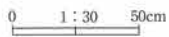
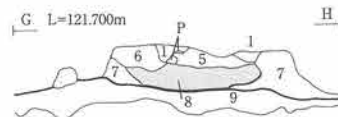
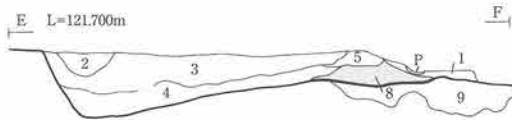




柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1670	46×40	168	



- RA417 A-B-C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(地山ブロック、炭化物を僅かに含む)
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(地山ブロックを多く含む)
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
地山ブロック50%程と混合している。



- RA417 E-F-G-H
- 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック極微量含む。  
粘性やや有り。締まり弱。
  - 10YR2/3黒褐色土 焼土ブロック少量含む。  
粘性やや有り。締まり弱。
  - 10YR2/3黒褐色土 焼土ブロック微量含む。  
粘性やや有り。締まり弱。
  - 10YR4/4褐色土 焼土、黒褐色土が混じる。  
粘性、締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 黄褐色土との混土。  
粘性やや有り。締まっている。

- 10YR3/2黒褐色土 粘性弱。締まり有り。  
10YR4/4褐色土焼土粒微量含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まり有り。  
10YR3/2黒褐色土少量混じる。
- 7.5YR4/6褐色土 (焼土) 粘性やや有り。締まり有り。  
炭少量、焼土ブロック (5YR4/6) 多量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。  
10YR4/4褐色土多量含む。

第28図 RA417竪穴住居跡

RA417 竪穴住居跡（第28図、写真図版18）

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C13h区に位置している。RG223と重複し、本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北壁-南壁が3.1m、東壁-西壁で3.5mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。床面積は11.7㎡、主軸方向はN-90°-Wを指す。

<埋土>黒褐色土に地山ブロックと炭粒を僅かに含む自然堆積。

<壁>検出面からの残存値は15~20cm程で、底面からやや外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床とし、平坦だが硬く締まるものではない。

<カマド>西壁の中央やや南側に構築されている。本体部は天井が崩壊し残っておらず、袖部のみを確認した。袖部は褐色土等で作られていたと思われる。燃焼部を中心に80×45cmの範囲に焼土が広がり、土師器坏が置かれていた。煙道部は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下がっているが、掘り込み式か削り貫き式か不明である。燃焼部から下がり始めたところには仕切状の施設が見られた。

<柱穴>1基検出されたが、本遺構に伴うものか判らなかった。

<遺物>（第152図、写真図版134・135）床面及び埋土から個体数で奈良時代の土師器坏4点・甕2~3点、平安時代の土師器坏1点、赤焼坏2~3点、須恵器坏1点・甕1点・壺1点が出土している。

カマド焼き口部分に上向きの状態で土師器坏26が、燃焼部内には土師器坏27が上向きであり、その脇に甕28が破片の状態で見られた。

<時期>奈良時代。

RA418 竪穴住居跡（第29図、写真図版19）

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C15dグリッドに位置している。RA415・419竪穴住居跡・RD825と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.1m、北東壁-南西壁で3.1mを測り平面形は隅丸長方形を呈するであろう。床面積は約9.1㎡で主軸方向はN-22°-Wと推定した。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面からは約11cm残存しており、底面からは外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で中央より東側は貼床を施している。壁溝はなかった。

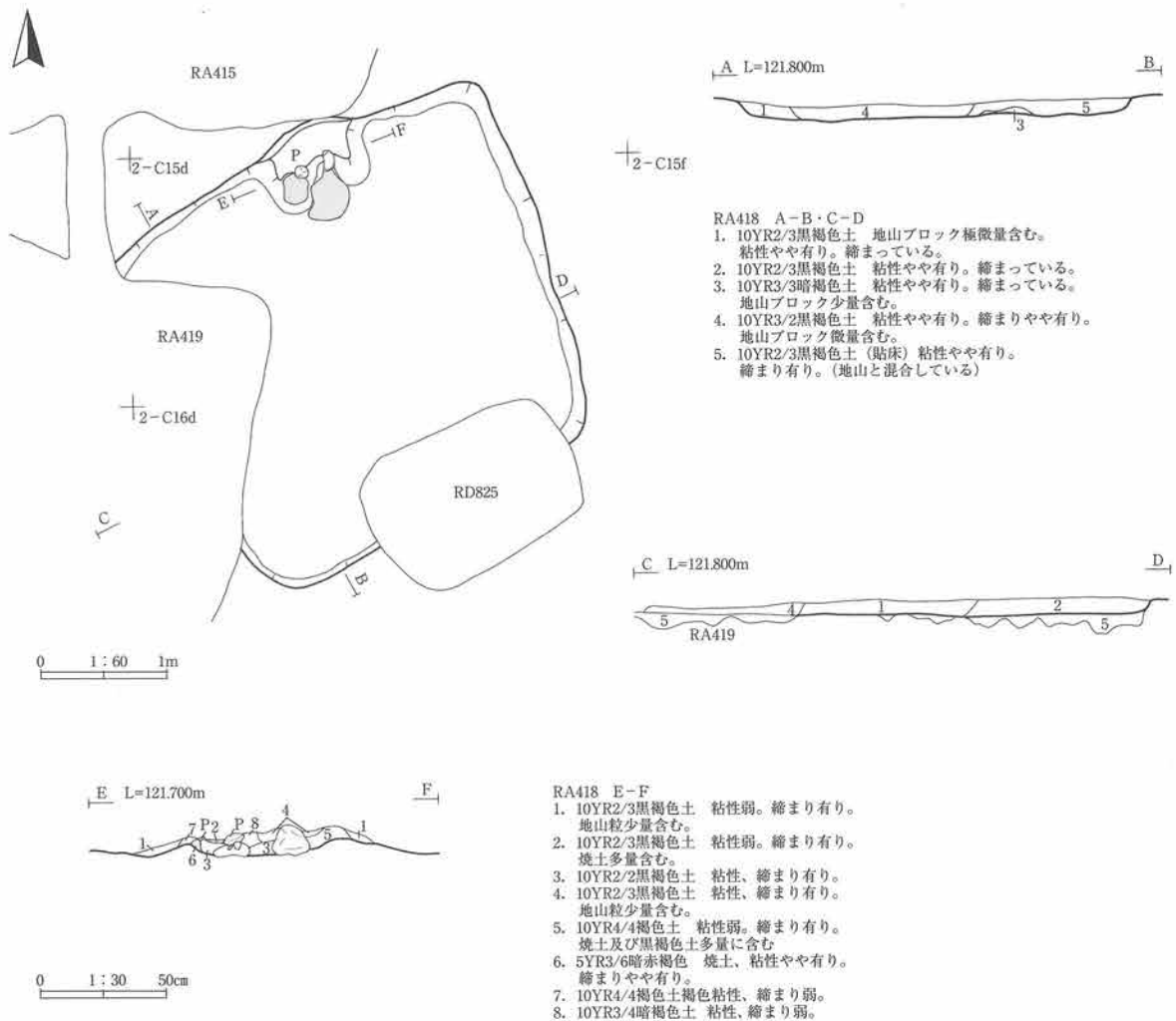
<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。本体部の袖は自然礫を褐色土で覆って作られており、焼き口付近に焼土の広がりを確認した。煙道部はRA415との重複により失われている。

<柱穴>床面及び貼床を除去し探したが検出されなかった。

<遺物>（第153図、写真図版135・165）埋土及び床面等から個体数にして奈良時代の土師器坏2点・甕1~2点・球胴甕（塗彩有り）1点、平安時代の土師器坏1点、赤焼き坏1~2点、須恵器坏1点が出土した。

カマド袖部からは土師器甕30が、埋土からは赤色塗採された球胴甕29が出土した。

<時期>奈良時代。



第29図 RA418竪穴住居跡

RA421竪穴住居跡 (第30図、写真図版20)

<位置・重複関係>遺跡の中では西側になる2-C20mグリッドに位置している。RG325溝跡と重複し本遺構が古い。

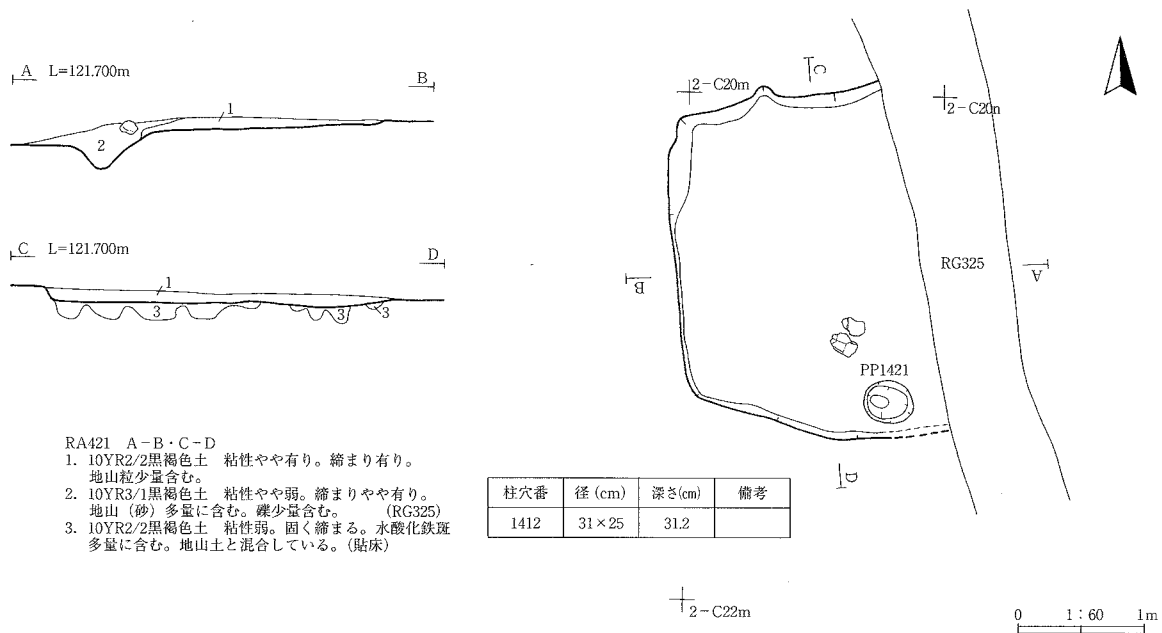
<規模・形態・方向>北壁-南壁が2.7m、東壁はRG325溝跡により失われているが平面形は隅丸方形を呈していたと推測される。

<埋土>黒褐色土の単層。

<壁>遺構検出面から5~14cm程と残りが悪い。壁溝はない。

<床面>平坦で全面を貼床としているが硬く締まるものではない。

<カマド>残存しない東壁に設置されていたか、カマドを持たない住居跡であったと思われる。



第30図 RA421竪穴住居跡

<柱穴>南壁際に1基検出されたが本遺構に伴っているか不明である。

<遺物>埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器坏1点・甕1～3点、平安時代の須恵器坏1点・壺1点が出土している。

<時期>奈良時代。

#### RA438 竪穴住居跡 (第31図、写真図版21)

<位置・重複関係>北西側調査区のはほぼ中央、2-C4jグリッド付近で、RG325溝跡の延長部分と思われる遺構と重複するように位置しており、IV層の下面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は2.9×2.6mで、床面積は約7.5㎡、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われ、軸方向はN-20°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に地山粒と水酸化鉄を含んでいる。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は10～20cm程度であるが、東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床面は中央部分がやや高くなっているが、貼り床は判然としない。遺構全体が削平を受けているため、薄い埋土部分が貼り床部分を形成していた可能性も考えられる。

<カマド>おそらく北側に位置しているものと思われるが、北西～北側部分が近年に構築されたコンクリート用水路によって壊されているため、位置や有無を含めた詳細は不明である。

<柱穴>検出されていない。

<その他>当該竪穴住居跡は、周辺の竪穴住居跡よりも深い位置から検出され、周囲が削平や攪乱を受けていたこともあり、残存状況はよくない。RA439竪穴住居跡の煙道部分と重複しているが、煙道が当該竪穴住居跡を切るように存在していることから、RA439よりも以前のものと思われる。

<出土遺物>床面から、奈良時代の土師器（球胴甕）の一部が出土している。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のものと推定される。

### RA439 竪穴住居跡（第32図、写真図版21）

<位置・重複関係>北西側調査区のほぼ中央、2E13aグリッド付近に独立して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.7mで、床面積は約3.3㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸方向はS-73°-Wを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、下層には地山ブロックを含んでいる。

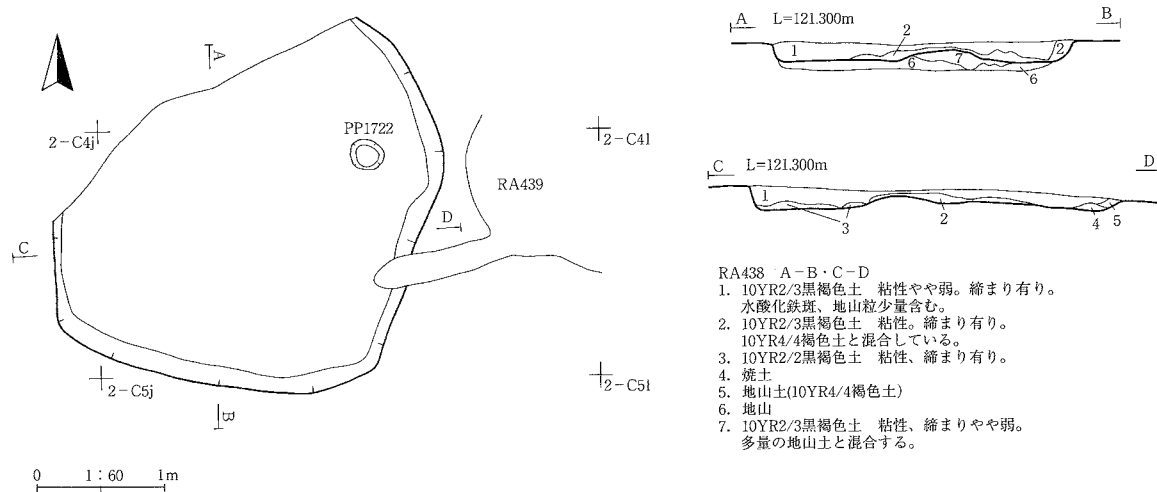
<壁>重複した部分を除いては、底面から緩やかに立ち上がる形状を示しており、壁高は12cm程度である。壁溝は検出されていない。

<床面>ほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。底面には細かい砂質の土壌が分布しており、貼り床は不要であったことも考えられる。

<カマド>南西壁に位置しており、袖と思われる部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は削り抜き式であったと思われる、埋土には焼土と炭化物のブロックが全体に含まれているものの遺構全体が削平を受けているため、構造や形態の詳細は不明である。

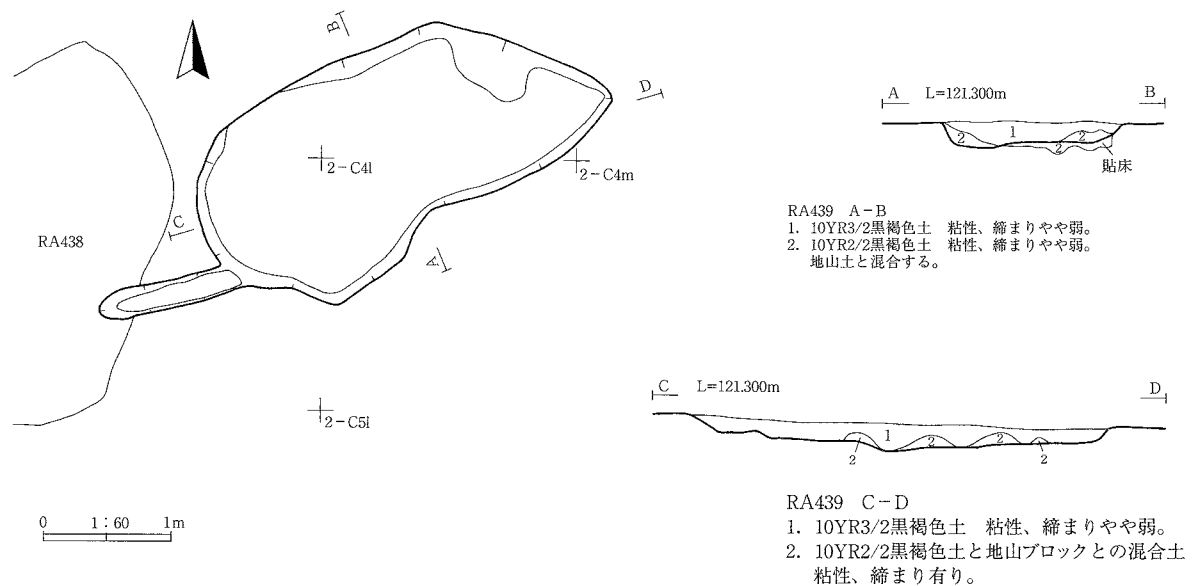
<柱穴>支柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

<その他>奈良時代のRA438竪穴住居跡と煙道部分が重複しているが、切り合った状況から、当該遺構



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1722	38×24	4.6	

第31図 RA438竪穴住居跡



第32図 RA439竪穴住居跡

の方が新しいものと推定される。

<出土遺物> (第153図、写真図版135) 埋土及び床面から個体数にして土師器埴1点 (31)・甕1点が出土した。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のものと推定される。

#### RA441竪穴住居跡 (第33・34図、写真図版22)

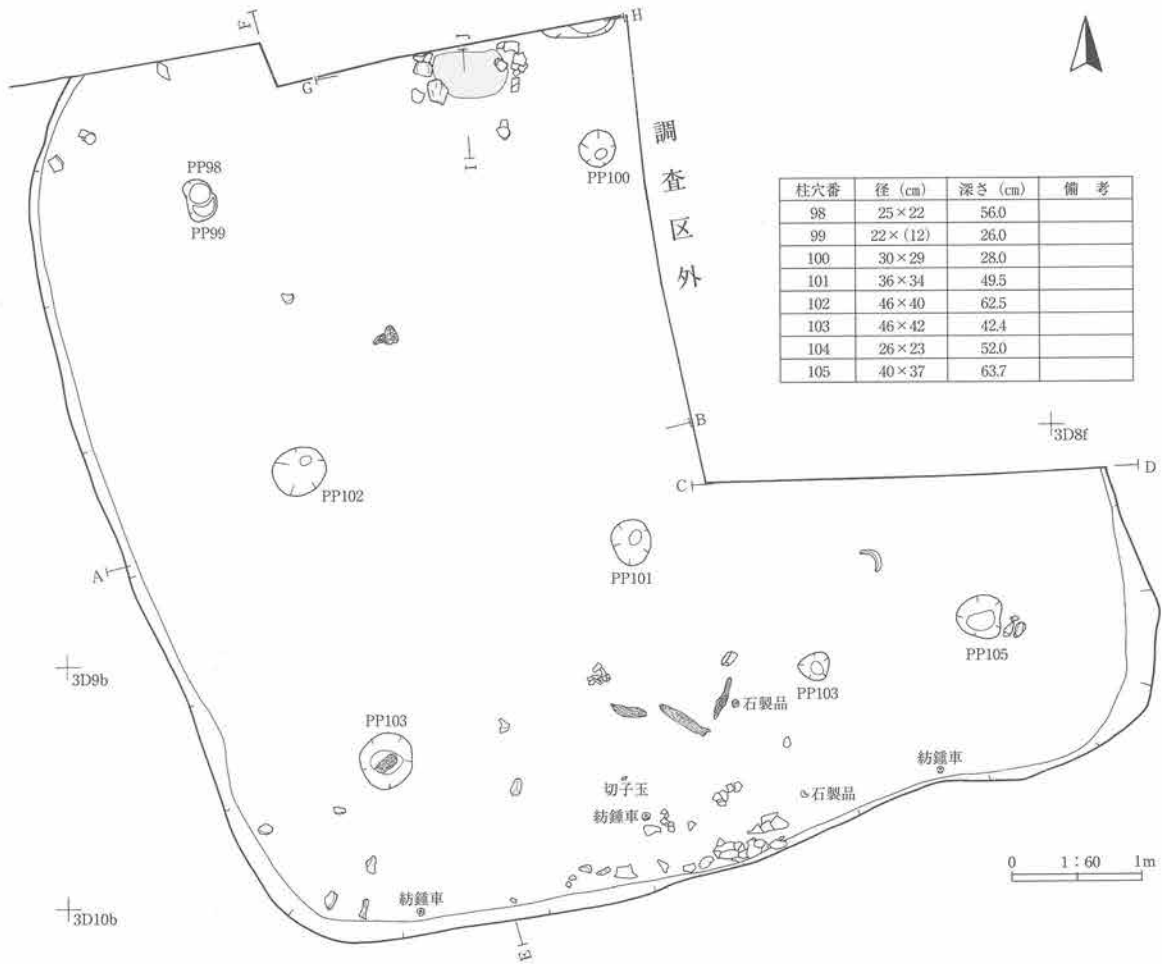
<位置・重複関係>調査区東側の3D区に位置している。検出面はⅢ層である。この地点に入れたトレンチで、表土除去直後にその一部を検出し、後に全体的に表土を除去してプランを確認した。一部調査区外に広がる。なお表土は畑の耕作土であるが、下位に旧水田面があり、この床土に酸化鉄の層が見られる。この面までを表土と捉えた。この地点での層厚は20~30cmである。重複は残存箇所においては観察されない。

<規模・平面形・方向>前述のとおり、一部調査区外に広がるため、北側壁が検出できず、さらに東側壁も北よりの所で調査区外に入っている。よって規模については、残存値からみて東西に7.5mを測り、南北については7.5m以上となるものと思われる。床面積も推定で57.2㎡である。平面形も、全体像が検出できていないので不明であるが、残存箇所から類推するに隅丸の方形で、正方形に近いものとなるのではなかろうか。主軸方向はN-20°-Wと思われる。

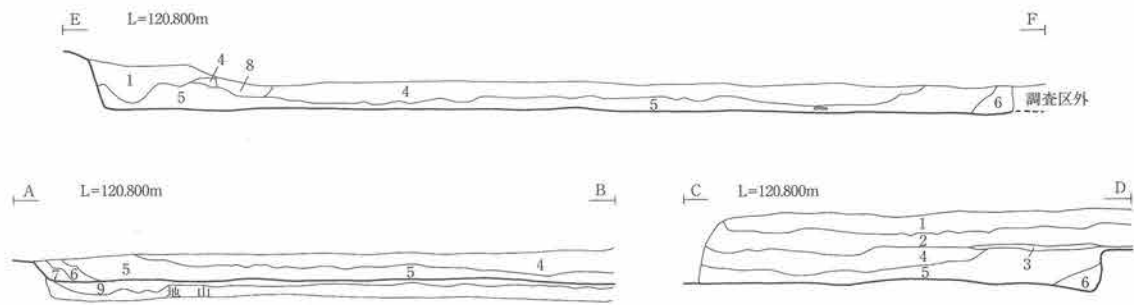
<埋土>周囲に壁の崩落土と思われる堆積が見られる。それ以外は黒褐色土主体に黄褐色土とやや暗い黒褐色土混合する層が2層分かれて堆積しているが、その堆積状況から自然堆積と思われる。

<壁>検出面からの壁高は最大で28cm、最小で11cmを測り、床面から緩やかに立ち上がっている。

<床面>ほぼ平坦であるが、西壁中央付近にわずかに高まりが見られる。また、南西角はややマウンド状になり黒褐色土で堅く締まっており、長めの礫が住居の中心に向いて並行に置かれている。



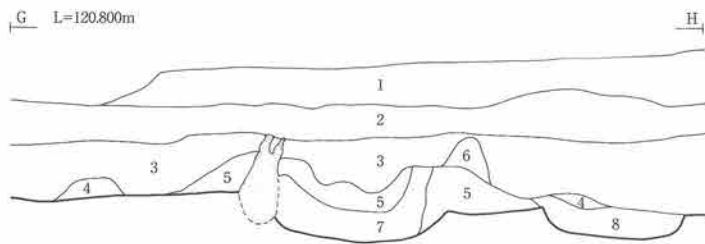
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
98	25×22	56.0	
99	22×(12)	26.0	
100	30×29	28.0	
101	36×34	49.5	
102	46×40	62.5	
103	46×42	42.4	
104	26×23	52.0	
105	40×37	63.7	



1. 表土 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり無し。草木根小石など。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。酸化鉄粒(極小)を全体に含む。(水田の土であろう)
3. 酸化鉄層 水田の底と思われる。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり中。黄褐色土、やや暗い黒褐色土ブロックから構成される混合土。
5. 4層に同じ。但し、酸化鉄の割合が多い。
6. 10YR2/2黒褐色土 7の崩落の後に流れ込んだものと考えられる。

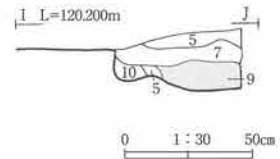
7. 10YR5/6黄褐色土(地山土と思われる)と10YR2/3黒褐色土の混合土(半々ぐらい)壁の崩落土と思われる。
8. 10YR6/4にふい黄褐色土 粘性有り。締まり中。灰?
9. 10YR4/6褐色土(粘土質) 粘性あり、締まり有り。下に酸化鉄を層状に含む。

第33図 RA441 竪穴住居跡(1)



RA441 G-H

1. 表土 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱。縮まりやや疎。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中。縮まりやや密。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性、縮まり中。
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性、縮まり中。
5. 10YR4/4褐色シルト (粘) 粘性やや強。縮まりやや密。  
(カマドの上部が崩落?)
6. 10YR2/2と10YR4/4の混合 粘性、縮まり中。
7. 10YR3/3暗褐色シルト 焼土小ブロックを含む。  
(燃焼部の前庭部?)
8. 10YR4/4に焼土ブロックと暗褐色土を含む。



RA441 I-J

5. 10YR4/4褐色土 粘性やや強。縮まりやや密。  
(カマド上部が崩落?)
7. 10YR3/3暗褐色シルト 焼土ブロック、炭化材を含む。
9. 5YR4/6赤褐色土 粘性、縮まり無し。焼土。
10. 10YR4/6褐色土 粘性やや強。縮まりやや密。  
(地山?)

### 第34図 RA441竪穴住居跡 (2)

貼り床はほぼ全面に行われていたようである。褐色の粘土質の土で、厚いところでは10cmほどあるが、薄いところは殆ど無い箇所もある。

<カマド> 北壁のほぼ中央部に設置している。その本体は調査区外に入り込んでおり、全体を検出できなかったが、袖の一部と燃焼部らしき箇所を検出した。袖部は一部地山を削り出して、芯材と思われる人頭大の垂角礫や土師器片を置いていたらしいが、崩壊が激しく、芯材しか残存していなかった。燃焼部も、カマド上部の崩落土らしいものが観察されたが、調査区内でははっきりと確認することが出来なかった。調査区境に設定した断面観察では、袖部は確認できないが、カマド上部の崩落土は観察できている。

燃焼部は住居床面に焼土の広がりを確認した。規模は幅60cm、奥行き40cmの不整円形で、焼土の厚さは最大で10cm程である。なお、この焼土上面は住居床面より5cmほど下位になっており、その上位には炭化材混じりの暗褐色土が5～10cm堆積している。煙道部も、調査区外に延びており、精査できなかった。

<柱穴> 7基検出したが、西側壁に並行して4基 (PP98・99、102、103)、東南角に1基 (PP105)、カマド軸線上の中央よりやや南側の1基 (PP101) が主柱穴と思われる。

<Pit> カマド右 (東側) に窪み部分を検出したがその大半は調査区外になり、はっきりした土坑になるかどうか不明である。

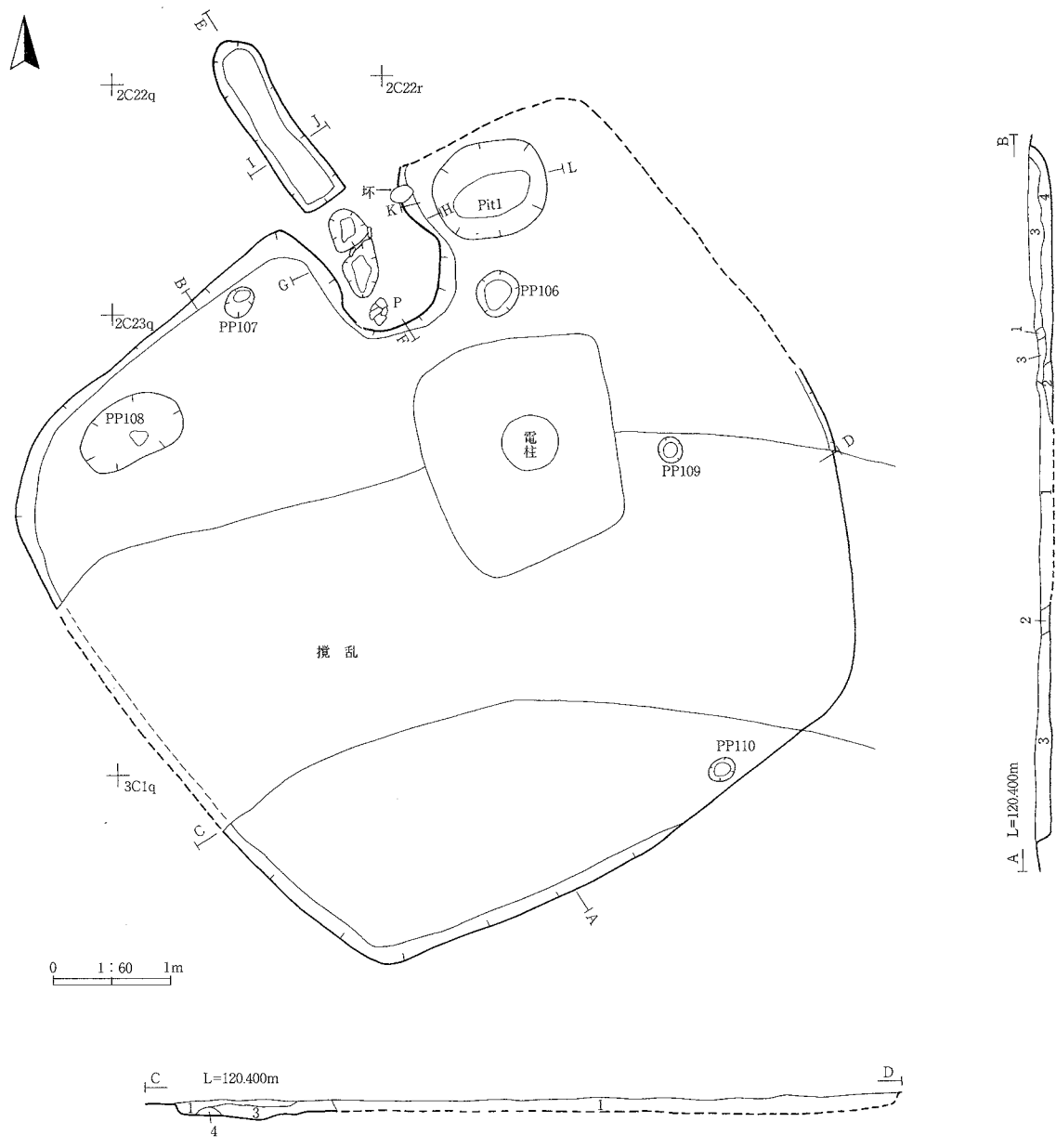
<その他> 床面下中央部には酸化鉄の層が発達しており、中には植物に付着したと思われる空洞状で鉄製品と間違えられるようなものが多く見受けられた。

<出土遺物> (図版153・154・197図、写真図版135・136・165・180) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏5点・甕2～3点・壺1点・球胴甕3～4点、土製紡錘車3点、切子玉1点、玉1点、粘土塊1点が出土した。

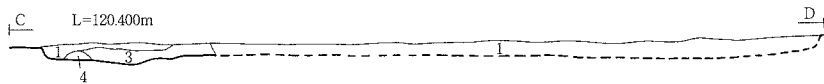
カマド周囲と南壁際からまとめて土師器、さらにその内側で、土製紡錘車 (496～498)、切子玉 (486・487) (穿孔部にガラス玉装着)、抉状石製品 (所在不明)、土師器甕 (40・41) が一定のラインの中から出土している。何れも床面直上での出土であった。33土師器坏はカマド袖部から、37壺は北西壁際から破片の状態、39甕は南壁際に横倒しに潰れた状態で出土している。

<時期> 出土した土師器の形態より奈良時代と思われる。





0 1:60 1m

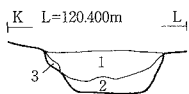


RA442 A-B

1. 10YR4/1褐灰色土 粘性有り。締まり中。暗渠か？酸化物、木片、礫、炭を多く含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色土 粘性有り。締まり中。1の周辺に有り。砂、酸化物を含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや粗。黄褐色土を全体に斑に含む。
4. 10YR4/6褐色土 粘性有り。締まり中。暗褐色土、酸化鉄を少量含む。

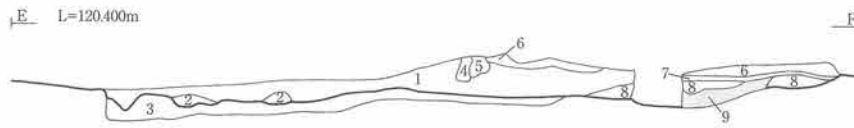
RA442 C-D・K-L

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや粗。焼土粒、炭化物を少量含む。黄褐色土を斑状に含む。
2. 10YR4/6褐色土 粘性有り。締まりやや粗。黒褐色土をブロック状に含む。
3. 掘りすぎ(地山)



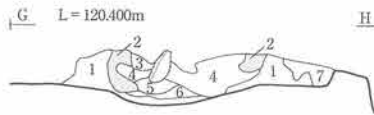
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
106	39×37	27.8	
107	38×19	17.5	
108	93×54	27.0	
109	22×20	24.5	
110	23×19	16.2	

第35図 RA442竪穴住居跡(1)



RA442 E-F

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱。締まりやや疎。<br/>黄褐色土を小ブロック状に含む。炭化物少量含む。<br/>焼土粒極少量含む。</li> <li>2. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱。締まりやや疎。</li> <li>3. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性やや有り。締まり中。</li> <li>4. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性やや有り。締まり強。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 10YR3/2黒褐色シルト 1と同じだがブロック状に見える。</li> <li>6. 10YR4/3にぶい黄褐色土 混じった土である。</li> <li>7. 10YR2/3黒褐色土 炭化物を多く含む為黒く見える。<br/>焼土ブロックも多い。粘性弱。締まり中。やや砂質。</li> <li>9. 5YR4/6赤褐色土 焼土 粘性、締まり無し。</li> </ol> |
|--|---|



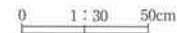
RA442 G-H

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10YR4/4褐色土 砂質 粘性弱。締まり中。<br/>(袖部?)</li> <li>2. 5YR3/6暗赤褐色土 粘性無し。締まり中。焼土。</li> <li>3. 10YR4/4褐色土に焼土ブロック混入<br/>(カマド上位の土?)</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 10YR2/3黒褐色土に焼土ブロック、炭化物混入<br/>粘性弱。締まりやや疎。</li> <li>5. 10YR4/4褐色土 やや砂質 粘性弱。締まり中。</li> <li>6. 5と同じやや黒っぽい。</li> <li>7. 10YR4/4褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合<br/>粘性、締まり中。(住居の焼土?)</li> </ol> |
|---|--|



RA442 I-J

1. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱。締まりやや疎。



第36図 RA442竪穴住居跡 (2)

RA442 竪穴住居跡 (第35・36図、写真図版23)

<位置・重複関係>調査区東側の2C区南寄りに位置し、23次調査区に隣接する。現況は現用道路およびその法面となっているので、これを切り替えて検出作業を行った。また現用道路端に電柱があり、この撤去はかなり困難なため、電柱を残したまま周囲を検出することとした。プランは23次の調査区で、煙道の一部を確認していたため、それに続く住居本体の検出を行った。その結果、IV層中に褐色土と黒褐色土の混合する広がりを確認し、これをもって住居跡と認定したが、道路建設以前に、すでに上部をかなり削平されている模様であった。また、住居プランの中央に、幅2m強の攪乱が東西に横切っている。他に重複はない。

<規模・平面形・方向>住居中央に攪乱が走り、また東壁のほとんどは調査区外、及び上部削平につき検出できなかったが、残存値で計測すると、東西に6.2mを測り、南北には6.0mを測るものと思われ、隅丸の正方形に近いものとなる。床面積は推定33.6㎡を下らない。主軸方向はN-32°-Wとなる。

<埋土>攪乱のため住居中央部の埋土は確認できないが、壁寄りには黒褐色土と黄褐色土が斑に混在して堆積している。中央の攪乱部分はグライ化した層であり、ここからは杭の残骸や礫、ガラス片、プラスチック片等が入り込んでいた。住居部分は残存部が浅いため、人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

<壁>残存個所の最高値で12cmであるがほとんどは10cm以下である。緩やかに立ち上がっているように見受けられる。

<床面>平坦であり、やや堅く締まる。褐色の砂質土を床面としており、特に貼床は確認されなかった。

<カマド>北壁のほぼ中央に設置されている。残存状況はよくない。燃烧部の上に覆い被さるように黄褐色土の薄い層があり、カマドを覆っていた土のようである。袖部は手の平大の円礫が一個残るだけで、他に袖部の痕跡は黄褐色の土が僅かにマウンド状に散乱しているだけである。右袖部付け根と燃烧部手前にまとまって土師器片（坏）が表れていた。燃烧部の焼土は層厚最大で6cm、径30cm程に広がっていた模様であるが、平面では部分的にしか残っていない。一部煙道部にも広がっている。煙道部はすでに上部を削平されていたが、長さ1.5mを測り、燃烧部から緩やかな下り勾配で煙り出し部に続いている。煙り出し部は幅30cmほど（底部径）で深さは残存値で12cmである。外傾して立ち上がり、途中から垂直に立ち上がる。刳り貫き式か、掘り込み式かの判断は付かない状況であったが、燃烧部境の様子から見ると刳り貫き式の可能性が高い。

<柱穴>5基検出したが、この住居に伴うものという確証はなく、上位からの掘り込みの可能性もある。

<Pit>カマド右袖部の脇に径100×86cm、深さ36cmの楕円形のPitを検出した。この埋土上位から土師器が出土している。

<その他>住居中央部を斜めに横切る攪乱は、水路跡らしい。最近まで機能していたらしく、ガラス片等が出土しているが、掘られた時期については不明である。

<出土遺物>（図版155・196図、写真図版136・137・165・182）埋土及び床面から個体数にして土師器坏5～6点・甕3点・球胴甕1～2点、自然石1点、寛永通寶1点（478）、近代の染付皿1点が出土している。

土師器は何れもカマド周辺からの出土である。45土師器坏は北側の袖から伏せた状態で、51土師器甕は南側の袖から潰れた状態で出土している。

<時期>出土遺物より、奈良時代に比定される。

#### R A 4 4 4 竪穴住居跡（第37図、写真図版24）

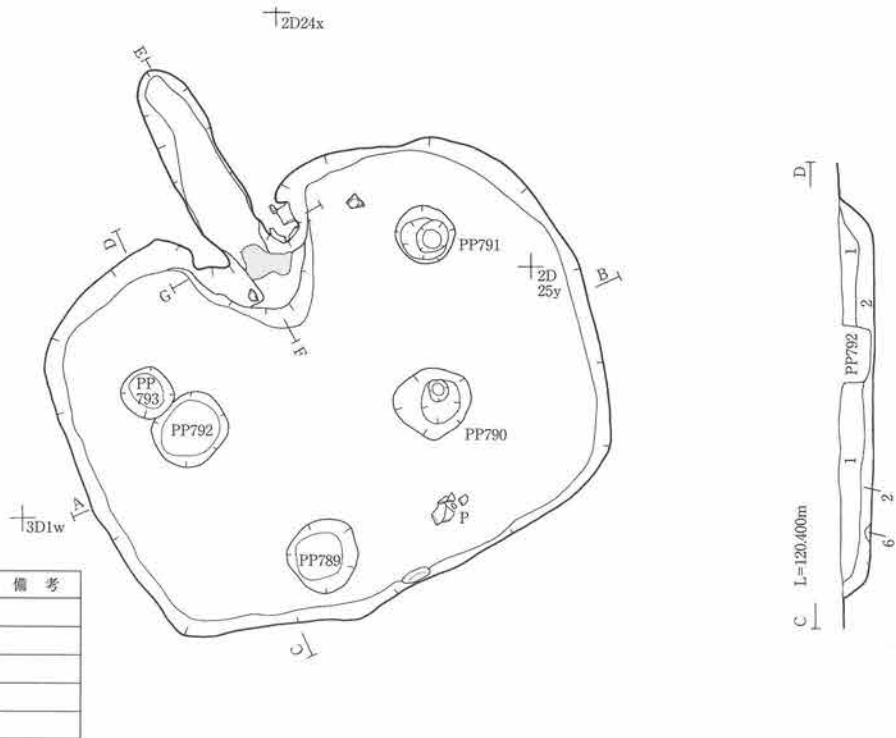
<位置・重複関係>調査区東側の2D区南東隅で、一部3D区にかかる。周囲には南隣にR A 445、西隣にR A 446、南東隣りにR A 448、北東隣にはR A 451があり重複することなく一定間隔をもって建っていたらしい。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。現況は畑地と一部現用道路であった。耕作土を除去し、現地表面より3～40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。本遺構の中央部辺に一辺が1m前後の方形のR D 956土坑を検出した。断面はビーカー状。埋土は単層で、粘土質の灰色と褐色土の混在したものである。出土遺物は無く時期は不明であるが、本遺構を検出した時点でその埋土にプランが表れていたためか本遺構より後世のものであると思われる。

<規模・平面形・方向>東西に4m、南北に3.2mを測り、やや横長の隅丸方形をなすが、各辺とも僅かに弧状に膨らみをもっている。床面積は10.5㎡である。主軸方向はN-28°-Wである。

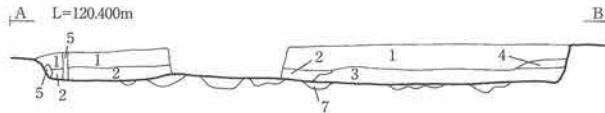
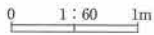
<埋土>上位を耕作により削平された可能性があり、埋土は完全に残存しているとは思われないが、残存する部分では、大きくは2層に分けられる。全体的に暗褐色土主体に褐色土と、黄褐色土がブロック状に混在しており、人為堆積の様に思われるが確証は無い。

<壁>壁そのものは直立するが、床との接地面で湾曲する。壁高は最大で30cmを測る箇所があるが、殆どは20cm前後で回っている。

<床面>平坦であるが、堅く締まるというほどではない。一部に貼り床らしきものが観察されたが、全面に行われているかどうかは確認できなかった。貼り床は、黄褐色土混じりの土が使われており、一部住居の埋



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
789	58×56	36.8	
790	61×55	43.6	
791	45×43	28.3	
792	60×51	31.6	
793	37×37	9.3	

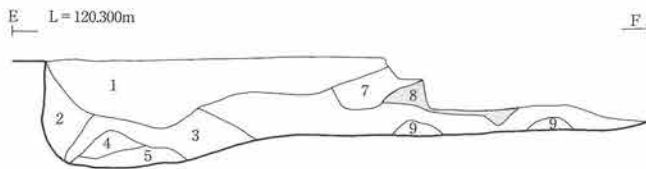


RA444 A-B・C-D

- 10YR3/2黒褐色土 粘性中。締まりやや疎。黄褐色土ブロックを含む。
- 10YR2/3黒褐色土と10YR4/6褐色土がブロック状に混在。

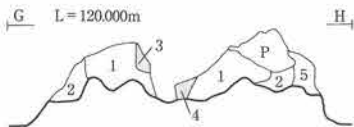
- 1と同じだが黄褐色土ブロックの含有率が多い。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや疎。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱。締まり疎。

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まり中。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性弱。締まり有り。地山粒多量含む。



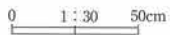
RA444 E-F

- 10YR3-3暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性中。締まり中。
- 7.5YR3/3暗褐色土 粘性中。締まりやや疎。1, 2より赤みを帯びている。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
- 10YR4/4褐色土 粘性中。締まりやや疎。炭化物径1~2cm含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。1より褐色土の混入が多い。焼土粒、炭を少し含む。
- 10YR4/6褐色土 粘性やや弱。締まりやや密。焼土粒、炭を含む。カマドからの流れ込み？
- 10YR4/6褐色土に5YR3/6暗赤褐色の焼土を多量に含む。粘性弱。締まり中。骨片含む。
- 7.5YR3/4暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。焼土粒が混在しているためか10YRより赤っぽく見える。



RA444 G-Hカマド

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
- 10YR4/6褐色土と5/6黄褐色土との混合 粘性、締まり中。
- 10YR褐色土 粘性やや弱。締まりやや密。焼土粒、炭を含む。(横道断面7と同じ?)
- 10YR4/6褐色土 粘性弱。締まり中。焼土粒、骨片含む。(横道断面8と同じか)
- 10YR4/6褐色土 粘性、締まり中。



第37図 RA444 竪穴住居跡

土と酷似するものである。

埋土の一定レベルの箇所ですとまって土師器の出土を見たが、もしかするとこのレベルが床面であった可能性もある。そう考えると、住居埋土と貼り床の土が酷似するという事も在る程度信憑性をもつが、柱穴の検出が土師器出土面より若干下がることを考えると、床面の位置は流動性をもつ。

<カマド>北壁のほぼ中央部に設置している。崩落と上部削平により、全体像は不明であるが、残存部位からその一部を知ることが出来る。右袖部には土師器、左袖部には人頭大の円礫を芯材として使っていたらしく、検出した時点で、これらが露出していた。燃烧部は径40cmほどの広がりがあったらしいが、残りは悪い。焼土層は断面に層厚最大で10cm弱観察されたが、汚れており、骨片や炭化物混じりの土が混在している。煙道部は、検出した時点で煙出し部ともにそのプランが表れていた。長さ1.1mを測り、緩やかな下り勾配で煙り出し部へと続いている。上部が削平されており、削り貫き式であったか掘り込み式であったか不明である。煙り出し部は、幅20cm（底部径）、深さは残存値で40cm、ほぼ垂直に立ち上がっている。

<柱穴>5基検出した。カマド袖脇からやや離れた箇所に3基、住居中央部からやや南東寄りに1基、住居の軸線から西よりの南壁付近に1基で在るが、カマド袖脇の p p 793は掘り込みが浅く、主柱穴となりうるかどうか不明である。他の4基は25~40cmの深さをもっている。配置に定形性はないが本住居に伴うものと思われる。

<出土遺物>（図版156・198図、写真図版137・138・184）埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点・甕4点・小型土器1点・平安時代のような甕1点、砥石1点（510）、近世陶器皿もしくは鉢1片が出土している。

55~58の土師器甕はカマド袖部からの出土であるが、一部煙道部から出土した破片と接合している。他に埋土中から砥石、手捏ねの小型土器520が出土している。

<時期>出土遺物から奈良時代に比定される。

#### R A 4 4 5 竪穴住居跡（第38図、写真図版25）

<位置・重複関係> 調査区東側の2D区東端に位置する。北隣りにR A 444、北西隣りにはR A 446、西隣りにはR A 448が、やや離れて西側にR A 449がある。検出面はⅢ層下位からⅣ層上位である。現況は畑地であり、耕作土を除去後、現地表面から3~40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。重複関係はない。

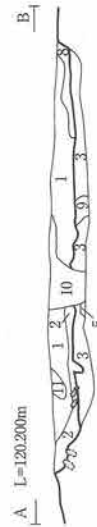
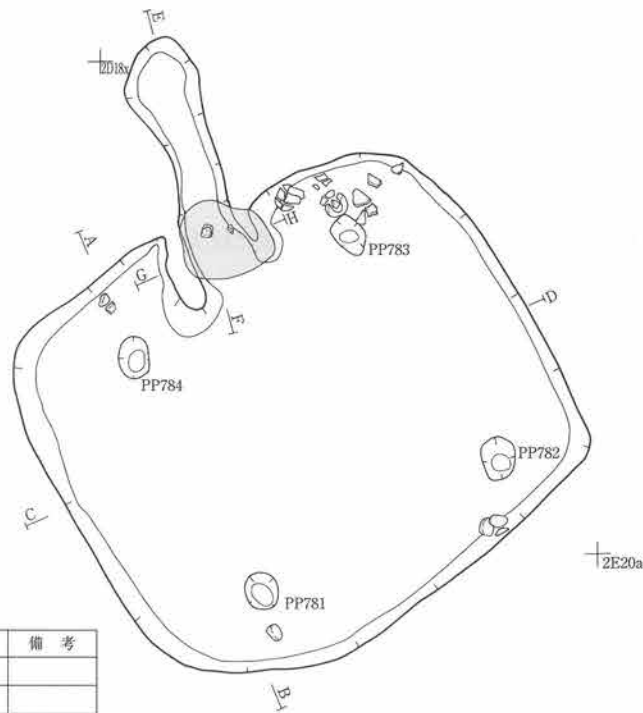
<規模・平面形・方向>東西に3.8m、南北に3.4mを測る。平面形は東西方向にやや長い隅丸方形を呈すし、床面積は11.1㎡である。主軸方向はN-28°-Wでこの周辺の住居跡とほぼ同方向である。

<埋土>本遺構の埋土は暗褐色土及び黒褐色土を主体とする。従ってベルト断面図の3層はすでに床をさらに下げってしまった状態である。従って3層は貼り床と見なすことが出来る。4層や11層は褐色土を主体とする、本来は地山に近いものであり、これらが埋土上位に入っているということから、人為堆積の可能性があるが、最上層の1層はレンズ状に堆積しているため、在る程度人手により埋められた後の窪地が、自然堆積により埋まりきったものと考えたい。

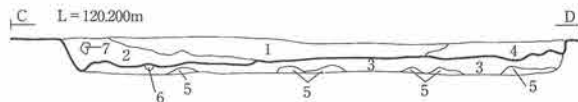
<壁>床面は下げられすぎており、前述のように3層上面を床面とすると、検出面からの壁高は最大で14cmを測り、やや外傾気味に直立する。

<床面>精査時に床面を下げすぎてしまったため、ベルト部分にしか残っていないが、ほぼ平坦であったと思われる。全面に褐色の砂質土で10cm前後の貼り床が行われていたようである。

<カマド>北壁のほぼ中央部に設置している。残存状況は決して良くなく、カマドの範囲がおおよそ把握で



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
781	29×26	50.5	
782	35×26	42.9	
783	35×22	59.2	
784	32×25	43.1	

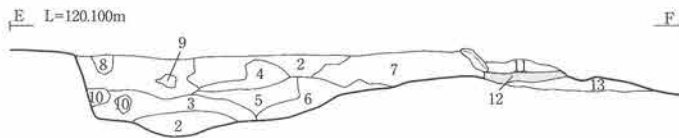


RA445 A-B・C-D

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり中。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり中。
3. 10YR4/4褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。黒褐色土をモヤッと含む砂質。

4. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性。締まり中。
5. 10YR4/6褐色砂質シルト 粘性無し。締まり疎。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性弱。締まり中。
7. 10YR4/6褐色砂質シルト 粘性無し。締まり疎。乾くと5層より固い。

8. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり中。
9. 10YR3/4暗褐色土 粘性。締まり中。
10. 10YR3/3暗褐色土 粘性。締まり中。(溝跡)
11. 10YR4/4褐色土 粘性やや弱。締まり中。砂質。

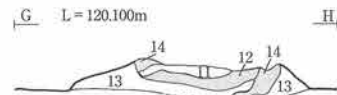


0 1:30 50cm

RA445 E-F・G-H

1. 7.5YR3/2黒褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
2. 10YR4/4褐色土 粘性中。締まりやや疎。黒褐色土をモヤッと含む。
3. 7.5YR3/3暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
4. 10YR3/4暗褐色土 粘性弱。締まり疎。
5. 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まり疎。
6. 7.5YR4/4褐色土 粘性弱。締まりやや疎。

7. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性中。締まりやや疎。焼土粒、骨片を含む。
8. 10YR3/4暗褐色土 粘性中。締まり疎。
9. 10YR3/3暗褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合。粘性中。締まりやや疎。
10. 10YR5/6黄褐色砂質シルト 粘性弱。締まり疎。
11. 10YR3/4暗褐色土 粘性。締まりやや有り。焼土含む。



12. 5YR3/6暗赤褐色焼土 粘性弱。締まりやや有り。
13. 10YR4/6褐色砂質土 粘性弱。締まっている。
14. 5YR3/6暗赤褐色焼土 黒褐色土との混土。粘性。締まりやや有り。  
※7.5YRのもの焼土粒極少に含有の為か赤っぽく見える。

第38図 RA445竪穴住居跡

きる程度である。焼土範囲が74×68cmの隅丸形状に広がっており、此処が燃焼部跡と思われる。焼土は暗赤褐色であり焼土周辺は黒褐色土が混じり込んでいる。層厚は最大で5cm程形成されている。袖部は一部地山を削り出して作られている。芯材は特に残存しないが、袖部周囲で、垂円礫を多数検出しており、これらが構成材だった可能性は高いと思われる。煙道部は、長さ1.3mを測り、燃焼部から煙り出し部に向けて下り勾配の構造になっている。埋土の1、3、5、7層は焼土粒を微量に含む層であるため、周囲に比し赤みが強く見える。此処の部分が当時の煙道であったと思われる。とすれば煙道上位はすでに削平されており、削り貫き式か掘り込み式かの判別はつかない。煙り出し部は幅40cm程（底部径）、深さは残存値で30cmを測り、やや住居外に向けて外傾して立ち上がる。

<柱穴>住居の四隅から若干内側に入った箇所それぞれ1基ずつ、計4基検出した。何れも4～50cm程度の深さをもつ。配置、規模等からみてこれらは支柱穴と思われる。

<出土遺物>（第157図、写真図版138～140・166）埋土及び床面から土師器坏1点・甕4～5点・球胴甕1点・小型土器1点が出土したほか河原石が少量確認された。カマド右袖部周辺から土師器の坏、甕（56・57）、球胴甕（63・65）の破片であるがまとめて出土している。

<時期>出土遺物より奈良時代に比定される。

#### R A 4 4 6 竪穴住居跡（第39図、写真図版26）

<位置・重複関係>調査区東側の2D区やや東南よりに位置する。周囲には南隣りにR A 444、451、東南隣りにR A 445、448、南西隣りにR A 449がある。また西側には沢跡が北東から南西に蛇行して走っている。現代のゴミ坑と思しきものに、東南隅を壊されている。現況は畑地と一部現用道路であり、この耕作土、及び盛土、所謂表土を除去した時点で現地表から3～40cm下位で焼土の広がりを検出し、さらに暗褐色土の広がりを検出した。層位はⅢ層下位からⅣ層上位である。

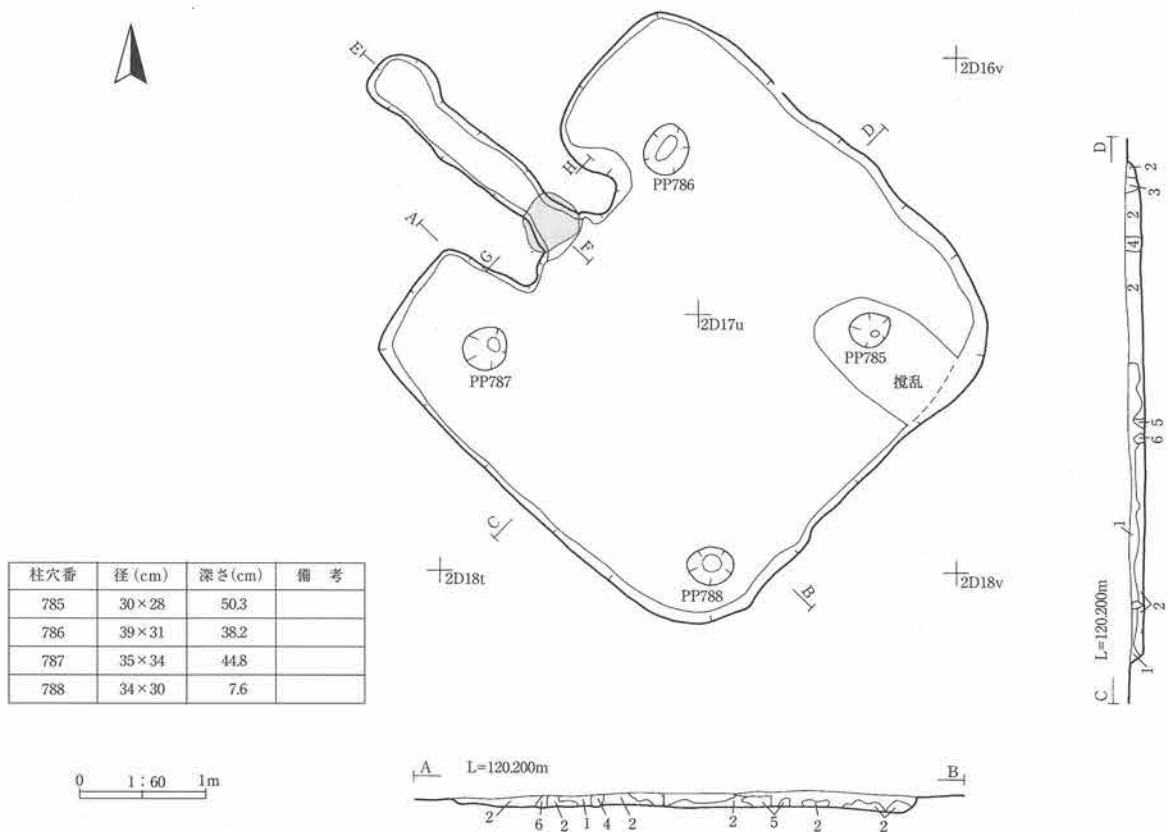
<規模・平面形・方向> 3.6×3.6mの隅丸方形を呈する。床面積は11.4㎡である。主軸方向はN-48°-Wである。

<埋土>本遺構検出時に、すでにカマド燃焼部焼土が露出しており、上部が深く削平されていることが考えられる。このことを考慮して観察すると、残存するベルトは埋土下位ということになる。埋土は暗褐色土の上に黒褐色土が堆積しているが、かなり煩雑に入り組んでおり、少なくともこれら埋土下位については人為堆積の可能性がある。

<壁>検出面からの壁高は最高でも13cmで、殆どが10cmに満たない数値で回っており、床面から緩く外反気味に立ち上がる。

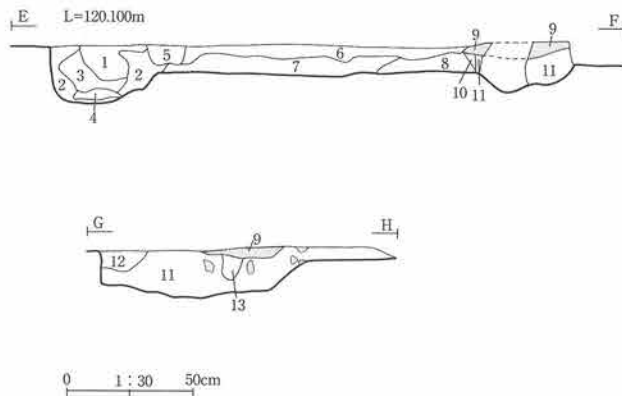
<床面>床面としての一定の締まり、堅さを確認できず埋土との境がはっきりしなかったため、床面を検出するのに手間取ったが、土器片がまとめて出土した地点を床面レベルと認定した。平坦である。

<カマド>北西壁の中央に設置している。すでに検出時に燃焼部焼土は露出しており、カマド本体の天井部は残存していなかった。燃焼部の焼土範囲は50×40cmに広がり、焼土層は最高で6cmを測る。袖部も殆ど残存せず、かろうじて褐色土の散乱する範囲を袖部と認定したのみである。煙道部は、長さ1.3mを測り、燃焼部からほぼ水平に延び、煙り出し部で急勾配に下がる。煙り出し部は径35cm前後の円形（底部）であったらしく、深さは残存値で24cmほどで、垂直に立ち上がる。燃焼部に近い箇所には、燃焼部に見られた骨片類も混在している。すでに上部が削平されており、削り貫き式であったか、掘り込み式であったかは不明である。



RA446 A-B・C-D

1. 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まりやや疎。砂少量含む。
2. 10YR3/4暗褐色土 粘性中。締まりやや密。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり中。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや密。木根。
5. 10YR4/6褐色砂質シルト 粘性弱。締まりやや疎。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり中。



RA446 E-F・G-H

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや強。締まりやや疎。
2. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや疎。
4. 10YR1.71黒色土 粘性弱。締まり疎。底部の焼土層を形成。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり中。
6. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性、締まり中。明るい黄褐色土を含む。
7. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性、締まり中。明るい黄褐色土を含まない。
8. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。燃焼部にある骨片粒と混在する。
9. 5YR4/6赤褐色土 粘性弱。締まりやや疎。(焼土)
10. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。
11. 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まり疎。黒褐色土を含まない。
12. 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まり中。黒褐色土をモヤッと含む。
13. 5YR3/6赤褐色土 粘性弱。締まりやや疎。黒褐色土と混在。

第39図 RA446竪穴住居跡



<柱穴> 4基検出した。何れも住居のコーナーに近いところである。PP788は掘り込みが浅いが、その配置から主柱穴となりうると思われる。PP785は攪乱の底部にその痕跡を残していた。

<出土遺物> なし。

<時期> 検出状況から、及び周囲の隣接する住居跡と比し、奈良時代と思われる。

#### R A 4 4 7 竪穴住居跡 (第40・41図、写真図版27・28)

<位置・重複関係> 本遺跡東部となる調査区東側、3D区東端に位置し、一部は3E区にもかかる。北に隣接してR A 458、さらに西北西にR A 457がある。現況は畑地で、耕作土を除去したあと現地表から3～40cm下位で黒褐色土の細い溝状の方形プランと暗褐色土の広がりを検出した。検出面はⅢ層下位からⅣ層上位である。(埋土に黒褐色土の壁溝のプランが出ているという事は、この住居が廃絶され、埋まり始めた後も壁溝に構築物が存在していたことを示している。またこの壁溝の埋土は溝だけにとどまらず、一部壁溝から住居内部にも広がっており、この上に住居の埋土が重なっていた。)

<規模・平面形・方向> 東西に最大で5.5m、南北に最大で5mを測り、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は24.4㎡、主軸方向はN-10°-Wである。

<埋土> 自然堆積で黒褐色土を主体とし、その中に褐色土や炭粒等を含んでいる。

<壁> 遺構検出面からは20～14cm程が残存している。ほぼ全域に壁溝を巡らせている。

<床面> Ⅳ層の褐色土を掘り込んで床面としている。概ね平坦であるが硬く締まるものではない。

<カマド> 北西壁の中央に設置されている。天井部は崩落して残っていないが、側壁の状況から地山をそのまま使って本体部を構築しているようである。燃焼部付近には58×25cm位の範囲に焼土の広がりを確認し、その中に支脚に用いられたと見られる自然礫2点を検出した。煙道部はトンネル式で燃焼部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられ、煙出しへ垂直気味に立ち上がっている。

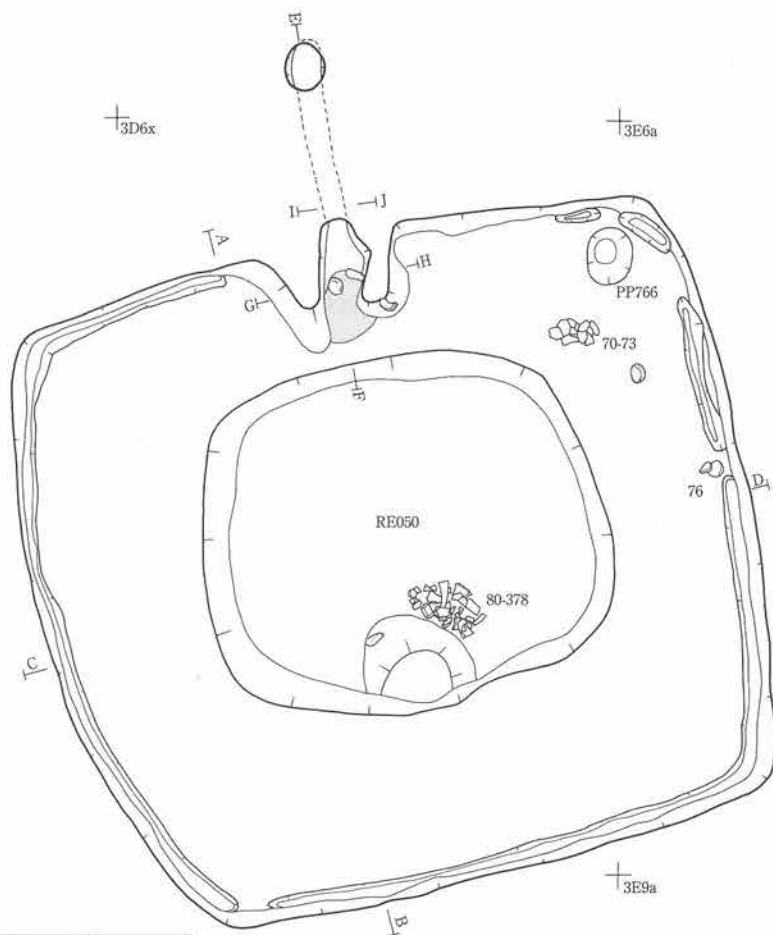
<柱穴> 北壁コーナーに1基検出された。床面から若干下げて再度柱穴を探したがほかに見られなかった。

<その他> 本住居跡の床面、ややカマドに近い場所に315×285cm程の平面形が隅丸長方形を呈する掘り込みを確認した(R E 050)。深さは床面から約35cmを測り、その底面は平坦で南東壁のほぼ中央に階段状の段が地山を掘り残して構築されていた。何かを収納するスペースと考えられ、床の面には板のようなものを敷いて蓋をしていたと推測される。

<遺物> (第158・197図、写真図版139・140・166・180) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏9～10・坏大型1～2点・長胴甕4～5点・球胴甕2～3点・高坏1点・壺1点、土製紡錘車1点(499)・勾玉2点(489・490)が出土している。

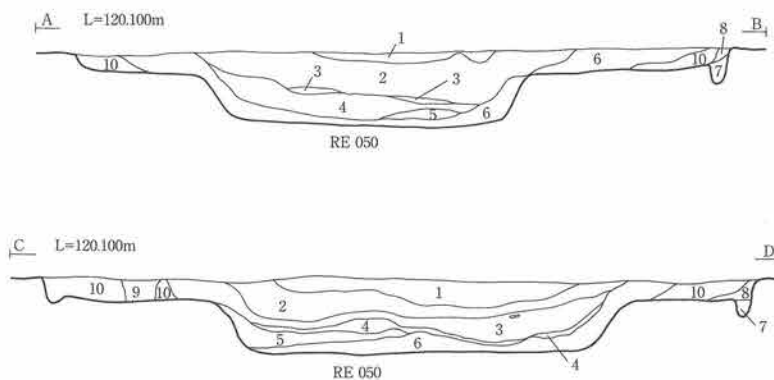
70・73土師器坏は北東壁近くの床面から上向きで並んだ状態で出土した。76土師器壺は東壁際の床面で倒れた状態で出土している。土師器球胴甕80・378はR E 050とした掘り込みの埋土中位から投げ込まれたような状態で見つかった。

<時期> 奈良時代。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1766	55×53	47.9	

0 1:60 1m



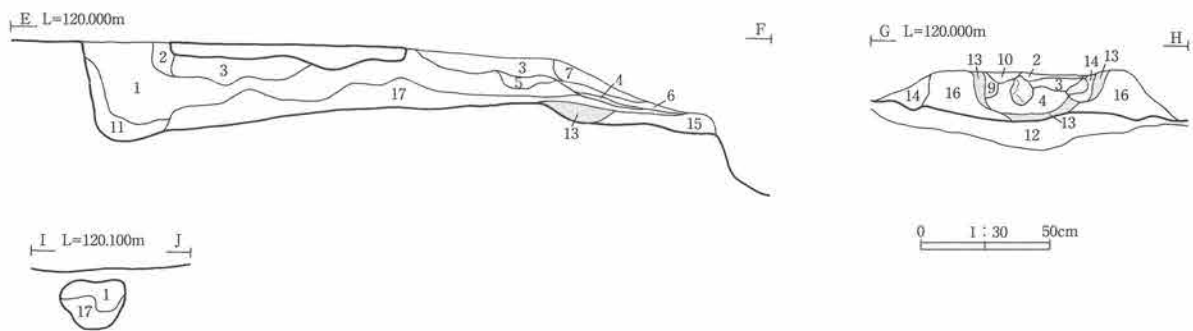
RA447 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。地山ブロック多量含む。水酸化鉄斑少量含む。
2. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まり有り。水酸化鉄斑多く含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック (10YR4/4褐色土) 10YR2/2黒褐色土との混合土 粘性、締まり有り。水酸化鉄斑、炭含む。

4. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まり有り。炭少量含む。水酸化鉄斑含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 10YR3/3暗褐色土 地山粒との混合土 粘性、締まり有り。
6. 10YR2/1黒色土 地山ブロック 10YR2/3黒褐色土との混合土 水酸化鉄斑多く見える。(層状に)

7. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
8. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック多く含む。粘性やや有り。締まり有り。
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。水酸化鉄含む。(溝) 攪乱?
10. 地山 (10YR2/3黒褐色土少量含む)

第40図 RA447竪穴住居跡 (1)



RA447 E-F・G-H・I-J

- 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。
- 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。地山ブロック多量含む。
- 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。
- 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり弱。炭、焼土粒含む。

- 5. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや強。締まり弱。(カマド天井部?)
- 6. 炭化物
- 7. 10YR4/4褐色土 10YR2/3黒褐色土が混合している粘性弱。やや締まり有り。(カマド天井部?)
- 8. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まりやや弱。炭、焼土粒多量含む。
- 9. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
- 10. 10YR4/6褐色土 粘性、締まり弱。(カマド天井部?)

- 11. 地山土 10YR2/1黒色土 (上層に) 多量混合する粘性有り。締まり弱。
- 12. 地山土
- 13. 5YR4/6赤褐色土 (焼土)
- 14. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり弱。多量の地山ブロック含む。
- 15. 10YR4/4褐色土 (地山) 粘性弱。締まり有り。炭多量含む。
- 16. 地山土 10YR3/4暗褐色土多量含む。粘性、締まりやや有り。
- 17. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり弱。地山ブロック多量含む。

第41図 RA447竪穴住居跡 (2)

#### RA448 竪穴住居跡 (第42図、写真図版29)

<位置・重複関係>調査区東側、2E区西端に位置し、西隣りにRA445、北西隣りにRA444、北隣りにRA451があり、東側は調査区外となっている。本遺構の東コーナー部分は、調査区外に僅かに入り込んでいる。現況は畑地であり、耕作土を除去し現地表面から2~30cm下位で暗褐色、黒褐色、黄褐色の混在する範囲を確認した。検出面はⅢ層下位である。

本遺構の床面は東西方向に斜に横断する現代の溝により切られており、同時にその部分の壁も壊されているが、それ以外の重複はない。

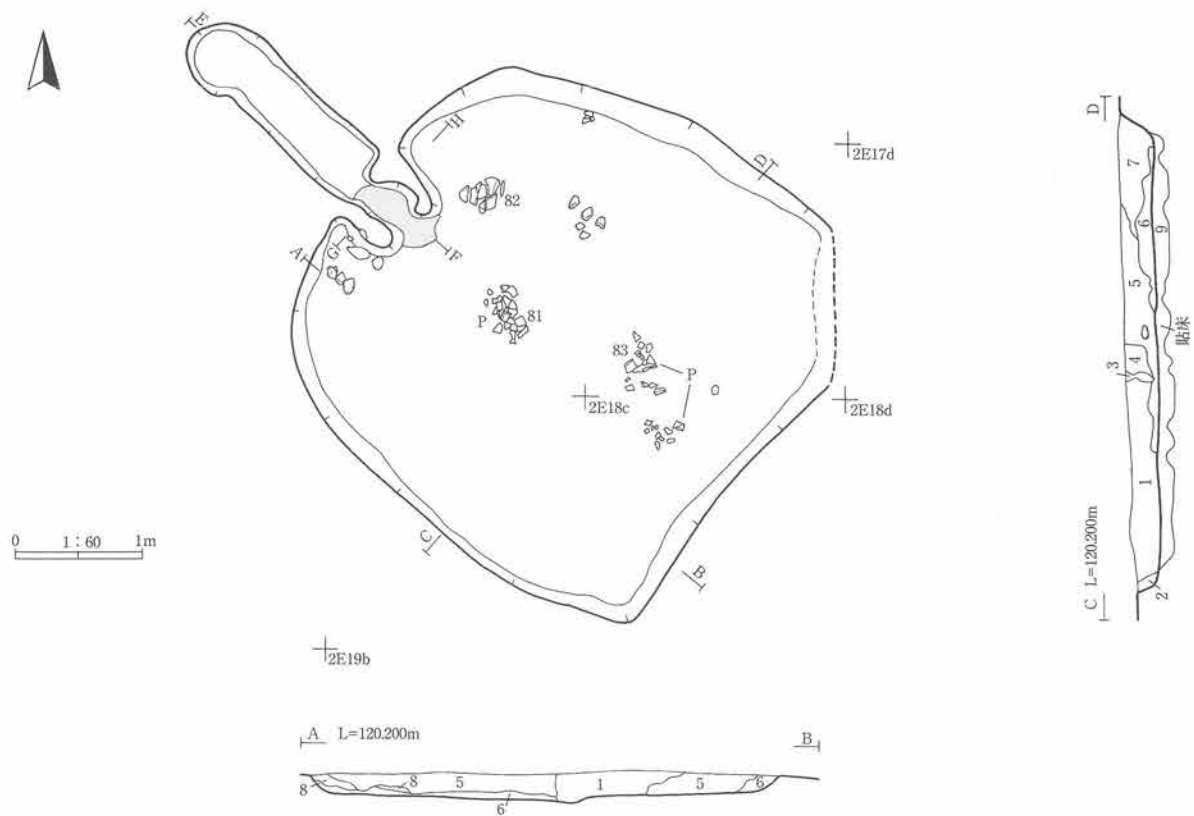
<規模・平面形・方向>3.4×3.4mの隅丸形状を呈すると思われるが、前述のように、東コーナー部分は現代の溝に切れ、また調査区外に僅かに入り込んでいるため正確な壁出しは出来なかった。床面積は10.3㎡となり、主軸方向はN-49°-Wである。

<埋土>埋土中の1層は現代の溝によるもので本遺構の埋土は2層以降である。その中で主体をなすのは5層であり、これは黒褐色土に褐色土をブロック状に含んでいる。また、8層は下位に焼土粒を含んでおり、これはカマド崩壊時のものかもしれない。全体に人為堆積の様子がうかがえる。

<壁>壁は検出面から最大値で26cmを測る箇所があるが、大体は15cm前後で回っており、床面からやや外傾して立ち上がる。壁溝は検出されていない。

<床面>東側にかけて僅かに上がる傾斜が観察された。床面は褐色土と暗褐色土の混じった土でやや締まった感じがする。厚さ10cm前後で貼り床がなされている。

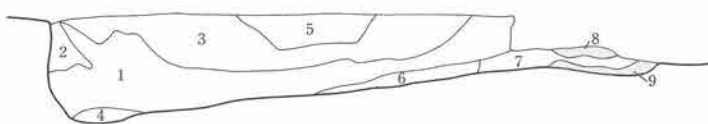
<カマド>北西壁のほぼ中央部に設置している。燃烧部はカマド本体のほぼ中央部に30×70cmの径で煙道に向かって長軸をもつ範囲に広がっている。焼土層は最高で7cm程形成されている。袖部は、地山を残し



RA448 A-B-C-D

1. 10YR4/2灰黄褐色土と10YR5/6黄褐色土がブロック状に混在。締まり中。
2. 10YR3/3暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合。粘性中。締まりやや密。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色土。粘性やや有り。締まり中。
4. 10YR3/3暗褐色土。粘性中。締まりやや密。
5. 10YR2/3黒褐色土。10YR4/4褐色土との混合をブロック状に含む。粘性中。締まり中。
6. 10YR3/3暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合。粘性中。締まりやや密。
7. 10YR3/3暗褐色土。粘性中。締まりやや密。
8. 10YR2/2黒褐色土。粘性やや弱。締まり中。下位に焼土粒含む。
9. 10YR2/3黒褐色土。粘性やや弱。しまり有。

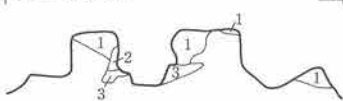
E L=120,200m



RA448 E-F

1. 10YR4/4褐色砂質シルト。粘性弱。締まりやや疎。
2. 10YR2/3黒褐色土。粘性。締まり中。
3. 10YR3/3黒褐色土。粘性。締まり中。
4. 10YR2/2黒褐色土。粘性。締まり中。
5. 10YR3/4暗褐色土。粘性中。締まりやや密。
6. 7.5YR3/3暗褐色土。粘性やや弱。締まり疎。骨片を含む。
7. 10YR2/3黒褐色土。粘性中。締まり疎。骨片を多く含む。
8. 5YR3/4暗赤褐色土。粘性弱。締まりやや疎。
9. 5YR3/6暗赤褐色土。粘性弱。締まり中。

G L=120,200m



RA448 G-H

1. 10YR4/4褐色土。粘性やや弱。しまり有。10YR3/3黒褐色土少量含。
2. 10YR2/3黒褐色土。粘性。しまり有。地山土多量含。
3. 5YR3/4暗赤褐色土。粘性弱。しまり中。

0 1:30 50cm

第42図 RA448竪穴住居跡

てその上に暗褐色土をかぶせて作られているようである。左袖部脇にこぶし大の垂円礫が散乱しており、芯材の残骸かもしれない。それ以外の芯材となりうるものは見あたらない。煙道は煙り出し部に向けて下り勾配に作られており、長さは1.7mを測る。煙り出し部は底部径40cmの円形に掘られていたらしく、残存値で、深さは40cmほどである。ほぼ直立して立ち上がっている。燃焼部にもともとあったと思われる骨片が煙道半ばまで多数流れ込んでいる。削り貫き式か掘り込み式かは不明である。

<柱穴>検出されなかった。

<出土遺物> (第159・160・195・197図、写真図版141・142・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器壺3点・甕3～4点・球胴甕3点、土製装飾品1点(491)、鉄器1点(461)が出土している。本遺構は現代の溝に切られているが、この溝の埋土の住居床面と同レベルに土師器片がまとまって散乱していた。

カマド袖部右裾に完形の土師器壺84がそのまま置かれていたかのような状態で出土した。中は空洞であったが、接地部に若干の土が入り込んでいたようである。その隣には82土師器甕がその場で潰れたような状態で出土した。他に住居中央にかけて土師器甕が二個体分(81・83)横倒し潰れたような状態で散乱していた。

<時期>出土遺物より奈良時代に比定される。

#### R A 4 4 9 竪穴住居跡 (第43図、写真図版30)

<位置・重複関係> 調査区東側、2D区の南東よりに位置している。西側には沢跡が北から南西に向けて走っている。また、本遺構の北東にはR A 446、東にはR A 445、やや離れて南西にはR A 457がある。

現況は畑地で、耕作土を除去し、現地表から3～40cm下位で、黒褐色土の広がりを確認した。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。

ほぼ南北に走る溝跡がこの遺構を斜に切っており、さらにこれより新しい柱穴状ピットがその上に観察される。これらの溝跡、柱穴は、他の同じ埋土を持つ遺構からガラス瓶等が出土しているので、現代のものだと判断した。これ以外の重複は見られない。

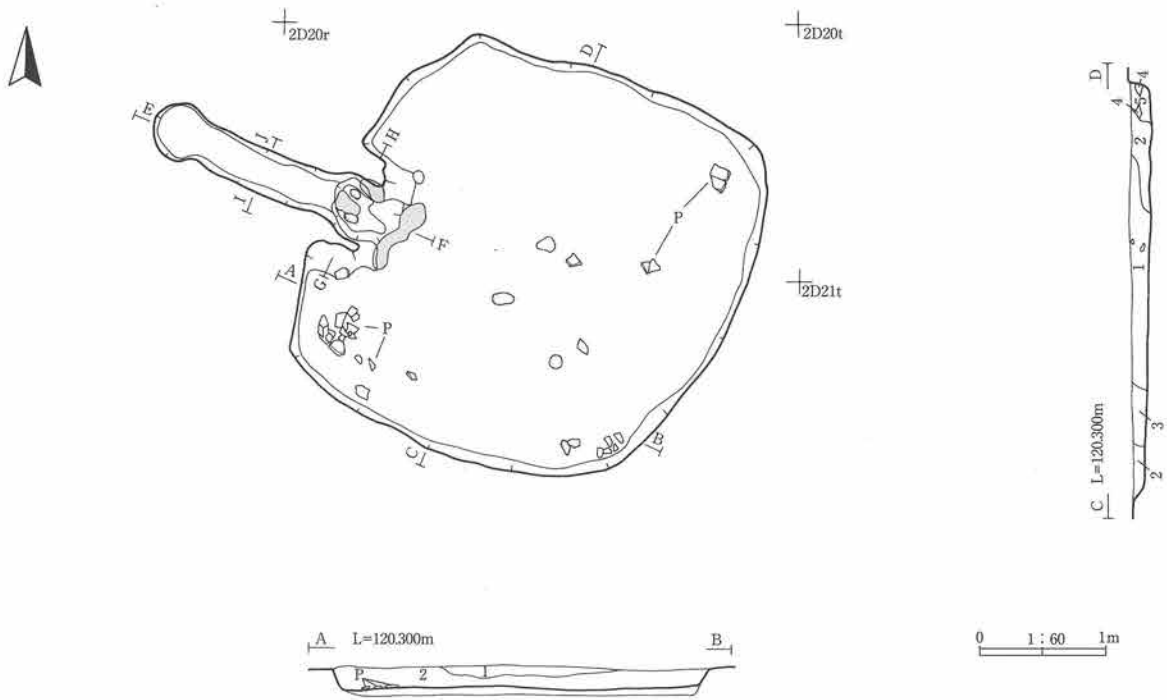
<規模・平面形・方向>3.1×3.1mの隅丸方形を呈する。床面積は7.9㎡。主軸方向はN-67°-Wとなる。

<埋土>一部に壁の崩落土と思われる箇所が観察されるが、総じて埋土は2層に大別される。黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然堆積のように思われる。ベルトの一部に褐色土主体に黒褐色土が混在した部分があるがこれは前述の、本遺構を切っている溝跡である。

<壁>検出面からの壁高は最大で18cmを測る箇所があるが、殆どは10cm前後で回っている。床との接地面は緩やかであるが、壁そのものはほぼ直立している。上位を削平されている。

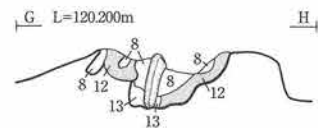
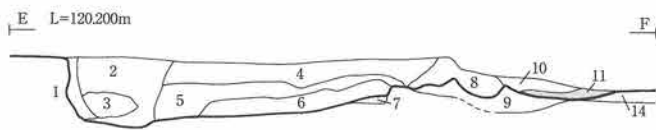
<床面>平坦で強く締まっている。所々に酸化鉄を含む堅い面が露出しており、住居の南半分の範囲には手のひら大の垂角礫が散乱している。地山をもって床面としているようである。

<カマド>西北西に面する壁の中央寄りやや左寄りに設置している。削平が激しく、本体部は袖の一部がかるうじて残っている程度であった。袖部は地山を削り出して作られていたようである。芯材と思われるようなものは周囲からも出土していない。燃焼部は焼土の広がりが3カ所に点在する状況で、その範囲を特定出来ないが、縦横とも60cmを超えない範囲であつと思われる。焼土層は最高で10cm程形成されている。燃焼部のやや左よりの箇所に最大径7cm、長さ25cmの楕円柱状の礫が直立して置かれており、支脚であつと思われる。煙道部は長さ1.4mを測り、燃焼部から下り勾配で煙り出し部に続いている。煙り出し部は底部径で36cmの円柱状に掘られており、深さは残存値で25cm程で、垂直に立ち上がっている。検出時に煙り出し部のプランのみが確認できたため、削り貫き式であつと思われる。



RA449 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まり中。
3. 10YR4/6褐色土と10YR3/2黒褐色粘土と 10YR2/2黒褐色土の混合土 粘性無し。締まり密。薄の土。
4. 10YR4/6褐色地山ブロック
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性中。締まりやや粗。褐色土の混入の割合が大きい。



I L=120.200m



0 1:30 50cm

RA449 E-F・G-H・I-J

1. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性中。締まりやや疎。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性中。締まりやや疎。黄褐色土ブロックを下位に含む。
4. 10YR4/4褐色土 粘性中。締まりやや密。
5. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。
6. 10YR4/4褐色土 粘性、締まり中。黒褐色土を筋状に含む。
7. 10YR4/6褐色土 粘性やや弱。締まりやや疎。(地山?) 砂質。
8. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まっている。焼土混じる。
9. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。締まっている。

10. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まりやや有り。焼土、炭粒多量含む。
11. 4YR4/8赤褐色焼土 粘性、締まり弱。
12. 5YR4/8赤褐色焼土と褐色土の混合土。
13. 10YR4/4褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
14. 10YR4/4褐色土と黒褐色土との混合土。粘性やや有り。締まっている。

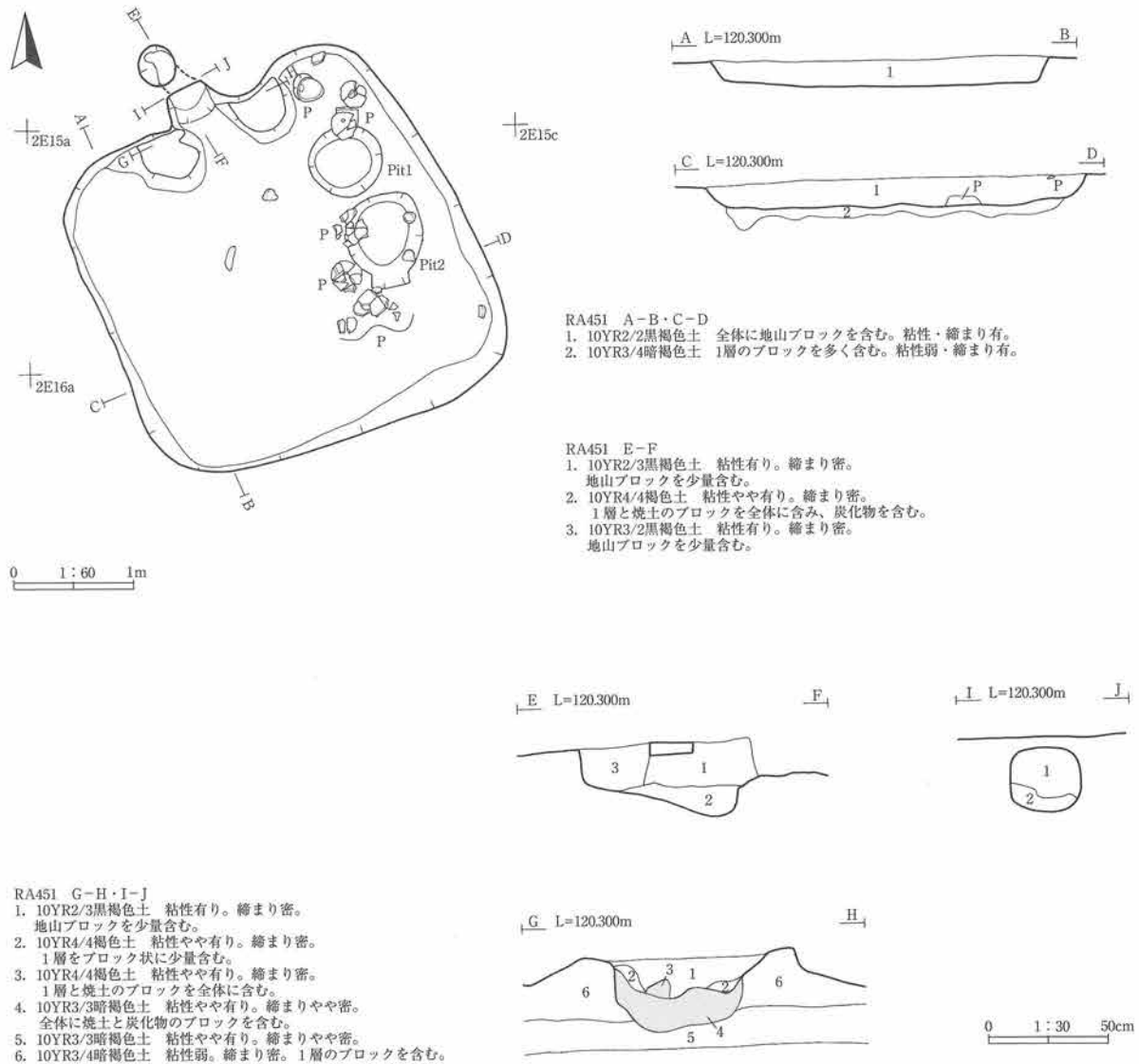
第43図 RA449竪穴住居跡

<柱穴> 検出されなかった。もともと無かったと思われる。

<出土遺物> (第160図、写真図版142・166) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点・甕1点・球胴甕1~2点・平安時代?の甕1点が出土している。

土師器甕89は東側と西側の離れた場所で出土したものが接合した。

<時期> 出土遺物より奈良時代に比定される。



第44図 RA451 竪穴住居跡

RA451 竪穴住居跡（第44図、写真図版31・32図）

<位置・重複関係>東側調査区の北東隅、2E13a グリッド付近に独立して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.7mで、床面積は約7.5㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸方向はN-30°-Wを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に地山ブロックを含んでいる。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は17~22cm程度であるが、南東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>ほぼ平坦で、底面には細かい砂質の土壌が分布しており、ほぼ全面を貼床としていた。

<カマド>北西壁に位置しており、袖部分は暗褐色土が主体で、一部地山を削り出して形成されたものと推定している。カマド燃烧部の全体には、焼土と炭化物がブロック状に広がっていた。煙道は削り抜き式であったと思われるが、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、天頂部は僅かに残されていたに過ぎない。煙出しは、径33×30cm・深さ21cmの円形土坑の形態を呈しているが、カマドの基部と煙出し部分との距離が短く、この間隔で果たして排煙が可能であったものかどうか判断するのは困難である。

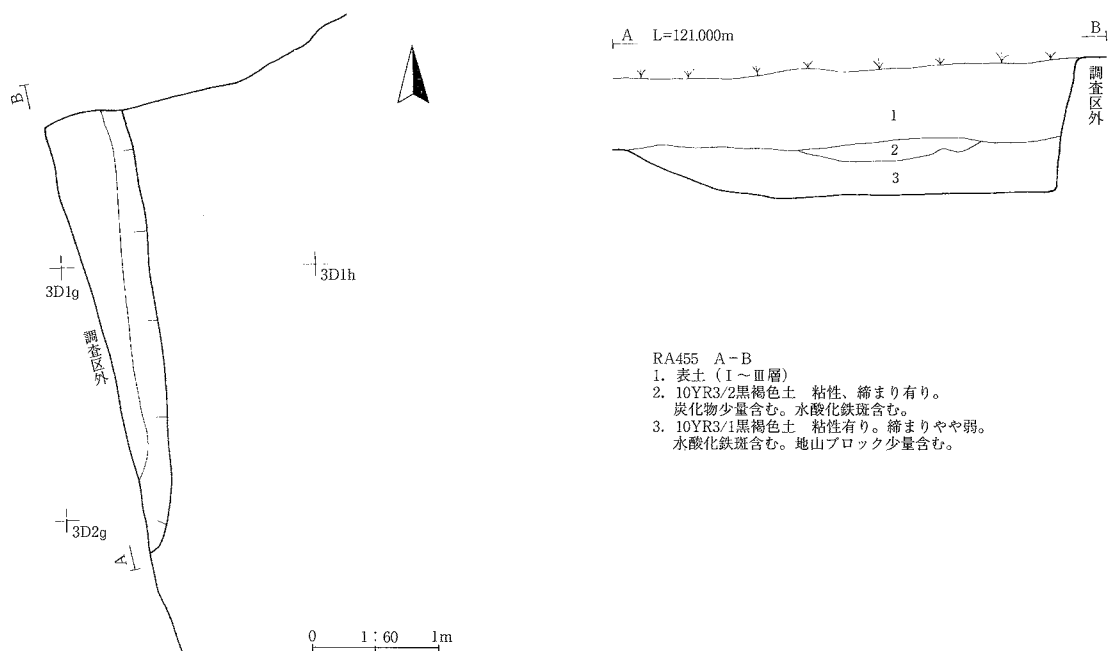
<柱穴>支柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

<Pit>東側の壁面付近から、円形~楕円形を呈する2基のPitが検出された。それぞれの規模はPit 1が59×58cm・深さ22.7cm、Pit 2が68×64cm・深さ11.7cmで、埋土は黒褐色土が主体である。

<その他>近隣から検出された奈良時代の竪穴住居跡と比較して、規模は小さいものの遺物の量が多いのが特徴である。

<出土遺物>（第160・161図、写真図版142・143）埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点・長胴甕3~4点・甑1点、骨片・炭粒等が出土した。

カマドの東脇部分からは93甕と96球胴甕が、そのすぐ傍の東壁際の床面からは横倒しの状態で出土した



第45図 RA455竪穴住居跡



94甕と底部のみ残存していた球胴甕98が出土した。P i t 2 周辺の床面からは坏91～92や甗99、また甕95、球胴甕97がその場で潰れたような状態で出土している。

東壁の床面、およびカマドの右脇部分から、完形に近い奈良時代の土師器の甕（球胴・長胴甕）および坏が出土している。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のものと推定される。

#### R A 4 5 5 竪穴住居跡（第45図、写真図版33）

<位置・重複関係>本遺跡の東側、2 D 区と3 D 区にかかる。周囲にはR A 456が東北隣りに、また南東隣にはR A 461がある。この2棟は何れも平安時代のR G 045溝跡によって切られている。若干離れるが西南方向には7.5m以上の規模のR A 441がある。現況は休耕田後の畑地でありこの耕作土を除去した後に暗褐色の広がりを確認した。現地表面から4～50cm下位である。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。また西側と北側は調査区外となり、本遺構はその東壁の一部と床面を検出したに過ぎず、大半は調査区外に延びている。

<規模・平面形・方向>前述のとおり、東壁の一部のみの検出のため、不明であるが、規模、平面形、方向とも周囲の住居と大差ないものようである。

<埋土>2層に大別される。黒褐色土を主体とする自然堆積であろう。

<壁>遺構検出面から43cm程残存しており南壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

<床面>貼床は見られず、Ⅳ層を掘り込んで床面としている。特に硬く締まるものではない。

<遺物>なし。

<時期>周囲の遺構分布から奈良時代の可能性が高い。

#### R A 4 5 6 竪穴住居跡（第46図、写真図版34）

<位置・重複関係>調査区東側、2 D 区西寄りの南端に位置する。周囲にはR A 455が西南隣りに、R A 461が南隣に在る。さらに東側には東北方向から南西方向に走る沢跡がある。本遺構もが調査区外となり、東壁と、北、南壁の一部を検出したに過ぎず全体像は不明である。現況は畑地で、表土除去後Ⅲ層下位～Ⅳ層上位で暗褐色土の広がりを確認した。地表から30cm程下位である。平安時代のR G 045溝跡に中央部を南北に切られている。

<規模・平面形・方向>残存部から推定すると、南北に3.5mを測る隅丸方形で、N-15°-Wと思われる。

<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。

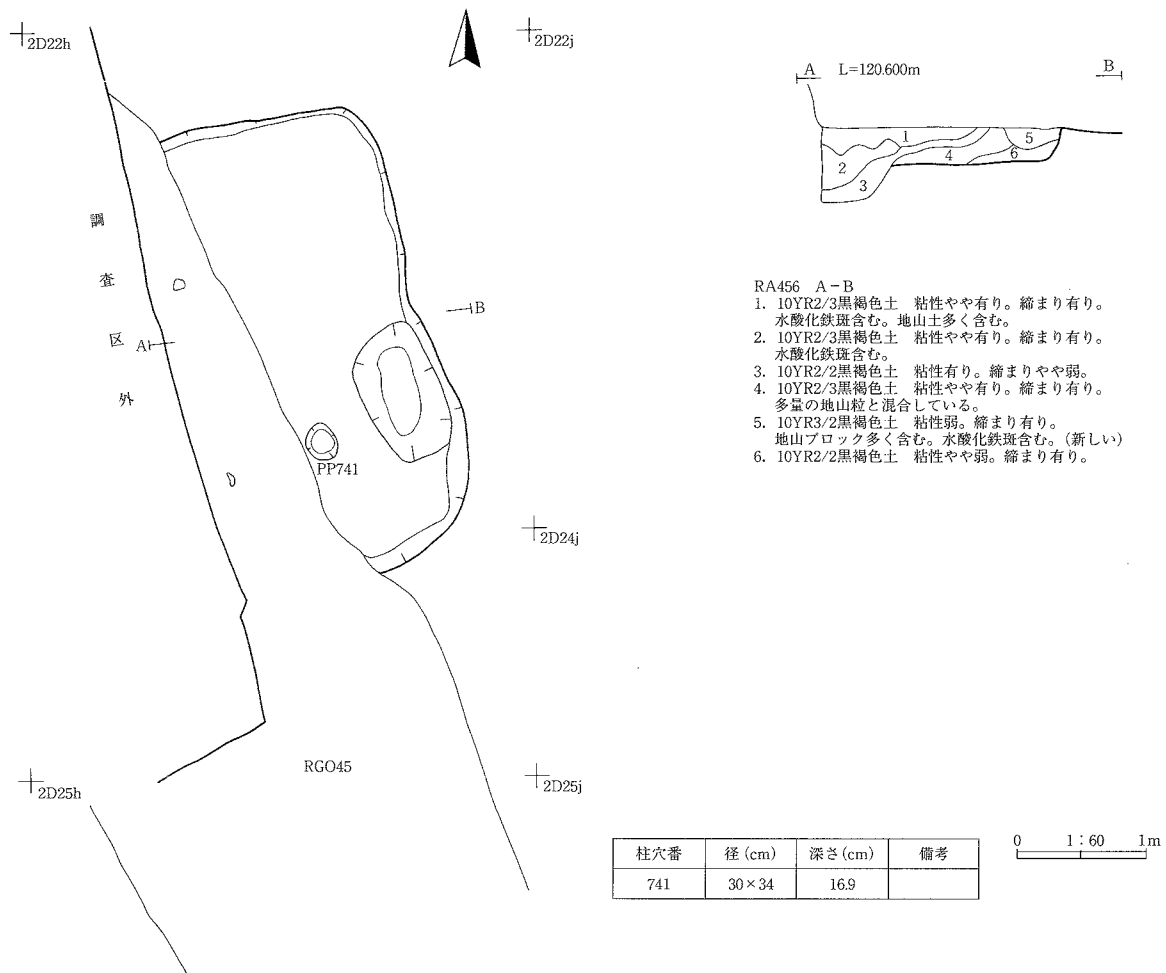
<壁>遺構検出面からは27cm前後残存し、垂直気味に外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦である。壁溝や貼床は施されない。

<柱穴>1基のみ検出されている。

<遺物>（第162・197図、写真図版144・180）埋土及び床面から個体数にして土師器坏2点・甕2～3点、土製紡錘車1点（500）、近代陶器甕1片が出土した。この中から実測可能な土師器坏100を掲載した。

<時期>奈良時代。



第46図 RA456竪穴住居跡

RA457 竪穴住居跡 (第47図、写真図版35)

<位置・重複関係>遺跡の東側にあたる3D区東北隅に位置する。周囲にはRA458が東南隣りに、RA447が南方にある。現況は畑地で、表土除去後、現地表から3~40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。検出面はIV層上位である。RD989土坑に本遺構の西北壁の一部を切られている。

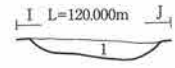
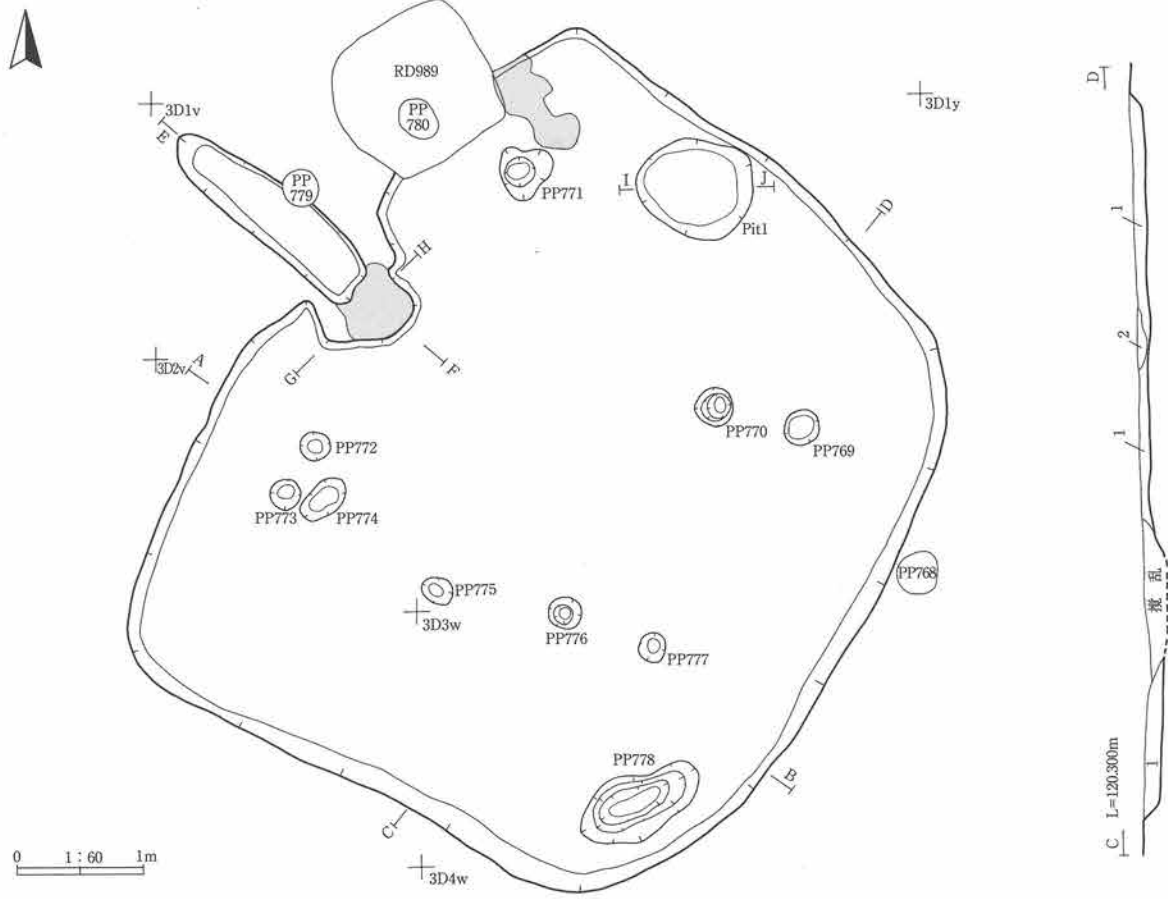
<規模・平面形・方向>5.8×5.0mの隅丸方形を呈するが、西側コーナーが若干張り出す形状となっている。床面積は25.2㎡。主軸方向はN-49°-Wである。

<埋土>黒褐色土と褐色土を主体としておりこれが貼床になると思われる。

<壁>残存せず壁溝も認められない。

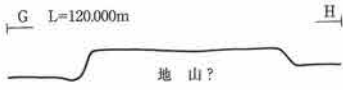
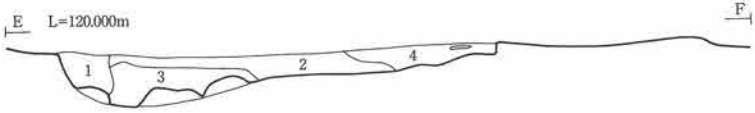
<床面>全面を貼床としている。

<カマド>北西壁の中央に設置されている。天井部・袖部共に残存しないが恐らくは地山の造り付けであったと思われる。燃烧部には60×45cmの範囲で焼土の広がりが認められた。煙道部は燃烧部から煙出し底部へ



RA457 A-B・C-D  
 1. 10YR2/3黒色土と地山土 (10YR4/4褐色土) との混合土 粘性やや弱。縮まり有り。  
 2. 10YR3/1黒褐色土 粘性弱。固く締まる。水酸化鉄斑含む。地山ブロック多く含む。

RA457 Pit1・I-J  
 1. 10YR2/3黒褐色土と地山ブロックとの混合土 粘性やや弱。縮まり有り。炭、焼土粒少量含む。



0 1:30 50cm

RA457 E-F・G-H  
 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。地山土多量含む。炭微量含む。  
 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。地山ブロック、炭多量含む。  
 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。炭粒、地山土多量に含む。  
 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。炭化物、焼土多量に含む。  
 5. 地山土

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
769	29×26	9.9	
770	30×28	47.1	
771	43×40	47.7	
772	24×21	44.1	
773	24×21	41.8	
774	39×24	24.0	
775	22×19	10.9	
776	25×23	39.1	
777	21×20	14.6	
778	101×52	39.2	

第47図 RA457竪穴住居跡

と緩やかに掘り下げられている。

<柱穴>10基の柱穴を検出した。主柱穴はPP771・769・777・773であろうか。

<その他>北東壁際から土坑1基を検出した。

<遺物> (第162図、写真図版144・166) 埋土から個体数にして土師器坏2点・甕1～2点・球胴甕1点が出土した。

土師器坏100は口縁部と体部の境界が不明瞭な沈線で区画されている。102の甕の口唇部は沈線状に窪み口縁部には複数の段をもっている。

<時期>奈良時代。

#### RA458 竪穴住居跡 (第48図、写真図版36)

<位置・重複関係>調査区東側、3D区と3E区にまたがる。直ぐ南RA447、北西隣りにはRA457がある。現況は畑地で、表土除去後、現地表面より3～40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。検出面はIV層上位である。重複関係は見られないが、かなり深く削平を受けているようであった。

<規模・平面形・方向>3.1×3.0mの方形を呈する。床面積9.2㎡、主軸方向はN-43°-Wである。

<埋土>貼床の土である。黒褐色土に多量の地山土をブロック状に含んでいる。

<壁>遺構検出面では残っていなかった。

<床面>全面を貼床とし、幾分硬く締まっている。

<カマド>殆ど残っていないが北西壁のほぼ中央に構築されている。本体部は地山をそのまま使った構造でよいと思われる。煙道部は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられている。

<遺物>なし。

<時期>周辺の遺構分布から奈良時代であろう。

#### RA459 竪穴住居跡 (第49図、写真図版37)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、3C区中央のやや南寄りに位置する。現況は畑地で、表土除去後、現地表面より20cm下位で黒褐色土の広がりを確認した。北方にはRA460がある。検出面はIII層下位である。

住居の東壁とそれに続く床の一部を検出したが、住居の主たる部分は、畦畔及び用水路の下に入り込んでおり、調査できなかった。しかし、後刻工事の設計変更により、この畦畔と用水路の切り替えが可能となり、本遺構の全面調査が可能となった。昨年度調査区で西壁がすでに検出されていたが、その時点では住居跡とは認定できずRD379土坑として登録されたものである。重複関係は見られない。

<規模・形態・方向>概ね4.5m四方の隅丸方形プランを呈する。主軸方向はN-15°-Wとなる。

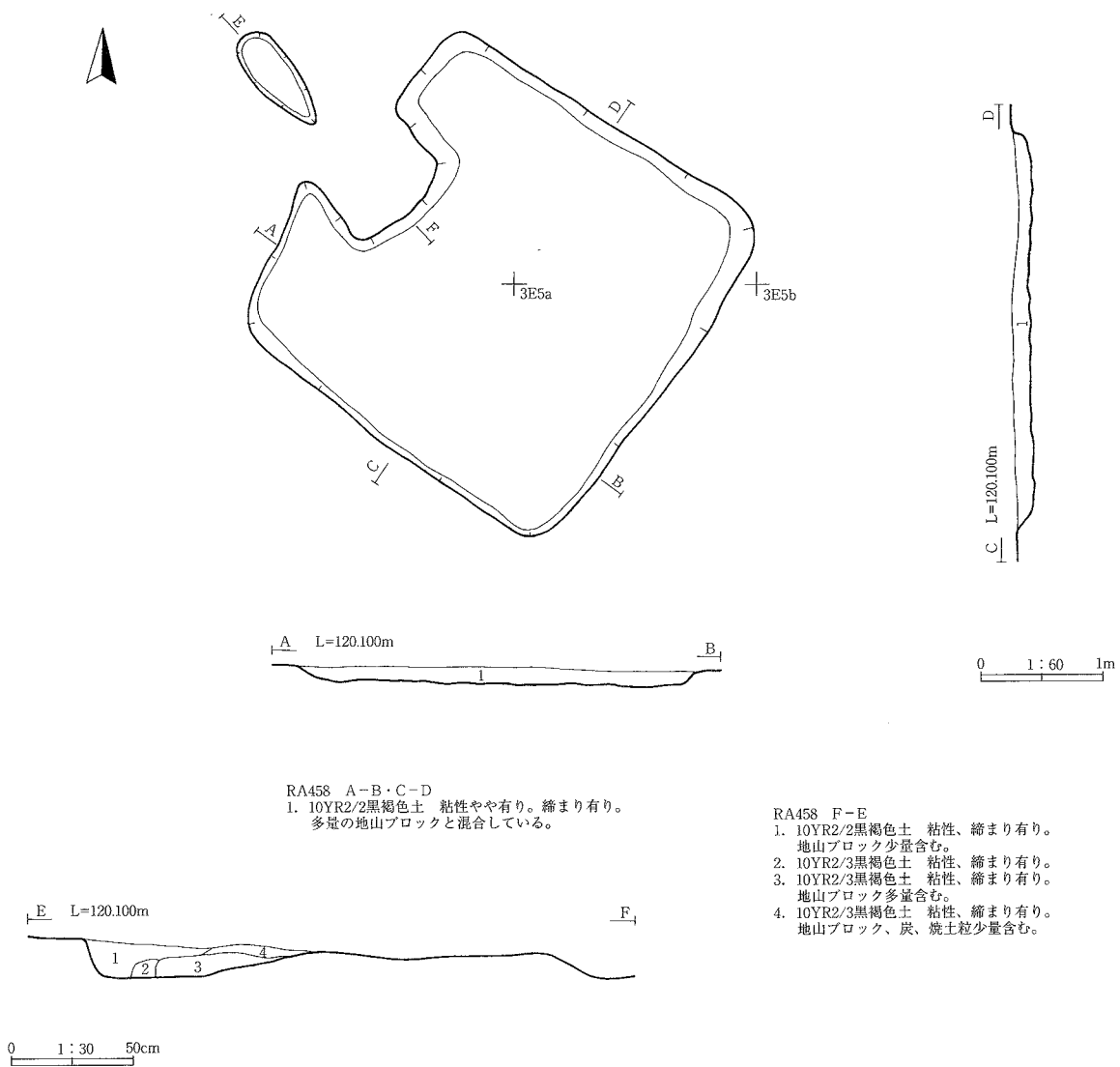
<埋土>黒褐色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面からは17～20cm程が残存しており底面から外傾して立ち上がっている。壁溝はない。

<床面>全面を貼床としており、中央部には攪乱があった。

<カマド>北西壁の中央に設置されている。天井及び袖部は地山を生かしつつ比較的大きな河原石などを用いて構築されていたようである。燃焼部付近には焼土の広がりと共にこれらの河原石が検出された。煙道部はトンネル式で煙出し底部は煙道より若干低く掘り込まれている。

<柱穴>各壁隅近くを中心に4基検出されている。



第48図 RA458竪穴住居跡

<その他>北西壁及び南東壁際の床面から掘り込みに焼土が入ったような状態のものが5ヶ所で確認された。本住居が焼失しているわけではなく、穴に捨てたような状況であった。

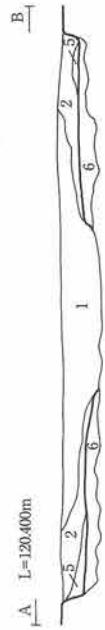
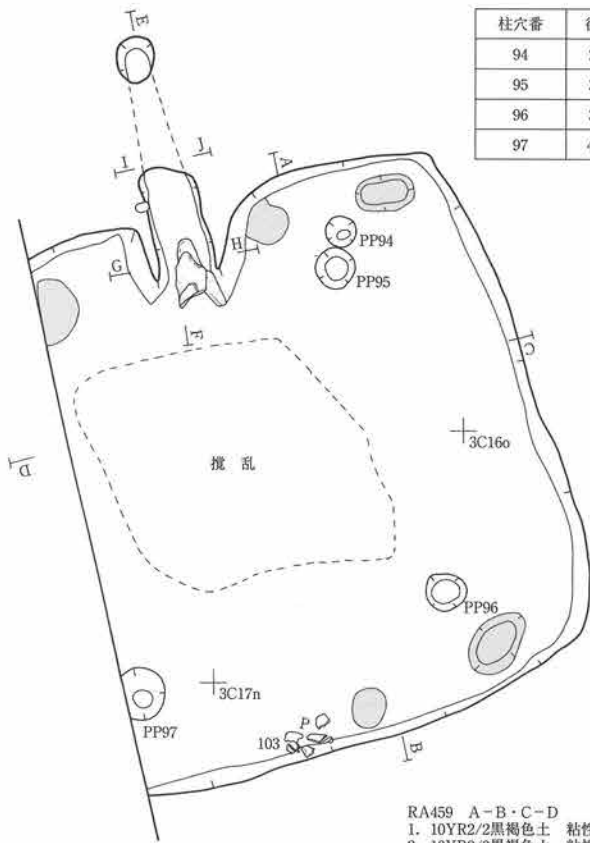
<遺物> (第162・197図、写真図版144・166) 埋土及び床面から個体数にして長胴甕2点・球胴甕1点・土製装飾品3点(492・493)、近代以降の磁器碗1片が出土している。

103の長胴甕は南東壁際の床面から破片の状態出土した105は同一個体であろう。土製装飾品はカマド東側の床面と埋土から出土している。

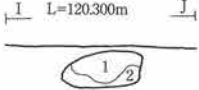
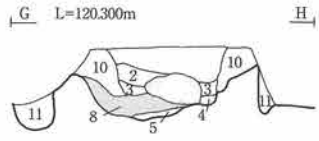
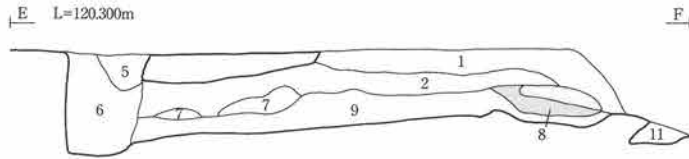
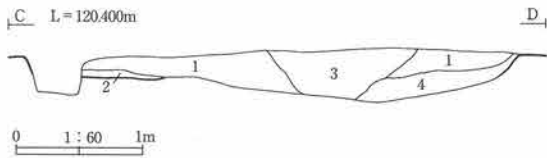
<時期>奈良時代。



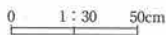
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
94	26×24	8.8	
95	32×32	51.9	
96	32×49	49.1	
97	42×(35)	52.1	



- RA459 A-B・C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有。締まり有。
  - 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有。締まり有。
  - 5Y2/1黒色土 粘性有り。しまりやや弱。10YR4/2灰黄褐色土。ブロック状に多量含。水酸化鉄斑含。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性有。締まり弱。地山土と混合している。水酸化鉄斑含。(10YR4/2灰黄褐色土、5Y2/1大含)。
  - 地山土
  - 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有。締っている (貼床)



- RA459 E-F・G-H・I-J
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。水酸化鉄斑有り。
  - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。水酸化鉄斑有り。
  - 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。焼土粒微量含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
  - 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まり弱。地山ブロック少量含む。
  - 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まり弱。地山ブロック多量含む。
  - 10YR4/6赤色焼土 粘性弱。締まりやや有り。
  - 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まっている。
  - 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。(貼床)



第49図 RA459竪穴住居跡

RA460 竪穴住居跡 (第50図、写真図版38)

<位置・重複関係>遺跡南東側、3C区ほぼ中央の北寄りに位置する。南方にRA459がある。本遺構も前述のRA459と同様に、畦畔、用水路にその主体部分を覆われていたが、それらの切り替えにより調査可能となった。但し、北側部分は、住宅の敷地に入り込んでいるため、調査できず、よって、本遺構のカマドをもつであろうと思われる箇所は検出できなかつた。検出は、現表土から25cm下げた地点で、検出面はⅢ層下位である。検出した範囲には重複は認められなかつた。

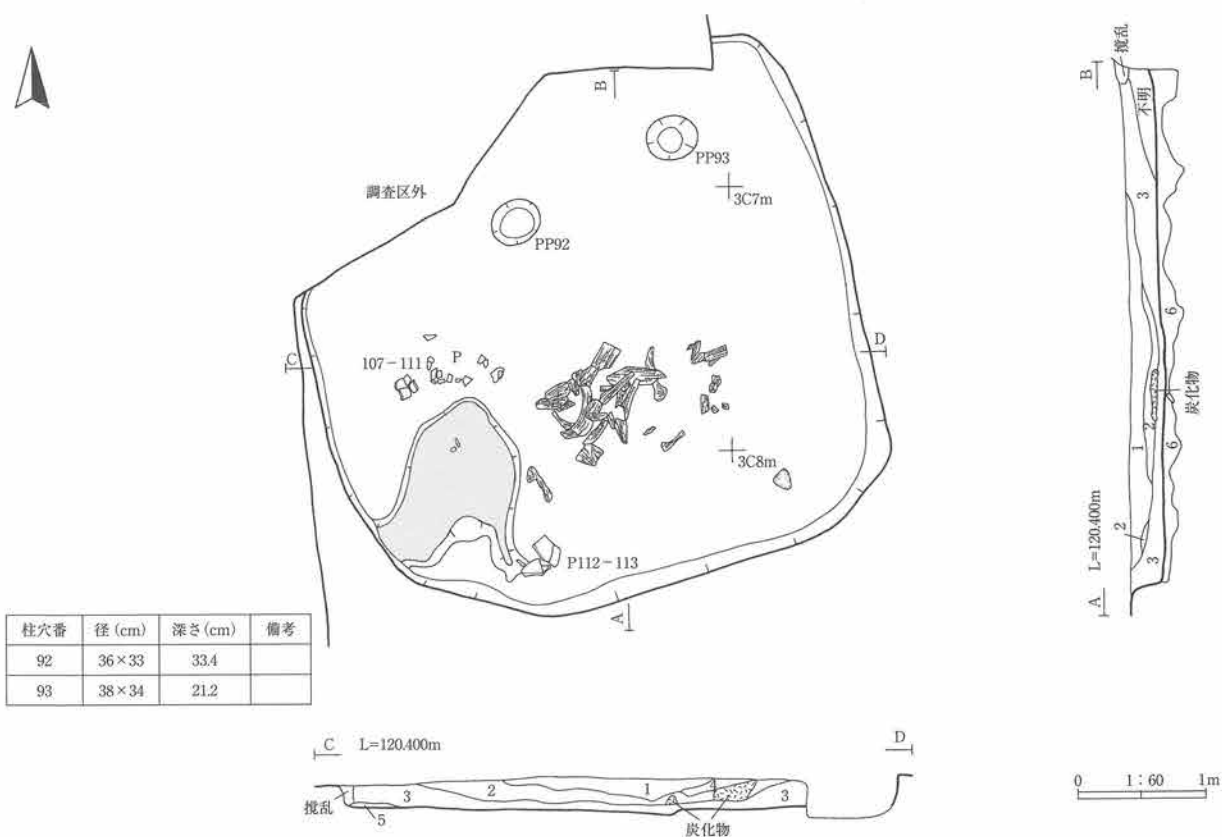
<規模・平面形・方向>東西4.0m、南北は残存値で3.7mとなり、隅丸方形を呈すると思われるが、北壁部分が検出できていないので不明である。床面積は残存値で12.7㎡、主軸方向はN-19°-Wと思われる。

<埋土>床面に近い部分は自然堆積でよいと思われる。埋土上位に関しては地山ブロックを多量に含み埋めた可能性もある。

<壁>遺構検出面からは17~24cm位残存し、底面から垂直気味に立ち上がっている。壁溝はない。

<床面>全面を貼床とし平坦である。現在の排水路が近くにあるため水気を帯びており堅さは不明である。

<カマド>調査区外の北西壁に構築されていると思われる。



RA460 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり弱。  
10YR2/1黒色土、地山土と混合している。
2. 炭化物層 (10YR2/2黒褐色土に混合する) 粘性有り。  
締まり弱。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。  
多量の地山ブロックと混合する。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり弱。  
焼土多く含む。
5. 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。固く締まる。
6. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量に含む。  
粘性やや有り。締まっている。(貼床)

第50図 RA460竪穴住居跡

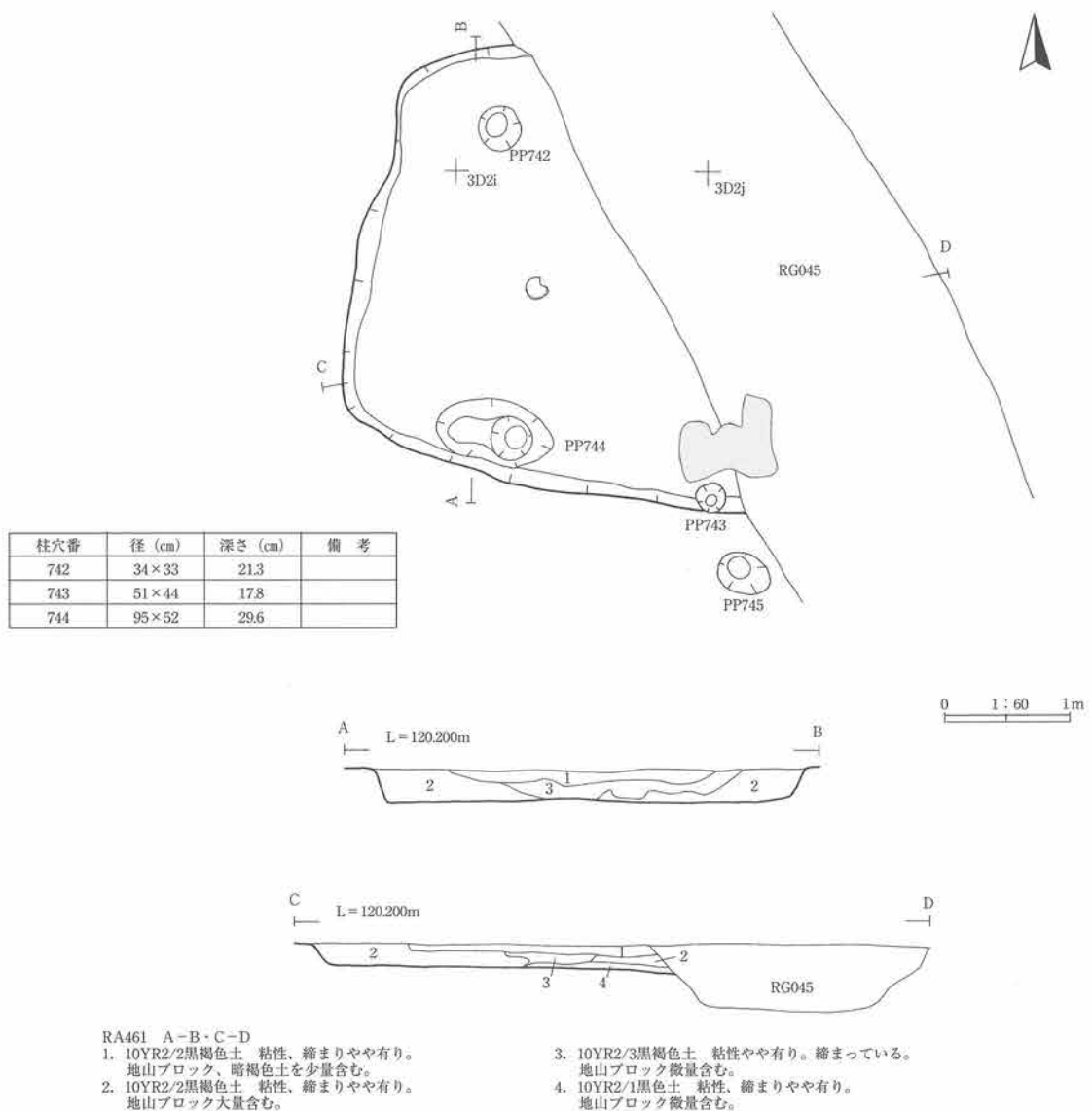
<柱穴> 2基検出されたが本遺構に伴うか不明である。

<その他> 床面及び床からやや高い所に焼土及び炭化材が検出された。主に南半部から多く見られ、同じ場所に土師器も散乱していた。この状況から本遺構は焼失していると考えられるが焼土及び炭化材の多くは床面より少しだけ高い所に見られることから廃絶後に焼けたものかもしれない。同定された炭化材にはナラとケヤキがあった。

<遺物> (第162・163図、写真図版144・145・175) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏4点・碗? 1点・長胴甕6点・球胴甕2点が出土した。

112・113の球胴甕は同一個体のようで南壁近くの床面直上から破片の状態出土した。107~111の土師器坏・甕・壺は中央やや西側に破片が散乱する状態で見つっている。

<時期> 奈良時代。



第51図 RA461 竪穴住居跡



#### R A 4 6 1 竪穴住居跡 (第51図、写真図版39)

〈位置・重複関係〉遺跡の東から南東側、3 D区北端に位置する。北西隣りにはR A 455が、北側にはR A 456があり、東側は沢跡になっている。現況は畑地で、表土除去後現地表面より30cm下位で黒褐色土の広がりを確認した。検出面は3層下位～IV層上位である。本遺構の東側を斜に半分程、平安時代のR G 045溝跡が切っている。

〈規模・平面形・方向〉残存箇所で最大値は南北に3.2mを測るが、東西については不明である。また隅丸の方形をなすと思われるが、長方形か正方形かは不明である。カマドを検出できなかったので、主軸方向は判断できないが、仮に北壁にカマドをもっていたとすると周辺の住居跡は全て北西方向に軸線をもっているのに比し、本遺構だけは若干北から東に逸れた線を軸とすることになる。

〈埋土〉黒褐色土を主体とするが、地山ブロックを多く含んでいるため人為堆積と思われる。

〈壁〉検出面からの壁高は最高で24cmを測る箇所があるが、殆どは20cm強の数値で回っている。

〈床面〉平坦でやや硬いが貼床は施されておらず、IV層の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

〈カマド〉検出されていない。北壁か東壁に構築されていたと考えられる。

〈柱穴〉3基検出されている。PP742・744が本遺構に伴う。

〈その他〉南壁際のR G 045との重複部分に焼土の広がりを確認した。床面及び床面よりやや高い所にみられ焼土は現地性のものではないと思われる。ただし未検出のカマドに関するものかもしれない。

〈遺物〉(第163図、写真図版163・175)埋土及び床面から個体数にして土師器坏1～2点(114)・鉢1点・甕2点(115)・球胴甕1点が出土した。

〈時期〉奈良時代。

#### R A 2 1 4 竪穴住居跡 (第52図、写真図版40)

〈位置・重複関係〉本遺跡の西側、2-C18f区に位置する。23次調査では本遺構の北東部分のみを検出し同じ遺構名で掲載している。

〈規模・形態・方向〉北壁-南壁5.6m、東壁-西壁5.8mの概ね方形を基調とする。床面積は29.9㎡、主軸方向はN-5°-Eである。

〈埋土〉地山ブロックを多量に含む黒褐色土が主体で人為堆積の可能性はある。

〈壁〉14～25cm程残存していた。底面からは外傾して立ち上がっている。

〈床面〉概ね平坦で硬いが貼床は施されていない。壁溝も見られなかった。

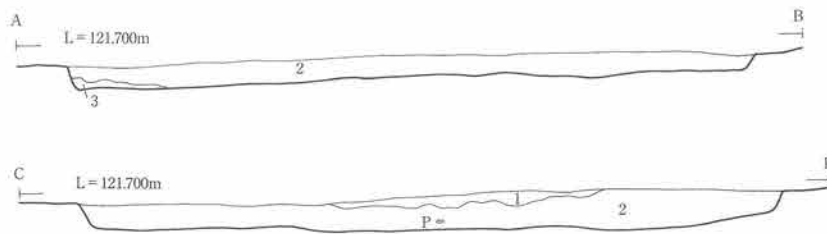
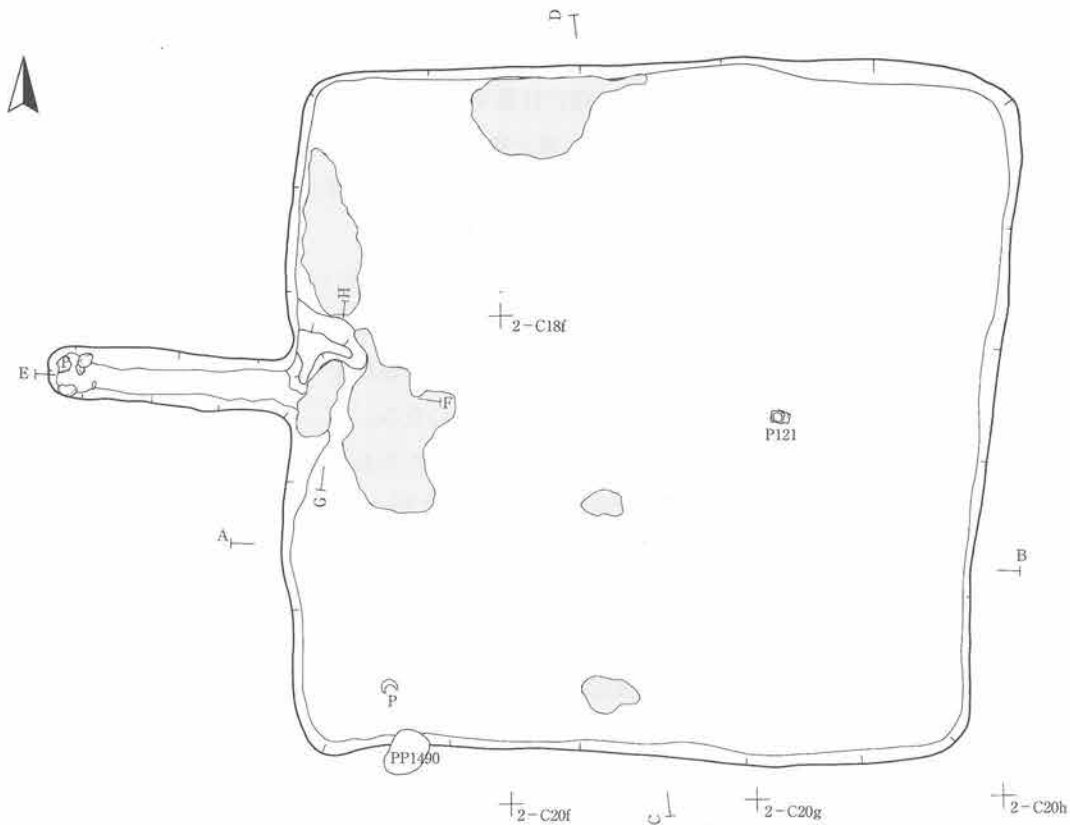
〈カマド〉西壁の中央部に構築されていたが、本体部は殆ど崩落し残りが悪い。袖部は地山を生かしてつくられていたと思われる。燃焼部や焚き口及び袖部北側等に焼土が散乱した状態で見られた。煙道部は刳り貫き式か掘り込み式か不明である。煙出し部には自然礫が多数流れ込んだ状態で検出された。

〈柱穴〉床面及び床面を若干掘り下げて探したが検出されなかった。

〈その他〉床面まで下げた段階で何か所かに炭粒が混じる焼土の広がりを検出した。このことから本遺構が焼失している可能性があると思われる。

〈遺物〉(第164・197図、写真図版145・167・180)床面及び埋土から個体数にして土師器坏7点・高台付坏1点・鉢?1点・甕2点、赤焼き坏3点・甕2点、須恵器坏3～4点・甕1～2点、紡錘車1点(495)が出土している。

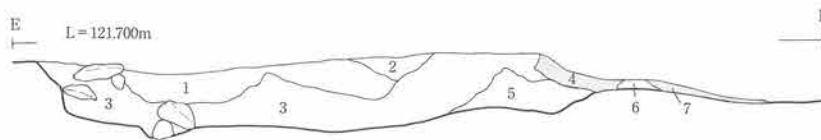
116の土師器坏は煙出し底部付近で河原石などと共に出土した。121の土師器高台付坏は住居中央やや東側



RA214 A-B・C-D

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック多量に含む。  
焼土粒、炭微量含む。1-3cmの礫少量含む。
2. 10YR2/3黒褐色砂質土 粘性、締まり弱。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山粒少量含む。

0 1:60 1m



RA214 E-F・G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを多く含む)
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを2/3程度含む。炭化物含む)
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(炭化物、地山ブロックを僅かに含む)
4. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり疎。  
(焼土を全体的に含む。炭化物を含む)
5. 10YR3/3暗褐色土 粘性弱。  
締まりやや密。  
(焼土、地山ブロック僅かに含む)
6. 10YR4/4褐色土 粘性有り。  
締まり密。  
(地山ブロック、炭化物多く含む)
7. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。  
締まりやや密。  
(焼土を多く含む)

G L=121.700m



0 1:30 50cm

第52図 RA214竪穴住居跡

の床面付近で出土している。

<時期>平安時代。

#### R A 2 1 8 竪穴住居跡 (第53図)

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-D23y区に位置している。R A 281竪穴住居跡と重複し本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>西壁-東壁3.7m、北壁-南壁が3.6mを測り平面形は方形を基調としている。床面積は10.5㎡あり主軸方向はN-90°-Wである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面から26~34cm残存していた。床面から外傾して立ち上がっている。

<床面>全面に貼床が施され平坦だが硬く締まるものではない。壁溝もみられない。

<カマド>西壁の中央部に位置している。側壁は褐色土でつくられているが天井部は残存しない。火床部には40×35cmの範囲に焼土を検出した。煙道部は刳り貫き式で煙出し底部を一段深く掘り込んで構築している。

<柱穴>2基の柱穴を検出したが本遺構に伴うか判然としない。

<その他>カマドの北隣り付近で床面直上から自然礫2個が見られた。

<遺物>23次調査の報告書に掲載した。

<時期>平安時代。

#### R A 3 1 2 竪穴住居跡 (第54図、写真図版41)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる3-D3jグリッドに位置しIV層上面にて検出された。R G 315よりは古いと思われる。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が4.2m、北東壁-南西壁で4.2mを測り平面形は隅丸方形を呈する。床面積は15.7㎡、主軸方向はN-65°-Wである。

<埋土>黒褐色土の単層であるが自然堆積でよいと思われる。

<壁>底面からやや外傾して立ち上がっており16~24cm程残存している。壁溝は確認されていない。

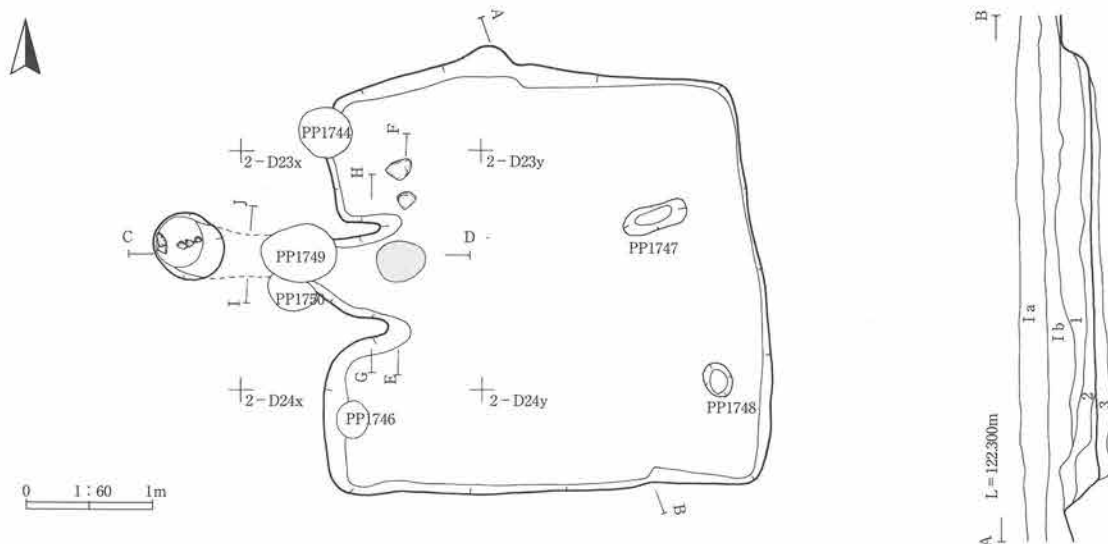
<床面>平坦でやや硬く全面を貼床としていた。

<カマド>北西壁に構築されていた。カマド本体の残りは悪く天井部は崩落して残存していない。袖部は地山を生かしつつ河原石などを芯材に用いて造られていたようである。燃焼部から焚き口にかけて45×42cmの範囲で焼土が見られ、それと共に河原石が数個検出された。煙道は刳り貫き式で燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下っている。

<柱穴>検出されなかった。

<その他>南西壁隅や北西壁のやや北側に炭粒及び炭化材が床面直上から検出された。また南壁の東側では同じく床面直上に焼土の広がりを確認した。これに加えて埋土及び床面からは比較的多くの遺物と自然礫が出土していることから本住居跡は使用時に焼失している可能性があると推測される。同定された炭化材にはケヤキの他に多量のススキの類(茅か)が束になった状態のものあり、これは床に敷かれていたものであろうか。

<遺物>(第164~167・194・195図、写真図版145~148・167・180・181)埋土及び床面から個体数にして

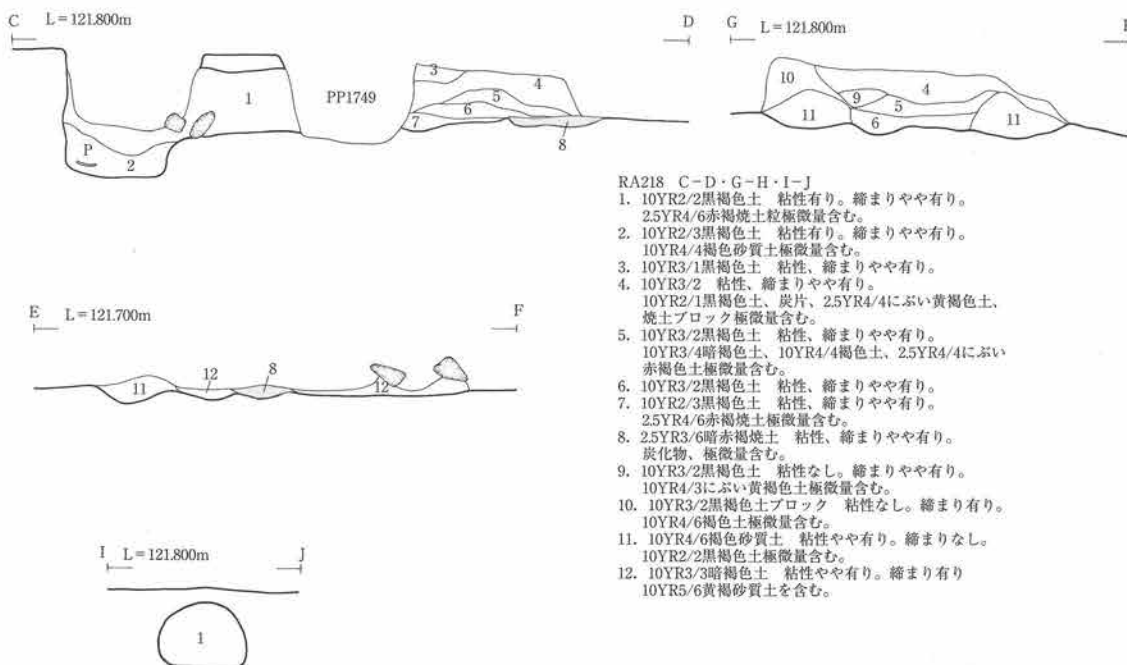


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1747	55×22	14.6	
1748	30×22	25.0	

A-B

- Ia. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。  
縮まりやや有り。  
赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 極微量含む。  
Ib. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。  
縮まりやや有り。  
褐色砂質土 (10YR4/4) 極微量含む。

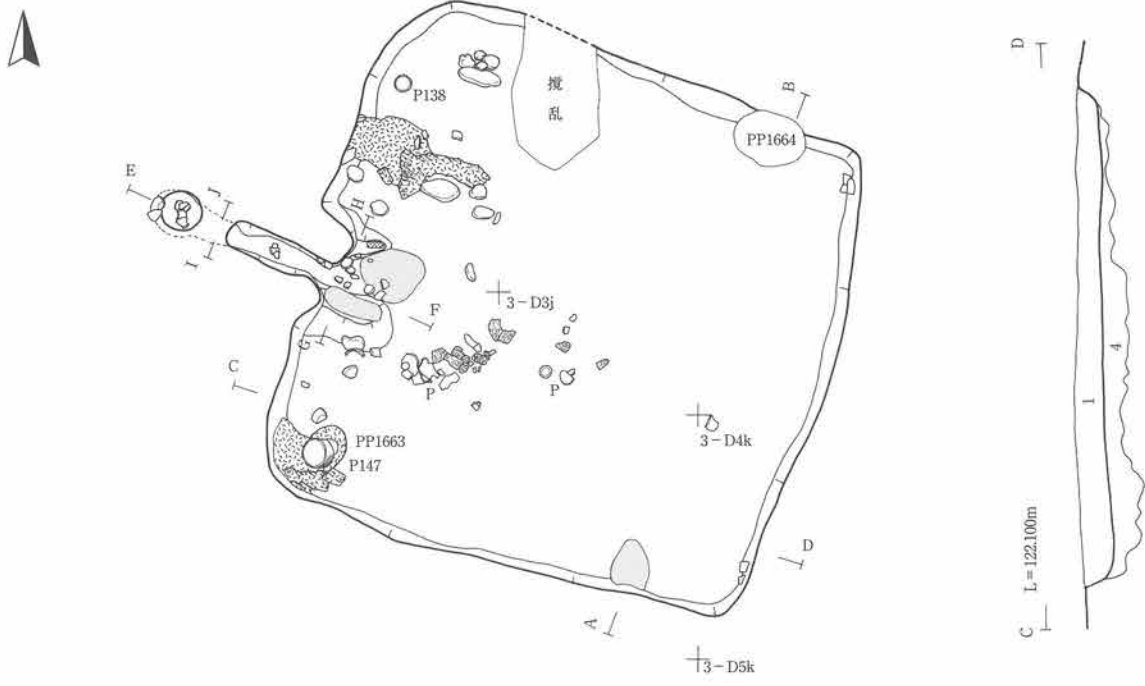
1. 10YR3/1黒褐色土  
粘性・縮まりやや有り。  
2. 10YR3/2黒褐色土  
粘性・縮まりやや有り。  
3. 10YR4/6褐色砂質土  
粘性やや有り。縮まり有り。  
黒褐色土 (10YR5/6) 微量含む。



RA218 C-D・G-H・I-J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。  
2.5YR4/6赤褐色焼土極微量含む。  
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。  
10YR4/4褐色砂質土極微量含む。  
3. 10YR3/1黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
4. 10YR3/2 粘性、縮まりやや有り。  
10YR2/1黒褐色土、炭片、2.5YR4/4にぶい黄褐色土、  
焼土ブロック極微量含む。  
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
10YR3/4暗褐色土、10YR4/4褐色土、2.5YR4/4にぶい  
赤褐色土極微量含む。  
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
7. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
2.5YR4/6赤褐色焼土極微量含む。  
8. 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
炭化物、極微量含む。  
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。  
10YR4/3にぶい黄褐色土極微量含む。  
10. 10YR3/2黒褐色土ブロック 粘性なし。縮まり有り。  
10YR4/6褐色土極微量含む。  
11. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりなし。  
10YR2/2黒褐色土極微量含む。  
12. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り  
10YR5/6黄褐色砂質土を含む。

第53図 RA218竪穴住居跡

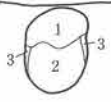


RA312 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや有り。底部に炭化物を僅かに含んでいる。
2. 5YR4/6赤褐色焼土で構成されている。縮まりやや有り。1層のブロックを少量含んでいる。

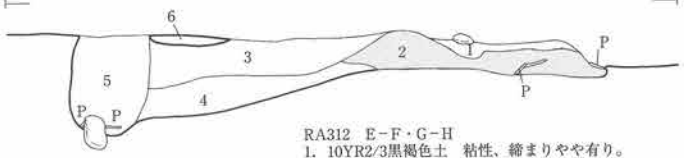
3. 炭化物
4. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。縮まっている。

I L=121.800m J



0 1:30 50cm

E L=121.900m F



RA312 E-F・G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 焼土ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まり弱。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まりやや有り。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。
6. 地山

G L=121.900m H

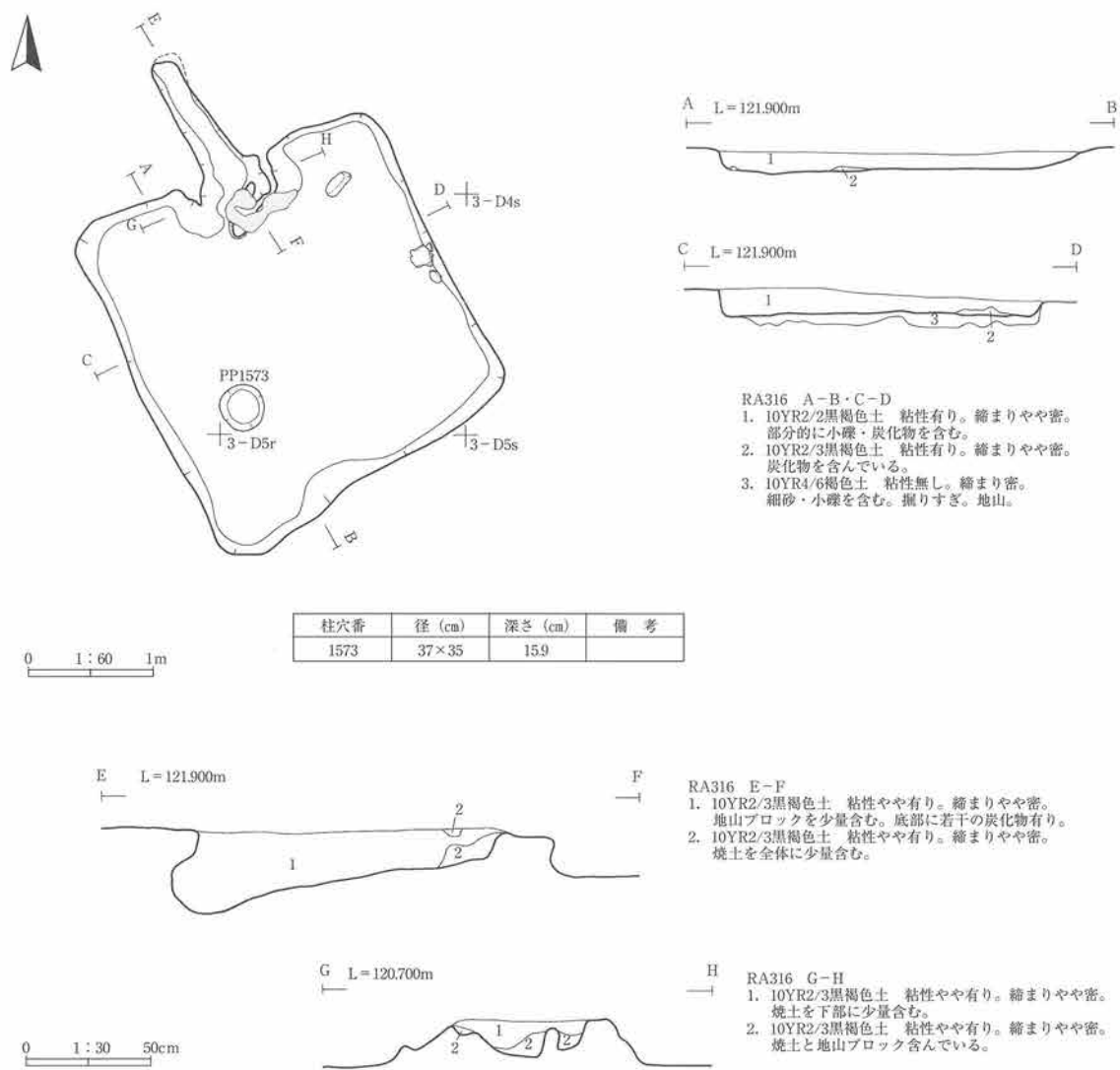


第54図 RA312竪穴住居跡

土師器坏3点・甕4点・小型甕1点、赤焼き坏12点・高台付坏1点・甕3～4点・鉢?1点、須恵器6～7点・高台付1点・甕1点・小型甕1点・壺1点、鉄製品2点(452・456)、鉄滓1点(533)、剥片1点、近世の染付皿1片が出土している。

カマド精査中に129・131赤焼き坏、146・150赤焼き甕、151土師器甕などが、煙道部からは134赤焼き坏、148赤焼き甕などが出土した。138須恵器坏は北壁際の床面に置かれた状態で出土した。147赤焼き甕は西壁隅の床を掘り込み、その中に体部中程まで入った状態で見つかった。152の鉢は焚き口付近の床面から炭化材や他の土師器片と共に散乱した状態で出土している。

<時期>平安時代。



第55図 RA316竪穴住居跡

R A 3 1 6 竪穴住居跡（第55図、写真図版42）

<位置・重複関係>遺跡西部の3-D2rグリッドに位置している。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.0m、北東壁-南西壁は2.7mで平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は6.7㎡、主軸方向はN-30°-Wである。

<埋土>黒褐色土を主体とし床面付近には炭化物が堆積する。自然堆積で良いと思われる。

<壁>床面から12~24cm程残存している。壁溝をもたない構造のようである。

<床面>全面を貼床としており、平坦であるが硬く締まるものではない。

<カマド>北西壁の中央に構築されている。本体部は地山を掘り残してつくられていたようだが天井部は崩落してない。焚き口から燃焼部にかけて焼土が分布していた。煙道部は焚き口から緩やかに煙出し底部へと抉るように掘り下げられている。

<柱穴>1基のみ検出されたが本遺構に伴わないかもしれない。

<遺物>（第167図、写真図版148）埋土及び床面から個体数にして土師器甕2点、赤焼き坏1点、須恵器甕1点が出土している。154の土師器甕は東壁際から破片の状態が出土した。

<時期>平安時代。

R A 3 9 7 竪穴住居跡（第56図、写真図版43）

<位置・重複関係>本遺跡の西側地区にあたる2-D16sグリッドに位置している。RG307溝跡と重複し本遺構の方が古いようである。

<規模・形態・方向>北壁-南壁2.8m、東壁-西壁で3.2mを測り平面形は隅丸長方形に近い。床面積は6.6㎡で主軸方向はS-86°-Eである。

<埋土>黒褐色土を主体としその中に暗褐色土・褐色土ブロックを不規則に含むが自然堆積で良いと思われる。

<壁>遺構を検出した面から底面までは15~12cm程しかない。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。壁溝は見られなかった。

<床面>平坦で南東壁際と南西壁際付近を貼床としている。

<カマド>東壁の中央よりやや北側に設置されている。袖部は壁際では地山を生かし焚き口付近では自然礫と黒褐色土を使い、天井部にも扁平な自然礫を置いていたようである。煙道部は本体部から煙出し底部へ向けて緩やかな斜面で掘り下げられている。

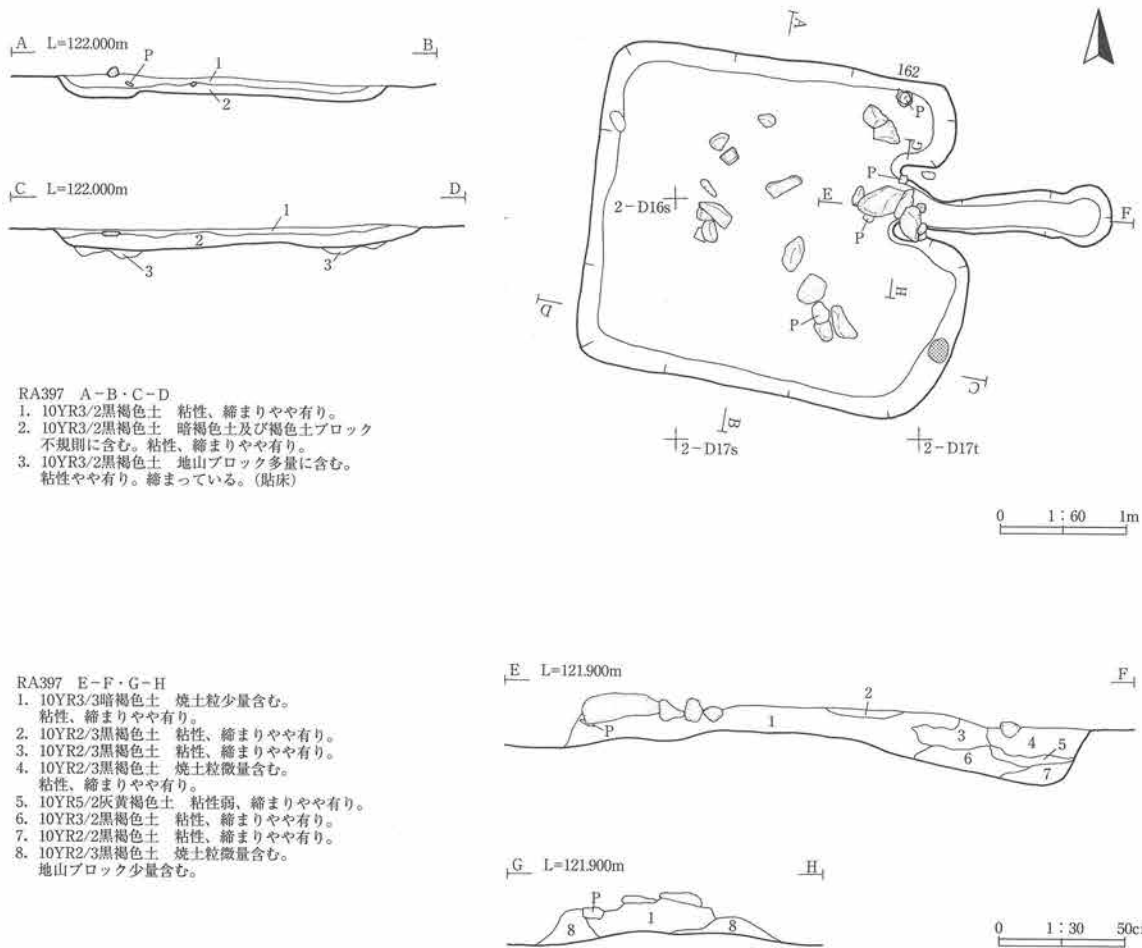
<柱穴>検出されなかった。

<その他>遺構検出面から床面直上にかけて10~30cm程の河原石が本遺構内に散乱した状態で10数個確認された。検出した状況から本住居の廃絶後に入ったものと思われる。また西側壁際と南東壁の一部に小規模な焼土が検出された。

<遺物>（第167図、写真図版148・167）埋土及び床面から個体数にして土師器坏2点・甕3~4点、赤焼き坏5点・甕1点、須恵器坏3点、甕2~3点・壺?1点、奈良時代の甕1点が出土している。

162の土師器甕底部破片はカマド脇北壁際の床面近くから出土した。163須恵器甕は南壁近くから散乱する河原石と共に出土している。

<時期>平安時代。



第56図 RA397竪穴住居跡

RA399 竪穴住居跡 (第57図、写真図版44)

<位置・重複関係>遺跡全体から見ると西側中央部、2-D24k区に位置している。RG315・318と重複関係にあり、本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が4.6m、北西壁-南東壁で5.4mを測り、隅丸長方形のプランを呈する。床面積は22.6㎡で主軸方向はN-23°-Eである。

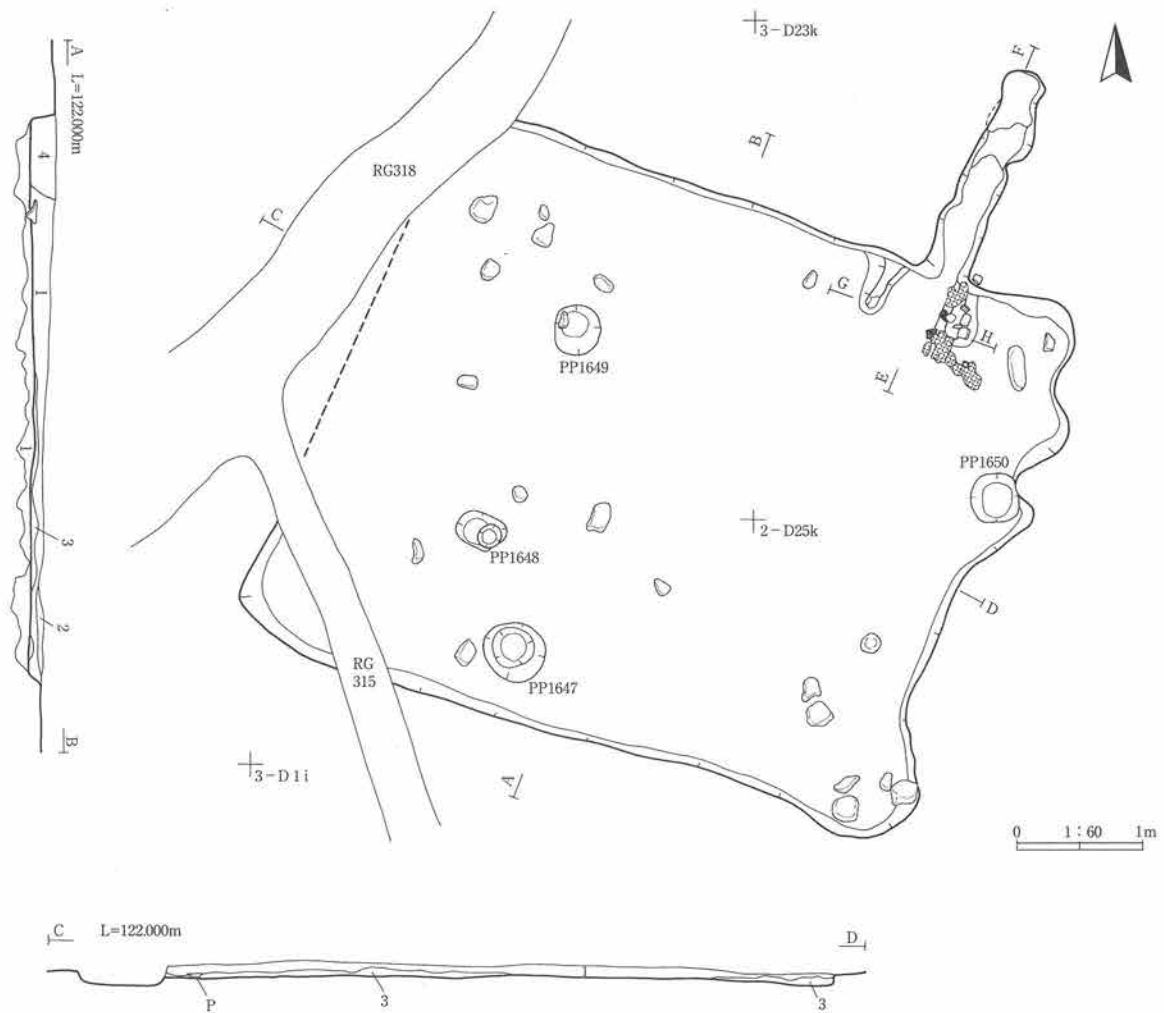
<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積。

<壁>20~10cm程しか残っておらず詳細は不明であるが、床面から若干外傾して立ち上がっている。

<床面>本住居跡は礫層面に達したところを床面としているようで、貼床は施されていない。概ね平坦だが礫層上面が露出している。

<カマド>北東壁の東端に設置されている。本体部は袖部が河原石を芯材にし、褐色土と黄褐色土で覆い、





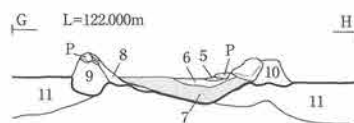
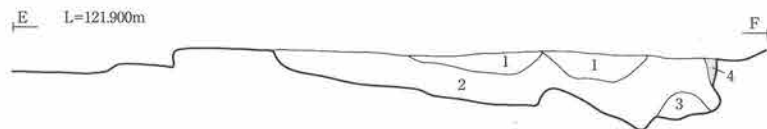
RA399 A-B・C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山粒を僅かに含む)(小礫を僅かに含む)
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(地山ブロックを多く含む)
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1647	52×45	27.8	
1648	40×29	28.8	
1649	41×41	30.1	
1650	42×41	11.6	

RA399 G-H

5. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR4/4褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。  
粘性弱。締まっている。
7. 2.5YR4/8赤褐色土 焼土。粘性弱。  
締まっている。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。
11. 10YR3/3暗褐色土と黒褐色土の混合土。  
粘性弱。締まっている。



RA399 E-F

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを含んでいる)
2. 10YR2/3黒褐色土 締まり密。粘性有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり  
やや密。  
(焼土を僅かに含んでいる。)
4. 5YR3/6暗赤褐色 焼土。

0 1:30 50cm

第57図 RA399竪穴住居跡

天井部には自然礫を用いているようである。燃焼部には40×25cmの焼土の広がりを検出した。煙道部は煙出し底部へ向けて緩やかに下がっている。

<柱穴>住居内からは4基の柱穴を検出した。PP1650は本遺構には伴わないかもしれない。

<その他>床面直上から埋土下層にかけて10～40cm位の河原石が散在する状態で検出されたが、どのような性格をもつものなのか不明である。

<遺物>(第168・169図、写真図版148～150・167) 埋土及び床面から個体数にして土師器は坏5点・高台付坏1点・甕類7、赤焼土器は坏7点・甕類3点、須恵器坏1点が出土した。

164土師器坏・170赤焼き坏・173須恵器坏・175・177土師器甕・181赤焼き甕はカマドを精査中に出土した。171・172赤焼き坏・183赤焼き甕は焚き口付近の床面及び床面直上から出土している。

<時期>平安時代

#### RA400 竪穴住居跡 (第58図、写真図版45)

<位置・重複関係>本遺跡の西側地区にあたる2-D18tグリッドに位置している。重複関係なし。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁3.0m、南東壁-北西壁で3.1mを測り平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は約7.8㎡、主軸方向はS-76°-Eである。

<埋土>炭粒をごく微量含む黒褐色土。自然堆積であろう。

<壁>8～17cm程残存するのみである。底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で西壁際を除き貼床としていた。壁溝は見られなかった。

<カマド>南東壁の北よりに構築されていたが残存状況は悪い。天井部は残っておらず燃焼部付近とその周辺に焼土が散乱していた。袖部は暗褐色土を使ってつくられており、煙道は燃焼部から一旦立ち上がった後、煙出し底部へと斜めに掘り下げられている。

<柱穴>なし。

<その他>遺構検出面から床面直上にかけ10～30cm位の河原石が10数个確認された。検出状況から廃絶後に入ったものと思われる。

<遺物>(第169・170・194・195・199図、写真図版150・168・181・184) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏3～4点・高台付坏1点・甕4～5点、赤焼き坏9～10点・甕1～2点、須恵器坏2～3点・甕2点、砥石2点(511・513)、鉄器2～3点(448・449・457)、鉄滓(534)が出土した。

186赤焼き坏はカマド脇の北壁際床面から出土した。187赤焼き坏は住居中央床面直上に広がる焼土と共に出土した。193の須恵器甕片は南西壁際より出土している。

<時期>平安時代。

#### RA401 竪穴住居跡 (第59図、写真図版46)

<位置・重複関係>遺跡西側にあたる2-D22tグリッドに位置している。RA404住居跡と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>北壁-南壁が4.3m、東壁-西壁で4.2mの隅丸方形プランを呈する。床面積は15.6㎡で主軸方向はS-84°-Eである。

<埋土>黒褐色土を中心とし、西壁際には焼土が堆積している。

<壁>床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。遺構検出面から7cm位しか残存しない。

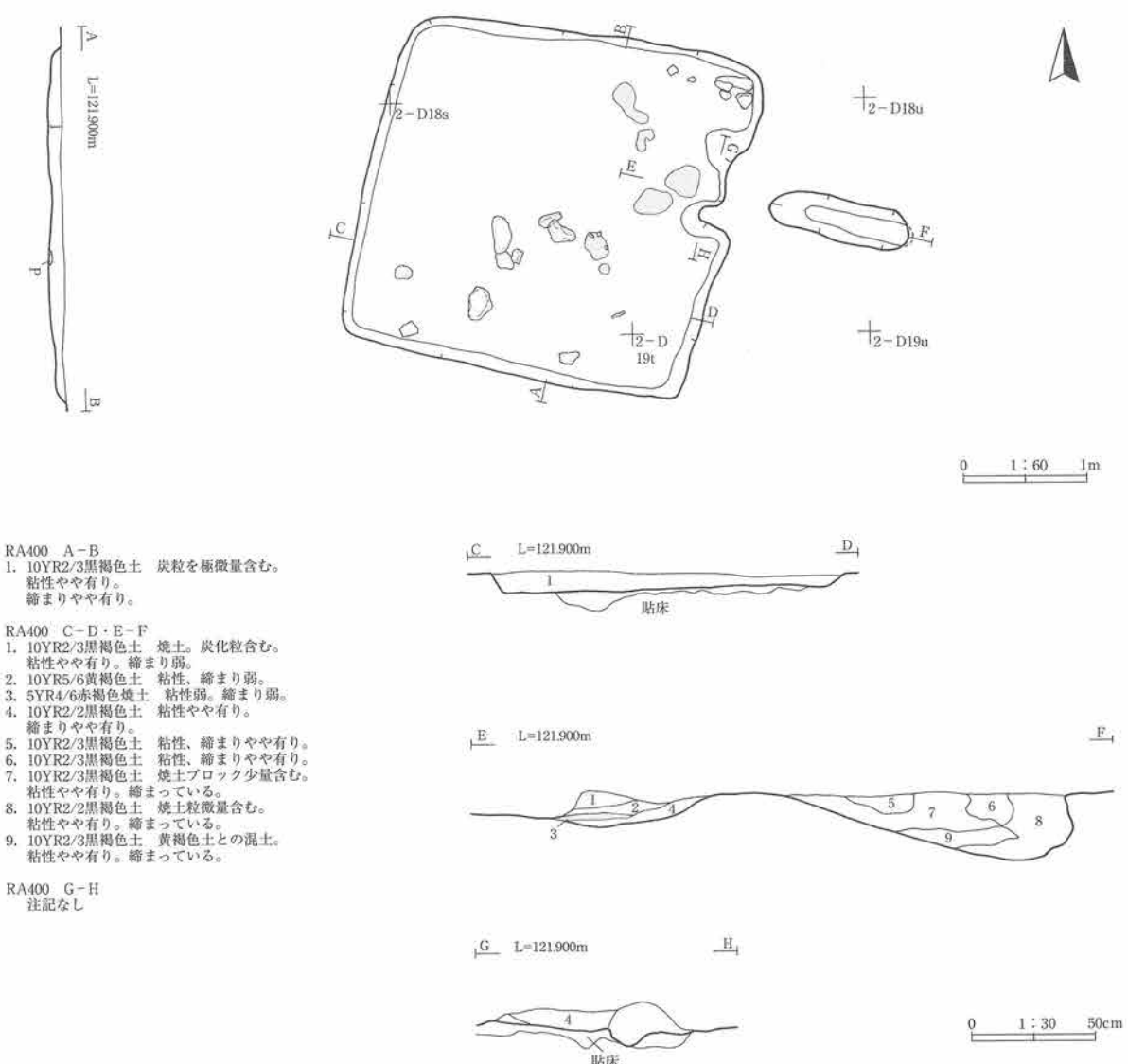
<床面>全面を貼床とし、平坦に構築されている。壁溝は見られなかった。

<カマド>東壁の北端部に構築されていた。袖部は暗褐色土等で作られ、燃烧部の焼土は一部北袖側にも散乱している。煙道はカマド本体から一旦立ち上がった後、煙出し底部へと斜めに掘り下げられている。

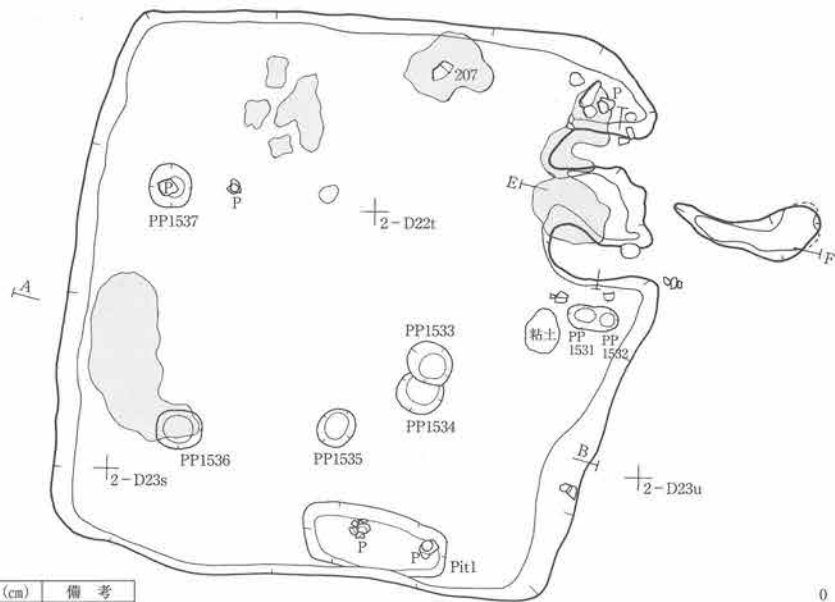
<柱穴>7基の柱穴を確認したが配置が不規則で本遺構に伴わない柱穴も含んでいると思われる。

<土坑>南壁際に開口部112×42cm程の土坑を1基検出した。

<その他>西壁側と北壁側で床面及び床面直上において焼土及び炭化材（ケヤキの若木）の広がりが見られた。その状況から本遺構が焼失している可能性があると思われる。



第58図 RA400 竪穴住居跡

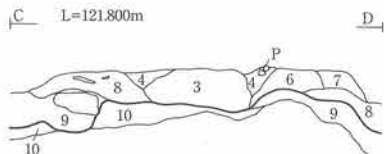


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1531	22×18	—	
1532	22×17	—	
1533	35×28	28.5	
1534	36×25	9.9	
1535	32×28	5.8	
1536	35×30	21.7	
1537	34×32	7.9	



RA401 A-B

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
2. 2.5YR5/8明赤褐色土 粘性弱。締まっている。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR2/3黒褐色砂質土 地山ブロック少量、礫少量含む。粘性、締まりやや有り。(貼床)



RA401 C-D・E-F

1. 10YR5/6黄褐色土 粘性、締まり弱。
2. 2.5YR5/8明赤褐色焼土 粘性弱。締まっている。
3. 10YR3/4暗褐色土 焼土粒含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
4. 7.5YR3/4暗褐色土 焼土多量に含む。粘性、締まり弱。
5. 7.5YR2/3極暗褐色土 焼土粒微量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
6. 10YR2/3黒褐色土 焼土粒微量含む。粘性やや有り。締まっている。



7. 10YR6/8明黄褐色土 黒暗褐色ブロック微量含む。粘性、締まりやや有り。
8. 10YR3/3暗褐色土 焼土ブロック少量含む。粘性やや有り。締まっている。
9. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性、締まりやや有り。
10. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。(貼床)

0 1:30 50cm

第59図 RA401竪穴住居跡

<遺物> (第170～172・194・195図、写真図版150・151・168・169・180・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏10～11点・高台付坏2点・甕8～9点、赤焼き坏8～10点・甕4～5点、須恵器坏2～3点・甕2～3点、軽石1点、鋤先1点(447)・鉄器1点(466)・鉄滓?2点(535ほか1点)、炭化材などが出土した。

カマド袖部の北隣りからは土師器甕201・205が床面から出土した。反対の袖部南脇からは須恵器甕片が出土した。この他カマドの精査中に202・204土師器甕が出土している。南壁際に位置するP i t 1からは184土師器甕・192土師器坏・199赤焼き坏が出土した。194土師器坏はPP1537の検出面からその東隣りで床面から196土師器坏が出土している。北壁付近の焼土中からは床面から赤焼き甕207が出土している。

<時期>平安時代。

#### R A 4 0 3 竪穴住居跡 (第60・61図、写真図版47)

<位置・重複関係>本遺跡の西側となる2-C10fグリッドに位置している。重複関係なし。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が4.6m、南東壁-北西壁では4.5mを測り平面形は方形を呈する。床面積は16.1㎡、主軸方向はS-62°-EとS-66°-Eである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、十和田a火山灰が粒状に堆積。

<壁>遺構検出面から26～30cm程残存しており底面から垂直気味に外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床とし平坦だが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>南東壁から2基並んで検出され、北側を1号カマド、南側を2号カマドとした。互いに重複関係はないが、両者を比べて残存状況が良い2号カマドの方が新しいと思われる。

1号カマド：本体部分は残存せず、燃焼部付近にも焼土は見られなかった。煙道は刳り貫き式と思われ、天井部が崩落していると思われる。本体部から煙出し底部へ斜めに掘り下げている。

2号カマド：燃焼部周辺に焼土が120×52cmの範囲で散らばり、その中に土師器も混じっていた。本体部の側壁は自然礫を黒褐色土等で覆ってつくられていたようである。本体部から煙道部に続く部分は扁平な自然礫を天井として使っている。煙出し底部は一段深く掘り下げられている。

<柱穴>検出されなかった。

<その他>西壁や北壁付近の床面及び床面直上から焼土及び炭化材(ケヤキ)が検出された。本住居の使用時か廃絶後かは不明だが焼失していると思われる。

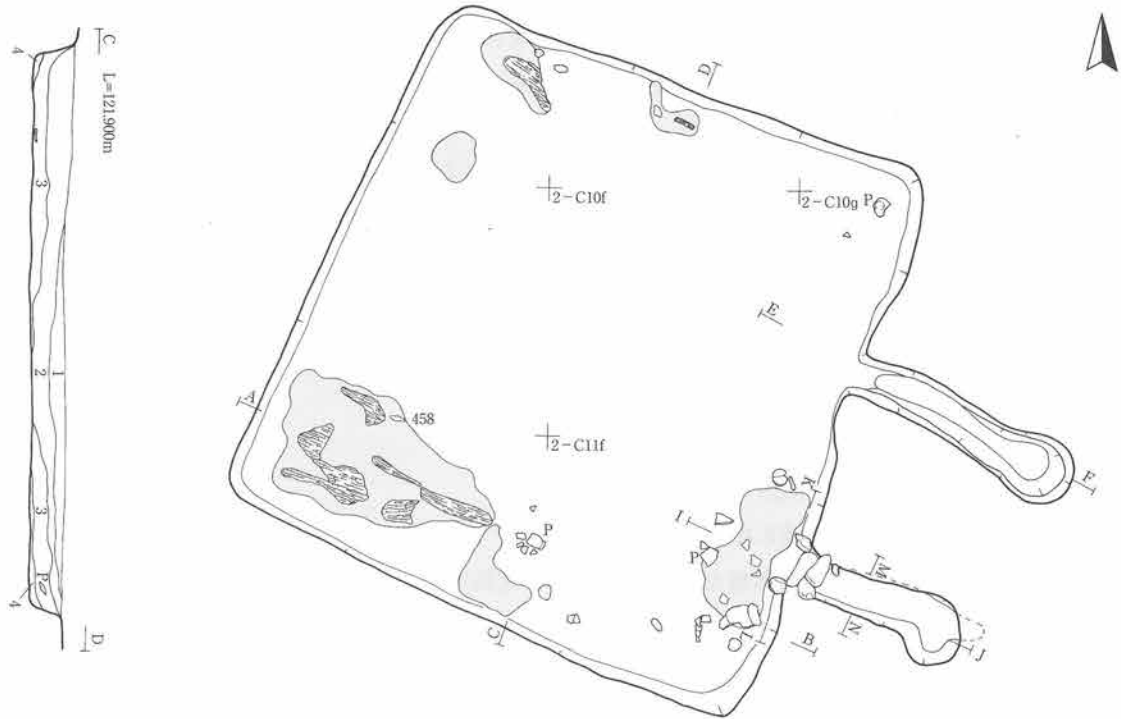
<遺物> (第172・173・195図、写真図版151・152・169・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点・甕5点、赤焼き坏6～7点・高台付坏1点・甕1点、須恵器坏6～7点・甕2～3点、剥片1点、鉄器1～2点(458)が出土した。

北側のカマド煙道部からは216・218土師器甕が出土した。南側のカマド燃焼部付近には212赤焼き坏・215土師器甕・219赤焼き甕・222須恵器甕などが散乱した状態で出土した。この他、211土師器坏は床面からその場で潰れた状態で、458鉄器は住居西側の焼土・炭化材と共に出土している。

<時期>平安時代。

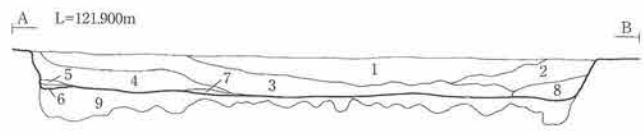
#### R A 4 0 6 竪穴住居跡 (第62図、写真図版48)

<位置・重複関係>遺跡西側にあたる2-C22aグリッドに位置している。



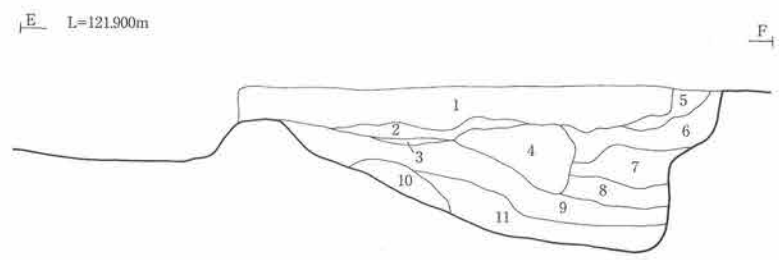
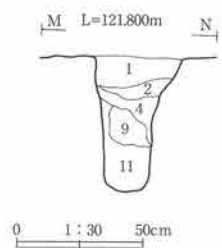
- RA403 C-D
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや弱。締まり密。  
10YR5/6黄褐色1%含む。To-a 0.5%含む。
  2. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強。締まりやや密。  
10YR5/6黄褐色2%含む。To-aを粒状に含む。
  3. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強。締まり中。  
10YR5/6黄褐色シルトを2%含む。To-aを東側に  
ブロック状に2%含む。炭化物を1%含む。土器片を含む。
  4. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強。締まりやや疎。  
(炭化物を含む)

0 1:60 1m



- RA403 A-B
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや強。  
混入物10YR4/6褐色土3%。10YR7/6明黄褐色の火山灰  
が存在。
  2. 10YR2/2黒褐色土 粘性無し。締まりやや強。  
混入物10YR4/6褐色土1%。
  3. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや強。  
10YR4/6褐色土粒3%。10YR7/6明黄褐色  
火山灰小ブロック3%含む。
  4. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや強。  
10YR5/8黄褐色土1%混入。10YR7/6明黄褐色  
火山灰小ブロック3%含む。

5. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや強。  
混入物10YR4/6褐色土1%以下。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや弱。  
10YR4/6褐色土粒10%。
7. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性少し。締まりやや弱。  
混入物10YR2/3黒褐色土50%。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。締まりやや弱。  
混入物土器片4。10YR3/4暗赤褐色土(焼土)1%。
9. 粘床10YR2/3黒褐色土 粘性弱。固く締まっている。  
地山土50%程と混じっている。



第60図 RA403竪穴住居跡(1)

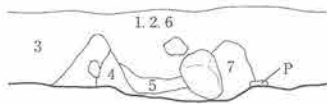
RA403 E-F・M-N

- 7.5YR2/3極暗褐色シルト 粘性やや弱。縮まり強。焼土粒10R4/8全体的に広がる5%。(煙道を覆っていたものが焼けたものか?)炭化物粒微量含む。
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱。縮まりやや強。黄褐色シルト1%含む。
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱。縮まりやや強。黄褐色シルト5%含む。
- 10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや弱。縮まり強。地山本来の土であると考えられる。

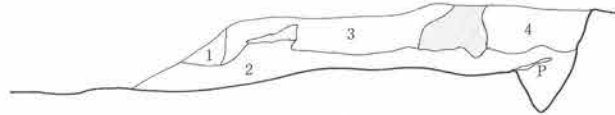
- 10YR3/1黒褐色シルト 粘性弱。縮まり強。
- 7.5R2/2極暗赤褐色シルト 粘性やや弱。縮まりやや強。焼土粒10R4/8 1%
- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱。縮まり中。黄褐色シルト斑に広がる50%。
- 7.5YR2/1黒色シルト 粘性やや強。縮まりやや疎。(最深部は砂質土)

- 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強。縮まりやや疎。壁面の崩落を流れ込みの土の混合、トンネル状になっていた部位。
- 10YR5/6黄褐色シルト 粘性中。縮まりやや密。10YR2/2黒褐色シルトとの混合土(同量)
- 10YR4/6褐色シルト 粘性中。縮まりやや疎。

K L=121.900m



I J=121.900m



0 1:30 50cm

RA403 K-L

- 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。縮まり強。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性無し。縮まり強。10YR4/6褐色土(地山土)を1%程含む。
- 10YR4/6赤褐色土 粘性無し。縮まり強。(袖の土であると思われ焼けている)
- 10YR2/2黒褐色土 粘性無し。縮まり強。
- 10YR1/7黒色土 粘性無し。縮まり強。

- 10YR2/2黒褐色土 粘性無し。縮まり強。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性無し。縮まり強。10YR5/8黄褐色土(地山土)を1%程含む。(カマドの構築土と思われる)
- 10YR3/1黒褐色土 粘性無し。縮まり中。2.5YR4/6赤褐色焼土を粒状に3%程含む。

RA403 I-J

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性無し。縮まり強。10YR5/6黄褐色シルト 粘性無し。
- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや有り。縮まり中。
- 2.5YR4/6赤褐色シルト 粘性やや有り。縮まり中。
- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや有。縮まりやや密。焼土ブロックあり。

第61図 RA403竪穴住居跡(2)

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が2.4m、北東壁-南西壁で2.6mの方形プランを呈する。床面積は5.3㎡で主軸方向はN-34°-Wを示す。

<埋土>黒褐色土に地山ブロック・炭粒を微量含む単層。

<壁>遺構検出面からは12~8cm程度しか残存せず、底面からやや外傾して立ち上がっている。

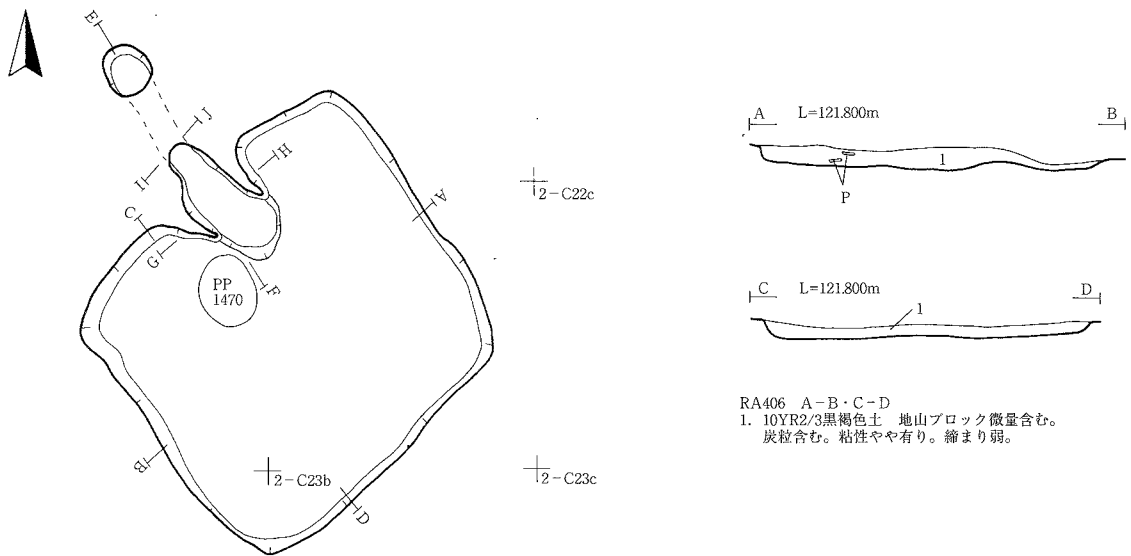
<床面>概ね平坦で硬いが、南西側には凹凸が認められた。壁溝は検出されなかった。

<カマド>北西壁の中央部に設置されている。本体部の側壁は地山の作りつけで構築されていたようだが、天井部は崩落し残存しない。焚き口から燃焼部にかけて床面より一段低く掘り下げられ、煙道部は削り貫き式で煙出し底部は煙道より10cm程深く掘り込まれている。

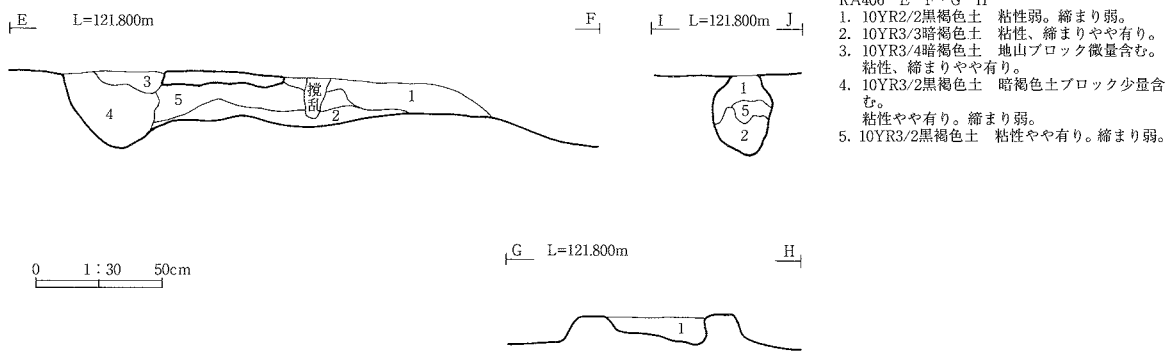
<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されていない。

<遺物>(第173図、写真図版152・169)埋土及び床面などから個体数にして土師器杯2点・甕1~2点、赤焼き杯1~2点・甕1点、須恵器甕1点が出土している。何れも本遺構に伴っていると考えられる。

<時期>平安時代。



RA406 A-B・C-D  
 1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック微量含む。  
 炭粒含む。粘性やや有り。縮まり弱。



RA406 E-F・G-H  
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性弱。縮まり弱。  
 2. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。  
 3. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック微量含む。  
 粘性、縮まりやや有り。  
 4. 10YR3/2黒褐色土 暗褐色土ブロック少量含む。  
 粘性やや有り。縮まり弱。  
 5. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。

第62図 RA406竪穴住居跡

RA408 竪穴住居跡 (第63図、写真図版49)

<位置・重複関係>遺跡西側の2-D15x区に位置している。RA409とRA410と重複し本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>北壁-南壁4.3m、東壁-西壁は4.3mを測り隅丸方形プランを呈する。床面積は16.8㎡で主軸方向はN-78°-Wである。

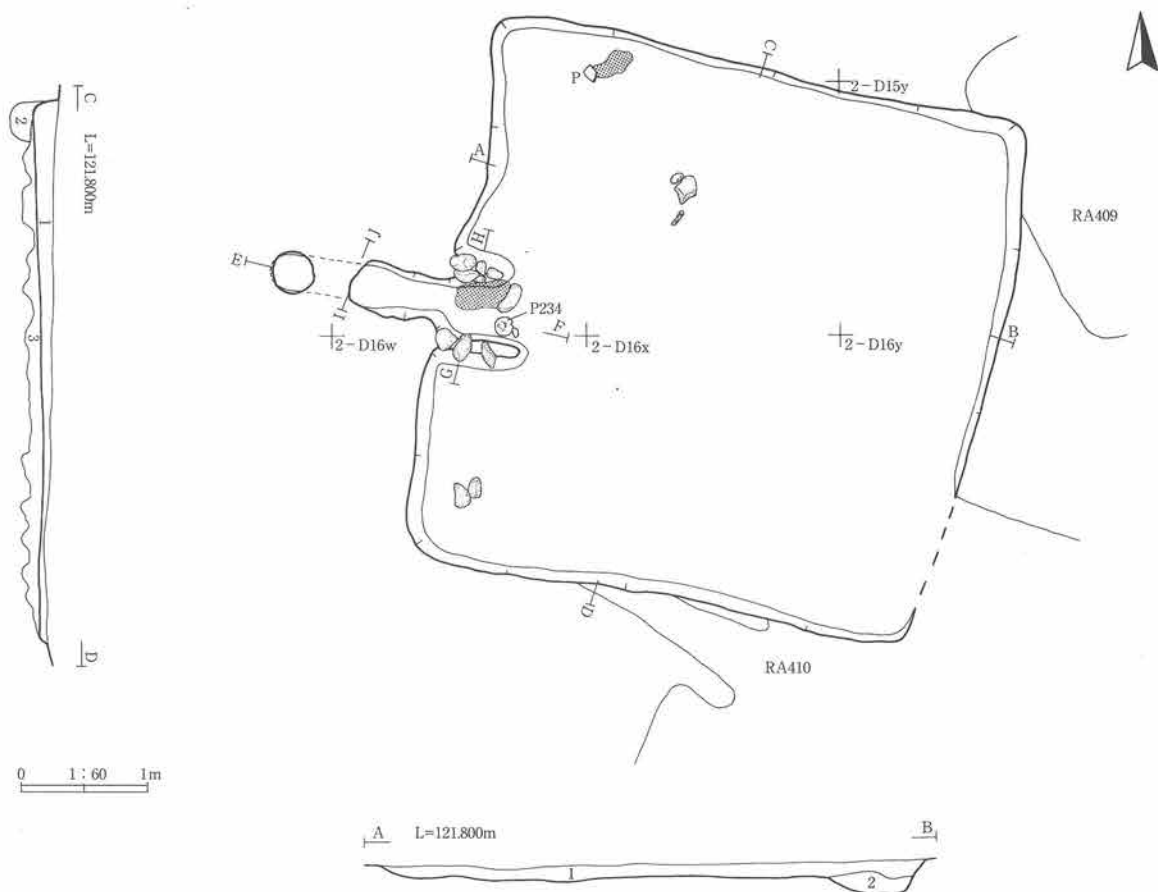
<埋土>黒褐色土の単層、自然堆積であろうか。

<壁>遺構検出面からの残存値は8~21cm程しかないが底面から外傾気味に立ち上がっている。

<床面>平坦につくられており、全面を貼床としていた。壁溝は見られなかった。

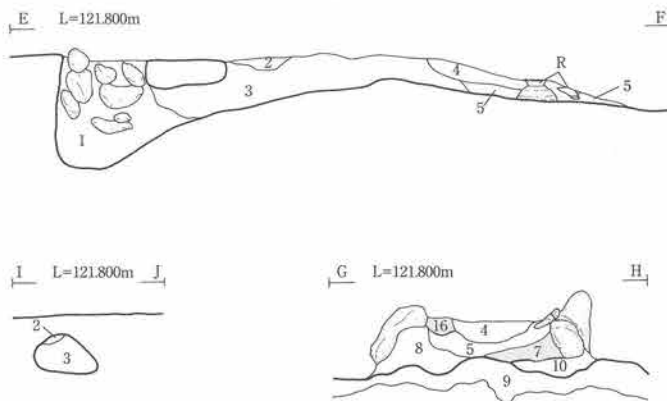
<カマド>西壁の中央やや南側に設置されていた。袖部には10~30cm位の自然礫を芯材に用い、それを暗褐色土等で覆って本体部を構築していたと見られる。燃烧部には45×20cmの範囲で焼土があり、支脚として使われていたと思われる高台付坏が伏せた状態で出土した。煙道部は削り貫き式で煙出し部の埋土には多量の自然礫が含まれていた。本来は煙出し上面の周りに積まれていたものと思われる。





RA408 A-B・C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
3. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。



RA408 E-F・G-H・I-J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。硬く締まっている。10~20cm大の礫多く含む。
2. 5YR2/3極暗褐色焼土 粘性、締まり弱。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山粒2~3%含む。
4. 10YR4/4褐色土 粘性弱。やや締まっている。(5YR4/6赤褐色) 焼土粒少量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 5YR2/3極暗褐色焼土と混じっている。粘性有り。締まりやや弱。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土粒(5YR4/6)を多量に含む。
7. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。焼土粒(5YR4/6)を多量に含む。
8. 10YR3/3暗褐色土 粘性弱。締まり有り。
9. 地山土(焼土粒微量含む。)
10. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや弱。硬く締まっている。

第63図 RA408竪穴住居跡

<柱穴>床面及び貼床を除去した段階でも検出されなかった。

<その他>床面直上まで掘り下げた段階で自然礫が検出され図に示したがその性格は不明である。

<遺物> (第173・174・192・194・195・197～199図、写真図版152・153・169・181・184・185) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏4～5点・高台付坏3点・鉢1点甕類2～3点・甌1点、赤焼き坏2～3点、須恵器坏10～11点・甕3点・大甕1点・壺類1点、鉄製品7点(450・464)、奈良時代の球胴甕? 2点、砥石2点(509・512)、石皿1点(514)、土製品(494)、陶器挿鉢(446)が出土している。

234土師器高台付坏はカマド燃焼部内から伏せた状態で見つかった。そのすぐ脇に土師器坏片228があった。229土師器坏や231須恵器坏は床面から破片の状態出土している。

<時期>平安時代。

#### RA411 竪穴住居跡 (第64図、写真図版50)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C22d区に位置している。RA412住居及びRD810と重複関係にあり本遺構のほうが新しい。

<規模・形態・方向>北壁-南壁4.5m、東壁-西壁で4.3mを測り、床面積は16.5㎡である。平面形は隅丸方形を呈し主軸方向はN-90°-Eを指す。

<埋土>黒褐色土主体で床面付近には暗褐色砂質土が堆積する。自然堆積と思われる。

<壁>遺構検出面から床面までは23～8cmしかなく残存状況は悪い。

<床面>礫層に達した面を床としているため硬く、貼床は施されていない。

<カマド>東壁の南端に構築されている。本体部は殆ど残存せず南東壁隅に燃焼部の焼土が散乱していた。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明である。煙出し底部が一段深く掘り込まれている。

<柱穴>2基の柱穴を検出したが本遺構に伴うか判然としない。

<遺物> (第175図、写真図版153) 埋土及び床面から土師器坏2点・高台付坏1点・甕類3点・甌1点、赤焼き坏1～2点、須恵器坏1点・甕類1点が出土した。

246土師器甌はカマド精査中に出土した。244赤焼き坏は西壁際床面から、245土師器高台付坏は北東側の床面から出土している。

<時期>平安時代。

#### RA413 竪穴住居跡 (第65図、写真図版51)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C22gグリッドに位置している。RA412竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。

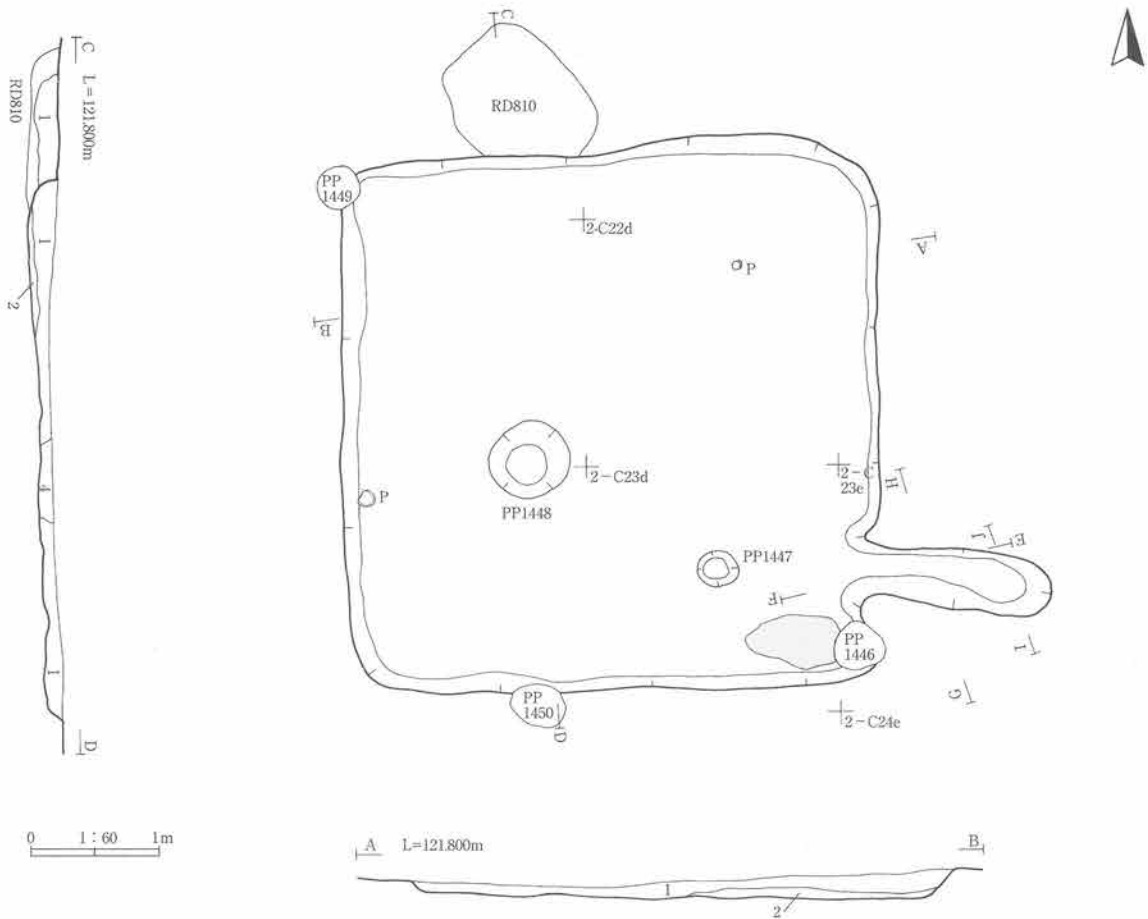
<規模・形態・方向>北壁-南壁が3.5m、東壁-西壁で3.3mを測り、平面形は概ね方形を基調としている。床面積が9.6㎡で主軸方向はN-88°-Wを指す。

<埋土>埋土下位に地山ブロックを微量含む黒褐色土の単層。

<壁>遺構検出面から18～12cm程残存し底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で全面を貼床としやや硬く締まる。壁溝は見られなかった。

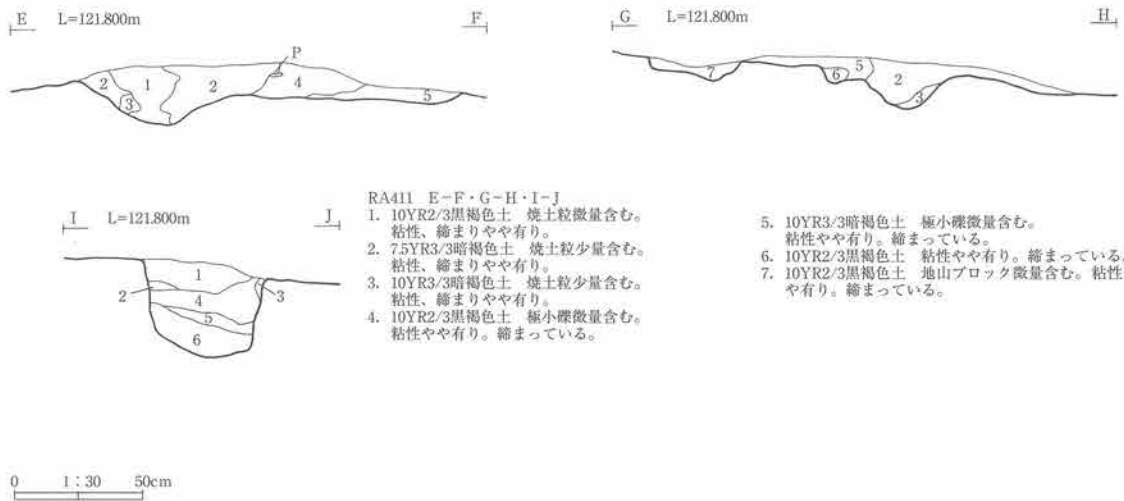
<カマド>東壁の北側に設置されている。本体部は崩落が著しいが、10～40cmの自然礫を黒褐色土で覆い、側壁と天井を構築していたようである。煙道部は削り貫き式か掘り込み式か不明で、煙出し部の埋土には40



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1447	32×29	17.4	
1448	65×64	27.9	

RA411 A-B・C-D

- 10YR2/3黒褐色土 小礫少量含む。粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色砂質土 小礫少量含む。粘性弱。締まりやや有り。
- 5YR3/6暗赤褐色焼土 粘性弱。締まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性やや有り。締まり弱。



RA411 E-F・G-H・I-J

- 10YR2/3黒褐色土 焼土粒微量含む。粘性、締まりやや有り。
- 7.5YR3/3暗褐色土 焼土粒少量含む。粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 焼土粒少量含む。粘性、締まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 極小礫微量含む。粘性やや有り。締まっている。
- 10YR3/3暗褐色土 極小礫微量含む。粘性やや有り。締まっている。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
- 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性やや有り。締まっている。

第64図 RA411竪穴住居跡

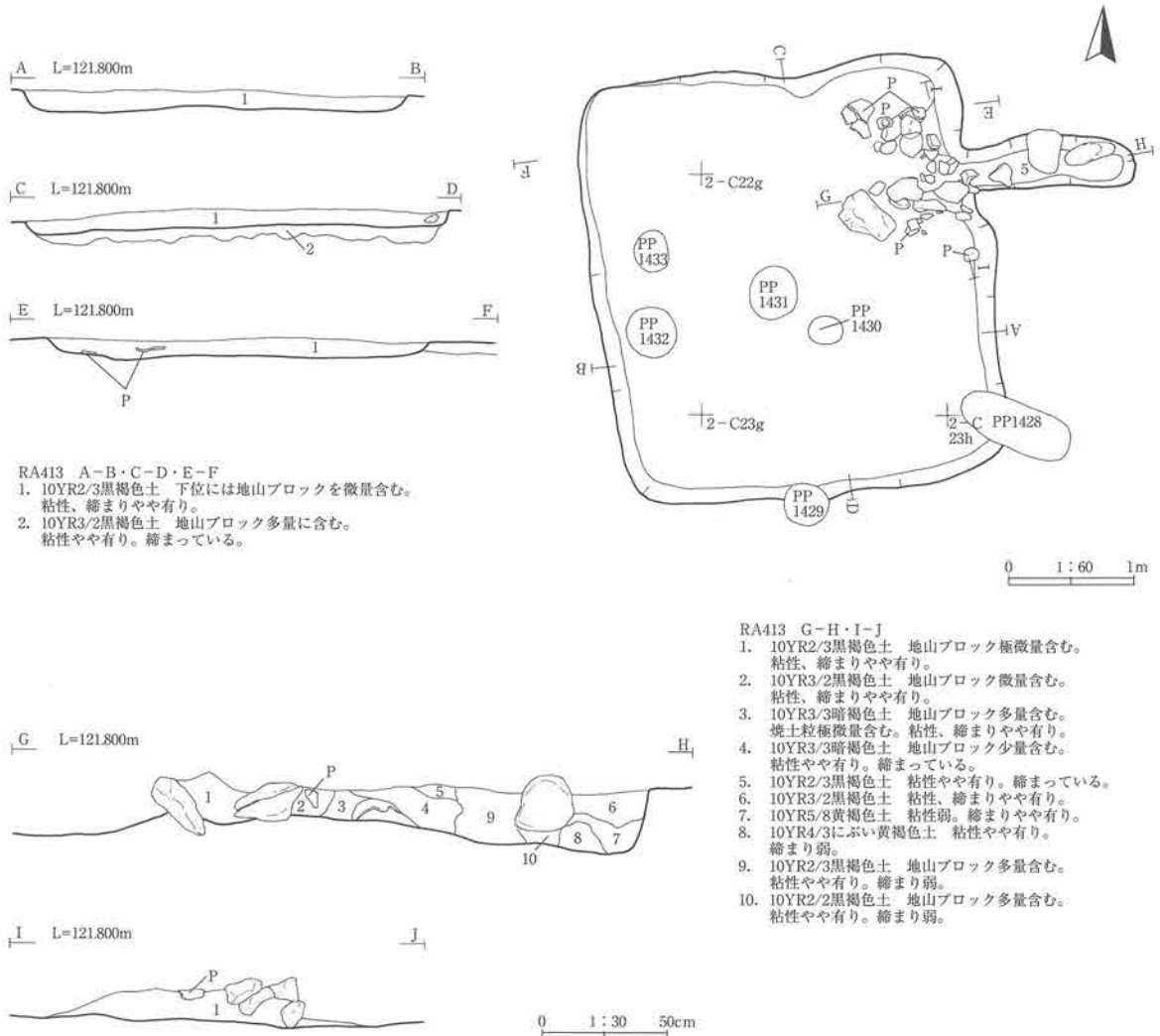
cm程の河原石が含まれていた。

<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されなかった。

<遺物> (第175・176・195図、写真図版154・155・170・181) 埋土及び床面等から個体数にして土師器坏1～2点・甕2～3点、赤焼き坏4～5点・甕4～5点、須恵器坏1片・甕2点、鉄器2点(458ほか1点)が出土している。

煙道部埋土からは256土師器甕のほか土師器坏247や土師器高台付坏253などが出土した。カマドからは多数の礫と共に床面及び床面直上から254赤焼き高台付坏、258・260・261赤焼き甕、262須恵器甕などが散乱した状態で出土している。

<時期>平安時代。



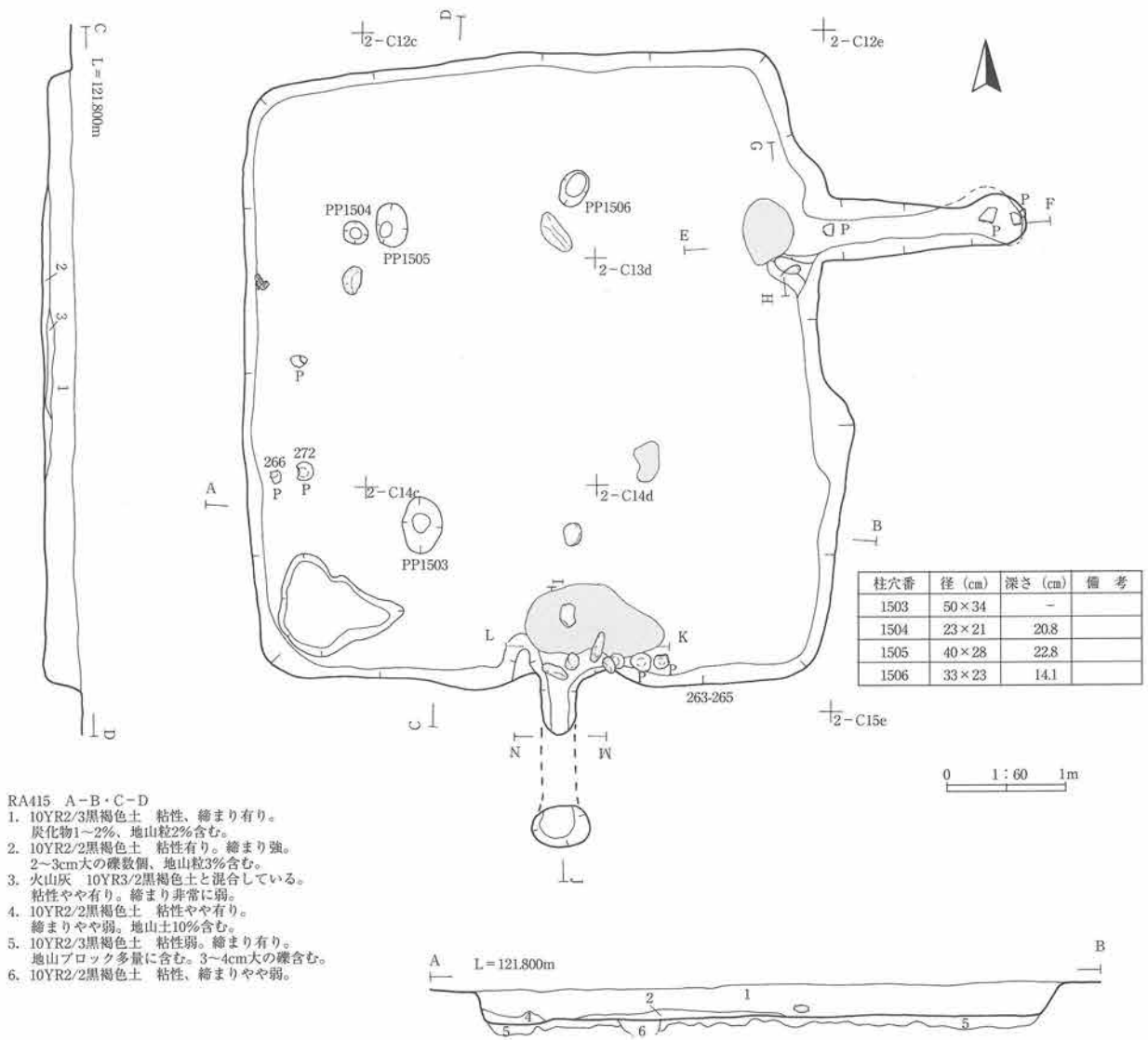
第65図 RA413竪穴住居跡

RA415 竪穴住居跡 (第66・67図、写真図版52)

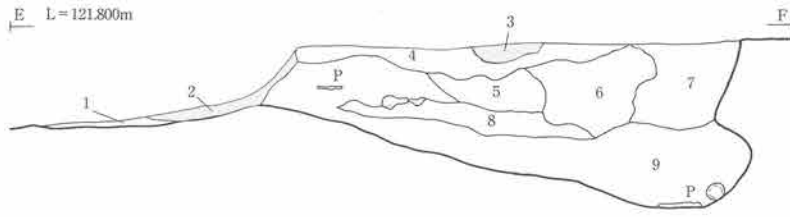
<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C12c区に位置している。RA416竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の報が新しい。またRA419竪穴住居跡とも南側のカマドの煙出部が重複しているが、新旧関係は把握できなかった。

<規模・形態・方向>東辺5.5m、西辺5.2m、南辺4.8m、北辺4.6mを測り、隅丸長方形のプランを呈する。床面積は約24.2㎡、主軸方向はS-3°-E・N-85°-Eである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、床面からやや浮いた所に十和田a火山灰ブロック

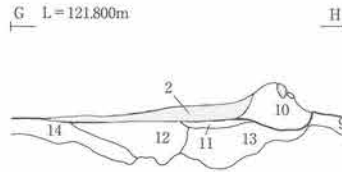


第66図 RA415竪穴住居跡(1)

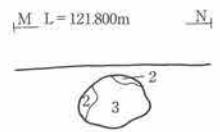
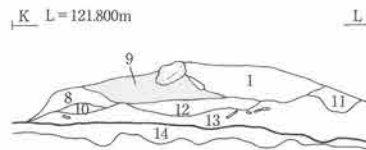
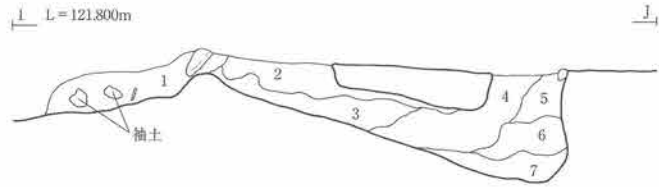


RA415 E-F・G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。固く締まっている。焼土粒3%含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 多量の焼土(5YR4/6)と混合している。粘性、締まり弱。炭少量含む。
3. 7.5YR3/4暗褐色(焼土) 粘性、締まり有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。固く締まっている。5YR4/6赤褐色ブロック(焼土)5%含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや弱。焼土粒微量含む。
6. 7.5YR2/3極暗褐色土 粘性、締まり有り。7.5YR4/6褐色ブロック(焼土)10%含む。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
8. 7.5YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。焼土粒微量含む。
9. 7.5YR3/2黒褐色土 締まりやや弱。焼土粒微量含む。粘性有り。



10. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。炭、焼土粒微量含む。
11. 7.5YR2/3極暗褐色土 粘性やや弱。締まり有り。炭、焼土粒微量含む。
12. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。地山ブロック多く含む。焼土粒微量含む。
13. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。地山土多量に含む。
14. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まりやや弱。地山土多量に含む。



RA415 I-J・K-L・M-N

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや弱。固く締まっている。(カマドの袖土をブロック状に含む) 焼土粒5YR4/6赤褐色土粒状に多く含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土(7.5YR3/4暗褐色土)をシミ状に含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土(7.5YR3/4)をシミ状に含む。地山ブロック3%含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土粒微量含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土ブロック(7.5YR4/6褐色土)1%含む。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土ブロック(7.5YR4/6褐色土)2%含む。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
8. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。焼土粒3%含む。

9. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり弱。焼土粒(5YR4/6)多量に含む。(カマドの袖土と混合している)
10. 焼土粒地山土(10YR4/4)と炭の混合土。粘性弱。やや締まっている。
11. 地山土(10YR4/4) 焼土粒微量含む。粘性弱。締まり有り。
12. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土、地山土多量に含む。
13. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。焼土粒少量、地山土20%含む。
14. 10YR2/2黒褐色土と地山土の混合土。粘性、締まり有り。

0 1:30 50cm

第67図 RA415竪穴住居跡(2)

が見られる。

<壁>概ね底面から外傾して立ち上がっている。各壁中央部の壁の残存値は東壁30cm、西壁29cm、南壁20cm、北壁30cmである。

<床面>ほぼ平坦に構築され、全面に3～12cm程の掘り方を持ち黄褐色土と暗褐色土を主体として貼床されている。

<カマド>2基のカマドを確認した。

1号カマド：東壁の中央からやや北側に設置されており全体的に残存状況は良くない。燃烧部の焼土は60×43cmの広がりを持ち、層厚は2～7cmを測る。南側の袖部は自然礫を芯材に用い、黒褐色土で覆って構築しているが北側は失われている。煙道部は削り貫き式か掘り込み式か不明である。燃烧部から煙出し底部へ緩やかに下がっており、底部は船首状に反り返っている。

2号カマド：南壁のほぼ中央に設置されている。本体部文の残りは良くない。燃烧部の焼土は120×64cmの広がりを持ち、層厚は2～12cmを測る。東側袖部付近からは芯材に用いられていたと見られる自然礫が4個検出された。煙道部は削り貫き式で燃烧部から煙出し底部へは緩やかに下がっている。

<柱穴>貼床を除去する段階で4基の柱穴を確認した。PP1503とPP1505は位置的に支柱穴の可能性もあるが、対応するであろう地点から柱穴は検出されなかった。

<その他>南西壁隅に掘り込みを確認したが、詳細は不明である。

<遺物>（第177・178図、写真図版155～157・170）埋土中及び床面から個体数にして土師器坏9～10点、高台付坏1点、甕7点、赤焼坏11～13点、甕1～2点、須恵器坏10～11点、甕類1～2点、壺類1点が出土している。

南カマドの東袖脇に並んで土師器坏263～265が出土した。南カマドからはこの他に270赤焼き坏、271須恵器坏、283須恵器壺が出土している。東カマドの煙出部埋土からは土師器甕274～277が出土した。266土師器坏と272須恵器坏は並んだ状態で西壁際床面から出土している。

<時期>平安時代。

#### RA419 竪穴住居跡（第68図、写真図版53）

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C16cグリッドに位置している。RA418竪穴住居跡と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>北東壁－南西壁が5.1m、北西壁－南東壁では4.3mを測り、平面形は長方形を基調としている。床面積は20.2㎡で主軸方向はN-67°-Wとなる。

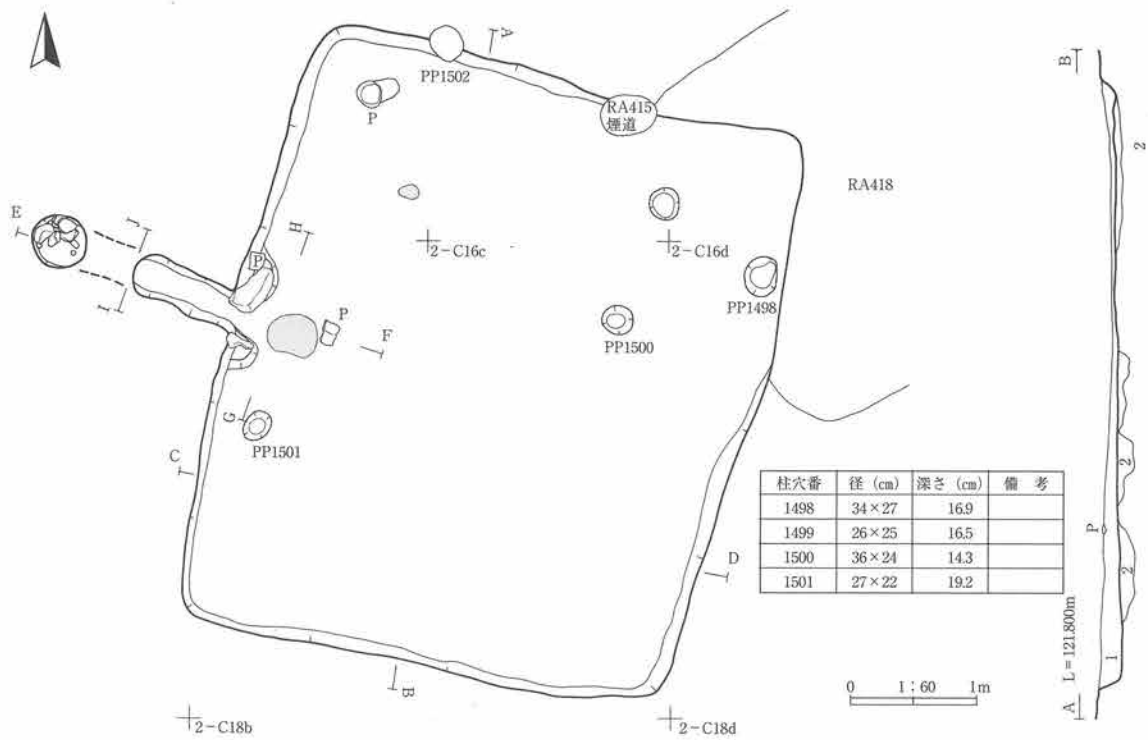
<埋土>黒褐色土の単層で自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は16～6cmでRA418との重複部分は壁が立ち上がらない。壁は概ね底面から外傾して立ち上がっているが、北西壁ではやや垂直気味に立ち上がっている。

<床面>平坦で硬く全面を貼床としていた。壁溝は検出されなかった。

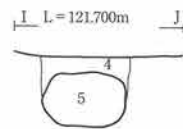
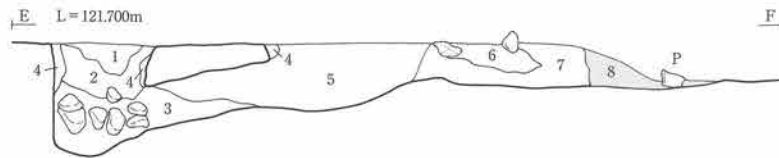
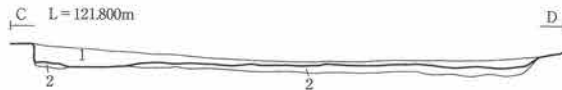
<カマド>北西壁の中央やや南側に設置されている。本体部の残りは悪いが袖部は河原石を芯材としそれを土で覆って構築されていたようである。燃烧部から焚き口部分に相当するところに45×35cmの範囲で焼土が確認された。煙道部は削り貫き式で煙出し底部からややあがったところには10数個の河原石がまとまって入っていた。

<柱穴>5基の柱穴を検出したが、不規則な配置を呈している。



RA419 A-B・C-D

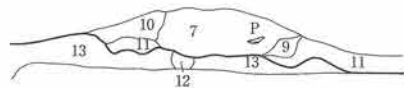
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。固く締まっている。  
地山土 (10YR4/4褐色土) 50%程と混合している。(貼床)



RA419 E-F・G-H・I-J

- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。  
地山粒少量、炭微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。  
焼土粒、炭少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。  
こぶし大の礫多量に含む。
- 5YR3/4暗赤褐色 (焼土) 粘性、締まり有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山粒、焼土微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土と地山土との混合土  
粘性、締まり有り。焼土微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
焼土 (5YR3/4) 3%程、地山土多量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
焼土粒10%程多量に含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山土多く含む。

G L=121.700m



- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。固く締まる。  
地山粒、焼土少量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。  
焼土少量、地山ブロック多量含む。
- 5YR4/6赤褐色砂質焼土 粘性弱。締まり有り。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性弱。締まり有り。  
10YR2/3黒褐色土少量含む。

0 1:30 50cm

第68図 RA419竪穴住居跡



<その他>北側の床面直上付近に小規模な焼土の広がりが見られた。

<遺物> (第179図、写真図版157・170・171) 埋土及び床面等から個体数にして土師器坏4～5点・鉢1点・甕2点、赤焼き坏2～3点、須恵器坏4点・甕1～2点・壺? 1点が出土している。

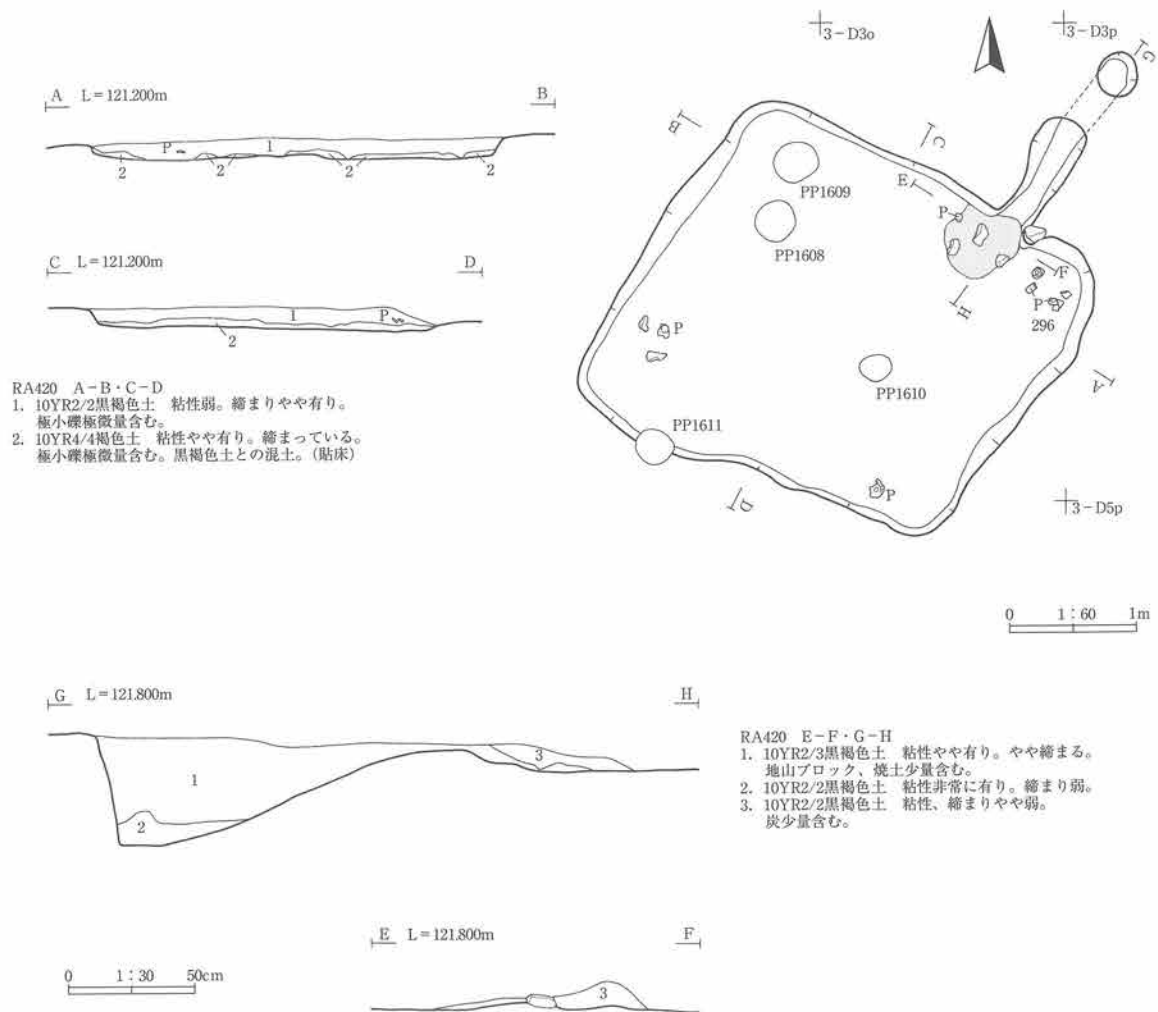
288土師器甕は北壁際床面からほぼ完形のまま傾いた状態で出土した。カマドでは焚き口部から土師器甕287が、袖部からは須恵器甕291が出土している。

<時期>平安時代。

RA420 竪穴住居跡 (第69図、写真図版54)

<位置・重複関係>遺跡西側の3-D4のグリッドに位置している。RA407とは重複関係にあり本遺構のほうが新しい。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が3.1m、北西壁-南東壁では3.3mを測り南東壁がやや歪な隅丸長方



第69図 RA420竪穴住居跡

形を測る。床面積は8.5㎡で主軸方向はN-36°-Eである。

<埋土>極小礫を微量含む黒褐色土の単層で自然堆積である。

<壁>遺構検出面からは20~10cm程しか残っていない。何れも底面から外傾して立ち上がっており、壁溝は認められなかった。

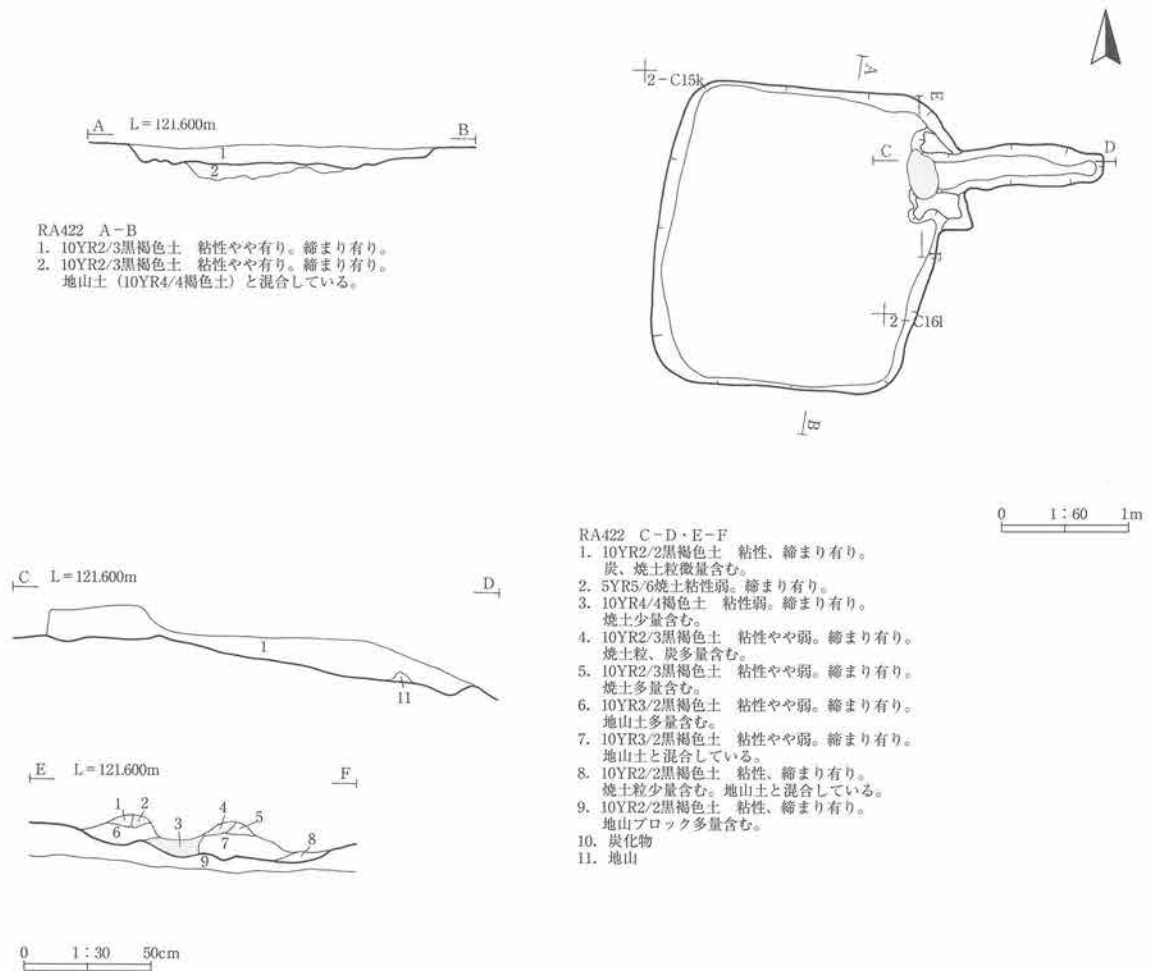
<床面>概ね平坦に構築されている。貼床にはしていないようである。

<カマド>北東壁の東端付近に設置されている。本体部の残りが悪く詳細な規模は把握できないが燃焼部付近に焼土と共に自然礫が幾つか残っていることから、側壁をこれらの礫と黄褐色土等で構築していたのであろう。煙道部は地山をトンネル状に削り貫いてつくられており、燃焼部から急角度で煙出し底部へと掘り込まれている。

<柱穴>床面を中心に4基の柱穴を検出したが本遺構より新しい柱穴と判断した。

<遺物>(第180・199図、写真図版157・171・185)埋土及び床面等から個体数にして土師器坏2点・甕2点、赤焼き坏1点、須恵器坏3~4点・甕1~2点、台石1点(515)が出土した。カマド東脇の床面からは296土師器甕が出土し、南西及び西側壁近くの床面からは295甕と293赤焼き坏が出土している。

<時期>平安時代。



第70図 RA422竪穴住居跡

#### R A 4 2 2 竪穴住居跡（第70図、写真図版55）

＜位置・重複関係＞遺跡西部にあたる2-C15kグリッドに位置している。RG325溝跡に煙出し部分を切られている。

＜規模・形態・方向＞東壁-西壁が2.3m、北壁-南壁では2.5mを測り平面プランは隅丸方形を基調としている。床面積は4.7㎡で主軸方向はN-89°-Eである。

＜埋土＞黒褐色土の単層。自然堆積でよいと思われる。

＜壁＞遺構検出面から床面まで8~15cm程しか残っていない。壁構は持たないようである。

＜床面＞やや凹凸が認められた。壁に近い場所を除いて貼床としている。

＜カマド＞東壁の北端に設置されている。カマド本体の側壁を見ると黄褐色土を中心に構築されているようで、側壁の内側と燃焼部底面は被熱により赤変している。煙道及び煙出し部は残りが悪いが、本体部から緩やかな傾斜を持って掘り下げられている。

＜柱穴＞貼床を除去して探したが検出されなかった。

＜遺物＞（第196図、写真図版182）478寛永通寶が出土した。

＜時期＞周囲の遺構分布状況から平安時代と思われる。

#### R A 4 2 3 竪穴住居跡（第71図、写真図版56）

＜位置・重複関係＞南西調査区の北西隅、4-C6kグリッド付近に独立して位置する。IV層の上面から検出された。

＜規模・平面形・方向＞3.5×3.3mで、床面積は約10.5㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、主軸方向は、N-15°-Wでほぼ真北を示している。

＜埋土＞自然堆積で、黒褐色のシルトが主体を占め、一部に後世の攪乱（杭の跡）が見られる。

＜壁＞上面が全体的に削平を受けていると思われるが、残存する壁高は10~12cmで、床面から急な傾斜で立ち上がる形態を示している。壁溝は検出されていない。

＜床面＞黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層は厚いところで12cm、薄いところでは殆ど見られないところもある。全体に褐色土と水酸化鉄のブロックを少量含んでいる。

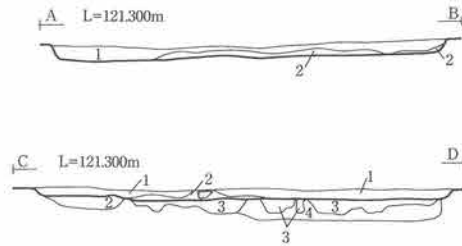
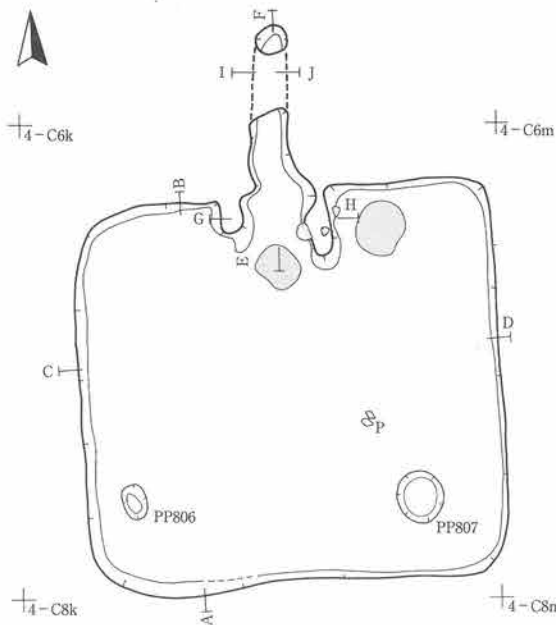
＜カマド＞北側のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口、および右側袖の脇に焼土が分布し、合わせて右側袖の上面には、土師器片と12cm大の礫が分布している。袖部分は黒褐色のシルトが主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。煙道は削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径26×22cm・深さ45.6cmの円形土坑の形態を示している。

＜柱穴＞南側の隅に2基の柱穴状土坑が存在するが、南西側のPP806（径28×18cm、深さ13.7cm）、南東側のPP807（径44×38cm、深さ13.8cm）は、主柱穴の一部を形成しているものと推定される。これらの埋土は、黒褐色を主体とするシルトで構成され、堅く締まっていた。

＜出土遺物＞（第180図、写真図版158・171）埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点、赤焼き坏1点、須恵器甕1点が出土している

床面の中央付近から、300須恵器の甕（体部片）および、298土師器の坏（底部）が出土している。カマド東袖部からは299赤焼き坏が出土している。

＜時期＞床面から出土した出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



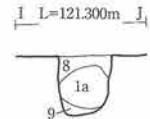
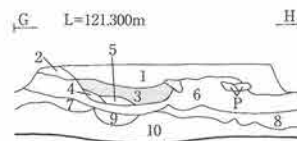
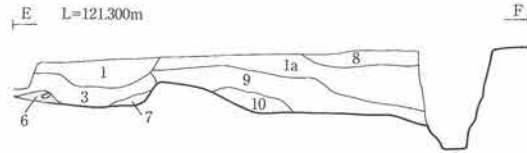
- RA423 A-B・C-D
- 10YR3/2黒褐色土 シルト 10YR5/6黄褐色~4/6褐色シルト 中ブロック10%含む。
  - 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性やや有り。 10YR5/6黄褐色シルト大ブロック40%含む。
  - 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。 水酸化鉄斑少量含む。10YR4/4褐色土ブロック少量含む。貼床。
  - 10YR4/4褐色土 粘性、締まり有り。 水酸化鉄斑多量含む。貼床。

0 1:60 1m

柱穴番	径(cm)	深さ(cm)	備考
806	28×18	13.7	
807	44×38	13.8	

RA423 G-H

- 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性中。締まりやや密。 焼土粒2%、炭化物1%混入。
- 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性中。締まりやや密。 褐色土20%混入。
- 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性中。締まりやや密。 焼土粒20%、炭化物1%混入。
- 10YR4/4褐色土 シルト 粘性中。締まりやや密。 褐色土(10YR4/6)30%混入。
- 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性中。締まりやや密。 褐色土(10YR4/6)3%混入。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。 炭、焼土粒多く含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり有り。 10YR2/2黒褐色土と混合している。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性弱。締まりやや有り。 水酸化鉄斑少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土(やや砂っぽい) 粘性、締まり弱。
- 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性弱。やや締まる。 地山5層。



0 1:30 50cm

RA423 E-F・I-J

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中。締まりやや密。 焼土粒2%、炭化物1%混入。
- 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 褐色土2%混入。
- 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 焼土粒20%、炭化物1%混入。
- 10YR4/3にふい黄褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 焼土粒10%混入。
- 10YR4/3にふい黄褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 炭化物5%混入。
- 10YR4/4褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 褐色土(10YR4/6)30%混入。
- 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 褐色土(10YR4/6)2%混入。
- 10YR4/3にふい黄褐色土 シルト 粘性中。締まり中。 褐色土(10YR4/6)中ブロック混入。

第71図 RA423竪穴住居跡

R A 4 2 4 竪穴住居跡（第72図、写真図版57）

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央、4-C17qグリッド付近に独立して位置する。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>3.2×3.1mで、床面積は約9.4㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向は、N-70°-Wを示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占める。

<壁>壁高は33~35cmで、床面からはほぼ垂直に立ち上がる形態を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層は厚いところで10cm、薄いところでは殆ど見られないところもある。黒褐色土が主体となり、地山のブロックを含んでいる。

<カマド>西側壁のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口と左袖部分、および住居北西隅の床面に焼土が、焚き口の手前には炭化物がそれぞれ分布する。焚き口の中央には、土師器片と焼けた痕跡が残った径10cm程度の礫が、左袖の上面からは土師器片が出土した。袖部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径46×43cm・深さ42.3cmの円形土坑の形態を示している。煙出しの底部には、大小2個の自然石が出土している。

この住居は、カマドの残りが比較的良好であったため、調査終了間際に開催された現地説明会において、カマドの復元を行った。復元した状態については写真図版を参照して頂きたい。

<柱穴>北西隅のPP963、南東隅のPP966は、ともに主柱穴を形成しているものと推定される。

カマド正面に近いPP964と、東壁中央付近のPP965は、その配置から、主柱穴を形成しないものと考えられる。

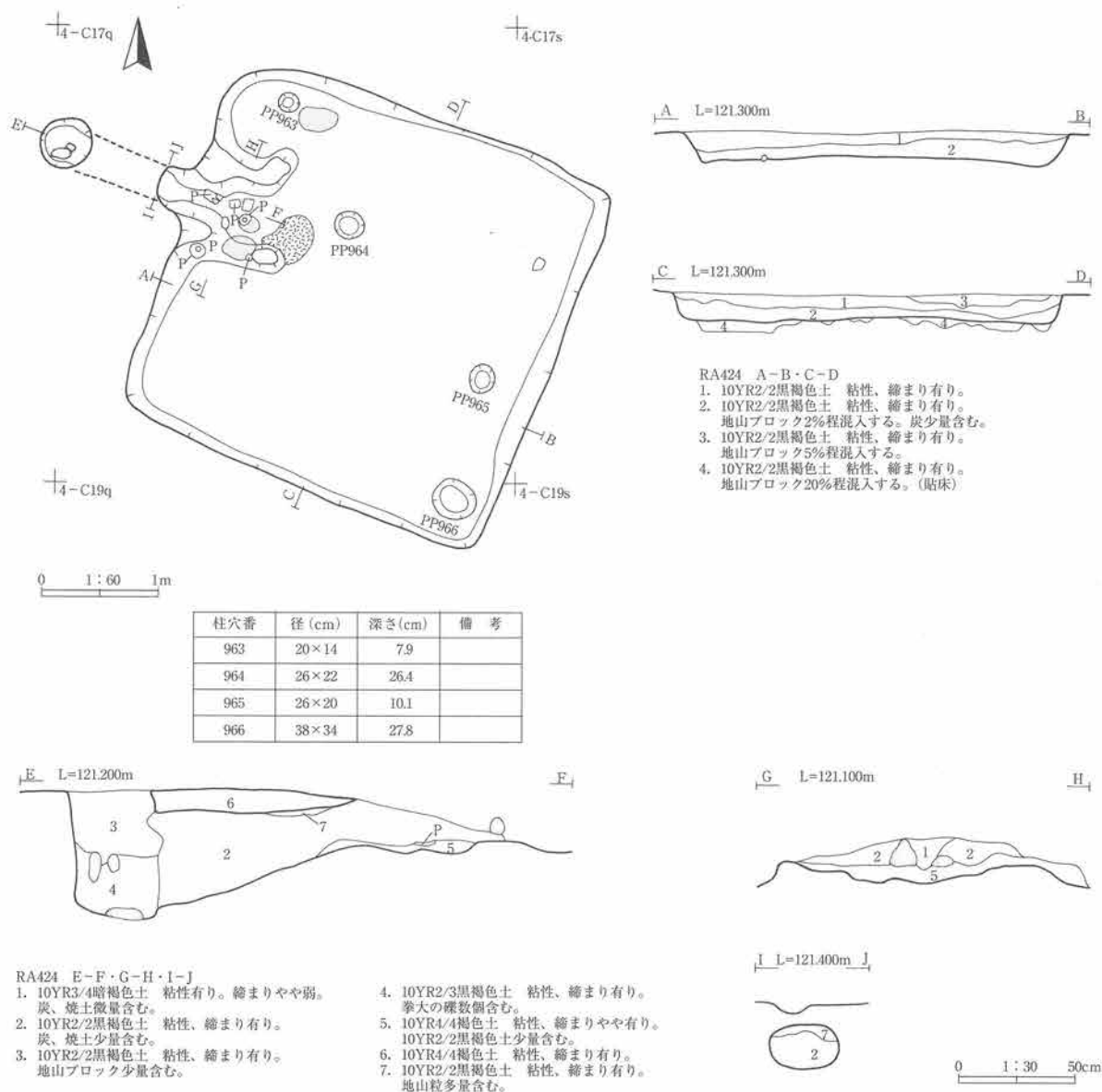
<その他>周囲には竪穴住居跡は存在せず、この住居跡は他と独立した状態で立地している。この遺構の北東側区域や貼り床を剥がした床面、および柱穴を掘り上げた個所においては、少量の降雨でも浸水し、水はけが良くない状況であった。このようなことからみて、おそらく当時も居住するには難儀な区域であったのかもしれない。

<出土遺物>（第180・181図、写真図版158・159・171）埋土及び床面から個体数にして土師器坏4点、赤焼き坏3点、須恵器坏2点・甕2点が出土している。

埋土内から、土師器と須恵器の坏、および須恵器の甕の一部が出土している。

カマド燃焼部から302土師器坏が伏せた状態で、304赤焼き坏・306須恵器坏や307須恵器甕は破片の状態で出土した。303土師器坏は南袖の上から伏せた状態で出土している。301土師器坏は東壁近くの床面付近から出土した。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



第72図 RA424竪穴住居跡

RA425竪穴住居跡 (第73図、写真図版59)

<位置・重複関係>南西調査区の南西隅、5-C11jグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出された。方形周溝RZ027と重複しているが、埋土の堆積状況等から、当該竪穴住居跡の方が、より以前に造られたものと思われる。

<規模・平面形・方向>2.5×2.4mで、床面積は5.8㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向は、S-80°-Eを示している。

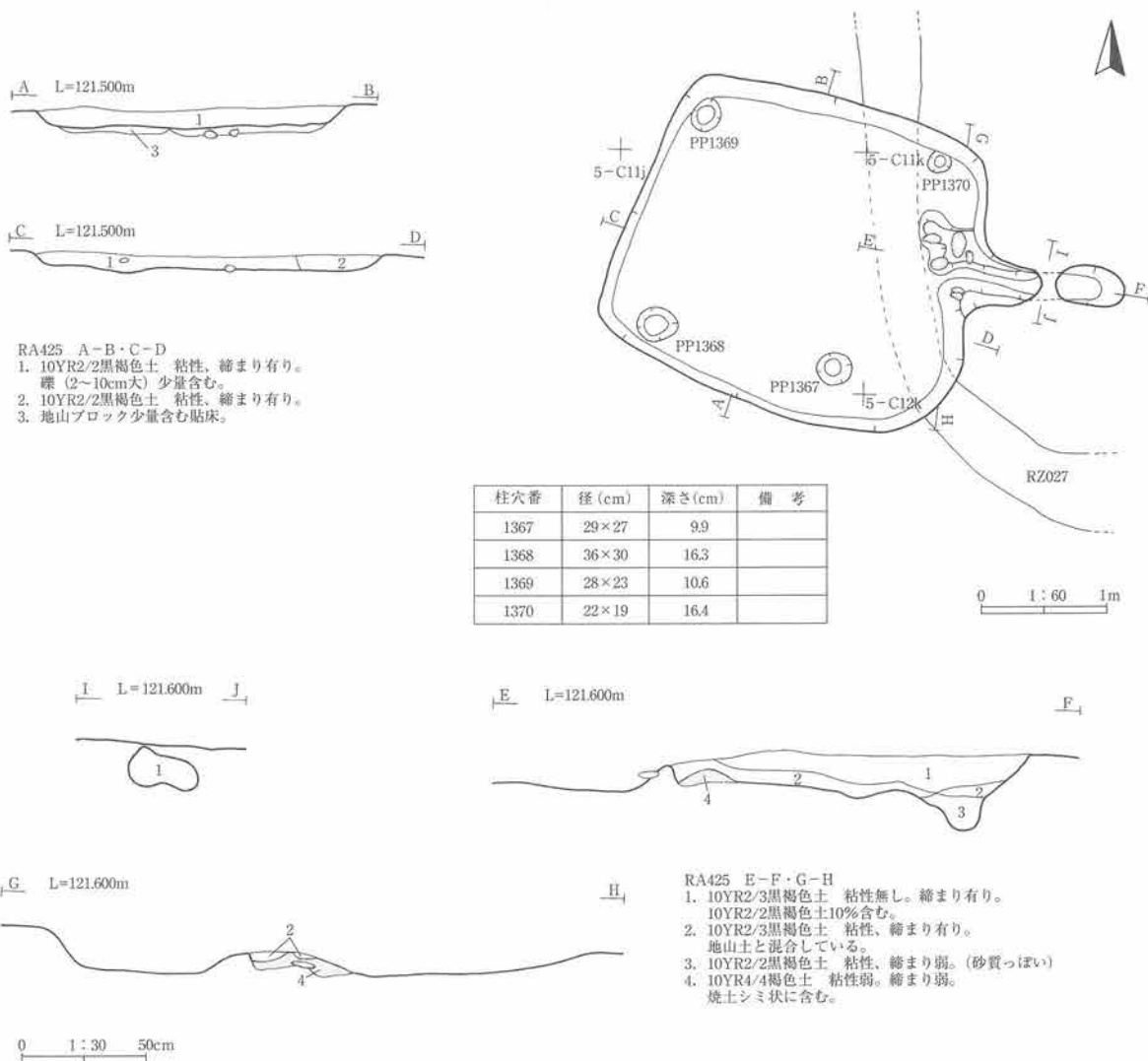
<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体となっており、埋土の断面から、東側のカマド手前付近を南北方向に方形周溝のR Z027が切っている。

<壁>底面からやや緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は10~15cmを示す。壁溝は検出されていない。

<床面>黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で、堅く締まっている。貼り床は、ほぼ全体に施されており、10cm程度の厚さを持つ部分がある一方で、薄いところでは、殆ど見られないところもある。黒褐色土が主体となり、地山のブロックを含んでいる。

<カマド>東壁のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口、および袖の部分から、芯材に使われていたと思われる小径の礫数点と、径20cm程度の礫が3個出土した。袖部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。

煙道は削り抜き式と思われるが、全体の上層層が後年の耕作により削平を受けているため、推定すると



第73図 RA425竪穴住居跡

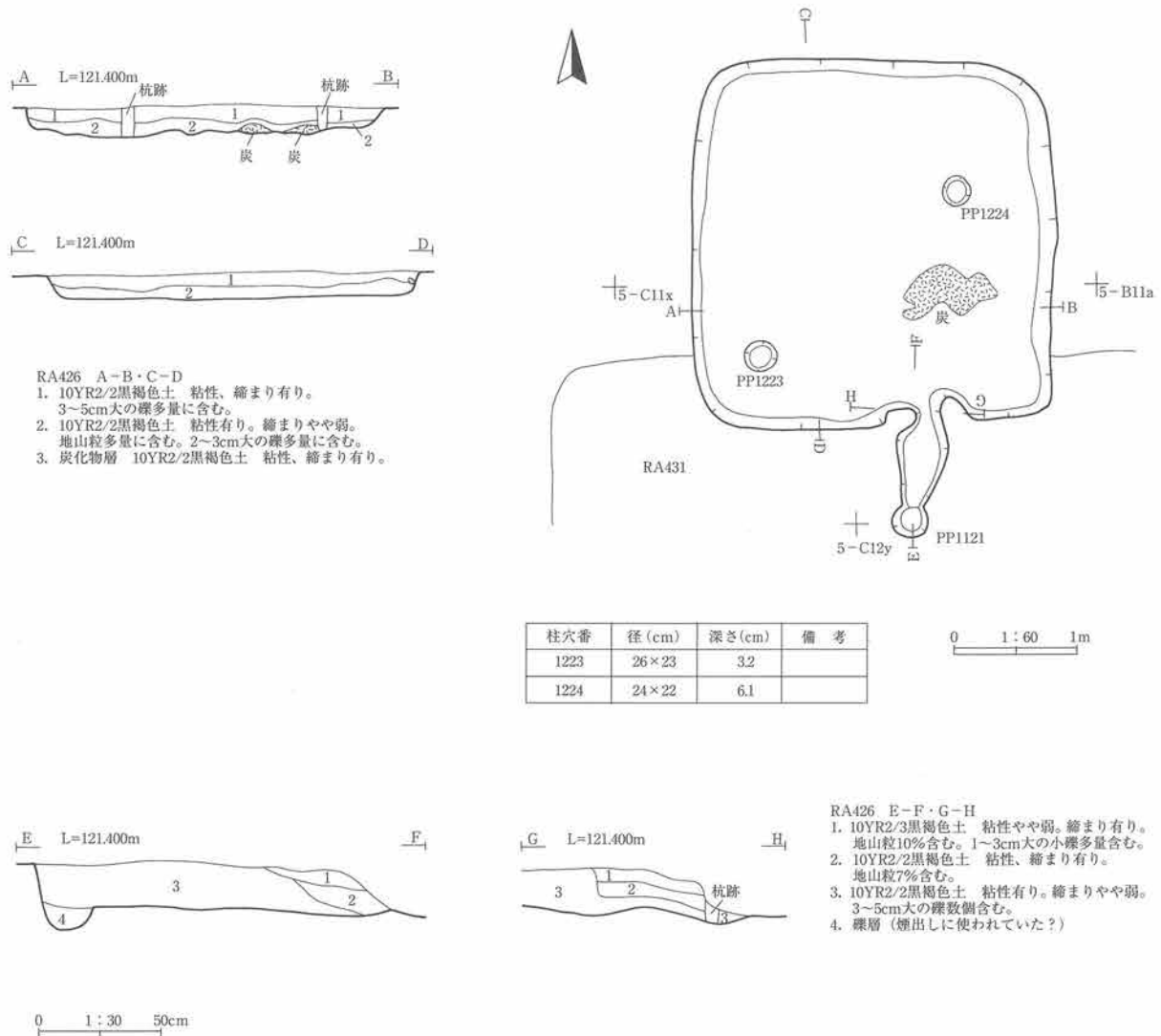
どまる。焚き口から煙出しへは、緩やかに一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径43×32cm・深さ33.2cmの楕円形土坑の形態を呈している。煙出し部分は、隣接する方形周溝R Z027の、内部に広がる柱穴群の一部（PP1788）と重複していることも考えられる。

<柱穴>遺構内床面の四隅に、4基の支柱穴（南東隅P P 1367）（南西隅P P 1368）（北西隅P P 1369）（北東隅P P 1370）と思われる遺構が存在する。埋土は黒褐色土が主体で、堅く締まっていた。

<その他>当該遺構の東壁部分をR Z027方形周溝と重複しているが、埋土の堆積状況から、当該遺構が廃棄された後に、重複して周溝が形成されたようである。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土遺物はないものの、近隣の竪穴住居跡（平安時代）と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。



第74図 RA426竪穴住居跡



#### RA426 竪穴住居跡（第74図、写真図版60・65）

<位置・重複関係>南西調査区の南東隅、5-C10xグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出された。RA431と重複しているが、検出時と埋土の状況から、当該竪穴住居跡の方が、より後の時代に造られたものと思われる。また、中世の掘立柱建物跡RB038とも重複している。

<規模・平面形・方向>2.9×2.8mで、床面積は約7.5㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向はS-2°-Wを示している。

<埋土>自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めるが、全体に径3～5cmの礫を、特に下層では多量の地山粒と径2～3cmの小礫が、ともに多く含まれている。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は17～19cm程度である。壁溝は検出されていない。

<床面>床面南側に若干の凹凸が確認できるが、全体的にはほぼ平坦である。貼り床は確認できなかったものの、床面の南東隅に炭化物が分布している。

<カマド>南壁のやや東寄りに位置している。黒褐色土が主体となり、重複するRA431の埋土を削りだして形成されたものと推定している。袖部分の上位は、径1～3cmの多量の小礫と少量の地山粒を含み、また下位には、径3～5cmの礫の分布が見られる。煙道は、削り抜き式であったと思われるが、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、天上部は残されておらず詳細は不明である。煙出しは、径30×28cm・深さ28cm程掘り込まれているが、掘立柱建物跡RB038の一部となるPP1121と重複しているため、原型をとどめていない可能性が高い。

<柱穴>南西隅の柱穴（PP1223）と北東隅の柱穴（PP1224）は、その配列から主柱穴となりうるものと考えられる。その他の柱穴については、中世の掘立柱建物跡RB038の一部をなすものである。

<その他>RA431と重複しているが、両遺構を検出した時点において、当該遺構の煙道やカマドを含めたプランが掴めたことから、RA431が廃棄された後に構築されたものと思われる。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土遺物はないが、近隣の竪穴住居跡（平安時代）と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。

#### RA427 竪穴住居跡（第75図、写真図版61）

<位置・重複関係>南西調査区の北西端、4-C16kグリッド付近に位置する。全体の3分の1程度が調査区域外へ延びているため、カマドを含めた全体像はつかめない。IV層上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.6×（2.3：残存値）m、床面積は約6㎡で、平面形は隅丸方形を呈するものと推定されるが、南西隅の部分、およびカマドを含めた西壁全体が調査区域外へかかっているため、全容は不明である。主軸方向は定かでないが、W-15°-Nを示すものと思われる。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体である。

<壁>壁高は15～25cmで、壁は緩やかに立ち上がる形状である。壁溝は検出されていない。

<床面>全体がほぼ平坦で堅く締まっており、層の厚さが5～15cmの黒褐色土を主体とする、地山と水酸化鉄のブロックを全体に含んだ貼り床が施されていた。

<カマド>調査区域外に延びているものと思われ、今回の調査では検出されていない。

<柱穴>南東隅の床面に、主柱穴の一部と思われるPP932が検出されている。径は34×32cm、深さは7.6cmであり、埋土は黒褐色土が主体で、やや堅く締まっていた。

<その他>南東側に、R G326が隣接して位置するものの、当該遺構とは関連しないものと思われる。

<出土遺物> (第181図、写真図版159) 須恵器の壺の底部 (309) が出土したのみである。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

#### RA429 竪穴住居跡 (第76図、写真図版62)

<位置・重複関係>南西調査区の南東端、5-B14c グリッド付近に位置し、掘立柱建物跡のR B039と重複している。南西側部分には、張り出しのような部分が存在するが、建て替えによる過去の痕跡である可能性もある。遺構は表土の削平が著しいため、IV層の上面～下面において検出されている。

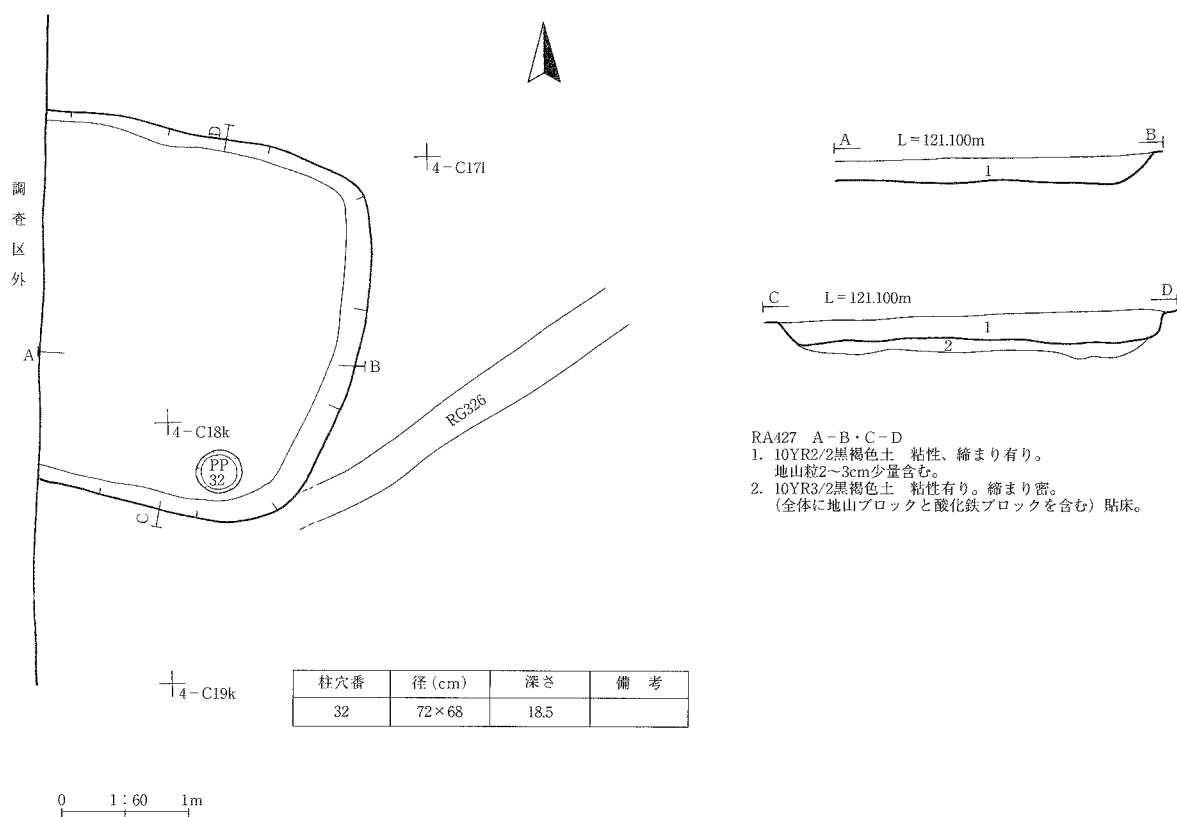
<規模・平面形・方向>4.1×3.0mの隅丸方形を呈し、2.7×1.0mの長方形をした、床面より一段高い段状の張り出し部分が南西隅に付随しており、床面積は約14.6㎡である。主軸方向は、N-55°-Eを示している。

<埋土>自然堆積で、黒色土が主体を占めている。南西側の壁面に、暗褐色細砂で構成される約1mの幅を持った床面よりやや高い段差が存在するが、この段状の部分に堆積していた埋土との相違は見られない。

<壁>壁高は10~17cmで、壁は緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>全体がほぼ平坦で堅く締まっている。1層の埋土下位には、締まった暗褐色の細砂層が分布しており、貼り床は見られない。細砂層のすぐ下には、径2~10cmの礫層が分布している。

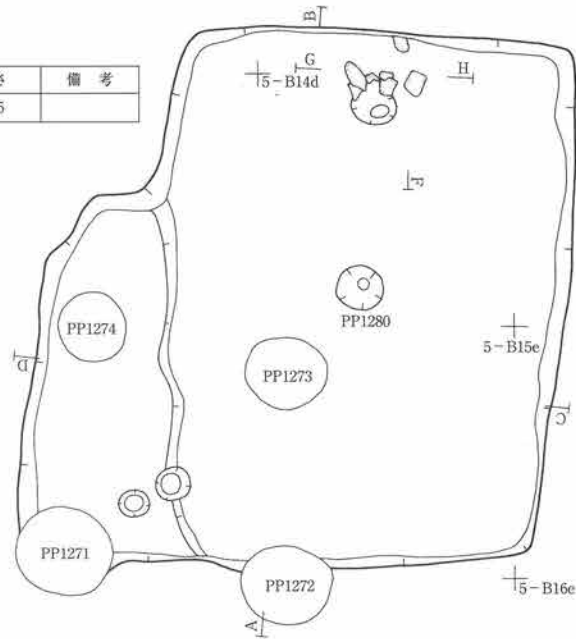
<カマド>北壁のほぼ中央部に位置しており、カマドの焼き口、および袖らしき部分から、芯材の一部と思われる焼けた痕跡のある比較的大径の礫が出土している。僅かに残る袖の部分、少量の炭化物を含んだ黒



第75図 RA427竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1280	37×36	21.5	



0 1:60 1m

RA429 A-B-C-D

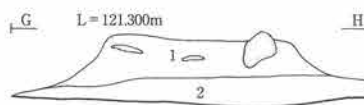
1. 10YR2/1黒色土 締まりやや密。粘性やや有り。
2. 10YR3/4暗褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
(2層の下層に径2~10cmの礫層が分布する)

3. 10YR2/1黒色土 締まりやや密。粘性やや有り。



RA429 E-F-G-H

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(全体に少量の炭化物を含む)
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(全体に少量の炭化物と地山ブロックを含む)



0 1:30 50cm

第76図 RA429竪穴住居跡

褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、残されておらず詳細は不明である。煙出しは、径53×32cm・深さ22.7cmの楕円形に掘り込まれ、底部のみ残存したものと推定される。

<柱穴>遺構の中央、および張り出し部分との境界付近に2基存在しているが、主柱穴は形成しないものと思われる。

<その他>南西隅に、段状に張り出した部分が存在するが、建て替えもしくは何らかの目的のもとに構築されたものと思われるが、詳細は不明である。

<出土遺物> (第181・194図、写真図版159・171・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点・甕3～4点、赤焼き坏5点・甕1点、須恵器坏1～2点・甕1～2点、鉄器1点(451)が出土した。その中から310赤焼き高台付坏、311須恵器甕を掲載した。

<時期>出土した遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

#### RA430 竪穴住居跡 (第77・78図、写真図版63・64)

<位置・重複関係>南西調査区の南東端、5-B7dグリッド付近に独立して位置し、遺構は表土の削平が著しいこともあり、IV層上面～下面において検出されている。

<規模・平面形・方向>7.2×7.0mの正方形に近い隅丸方形を呈し、床面積は約50.4㎡、主軸方向は、南カマドがS-2°-W、西カマドがN-86°-Wを示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるが、後年の耕作による上部層の削平により埋土が薄く、貼り床である可能性も考えられる。

<壁>埋土が全体的に薄く、特に北側の削平が著しいため詳細はつかみにくいが、緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床を検出した時点で、全体に黒褐色・褐色の細砂が、径3～5cmの礫を全域に含む状態で現れた。砂礫が多いため、貼り床なしでの居住は困難であったと思われる、検出時点での埋土部分が貼り床であることも考えられる。

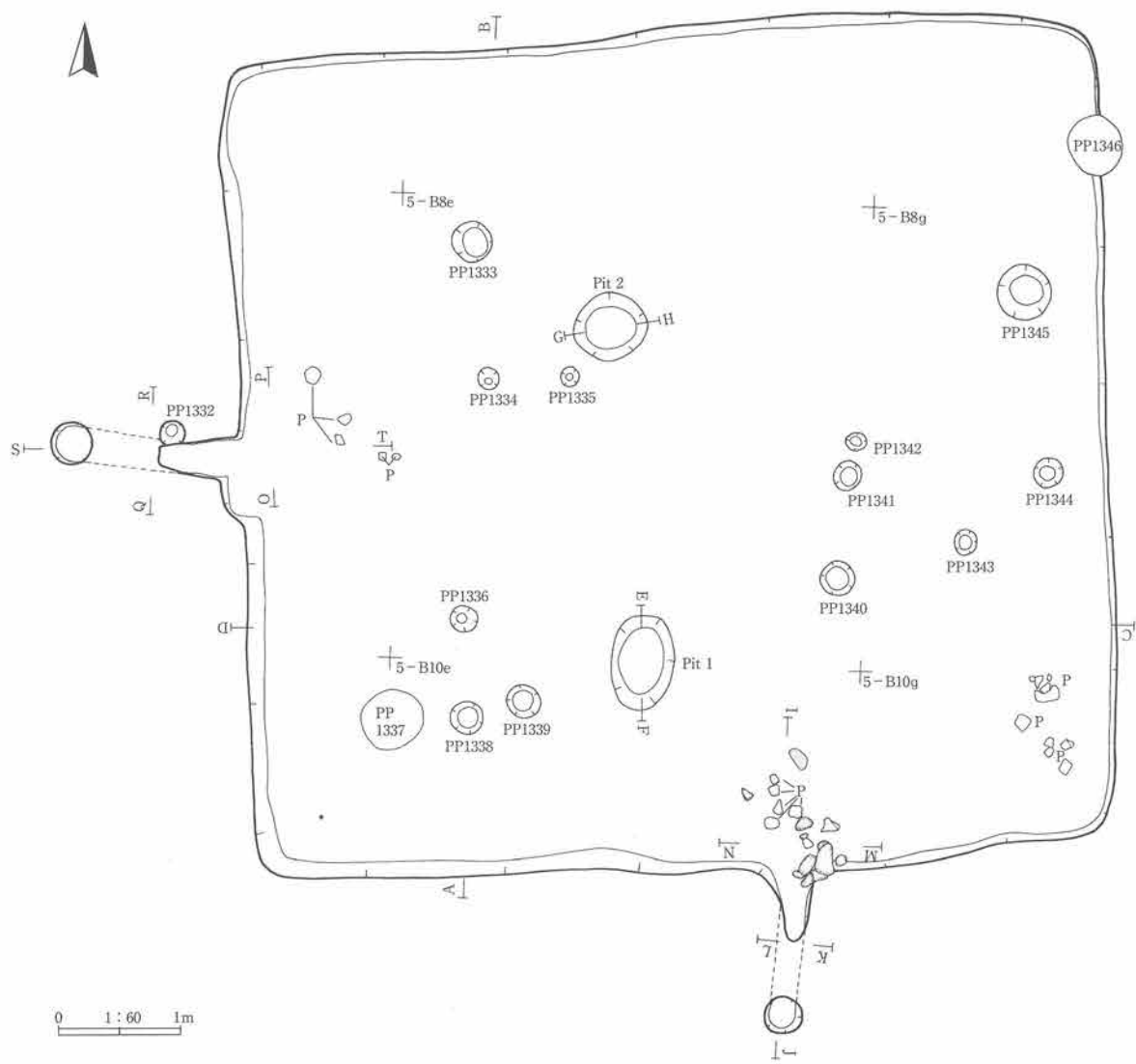
<カマド>西と南から2基検出されている。

(西カマド) 西壁のほぼ中央部に位置しており、カマドの両袖部分から、芯材に使われていたと思われる、焼けた痕跡のある礫が少量出土している。カマドは黒褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。

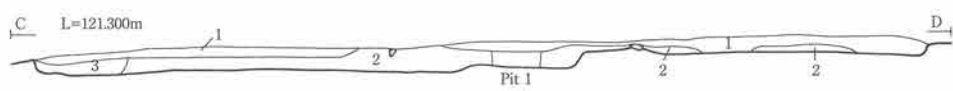
煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径37×36cm・深さ35cmの円形に掘り込まれている。煙道部で切り合うPP1332は後年のもので、当該住居跡との関連はないと思われる。

(南カマド) 南壁のやや東寄りに位置しており、カマドの両袖部分から、芯材に使われていたと思われる焼けた痕跡のある礫と、多数の土師器片が出土した。カマドは黒褐色土と暗褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは径32×30cm・深さ37cmの円形土坑の形態を示している。煙出しの内部からは、径10～15cmの大きな礫が数点出土している。

<柱穴>床面部分に14基の柱穴が存在するが、規則性は見られず、いずれも当該住居跡に係わる主柱穴であ

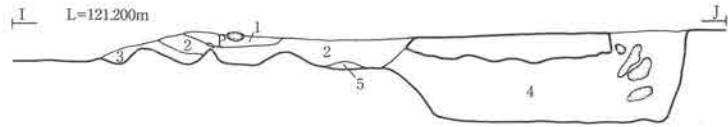
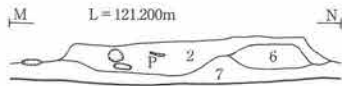


RA430 A-B  
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まり密。  
 (下層に径約3~5cmの礫を含む)  
 2. 10YR2/3黒褐色細砂 粘性無し。縮まりやや密。  
 (全体に径約3~5cmの礫を多量に含む)



RA430 C-D  
 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有・縮まり有。2層のブロックを少量含む。  
 2. 10YR4/6褐色 細砂。粘性弱・しまりやや有。  
 3. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有。全体に炭化物と少量の地山ブロックを含む。

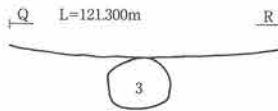
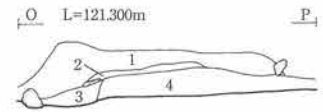
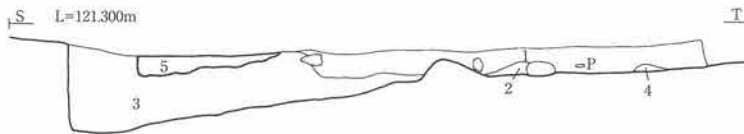
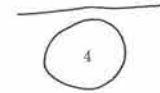
第77図 RA430竪穴住居跡(1)



RA430M-N・O-P・K-L

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有。
2. 10YR2/3黒褐色土 全体に焼土粒を少量含む。粘性・締まりやや有。
3. 10YR2/3黒褐色土 部分的に焼土粒を含む。粘性・締まりやや有。
4. 10YR2/3黒褐色土 全体に地山ブロックと径5-20cm大の礫を含む。粘性・締まりやや有。
5. 10YR2/3黒褐色土細砂。粘性無・締まり有。
6. 10YR3/4暗褐色土。炭化物と焼土を全体に極少量含む。粘性やや有・締まり有。
7. 10YR4/4褐色細砂。中央部に少量の炭化物と焼土を含む。粘性無・締まり有。

K L=121.300m L<sub>1</sub>



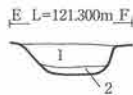
RA430 Q-R

1. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
(地山ブロックを僅かに含む)
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
(地山ブロックと小礫を含む)
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
(全体に焼土ブロックを含んでいる)
4. 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(1層を含んでいる)
5. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まり密。

RA430 O-P

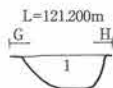
1. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(地山ブロックを僅かに含む)
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(地山ブロックと小礫を含む)
3. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
4. 10YR2/3黒褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
(2-5cmの礫を全体に多量に含む)

0 1:60 50cm



RA430 Pit1 E-F

1. 10YR2/3黒褐色土 全体に地山ブロックと少量の炭化物を含む。  
粘性・締まり有。
2. 炭化物 径2-5cmの礫を含む。



RA430 Pit2 G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 全体に2-3cmの礫を含む。粘性・締まり有。

0 1:60 1m

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1332	21×18	24.5	
1333	35×35	29.6	
1334	19×17	8.8	
1335	17×16	10.8	
1336	26×22	16.3	
1337	52×56	19.5	
1338	29×29	16.3	
1339	30×28	10.3	
1340	32×30	12.6	
1341	25×24	8.3	
1342	21×12	15.1	
1343	21×19	7.7	
1344	30×24	11.6	
1345	48×46	29.2	
1346	54×48	58.9	

第78図 RA430竪穴住居跡(2)

ると断定することは困難である。

<Pit>中央南寄りのPit1（径82×52cm・深さ30.2cmの楕円形土坑）と中央北寄りPit2（径65×55cm・深さ29.2cmの楕円形土坑）が検出しているが、出土遺物はなく、当該住居跡に係わるものかは不明である。

<その他>今回の第26次調査範囲の中では、最も規模が大きい竪穴住居跡であり、当該遺構から南西15mにある「古代の米倉」と推定される掘立柱建物跡との関連も考えられるとともに、出土した遺物も多いことから、有力者が居住していたことも推測される。

<出土遺物>（第182～184・192・195図、写真図版159・160・171・172・179・181）埋土及び床面から個体数にして土師器坏12～15点・高台付坏4点・甕7～10点、赤焼き坏20～23点・高台付坏2点・甕6点、須恵器坏2～3点・甕3～4点・壺1点・小型の甕1点、時期不明の播鉢1点（444）、鉄製品1点（460）、炭粒等が出土した。

住居の規模に見合う位、土師器と須恵器の坏・高台坏、および甕・壺などが多量に出土している。

<時期>出土した遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

#### RA431 竪穴住居跡（第79図、写真図版65・66）

<位置・重複関係>南西調査区の南東隅、5-C11wグリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。RA426・432・434と重複しているが、検出時と埋土の状況から、いずれの竪穴住居跡よりも以前に造られたものと推定される。また、中世の掘立柱建物跡RB038と、北側部分が重複している。

<規模・平面形・方向>5×4.8mの正方形に近い隅丸方形を呈し、床面積は約24㎡、カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないが、磁北を基準にほぼ真北を示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占める。埋土を重複する北側のRA426、西側のRA432と比較して、堆積状況から当該竪穴住居跡は、これらの住居跡より、以前に造られたものと判断している。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は19～20cmを示す。壁溝は検出されていない。東壁と北壁の大部分は、他の竪穴住居跡と重複しているため詳細は不明である。

<床面>全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床は褐色細砂を主体として、厚いところでは8cm程度であるが、薄いところでは、殆ど見られない部分もある。

<カマド>住居跡が重複している、北側と東側のいずれかに存在していたものと思われる。

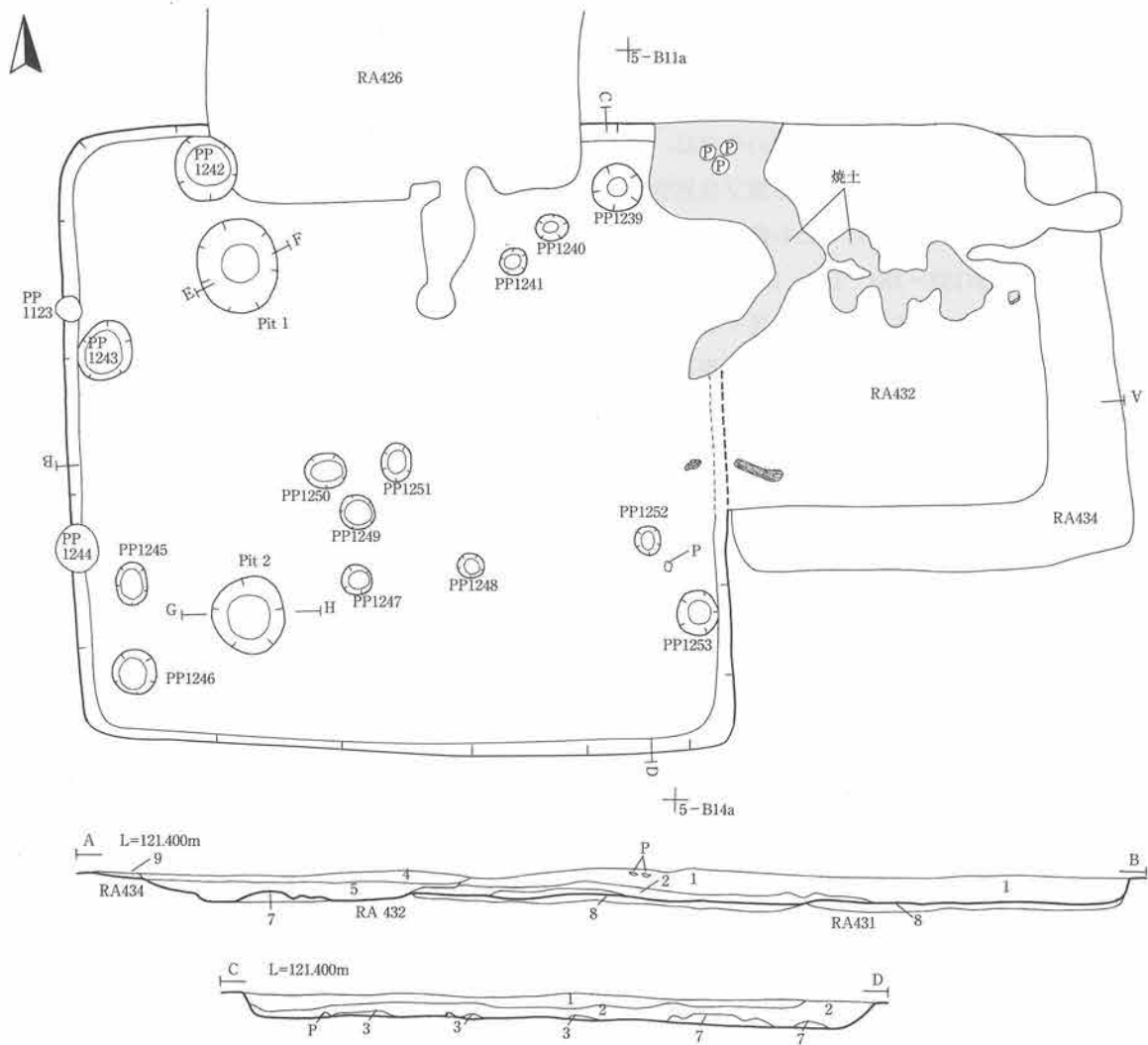
<柱穴>16基の柱穴が存在するが、うちPP1121・1123は、中世の掘立柱建物跡RB038の一部を形成するもので、その他の柱穴については規則性が見られず、いずれも当該住居跡に係わる主柱穴であると判断することは困難である。

<Pit>南西隅のPit2（径60×55cm・深さ23.4cmの円形土坑）と北西隅のPit1（径75×65cm・深さ30.4cmの楕円形土坑）が検出された。いずれも黒褐色土で単層の埋土であるが出土遺物はなく、当該住居跡に係わるものかは不明である。

<その他>北側をRA426、東側をRA432と重複するものの、そのいずれよりも当該遺構の方が先に存在していた様子がうかがわれる。

<出土遺物>（第184・185図、写真図版160・161・172）埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点・甕4点、赤焼き坏5点・甕2点が出土している。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構である。



RA431・432 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 全体に地山粒を僅かに含む。粘性・締まり有。
2. 10YR2/1黒色土 粘性やや有・締まり有。
3. 10YR2/2黒褐色土 全体に地山粒と焼土ブロックを含む。粘性強・締まり有。
4. 10YR2/2黒褐色土 全体に炭化物を含む。粘性・締まりやや有。
5. 10YR2/3黒褐色土 全体に地山粒・炭化物を含み、部分的に焼土粒を含む。粘性有・締まり有。

6. 10YR4/6褐色細砂。粘性弱・締まりやや有。
7. 10YR2/2黒褐色細砂。全体に径2~5cmの礫を含む。貼床。粘性・締まり有。
8. 10YR4/6褐色細砂。粘性無・締まり有。貼床。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有。

E L=121.300m F



RA431 Pit 1 E-F  
1. 10YR2/3黒褐色土 下層に小礫を含む。粘性・締まりやや有。

G L=121.300m H



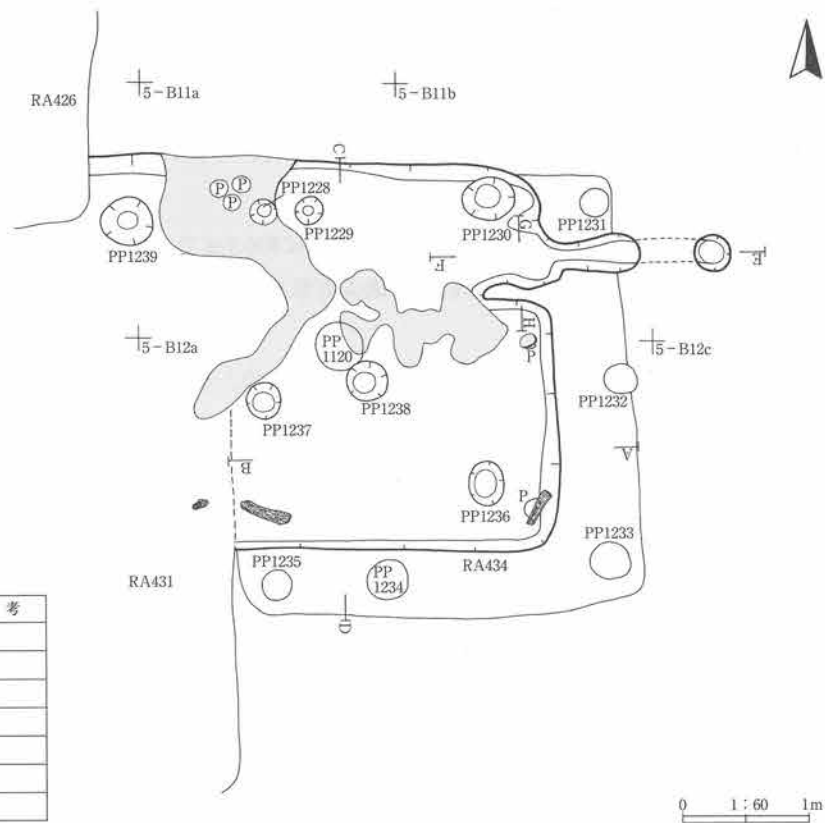
RA431 Pit 2 G-H  
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有。

0 1:60 1m

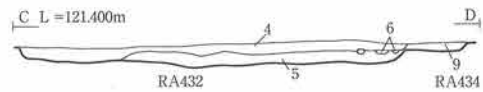
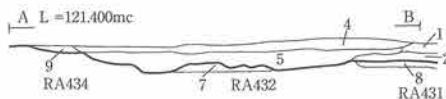
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1239	40×35	14.6	
1240	26×20	15.8	
1241	22×20	7.3	
1242	55×48	21.9	
1243	49×45	23.3	
1245	33×24	6.5	
1246	39×37	6.9	
1247	25×24	5.3	
1248	21×20	6.1	
1249	29×29	7.5	
1250	33×28	5.4	
1251	32×24	10.6	
1252	24×22	12.7	
1253	35×32	18.5	

第79図 RA431竪穴住居跡





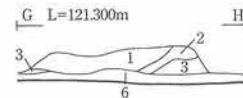
柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1228	22×19	30.0	
1229	21×21	13.5	
1230	39×34	17.8	
1236	35×26	9.4	
1237	29×26	14.9	
1238	33×31	22.3	
1239	40×35	14.6	



RA431・432 A-B・C-D

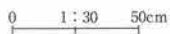
1. 10YR2/2黒褐色土 全体に地山粒を僅かに含む。粘性・縮まり有。
2. 10YR2/1黒色土 粘性やや有・縮まり有。(1・2はRA431の埋土)
3. 10YR2/2黒褐色土 全体に地山粒と焼土ブロックを含む。粘性強・縮まり有。
4. 10YR2/2黒褐色土 全体に炭化物を含む。粘性・縮まりやや有。
5. 10YR2/3黒褐色土 全体に地山粒・炭化物を含み、部分的に焼土粒を含む。粘性有・縮まり有。

6. 10YR4/6褐色細砂。粘性弱・縮まりやや有。
7. 10YR2/2黒褐色細砂。全体に径2~5cmの礫を含む。貼床。粘性・縮まり有。
8. 10YR4/6褐色細砂。粘性無・縮まり有。貼床。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有。(RA434の埋土)



RA432 E-F・G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 炭化物と焼土ブロックを全体に多く含む。粘性弱・縮まりやや有。
2. 10YR3/4暗褐色土 部分的に焼土ブロックを含む。粘性やや有・縮まり有。
3. 10YR4/6褐色土 焼土粒を僅かに含む。粘性やや有・縮まり有。
4. 10YR2/3黒褐色土 部分的に焼土粒を含む。粘性・縮まりやや有。
5. 10YR2/2黒褐色土 焼土ブロックを僅かに含む。粘性やや有・縮まり有。
6. 10YR4/6褐色細砂。下層に小礫を含む。粘性やや有・縮まり有。



第80図 RA432竪穴住居跡

#### RA432 竪穴住居跡 (第79・80図、写真図版65・66)

<位置・重複関係>南西調査区の南東隅、5-B11aグリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。RA426・431・434と重複しているが、検出時と埋土の状況から、RA426よりは旧く、RA431・434よりは新しい時期に造られたものと思われる。また、中世の掘立柱建物跡RB038の底部分と一部重複している。

<規模・平面形・方向>南北方向2.8m、床面積は約6.5㎡で、東西方向はRA431と重複しているため、境界が不明であるが、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈していたものと思われる。主軸方向は真東を示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるものの、全体的に炭化物と地山のブロックを含んでおり、特に中央から北側の下層には、おびただしい焼土の分布も見られる。埋土を重複する西側のRA431と比較して、当該竪穴住居跡は、これより後に造られたものと推定している。

<壁>底面からゆるやかに立ち上がり、壁高は約10cmを示すが、東と南側の壁がRA434と重複しているため、正確な値は不明である。壁溝は検出されていない。

<床面>黒褐色土が主体となり、全体的に凹凸が見られ、やや締まっている。貼り床は、黒褐色細砂を主体として8cm程度の厚さを持ち、薄いところでは殆ど見られない部分もある。

<カマド>東壁の北寄りに位置しており、カマドは黒褐色土と暗褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、焚き口から煙出しへほぼ水平な構造となっているが、上面は削平を受けたものと思われ詳細な構造は不明である。煙出しは、径27×27cm・深さ27.2cmで掘り込まれている。

<柱穴>8基の柱穴が検出されたが、その中から、北東隅のPP1230と南東隅のPP1236が主柱穴を形成するものと思われる。北西隅のPP1229については、重複するRA434の主柱穴と推定している。

<その他>床面の中心から北側にかけて広がるおびただしい量の焼土と、南壁の隅に散らばる丸木材(ナラ、樹皮付き)の炭化物等から、焼失した住居跡である可能性が高い。

<出土遺物>(第185図、写真図版161)埋土及び床面から個体数にして土師器坏2～3点・高台付坏1点・甕2～3点、赤焼き坏4～5点・甕1点、須恵器壺1点、炭化材などが出土した。特徴のある遺物としては、焼土の上面から、底径が小さく器高が低い土師器の坏が出土している。その他にも、土師器の坏・高台坏・甕、および須恵器の壺の一部が出土している。

<時期>上記の出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

#### RA433 竪穴住居跡 (第81図、写真図版67)

<位置・重複関係>北西調査区の中央、2-D11sグリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。遺構の北側半分は、近年に造成された用水路によって攪乱を受けている。

<規模・平面形・方向>東西方向3.2m、南北方向2.1m(ともに推定値)、床面積は約5.7㎡で、境界が不明であるが、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われる。主軸方向は、N-80°-Eを示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占め、全体的に地山のブロックが多く含まれている。

<壁>底面からゆるやかに立ち上がり、壁高は約5～20cmを示すが、全体的に削平を受けているため、東側と北側の壁の残存は僅かである。壁溝は検出されていない。

<床面>褐色土が主体となり、全体的に凹凸が見られやや締まっている。貼り床は、殆ど見られない。

<カマド>東壁の北寄りに位置しているものと推定されるが、削平が著しく、カマドの本体部分を検出する

ことはできなかった。煙道と煙出し部分が辛うじて残され、埋土には少量の炭化物と焼土粒が含まれていたが、上面の大部分が削平を受けているため、詳細な構造は不明である。

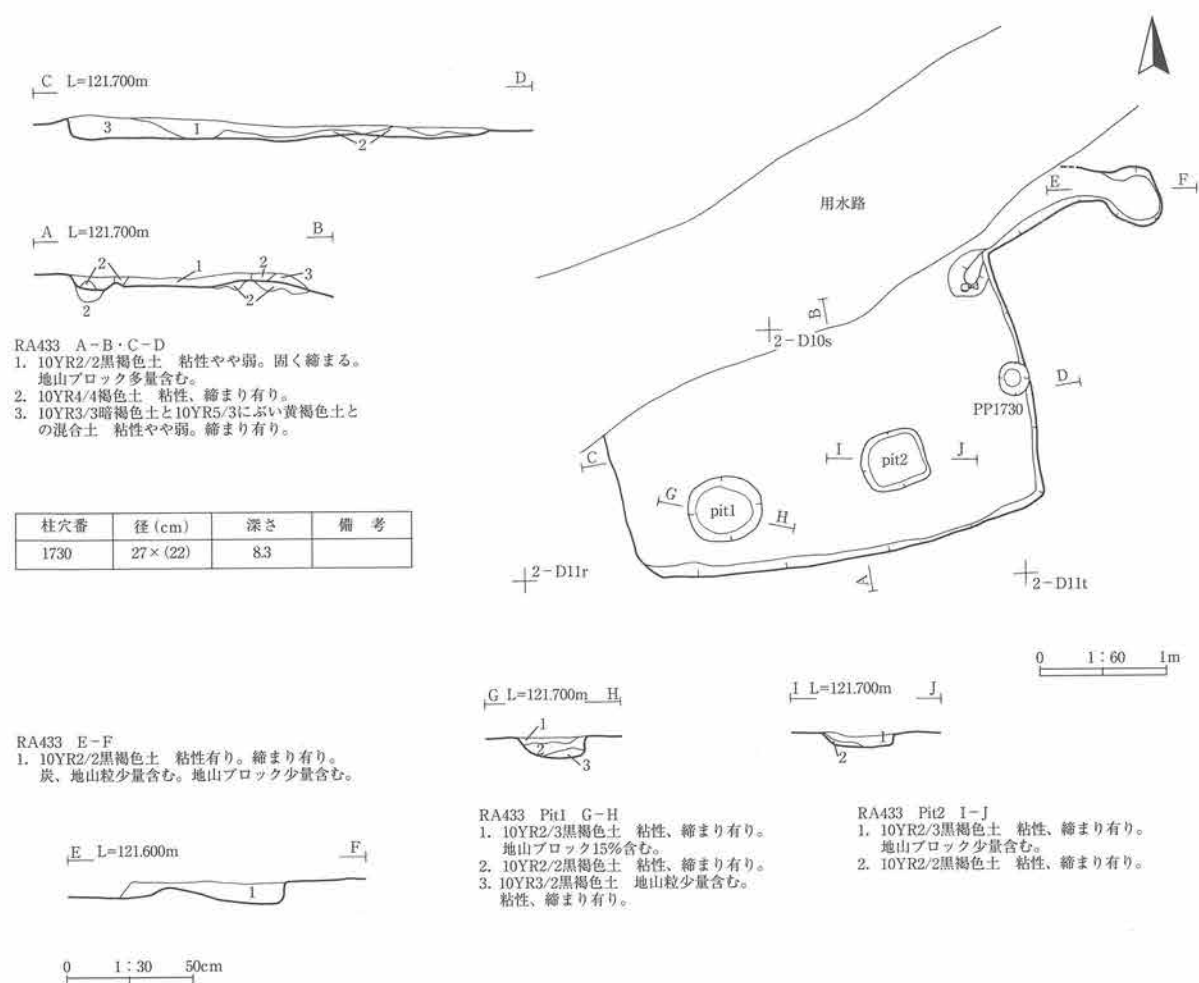
<柱穴>PP1730が東壁に接して検出されているが、主柱穴を形成するものではないと考えられる。

<Pit>南壁に沿って2基のPit (Pit 1 = 径55×45cm・深さ16.7cmの楕円形態) (Pit 2 = 径60×50cm・深さ12.4cmの楕円形態) が存在する。

<その他>遺構の北半分が、後年の耕作・土木工事による削平を受け、また表土～埋土の一部も攪乱されていたため、検出されたのは床面に近い部分のみに止まった。

<出土遺物> (第185図、写真図版161・173) 個体数にして土師器坏1～2点・甕1～2点、赤焼き坏4点、須恵器甕1点が出土した。354赤焼き坏は袖部から、355須恵器壺はカマド精査中に出土している。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



第81図 RA433竪穴住居跡

RA434 竪穴住居跡 (第82図、写真図版65)

〈位置・重複関係〉南西調査区の南東隅、5-B11aグリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。RA431・432と重複しているが、検出時と埋土の状況から、当該遺構がより以前に造られたものと思われる。また、中世の掘立柱建物跡RB038の底部分と一部重複している。

〈規模・平面形・方向〉東西方向3.1m、南北方向3.4m (北壁が不確定のため推定値)、床面積は約12.6㎡で、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われる。カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないがN-3°-Wを示している。

〈埋土〉自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるが、RA432と大部分が重複しており、当該遺構の純粋な埋土は、縁辺部のごく僅かな部分にとどまる。堆積状況から、RA432よりも以前に造られたものと推定している。

〈壁〉底面からごくゆるやかに立ち上がり、壁高は5~6cm程度を示す。壁溝は検出されていない。

〈床面〉大部分がRA432と重複するため、床面の詳細は不明であるが、僅かに残る残存部から、ほぼ平坦で堅く締まっていたものと推測される。貼り床は確認できなかった。

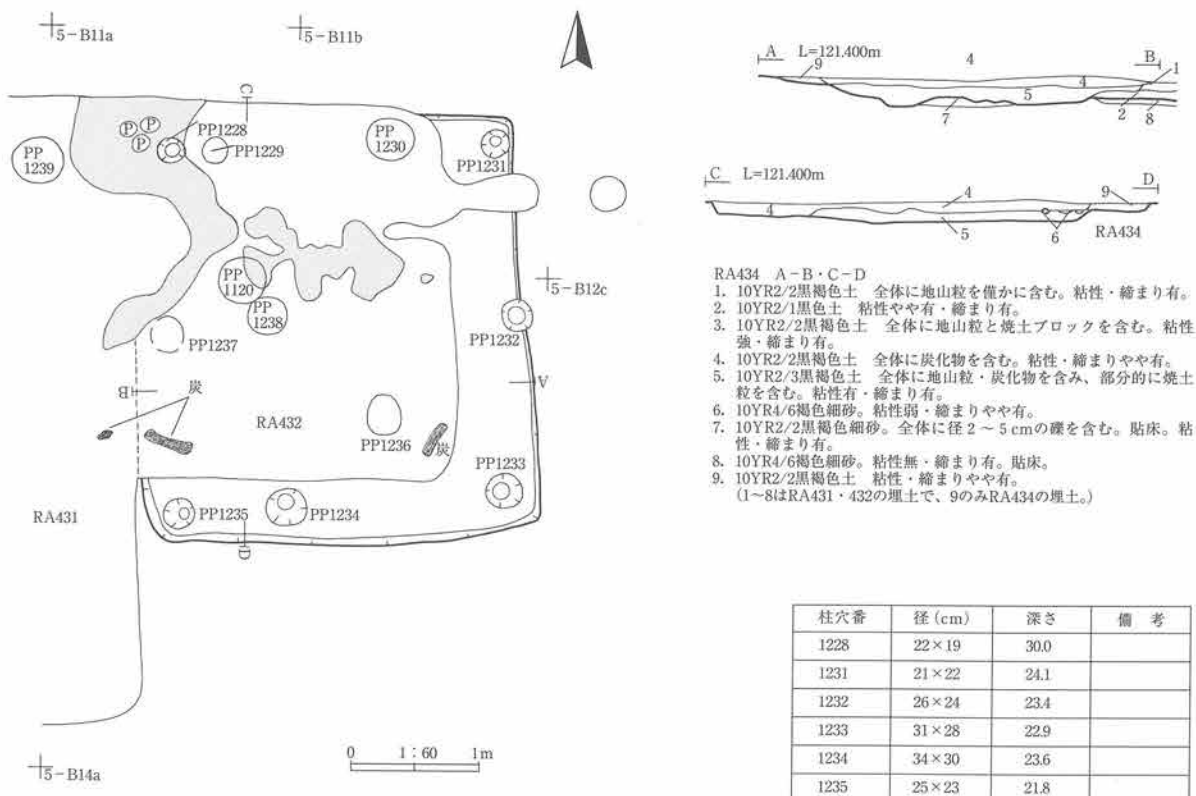
〈カマド〉住居跡が重複している、西側に存在していたものと思われる。

〈柱穴〉6基の柱穴の中から、北東隅のPP1231と南東隅にあるPP1233、南西隅のPP1235および北西隅RA432内のPP1229が主柱穴を形成するものと思われる。

〈その他〉埋土の堆積状況から重複するRA432は、当該遺構が廃棄された後に、別の住居として構築されたものと推定している。

〈出土遺物〉出土していない。

〈時期〉近隣の竪穴住居跡(平安時代)と類似する点が多いものの、判断する材料に乏しく、時期は不明である。



第82図 RA434竪穴住居跡

RA435 竪穴住居跡 (第83図、写真図版68)

<位置・重複関係>北西側調査区の中央西寄り、2-D15uグリッド付近に、RG318・337溝跡と重複して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.68×1.15mで、床面積は約4.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、軸方向はN-40°-Eを示している。

<埋土>一部が攪乱を受けているものの、大部分が自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めている。中～下層では、地山ブロックと炭化物が少量含まれている。

<壁>底面から緩やかに立ち上がっており、壁高は17～22cm程度であるが、南東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦であるが、貼り床は確認できなかった。

<カマド>南壁部分を残し、大部分が近年に構築されたコンクリート用水路によって壊されていたため、カマドの有無・位置を含めた詳細は不明である。

<その他>重複して検出された2本の溝跡は、埋土の堆積状況から、当該竪穴住居跡よりも後に構築されたものと思われる。

<出土遺物> (第185図、写真図版161・173) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏1点・甕1～2点、赤焼き坏1点、須恵器甕1点が出土している。南壁の床面から、ロクロ調整が施された土師器の坏の一部、および須恵器の坏の一部が出土している。

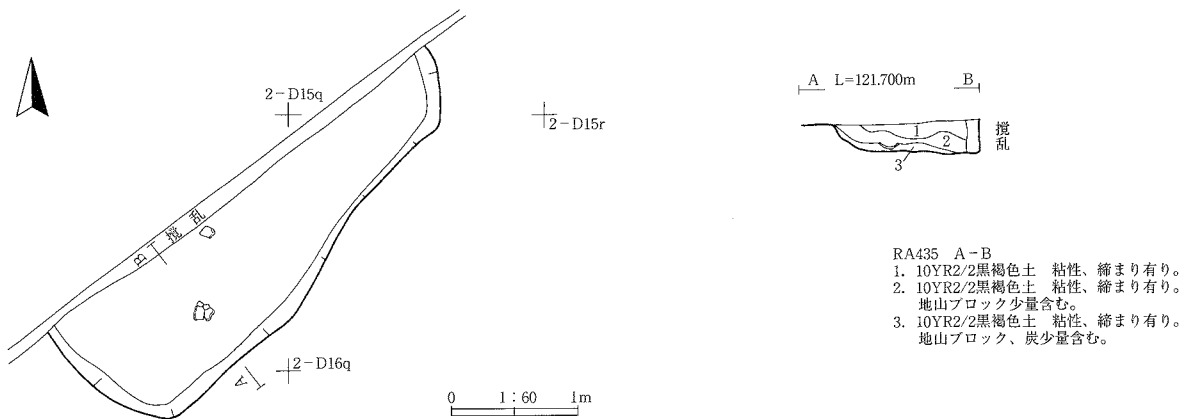
356赤焼き坏と357須恵器壺は共に床面からの出土である。

<時期>出土遺物等から、平安時代のもものと推定される。

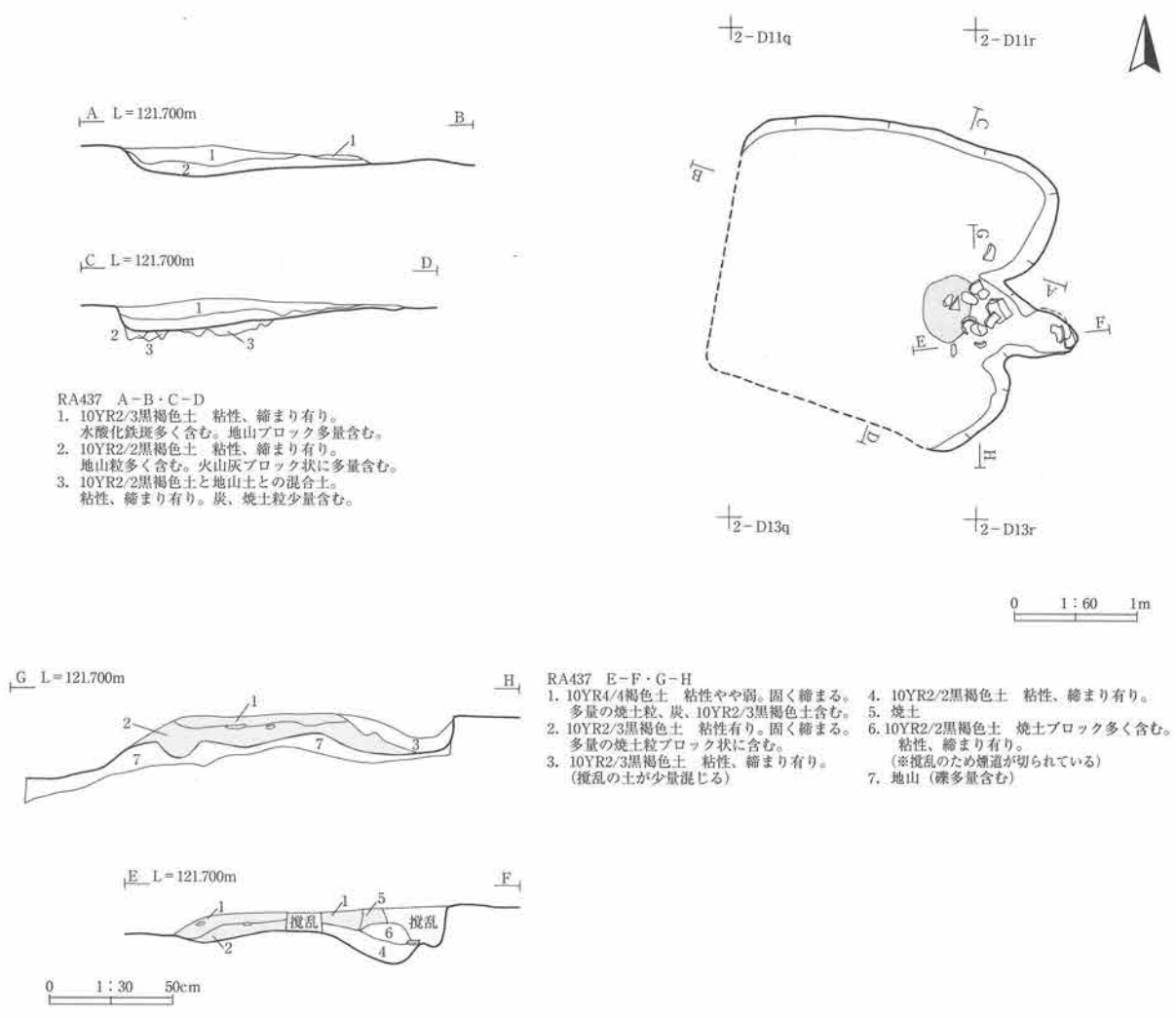
RA437 竪穴住居跡 (第84図、写真図版69)

<位置・重複関係>北西側調査区の中央西寄り、2-D11vグリッド付近に独立して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存した部分の計測値は2.56×2.5mで、床面積は約5.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われるが、北西隅が削平を受けているために詳細は不明である。主軸方向はS-79°-E



第83図 RA435竪穴住居跡



第84図 RA437竪穴住居跡

を示している。

<埋土>ほとんどが自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に地山ブロックと水酸化鉄を多く含んでいた。

<壁>削平された北側部分を除いて、底面から緩やかに立ち上がる形状を示している。壁高は3~25cm程度で、北~西壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。

<カマド>南東壁に位置しており、黒褐色土が混じっているが、一部褐色土の地山を削りだして形成されたものと推定している。カマド燃焼部の全体には、焼土と炭化物がブロック状に広がっていた。煙道は削り抜き式であったと思われるが、遺構全体および東側部分が後年の激しい削平・攪乱を受けているため、詳細な構造は不明である。

<柱穴>支柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

＜その他＞西脇に位置するRD937土坑は、当初竪穴住居跡とも考えられたが、当該竪穴住居跡とともに削平・攪乱が著しく、不明な点が多かったこともあり土坑として登録した。当該竪穴住居跡と関連する遺構であった可能性も考えられる。

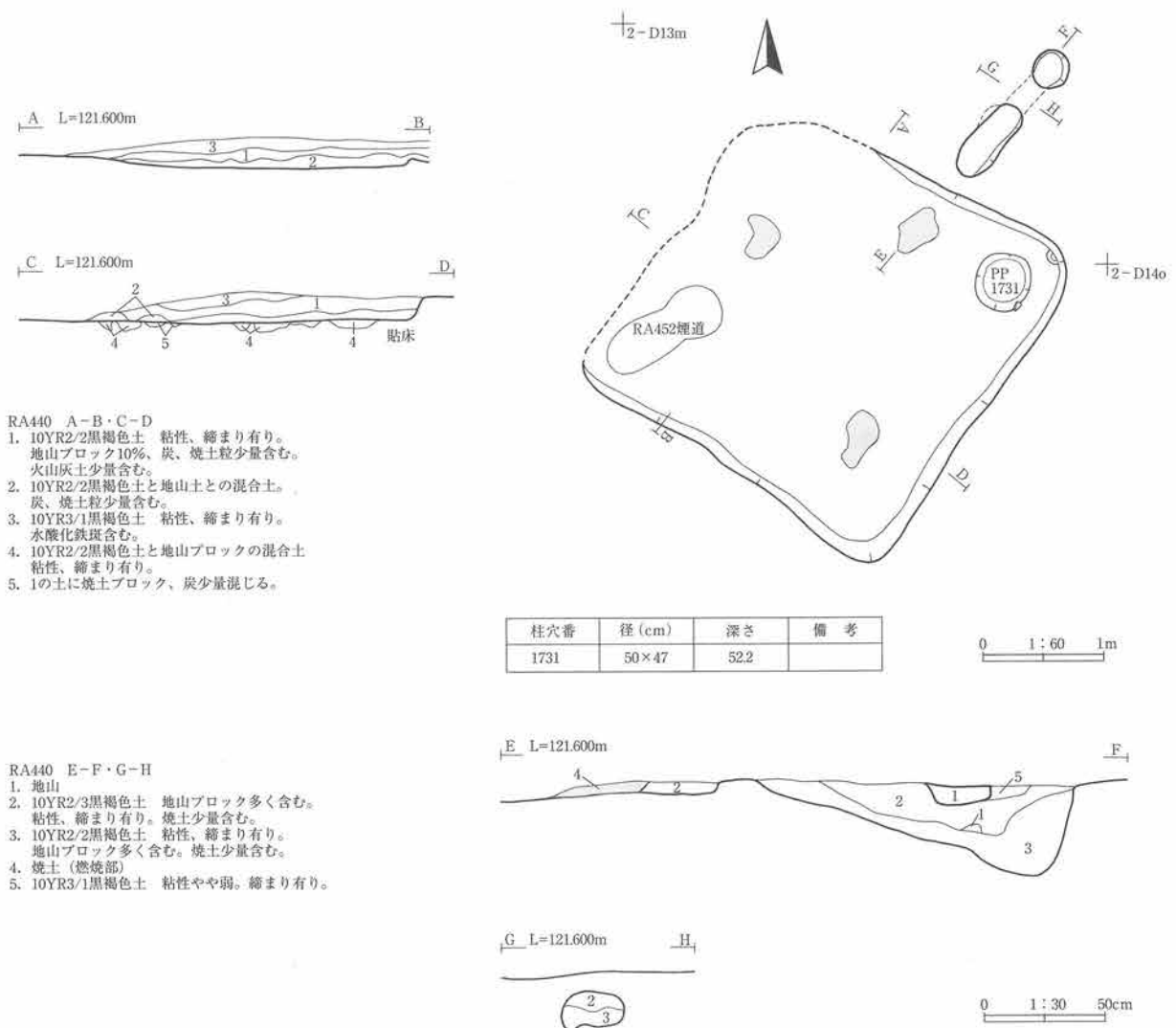
＜出土遺物＞（第186図、写真図版161・162・173）埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点・甕3～4点、赤焼き坏2点、甕1～2点、須恵器坏1点・壺1点が出土した。

カマドの燃焼部と思われる個所から、359土師器坏・361土師器甕・367赤焼き甕などが破片となって散乱した状態で出土したのをはじめ、煙道部埋土内から363・364土師器甕が出土している。

＜時期＞出土遺物等から、平安時代のもものと推定される。

### RA440 竪穴住居跡（第85図、写真図版70）

＜位置・重複関係＞北西側調査区の西端、2-D14mグリッド付近に、RA452竪穴住居跡と隣接して位置



第85図 RA440竪穴住居跡

しており、Ⅳ層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.1×2.9mで、床面積は約7.9㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、主軸方向はN-40°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めるが、上層には水酸化鉄と下層には焼土と炭化物のブロックを含んでいる。

<壁>底面から緩やかに立ち上がっており、壁高は15~18cm程度であるが、北壁部分は後年の耕作等による削平を受けている。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。

<カマド>北東壁に位置しており、袖部分は褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため詳細は不明であるが、埋土を観察すると一度下がる形状を示していることから、刳り抜き式であった可能性が高い。

<柱穴>北東壁際から1基検出されている。柱穴ではなく土坑としたほうがよいのかもしれない。

<その他>当該竪穴住居跡、および西側から検出されているRA452竪穴住居跡は、北側部分が削平を受けているため詳細は不明であるが、当該竪穴住居跡の床面付近からRA452の煙道部分が検出されたことから、当該竪穴住居跡の方が後に構築されたものと推測している。

<出土遺物>(第187図、写真図版162) 埋土及び床面から個体数にして土師器甕2点、赤焼き杯1点(368)、須恵器杯2点・甕1点が出土した。

<時期>出土遺物等から、平安時代のものと推定される。

#### RA452 竪穴住居跡 (第86図、写真図版71)

<位置・重複関係>北西側調査区の西端、2-D14kグリッド付近に、RA440と隣接して位置しており、Ⅳ層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分で計測した値は3.6×2.3mで、床面積は約8.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、主軸方向はN-58°-Eを示している。

<埋土>攪乱を受けた個所が一部あるものの、大方は自然堆積と思われる。黒褐色土が主体を占めており、上層には水酸化鉄が、下層には炭化物と焼土の粒が少量含まれていた。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は8~16cm程度であるが、完全に残存しているのは南壁部分のみで、北壁部分は残存しておらず、それ以外も削平を受けている個所が多いため全容を掴むことは不可能である。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床らしき痕跡は確認できなかったものの、西壁付近の粘性がある地山と混合した土が、その一部である可能性が考えられる。

<カマド>北東壁に位置しているが、削平が激しいため袖部分は確認できなかった。カマドの燃焼部と思われる部分には焼土が広がり、土師器片がその上から出土している。煙道は、刳り抜き式で煙出し部分も存在していたと思われるが、遺構全体が激しい削平を受けているため、詳細は不明である。

<柱穴>主柱穴と思われるものとして、北東隅からPP1733、北西隅からPP1735(土師器片が底部から出土)がそれぞれ検出されている。

<Pit>南側の壁面付近から検出された、不整な楕円形を呈するPit1は、120×76cm・深さ20.2cmを呈している。底部からは土師器片が、またその周囲からもある程度まとまって同様な土器片が出土していることから、



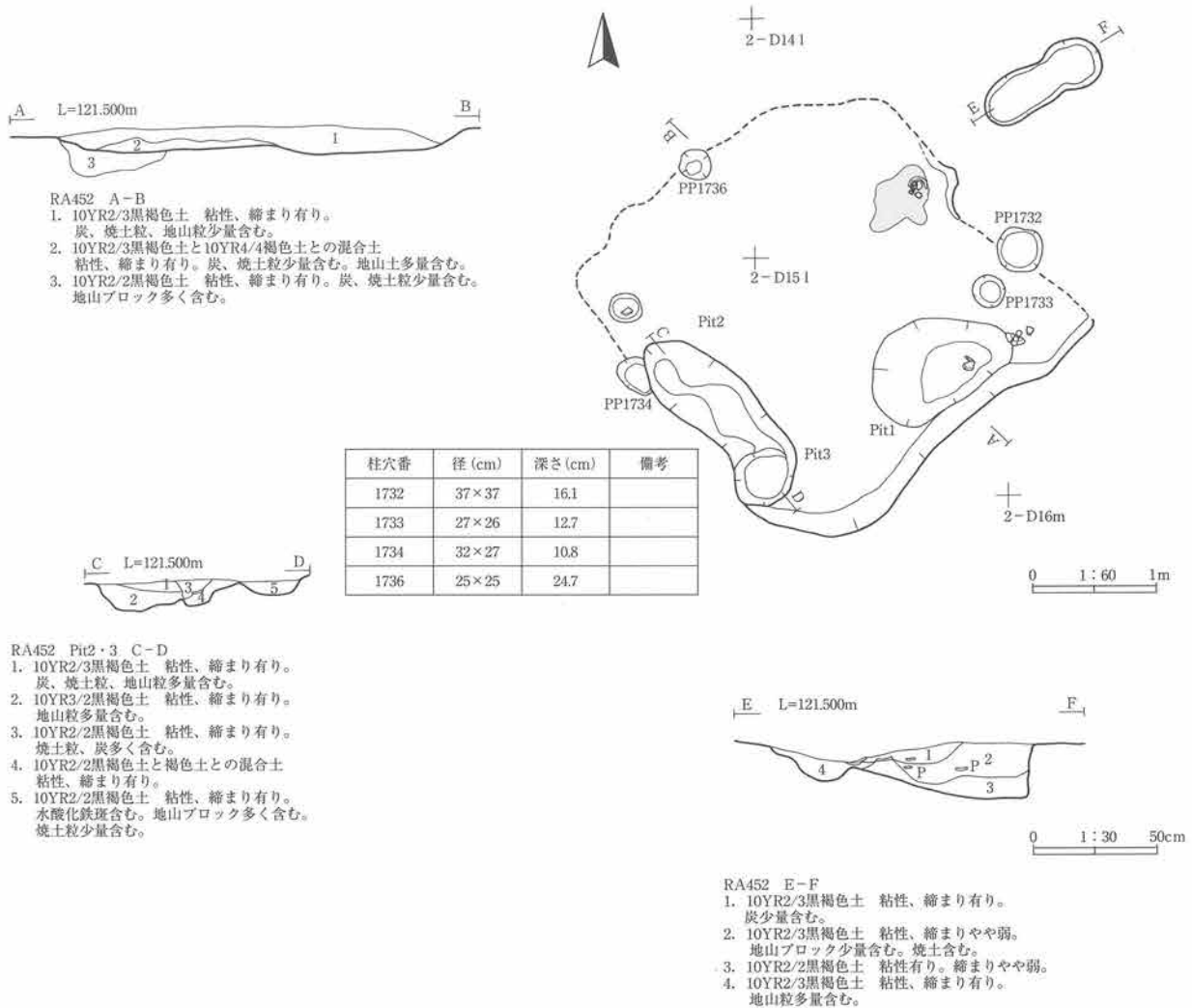
貯蔵穴の可能性が考えられる。南西隅から検出された不整な楕円形のPit 2は、攪乱を受けた埋土が分布しており、当該竪穴住居跡と関連しない遺構と推定される。

<その他>隣接する平安時代のRA440竪穴住居跡は、当該RA452竪穴住居跡の煙道部分を切るように検出されており、当該竪穴住居跡よりも後のものと推定される。

<出土遺物> (第187図、写真図版162・174) 埋土及び床面から個体数にして土師器坏2点・甕3~4点、赤焼き坏3点・甕3点、須恵器甕1点が出土した。

カマドの燃焼部付近から375赤焼き甕ほか、南東隅部分から赤焼き坏370ほかが集まって出土している。

<時期>出土遺物等から、平安時代のものと推定される。



第86図 RA452竪穴住居跡

RA398 竪穴住居跡 (第87図、写真図版72)

<位置・重複関係> 遺跡の西側中央部にあたる 2-D24d グリッドに位置している。重複関係なし。

<規模・形態・方向> 北東壁-南西壁で3.15mあるが、北西壁は現況では道路の下にあったため失われている。平面形は隅丸方形を呈していたと思われ、主軸方向は S-41°-E で、床面積は7.3㎡ある。

<埋土> 黒褐色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。

<壁> 遺構検出面から9~12cm位しか残っていない。底面から外傾して立ち上がっている。

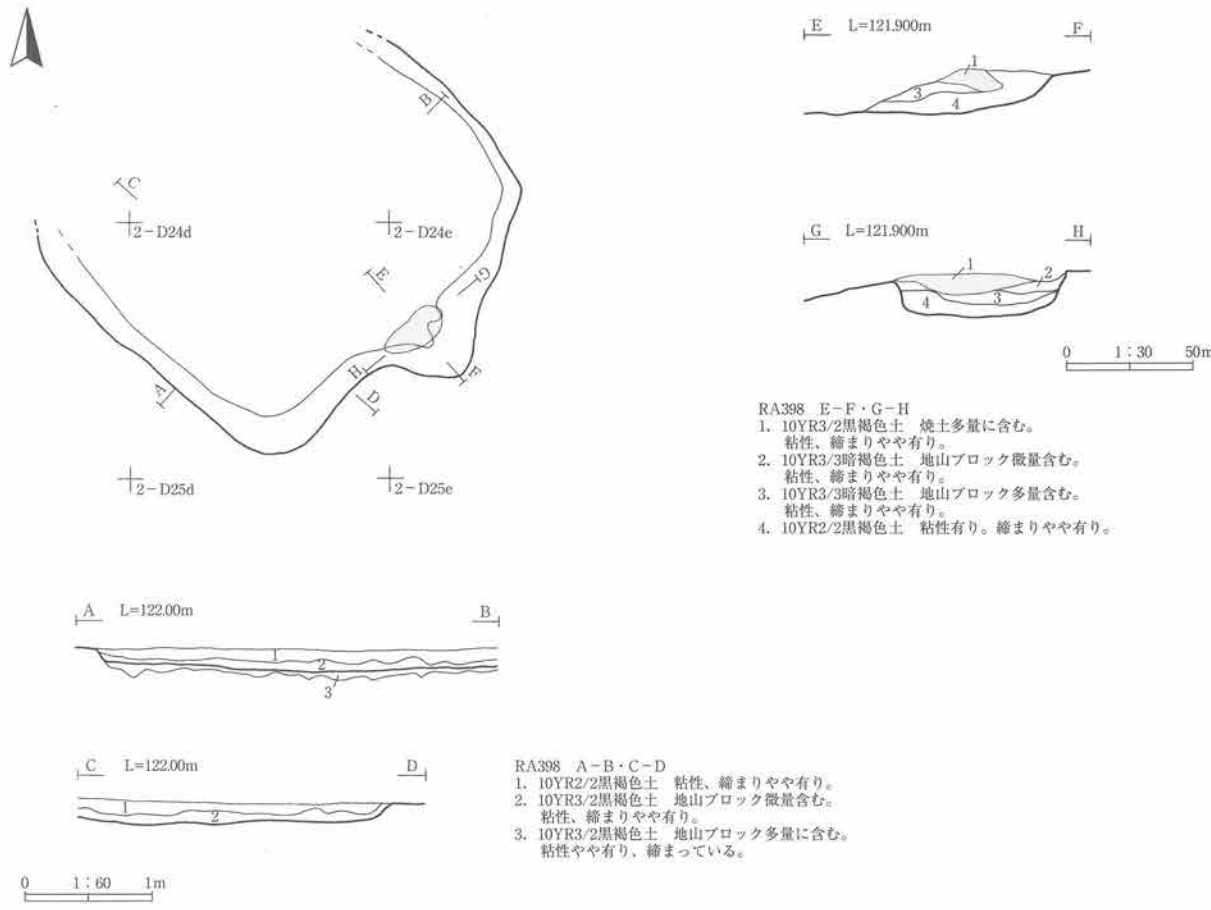
<床面> 全面を貼床とし平坦に構築されている。

<カマド> 南東壁のほぼ中央に50×23cmの範囲で焼土の広がりが見られたが、カマドであったかどうかは判然としなかった。

<柱穴> なし。

<遺物> (第187図、写真図版162) 埋土から甑1点(376)、器種不明の土師器の細片が2~3片、縄文土器の細片が2片、近代の陶器碗1点が出土した。

<時期> 不明である。



第87図 RA398竪穴住居跡

RA428 竪穴住居跡 (第88図、写真図版73)

<位置・重複関係>南西調査区の東端中央部、5-B1fグリッド付近に位置し、土坑のRD935と接している。接する部分は、当該遺構の埋土が削平を受け、著しく薄くなっていたため、それぞれの新旧関係は判別できなかった。IV層上面～下面において検出されている。

<規模・平面形・方向>3.2×3.2m、床面積は約9.6㎡で、平面形はほぼ正方形をした隅丸方形を呈するものと推定される。カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないが、磁北を基準に約22°北西へ傾いている。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めているもののごく薄く、上層が後年の耕作による激しい削平を受けていることもあり、埋土部分イコール貼り床である可能性も考えられる。

<壁>全体が削平を受けているため、壁高は3～8cmで、緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>埋土が極薄いため、検出時点での埋土が貼り床部分を構成していることも考えられる。この直下は堅く締まった径2～5cmの砂礫層で、貼り床の存在なしには日常の居住は不可能と思われる。

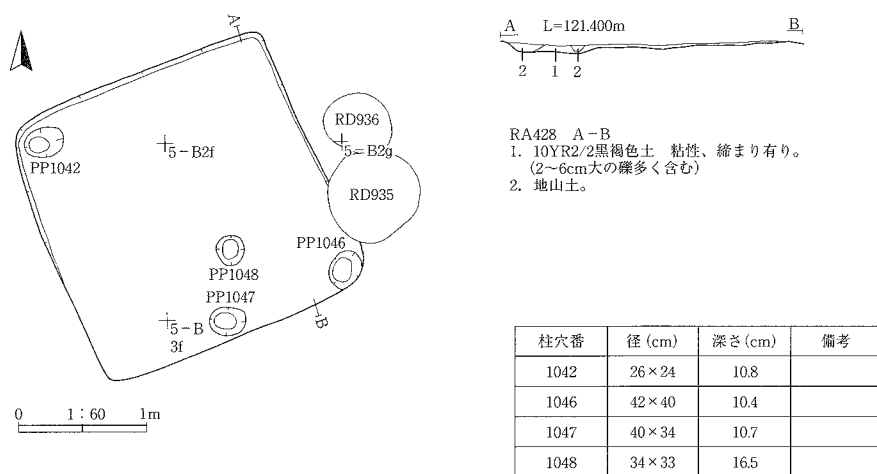
<カマド>削平を床面付近まで受けているため、存在が確認できなかった。

<柱穴>遺構の隅から検出された、南東隅のPP1046北西隅のPP1049は、その配置から主柱穴を形成していたものと推定され、遺構の南壁中央付近に並ぶ2基の柱穴は、主柱穴ではないと思われる。

<その他>全体に渡って削平を受けているため詳細は不明であるが、検出された時点での状況等から、東側に隣接するRD935・936土坑は、当該遺構とは関連せず、また同一時期のものとも考えにくい。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土遺物はないが、近隣の竪穴住居跡(平安時代)と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。



第88図 RA428竪穴住居跡

RA436 竪穴住居跡 (第89図、写真図版74)

<位置・重複関係>北西側調査区のほぼ中央、2-C9aグリッド付近で、RG337と南壁を接するように位置しており、IV層の上面から検出された。

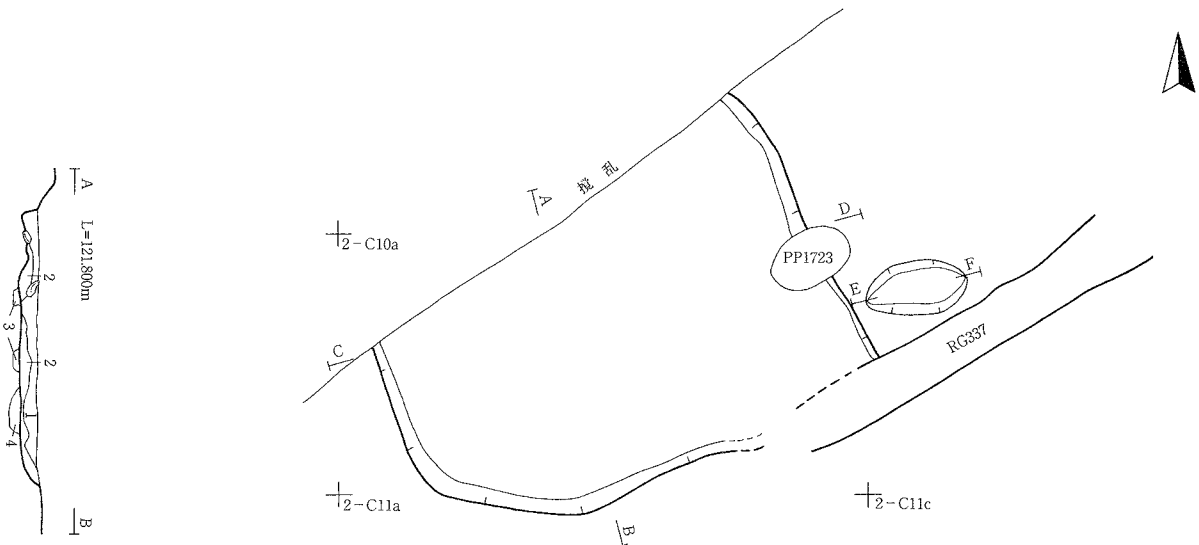
<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.6×2.3mで、床面積は約8.3㎡、平面形は隅丸方形を呈するものと思われ、主軸方向はN-65°-Eを示している。

<埋土>ほとんどが自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めている。水酸化鉄を全体に含んでおり、北～北西側には径10～15cmの礫が数個分布していた。

<壁>底面からやや急に立ち上がっており、壁高は10～18cm程度であるが、北～北西壁部分がコンクリートの用水路で壊されており残存状況はよくない。壁溝は検出されていない。

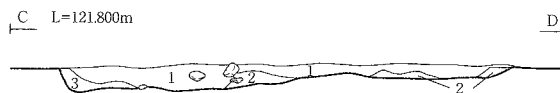
<床面>床面は東側がやや高くなっており、地山ブロックが混入した貼り床が部分的に確認できた。

<カマド>東壁中央付近に煙道らしきものが確認され、カマドが存在していたものと思われるが、残存状況がよくないため詳細は不明である。

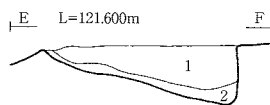


RA436 A-B・C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。  
水酸化鉄斑微量見える。10～15cm大の礫含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山粒多量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まり有り。  
水酸化鉄斑多く含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。  
締り有り。地山土と混合する(貼床)。



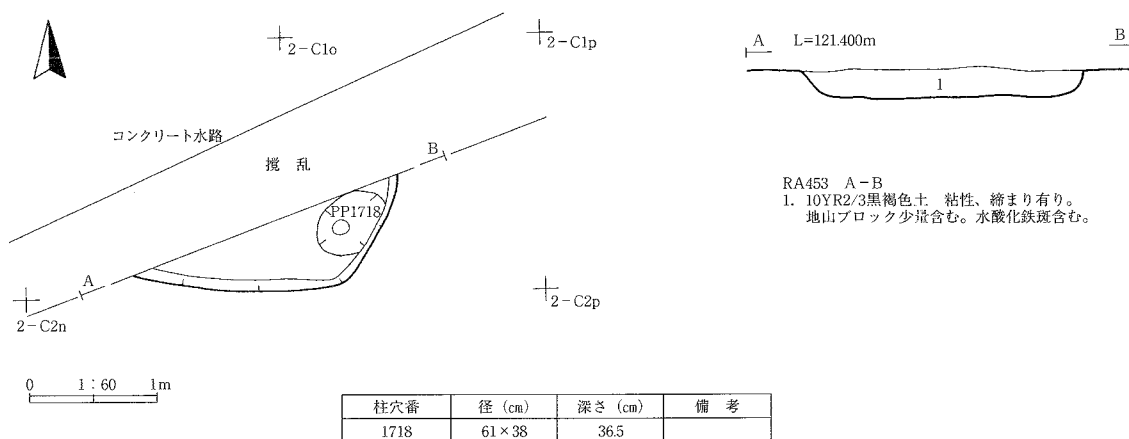
0 1:60 1m



RA436 E-F

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや弱。
2. 10YR4/4褐色土 粘性、締まり有り。

第89図 RA436竪穴住居跡



第90図 RA453竪穴住居跡

<柱穴>検出されていない。

<その他>南壁はR G 337溝跡と重複しているが、埋土の堆積状況等から、当該竪穴住居跡のほうがより以前に構築されたものと思われる。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土した遺物はなかったものの、近隣の同様な形態をもつ竪穴住居跡と比較・推測して、平安時代のものであると思われる。

#### RA453竪穴住居跡 (第90図、写真図版33)

<位置・重複関係>北西側調査区の東寄り、2-C1nグリッド付近に位置し、大部分が近年に構築されたコンクリート用水路で壊されている。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分で計測した値は3.6×2.3mで、床面積は約8.3㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、軸方向はN-20°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めており、全体に水酸化鉄と地山ブロックを少量含む。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は8~16cm程度であるが、完全に残存しているのは南壁部分のみで北壁部分は残存しておらず、それ以外も削平を受けている個所が多いため全容を掴むことは不可能である。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。底面には細かい砂質の土壌が分布している。

<カマド>検出されていない。

<柱穴>南隅からPP1718が検出されているが、主柱穴を形成するものかどうかは不明である。

<その他>大部分が近年に構築されたコンクリート用水路で壊されているため、遺構の全容は掴みにくい。カマドも遺物も見つからないが、現れている部分の壁の立ち上がりや全体の形状から竪穴住居跡とした。

<出土遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、平安時代以降のものであると推定している。

## 2 中世の竪穴建物跡

### RA232 竪穴建物跡 (第91図、写真図版75)

<位置・重複関係>本遺跡の南側中央にあたる3B19iグリッドに位置している。RD660・688と重複関係にあるが、本遺構の方があたらしいと判断した。本遺構は23次調査でも東半部を調査しており、今回の調査で全体を精査したことになる。

<規模・平面形>検出面での規模は4.7×2.8m、隅丸長方形プランで北西壁は削平により残存しない。

<埋土>黒褐色土及び黒色土を主体とするが黄褐色土ブロックを不規則に含み人為堆積の可能性もある。

<壁・床面・柱穴>遺構検出面から床面までは20cm前後の深さがあり、壁は垂直気味に立ち上がっている。16基の柱穴を床面まで埋土を下げた段階で検出したが、すべて本遺構に伴っているわけではないと思われる。壁隅にみられるpp682・1832は伴っていると思われるがその他は判然としない。

<遺物>出土していない。

<時期>中世に属する。

### RA443 竪穴建物跡 (第92図、写真図版76)

<位置・重複関係>遺跡南東端に相当する4C24wグリッドに位置している。ほぼ東西方向に7m程延びる溝状の施設と重複するが、これは一連の遺構とみるべきかもしれない。埋土からは本遺構の方が新しいか同時期と判断される。

<規模・平面形>検出面での規模は3.6×3.1mを測り、平面形は不整な方形を基調としている。溝は7×0.6mで深さは30cm前後、溝の東西端はそれ以上延びずにその場で止まるようである。

<埋土>自然堆積の様相を呈し多量の河原石を含んでいた。すぐ南側が湿地であることから埋土は粘性が強く、水分を多く含んでいた。

<壁・床面・柱穴>遺構検出面から底面までは55cmを測る。底面は概ね平坦で壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。柱穴はもたない。

<遺物>(第53・199～201図、写真図版137・185・186)多量の河原石と共に埋土中から台石とみられる515・518・519が出土している。また奈良時代の甕53が出土している。

<時期>中世の可能性が高い。

### RA450 竪穴建物跡 (第93図、写真図版77)

<位置・重複関係>遺跡の南東端に近い4C7jグリッドに位置している。重複関係はない。

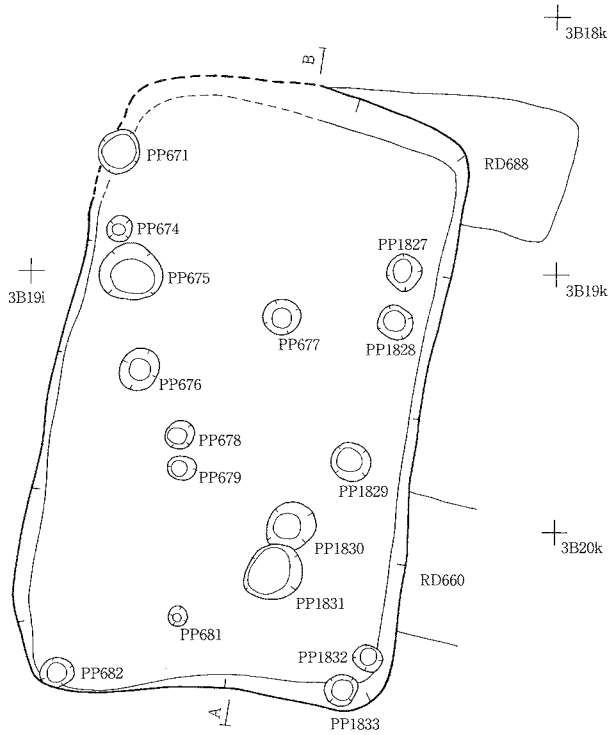
<規模・平面形・方向>検出面での規模は2.8×2.1m、隅丸長方形プランを呈する。

<埋土>殆ど埋土下位しか残っていないが地山ブロックを多量に含み、人為堆積の様相を呈する。

<壁・床面・柱穴>底面から外傾して立ち上がっているが10cm前後しか残存しない。概ね平坦な床面からは柱穴・炉跡などは検出されていない。

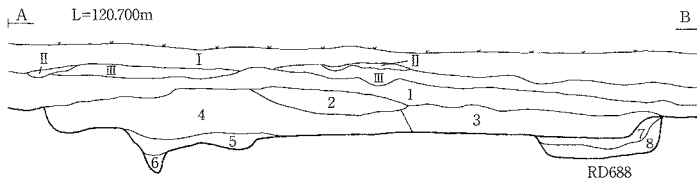
<遺物>なし。

<時期>中世に属すると推測される。



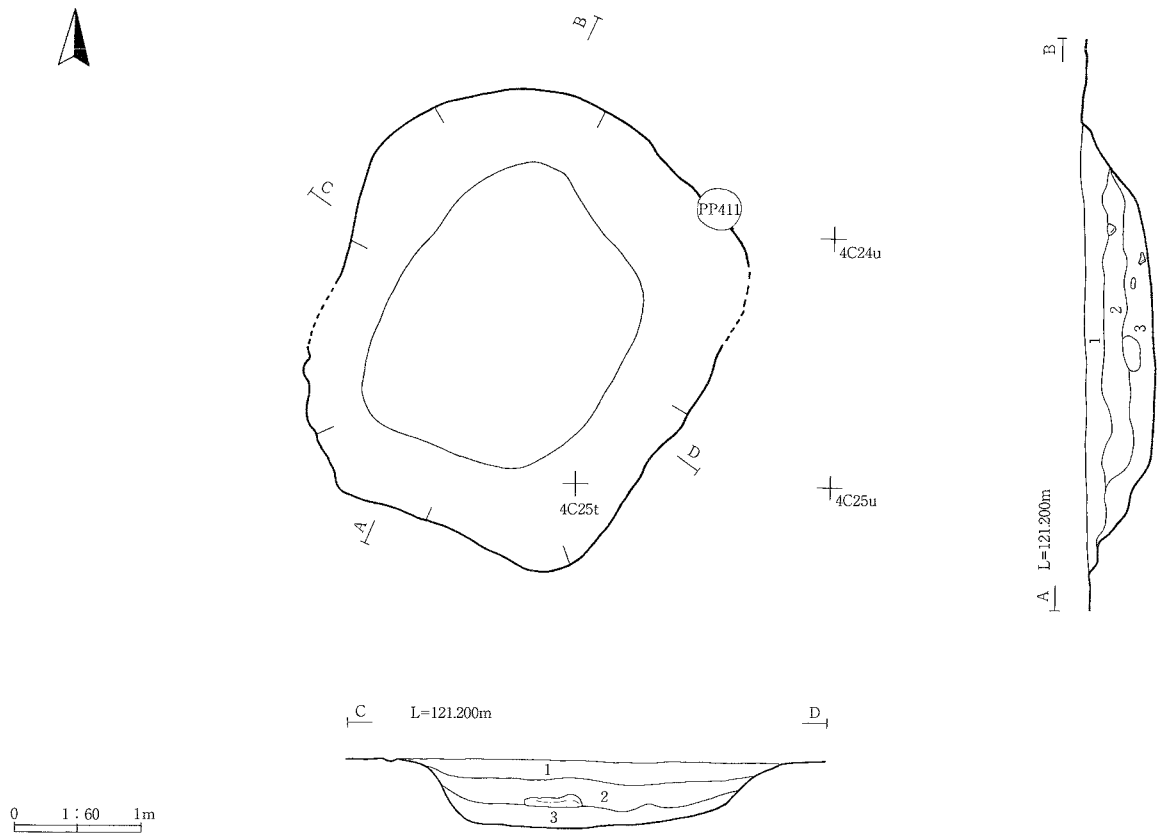
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
671	38×32	9.7	
674	21×18	14.9	
675	46×44	12.5	
676	34×30	32.9	
677	28×27	17.5	
678	23×19	15.4	
679	23×18	8.2	
681	16×14	13.1	
1827	28×27	23.4	
1828	28×25	12.8	
1829	30×29	18.8	
1830	35	14.2	
1831	43×41	29.0	
1832	22×18	5.0	
1833	23×24	31.5	

0 1:60 1m



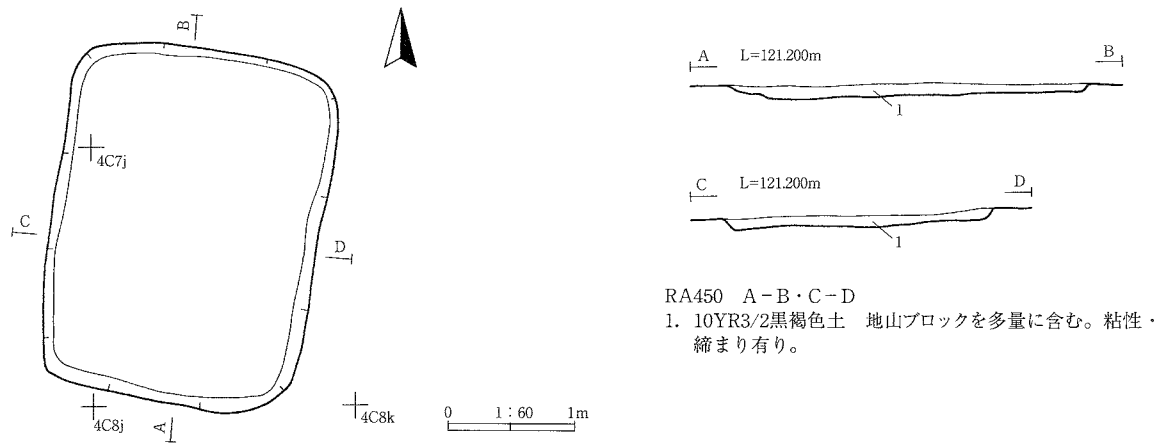
- RA232
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 粒・炭少量含む。水酸化鉄斑混入。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒含む。焼土粒少量、炭多量含む。
  - 10YR2/1黒色土 粘性ややなし。締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 粒多量含む。炭少量含む。水酸化鉄斑混入。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。黄褐色土 (10YR5/6) 粒多量含む。炭、白色粒子少量含む。
  - 10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土 粘性やや有り。締まり有り。
  - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。径30mm位の河原石を多量含む。
  - 10YR2/1黒色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) ブロック少量含む。水酸化鉄斑混入。
  - 10YR2/1黒色粘土質土 粘性にとみ、締まりやや有り。

第91図 RA232竪穴建物跡



1. 10YR2/1黒褐色土 水酸化鉄斑有り。粘性有り。縮まりやや有り。
2. 10YR2/1黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
3. 5Y2/2オリーブ黒色土 地山ブロック極微量含む。粘性やや有り。縮まりやや有り。

第92図 RA443 罫穴建物跡



1. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロックを多量に含む。粘性・縮まり有り。

第93図 RA450 罫穴建物跡



RA454 竪穴建物跡 (第94図、写真図版78)

<位置・重複関係>遺跡南東端に近い4C21uグリッドに位置している。RG339よりは新しい。

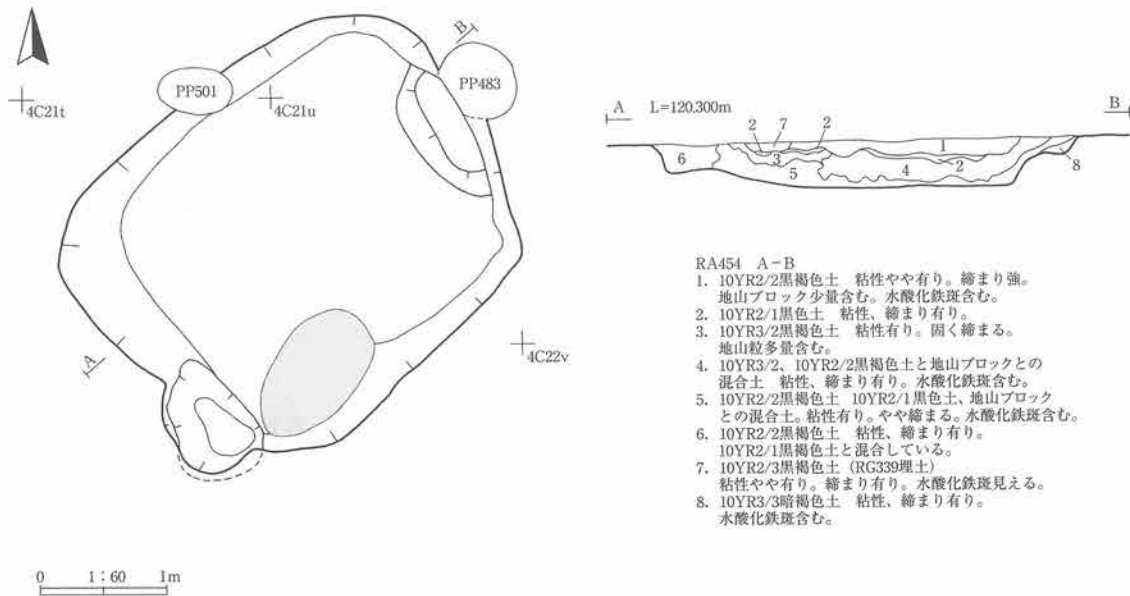
<規模・平面形>検出面での規模は3.4×2.9mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。南側の壁隅に抉るような不整な掘り込みを持ち、北東壁には地山を削り出して階段状の段差を設けている。

<埋土>黒褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈する。

<壁・床面・柱穴>壁は概ね平坦な底面から外傾して25~40cm程立ち上がっている。南壁際に125×65cm程の範囲で焼土の広がりを検出したが、現地性のものか判然としなかった。柱穴は検出されていない。

<遺物>なし。

<時期>中世に属すると推測される。



第94図 RA454竪穴建物跡

### 3 竪穴状遺構

#### RE048 竪穴状遺構（第95図、写真図版79）

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-B15aグリッド付近に、RB039掘立柱建物跡と重複して位置する。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.8mで、床面積は約8.1㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、北に対して約10°東へ傾いている。

<埋土>黒褐色土と暗褐色土がほぼ同じ割合で分布している。

<壁>残存する壁高は8cm程度で、床面からゆるやかに立ち上がる形態を示しているが、上面は全体的に削平を受けていると思われる。壁溝は検出されていない。

<床面>暗褐色土が主体となり、全体的に平坦でやや締まった状態である。貼り床はほぼ全体に施されており、層の厚さは5～14cmで、黒褐色土と地山のブロックを全体に含んでいる。

<出土遺物>出土していない。

<時期>時期を特定できる遺物が出土していないものの、近隣の遺跡から見つかっている同様な遺構から、中世に構築されたものと推定される。重なって検出されたRB039掘立柱建物跡は、当該遺構と同じ中世のものでありながら、重複の状況から後年の遺構である可能性が高い。

#### RE049 竪穴状遺構（第95図、写真図版79）

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-C16uグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出され、RG328溝跡が当該遺構の北端をかすめている。

<規模・平面形・方向>3.1×2.9mで、床面積は約9㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、北に対して約10°東へ傾いている。

<埋土>自然堆積で黒褐色土が主体を占めており、全体に少量の地山ブロックを含んでいる。

<壁>残存する壁高は15cm程度で、床面からやや垂直に立ち上がる形態を示しており、上面は全体的に削平を受けているものと思われる。壁溝は検出されていない。

<床面>褐色細砂が主体となり、全体的に平坦でやや締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層の厚さは2～7cmで、黒褐色土のブロックを全体に少量含んでいる。

<出土遺物>（第188図、写真図版163）377ロクロ整形の高台付坏が1点出土している。

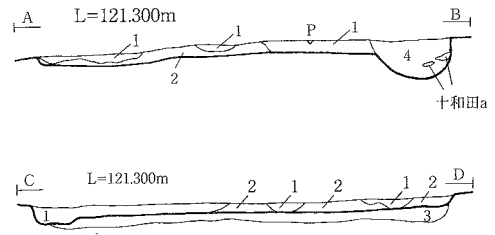
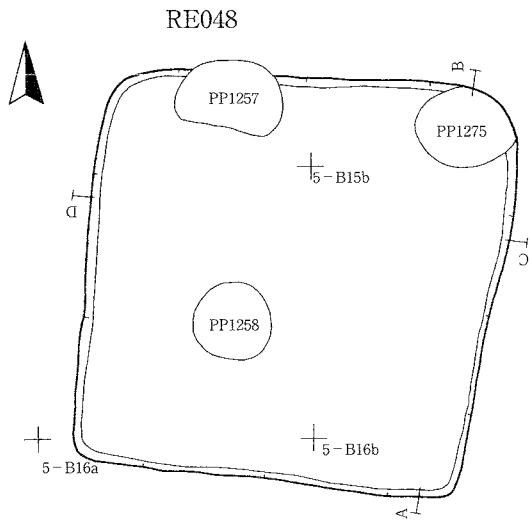
<時期>出土遺物等から、平安時代に構築された遺構と推定される。

#### RE050 竪穴状遺構（第40図）

<位置・重複関係>東側調査区の東側、3D6wグリッド付近で、RA447竪穴住居跡の床面から入れ子のような状態で検出された。RA447の検出面はIV層の上面である。

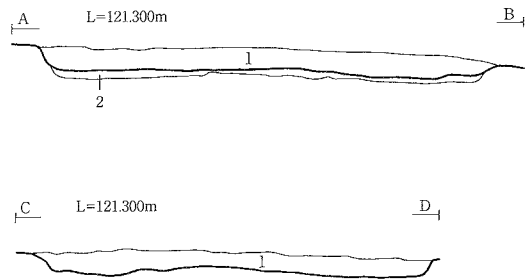
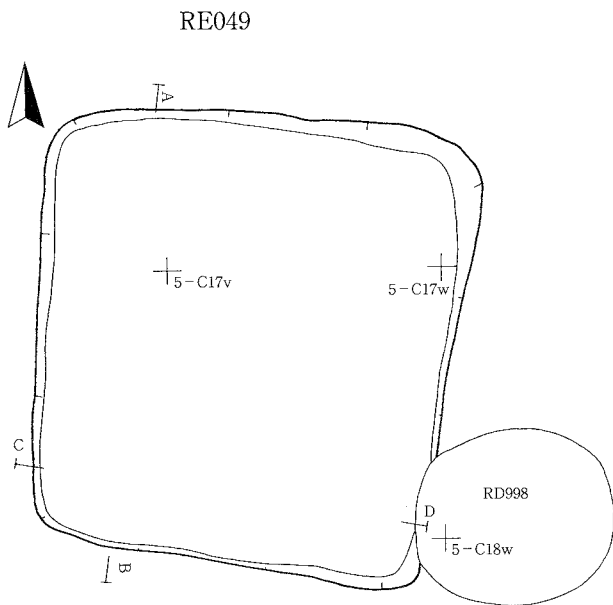
<規模・平面形・方向>2.8×2.6mで、床面積は約7.3㎡、平面形は円形にやや近い隅丸方形を呈し、北に対して約15°西へ傾いている。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めており、埋土堆積状況から外周のRA447竪穴住居跡と一連



- RE048 A-B・C-D
1. 10YR2/3 黒褐色土 全体に2層のブロックを含む。粘性・縮まり有。
  2. 10YR3/4 暗褐色土 全体に1層を少量含む。粘性弱・縮まり有。
  3. 10YR3/4 暗褐色土 全体に1層と地山ブロックを含む。粘性弱・縮まり有。
  4. 10YR2/2 黒褐色土 中・下層に十和田aと思われる火山灰とブロックを含む。粘性やや有・縮まり有。

0 1:60 1m



- RE048 A-B・C-D
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり密。  
(地山ブロックを全体に少量含んでいる)
  2. 10YR4/6 褐色細砂 粘性弱。縮まりやや密。

0 1:60 1m

第95図 RE048・049堅穴状遺構

の遺構であることが判明した。

<壁>当該遺構を内包するように存在する、外側のR A447竪穴住居跡の床面から計測した壁高は40～42cmで、床面からやや垂直に立ち上がる形態を示している。

<床面>全体に黒褐色土と地山をブロック状に含み、水酸化鉄も層状に分布するほぼ平坦で堅く締まった状況を呈している。南壁中央には、88×70cmの半円形をした段状の張り出し部分が存在する。

<出土遺物>（第188図、写真図版163）奈良時代の土師器が、埋土の上位～下位にかけて出土している。

球胴甕378は埋土中層から破片ながらも一カ所からまとまって出土した。

<時期ほか>はじめはR A447竪穴住居跡（奈良時代）よりも新しい遺構になると想定しR E050として登録した。しかし埋土の堆積状況は本遺構がR A447に伴って構築された様相を呈しており、住居の床面を掘り込んだ床下収納的な施設であったと解釈したい。

## 4 掘立柱建物跡

広範な第26次調査区のなかで、調査区北西側と南西側から集中して検出された。掘立柱建物跡が存在していた時期について、北西側で検出されたものは近世（2棟）、南西側は平安時代（1棟）と中世（6棟）のものと、それぞれ推定している。平面図には代表的な柱間寸法を付けた。括弧内の数字の単位は尺、括弧の無い数字の単位はcmである。一尺を30.3cmとして計算している。

### R B 0 3 1 掘立柱建物跡（第96図、写真図版80）

<位置・重複関係>北西調査区の西側、2-D22nグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出され、当該遺構の内側には、R D622土坑が存在する。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で南北方向2間（212cm）・東西方向3間（236cm）で、中に方形な掘り込みをもっている。北を基準に20°西偏している。

<柱間寸法>様々な寸法が用いられているが3.5尺（106cm）と2.6尺（79cm）を意識しているようである。

<付属施設・建物の性格>本遺構がR B034の付属施設（便所）と思われ、PP1658・1659の間が入り口であろう。

<出土遺物>なし。

<時期>近世。

### R B 0 3 4 掘立柱建物跡（第96図、写真図版80）

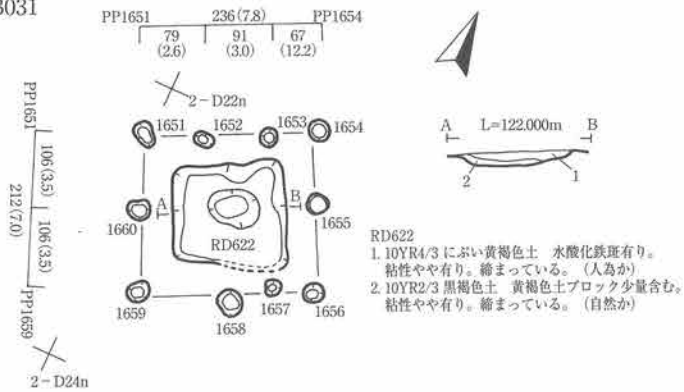
<位置・重複関係>北西調査区の西側、2-D251グリッド付近に位置し、IV層の上面から検出された。南側でR A407・420竪穴住居跡と重複し、本遺構のほうが新しい。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で桁行1254cm、梁間985cmである。恐らくは上屋柱と下屋柱からなる構造と考えられるが下屋柱は掘り込みが浅く検出されなかったと解釈したい。桁行の軸方向はN-15°-Wである。

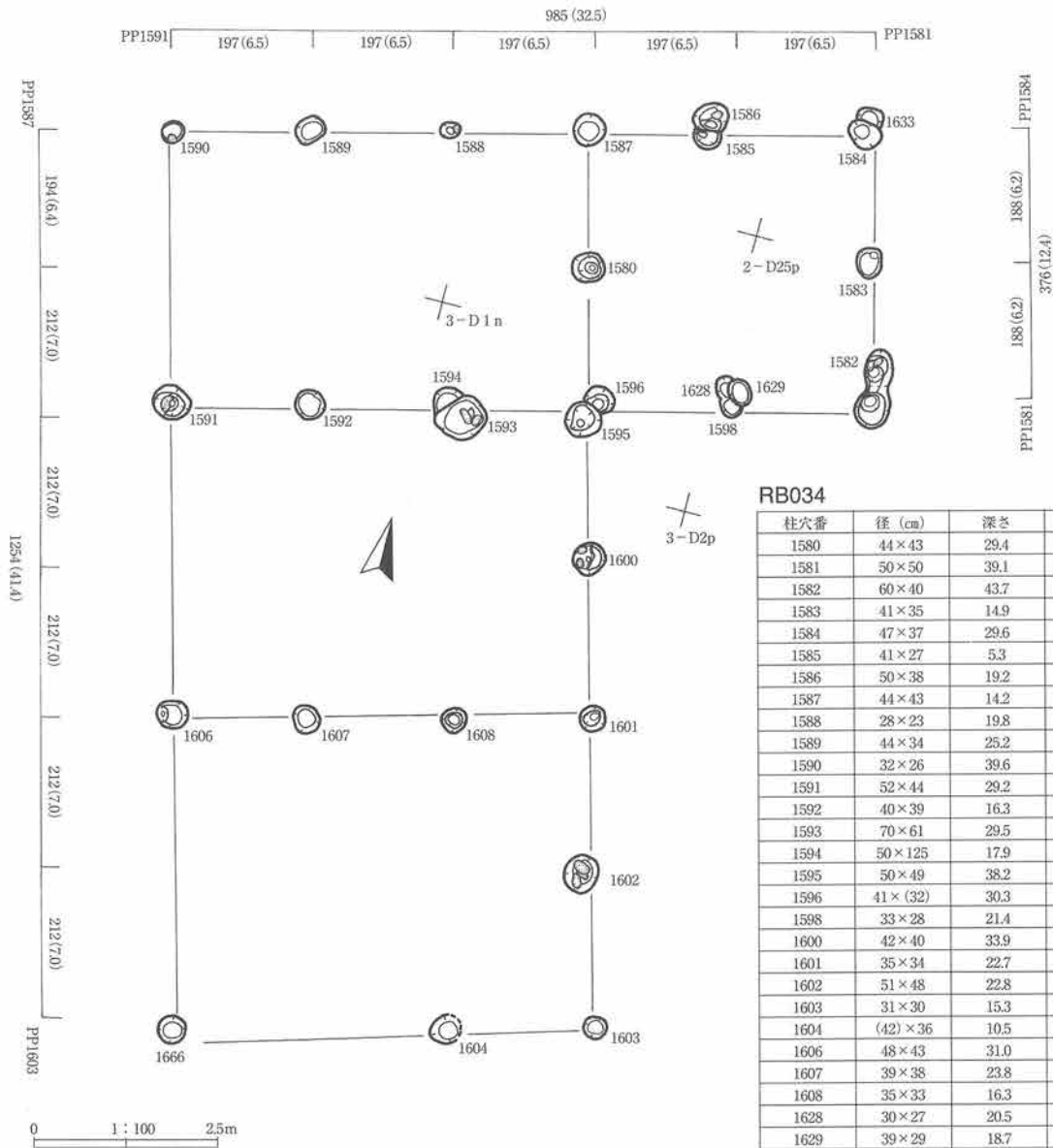
RB031

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1651	35×26	26.7	
1652	26×23	16.3	
1653	25×23	19.2	
1654	27×25	22.6	
1655	28×28	18.2	
1656	28×26	23.4	
1657	22×21	15.7	
1658	35×35	16.0	
1659	31×26	17.6	
1660	29×23	25.0	

RB031



RB034



RB034

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1580	44×43	29.4	
1581	50×50	39.1	
1582	60×40	43.7	
1583	41×35	14.9	
1584	47×37	29.6	
1585	41×27	5.3	
1586	50×38	19.2	
1587	44×43	14.2	
1588	28×23	19.8	
1589	44×34	25.2	
1590	32×26	39.6	
1591	52×44	29.2	
1592	40×39	16.3	
1593	70×61	29.5	
1594	50×125	17.9	
1595	50×49	38.2	
1596	41×(32)	30.3	
1598	33×28	21.4	
1600	42×40	33.9	
1601	35×34	22.7	
1602	51×48	22.8	
1603	31×30	15.3	
1604	(42)×36	10.5	
1606	48×43	31.0	
1607	39×38	23.8	
1608	35×33	16.3	
1628	30×27	20.5	
1629	39×29	18.7	
1633	37×(23)	13.0	
1666	40×37	9.7	

第96図 RB031・034掘立柱建物跡

<柱間寸法>桁行が7尺(212cm)、梁行には6尺5寸(197cm)を使用している。柱材や根固め石のある柱穴も見られる。

<付属施設・建物の性格>大きさから母屋と考えられ、その柱穴配置から曲屋を想定した。また、この民家は厩部分を建て替えていると考えられる。R B 031が付属小屋に、R I 011が井戸になると思われる。

<出土遺物>なし。

<時期>近世。

#### R B 0 3 5 掘立柱建物跡 (第97図、写真図版81)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央4-C21vグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面はIV層上面である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で身舎に庇が付く形態である。比較的柱穴分布の薄い所で検出されたため平面プランを容易に把握できた。身舎は4間×2間で身舎の内に柱穴は見られず、庇を含めた桁行は1115cm(36尺8寸)、梁間は667cm(22尺)を測る。桁行の軸方向はN-10°-Wである。

<柱間寸法>多くの寸法を使用しているが身舎の桁行は7尺5寸(227cm)、梁間が8尺(242cm)を基準にしているようで、庇には3尺~3尺5寸を使用している。

<付属施設・建物の性格>大きさや構造から単なる農民の屋敷とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>建物の構造から中世と考えたい。

#### R B 0 3 6 掘立柱建物跡 (第97図、写真図版81)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央、5-C1wグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面は、IV層上面である。北側に、R B 035・037掘立柱建物跡(中世)に挟まれている。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で桁行2間(388cm)、梁間1間(279cm)、桁行の軸方向はN-77°-Wである。

<柱間寸法>桁行は8尺(242cm)と4尺8寸(145cm)、梁間は9尺2寸(279cm)を使用している。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさから付属小屋的な用途が推測される。

<出土遺物>なし。

<時期>中世の所属と考えられる。

#### R B 0 3 8 掘立柱建物跡 (第98図、写真図版82)

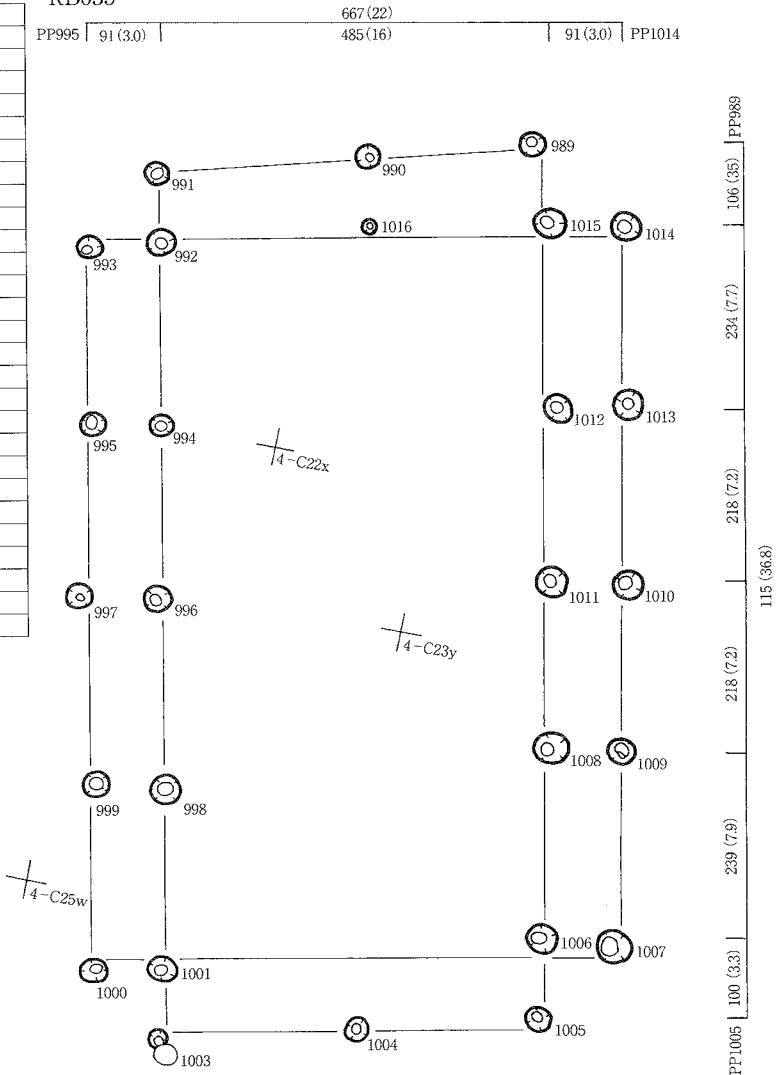
<位置・重複関係>南西調査区の南側、5-C5wグリッド付近に位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が薄くなっていたため、IV層上面~下面で、遺構の中央から東側半分は多量の礫を含んだ層が現れている。北東側をR B 037掘立柱建物跡と重複しているが、相互の新旧関係は不明である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で身舎に庇が付く形態である。柱穴が密に分布する中でも比較的容易にプランを想定できた。身舎は5間×2間の総柱で庇を含めた規模は桁行49尺3寸(1494cm)、梁間では32尺2寸(976cm)あり、桁行の軸方向はN-4°-Wである。平面図にして見ると桁行に対して梁間が歪ん

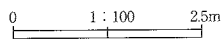
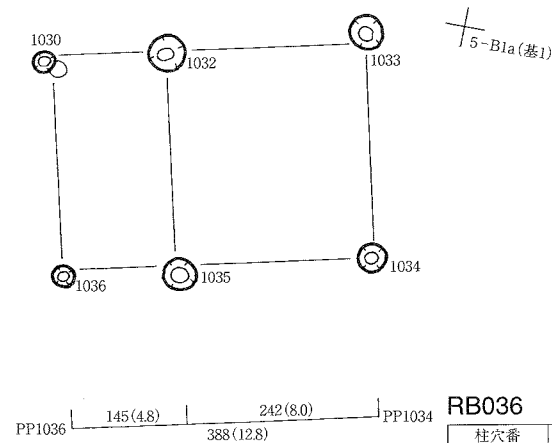
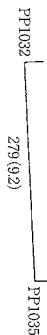
RB035

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
989	32×30	16.5	
990	35×27	30.8	
991	30×27	15.5	
992	33×32	38.5	
993	31×27	24.6	
994	26×24	33.0	
995	28×24	14.0	
996	33×32	35.3	
997	30×26	20.2	
998	36×36	32.8	
999	34×28	23.9	
1000	30×26	17.6	
1001	34×31	26.2	
1003	20×18	6.5	
1004	30×26	23.8	
1005	32×26	25.0	
1006	39×36	33.6	
1007	38×34	24.8	
1008	40×38	40.6	
1009	32×32	11.1	
1010	34×32	32.3	
1011	40×32	43.6	
1012	37×29	32.4	
1013	32×30	30.4	
1014	35×34	25.0	
1015	41×37	53.3	
1016	18×16	13.2	

RB035



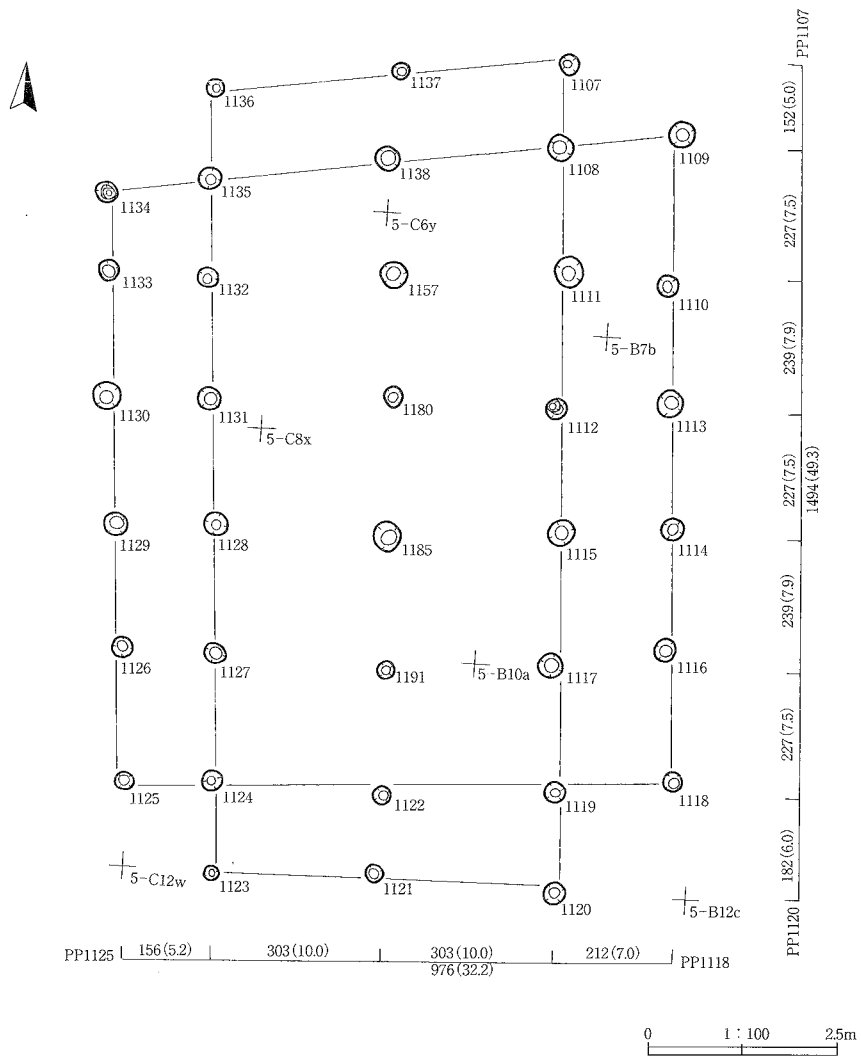
RB036



RB036

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1030	28×(20)	9.9	
1032	46×46	24.0	
1033	44×38	25.1	
1034	38×30	12.6	
1035	41×40	18.0	
1036	27×26	12.7	

第97図 RB035・036掘立柱建物跡



RB038

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1107	32×30	19.8	
1108	46×42	14.9	
1109	47×41	14.1	
1110	34×30	11.0	
1111	53×49	20.8	
1112	38×32	29.1	
1113	48×44	20.8	
1114	38×36	21.6	
1115	48×45	27.4	
1116	42×38	21.9	
1117	40×40	30.6	
1118	32×31	24.9	
1119	33×33	24.0	
1120	40×38	15.6	
1121	34×29	10.5	

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1122	24×22	—	
1123	21×19	—	
1124	35×34	44.5	
1125	34×30	28.1	
1126	32×29	28.1	
1127	34×34	35.5	
1128	42×32	37.5	
1129	38×37	25.7	
1130	48×42	20.5	
1131	40×38	37.4	
1132	34×32	33.0	
1133	38×30	22.9	
1134	39×34	20.8	
1135	30×27	6.4	
1136	26×25	—	

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1137	26×25	8.6	
1138	44×40	8.7	
1157	44×40	26.1	
1180	32×27	9.9	
1185	52×42	8.1	
1191	24×24	10.8	

第98図 RB038掘立柱建物跡



でいるが実際その場で見ても気づかない程度である。

<柱間寸法>身舎を見ると桁行では7尺9寸(239cm)と7尺5寸(227cm)を多用し、梁間は10尺を基準にしているようである。庇は7尺～5尺である。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさや構造から、単なる一般農民の屋敷とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものであろう。

#### R B O 3 9 掘立柱建物跡 (第99図、写真図版82)

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-C14yグリッド付近に位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が薄くなっていたため、IV層上面～下面である。遺構の中央をRE048竪穴状遺構、北東側をRA429竪穴住居跡とそれぞれ重複しているが、検出時の状況から、当該掘立柱建物跡の方が後年に構築されたものと推定される。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で、周りに分布する柱穴よりも明らかに大きい柱穴によって構成されているため容易に桁行5間×梁間3間の建物を想定できた。規模は桁行で26尺1寸(790cm)、梁間が16尺8寸(509cm)を測り、桁行の軸方向はE-9°-Sを指す。

<柱間寸法>桁行は5尺3寸(161cm)を基準とし、梁間は5尺5寸(167cm)を意識しているようである。全体に各柱穴の上面は削平を受けているものの、深さ・直径ともに、前述の中世掘立柱建物跡の柱穴よりも規模が大きいのが特徴である。北東部分の柱穴は、他の遺構との重複や上面の削平が激しく、礫層も露出しているため、柱穴の原型があまり残されていない。PP1275の埋土には、十和田a火山灰のブロックが含まれていたが、二次堆積によるものであり、柱痕については、いずれの柱穴からも確認できず、礫や時期を示すような遺物も出土していない。

<付属施設・建物の性格>不明であるが、単なる付属小屋とは考えにくい。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものと考えられる。

#### R B O 4 0 掘立柱建物跡 (第99図、写真図版83)

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-C13uグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が若干薄くなっており、IV層上面である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で2間×2間の総柱建物である。軸方向はN-3°-Eとなる。

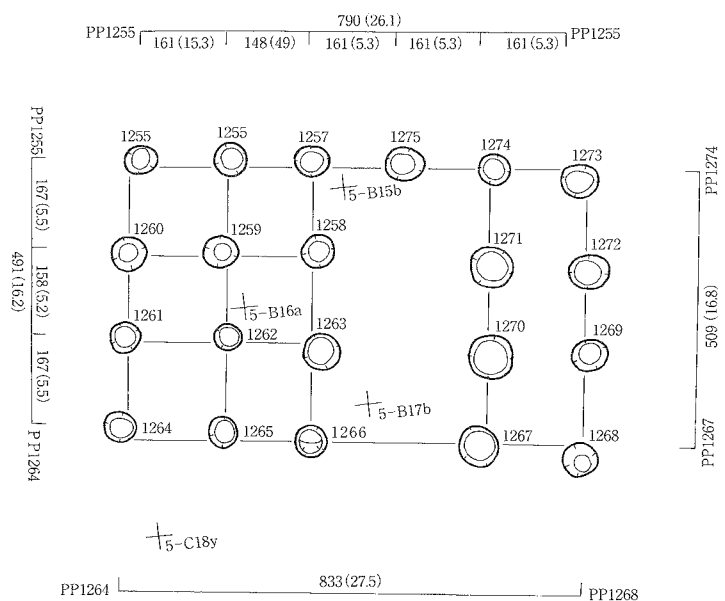
<柱間寸法>6尺(364cm)を基準にしている。柱穴の平面形は円形～楕円形を基調としており、全体に各柱穴の上面は、削平を受けていると思われるものの、深さ・直径ともに、中世の掘立柱建物跡の柱穴よりも規模が大きいのが特徴である。柱痕は3基から確認されており、うち1基からは根固めの一部と思われる礫が出土している。

<付属施設・建物の性格>PP1210・1211が梯子となる倉庫と考えられる。

<出土遺物>なし。

<時期>平安時代。

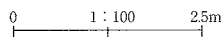
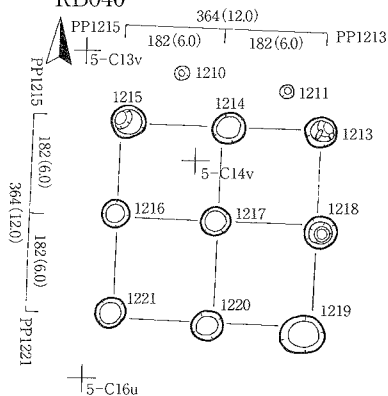
RB039



RB039

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1255	59 × 54	40.0	
1256	69 × 62	35.7	
1257	58 × 52	19.3	
1258	62 × 56	27.1	
1259	62 × 60	17.6	
1260	63 × 62	32.0	
1261	53 × 54	20.7	
1262	50 × 47	22.3	
1263	62 × 58	20.9	
1264	60 × 52	20.2	
1265	56 × 50	22.3	
1266	58 × 54	21.5	
1267	77 × 69	39.4	
1268	67 × 62	—	
1269	63 × 52	21.3	
1270	78 × 78	15.1	
1271	78 × 69	42.6	
1272	71 × 61	20.8	
1273	65 × 53	12.3	
1274	58 × 54	13.9	
1275	72 × 58	18.1	

RB040



RB040

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1210	26 × 26	21.8	
1211	25 × 23	29.8	
1213	58 × 50	43.4	
1214	55 × 56	36.2	
1215	61 × 56	48.3	
1216	48 × 48	38.5	
1217	54 × 52	43.8	
1218	53 × 57	42.2	
1219	80 × 66	40.9	
1220	53 × 53	36.5	
1221	53 × 52	36.5	

第99図 RB039・040掘立柱建物跡

#### R B 0 3 7 掘立柱建物跡 (第100図・写真図版82)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央、5-C4xグリッド付近に位置し、遺構検出面は後年の耕作等により表土が薄くなっていたため、IV層上面～下面である。南西側でR B 038掘立柱建物跡と重複しているが、相互の新旧関係は不明である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡である。柱穴分布がそれほど密ではないため比較的容易にプランを把握できた。桁行6間(1176cm)×梁間2間(509cm)の総柱の建物を想定し、桁行の軸方向はN-75°-Eを指す。

<柱間寸法>桁行は中央部分が広く8尺7寸・8尺5寸などを使っており、両端に行くほど6尺8寸～4尺といった具合に間尺は狭くなっている。平均値で見れば6尺5寸を意識しているようである。一方、梁間は8尺4寸を基準にしているようである。柱穴は検出面で既に礫層が露出していたため浅いものが多く、各柱穴の上面は削平を受けているものと思われる。柱痕はいずれからも確認されず、柱穴の1基から根固めの一部として用いられたものと思われる礫が、僅かに出土した程度である。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさや構造から単なる一般農民の屋敷とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものと思われる。

#### R B 0 4 1 掘立柱建物跡 (第100図、写真図版83)

<位置・重複関係>南西調査区の西端、4-C21kグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面はIV層上面である。

<平面形式・建物方位>桁行3間、梁間2間の総柱建物を想定した。規模は桁行500cm、梁間が364cmを測り、桁行の軸方向はN-13°-Eである。

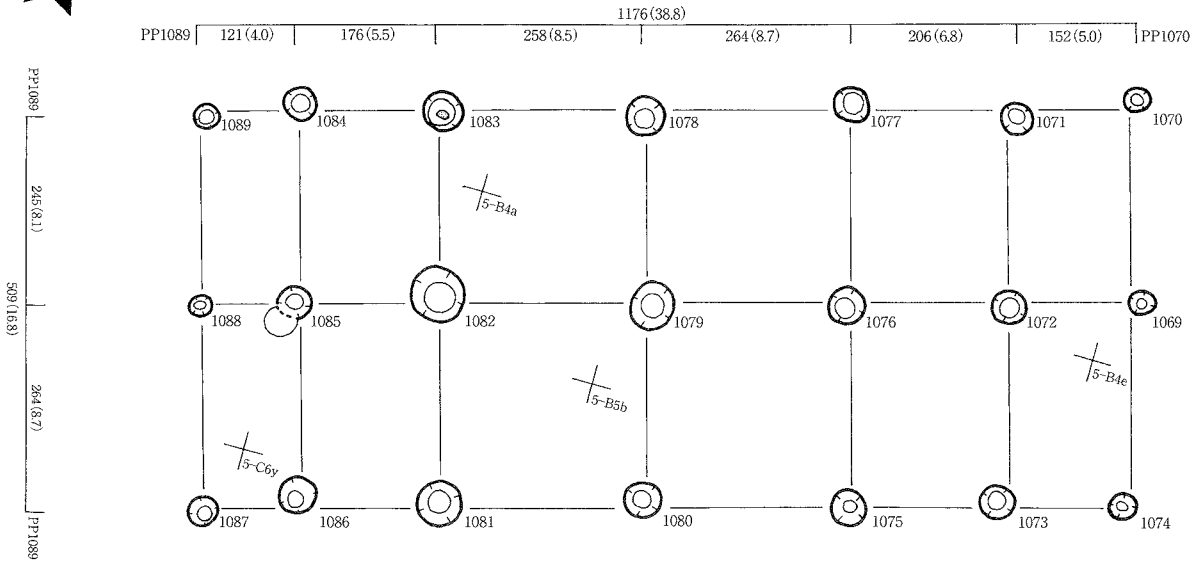
<柱間寸法>6尺(182cm)を基準とし、桁行には4.5尺(136cm)も使われている。南側にある3基の柱穴は、他の部分と比較して南北方向の間尺が狭くなっており、住居部分に付属する庇の可能性も考えられる。

<付属施設・建物の性格>小規模な家屋、もしくは付属小屋としての用途が考えられる。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築された可能性が高い。

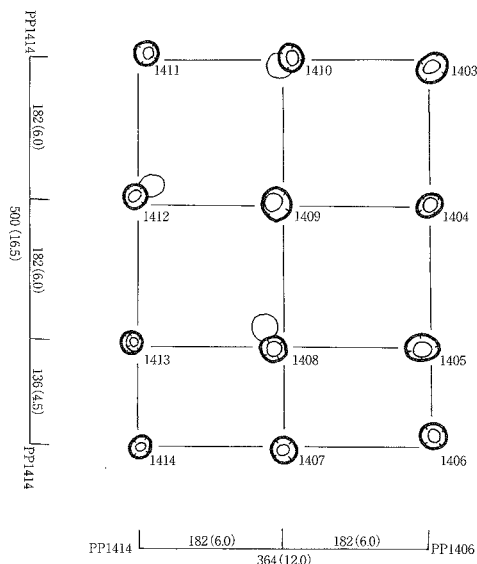
RB037



RB037

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1069	30×25	16.8	
1070	31×28	14.8	
1071	38×37	22.5	
1072	44×39	24.4	
1073	44×40	17.3	
1074	29×25	8.7	
1075	50×42	31.1	
1076	49×46	33.5	
1077	46×44	30.8	
1078	48×46	25.2	
1079	62×50	14.3	
1080	45×42	23.6	
1081	59×49	22.1	
1082	72×68	13.9	
1083	49×48	21.8	
1084	42×37	12.1	
1085	(44)×40	17.7	
1086	51×45	20.2	
1087	41×36	17.5	
1088	26×24	7.2	
1089	31×29	11.2	

RB041



RB041

柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1403	36×32	42.6	
1404	33×29	14.3	
1405	42×30	37.1	
1406	30×28	27.8	
1407	32×30	20.8	
1408	31×31	29.5	
1409	42×40	37.9	
1410	32×30	39.7	
1411	28×28	31.0	
1412	31×25	31.2	
1413	28×26	36.6	
1414	26×25	20.1	

0 1 : 100 2.5m

第100図 RB037・041掘立柱建物跡

## 5 土坑及び墓壙（中世）

今回の26次調査では122基の墓壙及び土坑が検出された。調査区のほぼ全域から検出されるが、その中でも密に分布するのは遺跡南側中央部で、ここには中世の墓壙が多数みられ墓域を形成していた（第12図）。この他には調査区の西側（2-Dグリッド）や南西側（5-Bグリッド）には土坑が比較的まとまって分布している。時期別に見てみると平安時代のもの1基、中世に属するもの並びにその可能性が高いと判断したものの55基（この内、墓壙は37基）、近世～近代14基、時期不明52基である。

個々の遺構の諸特徴や出土遺物については観察表にまとめたので、ここでは代表的なものについてのみ触れたい。R D622はR B031に伴う施設で近世民家R B034の付属施設（便所か）の一部と見られる。R D644は平面形が隅丸長方形を呈し、埋土上層は地山ブロックを多量に含む人為堆積であった。こうした埋土と共に赤焼き坏（381～383）や甕（384）等の破片が投げ込まれた状況で出土しており、平安時代の遺構と判断される。但し土坑の性格については判然としなかった。R D808からも土師器坏385、赤焼き坏386、甕387が出土したが、R D822より切り合い関係で新しく見え、中世の土坑と思われる。

中世の銭貨が出土したR D822は埋土が人為堆積を呈する事からも墓壙ではないかと位置付け、これより重複関係において旧いとみることができるR D823も埋土が人為堆積を呈することから中世の墓壙と解釈したい。中世の墓壙はこの他に3-Bグリッドを中心とし、かなりの密度で分布しており（R D596・660・823・1007～1021・1023～1028・1031～1033）、隣接地域を対象とした23次調査の成果からこの地が大規模な中世墓域であることが明らかとなっている。埋葬方法は基本的に直葬のようで、棺の痕跡を残すものではなく遺物を伴う墓壙も極端に少ない。一連の中世墓群の広がりには4-Cグリッド付近にもみられR D975・976・1002～1005等が検出されている。これらの墓壙は平面形が長方形・方形を呈するものが主体で長軸が極端に長い長方形も見られる。この長軸が極端に長い墓壙は他のものに比べて掘り込みが浅いものが多く、遺体を伸ばした状態で埋葬したためにこうした形態を呈するものと考えられる。他の墓壙は身体を折り曲げて埋葬されていたといえ、掘り込みも前述した長軸が極端に長い長方形プランの墓壙よりも深いものが多数を占める。

規模は底面積で2.2～1.2㎡位で長軸方向を見ると北-南側を向くものと東-西側を指すものと大きく分けられそうだが、それに何らかの規則性を見出すことはできなかった。墓壙の年代は23次調査の成果から13世紀後半～15世紀頃と想定され、その中でも14・15世紀が中心になると思われる。副葬品が極端に少ないこと、埋葬形態は単純な土坑墓が大半を占めること、これまでに確認された墓壙が330基を越え、それらが激しく重複していることなどから周辺集落の一般的な人々の墓地であったと推測される。

R D933・953からは寛永通寶（478～480）が出土しているが墓とは考えにくい。R D1001と1006はやや不整形に掘り込まれた土坑で規模も似ている。周囲の遺構分布から中世に属する可能性が高いが、こういった目的で使われたのか不明である。同じくR D1038も中世に位置付けられるとみているが、性格は判然としにくい。埋土中には自然礫を多く含んでいた。R D1034には焼土を廃棄している痕跡がみられた。

土坑類観察表

遺構名	位置	平面形	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考	図版	種類
		開口部径(cm)	長軸方向				写真	時期
RD586	2-C	不整形	14.5	黒褐色土の単層。			-	不明
		-	-				84	不明
RD596	3 B21 i	隅丸長方形	28.5	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。			101	墓壙
		160×108	N-88° - W				84	中世
RD622	2-D22 n	方形	17.1	埋土上層は人為堆積と思われる。		R B031に伴う	96	便所か
		155×154	N-63° - E				84	近世
RD626	2-D23 k	長円形	5.6	黒褐色土の単層。			101	土坑
		98×39	N-10° - W				84	不明
RD633	3-D1 c	不整形	12	黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			101	土坑
		75×54	N-51° - E				85	不明
RD634	3-D1 c	隅丸方形	11.9	黒褐色土の単層。			101	土坑
		76×70	N-56° - E				85	不明
RD635	2-D25 r	不整形	27.5	黒褐色土を主体とする自然堆積。		R A414より新	101	土坑
		120×112	N-15° - E				85	不明
RD636	2-D24 r	長円形	12.4	黒褐色土主体。自然堆積か。			101	土坑
		151×67	N-73° - E				85	不明
RD637	2-D24 r	円形	70.9	黒色土、黄褐色土、黒褐色土の互層。自然堆積。	土師器甕380		101	土坑
		142×130	N-49° - E				85	不明
RD639	2-D20 n	不整形	35.2	黒褐色土、暗褐色土主体。自然堆積と思われる。	赤焼き坏3点・土師器甕2点		101	土坑
		114×110	N-13° - E				86	不明
RD643	2-D14 y	方形	21.4	地山ブロックを極微量含む黒褐色土。			101	土坑
		174×170	N-84° - W				86	不明
RD644	2-C13 a	隅丸長方形	48.3	底面付近には暗褐色土、その上に地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。	土師器381~384、その他赤焼き坏1点・土師器甕1点		102	墓壙か
		358×184	N-0°				86	平安時代
RD645	3-D2 o	不整形	33.2	小礫を含む黒褐色土及び褐色土。自然堆積。			102	土坑
		142×92	N-61° - E				86	不明
RD660	4 B20 i	不整形	12	黒褐色土と地山ブロックとで構成される。			102	墓壙
		140×110	-				87	中世
RD692	2-D25 u	不整形	18	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。			102	土坑
		74×68	N-67° - W				87	不明
RD808	2-C18 a	隅丸長方形	27.7	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。	土師器385~387、その他に土師器坏2・赤焼き坏3・土師器甕7点	R A410より新	102	土坑
		172×136	N-90° - W				87	不明
RD810	2-C21 c	隅丸長方形	23.6	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土からなる。			102	土坑
		(128)×(100)	N-46° - W				87	不明
RD814	2-C18 b	不整形	22	黒褐色砂質土及び暗褐色砂質土等で構成される自然堆積と思われる。			103	土坑
		196×120	-				88	不明
RD819	2-C20 b	不整形	43.4	自然礫を含む黒褐色土、地山ブロックを多量に含む暗褐色土からなる自然堆積でよいと思われる。			103	土坑
		94×78	N-15° - E				88	不明
RD820	2-C19 d	不整形	18.2	自然堆積か否か判然としない。			103	土坑
		88×74	N-52° - E				88	不明
RD822	2-D16 y	隅丸長方形	60.8	黒褐色土に地山ブロック・小礫を含む人為堆積。	銭貨469~471、他に平安時代の土師器坏2片・赤焼き坏2・甕5片	R D823より新	103	墓壙
		216×100	N-73° - E				88	中世
RD823	2-D16 y	隅丸長方形	47.6	黒褐色土と褐色土の混合土が底面付近に堆積。人為堆積。	鉄器454・465、平安時代の土師器10数片	R D822より旧	103	墓壙
		(108)×120	N-23° - W				88	中世
RD825	2-C16 e	隅丸長方形	21.3	人為堆積であろう。	奈良時代の土師器甕10片	R A418より新	103	土坑
		170×11	N-62° - E				88	不明

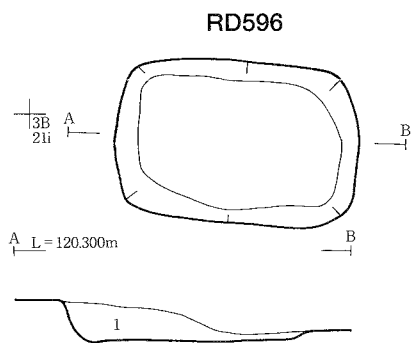
遺構名	位置	平面形	深さ(cm)	埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類
		開口部径(cm)	長軸方向				写真	時期
R D826	2 - C 14 g	長円形	42.2	黒褐色土を主体とし、焼土粒・地山ブロック等を含む。自然堆積でよいと思われる。			103	土坑
		230×78	S - 82° - E				89	不明
R D827	2 - D 17 s	不整形	28.7	黒色土及び黒褐色土を主体とする自然堆積と思われる。			104	土坑
		(164)×(168)	N - 25° - W				89	不明
R D828	2 - D 5 t	不整形	13.9	注記なし			104	土坑
		(200)×(156)	N - 39° - W				89	不明
R D829	2 - D	不整形	31.5	注記なし			-	土坑
		(224)×(105)	N - 15° - E				89	不明
R D830	2 - C 9 k	隅丸長方形	31.5	地山ブロックを多量に含む人為堆積。			104	土坑
		116×114	N - 16° - E				90	不明
R D831	5 - C 14 y	円形	23	黒褐色土の単層。			104	土坑
		92×88	N - 3° - E				90	不明
R D832	5 - C 14 y	隅丸長方形	8.2	黒褐色土の単層。			104	土坑
		(84)×68	N - 85° - W				90	不明
R D833	4 - C 7 h	長円形	19.6	上位に黒褐色土、底面付近ににぶい黄褐色土。			104	土坑
		160×45	N - 46° - E				90	不明
R D926	5 - C 4 o	円形	33.9	黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			105	土坑
		76×72	N - 83° - E				90	不明
R D927	4 - C 7 o	円形	39.6	黒褐色土の単層。			105	土坑
		107×99	N - 83° - E				91	不明
R D928	4 - C 13 a	不整楕円形	34.8	堆積であろう。			105	土坑
		90×45	N - 24° - W				91	不明
R D929	4 - C 22 n	円形	28.1	黒褐色土及びにぶい黄褐色砂質土等で構成される自然堆積。			105	土坑
		130×118	N - 61° - E				91	不明
R D930	4 - B 24 a	不整長円形	22.3	地山ブロックを多量に含む人為堆積。			105	土坑
		236×74	N - 68° - W				91	不明
R D931	5 - C 2 f	菱形	26	小礫を多量に含む黒褐色土の単層。			105	土坑
		196×128	N - 36° - E				92	不明
R D933	4 - B 25 c	不整円形	12.2	黒褐色土に地山ブロック少量含む人為堆積。	銭貨472・473・479		105	墓壙
		82×62	S - 88° - W				92	中世
R D934	5 - B 12 e	隅丸長方形	21.2	黒褐色土に地山ブロック・炭粒を含む人為堆積。	土師器388・389、その他に土師器坏1・赤焼き坏1～2・甕1点		105	墓壙
		240×110	N - 45° - W				92	中世
R D935	5 - B 2 g	円形	18.1	小礫を含む黒褐色土の単層		R A 428より新	106	土坑
		104×98	N - 44° - E				92	不明
R D936	5 - B 2 g	円形	18.2	小礫を含む黒褐色土の単層			106	土坑
		78×67	N - 45° - W				92	不明
R D937	5 - C 7 g	隅丸長方形	23.6	黒褐色土に地山ブロック・炭粒・礫を含む人為堆積。		R G 027より新	106	土坑
		188×128	N - 27° - E				93	中世以降
R D939	5 - B 1 d	長円形	10.1	地山ブロックを多量に含む黒褐色土が主体。人為堆積か。			106	土坑
		95×62	N - 64° - W				93	不明
R D940	5 - B 6 e	不整円形	18.1	小礫を多量に含む黒褐色砂質土。			106	土坑
		86×70	N - 46° - W				93	不明
R D941	5 - C 9 p	円形	10.5	注記なし			106	土坑
		88×82	N - 58° - W				93	不明
R D942	5 - B 14 f	楕円形	13.9	黒褐色土に褐色土が混じる。			106	土坑
		(10.5)×56	N - 7° - E				94	不明
R D943	2 - D 12 p	不整形	45.6	底面の一部に焼土、やや浮いた所には炭が見られる。	銭貨474、奈良時代の甕2片		107	墓壙
		314×(310)	N - 48° - W				94	中世
R D944	5 - B 14 g	不整楕円形	22.1	黒褐色土と褐色土で構成される。	赤焼き坏2～3片・土師器甕2～3片		106	土坑
		166×100	N - 64° - E				94	不明
R D945	5 - B 14 f	楕円形	23.8	上位に黒褐色土、下位に褐色土が堆積。			107	土坑
		230×94	N - 21° - E				95	不明

遺構名	位置	平面形		埋 土	出土遺物	備 考	図版 写真	種類 時期
		開口部径(cm)	長さ(cm) 長軸方向					
R D946	1 - B19 l	方形基調	18.5	地山ブロックを少量含む黒褐色土。			108	土坑
		458×(230)	N-83° - W				95	不明
R D947	1 - B18 p	隅丸長方形	19.5	地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積か。			108	土坑
		85×63	N-20° - E				95	不明
R D948	4 C18 y	不整形	17.3	地山ブロックを多量に含む人為堆積。			108	土坑
		102×84	N-47° - E				95	中世か
R D949	4 C17 u	不整形	29.1	不規則に地山ブロックを含む人為堆積。			108	土坑
		181×67	N-50° - E				96	中世か
R D950	4 D21 b	隅丸長方形	14.3	黒褐色土に地山ブロックを微量含む。人為堆積か。			108	土坑
		224×75	N-48° - E				96	中世か
R D951 952	3 C13 o	不整形	-	黒褐色土及び褐色土等で構成される。		新旧関係不明	109	土坑
		246×170	21				69	不明
R D953	3 C6 m	隅丸長方形	42.1	自然礫を含む黒褐色土・褐色土・にぶい黄褐色土等で構成される。自然堆積でよいと思われる。	銭貨480、奈良時代の土師器片		109	土坑
		319×172	N-8° - W				96	近世
R D954	3 D15 g	方形	26	埋土上部に焼土・炭粒が見られた。自然堆積か。	奈良時代の甕10数片		109	土坑
		144×128	N-81° - W				97	不明
R D955	3 D14 d	不整形	16.9	人為堆積と思われる。黒褐色土中に地山ブロック疎らに入る。			109	土坑
		112×74	N-35° - E				97	不明
R D956	3 E2 d	隅丸長方形	32.7	暗褐色土に炭粒を含む。			109	土坑
		116×90	N-11° - W				97	不明
R D971	4 D21 a	長円形	17.7	黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。自然・人為堆積不明。			110	土坑
		148×40	N-91° - W				97	不明
R D972	4 C20 x	長円形	20.2	黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。自然・人為堆積不明。			110	土坑
		166×62	N-11° - W				98	中世か
R D973	4 C19 t	不整形	14.1	黒褐色土中に地山ブロックを微量含む。人為堆積か。			110	土坑
		134×94	N-41° - W				98	中世か
R D974	4 C22 t	不整形	19.1	黒褐色土、黒褐色土と褐色土の混合土からなる。			110	土坑
		134×102	N-33° - E				98	中世か
R D975	4 C5 o	円形	15.8	地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			110	土坑
		104×88	N-72° - W				98	中世か
R D976	4 C6 o	円形	16.1	地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			110	土坑
		115×95	N-55° - E				99	中世か
R D977	3 D2 h	円形	28.8	黒褐色土の単層。			110	土坑
		88×84	N-19° - W				99	不明
R D978	2 D20 k	隅丸長方形	20.2	黒褐色土の単層。			110	土坑
		106×92	N-23° - W				99	新しいか
R D979	2 D1 h	隅丸長方形	19.6	黒褐色土を主体とする。			111	土坑
		134×100	N-31° - W				99	新しいか
R D980	2 D~3 D	隅丸長方形	-	注記なし			-	土坑
		-	-				100	近代以降
R D981	3 D9 g	不整円形	11.7	黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。			111	土坑
		88×82	N-35° - E				100	不明
R D982	3 C7 l	隅丸長方形	25.7	黒褐色土・褐色土ブロックを多く含み人為堆積の可能性が高い。		R G045より新	111	土坑
		138×68	N-23° - W				100	不明
R D983	3 D7 k	隅丸長方形	24.6	底面付近は黒褐色土に地山ブロック、その上は黒褐色土が堆積。	陶磁器429・435、玉508、奈良時代の甕20数片	R G045より新	111	土坑
		143×90	N-11° - W				100	近世
R D984	3 D6 m	方形	34.1	人為堆積の様相を呈する。		R G045より新	111	土坑
		133×130	N-30° - W				101	不明
R D985	3 D11 l	不整形	21.9	黒褐色土・褐色土ブロックを多く含み人為堆積の可能性が高い。	奈良時代の球胴甕(塗探1点含)2・甕3片・小型土器1点	R G045より新	111	土坑
		284×259	N-11° - W				101	不明

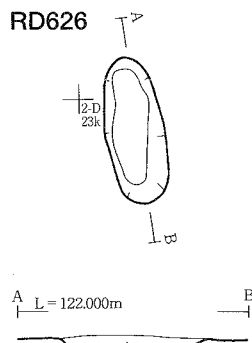


遺構名	位置	平面形	深さ(cm)	埋 土	出土 遺物	備 考	図版	種類
		開口部径(cm)	長軸方向				写真	時期
R D986	3 E	長方形	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土			-	土坑
		-	-				101	近代以降
R D987	3 E	長方形	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土			-	土坑
		-	-				101	近代以降
R D988	3 E	長方形	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土	土師器390~395		-	土坑
		-	-				102	近代以降
R D989	3 D 1 u	方形基調	24.1	にぶい黄褐色土の単層。		R A457より新	112	土坑
		126×115	N-58° - E				102	不明
R D990	3 E 5 b	円形	13.2	炭・焼土を微量含む黒褐色土の単層。			112	土坑
		88×73	N-29° - E				102	不明
R D991	2 D23 y	方形基調	33.4	炭を含む黒褐色土の単層。			112	土坑
		158×137	N-60° - E				102	不明
R D992	2 D21 x	方形	27.2	黒褐色土の単層。			112	土坑
		125×116	N-24° - W				103	不明
R D993	5 - B17 h	長円形	16.5	地山ブロックを含む黒褐色土。	赤焼き坏6片、須恵器坏2片		112	土坑
		240×98	N-12° - E				103	不明
R D994	3 E 3 e	隅丸長方形	67.7	人為堆積。			112	土坑
		153×120	N-70° - E				103	近代以降
R D995	3 E 6 b	隅丸長方形	68.9	人為堆積。			112	土坑
		154×121	N-71° - E				103	不明
R D996	2 D12 x	不整形円形	24	黒褐色土の単層。			112	土坑
		105×95	N-57° - W				104	不明
R D997	3 E	長方形	-	注記なし			-	土坑
		-	-				104	近代以降
R D998	5 - C18 m	不整形	48.2	埋土下層に黒褐色粘土、その上に薄く黄褐色粘土が入り、その上位には黒褐色土が堆積。		R E049より新	113	土坑
		(320)×140	N-79° - W				104	中世以降
R D999	3 E	長方形	-	注記なし			-	土坑
		-	-				104	近代以降
R D1001	4 C11 i	不整形長円形	45.3	黒褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈する。			113	土坑
		412×201	N-82° - W				105	中世か
R D1002	4 C10 a	隅丸長方形	32.7	黒色土を主体とする。	骨片と炭粒		113	墓壇
		142×84	N-90° - W				105	中世
R D1003	4 B13 w	不整形円形	12.2	地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			113	墓壇
		90×78	N-83° - E				106	中世
R D1004	4 C7 a	隅丸長方形	35.5	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			114	墓壇
		166×98	N-60° - W				106	中世
R D1005	4 B6 f	隅丸長方形	34.9	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			114	墓壇
		116×90	N-63° - W				106	中世
R D1006	4 B13 v	不整形	48.3	黒褐色土、黒色土等からなる自然堆積。			114	土坑
		280×176	N-4° - W				106	中世
R D1007	3 B23 h	不整形円形	11.3	地山ブロックを含む黒褐色土の単層。人為堆積。			114	墓壇
		114×(100)	N-20° - W				107	中世
R D1008	3 B23 h	不整形	7.4	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			114	墓壇
		(96)×60	N-54° - W				107	中世
R D1009	3 B23 h	不整形	16.8	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			114	墓壇
		96×76	N-1° - E				107	中世
R D1010	3 B23 g	不整形	6	地山ブロックを含む黒褐色土の単層。人為堆積。			114	墓壇
		88×68	N-12° - W				107	中世
R D1011	3 B8 i	方形基調	12.9	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			114	墓壇
		108×92	N-88° - W				107	中世
R D1012	3 B10 h	長方形基調か	10.5	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。			115	墓壇
		(130)×(80)	N-39° - E				108	中世
R D1013	3 B11 g	長方形基調か	12.7	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。	平安時代の土師器甕2片		115	墓壇
		170×70	N-13° - E				108	中世
R D1014	3 B14 h	隅丸長方形	25.8	地山ブロックを多量に含む黒褐色土の単層。人為堆積。			115	墓壇
		180×114	N-81° - W				108	中世
R D1015	3 B22 g	隅丸長方形	42.9	地山ブロックを多量に含む黒褐色土の単層。人為堆積。		R D1018より新	115	墓壇
		146×117	N-74° - W				108	中世

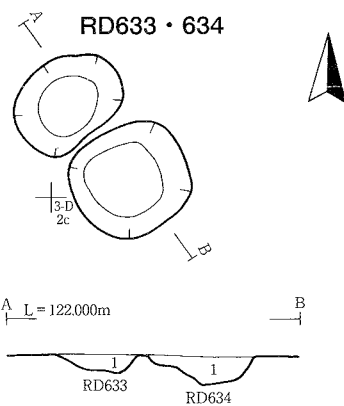
遺構名	位置	平面形		埋土	出土遺物	備考	図版		種類
		開口部径(cm)	長さ(cm) 長軸方向				写真	時期	
RD1016	3 B18 h	方形基調	14.7	黒褐色土を主体とし地山ブロックが混じる。		RD1015より旧	115	墓壙	
		122×113	N-89° -W				109	中世	
RD1017	3 B17 g	長方形基調か	14.3	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土主体。			115	墓壙	
		(112)×91	N-74° -W				109	中世	
RD1018	3 B22 g	隅丸長方形	26.7	地山ブロックを多量に含む黒褐色土の単層。人為堆積。			115	墓壙	
		(183)×106	N-90° -E				109	中世	
RD1019	3 B16 h	隅丸長方形	17.7	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。			116	墓壙	
		118×95	N-71° -W				109	中世	
RD1020	3 B15 h	隅丸長方形	14.9	黒褐色土の単層。人為堆積。			116	墓壙	
		142×68	N-15° -W				110	中世	
RD1021	3 B9 k	隅丸長方形	19	黒褐色土の単層。人為堆積。	土師器甕1片		116	墓壙	
		125×76	N-30° -E				110	中世	
RD1022	3 B22 h	隅丸長方形	29.1	多量の地山ブロックを含む人為堆積。			116	墓壙	
		148×108	N-4° -E				110	中世	
RD1023	3 B11 i	隅丸長方形	21.1	人為堆積。炭・地山ブロックを含む黒褐色土。	土師器甕1片		116	墓壙	
		224×100	N-71° -W				110	中世	
RD1024	3 B1 g	不明	41.9	黒褐色土の単層。			116	墓壙	
		(100)×40	N-78° -W				111	中世	
RD1025	3 B13 i	隅丸長方形	35.8	黒褐色土の単層。人為堆積。			117	墓壙	
		166×90	N-76° -W				111	中世	
RD1026	3 B1 g	隅丸長方形	41.9	人為堆積の様相を呈する。			116	墓壙	
		140×94	N-72° -W				111	中世	
RD1027	3 B13 g	不整形	12.6	地山ブロックを多量に含む黒色土。人為堆積。	土師器甕2片		117	墓壙	
		124×110	S-88° -W				111	中世	
RD1028	3 B14 i	隅丸長方形	16.2	黒褐色土を主体とし、上位に地山ブロックを多量に含む。			117	墓壙	
		220×64	N-4° -E				112	中世	
RD1029		不整形		黒褐色土を主体に、その中に地山ブロックを含む。				墓壙	
		-	-					中世	
RD1030	3 B14 h		18.8	黒褐色土を主体とし、その中に地山ブロックを多量に含む。				墓壙	
		155×106	N-62° -W				112	中世	
RD1031	3 B14 j		17.8	地山ブロックを多量に含む人為堆積。				墓壙	
		255×90	N-4° -E				112	中世	
RD1032	3 B16 j		25.6	地山ブロックを多量に含む人為堆積。				墓壙	
		(182)×154	N-85° -W				113	中世	
RD1033	3 B10 i	楕円形	20	黒褐色土中に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。				墓壙	
		158×81	N-65° -W				113	中世	
RD1034	4 C18 k	不整形	62.2	黒褐色土を主体としその隙間に炭・焼土及び褐色土等が堆積。人為堆積でよいと思われる。	土師器396、その他奈良時代の甕1、球胴甕1点、炭粒	溝より新		土坑	
		188×148	N-120° -E					113	中世か
RD1035	4 C19 p	隅丸長方形	16.2	注記なし。				土坑	
		100×61	N-83° -E					113	中世か
RD1036	4 C19 m	不整形	52.3	黒褐色土中に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。				土坑	
		134×126	N-83° -E					114	中世か
RD1037	4 C21 n	不整形	38.1	黒色土、間褐色土、地山ブロック等で構成される人為堆積。				土坑	
		251×190	N-78° -W					114	中世か
RD1038	4 C23 p	長方形基調	17.8	地山ブロックを多量に含む黒褐色土の単層。		RG358より新		土坑か	
		587×174	N-32° -E					114	中世か



RD596  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。  
地山ブロック多量含む。

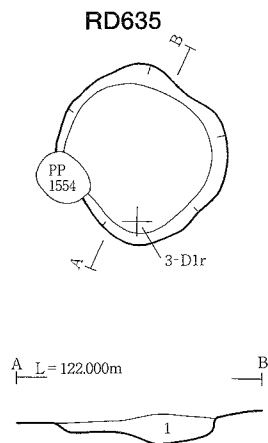


RD626  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。

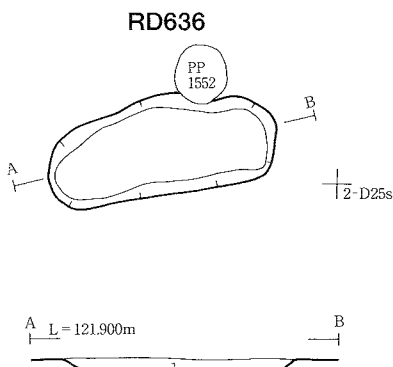


RD633  
1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック少量含む。  
粘性、締まりやや有り。

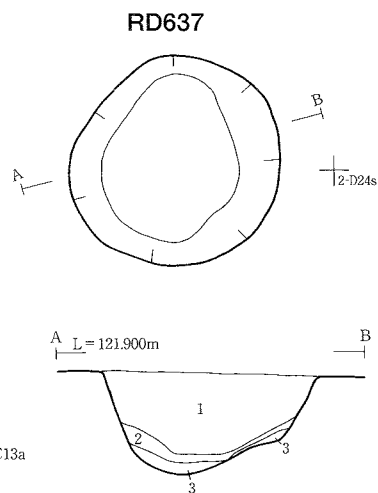
RD634  
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。



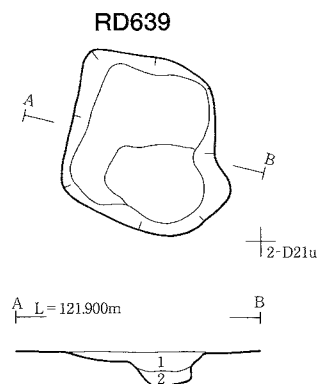
RD635  
1. 10YR2/3 黒褐色土 部分的に褐色土ブロック含む。  
粘性、締まりやや有り。(自然)



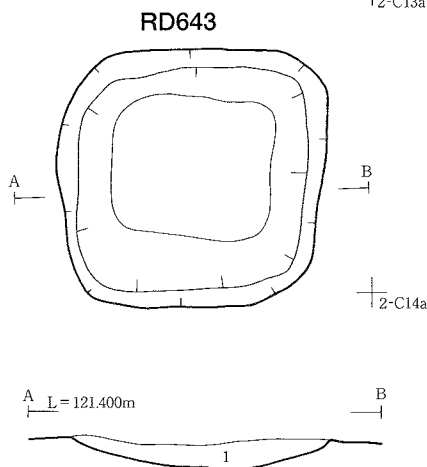
RD636  
1. 10YR2/3 黒褐色土 部分的に褐色土ブロック微量含む。  
粘性、締まりやや有り。(自然か)



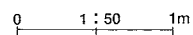
RD637  
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック微量含む。  
粘性やや有り。締まっている。  
2. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性弱。  
締まりやや有り。  
3. 10YR2/1 黒色土 小礫少量含む。  
粘性やや有り。締まっている。



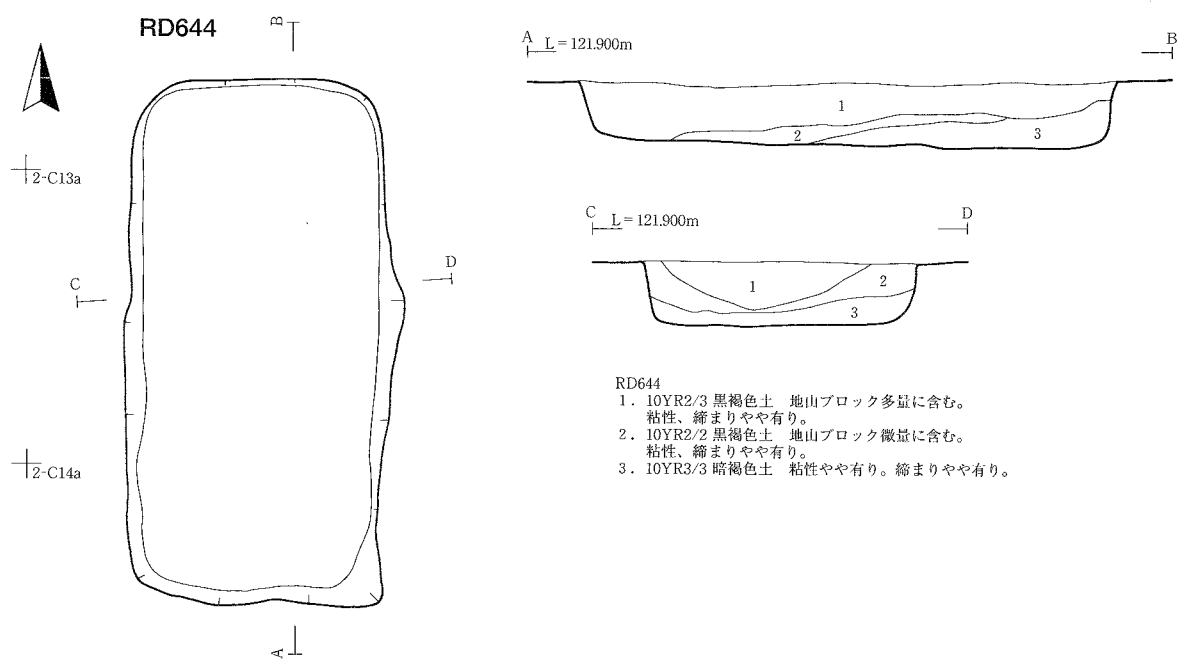
RD639  
1. 10YR3/2 黒褐色土 焼土、炭粒微量含む。  
粘性やや有り。締まっている。  
2. 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む。  
粘性やや有り。締まっている。



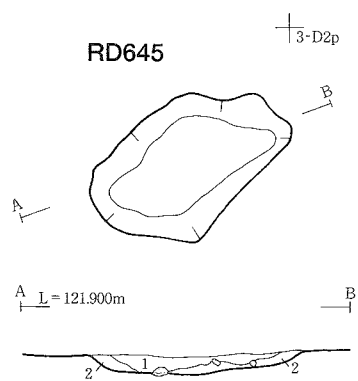
RD643  
1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック極微量含む。  
粘性、締まりやや有り。



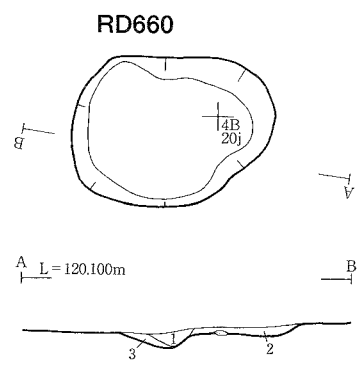
第101図 RD土坑 (1)



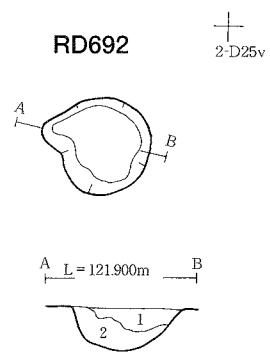
- RD644
- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック多量に含む。  
粘性、縮まりやや有り。
  - 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック微量に含む。  
粘性、縮まりやや有り。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりやや有り。



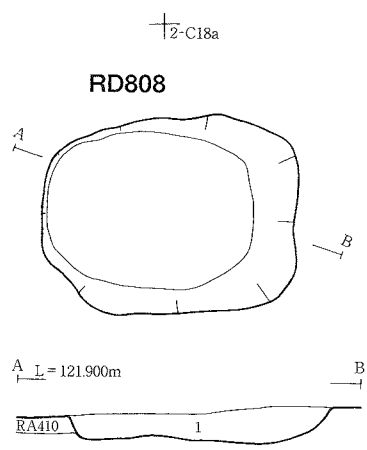
- RD645
- 10YR2/3 黒褐色土 シルト 粘性やや有り。縮まり密。  
(径2~5mmの小礫を全体に含んでいる)
  - 10YR4/4 褐色土 シルト 粘性やや有り。縮まり密。  
(径2mm~2cm程度の小礫を含んでいる)



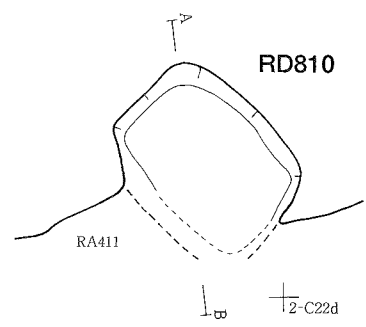
- RD660
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まり弱。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。  
多量の地山ブロックと混合する。
  - 礫層



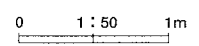
- RD692
- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック少量含む。  
粘性、縮まりやや有り。
  - 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック多量含む。  
粘性、縮まりやや有り。



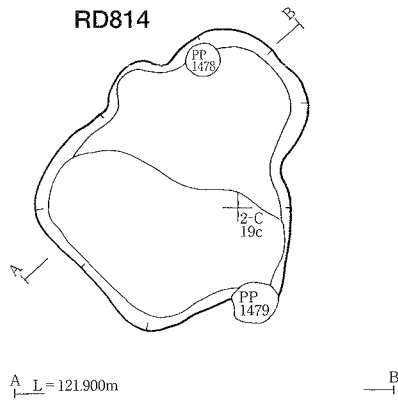
- RD808
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック微量含む。  
粘性やや有り。縮まっている。



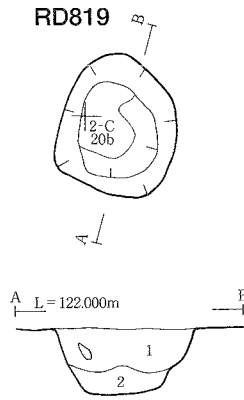
- RD810
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック微量含む。  
粘性やや有り。縮まっている。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱。  
縮まりやや有り。



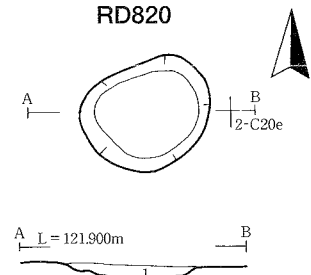
第102図 RD土坑 (2)



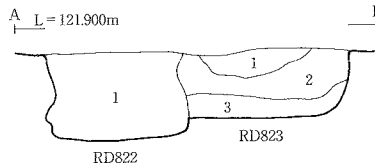
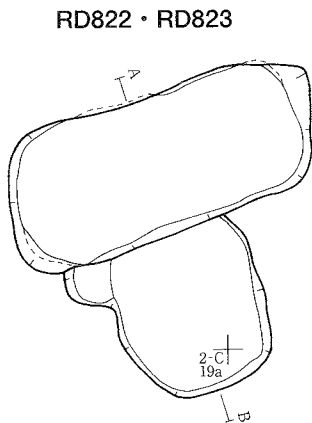
- RD814
- 10YR2/3 黒褐色砂質土 極小礫、地山ブロック微量含む。粘性弱。縮まりやや有り。
  - 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性弱。縮まっている。



- RD819
- 10YR2/2 黒褐色土 自然礫含む。粘性、縮まりやや有り。
  - 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性、縮まりやや有り。

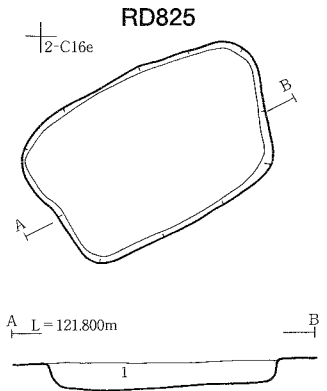


- RD820
- 10YR2/3 黒褐色砂質土 地山ブロック微量含む。粘性、縮まりやや有り。

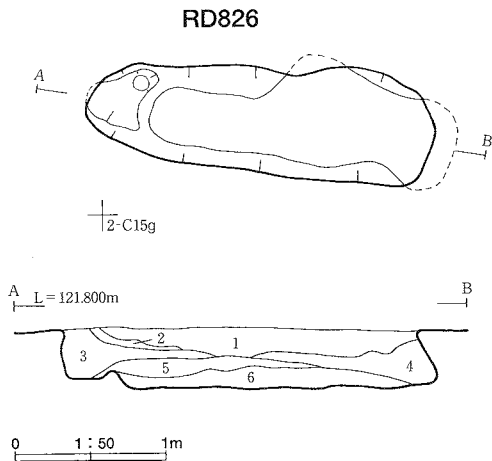


- RD822
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱。縮まりやや弱。地山粒 3% 含む。1~2cm の礫少量含む。(5~7%)

- RD823
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、縮まり有り。地山粒 5% 含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。地山粒 1% 含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/4 砂質土との混合土。粘性、縮まり弱。

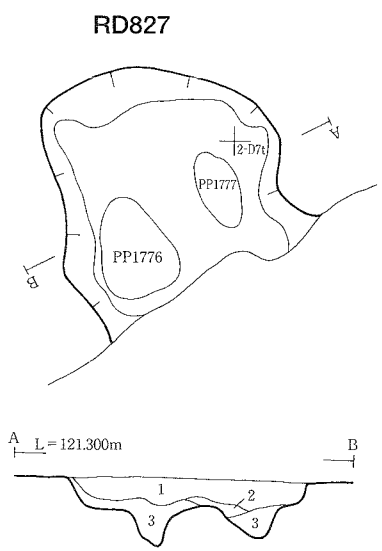


- RD825
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック 10~15% 含む。(人為と思う)

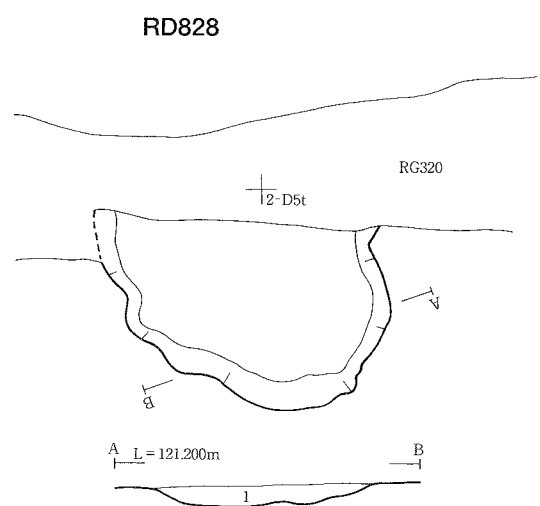


- RD826
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性、縮まり有り。炭微量含む。
  - 10YR3/1 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック少量含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック多量含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。焼土粒微量含む。(底から焼土が見える)
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。焼土粒微量含む。地山粒多量に含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土と地山土との混合土。粘性やや有り。縮まり弱。

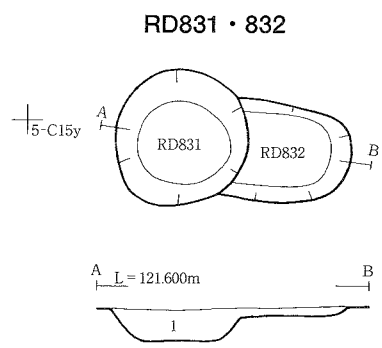
第103図 RD土坑 (3)



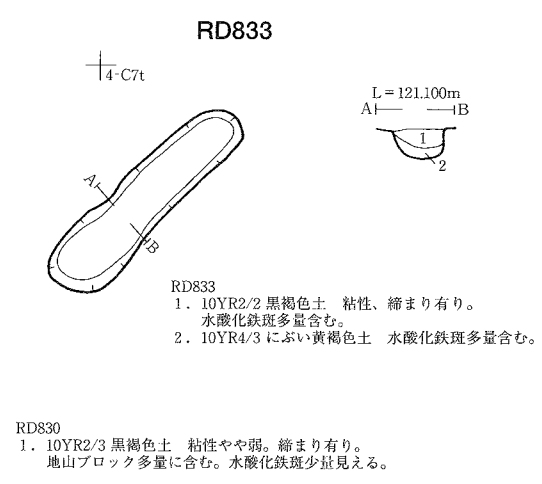
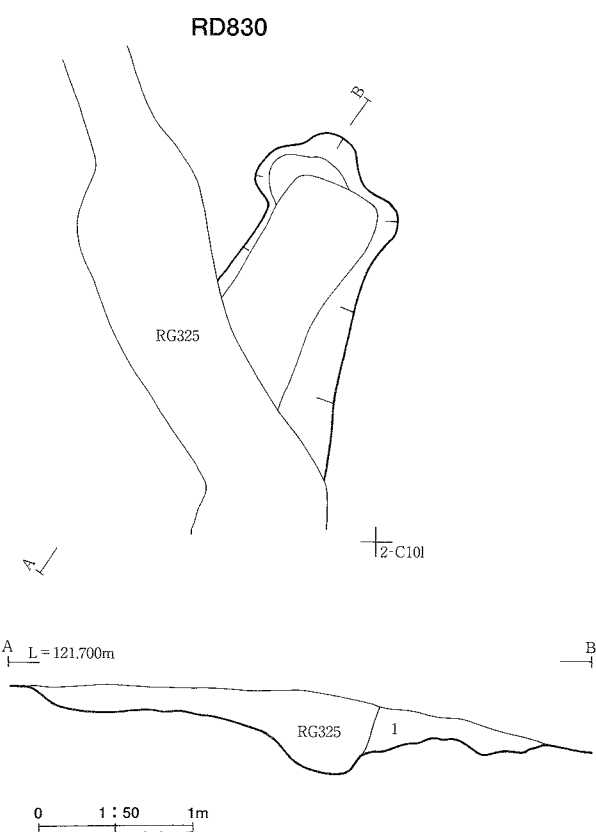
- RD827
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(地山ブロックと酸化鉄を全体に多く含んでいる)
  2. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
(酸化鉄を少し含む)
  3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
(酸化鉄と地山ブロックを少量含む)



RD828  
注記なし



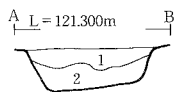
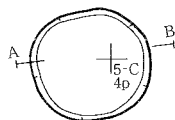
- RD831・832
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。



- RD833
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
水酸化鉄遊多量含む。
  2. 10YR4/3 におい黄褐色土 水酸化鉄遊少量含む。
- RD830
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。  
地山ブロック多量に含む。水酸化鉄遊少量見える。

第104図 RD土坑 (4)

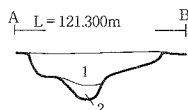
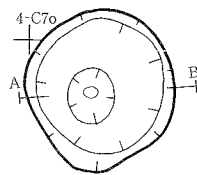
RD926



RD926

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山粒少量含む。
- 地山(砂) (IV層) 粘性無し。縮まりやや有り。

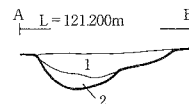
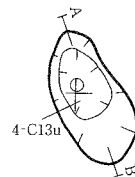
RD927



RD927

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。
- 地山土(4層)

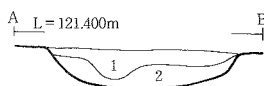
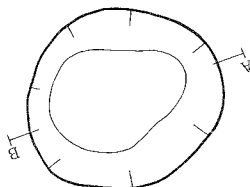
RD928



RD928

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、縮まり有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。

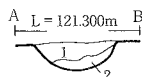
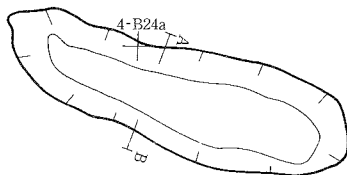
RD929



RD929

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性、縮まり弱。10YR3/2 黒褐色土少量含む。

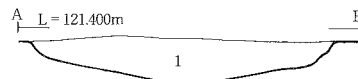
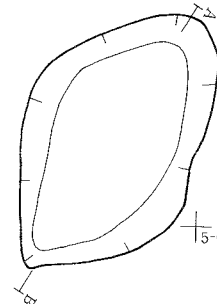
RD930



RD930

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや密。(地山ブロックを多く含む)
- 地山

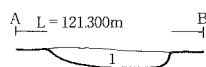
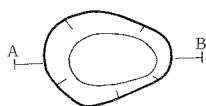
RD931



RD931

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山粒少量含む。(底に礫5~10cm大多量含む)

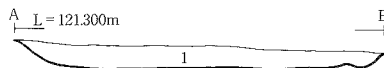
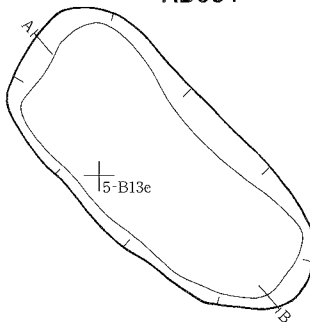
RD933



RD933

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山粒少量含む。(鉄出土)

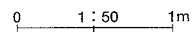
RD934



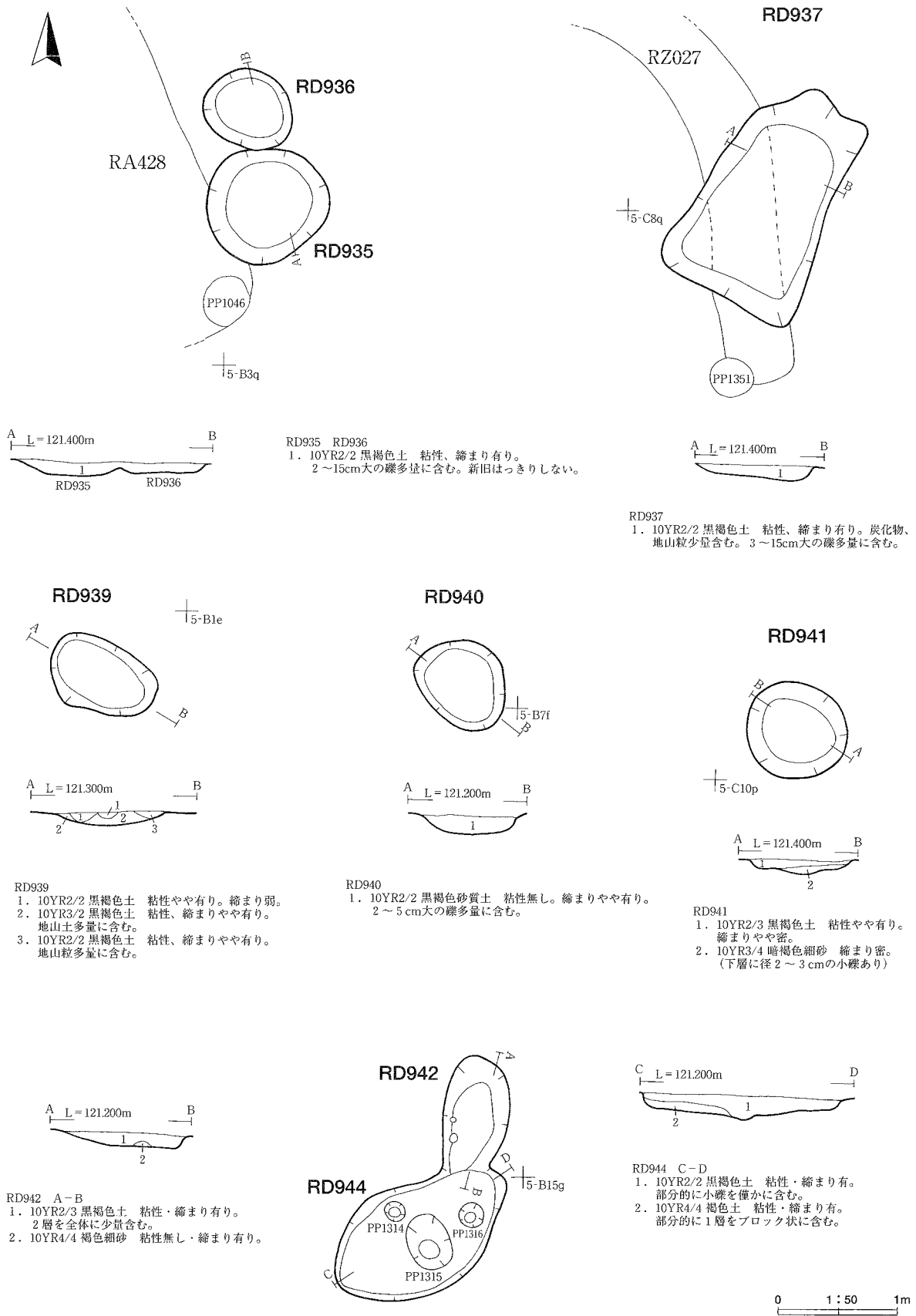
RD934

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山ブロック15%含む。炭微量含む。(埋土上層に少量焼土見える) 土師器片少量含む。(流れ込み)

場所によって地山土の流れ込みの量が違う。基本的に同じ土



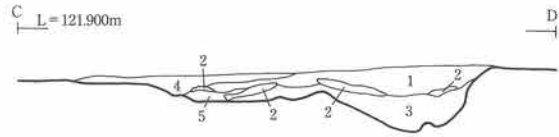
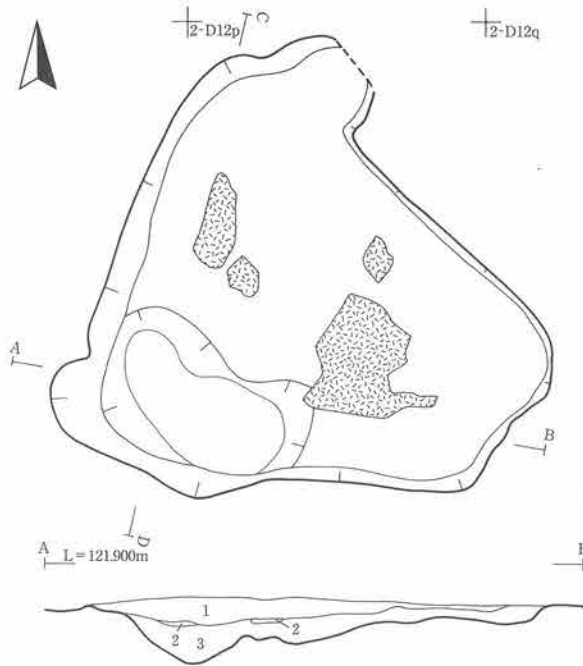
第105図 RD土坑(5)



第106図 RD土坑 (6)



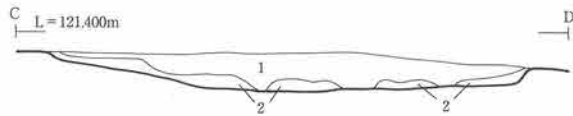
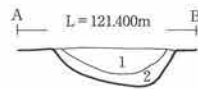
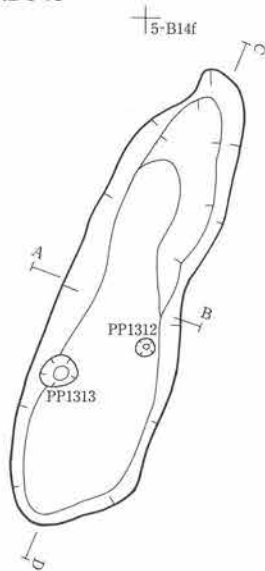
RD943



RD943

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。固く締まる。  
水酸化鉄斑、地山粒少量含む。
2. 炭化物
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む。地山ブロックを多量含む。  
混合土、炭化物少量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱。締まり有り。  
炭化物多く含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土粘性有り。  
締まり弱。焼土粒少量含む。

RD945

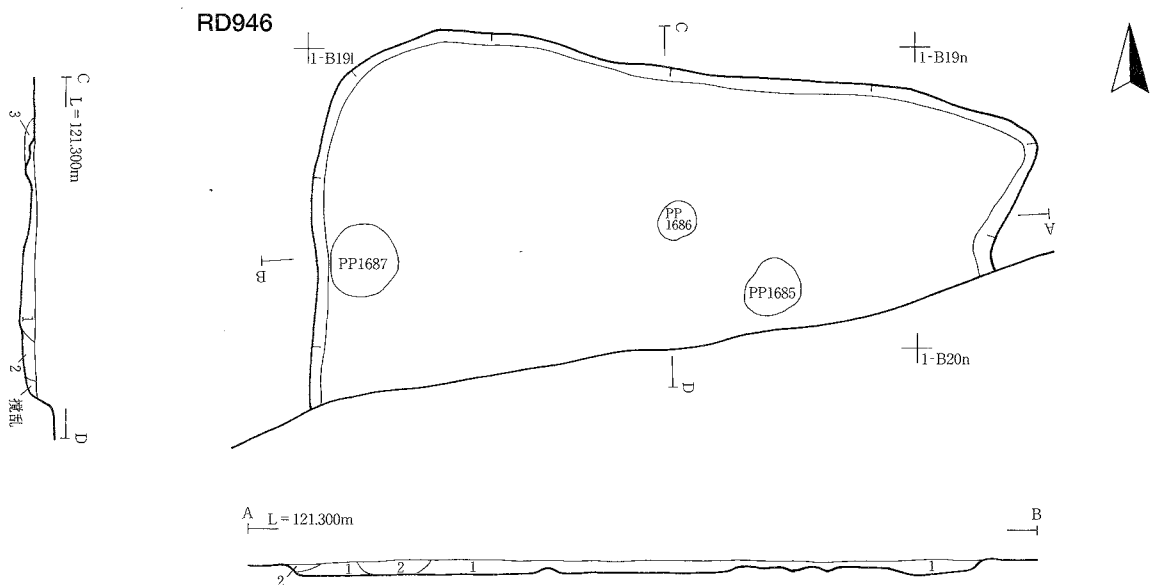


RD945

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロックを少量含む。  
粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR4/6 褐色細砂 粘性弱。締まりやや有り。

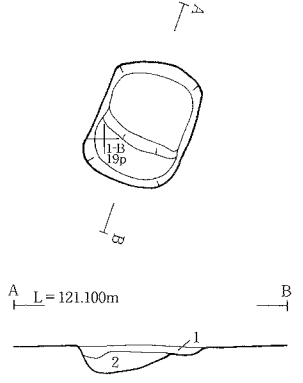
0 1:50 1m

第107図 RD土坑 (7)



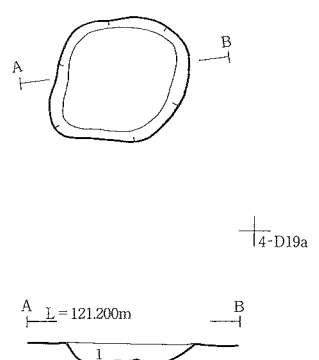
- RD946
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山粒少量含む。
  - 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山粒少量含む。

RD947



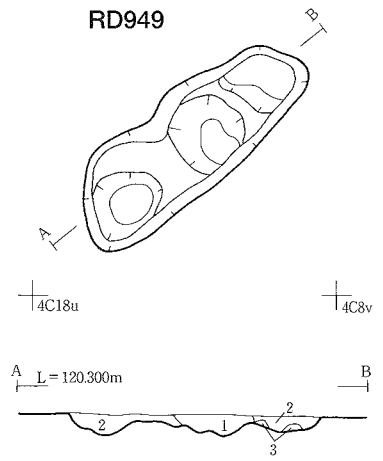
- RD947
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック少量含む。水酸化鉄斑含む。
  - 10YR3/1 黒褐色土と地山土 (10YR4/4 褐色土) との混合土。粘性に富む。締まりやや弱。

RD948



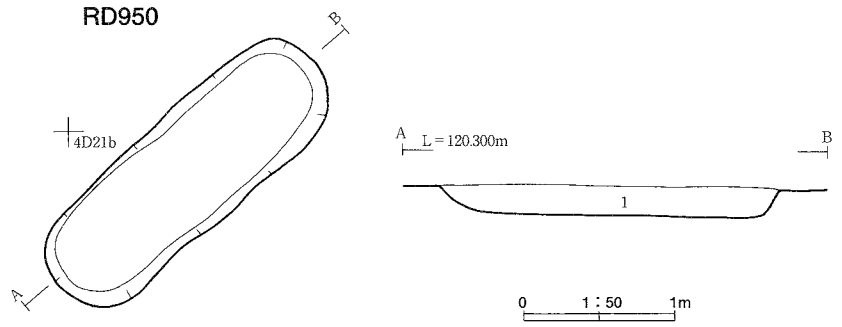
- RD948
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。地山ブロック多量含む。

RD949



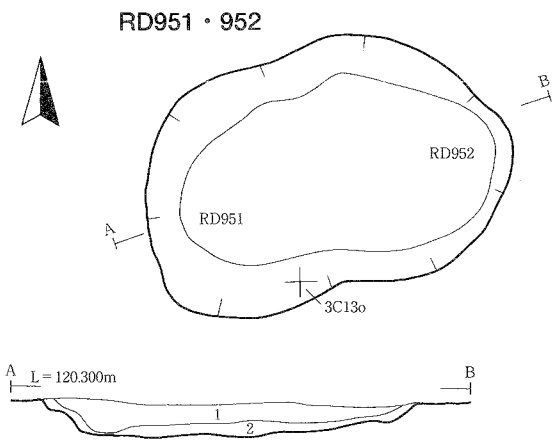
- RD949
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。地山ブロック微量含む。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。地山ブロック微量含む。
  - 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まっている。地山ブロック少量含む。

RD950



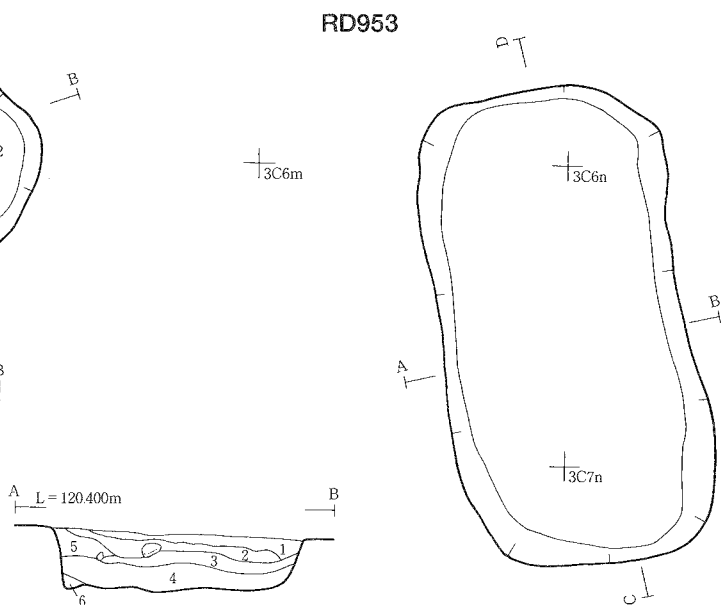
- RD950
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック極小粒を微量含む。

第108図 RD土坑 (8)



RD951・952

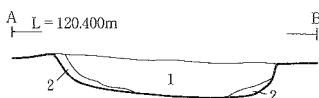
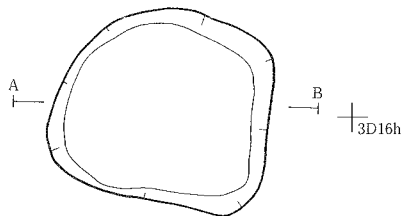
- 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性、縮まり中。  
黄褐色土が小ブロック状に入る。
- 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強。縮まり中。  
一部に10YR3/1を混在。



L=120.400m



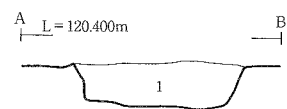
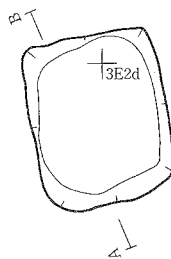
**RD954**



RD954

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。  
褐色土を疎らに含む。上部に焼土粒、炭少量含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まり中。  
1の土を少量含む。

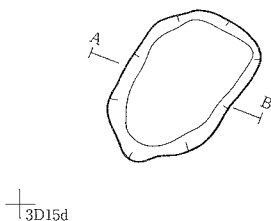
**RD956**



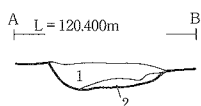
RD956

- 10YR3/4 暗褐色土 粘性中。縮まり強。  
酸化鉄粒、炭化物粒(極小)を少量含む。遺物無し。
- 10YR3/2 黒褐色土 RA444の埋土 粘性中。  
縮まりやや強。炭化物粒を少し含む。

**RD955**



3D15d

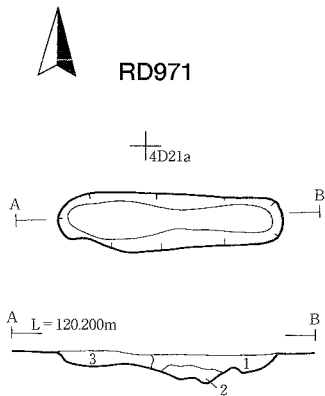


RD955

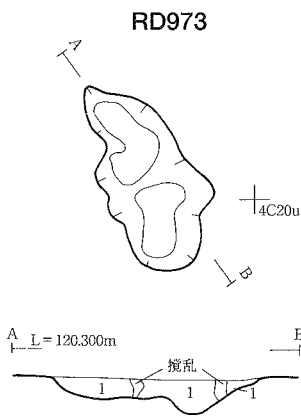
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性中。縮まりやや無し。  
地山の褐色土、暗褐色土(10YR3/4)疎らに含む。  
炭を少し含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まり中。  
地山の土に近いが、粘性が強い。

0 1:50 1m

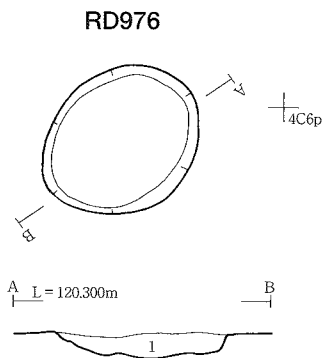
第109図 RD土坑(9)



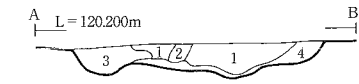
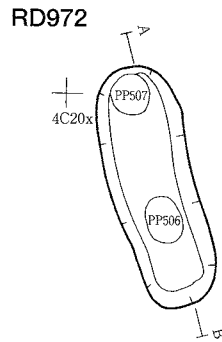
- RD971
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
  - 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック多量に含む。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性、締まり弱。地山ブロック微量含む。



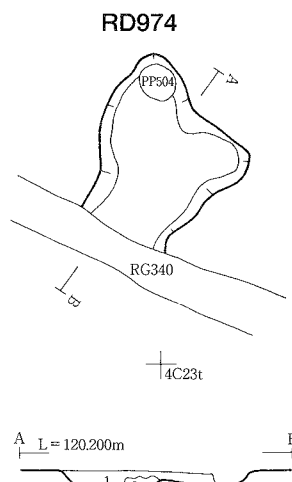
- RD973
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック極小粒を極微量含む。



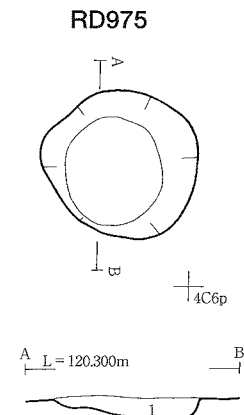
- RD976
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり密。(全体に地山ブロックを含んでいる)



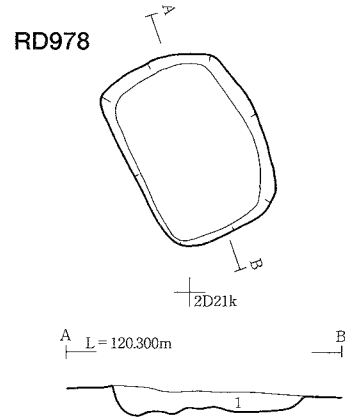
- RD972
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
  - 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性、締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
  - 10YR4/3 におい黄褐色土と黒褐色土の混合土 粘性、締まりやや有り。



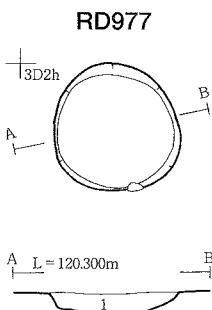
- RD974
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。
  - 10YR3/2 黒褐色土と地山土 (10YR4/4褐色土) との混合土 粘性非常に有り。締まりやや弱。



- RD975
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり密。(全体に地山ブロックを含んでいる)



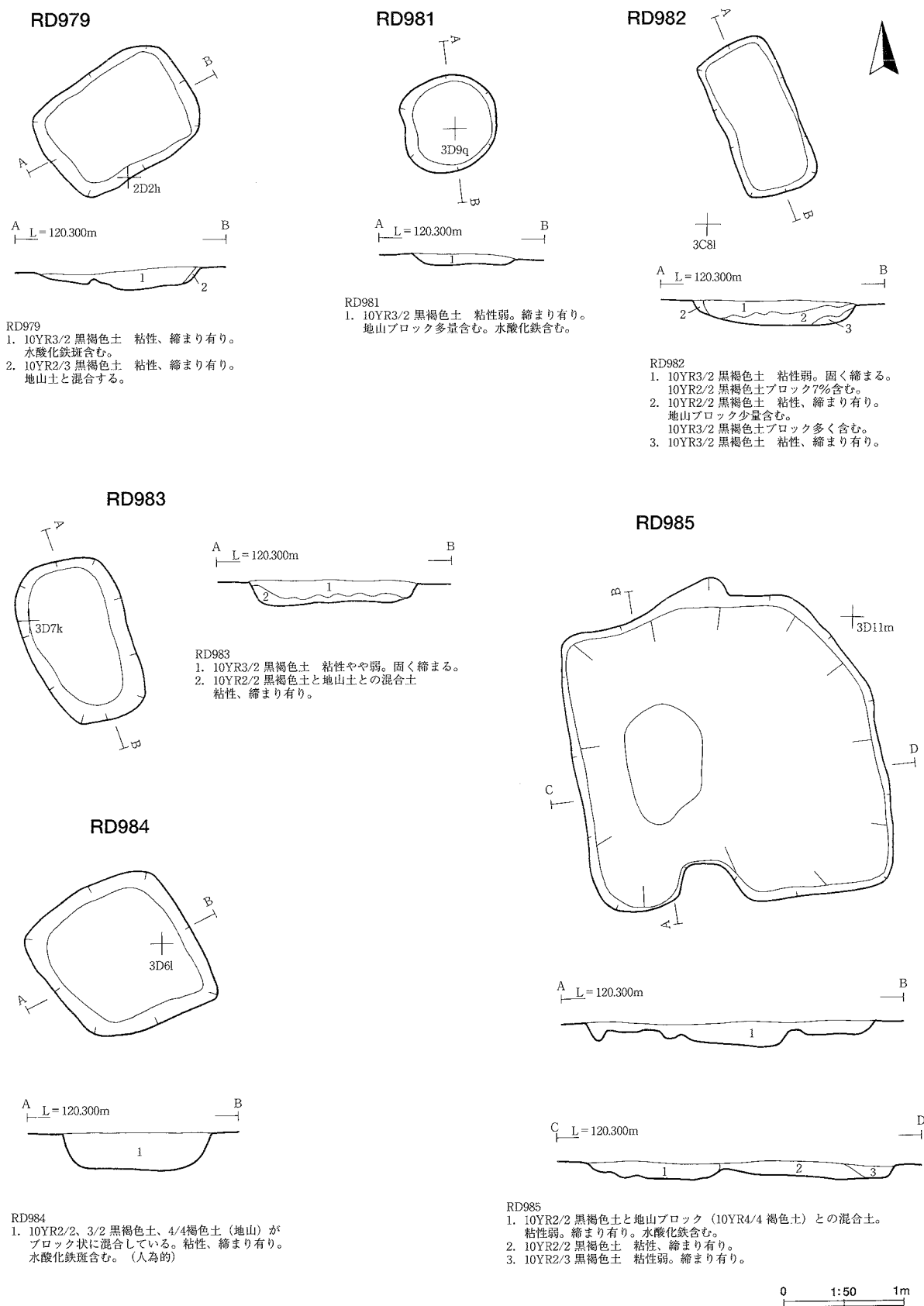
- RD978
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。水酸化鉄斑含む。(新しい 割と最近?)



- RD977
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。水酸化鉄斑含む。

0 1:50 1m

第110図 RD土坑 (10)



**RD979**

RD979  
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 水酸化鉄斑含む。  
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 地山土と混合する。

**RD981**

RD981  
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱。締まり有り。  
 地山ブロック多量含む。水酸化鉄含む。

**RD982**

RD982  
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱。固く締まる。  
 10YR2/2 黒褐色土ブロック7%含む。  
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 地山ブロック少量含む。  
 3. 10YR3/2 黒褐色土ブロック多く含む。  
 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。

**RD983**

RD983  
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。固く締まる。  
 2. 10YR2/2 黒褐色土と地山土との混合土  
 粘性、締まり有り。

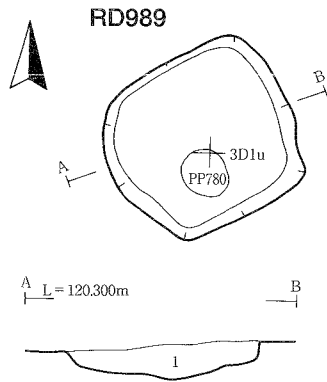
**RD984**

RD984  
 1. 10YR2/2、3/2 黒褐色土、4/4 褐色土（地山）が  
 ブロック状に混合している。粘性、締まり有り。  
 水酸化鉄斑含む。（人為的）

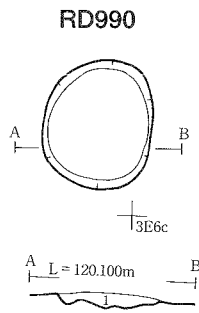
**RD985**

RD985  
 1. 10YR2/2 黒褐色土と地山ブロック（10YR4/4 褐色土）との混合土。  
 粘性弱。締まり有り。水酸化鉄含む。  
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱。締まり有り。

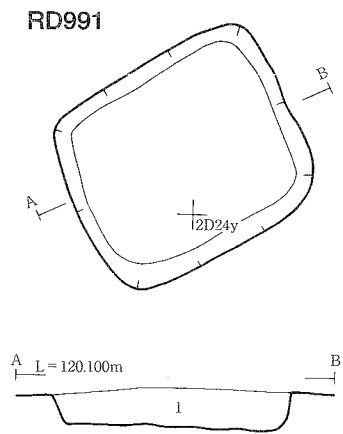
第111図 RD土坑 (11)



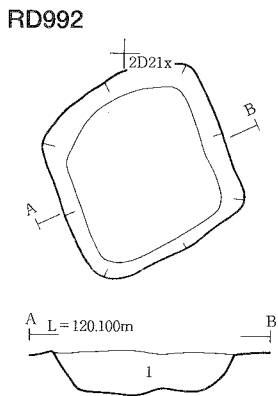
RD989  
1. 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性やや有り。  
縮まりやや弱。水酸化鉄斑少量見える。



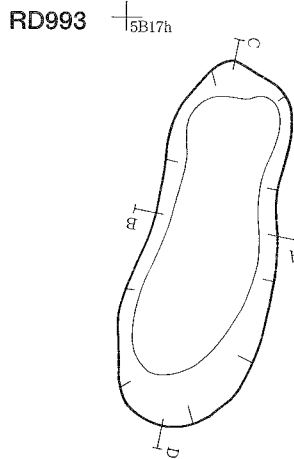
RD990  
1. 10YR3/2 黒褐色土  
粘性やや弱・縮まり有り。  
炭・焼土粒を微量含む。



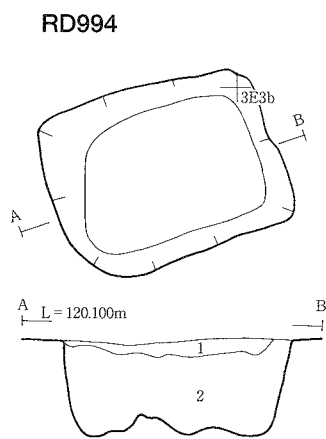
RD991  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱・縮まり有り。  
水酸化鉄含む。炭を少量含む。



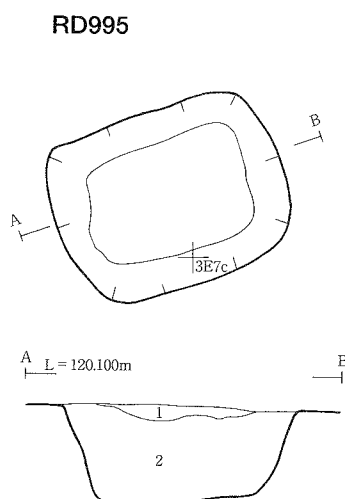
RD992  
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱・縮まり有り。



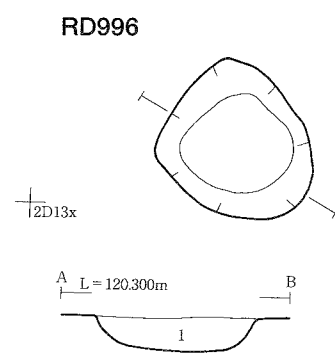
RD993  
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まり密。  
(全体に地山ブロックと酸化鉄を含んでいる)



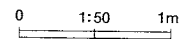
RD994  
1. 10YR3/2 黒褐色と地山ブロック  
(10YR4/4 褐色土)との混合土  
粘性やや弱。縮まり有り。炭少量含む。  
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。



RD995  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。  
地山ブロック多量に含む。  
2. 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性、縮まりやや有り。



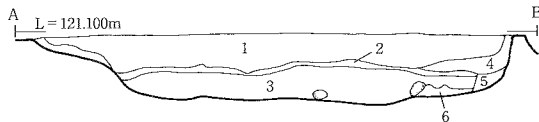
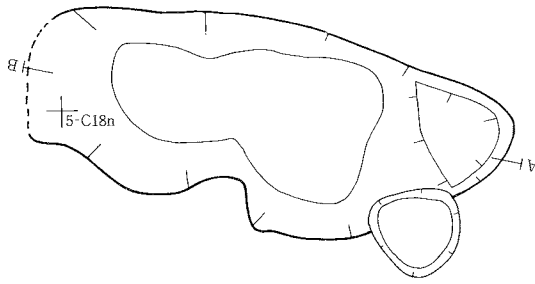
RD996  
1. 10YR2/2 黒褐色土  
粘性やや弱・固く縮まる。



第112図 RD土坑 (12)



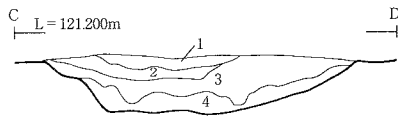
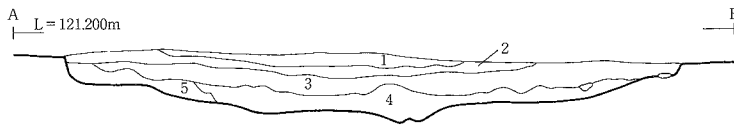
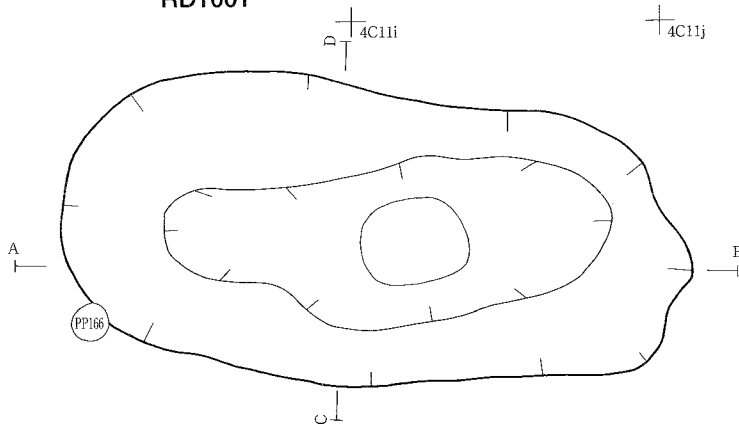
### RD998



### RD998

1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや密。
2. 10YR5/8 黄褐色粘土 粘性強。縮まりやや疎。
3. 10YR1.7/1 黒色粘土 粘性強。縮まりやや疎。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや疎。
5. 10YR5/8 黄褐色土 粘性やや有り。縮まりやや疎。  
(4層を部分的に含んでいる)
6. 10YR5/8 黄褐色粘土 粘性強。縮まりやや疎。  
(砂礫～礫径2～5cmを含んでいる)
7. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。縮まり密。  
(地山ブロックを少量含んでいる)

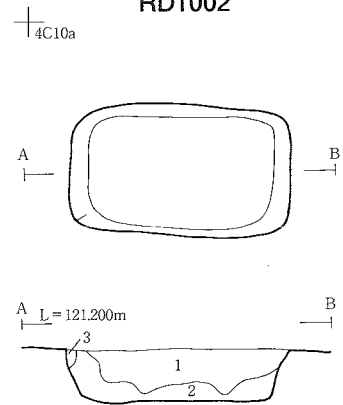
### RD1001



### RD1001

1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを少量含む。  
水酸化鉄斑有り。粘性、縮まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、縮まり有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを多量に含む。  
粘性、縮まり有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを微量含む。  
粘性、縮まり有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 明褐色砂質土。  
粘性、縮まり有り。

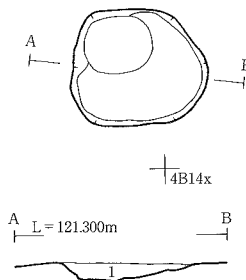
### RD1002



### RD1002

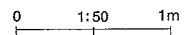
1. 10YR2/3 黒褐色土 多量の地山粒と混合している。  
焼土粒を微量含む。粘性やや弱、縮まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 多量の地山ブロックと混合。  
水酸化鉄が少量見える。粘性・縮まり有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。

### RD1003

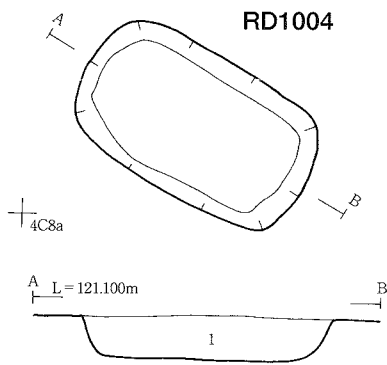


### RD1003

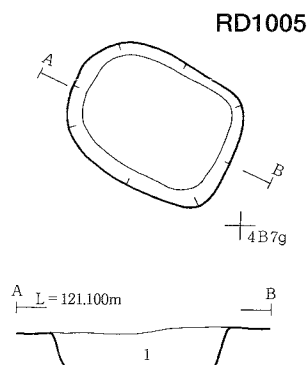
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、縮まり有り。  
地山ブロック少量含む。



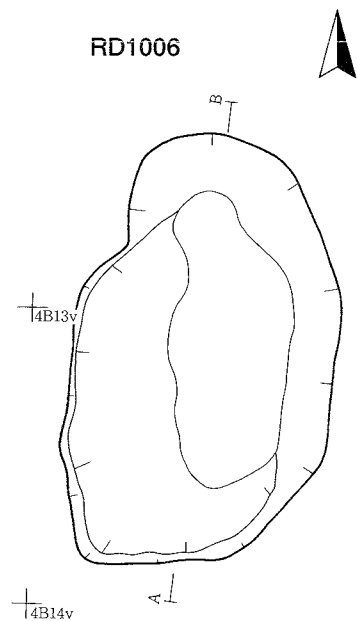
第113図 RD土坑 (13)



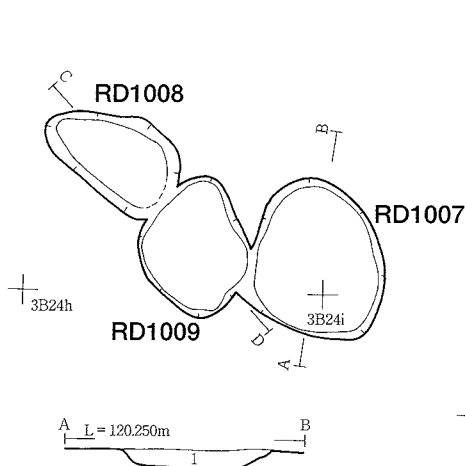
RD1004  
1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを多量に含む。  
粘性有り・締まり弱。



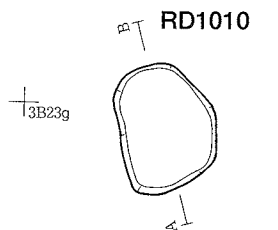
RD1005  
1. 10YR2/2 黒褐色土  
小粒の地山ブロックを多量に含む。  
粘性、締まりやや有り。



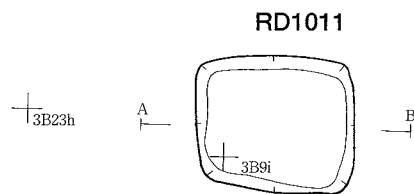
RD1006  
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。  
2. 10YR2/1 黒色土 黒褐色土ブロックを微量含む。粘性、締まりやや有り。  
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。  
4. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性、締まり有り。  
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。  
6. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性、締まりやや有り。



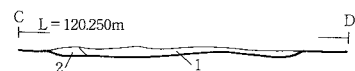
RD1007  
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まっている。  
地山粒多く含む。炭少量含む。



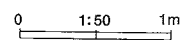
RD1010  
1. 10YR2/1 黒色土 粘性、締まり有り。  
地山土多量含む。水酸化鉄斑含む。



RD1011  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。  
締まり有り。多量の地山土と混合する。  
(墓塚、人為的)



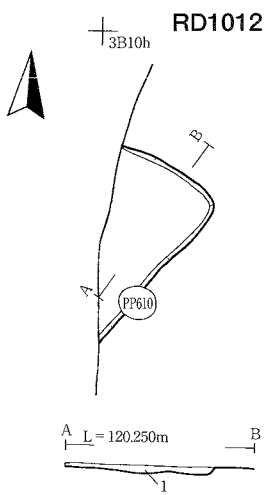
RD1008・RD1009  
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山土多く含む。水酸化鉄含む。  
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。



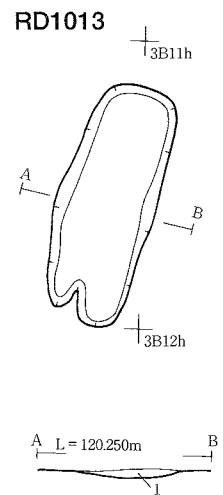
第114図 RD土坑 (14)



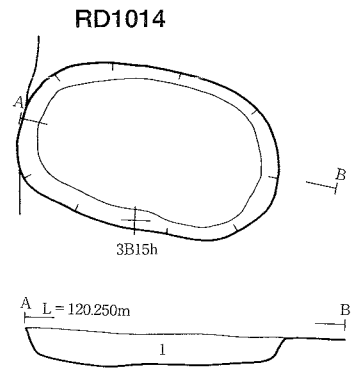
23次調査区



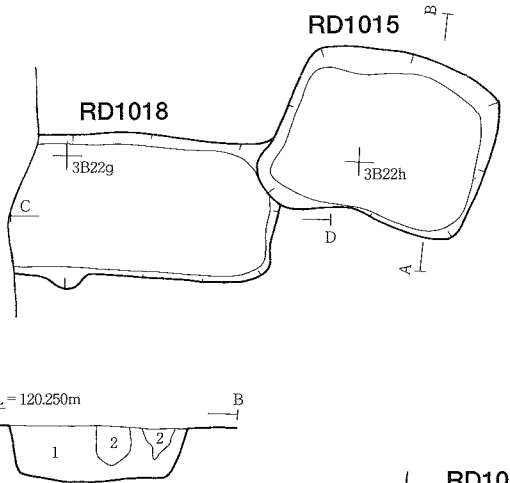
RD1012  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。多量の地山土と混入する。



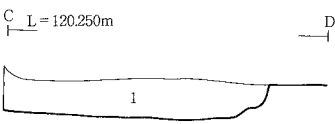
RD1013  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く縮まっている。水酸化鉄斑見える。地山粒多量含む。炭少量含む。(水路によって大部分削られている)



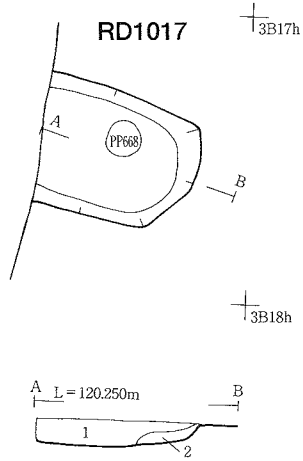
RD1014  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多量含む。墓塚(人為)



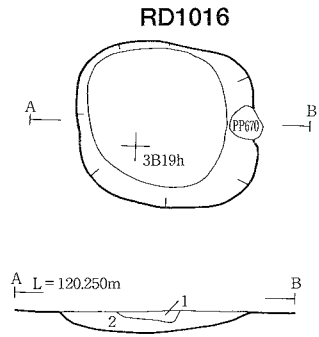
RD1015  
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多量含む。水酸化鉄斑含む。  
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄斑含む。



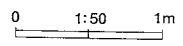
RD1018  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。縮まり有り。地山粒、水酸化鉄斑多く含む。(墓塚)



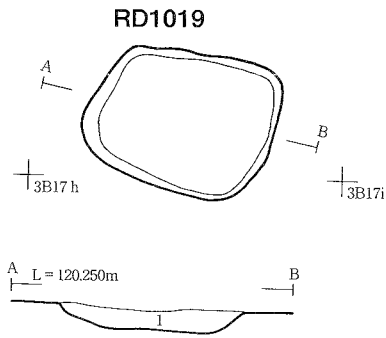
RD1017  
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。  
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、縮まり有り。地山土との混合土(墓塚)



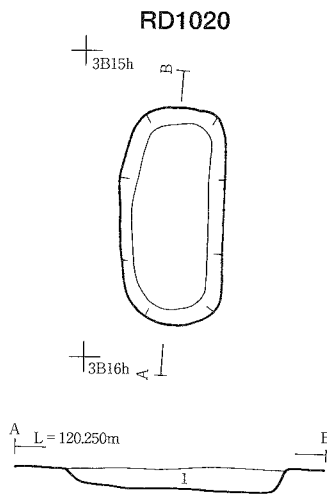
RD1016  
1. 10YR2/3 黒褐色土と地山土の混合土 粘性、縮まり有り。水酸化鉄斑少量含む。  
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、縮まり有り。水酸化鉄斑多く含む。



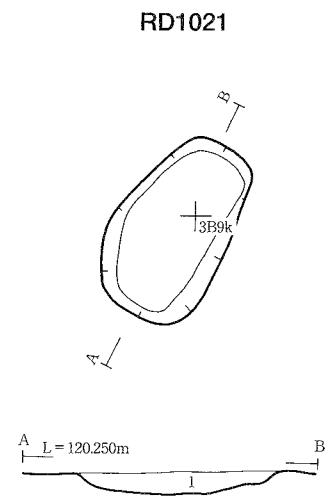
第115図 RD土坑 (15)



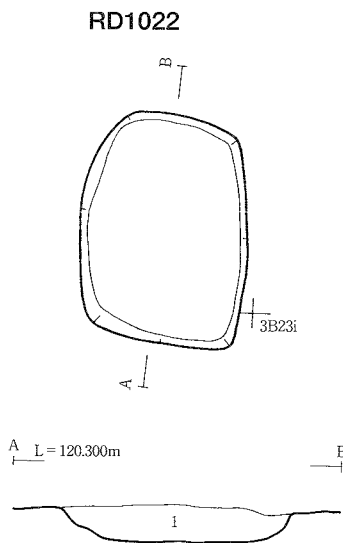
RD1019  
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。  
水酸化鉄斑多量含む。地山粒少量含む。



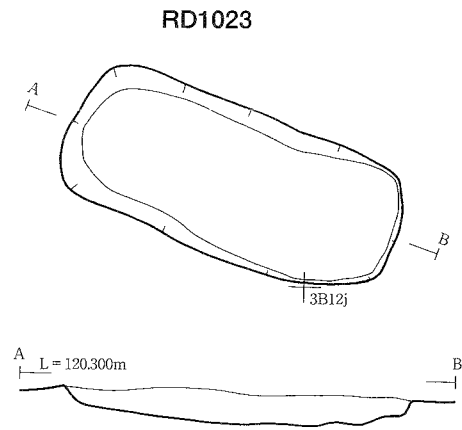
RD1020  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。  
水酸化鉄斑多量含む。



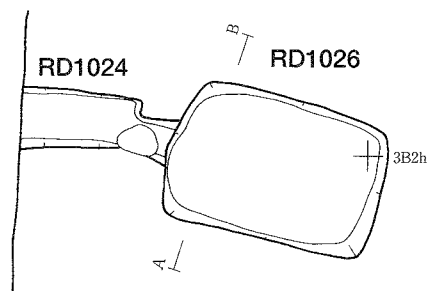
RD1021  
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱。締まり強。  
水酸化鉄斑多く含む。



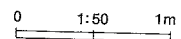
RD1022  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。  
多量の地山土と混合している。炭、焼土少量含む。



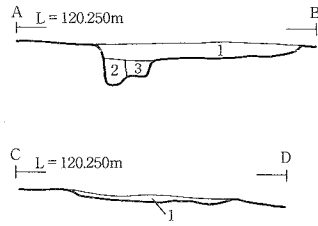
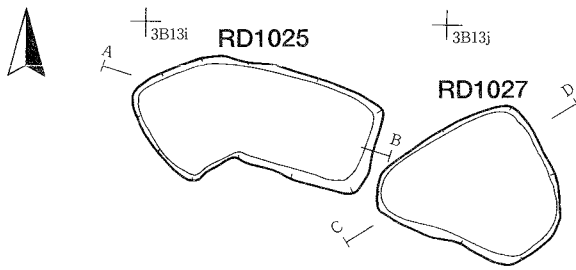
RD1023  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。  
地山ブロック、水酸化鉄斑多量含む。炭少量含む。



RD1026  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。  
多量の水酸化鉄斑混入。



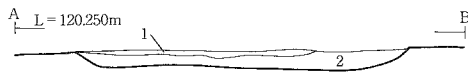
第116図 RD土坑 (16)



- RD1025
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。水酸化鉄斑含む。炭微量含む。
  - 10YR2/1 黒色土 粘性強。締まり弱。水酸化鉄斑含む。地山ブロック多く含む。(柱穴?)
  - 10YR2/1 黒色土 粘性強。締まり弱。水酸化鉄斑含む。

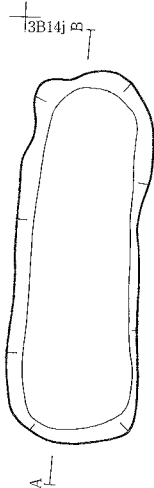
- RD1027
- 10YR2/1 黒色土 粘性、締まり有り。水酸化鉄斑、地山粒多量含む。炭少量含む。

RD1028



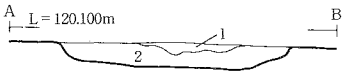
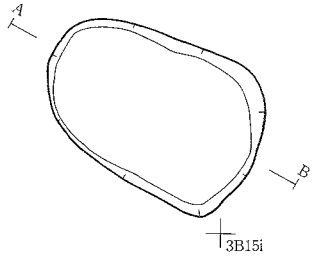
- RD1028
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。
  - 10YR3/1 黒褐色粘土質土 粘性有り。締まり弱。水酸化鉄斑多量混入する。

RD1031



- RD1031
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック多量含む。水酸化鉄斑含む。炭含む。

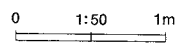
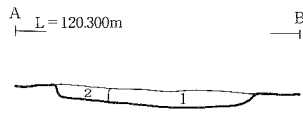
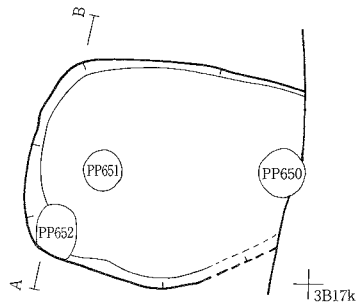
RD1030



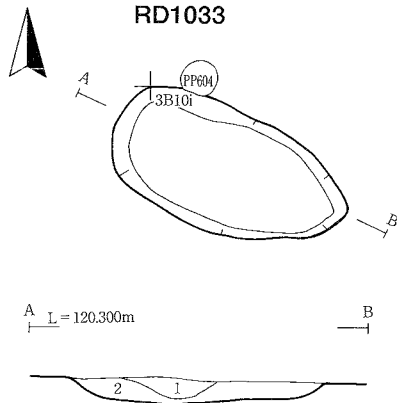
- RD1030
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強。締まり有り。水酸化鉄斑多く含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強。10YR2/3 黒褐色土ブロック多量含む。水酸化鉄斑含む。

- RD1032
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。地山ブロック多量含む。水酸化鉄斑含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック(大)多量含む。炭少量含む。水酸化鉄斑含む。(柱穴)

RD1032

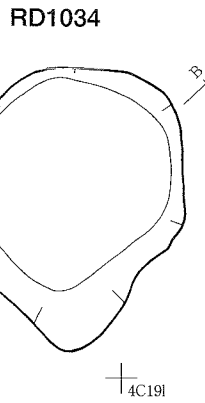


第117図 RD土坑 (17)



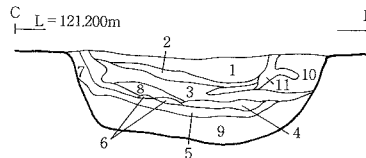
RD1033

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まっている。地山ブロック多量に含む。
- 10YR2/3 黒褐色土～黒色土 粘性有り。縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。

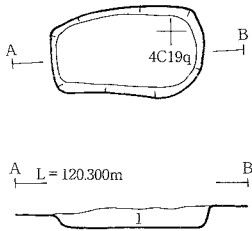


RD1034

- 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。縮まり強。
- 10YR2/2 黒色土 粘性有り。縮まりやや弱。炭、焼土粒多量含む。
- 10YR2/2 黒色土 粘性有り。縮まりやや弱。炭、地山ブロック少量含む。
- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性やや弱。縮まりやや弱。
- 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりやや弱。地山ブロック多量含む。
- 炭化物層
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。多量の焼土、炭、地山ブロックと混合している。
- 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR2/2 黒褐色土が多量に混合している。
- 10YR4/6 褐色土 粘性、縮まり有り。
- 10YR2/2 褐色土がシミ状に混じる。
- (地山土) 10YR4/6 褐色土 粘性、縮まり有り。
- 10YR2/3 暗褐色土 粘性弱。縮まり有り。



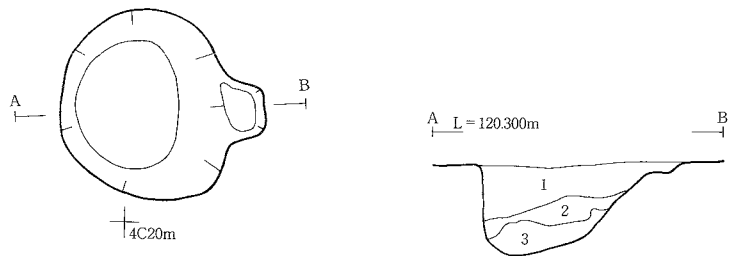
RD1035



RD1035

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有。縮まり有り。地山ブロックを多量含。

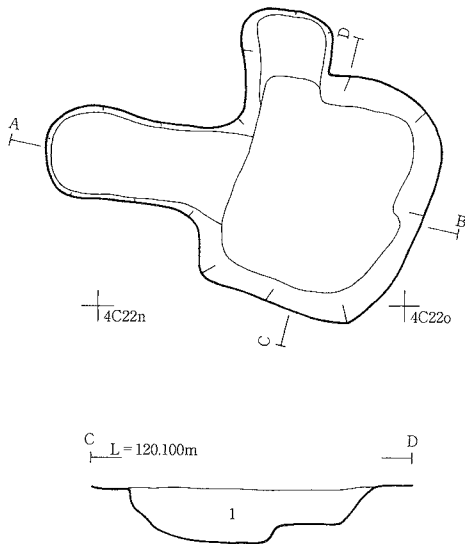
RD1036



RD1036

- 10YR3/2 黒褐色土 水酸化鉄斑有。地山ブロック少量含む。粘性、縮まりやや有り。縮まり弱。水酸化鉄斑多く含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 水酸化鉄斑を多量に含む。粘性有り。縮まりやや有り。
- 10GY2/1 緑黒色土 地山ブロック(砂質)多量含む。粘性有り。縮まりやや有り。

RD1037

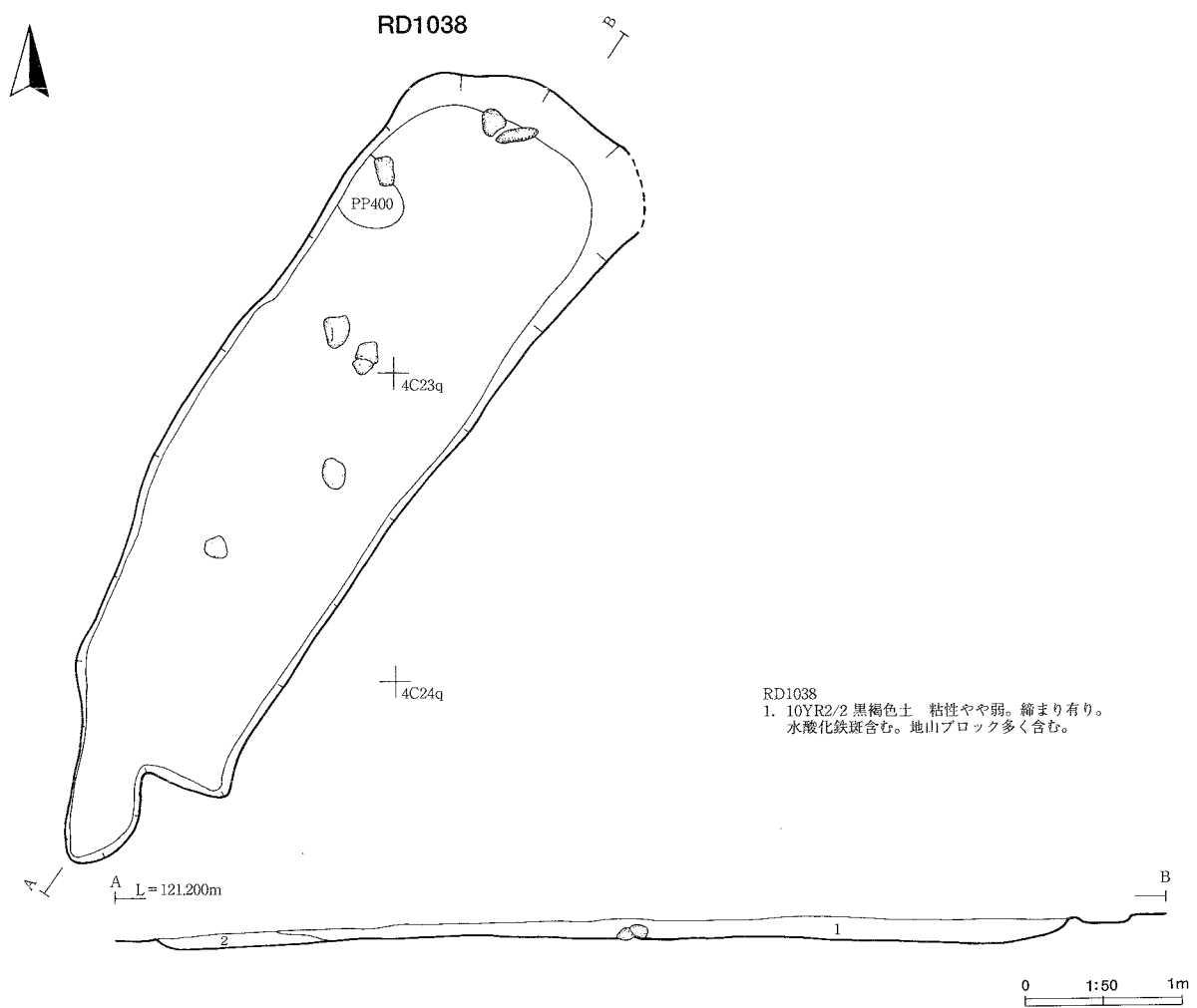


RD1037

- 10YR2/1～2/2 黒色土～黒褐色土 地山ブロックの混合土。粘性有り。縮まり弱。水酸化鉄斑多く含む。
- 10YR2/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
- 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。縮まりやや有り。(他遺構か)

0 1:50 1m

第118図 RD土坑 (18)



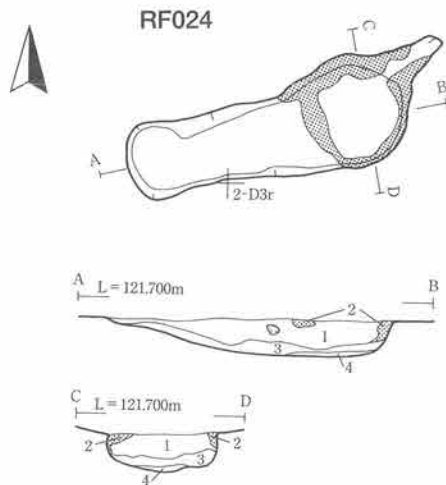
第119図 RD土坑 (19)

## 6 焼土・炉跡

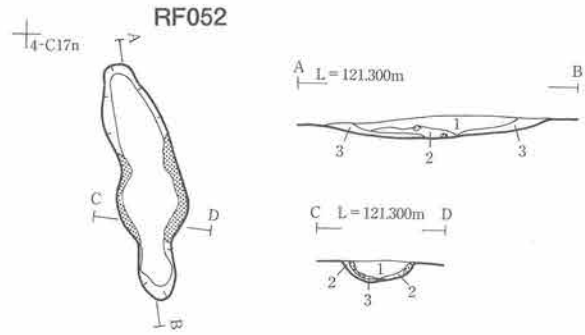
今回の26次調査では8基の炉跡を検出した。検出された位置は、遺跡西側で2基、その他は遺跡南東部から6基と大きく2つに分かれる。R F024・052・054～056は屋外に設置されたカマド状施設の下部だけが残存しているものと思われる。R F024は比較的残りが良く焼土の広がりからドーム状に作られた燃焼部の壁面を想定できる。加えて煙出し状の張り出しも確認されている。R F055・056やR F057・058は同じ施設の作り替えであろう。各遺構の詳細は一覧表にしてまとめた。

焼土・炉跡観察表

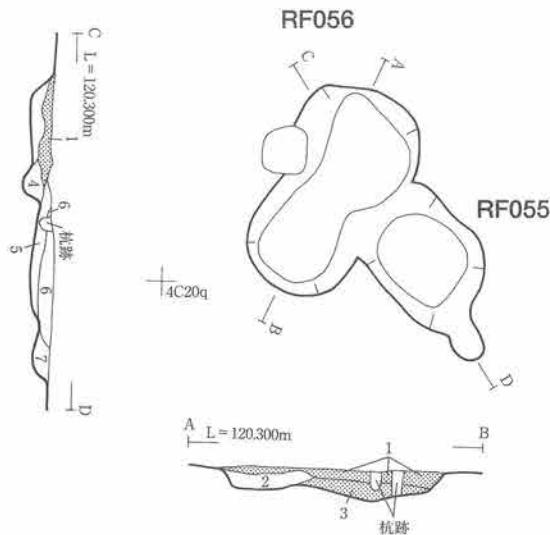
遺構名	位置、検出面	焼土の規模と厚さ (cm)	特 徴	出土遺物	備考 (現地性か、重複、時期)	図版	写真
R F024	2-D2r IV層	195×77 27	平面形は長円形で、その東側壁際に沿ってのみ焼土が円形に見られた。西側が焚き口でこの東側が燃焼部という構造で東端の一部から煙出し状の細長い張り出しを確認。	出土遺物なし	削平されていないが、焼土のプランの上にはカマドがドーム状につくられていたであろう。時期は中世か近世と思われる。	120	115
R F052	4-C17n IV層	165×47 15	不整長円形プラン。その長辺部となる壁際に被熱している。南端部は煙出し、北端部が焚き口、壁面が焼けている中央が燃焼部と考えられる。	出土遺物なし	屋外カマド的な施設と考えられ、天井部は失われている。時期は中世若しくは近世と思われる。	120	
R F054	4C18r IV層	230×115 20	地山を掘り込みその底面に一部炭が広がる。その上に焼土ブロック、さらに上に黒褐色土と焼土の混土が堆積。	出土遺物なし	現地性。天井部の失われた野外カマド状の施設と思われ、中世の遺構であろう。	120	116
R F055	4C19q IV層	140×60 15	地山を掘り込み、その中に焼土・炭粒・黒褐色土などが不規則に堆積。	出土遺物なし	現地性。屋外炉で中世の遺構と思われる。R F056より新。造り替え。	120	116
R F056	4C19q IV層	155×87 20	地山を掘り込み、その中に焼土・炭粒・黒褐色土などが不規則に堆積。	出土遺物なし	現地性。屋外炉で中世の遺構と思われる。R F055より旧。造り替え。	120	116
R F057	4C21r IV層	106×95 10		出土遺物なし	R F058より旧。造り替え。	121	117
R F058	4C21r IV層	150×93 15		出土遺物なし	R F057より新。造り替え。	121	117
R F059	3D11p IV層	110×100 8	浅い窪みに黒褐色土に焼土と炭粒が少量混じる。	出土遺物なし	現地性ではない。時期は新しいかもしれない。	121	117



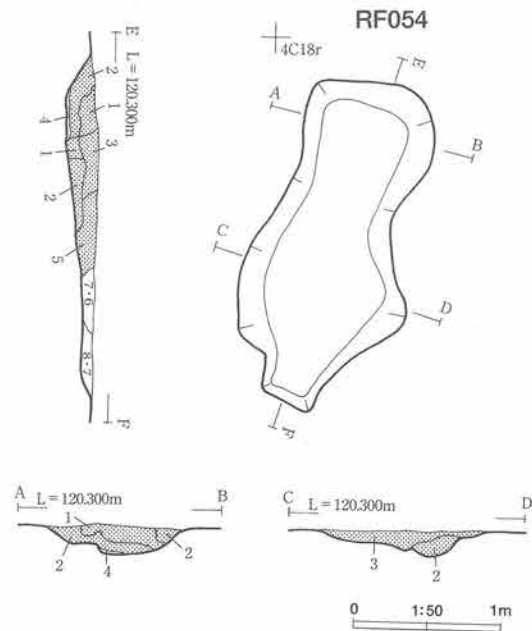
- RF024 A-B, C-D
- 10YR2/2 黒褐色土 中小礫微量含む。粘性、締まりやや有り。
  - 2.5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱。締まっている。(壁面にあたる)
  - 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒を多量に含む。粘性、締まりやや有り。
  - 炭化材が敷かれている。壊された感じはない。



- RF052 A-B, C-D
- 10YR2/2 黒褐色土 部分的に少量の焼土粒と炭化物を含む。粘性、締まり有り。
  - 10YR2/2 黒褐色土 部分的に多量の焼土ブロックと炭化物を含む。粘性有り、締まり弱。
  - 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。

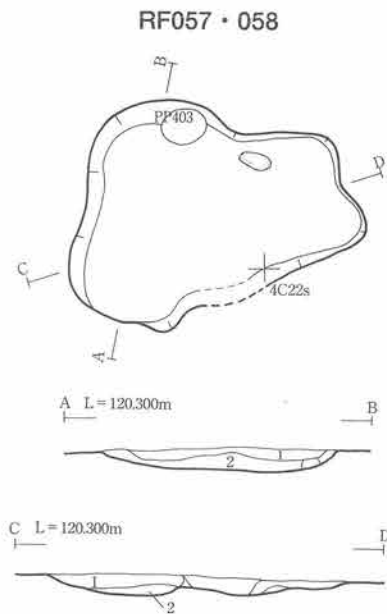


- RF055・RF056 A-B, C-D
- 10YR3/1 黒褐色土と多量の焼土ブロック、炭、地山ブロックの混合土 粘性、締まり有り。
  - 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。多量の地山ブロック、炭、焼土粒少量含む。
  - 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。多量の炭、焼土粒含む。(ほほ炭化物)
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり弱。焼土粒少量含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。炭、焼土粒、地山粒少量含む。
  - 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。地山ブロック、炭、焼土粒多く含む。
  - 10YR3/3 暗褐色土 粘性、締まり有り。
  - 地山土 (10YR4/4 褐色土)

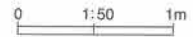


- RF054 A-B, C-D
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック多く含む。炭、焼土粒少量含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土と炭、焼土粒の混合土 粘性、締まり有り。
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック、炭、焼土粒少量含む。
  - 炭化物
  - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。炭、焼土粒少量含む。
  - 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。地山粒少量含む。
  - 10YR3/2 暗褐色土と地山ブロックの混合土 粘性、締まりやや弱。

第120図 RF焼土・炉跡 (1)



- RF059 A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱締まり有り。炭斑少量含む。
  2. 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/4 褐色土（地山）の混合土。炭焼土粒を多量に含む。粘性弱締まり有り。
  3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り締まりやや弱。



第121図 RF焼土・炉跡（2）

## 7 溝 跡

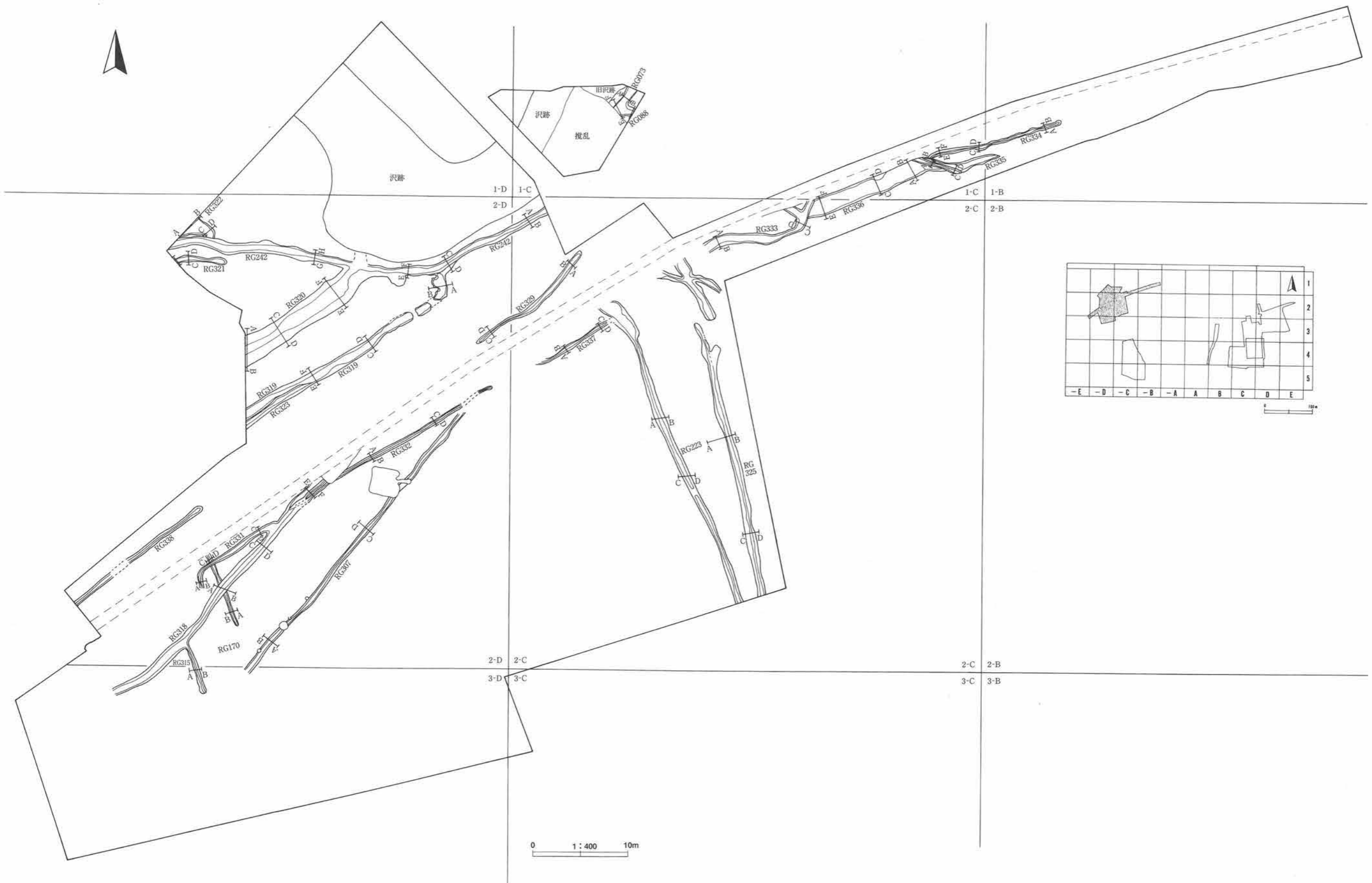
調査区の全域に渡り、大小合わせて45条が検出されているが、これらは検出面において、後年の耕作や土木工事等による削平を随所で受けており、溝跡が途中で出現・消滅している例がいくつも存在する。

全域に渡り、ほぼ東西方向へ延びる溝跡が大半を占めているが、いずれも幅・深さともに小規模のものが多く、灌漑水路または区画の溝、もしくは道の側溝などの用途が考えられるものの、詳細は不明である。

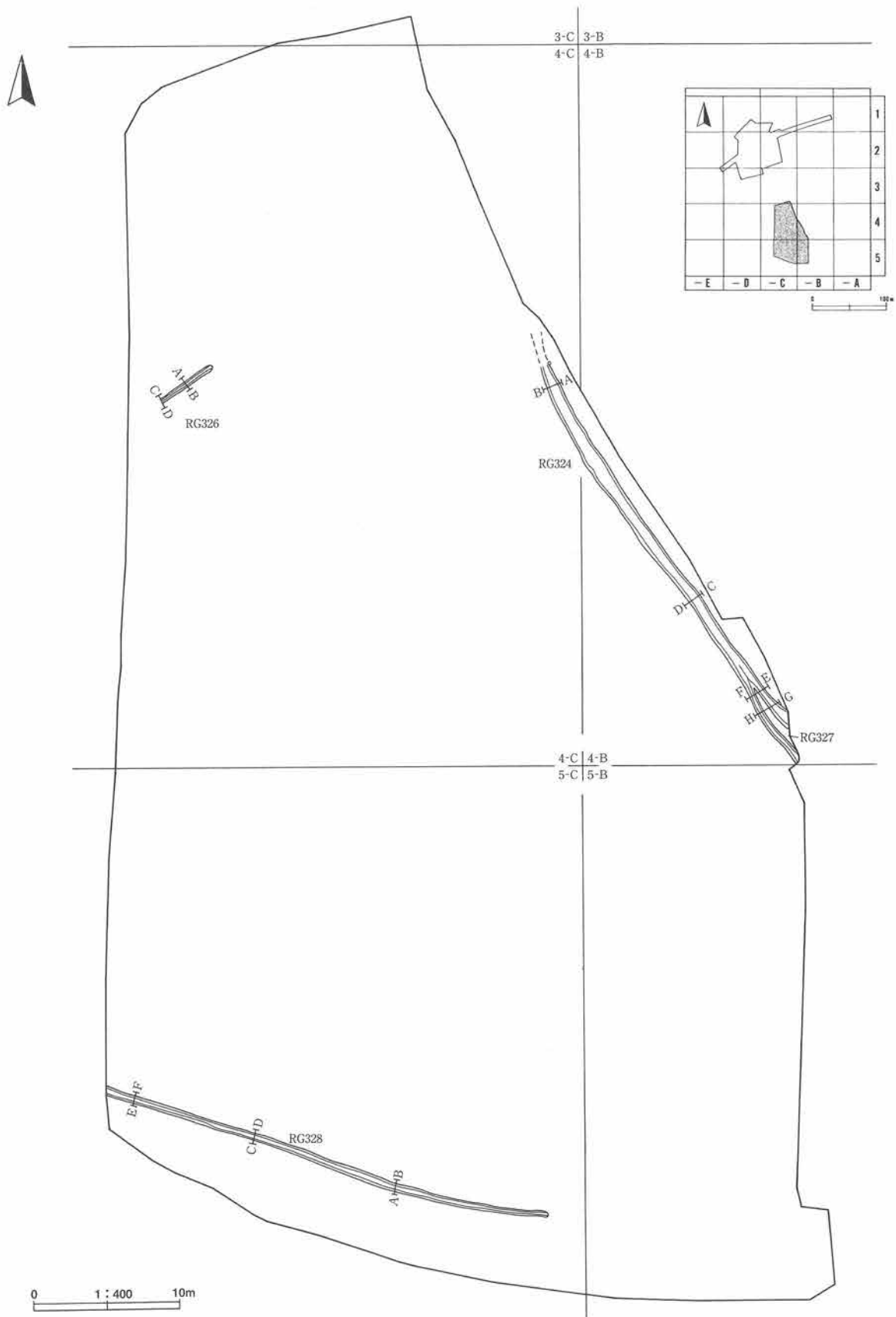
その一方で、以前の調査範囲から北西～南東方向へ延びている、堀状をした大溝のRG045は、長さ・幅ともに、今年度の調査で検出された溝の跡としては、最も規模が大きいもので、底面からは些少ではあるものの、平安時代のものと推定される土師器の甕の一部が出土している。また15・18次調査などではこの大溝の埋土に十和田a火山灰が堆積していた。

台太郎遺跡の発掘調査は多年度に渡って複数の組織により実施していることもあり、本来は同一溝であるものに、やむなく複数の遺構名を付けているものも存在する。今回の調査で検出された溝跡の規模・形態等についての詳細は、一覧表にまとめた。

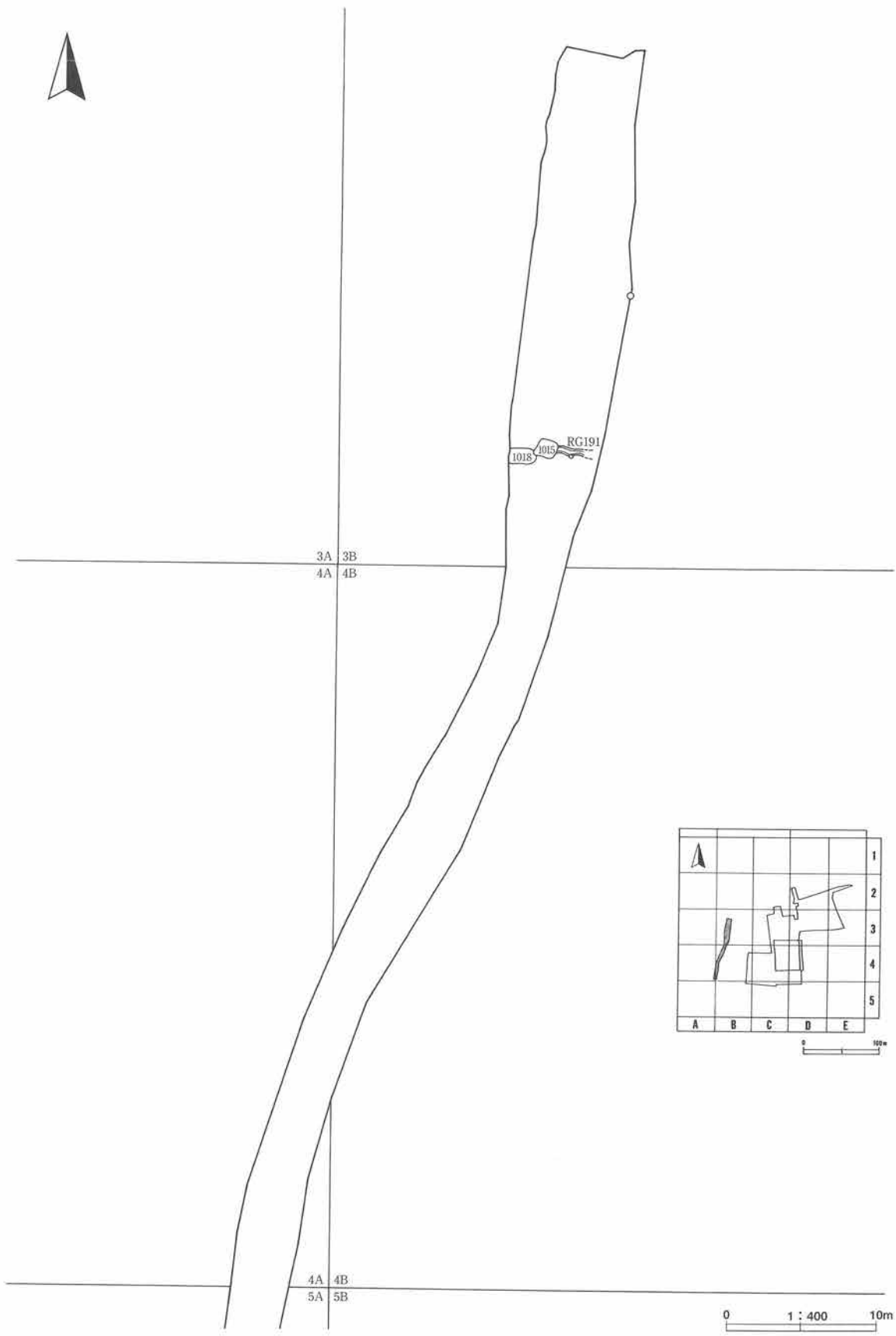




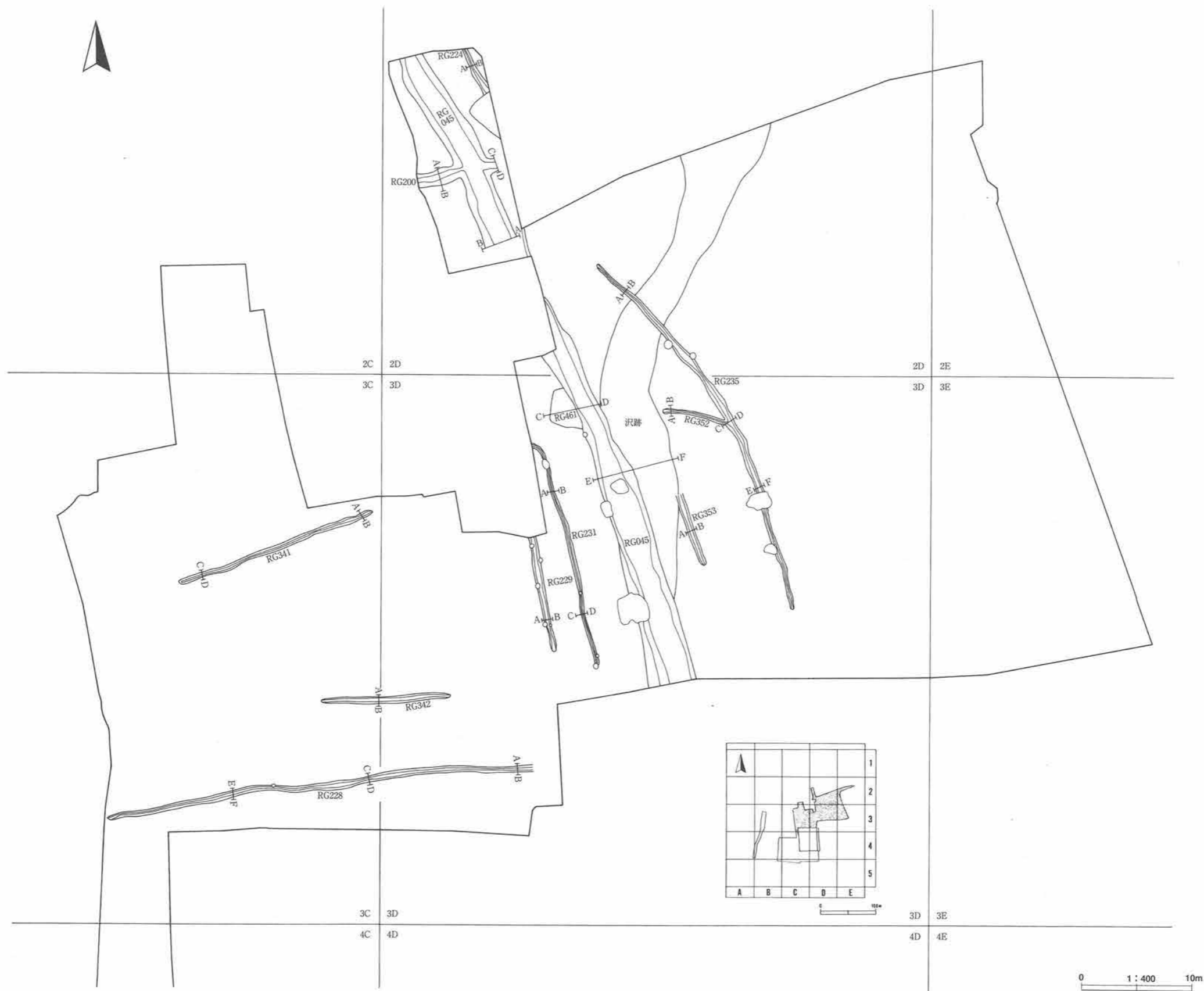
第122図 RG溝跡(1)



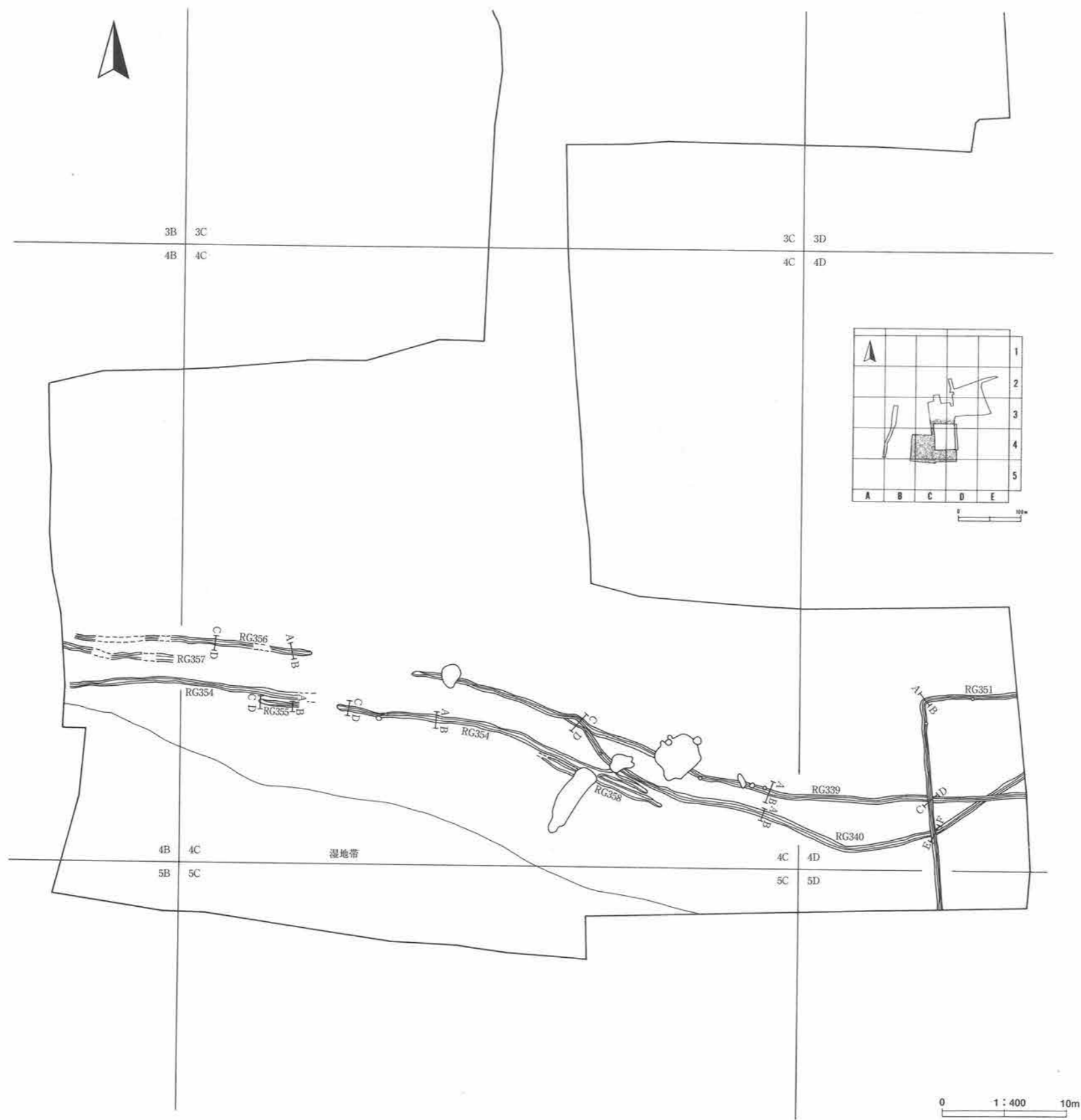
第123図 RG溝跡 (2)



第124図 RG溝跡 (3)



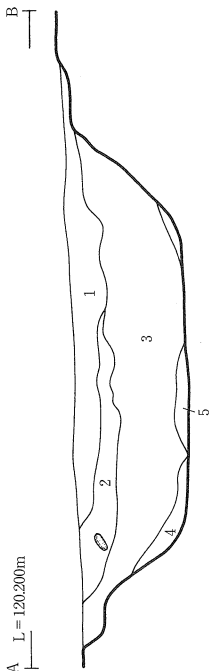
第125図 RG溝跡 (4)



第126図 RG溝跡 (5)

RG045

A L = 120.200m

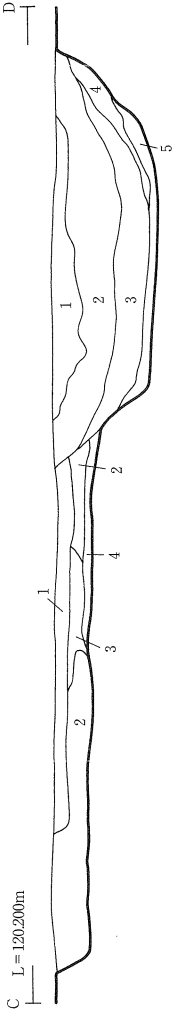


RG045 A-B

- 1. 10YR2/3 黒褐色土 全体に少量の地山ブロックを含む。粘性・締まり有り。
- 2. 10YR3/3 暗褐色土 全体に多量の地山ブロックを含む。粘性・締まり有り。
- 3. 10YR2/3 黒褐色土 全体に極少量の酸化鉄を含む。粘性・締まり有り。
- 4. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを含む。粘性・締まり有り。
- 5. 10YR2/2 黒褐色土 部分的に少量の地山ブロックを含む。粘性・締まり有り。

RG045

C L = 120.200m

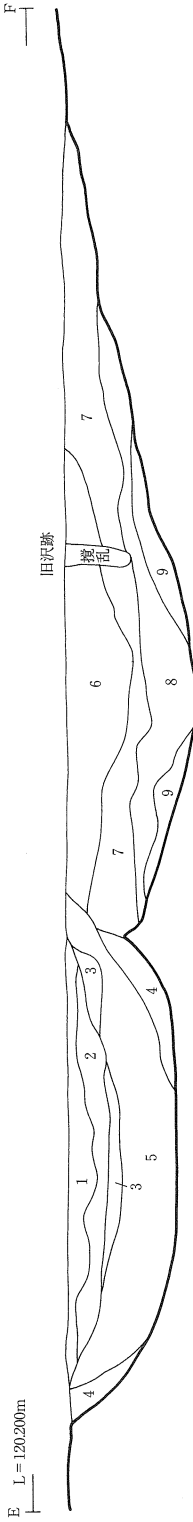


RG045 C-D

- 1. 10YR2/3 黒褐色土 全体に地山粒を含む。粘性・締まり有り。
- 2. 10YR2/3 黒褐色土 全体に地山ブロックを多く含む。粘性・締まり有り。
- 3. 10YR2/2 黒褐色土 部分的に地山ブロックを少量含む。粘性・締まり有り。
- 4. 10YR2/2 黒褐色土 全体に地山ブロックを含む。粘性・締まり有り。
- 5. 10YR2/1 黒褐色土 沢跡の埋土。粘性・締まり有り。

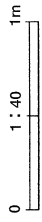
RG045

E L = 120.200m



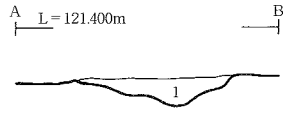
RG045 E-F

- 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。全体に地山粒を含んでいる。
- 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。全体に地山ブロックを多く含んでいる。
- 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。部分的に地山ブロックを少量含んでいる。
- 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。全体に地山ブロックを含んでいる。
- 5. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。全体に地山粒を含んでいる。



第127図 RG溝跡 (6)

RG073



RG073 A-B

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。  
(下層に酸化鉄が集積、地山ブロックを多量に含む)

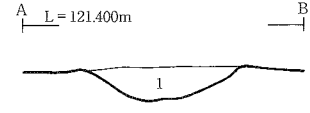
RG088・RG073



RG088 RG073 C-D

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。  
(下層に酸化鉄が集積、地山ブロックを多量に含む)
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを全体に含む)

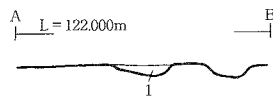
RG088



RG088 A-B

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを全体に含む)

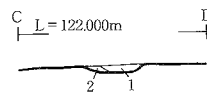
RG170



RG170 A-B

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
10YR4/4 (地山) 褐色土ブロック2%含む。

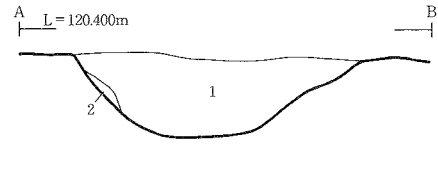
RG170



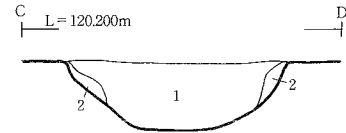
RG170 C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。やや締まり弱。
- 地山土

RG200



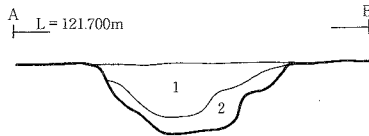
RG200



RG200 A-B, C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 全体的に少量の酸化鉄を含む。  
粘性、締まり有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 全体に地山ブロックと酸化鉄を含む。  
粘性、締まり有り。

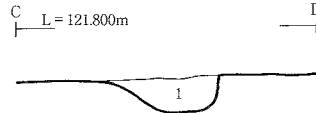
RG223



RG223 A-B

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山ブロック多量に(20%程)含む。

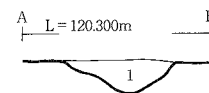
RG223



RG223 C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山粒2%含む。

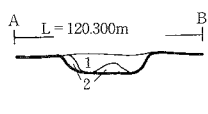
RG224



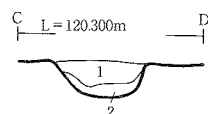
RG224 A-B

- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを部分的に含む。  
粘性、締まり有り。

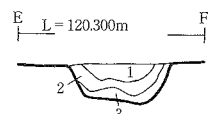
RG228



RG228

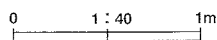


RG228



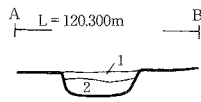
RG228 A-B, C-D, E-F

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性無し。締まり中。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性無し。締まりやや弱。  
黄褐色土(地山土)を10%位含む。
- 地山土と思われるが、1. 2の黒褐色土が若干混じっていた為に掘った。固さから埋土と判断。



第128図 RG溝跡(7)

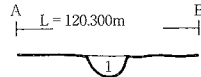
RG229



RG229 A-B

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄塊含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。地山ブロック多量含む。

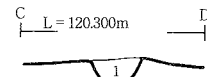
RG231



RG231 ① A-B

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。地山ブロック5%含む。

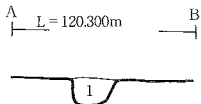
RG231



RG231 ② C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。地山粒多く含む。

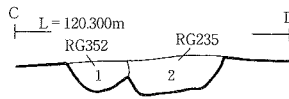
RG235



RG235 A-B

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。多量の地山ブロック含む。

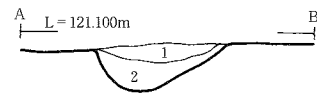
RG352・RG235



RG352 RG235 C-D

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多く含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。多量の地山ブロック含む。

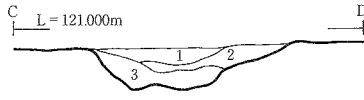
RG242



RG242 A-B

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり密。(地山ブロックを含む)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや密。(下部はグライ化している)

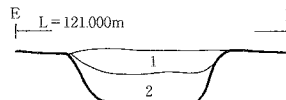
RG242



RG242 C-D

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり密。(地山ブロックと酸化鉄を含む)
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや密(地山ブロックを多量に含む)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや密(全体に酸化鉄を含み、下部はグライ化している)

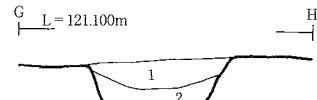
RG242



RG242 E-F

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり密。(地山ブロックと酸化鉄を含む)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや密。(全体に酸化鉄を含み、下部はグライ化している)

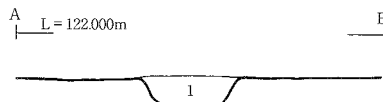
RG242



RG242 G-H

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり密。(地山ブロックと酸化鉄を含む)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや密。(全体に酸化鉄を含み、下部はグライ化している)

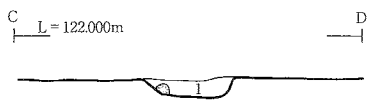
RG307



RG307 A-B

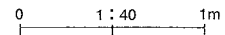
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、縮まり有り。10YR4/4 褐色土ブロック5%含む。礫少量含む。

RG307



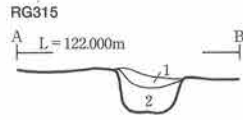
RG307 C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。10YR4/4 褐色土ブロック10%含む。

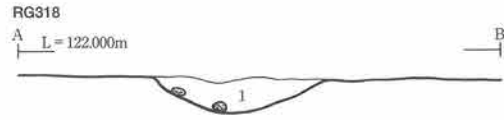


第129図 RG溝跡 (8)

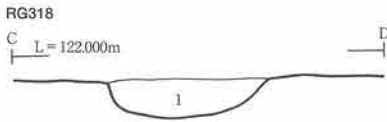




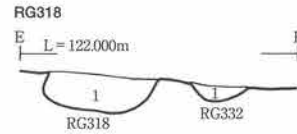
RG315 A-B  
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱。とても固く締まって  
 いる。10YR4/4 (地山) 褐色土粒2%含む。  
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。



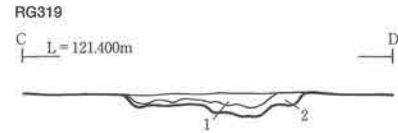
RG318 A-B  
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。  
 10YR4/4 褐色土粒2%含む。礫少量含む。  
 ※切り合い不明 (本遺構の方が新しい)



RG318 C-D  
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。



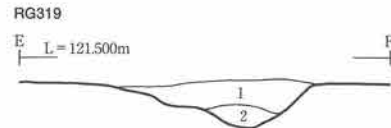
RG318 RG332 E-F  
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 地山ブロック少量含む。



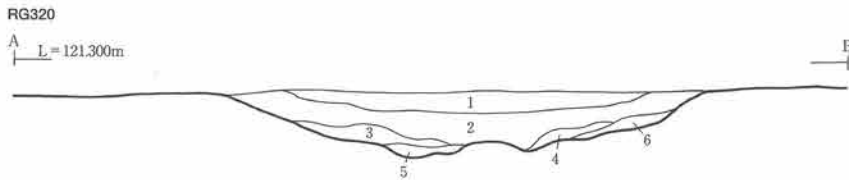
RG319 C-D  
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
 (地山ブロックと酸化鉄少量含む)  
 2. 10YR3/4 暗褐色細砂 粘性無し。締まりやや密。  
 (地山ブロックと酸化鉄一層を含む)



RG319 A-B  
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
 (地山ブロックと酸化鉄を含む)  
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。  
 (地山ブロックを多量に含む、全体に酸化鉄も含む)



RG319 E-F  
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
 (酸化鉄と2~3cmの礫を少量含む)  
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
 (地山ブロック多く含む)

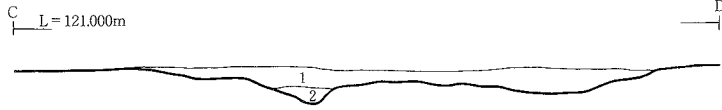


RG320 A-B  
 1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。  
 2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりやや密。(酸化鉄を全体に含む。炭化物を少量含む)  
 3. 10YR4/6 褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
 4. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり疎。(地山ブロックを含む)  
 6. 10YR4/6 褐色細砂 粘性やや有り。締まり密。(全体に酸化鉄を多く含む)

0 1:40 1m

第130図 RG溝跡 (9)

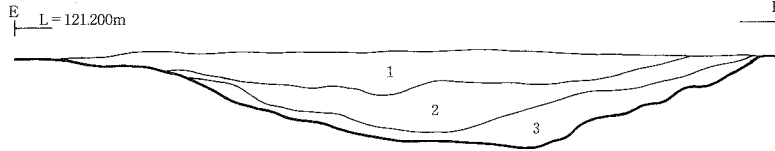
RG320



RG320 C-D

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
(酸化鉄を全体に含む。炭化物を少量含む)
2. 10YR4/6 褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
(酸化鉄を多く含む)

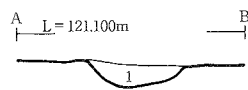
RG320



RG320 E-F

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり密。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まり密。  
(酸化鉄を全体に含む。底部に炭化物を僅かに含む)
3. 10YR3/3 暗褐色細砂 粘性やや有り。締まり密。  
(地山ブロック、炭化物、酸化鉄を全体に僅かに含む)
4. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
地山

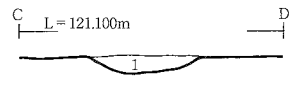
RG321



RG321 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを全体に含む)

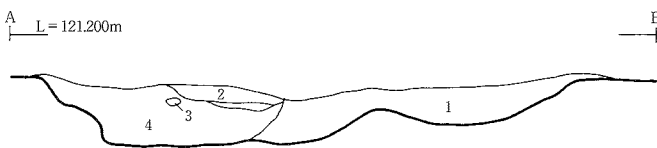
RG321



RG321 C-D

1. 10YR6/6 明黄褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロックを多量に含む。10YR3/3暗褐色土を少量含む)

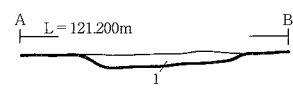
RG322



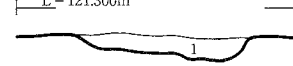
RG322 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。(地山ブロック、酸化鉄を全体に含む)
2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まり密。(地山ブロック、酸化鉄を含む)
3. 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂 粘性やや有り。締まり密。(酸化鉄を含む)
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。(地山ブロック、酸化鉄を全体に含む)

RG324



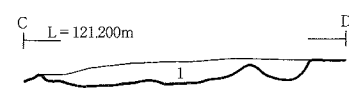
RG324



RG324 A-B, C-D

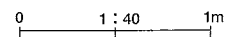
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。  
地山ブロック少量含む。

RG322



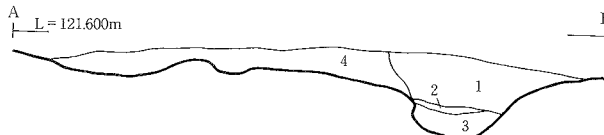
RG322 C-D

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まり密。  
(地山ブロック、酸化鉄を全体に含む)



第131図 RG溝跡 (10)

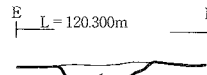
RG325



RG325 A-B

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック少量含む。
- 地山土 (10YR4/4 褐色土) 壁の崩落。粘性有り。締まりやや弱。水酸化鉄斑含む。
- 10YR2/3 暗褐色シルト質土 粘性やや有り。締まり弱。水酸化鉄斑含む。
- 10YR2/3 暗褐色土 粘性、締まり有り。炭微量含む。地山粒多量含む。

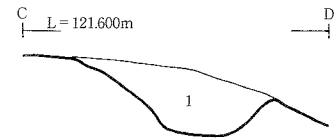
RG325



RG325 E-F

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山粒少量含む。礫下層に多く含む。

RG325



RG325 C-D

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。地山ブロック多量に含む。水酸化鉄斑少量見える。

RG327



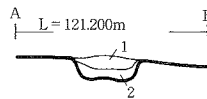
RG327



RG327 E-F, G-H

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。

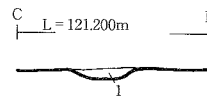
RG326



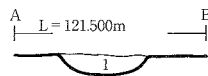
RG326 A-B, C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。

RG326



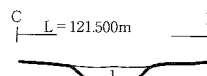
RG328



RG328 A-B

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。水酸化鉄斑多量含む。地山粒 (砂) 30%含む。

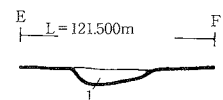
RG328



RG328 C-D

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。地山土50%程含む。礫 (2~3cm) 少量含む。

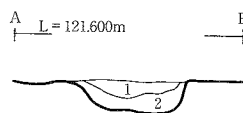
RG328



RG328 E-F

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。地山土少量含む。

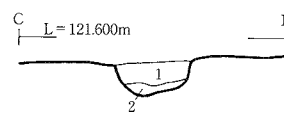
RG329



RG329 A-B

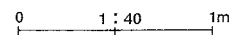
- 10YR3/1 黒褐色粘土 (粘土質) 粘性、締まり有り。水酸化鉄斑含む。
- 10YR5/4 に近い黄褐色土 粘性、締まり有り。黒褐色土をマール状に含む。

RG329

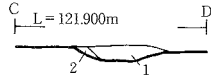
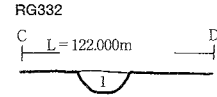
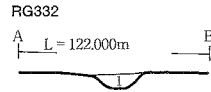
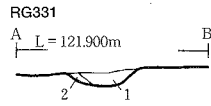


RG329 C-D

- 10YR3/1 黒褐色粘土質土 固く締まる。水酸化鉄斑多く含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性、締まり有り。水酸化鉄斑少量含む。1~3cm大の礫少量含む。



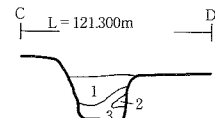
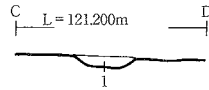
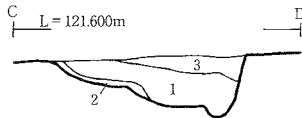
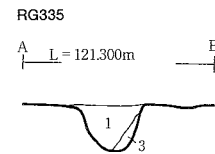
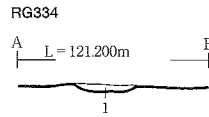
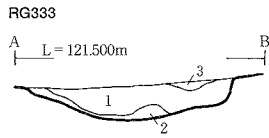
第132図 RG溝跡 (11)



RG332 A-B  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山ブロック少量含む。

RG332 C-D  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山ブロック少量含む。

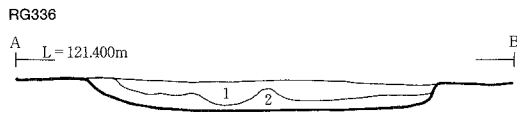
RG331 A-B, C-D  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
2. 10YR4/4 褐色土 粘性、締まり有り。  
10YR2/2 黒褐色土ブロック少量含む。



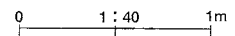
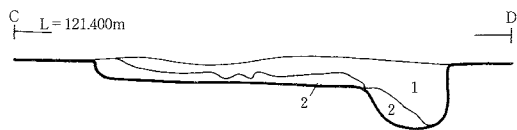
RG333 A-B, C-D  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや弱。  
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや弱。  
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まり有り。

RG334 A-B, C-D, E-F  
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。  
地山粒多量に含む。

RG335 A-B, C-D  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。  
水酸化鉄斑含む。  
2. 地山土  
3. 10YR2/3 黒褐色土と10YR2/3 黒褐色土との  
混合土。粘性、締まり有り。

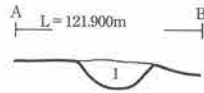


RG336 A-B, C-D, E-F  
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。  
地山粒少量含む。水酸化鉄斑含む。  
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱。締まり有り。  
水酸化鉄斑多く含む。



第133図 RG溝跡 (12)

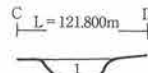
RG337



RG337 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック少量含む。粘性、締まり有り。

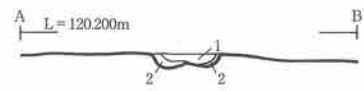
RG337



RG337 C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック少量含む。粘性、締まり有り。

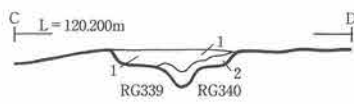
RG339



RG339 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。水酸化鉄斑含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。

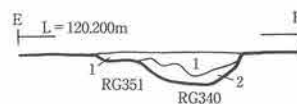
RG340



RG340 RG339 C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱。固く締まる。水酸化鉄斑多量に含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。固く締まる。水酸化鉄斑多量に含む。

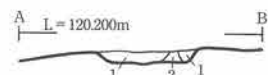
RG340



RG340 RG351 E-F

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱。水酸化鉄斑有り。

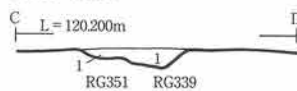
RG351



RG351 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR7/2 におい黄褐色土 粘性やや有り。締まっている。水酸化鉄斑有り。

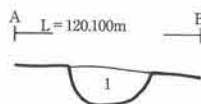
RG339・RG351



RG339 RG351 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。水酸化鉄斑有り。

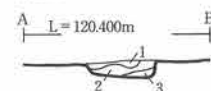
RG340



RG340 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。水酸化鉄斑含む。

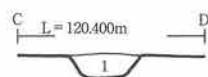
RG341



RG341 A-B

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性、締まり中。
2. 10YR2/1 黒色土と10YR4/4 褐色土がブロック状に混合 粘性やや強。締まり中。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや強。締まりやや密。

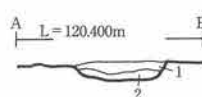
RG341



RG341 C-D

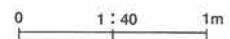
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性、締まり中。下に10YR4/4 褐色土をブロック状に含む。

RG342



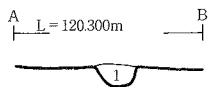
RG342 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性中。締まりやや有り。酸化鉄を含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。締まり中。地山の土に近いが、1の土が少し混入している為掘った。



第134図 RG溝跡 (13)

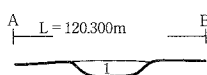
RG352



RG352 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。地山ブロック多く混合する。

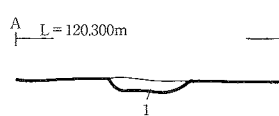
RG353



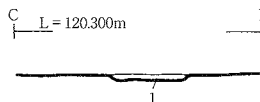
RG353 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや弱。地山粒少量含む。

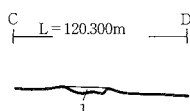
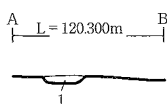
RG354



RG354 A-B, C-D  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。多量の地山ブロック、水酸化鉄斑含む。



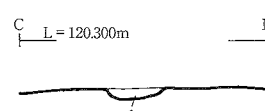
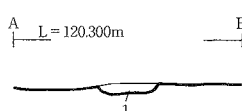
RG355



RG355 A-B, C-D

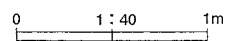
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。多量の地山ブロック、水酸化鉄斑含む。

RG356



RG356 A-B, C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱。締まり有り。多量の地山ブロックと混合する。



第135図 RG溝跡 (14)

溝跡観察表

遺構名	位置(グリッド) 検出面	長さ:m 深さ:cm	上幅:cm 下幅:cm	埋 土	出土遺物	その他	図 版	写 真
RG045	2D11b~ 3D14o・IV層	長:62.0 深:60	上:314 下:160	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を下層に含んでいる。	(奈良) 坏・甕・球胴甕のいずれも一部。937	遺構の中央～南側にかけて、沢跡と重複しているが、当該遺構の方が新しい。遺物は流れ込みと思われる、平安時代の遺構と推定している。	125・ 127	118・ 119
RG073	1-C20g~1- C21f・IV層	長:3.0 深:15	上:84 下:35	自然堆積と思われる、暗褐色土が主体である。地山ブロックが多く、下層に水酸化鉄が集積している。	球胴甕398	RG088と重複しているが、埋土の状況から、当該遺構が後に構築されたものと推定される。時期は不明である。	122・ 128	120
RG088	1-C21g~1- C21f・IV層	長:(1.5) 深:18	上:82 下:30	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを全体に含む。	なし。	RG073と重複しているが、埋土の状況から、当該遺構が先に構築されたものと推定される。時期は不明である。	122・ 128	120
RG170	2-D20j~2- D23k・IV層	長:8.0 深:5	上:30 下:22	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	北端は用水路で壊され、南端はRA399の煙道付近で消滅する。時期の詳細は不明だが、RG318・331より旧く、平安のRA399よりも後のものと思われる。	122・ 128	120
RG200	2D17b~ 2D16f・IV層	長:8.0 深:45	上:150 下:50	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を全体に少量含んでいる。	なし。	RG045と重複しているが、当該遺構の方が新しい。平安時代以降のものと思われるものの、詳細な時期は不明である。	122・ 128	120
RG223	2-C6e~2- C22m・IV層	長:35.0 深:24	上:154 下:100	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。褐色のブロックが少量含まれている。	なし。	奈良時代のRA402・417と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。奈良時代以降の溝跡と推定される。	122・ 128	121
RG224	2D11d~ 2D13e・IV層	長:5.0 深:17	上:55 下:15	自然堆積と思われる、黒褐色土に地山ブロックを部分的に含んでいるが、一部攪乱を受けている。	攪乱部分から(奈良時代) 坏・甕・球胴甕の一部。(近世・近代)陶器434のほか染付・播磨鉢の一部443。	RA237と重複しているが、その付近が攪乱を受けており、新旧関係、および詳細な時期は不明である。	125・ 128	121
RG228	3C21m~ 3D18g・IV層	長:39.0 深:20	上:50 下:28	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体であるが、下層に地山を10%程度含んでいる。	なし。	両端部は削平を受けており、時期は不明である。	125・ 128	121
RG229	3D8g~ 3D13h・IV層	長:10.6 深:26	上:57 下:30	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含む。	なし。	南端部は削平を受け、消滅しており、時期は不明である。	125・ 129	119
RG231	3D4g~ 3D14j・IV層	長:22.0 深:13	上:25 下:15	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山粒を多く含む。	なし。	南端部は削平を受け、消滅している。時期は不明である。	125・ 129	119
RG235	2D21j~ 3D11s・IV層	長:36.5 深:16	上:23 下:15	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多く含む。	なし。	両端部は削平を受けており、時期は不明である。	125・ 129	119
RG242	2-D3h~2- C1b・IV層	長:42.2 深:30	上:86 下:56	自然堆積と思われる、黒褐色土～粘土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を含み、下層はグライ化している。	(平安時代) 土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕の一部、寛永通寶483	遺構の中央で、RG320と重複しているが、埋土の状況から、当該遺構が、後に構築されたものと推定される。平安時代以降のものと思われるが、詳細な時期は不明である。	122・ 129	122
RG307	3-D11~2- D12w・IV層	長:36.0 深:15	上:48 下:35	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックと小径の礫を少量含んでいる。	なし。	南西端は前年度の調査区へ伸びているもので、北東端はRG332と合流するものと推定される。時期は不明だが、平安時代以降のものと思われる。	122・ 129	123
RG315	2-D25i~3- D2i・IV層	長:5.5 深:23	上:33 下:23	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	北端でRG318と合流し、南端はRA312の直前で消滅する。詳細は不明だが、平安時代の住居の上を切っていることから、平安時代以降のものと思われる。	122・ 130	123
RG318	3-D2e~2- D14q・IV層	長:37.5 深:20	上:85 下:60	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	(平安時代) 土師器の甕が十数片出土。	西端は前年度の調査区へ伸び、東端は平安時代のRA435と重複しながら、用水路で消滅している。詳細は不明だが、平安時代以降のものと思われる。	122・ 130	123
RG319	2-D131~2- D5v・IV層	長:27.0 深:25	上:105 下:60	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を少量含んでいる。	(平安時代) 土師器の高台坏・甕の一部。須恵器の坏・甕・壺の一部。	遺構の両端でRG242・RG323と重複しているが、これらとはほぼ同時期の遺構と考えられ、同時に使用された可能性が高い。時期は平安時代以降のものと思われる。	122・ 130	122

遺構名	位置(グリッド) 検出面	長さ:m 深さ:cm	上幅:cm 下幅:cm	埋 土	出土遺物	その他	図 版	写 真
RG320	2-D9i~2-D4r・IV層	長(17.8) 深:35	上:250 下:115	自然堆積と思われ、暗褐色土が主体である。水酸化鉄を全体に含んでいる。	埋土内から縄文晩期鉢の一部やミニチュア土器など(413~415)。平安時代の土師器坏(399~509)・紡錘車(501)、須恵器の坏(404~408)・甕(409)・壺(410)、陶磁器424、寛永通宝(484)・キセル(468)他(494)、石器類(503~505)	RG242と重複するが、それ以前に構築されたものと考えられ、出土遺物等から、平安時代以降のものとして推定される。今年度調査した溝跡のなかでも出土遺物が多く、規模も大きい。	122 ・ 130 ・ 131	124
RG321	2-D4h~2-D4j・IV層	長:5.8 深:10	上:56 下:30	自然堆積と思われ、暗褐色土~明黄褐色土が主体である。地山ブロックを多く含んでいる。	なし。	北西端に独立して存在するが、RG242と関連していた遺構である可能性が考えられる。詳細な時期は不明である。	122 ・ 131	122
RG322	2-D2i~2-D3j・IV層	長:2.6 深:12	上:140 下:65	自然堆積と思われ、暗褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を全体に含んでいる。	なし。	RG242と重複しており、相互に関連する遺構と考えられる。詳細な時期は不明である。	122 ・ 131	122
RG323	2-D13i~2-D11o・IV層	長:(9.0) 深:14	上:65 下:25	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を全体に含んでいる。	(平安時代)土師器の坏・甕須恵器の坏・甕など、いずれも一部。	遺構の東端でRG319と重複しているが、これらとはほぼ同時期の遺構と考えられ、同時に使用された可能性が高い。時期は平安時代以降のものと思われる。	122	122
RG324	4-C12x~5-1h・IV層	長:32.6 深:13	上:88 下:70	浅い埋土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	RG327と4-B23fグリッド付近で合流するが、当該遺構が古い。時期は不明である。	123 ・ 131	124
RG325	2-C7j~2-C21n・IV層	長:29.6 深:55	上:115 下:40	比較的深い埋土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、水酸化鉄と礫を下層に含んでいる。	(奈良時代)土師器の球胴甕の頸部破片が出土。	奈良時代のRA421・422と重複しているが、いずれの遺構よりも新しいものである。奈良時代以降のものとして推定している。	122 ・ 132	124
RG326	4-C12m~4-C13k・III層	長:4.5 深:13	上:32 下:25	浅い埋土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。	なし。	独立して位置する。両端は削平を受け、時期は不明である。	123 ・ 132	125
RG327	4-B23f~4-B24h・IV層	長:(5.4) 深:6	上:53 下:30	浅い埋土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	RG324と4-B23fグリッド付近で合流するが、当該遺構が新しい。時期は不明である。	123 ・ 132	124
RG328	5-C12i~5-C16x・IV層	長:31.5 深:10	上:45 下:35	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄と砂礫を下層に含んでいる。	なし。	RE049の北端をかすめているが、関連はないと思われる。時期は不明だが、中世以降のものとして推定している。	123 ・ 132	125
RG329	2-D8x~2-C4d・IV層	長:14.6 深:24	上:60 下:35	自然堆積と思われ、黒褐色の粘土が主体である。全体に水酸化鉄が含まれている。	なし。	両端部分が存在しないのは後年の耕作等により、削平を受けたためと考えられる。時期は不明である。	122 ・ 132	125
RG331	2-D21i~2-D18m・IV層	長:12.0 深:8	上:48 下:25	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。	なし。	西端は、ほぼ直角に南側へ折れた後消滅し、東端はRG318と合流する。RG318と同様、平安時代以降のものと思われる。	122 ・ 133	125 ・ 126
RG332	2-D17o~2-D11x・IV層	長:23.8 深:12	上:25 下:16	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	西端でRA435と重複しながら、RG318と合流し、東端はRG307と合流する直前で消滅している。RG318と同様、平安時代以降のものとして推定している。	122 ・ 133	125 ・ 126
RG333	2-C3k~2-C1p・IV層	長:13.4 深:32	上:100 下:28	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めている。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が古いものと思われる。時期は不明である。	122 ・ 133	126
RG334	1-C23w~1-B21d・IV層	長:14.5 深:8	上:34 下:18	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山粒が多く含まれている。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。時期は不明である。	122 ・ 133	126
RG335	1-C23v~1-C24x・IV層	長:4.8 深:25	上:35 下:28	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。上層に水酸化鉄を含んでいる。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が古いものと思われる。時期は不明である。	122 ・ 133	126



遺構名	位置(グリッド) 検出面	長さ:m 深さ:cm	上幅:cm 下幅:cm	埋土	出土遺物	その他	図 版	写 真
RG336	2-C1o~1- B23a・IV層	長:24.0 深:16	上:192 下:178	自然堆積と思われ、黒褐色土~暗褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含んでいる。	なし。	両端がRG333・335と重複する。埋土の状況から、これらの遺構より新しい時代のものと推定されるが、詳細は不明である。	122 ・ 133	126
RG337	2-C9b~2- C7f・IV層	長:9.0 深:15	上:40 下:15	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。褐色のブロックが少量含まれている。	なし。	RA436と重複する。当該遺構の方が新しい時期のものと考えられるが、詳細は不明である。西側の溝跡と接続する可能性が高いものの、断定するには難しく、独自のNoを付記することとした。	122 ・ 134	
RG338	2-D22c~2- D17i・IV層	長:17.0 深:15	上:40 下:20	自然堆積と思われるが、攪乱が多く詳細は不明である。地山ブロックと礫を下層に少量含んでいる。	(平安時代) 須恵器441のほか 土師器の坏・甕の 一部。	電柱や後年の耕作・用水路整備等の工事により、削平を受けている個所が多い。時期は不明である。	122	126
RG339	4C18j~ 4D23j・IV層	長:52.0 深:8	上:38 下:25	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含む。	なし。	西側はRG356と接続する可能性が考えられるものの、断定するには難しく、独自のNoを付した。時期は不明だが、中央~西側の状況から、RG354とともに、道の側溝としての用途が考えられる。	126 ・ 134	127
RG340	4C20p~ 4D22j・IV層	長:42.4 深:20	上:43 下:28	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含む。	なし。	東側でRG339と重複するが、埋土の状況から、当該遺構の方が新しいものと思われる。詳細な時期については不明である。	126 ・ 134	127 ・ 128
RG341	3C10p~ 3C7y・IV層	長:18.8 深:13	上:35 下:20	自然堆積と思われ、黒色土が主体であるが、下層に地山ブロックを含んでいる。	なし。	両端部は削平を受けており、時期は不明である。	125 ・ 134	127
RG342	3C15w~ 3D15c・IV層	長:11.8 深:10	上:50 下:30	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体であるが、全体に水酸化鉄を含み、下層には地山ブロックを含んでいる。	なし。	両端部は削平を受けており、時期は不明である。	125 ・ 134	127
RG351	5D2f~ 4D18i・IV層	長:24.8 深:7	上:50 下:40	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含む。	なし。	RG339・340よりも新しい遺構である。調査前の地形では、この区画と合致するように湿地性の植物が生育していたことから、新しい時代のものと推定される。	126 ・ 134	128
RG352	3D2m~ 3D3p・IV層	長:6.0 深:12	上:20 下:15	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多く含む。	なし。	東側がRG235と重複しており、同時期のものと推定されるが、詳細な時期は不明である。	125 ・ 129 ・ 135	119
RG353	3D6n~ 3D9o・IV層	長:7.0 深:8	上:40 下:20	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山粒を少量含む。	なし。	北端が沢跡と重複し、沢跡が存在していた時点以降に構築・使用されていたものと思われるが、詳細な時期は不明である。	125 ・ 135	
RG354	4B18u~ 4C22s・IV層	長:(19.0) 深:5	上:40 下:30	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含み、地山ブロックを多く含んでいる。	なし。	遺構の西側で一部が消滅しているものの、消滅区間が短いため同一の遺構と判断し、同じNoを付した。RG339と同様な、道の側溝としての用途が考えられるものの、詳細な時期は不明である。	126 ・ 135	127 ・ 128
RG355	4C19d~ 4C19e・IV層	長:3.6 深:4	上:20 下:18	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を多量に含んでいる。	なし。	削平を受けているため、残存している部分は僅かである。RG354との関連も考えられるものの、時期も含めて詳細は不明である。	126 ・ 135	127 ・ 128
RG356	4B16u~ 4C17f・IV層	長: (19.5) 深:4	上:32 下:25	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多量に含む。	なし。	遺構の途中で削平を受けているが、RG354と平行しているため、同様な性格の遺構であることが考えられる。詳細な時期は不明である。	126 ・ 135	127 ・ 128
RG357	4B17u~ 4B17y・IV層	長:(9.2) 深:4	上:27 下:14	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多量に含む。	なし。	遺構の途中で削平を受けており、詳細な性格・時期は不明である。	126	127 ・ 128
RG358	4C21o~ 4C23t・IV層	長:(10.8) 深:3	上:65 下:60	自然堆積と思われ、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含み、地山ブロックを多く含んでいる。	なし。	RD1038土坑と重複しているが、遺物等もなく、詳細な性格・時期は不明である。	126	127 ・ 128

## 8 井戸跡

北西・南西・東側の各調査区から1基ずつ検出された。北西側調査区から検出された近世の1基以外に井戸杵らしきものは見つからず、素掘りによるものと思われる。

これらの井戸跡は、検出・精査中も多量の湧水があり、調査区一帯は、現在でも地下水の供給が豊富で、地下水面も高い地域であることがうかがわれる。

### R1011 井戸跡 (第136図、写真図版117)

<位置・重複関係>北西側調査区の南側、2-D25sグリッド付近に位置し、IV層の上面から検出された。RA414竪穴住居跡と重複しているが、検出状況から当該遺構のほうがより新しいものである。

<規模・形態>平面は円形で、開口部径の計測値は230×225cm、検出面から170cm下に段状の平坦部があり、その部分の計測値が170×155cmで、底部付近の中心に内外2列の円形を呈する井筒の木杵が85×82cmの規模で巡っている。段状の平地から井筒底部までの深さは40cmで、底部の礫層からはおびただしい湧水があり、検出・精査には困難を極めた。

<埋土>埋土は8層で構成され、上層30cm位まで全体に径10～30cm大の礫がまんべんなく分布し、それ以下の底部までは、井筒の範囲内のみと同様な礫が密に堆積していた。これら井筒内の礫は、井戸が廃棄されたあとに何らかの理由で人為的に埋められたものと推測される。本遺構は砂礫層まで掘り込まれており、完掘するとおびただしい湧水が見られた。埋土断面の状況から、一度大きく掘り込まれた後に一回り小さい井筒を設置して、井筒の周りを掘削時の残土等で再び埋め固めて構築されたものと思われる。

<その他>井筒の木杵は、細長い板を立て内外に2列、円形に巡らせて設置され、内側が深く外側が高い約40cmの段差を持たせた構造となっていた。

また、井筒の上端部は不揃いであったものの、中央～下端部分は比較的原形をとどめていた。このことから井筒の上端部分は、土中で腐食・分解し中央～下端の帯水面に常時浸かった部分のみが、往時の状況を示すように原形をとどめて残ったものと考えられ、井筒は底部付近のみでなく上部にも存在していた可能性がある。

<遺物>井筒以外は出土していない。

<時期>井戸の構造や、西側に隣接する厩部分を持った曲り屋との関連が想定できることから、近世のものと思われる。

### R1012 井戸跡 (第136図、写真図版118)

<位置・重複関係>南西側調査区の南側、5-B12cグリッド付近に独立して位置し、IV層の上面から検出された。

<規模・形態>平面は円形を呈し、開口部の計測値は186×180cm、検出面から底部までの深さは78cmで、底部に向かうにつれて開口部が狭まる播り鉢のような形状である。底部付近には礫層が分布し、おびただしい湧水が見られた。

<埋土>埋土は2層で構成され、上層50～60cm位まで粘性がある黒褐色土の中に径2～10cm大の礫が多く分布し、それ以下の底部までは砂礫層となっていた。上層部分は、井戸が廃棄された後に人為的に埋められた

もの、あるいは層位がほぼ単一なことから、洪水等の影響を受けて埋まったものと考えられる。

＜その他＞3 mほど北西に、中世の遺構であるR B038掘立柱建物跡が見つかり、その配置や対応する関係から、互いに関連する時期の遺構と推察している。

またこの井戸跡は木枠を持たない素掘りの形状を持ち、精査時点での水面が手を伸ばせば届くような位置にあり、井戸としてはごく浅い部類に属するものと思われる。

これらのことからこの地点でかつて生活していた人々は、井戸を掘り抜いてもそれほど深くない位置において、容易に水を得ることができたのかもしれない。2台の小型エンジンポンプを使用しても汲み上げきれないほどの水量がこの井戸跡内に湛水していたにもかかわらず、一定の水位以上に水が溢れ出すことは一度もなかった。これは、おそらく井戸跡の底部付近に分布する砂礫層が地下水面上端部分を構成しているためであり、古くから当地の人々は、この利点を上手に利用しながら生活していたものと推察される。

＜遺物＞埋土内から出土していない。

＜時期＞北西側に隣接する底部分を持った中世の掘立柱建物跡との関連が想定できることから、中世のものと思われる。

#### R I O 1 3 井戸跡（第136図、写真図版118）

＜位置・重複関係＞遺跡の南東端付近にあたる4 D16 f グリッドに位置している。IV層面で検出され重複関係はない。

＜規模・形態＞検出面での規模は2.4×2.1m、底面付近で1.1×1.0mを測り、やや歪な円形プランを呈する。深さは1.4m程で底面まで完掘すると地下水が湧き出してきた。

＜埋土＞基本的には地山ブロックを多量に含む人為堆積でよいと思われる。その中で水分を常に多く含んでいた埋土下層ではグライ化し暗緑灰色を呈している。

＜その他＞地面を掘り込んだだけの単純な構造であったようである。

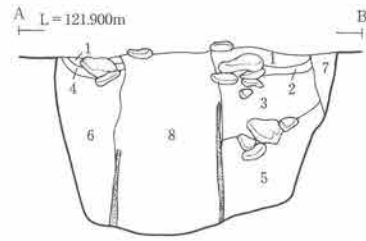
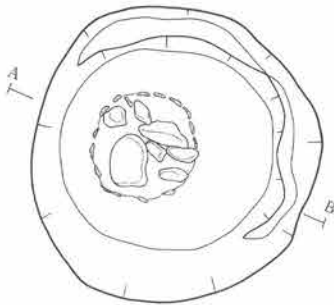
＜遺物＞なし

＜時期＞周辺に分布する遺構の様相から中世に属する可能性が高い。



2-D25t

RI011

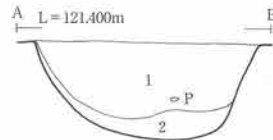
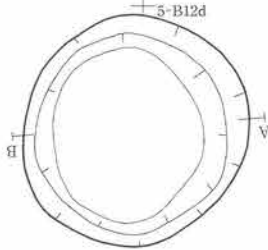


RI011

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
2. 10YR3/3 暗褐色細砂 粘性無し。締まり有り。  
(地山粒含む。径1cmほどの小礫含む)
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(全体に径3~5cm自然礫含む。全体に酸化鉄含む)
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(径2~3cmの小礫含む)
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(全体に地山ブロック含む。径20cm程度の礫を部分的に含む)
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。  
(全体に地山粒少量含む。全体に径3~5cm礫少量含む)
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。(小礫含む)
8. 10YR2/2 黒褐色粘土 粘性有り。締まり無し。  
(径20~30cm程度の礫多く含む)

RI012

5-B12d

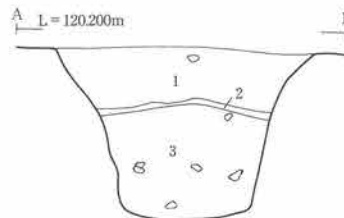
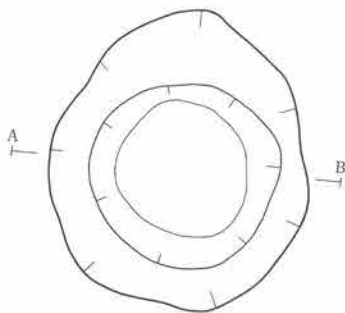


RI012

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
2~10cm大の礫多量含む。
2. 礫層 10YR2/2 黒褐色砂質土と混合している。  
(礫1~15cm大)

RI013

4D17f



RI013

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。  
地山ブロック多量含む。
  2. 7.5YR5/8 明褐色土 粘性弱。締まっている。  
水酸化鉄含む。
  3. 10GY3/1 暗緑灰色土 粘性強。締まっている。  
地山ブロック多量に含む。(小礫含む)
- ※ 1. 3層は本当は同じもの。3層はグライ化しているだけ。

0 1:60 1m

第136図 RI011・012・013井戸跡

## 9 その他の遺構

南西調査区と北西調査区を中心に、性格不明の土坑列、および方形と円形の周溝が、それぞれ1基ずつ検出された。

南西側から検出された周溝は、約8×11mの長方形を呈し、囲む溝跡が切れた東側の一部分には、入り口らしき痕跡と、溝跡の内側には10基程度の柱穴を見つけることができた。

もう一方の周溝は、幅が約1.2m・径約6mの半円形で、北半分のみの検出となっている。南半分は既に調査を終えた18次の調査区へ続いていたものと推測されるが、削平を伴う整地を受けた痕跡があり、前年度の調査部分では、今回検出した円形周溝の対称部分を見つけることはできなかったものと考えられる。

### RZ027 方形周溝（第137図、写真図版130）

<位置・重複関係>南西調査区の南西端、5-C7mグリッド付近において、IV層の上面から検出された。北東側でRD937と重複しているが、埋土の状況から、当該周溝より後の時期に造られたものと思われる。また、RA425竪穴住居跡よりも新しい。

<規模・平面形>南北方向10.6～10.9m、東西方向7.8～8.2mの長方形で、溝幅は46～70cm、深さは10～22cm、溝の断面形は皿状～やや深いU字状を呈しているが、東側の溝において、20～50cmの幅で高まりながら消滅している部分がある。

<埋土>自然堆積で黒褐色土を主体としているが、溝の底部では黒褐色土の層に褐色土のブロックが多量に含まれていた。

<柱穴>18基の柱穴が、溝で囲まれた内側の部分から検出された。そのうちの一部に対応関係が認められるが、特に東側の溝が消滅する部分において、PP1351と1352の2基が対になるように存在している。なお、当該遺構の周辺に柱穴は一切存在していないこともあり、内部に分布する柱穴群の存在が際立っている。

<土坑>ほぼ中央部にRD941が存在するが、当該周溝と関連する遺構であるかは不明である。

<遺構の性格など>当該周溝は墓地として、または柱穴の並びから宗教的・儀礼的な建物が溝の内側に存在していた可能性がそれぞれ考えられ、溝が切れた部分に付随して存在する2基の柱穴PP1351・1352は、入り口としての機能を持っていた個所ではないかと推定している。

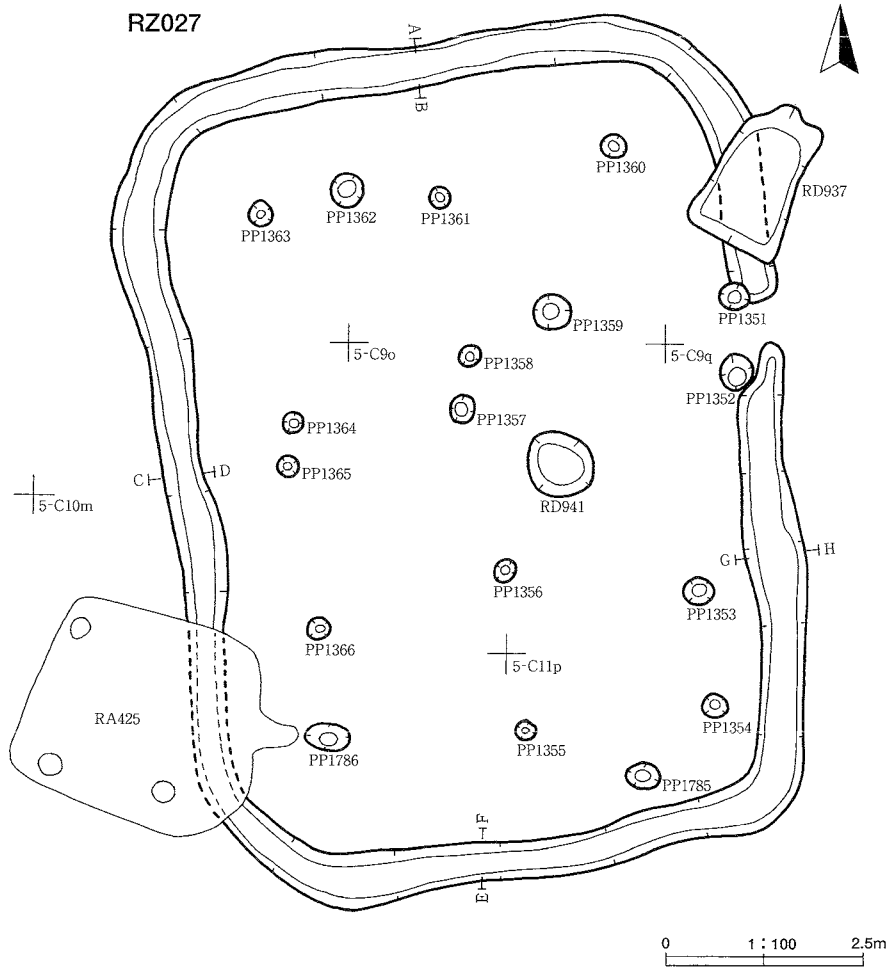
また、この方形周溝が中世の遺構であった場合、北東～東側に隣接して存在する中世の掘立柱建物跡群と関連する施設として存在していた可能性も考えられる。

<出土遺物>溝で囲まれた遺構の内部から須恵器の小片が出土しているが、遺構に係わるものであるのかは不明である。

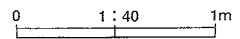
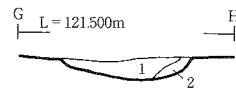
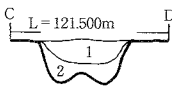
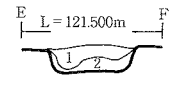
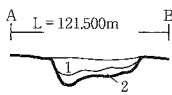
<時期>南西部で、平安時代のもと思われるRA425竪穴住居跡と重複しているが、重複した部分の埋土の堆積状況から、当該周溝の方が後の時代に造られたものであると判断できた。このことから、おそらく平安時代以降～中世に存在していた遺構であると推定される。

### RZ028 円形周溝（第138図、写真図版129）

<位置>北西調査区の北東部、1-B21fグリッド付近において、IV層の上面から検出された。

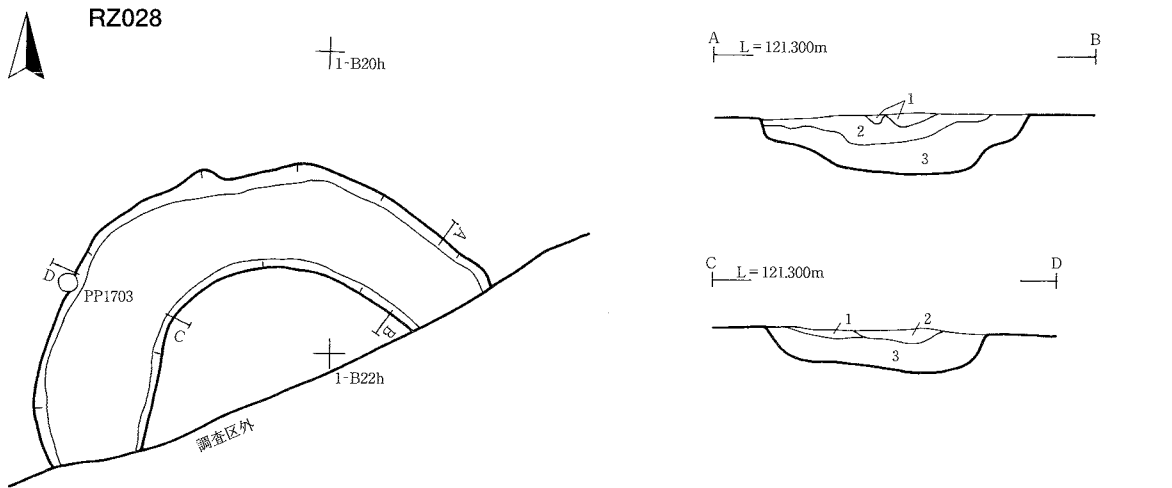


柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1351	31×33	—	
1352	50×37	13.0	
1353	37×32	4.4	
1354	29×25	10.0	
1355	26×23	15.5	
1356	27×26	15.6	
1357	28×27	15.2	
1358	28×28	14.5	
1359	50×41	12.9	
1360	32×28	16.8	
1361	23×22	7.8	
1362	43×38	22.0	
1363	29×27	6.4	
1364	26×24	19.6	
1365	22×21	—	
1366	29×25	19.6	
1785	45×32	21.4	
1786	44×32	33.2	



RZ027  
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
 10YR4/4 褐色土ブロック多量含む。

第137図 RZ027方形周溝跡



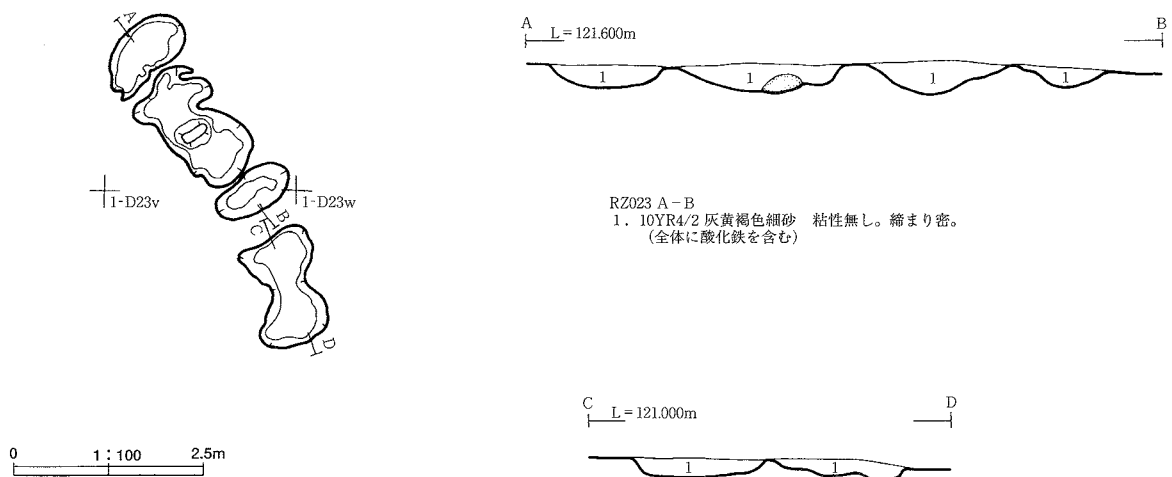
RZ028 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
10YR4/4 褐色土との混合土。水酸化鉄含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。  
地山粒少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性とても強い。締まりやや弱。  
10YR4/4 褐色土との混合土。水酸化鉄含む。

RZ028 C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土と地山ブロックの混合土。  
粘性、締まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土と地山土との混合土。  
粘性有り。締まりやや弱。

RZ023

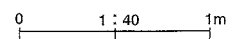


RZ023 A-B

1. 10YR4/2 灰黄褐色細砂 粘性無し。締まり密。  
(全体に酸化鉄を含む)

RZ023 C-D

1. 10YR3/1 黒褐色砂質土 粘性無し。固く締まる。  
水酸化鉄斑多く含む。



第138図 RZ028円形周溝・RZ023性格不明遺構

<規模・平面形>直径6.2m、溝幅1.2～1.5m、深さ15.2～20.4cmで平面はドーナツ状をした半円形態をしており、溝の断面形は、底がやや平らで緩やかに立ち上がるU字状を呈している。

<埋土>自然堆積と思われ、黒褐色土が主体で全体に地山ブロックと水酸化鉄を含んでいる。

<その他>当該周溝の残り半分が存在しているものと思われる南側部分では、過去に発掘調査を行っているものの同様な遺構は検出されておらず、おそらく過去の耕地整理や耕作によって削平を受け消滅したものと推定される。

<出土遺物>出土していない。

<時期>時期を判断するような出土遺物はないが、近隣遺跡から見つかっている同形態の遺構から鑑みて、古代の遺構と思われる。

#### R Z O 2 3 性格不明遺構 (第138図・写真図版129)

<位置>北西調査区の北端部1-D23vグリッドに位置し、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形>南北方向4.8m、東西方向0.5～1.2mの範囲に、アメーバ状の不定形な土坑が4基連なっている。遺構検出面から20～30cm程不規則に掘り込まれていた。

<埋土>灰黄褐色と黒褐色の細砂が主体となり、層の厚さは10～16cm程度で、全体に水酸化鉄が含まれ、堅く締まっていた。

<出土遺物>底部から、小径の礫と剥片が数点出土したのみである。

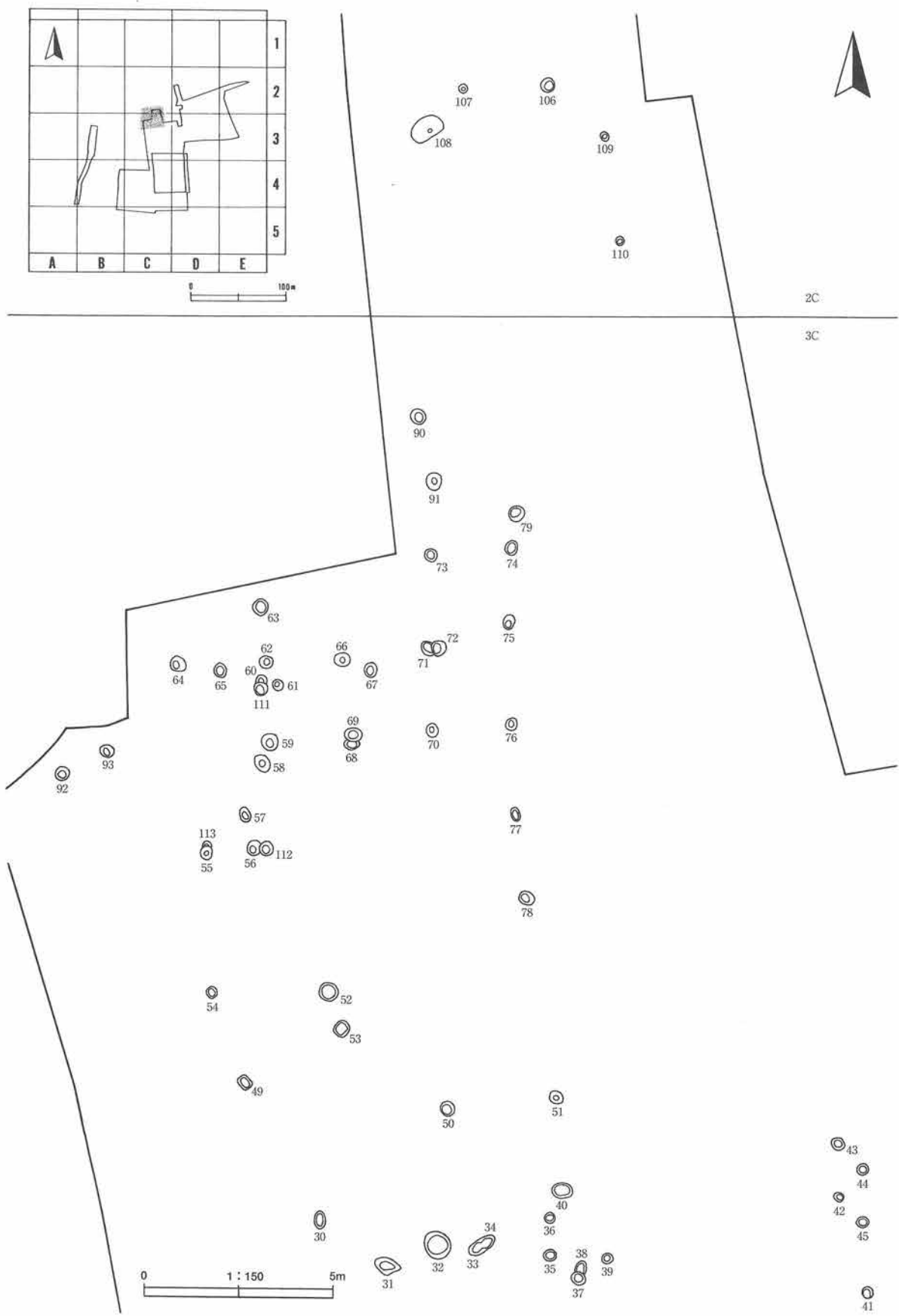
<時期>時期が判断できるような出土遺物はなく、不明である。

#### 柱穴状土坑 (第139～149図)

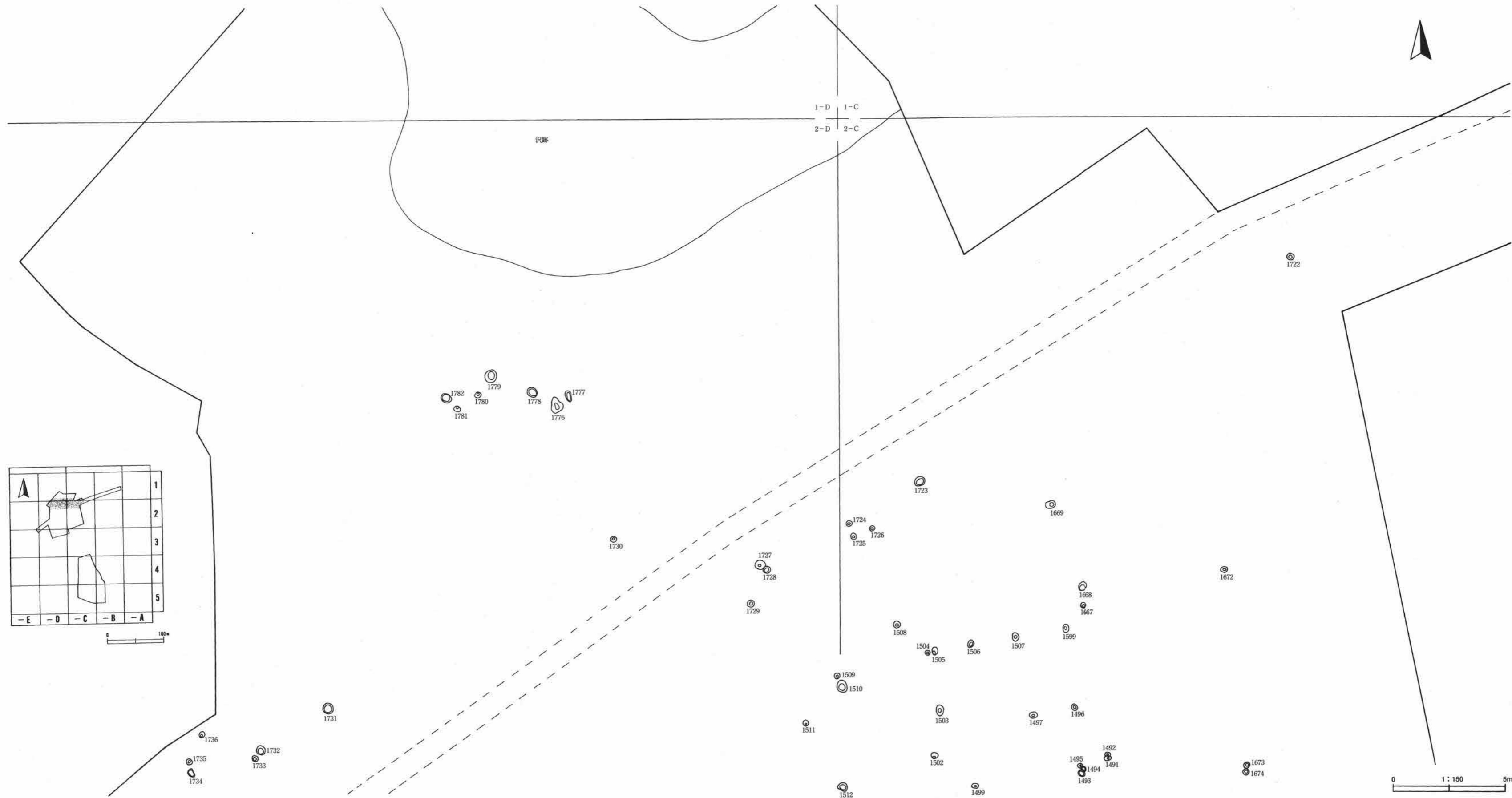
今回の調査区からは合計1786基の柱穴状土坑を検出した。この中には古代の堅穴住居跡に伴う主柱穴や中世の堅穴建物跡に伴う柱穴も含まれている。また掘立柱建物跡と推定した9棟の遺構を構成する柱穴も含まれている。柱痕を明確に把握できない径30cm未満のものが多数を占め、その中には精査してみても柱穴かどうか疑わしいものもあった。

調査区の中でも分布には粗密が現れており、調査区西側の2-C～2-Dグリッドで検出された柱穴については近世民家R B031・034が検出されていることから同様に近世に属するものが多いと思われる。また調査区南西側の4-C～5-Bグリッドに分布する柱穴については中世の掘立柱建物跡R B035～039・041が検出されていることから大半は中世に位置付けられるのではないかと考えられる。同じく中世の墓壙がまとまって検出されている3-Bグリッドに分布する柱穴と4-C・4-Dグリッドに分布する柱穴についても中世に属する可能性が高い。3-Cグリッドで検出された柱穴については時期を推察する資料を欠き中世か近世か判断としない。個々の柱穴の規模や出土遺物については一覧表を作成しまとめた。柱穴間の重複関係については断面観察ではなく平面観察によって判断し、平面図には新旧関係が解るように表した。なお新旧不明の場合は不明瞭な表現で示している。

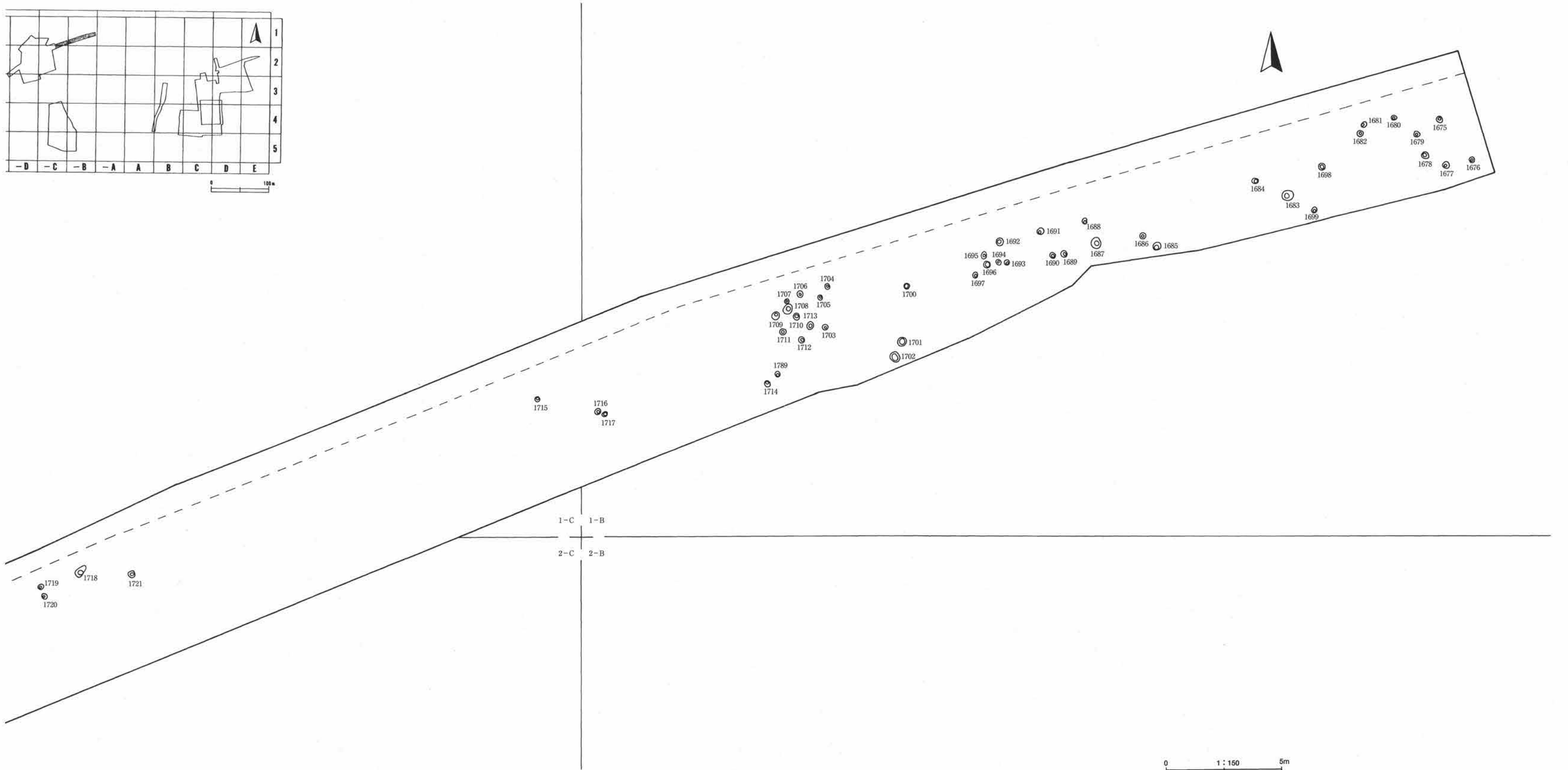
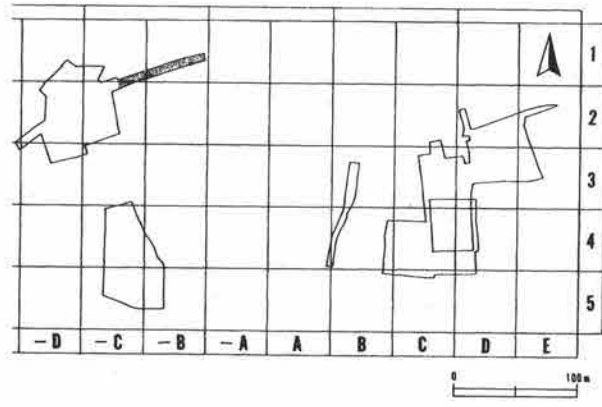




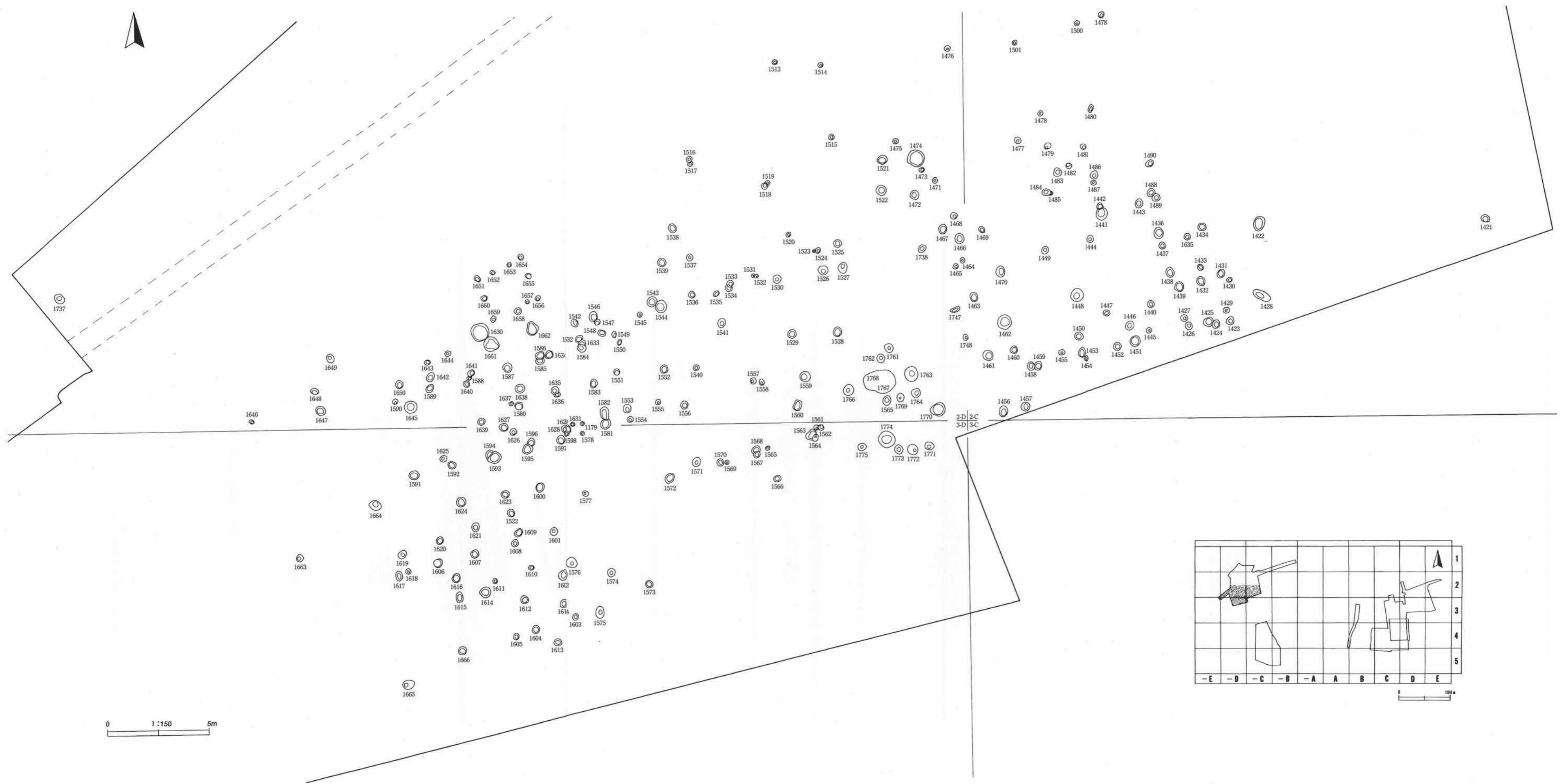
第139図 柱穴群 (1)



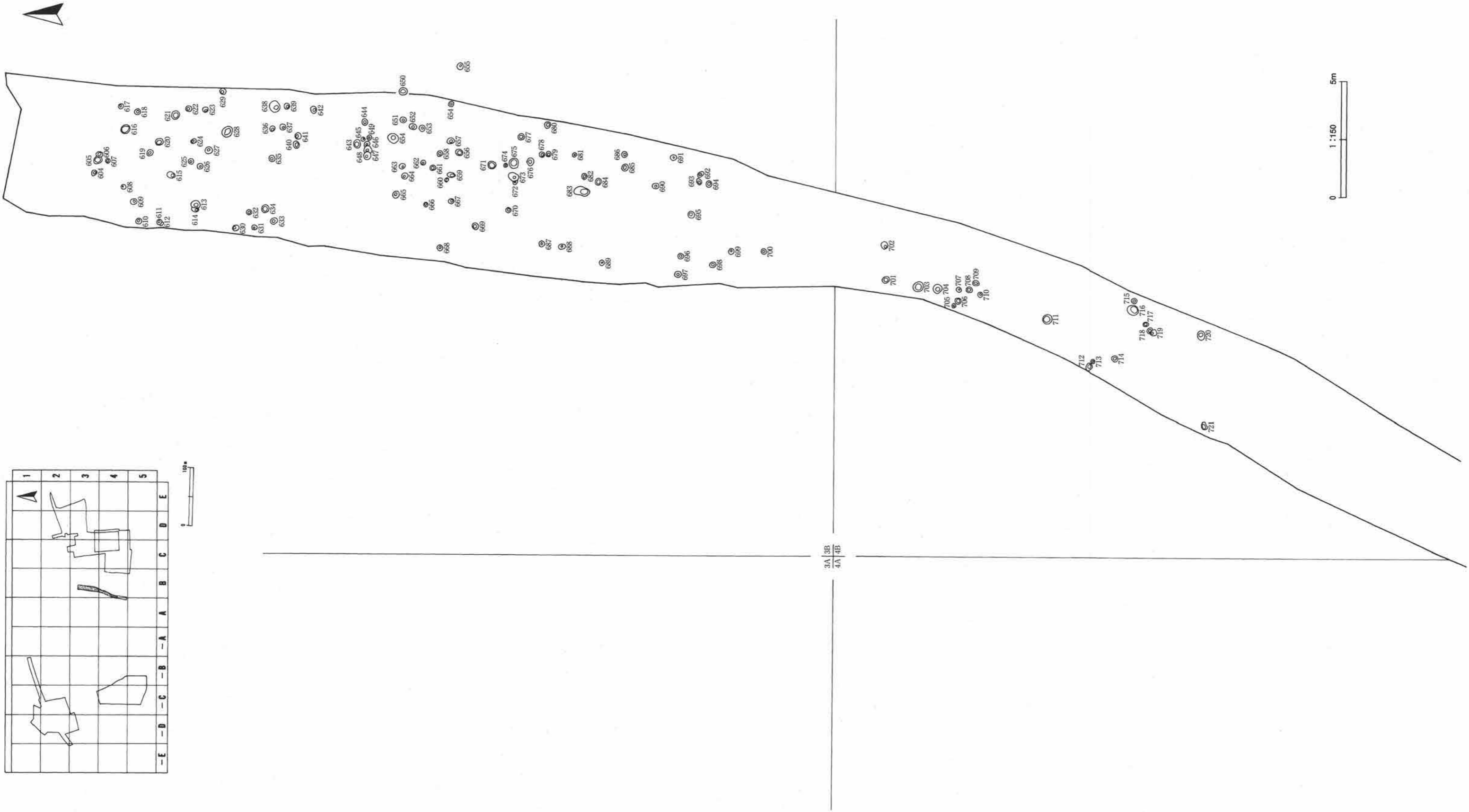
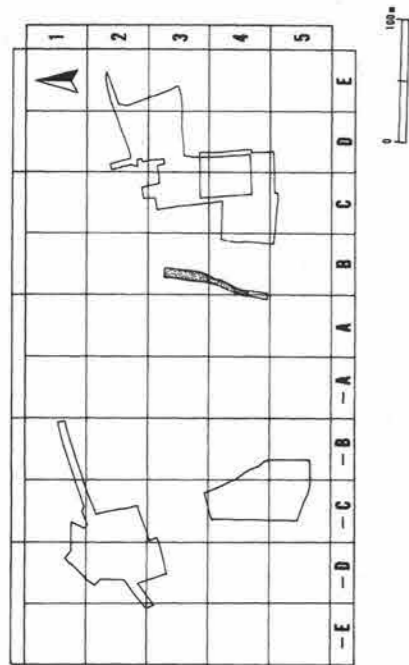
第140図 柱穴群 (2)



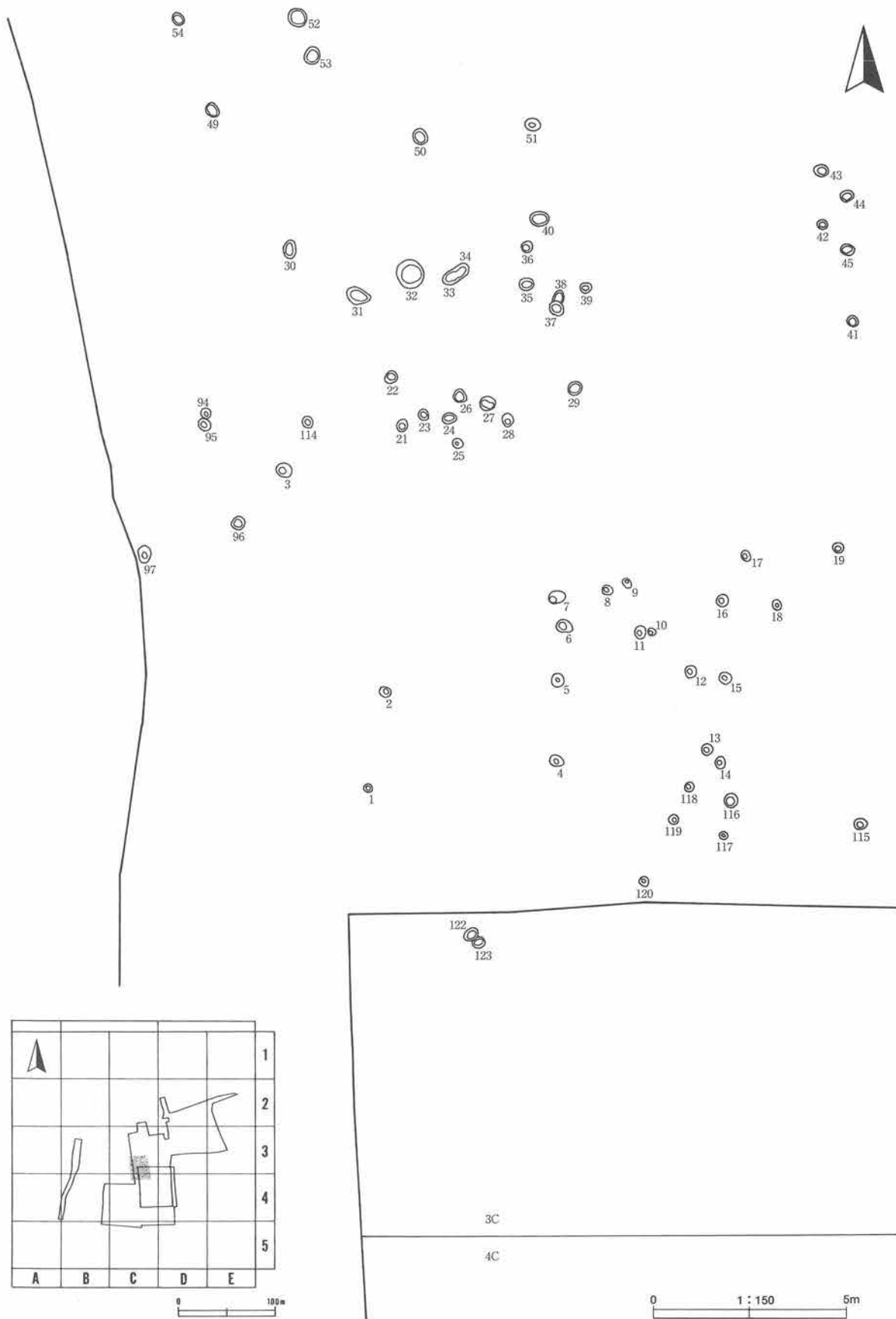
第141图 柱穴群(3)



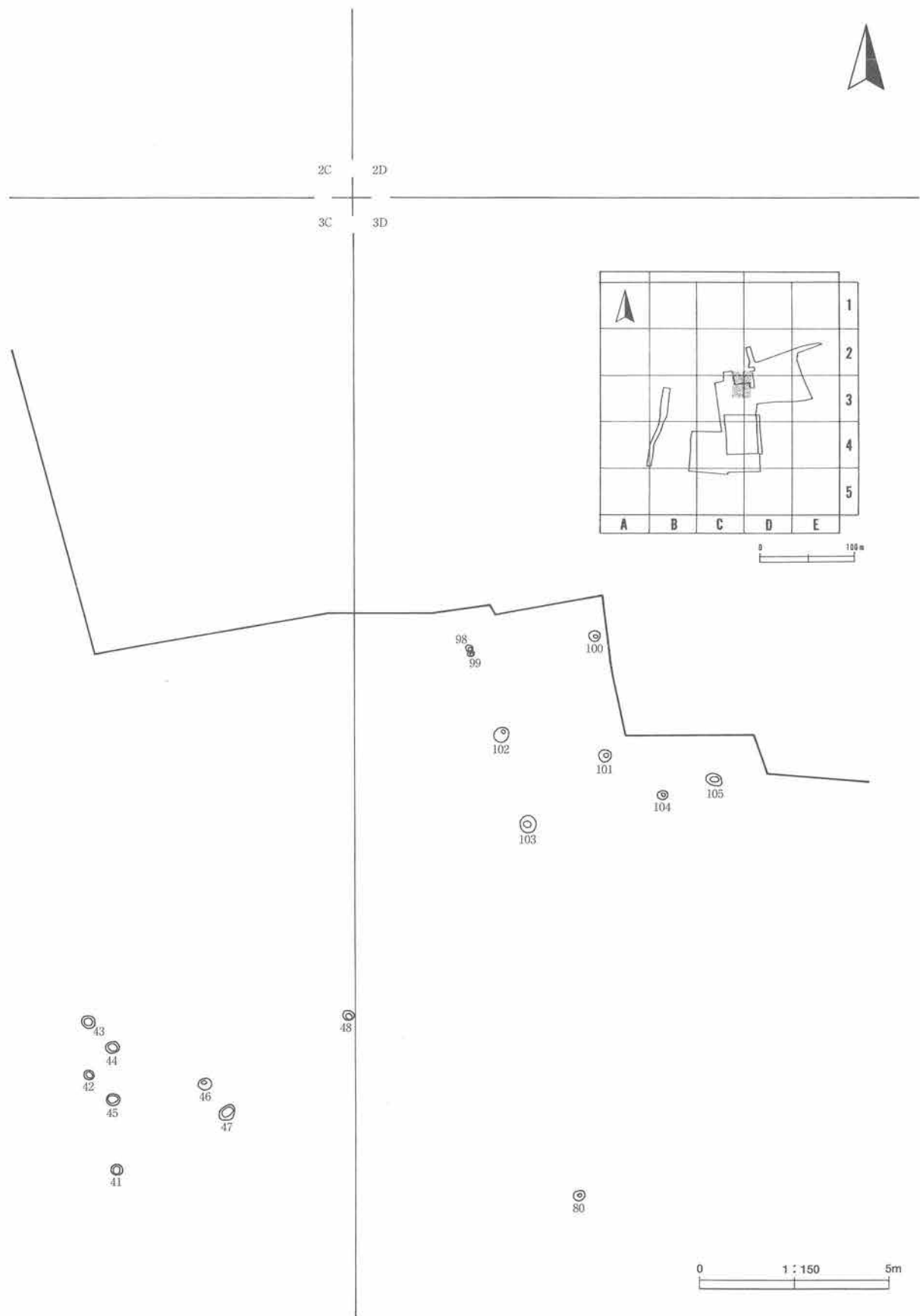
第142图 柱穴群(4)



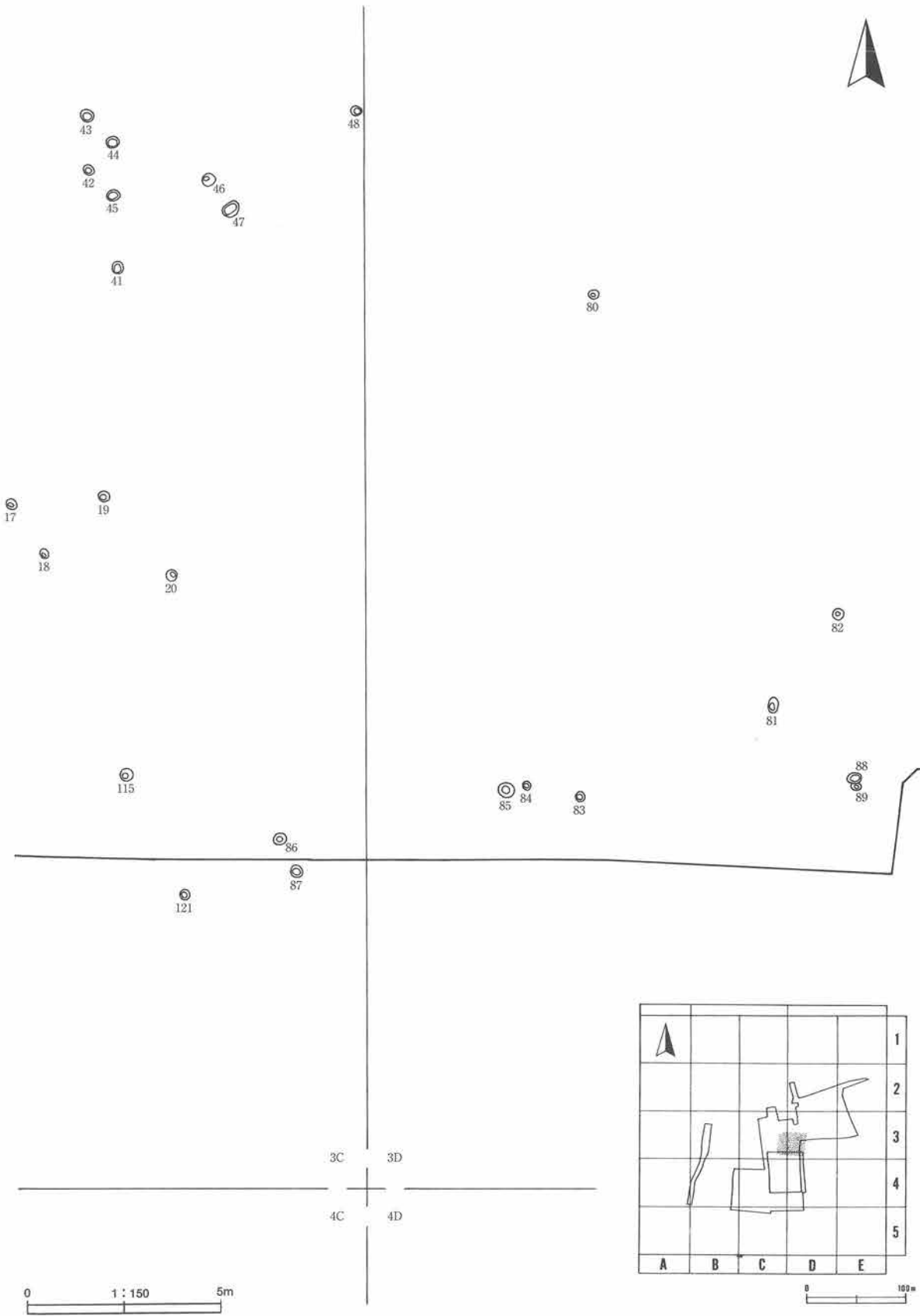
第143图 柱穴群(5)



第144图 柱穴群 (6)

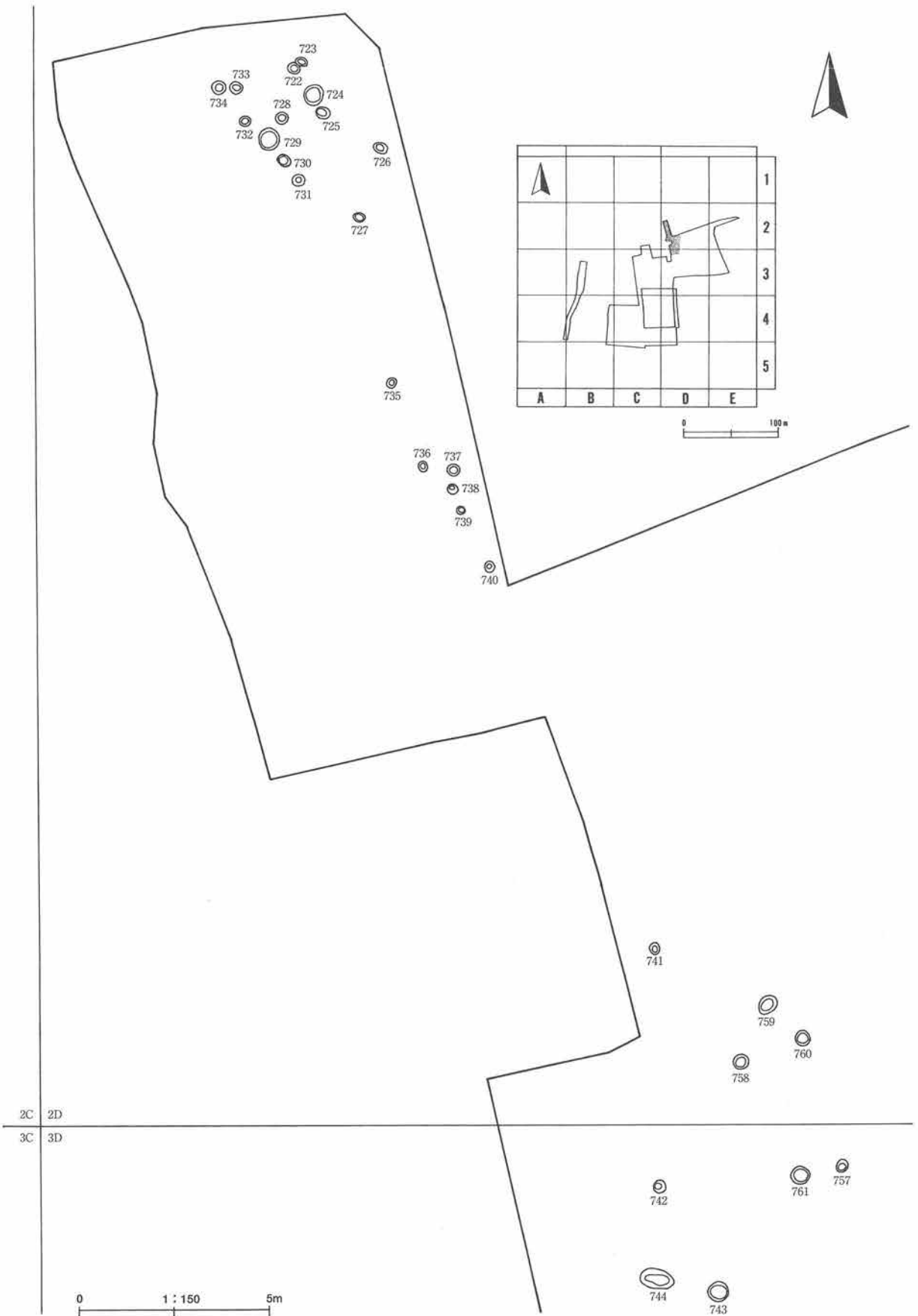


第145図 柱穴群（7）

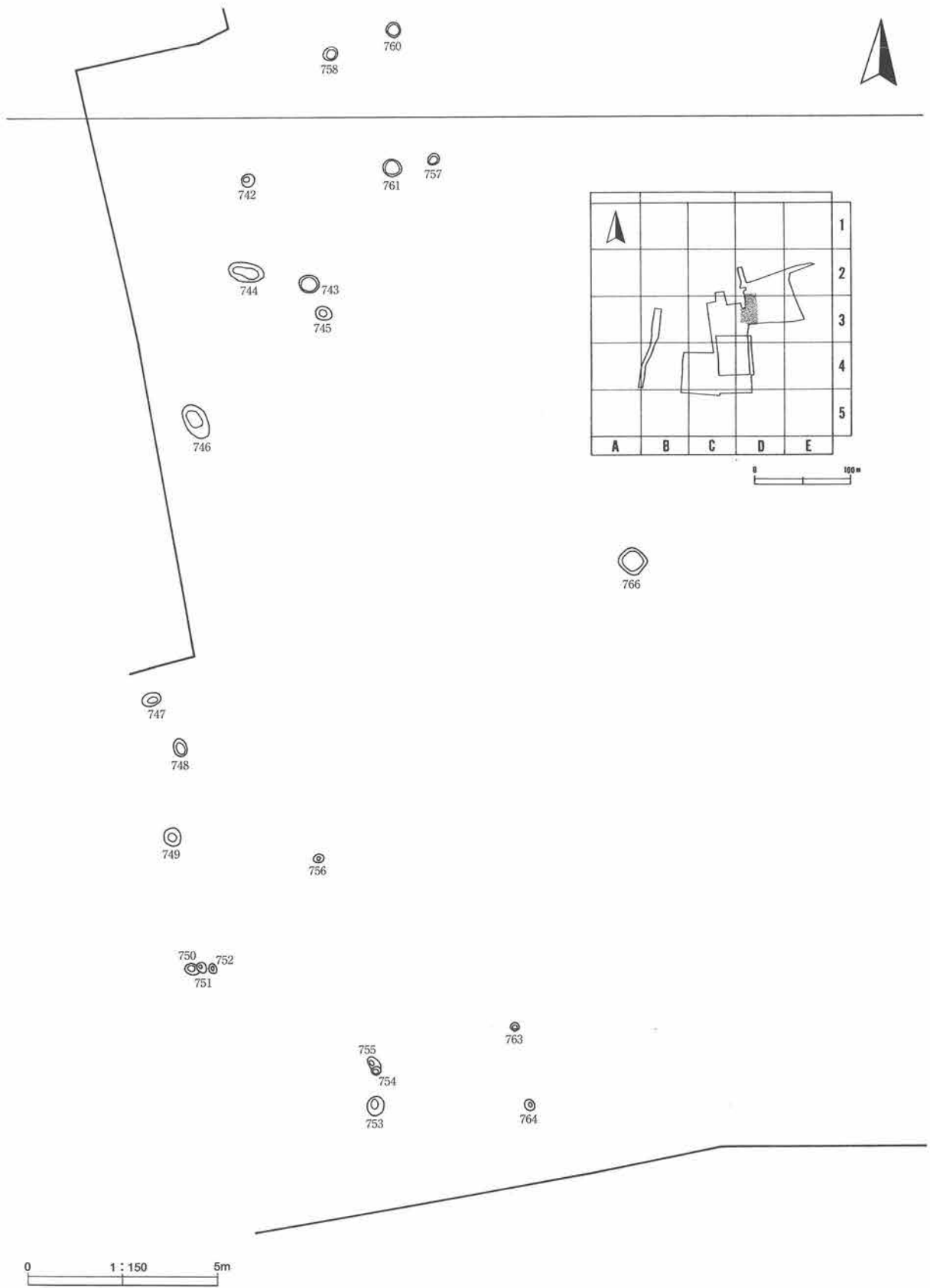


第146図 柱穴群(8)

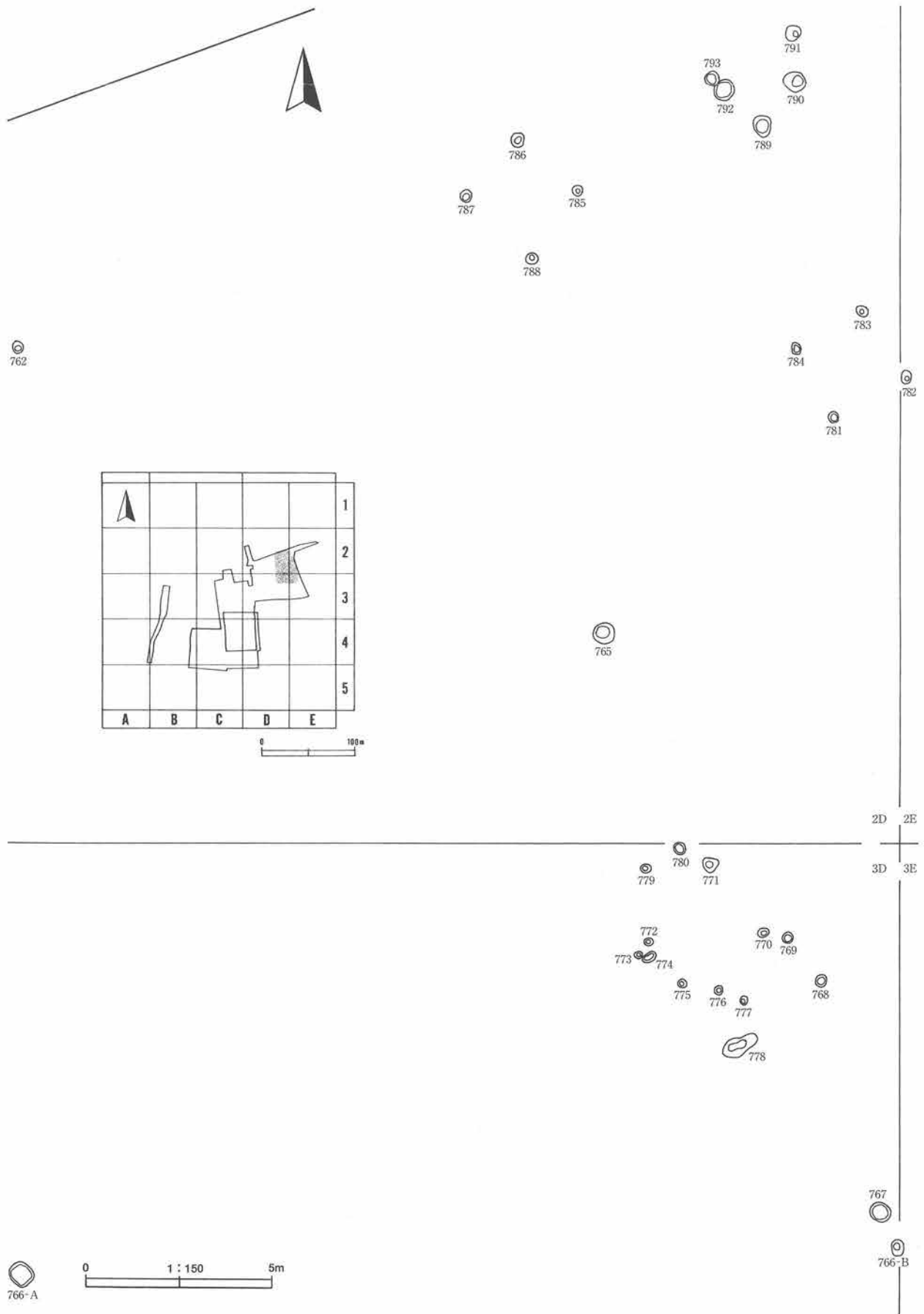




第147図 柱穴群(9)



第148図 柱穴群 (10)



第149図 柱穴群 (11)

### 柱穴計測表

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1	24×20	21.4		119
2	38×28	31.1		119
3	42×29	35.3		101
4	38×28	43.3		119
5	34×32	37.8		119
6	39×33	13.7		119
7	46×32	51.2		119
8	28×28	10.4		119
9	26×21	29.3		119
10	22×22	39.9		119
11	35×26	10.6		119
12	30×28	22.5		119
13	28×24	17.2		119
14	31×25	36.7		116
15	34×31	49		116
16	37×30	47		116
17	28×24	26.2		116
18	26×22	22.4		116
19	29×26	22.2		116
20	31×31	13.4		116
21	31×28	14.2		114
22	36×33	34.2		114
23	27×24	14.6		114
24	39×24	28.5		114
25	26×22	44.7		119
26	35×35	12.2		114
27	42×32	12.8		114
28	34×32	13.8		114
29	40×32	16.7		111
30	48×30	20.1		111
31	68×42	14.6		114
32	72×68	18.5		114
33	(40)×34	14.5		114
34	(32)×32	13		114
35	36×32	14.2		114
36	30×28	22.4		114
37	36×35	21.6		114
38	38×28	15		114
39	26×25	14.6		114
40	50×38	20		114
41	30×28	14.4		117
42	24×20	16.1		117
43	34×32	22		117
44	32×32	14.3		117
45	34×27	10.6		117
46	36×28	14.8		117
47	46×32	12.5		117
48	28×28	16.5		117
49	38×30	20.3		122
50	36×36	21.3		114
51	40×30	20.7		114
52	48×44	21.8		122
53	42×36	11.4		122
54	27×26	17		122
55	30×(28)	29.2		122
56	41×32	18.6		122
57	35×23	19		122
58	51×40	62.6		122
59	48×43	51.5		122
60	40×31	49.1		122
61	28×27	29.9		122
62	40×35	32.4		122
63	44×43	44.4		122
64	44×43	36		122
65	32×32	9.7		122
66	38×34	38.2		122
67	37×32	26.2		122
68	38×(26)	22.6		122
69	42×33	45		122
70	37×32	41.9		122
71	42×(29)	36.2		122
72	47×40	45.7		122
73	34×31	19.5		120

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
74	38×34	18.7		120
75	41×30	27.5		120
76	36×34	32.1		120
77	38×28	13.8		120
78	36×32	16.6		120
79	43×42	31.2		120
80	26×25	38.3		121
81	37×25	19.3		104
82	27×26	45		121
83	23×22	21.4		105
84	21×20	22.2		105
85	41×40	22.8		105
86	32×28	27.7		105
87	28×25	17.2		105
88	38×24	20.6		104
89	(24)×20	27.5		104
90	45×40	23.7		103
91	50×42	30.4		103
92	36×33	33.4		102
93	38×34	21.2		102
94	26×24	8.8		101
95	32×32	51.9		101
96	34×29	49.1		101
97	42×(35)	52.1		101
98	25×22	56		109
99	22×(12)	26		109
100	30×29	28		109
101	36×34	49.5		109
102	46×40	62.5		109
103	46×42	42.4		109
104	26×23	52		109
105	40×37	63.7		109
106	39×37	27.8		110
107	28×19	17.5		110
108	93×54	27		110
109	22×20	24.5		110
110	23×19	16.2		110
111	38×16	25.2		141
112	42×37	18.1		141
113	29×(2)	17.5		141
114	28×30	16.6		101
115	30×30	22.2		141
116	37×37	43.5		141
117	22×19	42.6		141
118	24×22	13.6		141
119	29×28	23.3		141
120	24×23	51.5		141
121	24×23	15.3		141
122	40×31	13.9		141
123	30×25	9.7		141
124	24×23	51		147
125	33×32	55.5		147
126	26×20	20.2		147
127	35×30	48.3		147
128	32×30	19.8		147
129	34×31	24.8		147
130	29×28	20.7		147
131	24×23	17.1		147
132	30×28	13.9		147
133	23×20	22.6		147
134	21×21	24.4		147
135	38×32	39.9		147
136	26×23	17.2		147
137	27×25	17.3		145
138	26×21	17.4		145
139	28×25	22.8		145
140	29×25	29.7		145
141	25×20	19.2		145
142	20×19	10.4		145
143	31×26	24.6		145
144	25×21	15.5		128
145	22×17	14.1		128
146	23×19	14.4		128

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
147	20×19	7.1		128
148	25×23	10.1		128
149	20×16	13.6		128
150	20×20	11.1		128
151	18×18	10.6		128
152	26×24	16		128
153	25×19	16.5		128
154	23×23	21.8		128
155	20×20	16.9		128
156	28×25	26.5		128
157	25×19	22.3		128
158	30×26	18.2		128
159	32×32	37.6		128
160	33×29	32.5		128
161	120×17	24.4		128
162	24×22	22.5		128
163	22×21	16.5		128
164	20×20	15.8		127
165	27×20	15.8		127
166	23×23	28.8		127
167	16×16	10.7		127
168	26×23	20.3		127
169	22×20	22.1		127
170	29×24	19.8		127
171	22×20	22		127
172	20×19	22.7		127
173	21×19	21.7		127
174	21×20	12.9		143
175	25×21	31		143
176	21×20	19.2		143
177	20×16	6.2		143
178	26×22	25.3		143
179	30×25	20.1		143
180	57×39	15.7		143
181	27×25	29.5		143
182	25×20	3.8		143
183	19×17	8.5		143
184	24×22	15.7		143
185	25×23	31.5		143
186	18×15	10.9		143
187	20×19	10.1		143
188	25×21	29.5		143
189	27×27	15.5		143
190	25×25	25.7		143
191	20×18	15.5		143
192	29×28	21.8		143
193	19×19	4.5		143
194	28×25	31.5		126
195	20×17	10.9		126
196	20×20	22.6		126
197	24×24	11.8		126
198	24×23	22.1		126
199	21×20	17.3		126
200	24×19	16		126
201	23×21	15.4		126
202	21×21	21.4		126
203	54×30	12.5		126
204	26×25	19.3		126
205	33×26	9.6		126
206	35×31	39.4		126
207	33×32	35.3		126
208	30×25	18.7		126
209	24×22	11.2		126
210	25×24	24.8		126
211	27×27	27.3		126
212	24×20	16.7		126
213	25×25	15.8		126
214	23×20	17.8		132
215	29×25	23		132
216	22×20	20		132
217	22×21	20.2		132
218	35×30	25.2		132
219	25×24	24.3		132

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
220	29×25	40.2		132
221	25×18	5		132
222	28×25	22.1		132
223	18×18	15.8		132
224	20×19	7.1		132
225	20×17	9.5		132
226	20×19	18.7		132
227	22×20	22.8		140
228	24×21	11.1		140
229	33×30	46.6		140
230	36×33	15.2		140
231	23×19	7.4		140
232	21×21	6.4		140
233	34×34	21.7		143
234	20×19	14.4		143
235	26×25	22.1		144
236	18×16	14.5		144
237	25×25	10.7		144
238	40×29	10.1		149
239	27×24	10.6		149
240	18×18	10.5		149
241	26×18	17.6		129
242	30×24	33.8		149
243	30×28	13.4		149
244	25×24	38.9		149
245	22×20	36.1		149
246	21×21	24.6		149
247	26×26	11		149
248	21×20	39.7		148
249	25×23	29.9		148
250	28×27	24.2		148
251	39×36	14.8		148
252	24×17	31.8		148
253	21×20	22.4		148
254	23×21	20.7		148
255	22×22	32.4		148
256	25×24	18		148
257	22×21	23.5		148
258	25×22	10.9		148
259	20×19	29.9		148
260	25×23	25		148
261	20×19	7.1		148
262	18×16	8.3		148
263	23×23	19.2		148
264	39×37	38.8		154
265	40×36	17.6		154
266	30×26	27.7		154
267	31×30	13.2		154
268	35×32	38.6		154
269	31×31	16		154
270	43×36	12.8		154
271	54×45	9.4		154
272	59×43	13		154
273	22×21	5.1		154
274	27×25	7.6		133
275	62×41	11.5		133
276	51×47	13.1		133
277	49×35	18.7		151
278	42×36	16.8		151
279	41×38	30	151	133
280	31×30	7.6	151	133
281	35×30	15.4	151	133
282	24×24	15.3	151	133
283	53×35	17.9		133
284	43×38	16.3		133
285	41×40	17.8		133
286	51×32	23.8		133
287	35×32	9.3		133
288	23×21	5.1		133
289	48×40	9.5		133
290	39×28	14.5		133
291	40×28	16.3		133
292	34×34	23.8		133
293	50×23	18.1		133
294	62×36	12.7		133

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
295	34×26	9.8		133
296	41×39	20.9		133
297	32×31	11.3		133
298	36×32	16.6		133
299	39×34	20.5		133
300	26×24	15.9		133
301	30×27	13.8		133
302	19×18	6.1		133
303	32×28	8.1		133
304	25×24	10.5		133
305	25×21	9.1		133
306	34×27	10.6		133
307	73×44	21		133
308	55×29	24.3		133
309	32×25	7.8		133
310	28×22	9.1		133
311	45×27	19.3		133
312	33×32	15.9		133
313	29×27	15		133
314	40×28	11.9		133
315	30×29	9.3		133
316	34×32	23.4		133
317	28×22	18.8		133
318	33×30	19.7		133
319	35×33	20		133
320	25×24	9.5		133
321	55×32	7.5		133
322	22×22	10.5		133
323	28×27	25.8		133
324	25×21	12.7		133
325	29×29	26.7		133
326	29×20	14.2		133
327	31×30	19.7		133
328	37×21	14.5		133
329	37×37	11		129
330	59×24	23.5		129
331	30×27	13.9		129
332	27×22	14		129
333	23×18	14.1		129
334	39×21	15		129
335	24×24	17.4		129
336	38×26	12		129
337	31×20	26.8		129
338	35×24	10.6		129
339	28×25	11.7		129
340	32×29	18.5		129
341	42×39	28.9		129
342	31×28	16.6		129
343	33×31	19		129
344	30×27	10.5		129
345	18×16	2.7		129
346	37×34	17.5		129
347	24×24	15		129
348	43×28	17.5		129
349	35×27	13		129
350	17×16	11.4		138
351	85×36	20.9		138
352	27×26	12		142
353	22×(19)	8.4		142
354	30×(25)	23		142
355	(30)×(32)	19.2		142
356	(31)×24	13.3		142
357	35×22	12.9		142
358	25×24	27.3		152
359	23×21	9.2		142
360	28×21	8.6		142
361	25×21	7.5		142
362	60×37	13.3		142
363	52×36	8.7		142
364	28×22	14.3		142
365	20×17	9		142
366	30×23	8.2		123
367	60×30	15.7		138
368	44×24	9		138
369	34×25	15.7		138

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
370	21×21	10.1		138
371	29×24	10.6		138
372	46×32	18.2		138
377	28×20	5.7		138
374	22×18	7		138
375	20×18	8.2		138
376	43×40	21.7		138
377	24×19	16.3		138
378	30×29	15.3		138
379	25×23	14.9		138
380	38×28	16.4		138
381	21×20	9.5		138
382	30×22	2.5		138
383	64×21	13.2		138
384	15×15	9.5		138
385	28×18	11.1		138
386	18×15	11.4		138
387	18×18	11.1		124
388	34×33	21.6		124
389	56×19	15.9		124
390	22×20	10		134
391	23×21	14		123
392	45×27	22.9		123
393	61×26	25.7		123
394	22×18	15.1		123
395	55×35	11.8		123
396	56×50	18.3		123
397	21×20	11.6		123
398	25×15	8.2		150
399	44×30	25.9		150
400	(41)×35	21.7		150
401	24×23	27.1		150
402	27×17	7.5		150
403	30×22	17.3		150
404	37×35	11.5		150
405	35×29	12		150
406	28×24	11.5		150
407	43×26	14.2		150
408	30×27	11.6		150
409	45×38	3.7		150
410	41×36	11		150
411	33×32	15.1		150
412	24×24	13.2		153
413	29×25	11.3		153
414	28×24	5.6		153
415	21×19	6.3		153
416	23×19	7.1		153
417	26×25	11.1		153
418	20×18	6.2		153
419	58×40	14.8		153
420	30×26	9.7		153
421	25×22	4.2		153
422	24×24	3.6		153
423	26×24	10.6		153
424	32×30	9.8		153
425	(56)×34	4.8		153
426	32×23	10		153
427	21×20	10.7		153
428	25×23	15		153
429	29×24	6.6		153
430	24×19	10.1		153
431	22×20	17		153
432	27×25	8.1		153
433	29×27	10.2		153
434	23×21	13.4		153
435	26×25	27.1		153
436	28×24	7.1		153
437	29×22	8.7		153
438	25×17	13.7		125
439	27×22	13.6		125
440	36×33	19.9		150
441	31×25	16.2		125
442	33×31	23		125
443	30×29	11		137
444	30×28	13.3		137

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
445	37×35	22.9		137
446	34×32	28.7		137
447	29×27	12.5		137
448	116×41	36.2		137
449	40×30	13.4		137
450	29×25	13.8		137
451	35×35	19.6		137
452	38×37	15.4		137
453	30×26	18.8		137
454	20×19	11.8		137
455	31×26	20.3		137
456	23×22	11.1		137
457	30×26	7.5		137
458	58×37	24.2		137
459	30×26	23.9		137
460	27×24	23.4		137
461	39×35	22.2		137
462	33×30	28.7		137
463	20×20	7.8		137
464	34×30	25.1		137
465	20×19	6.5		137
466	34×32	13.8		137
467	65×60	48.6		137
468	38×38	22.3		137
469	20×19	14.8		137
470	28×26	11.5		137
471	55×55	49		137
472	63×50	40.4		137
473	37×33	18.7		137
474	30×30	13.1		137
475	51×47	21.6		137
476	50×34	14		137
477	48×43	27.1		137
478	24×21	12.1		137
479	30×30	15.8		137
480	57×47	30.5		137
481	34×29	14.8		137
482	28×25	14.8		137
483	60×57	30		137
484	32×27	14.3		137
485	35×34	23.4		137
486	37×34	16.9		137
487	36×26	18.1		137
488	32×27	13.5		137
489	44×29	17.2		137
490	30×29	14.4		137
491	26×25	19.4		137
492	23×23	8.2		137
493	39×35	11.1		137
494	29×21	5.6		137
495	25×22	15.3		137
496	42×37	11.5		137
497	29×25	15.2		137
498	20×19	7.2		137
499	53×46	13.2		137
500	36×35	17.2		150
501	62×39	46.3		150
502	80×46	15.4		150
503	35×31	18.9		150
504	25×22	6		150
505	43×39	25.5		137
506	100×51	25		137
507	62×57	21.4		137
508	23×23	10.4		137
509	29×28	16.3		137
510	32×31	22.2		137
511	31×28	17.6		137
512	26×24	24.2		137
513	23×23	11.7		137
514	23×22	16.3		137
515	26×25	11.9		151
516	25×25	7.6		151
517	50×49	29.4		151
518	56×52	—		151
519	28×26	17		151

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
520	35×30	40.6		151
521	26×25	15.1		151
522	32×31	11.5		151
523	49×30	20		151
524	60×56	26.6		151
525	63×37	21		151
526	95×61	31.1		151
527	30×28	12.2		151
528	28×25	9.8		151
529	25×21	11.6		151
530	26×25	8.2		151
531	24×22	7.9		151
532	28×23	9.3		151
533	32×27	19.5		151
534	40×35	14.7		151
535	36×23	9.6		151
536	32×29	25.3		151
537	28×26	22.2		151
538	24×23	29.7		151
539	25×23	21.8		131
540	25×18	23.7		131
541	25×13	7		131
542	31×31	29.7		131
543	36×31	39.7		131
544	33×26	21.3		131
545	37×31	10.9		131
546	33×31	11.7		131
547	35×35	23.7		131
548	37×36	12.1		131
549	35×32	13.9		131
550	32×29	14.9		131
551	26×24	11.4		131
552	33×32	19.5		131
553	25×24	10.9		131
554	32×22	12.3		131
555	71×43	10.3		131
556	26×25	16.5		131
557	27×22	15.3		131
558	25×23	17		131
559	46×44	17.9		131
560	42×39	22.6		131
561	37×34	26.5		131
562	37×36	19		131
563	42×39	9		131
564	26×22	8.3		131
565	29×27	16.8		131
566	30×28	18.8		139
567	26×24	15.6		139
568	31×27	14.3		139
569	36×35	12.6		139
570	46×38	24.4		139
571	40×36	17.4		139
572	35×31	16.3		139
573	33×29	8.5		139
574	19×18	11.7		139
575	30×26	4.4		139
576	21×20	9.2		139
577	28×25	15.3		139
578	25×24	12.4		139
579	21×20	10.4		139
580	26×25	15.7		139
581	28×25	13		139
582	40×34	17.4		139
583	70×60	29.4		139
584	25×24	21.9		139
585	31×30	13.1		139
586	34×29	11.8		139
587	29×28	25.4		139
588	25×21	19.2		139
589	25×23	14.2		139
590	(45)×35	12.7		139
591	35×27	20.8		139
592	25×23	24.5		139
593	26×25	35		139
594	50×30	—		135

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
595	20×18	0.8		135
596	28×26	17.5		135
597	28×26	15.6		135
598	42×24	4.9		135
599	26×22	45.9		135
600	35×31	12		130
601	24×22	16.3		130
602	40×38	16.7		130
603	33×25	15.2		130
604	26×24	8.5		94
605	38×(30)	13		94
606	28×(26)	10.1		94
607	18×18	10.9		94
608	22×20	13.4		94
609	29×24	27.2		94
610	26×22	26.9		94
611	23×22	18.3		98
612	23×(18)	12.2		98
613	48×(27)	14		98
614	42×(24)	9.6		98
615	38×25	28.2		98
616	38×38	11		94
617	20×20	15.4		94
618	26×22	11.1		94
619	26×24	23.2		98
620	35×32	17.8		98
621	34×32	21.6		98
622	26×26	41.5		98
623	22×20	11.1		98
624	22×20	6.7		98
625	23×20	8.9		98
626	25×22	17.4		98
627	30×27	16.6		98
628	52×42	58.7		98
629	27×24	27.8		98
630	30×26	25.3		98
631	20×18	15.5		98
632	20×20	10.8		98
633	28×22	22.4		98
634	31×30	9.5		98
635	30×30	24.9		98
636	24×22	8.3		98
637	25×25	30.9		98
638	45×42	30.8		98
639	24×23	21.9		98
640	28×28	20.4		98
641	32×27	35.9		98
642	32×30	38.5		100
643	38×32	12.6		100
644	33×28	26.4		100
645	(22)×16	16.1		100
646	28×(24)	27.6		100
647	36×(33)	25.2		100
648	(38)×31	42.6		100
649	26×21	26.3		100
650	34×30	37.1		100
651	28×26	21.1		100
652	38×26	43.5		100
653	26×25	30.8		100
654	22×20	21.4		100
655	20×20	51.2		100
656	30×28	37.3		100
657	28×28	33.1	古銭475	100
658	22×22	16.5		100
659	32×22	8.9		100
660	18×17	9.6		100
661	25×22	8.9		100
662	18×18	5.3		100
663	24×22	6.3		100
664	26×23	19.9		100
665	30×27	22.1		100
666	30×19	10.9		100
667	23×23	27.8		100
668	26×24	22.1		100
669	27×25	11.5		96

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
670	22×20	8.9		96
671	38×32	9.7		96
672	30×10	21.2		96
673	50×(37)	36		96
674	21×18	14.9		96
675	46×44	12.5		96
676	34×30	32.9		96
677	28×27	17.5		96
678	23×19	15.4		96
679	23×18	8.2		96
680	欠番			
681	16×14	13.1		96
682	27×21	28.7		96
683	72×40	36.6		96
684	28×24	31.7		96
685	28×26	13.1		96
686	24×22	21.7		96
687	25×24	33.2		96
688	28×20	10		96
689	27×19	28.2		96
690	30×26	22		97
691	28×23	21.5		97
692	34×21	44.5		97
693	32×22	37		97
694	31×27	54		97
695	30×28	31.3		97
696	27×22	32.6		97
697	28×27	12.9		97
698	26×23	22.2		97
699	28×21	21.4		97
700	29×22	17		97
701	29×28	23.5		94
702	33×26	31		94
703	41×40	34.8		94
704	36×34	28.5		94
705	22×18	8.3		94
706	29×26	14.8		94
707	21×17	14.7		94
708	26×24	16.5		94
709	32×20	35.3		94
710	21×28	15.6		94
711	40×38	39.5		94
712	39×32	22.9		95
713	19×16	23.9		95
714	28×25	16.8		95
715	21×22	16		95
716	54×40	44.8		95
717	26×24	49.8		95
718	34×(12)	15.3		95
719	38×26	29.3		95
720	40×34	40.5		95
721	43×23	20.7		95
722	30×28	7.2		177
723	34×24	10.5		177
724	51×49	11.6		177
725	36×31	16.7		177
726	33×30	0.6		177
727	35×24	10.7		177
728	33×31	18.6		177
729	58×54	21.6		177
730	35×34	8.9		177
731	28×24	8.2		177
732	28×22	10		177
733	30×28	9.7		177
734	34×30	10		177
735	28×20	9.4		177
736	25×22	9.7		177
737	35×30	15.3		177
738	28×28	14		177
739	22×20	24.5		177
740	30×30	24.8		177
741	30×34	16.9		165
742	34×33	21.3		170
743	51×44	17.8		174
744	95×52	29.6		170

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
745	43×33	21.9		170
746	98×60	35.1		179
747	50×33	23		179
748	48×30	13		179
749	48×46	44.5		179
750	30×28	32.5		179
751	33×22	37.9		179
752	22×20	32		179
753	60×40			179
754	28×20	24.6		168
755	24×21	33.4		168
756	20×20	31.2		179
757	31×30	11.5		174
758	39×36	8.3		165
759	49×48	13.1		165
760	37×34	9.8		164
761	49×45	16.4		174
762	25×25	12.2		169
763	21×20	9.7		168
764	28×25	33.2		168
765	56×53	42.7		163
766	A(66×62) B(45×35)		A(160) B(156)	
767	54×52	16.6		156
768	33×30	22.6		173
769	29×26	9.9		173
770	30×28	47.1		173
771	43×40	47.7		173
772	24×21	44.1		173
773	24×21	41.8		173
774	39×24	24		173
775	22×19	10.9		173
776	25×23	39.1		173
777	21×20	14.6		173
778	101×52	39.2		173
779	28×27	13.8		173
780	34×28	14.2		173
781	29×26	50.8		155
782	35×26	42.9		155
783	35×22	59.2		155
784	32×25	43.1		155
785	30×28	50.3		157
786	39×31	38.2		157
787	35×34	44.8		157
788	34×30	7.6		157
789	58×56	36.8		159
790	61×55	43.6		159
791	45×43	28.3		159
792	60×51	31.6		159
793	37×37	9.3		159
794	28×26	16.5		59
795	28×26	22.5		59 60
796	63×62	38.7		59
797	57×48	10.1		59
798	23×23	11.8		59
799	31×29	25.9		59
800	25×25	16.4		59
801	56×54	35.8		59
802	23×22	17.4		59
803	33×29	27.9		59
804	52×47	38.3		59
805	50×43	30.5		59
806	28×18	13.7		47
807	44×38	13.8		47
808	28×18	13.7		47 75
809	40×36	9.3		75
810	25×22	11.5		75
811	26×26	12.8		75
812	22×20	13		75
813	23×21	8.2		75
814	26×24	8.1		75
815	33×29	13.1		75
816	30×30	19.1		75
817	31×28	10.2		75
818	53×44	17.4		75
819	42×40	24.4		75

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
820	27×25	29.2		75
821	38×36	26.9		75
822	36×32	30.3		75
823	29×22	20.6		75
824	68×50	23.5		75
825	59×44	21.7		75
826	33×26	20.1		75
827	26×26	18.6		75
828	36×34	13.6		75
829	40×30	23.2		77
830	32×31	30		77
831	23×22	27		77
832	24×(18)	11.3		77
833	30×30	27.5		77
834	64×45	27.5		77
835	34×33	31.2		77
836	40×36	30		77
837	33×34	23.6		77
838	26×21	36.7		77
839	28×23	14.3		77
840	50×46	19.3		77
841	34×29	16.2		77
842	40×37	23.1		77
843	36×30	22		77
844	24×24	21.8		77
845	69×61	17.3		79
846	32×28	12.6		79
847	28×24	18		76
848	26×24	44		76
849	26×20	22.7		76
850	26×24	26.6		76
851	27×23	28.9		76
852	30×29	37.9		76
853	31×31	39.1		76
854	35×32	32.1		76
855	36×31	30.6		76
856	28×26	23.2		76
857	25×26	15.9		76
858	26×25	16.3		76
859	29×28	12.8		79
860	31×28	37.9		76
861	20×18	9.5		76
862	26×23	14.1		76
863	34×32	16.5		76
864	28×27	29.6		76
865	26×21	23.6		76
866	31×30	20		79
867	32×32	22.7		79
868	42×40	31.5		79
869	35×33	18.5		79
870	34×33	28.5		79
871	28×27	29		79
872	32×31	12.7		79
873	37×34	13.7		79
874	46×43	26.2		64 79
875	25×24	26.1		64 79
876	29×26	21.2		64
877	21×20	10.3		52
878	26×22	13		52 77
879	27×25	8.2		52
880	40×34	11.7		52
881	46×43	10.2		77
882	36×28	13.4		77
883	29×25	11.6		47 52
884	36×30	13.4		52
885	28×25	9.9		52
886	18×18	10		52
887	31×30	12.9		52
888	38×23	13.7		52
889	57×27	4.6		52
890	33×30	19.3		52
891	23×24	18.1		52
892	37×28	19.9		52
893	28×25	7.1		52
894	20×16	18.5		52

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
895	38×28	19.5		52
896	20×18	11.9		52
897	20×19	14.1		52
898	25×22	15.8		52
899	24×20	20.1		52
900	22×20	20.4		52
901	28×24	11		52
902	36×28	15.4		52
903	28×26	54.9		52
904	33×33	29.1		52
905	30×30	22.6		54
906	30×28	12.8		64
907	32×30	25.4		64
908	28×28	29.2		64
909	62×40	21.2		64
910	35×31	30.3		64
911	32×31	23.5		64
912	34×32	37.1		64
913	80×76	24.8		64
914	31×26	11.3		64
915	32×30	29.9		64
916	45×38	17.8		64
917	27×23	14.8		63
918	30×26	20.7		63
919	38×32	29.8		63
920	40×26	30.1		63
921	40×32	13.3		63
922	25×24	28.9		63
923	30×27	23.5		63
924	26×24	21.1		63
925	19×17	14.9		63
926	28×26	20.8		63
927	24×23	15.1		63
928	31×30	30.9		63
929	34×30	24.4		63
930	24×23	16.8		63
931	19×18	15.3		63
932	36×31	7.6		63
933	26×21	12.1		63
934	32×28	41.3		63
935	28×27	15.1		63
936	26×25	24.2		63
937	30×30	31.4		63
938	27×26	14.7		51
939	66×40	41.2		51
940	31×27	21.2		51
941	35×34	30.7		51
942	32×28	17.6		51
943	36×35	43.9		51
944	46×36	9.9		51
945	22×21	21		51
946	34×31	33.6		51
947	63×41	44		51
948	27×26	37.2		51
949	66×61	22.8		51
950	25×24	18.3		51
951	36×34	25.4		51
952	26×26	16.1		51
953	40×35	20.3		51
954	25×22	23.7		51
955	22×21	18.3		50
956	28×24	21.5		50
957	38×37	21.3		50
958	22×22	16.7		50
959	24×24	18.6		50
960	29×26	35.4		50
961	21×20	23.3		50
962	34×30	32.9		50
963	20×14	7.9		50
964	26×22	26.4		50
965	26×20	10.1		50
966	38×34	27.8		50
967	24×24	22.8		50
968	34×33	17		50
969	31×30	31.4		71

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
970	26×20	16.1		71
971	30×28	19.6		71
972	21×20	12.9		50
973	31×30	28.4		50
974	30×26	43.4		50
975	30×30	33.3		60
976	25×24	43.7		60
977	95×83	28		60
978	23×20	8.3		58
979	25×20	30.5		58
980	22×18	14.4		58
981	34×28	38.2		58
982	22×18	18.5		58
983	26×23	28.2		58
984	28×25	31.4		58
985	24×23	30.1		58
986	24×22	12		58
987	24×20	11.3		58
988	30×23	24.6		58
989	32×30	26.5		58
990	35×27	30.8		58
991	30×27	15.5		58
992	33×32	40	58	61
993	31×27	24.6	58	61
994	26×24	33		61
995	28×24	14		61
996	33×32	35.3		61
997	30×26	20.2		61
998	36×36	32.8		61
999	34×28	23.9		61
1000	30×26	17.6		57
1001	34×31	37.2		57
1002	(28)×27	17.3		57
1003	(20)×18	6.5		57
1004	30×26	23.8		57
1005	32×26	25		80
1006	39×36	33.6		61
1007	38×34	24.8		53
1008	40×38	40.6	53	61
1009	32×32	11.1		53
1010	34×32	32.3		53
1011	40×32	43.6	53	61
1012	37×29	32.4	53	61
1013	32×30	30.4	53	61
1014	35×34	26.6		58
1015	41×37	53.3		58
1016	18×16	13.2		58
1017	25×22	13.9		53
1018	(25)×20	15.2		53
1019	24×24	17.4		53
1020	27×22	11.6		53
1021	27×26	23.5		53
1022	27×23	11.6		53
1023	(26)×25	15.5		53
1024	39×36	14.7		53
1025	29×28	16.4	69	80
1026	31×24	9.1	69	80
1027	28×24	9.9	69	80
1028	24×22	8.8	69	80
1029	23×20	9		57
1030	28×(20)	9.9		57
1031	24×(22)	13.4		57
1032	46×46	24		57
1033	44×38	25.1		57
1034	38×30	12.6		57
1035	41×40	18		57
1036	27×26	12.7		57
1037	22×22	7.9		57
1038	28×26	18.4		57
1039	29×22	8	69	80
1040	27×26	12	69	80
1041	23×18	6.5	69	80
1042	26×24	10.8	69	80
1043	23×22	8.2	69	80
1044	46×(34)	11		67

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1045	40×(38)	10.3		67
1046	42×40	10.4		67 73
1047	40×34	10.7		73
1048	34×33	16.5		73
1049	43×33	27.6		73
1050	31×29	14.8		67
1051	37×32	7.8		67
1052	36×30	17		67
1053	31×30	14		67
1054	32×30	20.1		66
1055	28×26	13.9		66
1056	37×36	20.2		66
1057	42×34	12.1		66
1058	58×40	16		66
1059	34×27	7.4		66
1060	31×26	7.4		66
1061	32×30	11.4		66
1062	32×30	10.9		66
1063	33×26	10.6		66
1064	34×27	8.4		66
1065	28×26	9.9		66
1066	28×25	10.7		66
1067	32×29	17.3		66
1068	31×29	9.3		66
1069	30×25	16.8		69
1070	31×28	14.8		69
1071	38×37	22.5		69
1072	44×39	24.4		66
1073	44×40	17.3		66
1074	29×25	8.7		66
1075	50×42	31.1		66
1076	49×46	33.5		66
1077	46×44	30.8		69
1078	48×46	25.2		69
1079	62×50	14.3		66
1080	45×42	23.6		66
1081	59×49	22.1		66
1082	72×68	13.9	56	66
1083	49×48	21.8		57
1084	42×37	12.1		57
1085	(44)×40	17.7		56
1086	51×45	20.2		56
1087	41×36	17.5		56
1088	26×24	7.2		56
1089	31×29	11.2		57
1090	27×20	10.6		66
1091	24×24	10.8		66
1092	32×30	25.3		66
1093	22×18	8.9		69
1094	28×26	7.8		69
1095	24×22	13.2		69
1096	26×24	13.7		66
1097	32×30	13		66
1098	38×34	9.5		66
1099	43×31	9.3		66
1100	34×31	10.4		66
1101	43×41	8.7		66
1102	56×50	25.9	56	66
1103	52×35	11.5		56
1104	23×21	8.3		56
1105	38×(36)	20.6		56
1106	43×32	28.3		56
1107	32×30	19.8		66
1108	46×42	14.9		66
1109	47×41	14.1		66
1110	43×30	11		66
1111	53×49	20.8		66
1112	38×32	29.1		78
1113	48×44	20.8		78
1114	38×36	21.6		78
1115	48×45	27.4		78
1116	42×38	21.9		78
1117	40×40	30.6		78
1118	32×31	24.9		78
1119	33×33	24		78



番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1120	40×38	15.6		65 74
1121	34×29	10.5		65 74
1122	24×22	—		65
1123	21×19	—		74
1124	35×34	44.5		182
1125	34×30	28.1		182
1126	32×29	28.1		70
1127	34×34	35.5		70
1128	42×32	37.5		70
1129	38×37	25.7		70
1130	48×42	20.5		70
1131	40×38	37.4		70
1132	34×32	33		56
1133	38×30	22.9		56
1134	36×32	22.9		56
1135	39×34	20.8		56
1136	30×27	6.4		56
1137	26×25	8.6		56
1138	44×40	8.7		56
1139	29×24	8.9		66
1140	50×42	33.2		66
1141	38×32	11.8		78
1142	36×28	13.4		78
1143	32×30	11.2		78
1144	37×37	12.1		78
1145	34×38	10.7		78
1146	42×42	33.5		78
1147	23×22	21.5		78
1148	29×28	12.3		78
1149	26×24	22		65 78
1150	29×23	18.2		70 78
1151	28×27	18.3		78
1152	58×46	19.7		70 78
1153	34×32	10.4		78
1154	48×45	10.9		78
1155	50×48	18.3		56
1156	54×50	25.7		56
1157	44×40	26.1		56
1158	29×26	22.1		56
1159	43×41	14.4		56
1160	29×22	11.9		56
1161	30×24	14.9		56
1162	41×36	29		56
1163	34×30	26.2		56
1164	23×18	9.1		56
1165	38×33	26.6		56
1166	48×40	8.4		56
1167	42×32	17.1		56
1168	(30)×24	6.8		56
1169	35×34	23.5		56
1170	38×32	11.1		56
1171	40×38	13.3		56
1172	32×29	12.7		56
1173	36×33	13.3		56
1174	33×28	14		70
1175	32×31	28.3		70
1176	42×36	8.2		70
1177	27×24	12.8		70
1178	30×30	31		70
1179	34×30	29.5		70
1180	32×27	9.9		70
1181	62×44	33.7		70
1182	41×40	10.1		70
1183	38×32	18.2		70
1184	46×35	26		70
1185	52×42	18.1		70
1186	43×36	33.7		70
1187	28×26	29.1		70
1188	30×20	19.5		70
1189	36×35	35		70
1190	27×20	10.6		66
1191	24×24	10.8		66 70
1192	31×29	29.6		70
1193	34×32	25.7		70
1194	21×21	22.5		70

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1195	25×20	14		70
1196	35×35	29		70
1197	32×29	36.2		70
1198	22×20	14.9		70
1199	25×23	9.5		70
1200	30×29	9.2		70
1201	30×27	7.7		70
1202	28×26	15.1		70
1203	38×35	33.9		182
1204	26×24	18.8		182
1205	24×24	19.3		182
1206	38×36	30.6		182
1207	23×22	—		182
1208	27×26	14.8		182
1209	25×25	10.5		182
1210	26×26	21.8		182
1211	25×23	29.8		182
1212	26×24	22.9		182
1213	58×50	43.4		182
1214	55×56	36.2		182
1215	61×56	48.3		182
1216	48×48	38.5		182
1217	54×52	43.8		182
1218	53×57	42.2		182
1219	80×66	40.9		182
1220	53×53	36.5		182
1221	53×52	36.5		182
1222	23×20	—		65
1223	26×23	3.2		65
1224	24×22	6.1		65
1225	—	—		—
1226	—	—		—
1227	—	—		—
1228	22×19	30		65
1229	21×21	13.5		65
1230	39×34	17.8		65
1231	22×22	24.1		65
1232	26×24	23.4		65
1233	31×28	22.9		65
1234	34×30	23.6		65
1235	25×23	21.8		65
1236	35×26	9.4		65
1237	29×26	14.9		65
1238	33×31	22.3		65
1239	40×35	14.6		65
1240	26×20	15.8		74
1241	22×20	7.3		74
1242	55×48	21.9		74
1243	49×45	23.3		74
1244	36×30	50.1		74
1245	33×24	6.5		74
1246	39×37	6.9		74
1247	25×24	5.3		74
1248	21×20	6.1		74
1249	29×29	7.5		74
1250	33×28	5.4		74
1251	32×24	10.6		74
1252	24×22	12.7		74
1253	35×32	18.5		74
1254	25×22	9.3		184
1255	59×54	40		184
1256	69×62	35.7		184
1257	58×52	19.3		183 184
1258	62×56	27.1		183 184
1259	62×60	17.6		184
1260	63×62	32		184
1261	53×54	20.7		184
1262	50×47	22.3		184
1263	62×58	20.9		184
1264	60×52	20.2		184
1265	56×50	22.3		184
1266	58×54	21.5		184
1267	77×69	39.4		186
1268	67×62	—		81
1269	63×52	21.3		185

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1270	78×78	15.1	183	185
1271	78×69	42.6		185
1272	72×61	20.8		185
1273	65×53	12.3		185
1274	58×54	13.9		185
1275	72×58	28.1		183
1276	60×59	23.8		185
1277	50×47	35.8		183
1278	22×20	8.5		185
1279	22×22	17.1		185
1280	37×36	21.5		185
1281	31×28	19.2		185
1282	24×22	13.1		185
1283	60×56	12.7		185
1284	26×26	20.7	81	185
1285	26×23	20.8		183
1286	27×24	16.1		184
1287	30×(26)	18.5		184
1288	26×(22)	15.5		184
1289	30×29	18.2		183
1290	28×26	10		184
1291	25×23	5.8	184	185
1292	22×20	13.2		186
1293	62×60	14.2		184
1294	44×42	14.1		186
1295	41×39	14.8		186
1296	44×26	18.4		186
1297	52×42	8.2		186
1298	32×29	20.7		81
1299	42×33	17.7		81
1300	38×36	23.2		81
1301	40×38	26.5		81
1302	28×25	28.7		81
1303	32×29	28		81
1304	28×26	13.7		81
1305	21×20	12.2		81
1306	34×30	19		81
1307	29×25	21		81
1308	32×27	24.3		81
1309	30×30	26		81
1310	22×20	21.5		81
1311	22×22	15		81
1312	20×18	18.8		81
1313	24×22	13.4		181
1314	19×17	9.1		181
1315	52×36	15.2		181
1316	23×22	12		181
1317	26×24	25.9		181
1318	21×20	22.6		185
1319	27×26	9.9		185
1320	50×48	32.8		185
1321	52×30	13.5		185
1322	38×36	27.5		185
1323	62×58	38.7		68 78
1324	24×22	27.3		68 78
1325	28×24	5.6		68
1326	24×23	9.5		78
1327	43×40	16.7		78
1328	32×30	7.4		78
1329	25×23	28.2		78
1330	28×22	9.5		78
1331	31×28	11.8		78
1332	21×18	24.6		68
1333	35×35	29.6		68
1334	19×17	8.8		68
1335	17×16	10.8		68
1336	26×22	16.3		68
1337	56×52	19.5		68
1338	29×25	16.3		68
1339	30×28	10.3		68
1340	32×30	12.6		68
1341	25×24	8.3		68
1342	21×12	15.1		68
1343	21×19	7.7		68
1344	30×24	11.6		68

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1345	48×46	29.2		68
1346	54×58	58.9		68
1347	22×21	9.6		49
1348	26×24	18.5		49
1349	30×30	13.1		49
1350	40×40	19.8		49
1351	31×33	—		49
1352	50×37	13		49
1353	37×32	4.4		49
1354	29×25	10		49
1355	26×23	15.5		49
1356	27×26	15.6	49 71	49
1357	28×27	15.2		49
1358	28×28	14.5		49
1359	50×41	12.9		49
1360	32×28	16.8		49
1361	23×22	7.8		49
1362	43×38	22		49
1363	29×27	6.4		49
1364	26×24	19.9		49
1365	22×21	—		49
1366	29×25	19.6	49 72	49
1367	29×27	9.9		72
1368	36×30	16.3		72
1369	28×23	10.6		72
1370	22×19	16.4		72
1371	36×32	10.5		72
1372	38×35	26.6		48
1373	32×30	15.3		48
1374	28×21	8.5		55
1375	33×28	24.6		55
1376	30×29	20.1		55
1377	38×30	13.2		55
1378	34×(24)	26.6		55
1379	25×(15)	21.1		55
1380	25×24	19.3		54
1381	30×26	19.5		54
1382	20×18	8.4		54
1383	26×25	18.1		54
1384	32×30	14.6		54
1385	33×28	10.8		54
1386	34×30	17.6		54
1387	26×24	18.6		54
1388	23×22	7.2		62
1389	28×27	32.1		62
1390	30×30	13.8		62
1391	34×32	28.5		62
1392	30×28	29.7		62
1393	19×19	19.7		62
1394	24×24	5.2		62
1395	23×24	6.3		62
1396	40×40	41		62
1397	27×26	21.7		62
1398	30×28	13.8		62
1399	34×32	28		62
1400	21×20	20.8		62
1401	33×28	41.9		62
1402	26×24	20.5		62
1403	36×32	42.6		62
1404	33×29	14.3		62
1405	42×30	37.1		62
1406	30×28	27.8		62
1407	32×30	20.8		62
1408	31×31	29.5		62
1409	42×40	37.9		62
1410	32×30	39.7		62
1411	28×28	31		62
1412	31×25	31.2		62
1413	28×26	36.6		62
1414	26×25	20.1		62
1415	34×33	21.1		62
1416	36×32	16.9		62
1417	35×28	17.1		62
1418	21×20	18.1		62
1419	33×(24)	13.2		62

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1420	48×40	9.2		45
1421	40×31	14		38
1422	76×53	28.9		24
1423	40×38	51.9		24
1424	40×35	39.1		24
1425	45×42	37.9		24
1426	38×37	64.6		25
1427	34×32	33.2		25
1428	95×39	47.5		24
1429	36×35	30.1		24
1430	27×23	12.4		24
1431	45×40	26.5		24
1432	43×41	33.4		24
1433	35×30	9.7		24
1434	46×44	17.3		24
1435	30×29	30.9		25
1436	54×(36)	33.1		25
1437	31×28	14.9		25
1438	45×40	29.7		25
1439	46×41	36.8		25
1440	36×35	22.1		25
1441	59×(52)	45.2		25
1442	34×(29)	6.5		25
1443	46×43	24.4		25
1444	32×30	23.5		25
1445	31×23	19.1		25
1446	48×40	39.4		25
1447	32×29	17.4		25
1448	65×64	27.9		25
1449	36×33	30.7		25
1450	46×36	19.6		25
1451	53×50	61.2		25
1452	39×36	27.8		25
1453	47×45	42.2		25
1454	25×22	20.4		25
1455	26×22	20.7		25
1456	44×44	58.9		23
1457	46×41	39.6		23
1458	40×32	26		23
1459	41×38	24.8		23
1460	36×34	48		23
1461	53×47	30.1		23
1462	68×67	20.4		23
1463	48×43	18.2		23
1464	25×22	37.4		23
1465	39×22	34.9		23
1466	50×47	46.3		23
1467	45×41	46.1		23
1468	34×32	31.7		23
1469	33×29	14.9		23
1470	49×45	22.5		23
1471	27×26	30.2		22
1472	39×37	19.2		22
1473	25×23	9.4		22
1474	89×87	40.4		22
1475	28×25	13.5		22
1476	28×28	19.4		26
1477	36×29	21.9		20
1478	22×22	19.5		20
1479	33×26	47.4		20
1480	38×21	33.2		20
1481	27×25	28.3		20
1482	30×27	24.1		20
1483	45×36	16.4		20
1484	40×34	72.5		20
1485	30×12	35.8		20
1486	40×36	52.4	20 25	20 25
1487	33×30	30.7	20 25	20 25
1488	37×33	8.1		25
1489	42×40	43.4		25
1490	(39)×29	49		37
1491	30×22	13.3		27
1492	33×(17)	15.1		27
1493	35×(25)	6.7		27
1494	23×23	7.8		27

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1495	21×17	8.5		27
1496	39×27	39.9		27
1497	33×32	40.6		27
1498	34×27	16.9		40
1499	26×25	16.5		40
1500	36×24	14.3		40
1501	27×22	19.2		40
1502	29×27	23.1		40
1503	50×34	—		28
1504	23×21	20.8		28
1505	40×28	22.8		28
1506	33×23	14.1		28
1507	34×28	34.2		35
1508	29×28	24.4		17
1509	37×25	18.9		17
1510	52×47	27.8		17
1511	26×23	12.7		17
1512	43×37	31.9		26
1513	26×24	16		12
1514	25×21	23.5		12
1515	26×26	11.5		12
1516	34×26	11		12
1517	27×23	9.4		12
1518	32×(32)	9		16
1519	50×32	9		16
1520	25×24	10.5		16
1521	45×44	9.4		16
1522	51×50	12.5		16
1523	39×20	14.6		16
1524	38×28	20.2		16
1525	41×40	27.2		16
1526	53×46	41.7		16
1527	59×44	32.7		16
1528	42×37	37.2		13
1529	43×41	22.1		13
1530	42×41	50.4		13
1531	22×18	—		13
1532	22×17	—		13
1533	35×28	28.5		13
1534	36×25	9.9		13
1535	32×28	5.8		13
1536	35×30	21.7		13
1537	34×32	7.9		13
1538	44×34	25.4		13
1539	45×42	20.2		13
1540	27×27	15.2		13
1541	44×44	34		4
1542	39×35	17.7		4
1543	47×46	34.6		4
1544	60×56	29		4
1545	25×25	32.9		4
1546	49×45	32		4
1547	30×27	24.6		4
1548	43×34	30.4		4
1549	26×20	7.7		4
1550	30×21	12.3		4
1551	33×32	5.9		
1552	40×35	18.7		4
1553	43×34	36.4		4 14
1554	38×30	20.9		4 14
1555	37×34	14.9		4 14
1556	38×35	23.4		4
1557	27×23	13.1		4 15
1558	29×24	15.8		4 15
1559	55×50	46.4		15
1560	48×33	12.8		15
1561	23×(23)	22.6		15
1562	(35)×26	19.8		15
1563	59×50	10.4		15
1564	40×27	19.5		15
1565	22×18	12		15
1566	34×34	7.6		15
1567	33×28	38		14 15
1568	39×(26)	23.5		14 15
1569	21×20	5.4		14 15

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1570	35×34	12.3		14
1571	45×45	37		14
1572	51×30	4.7		14
1573	37×35	15.9		21
1574	41×38	20.3		21
1575	55×45	22		21
1576	55×54	21.4	5 42	
1577	27×24	21.4		5
1578	22×22	16.8		5
1579	21×18	4		4
1580	44×43	29.4		6
1581	50×50	39.1		4
1582	60×40	43.7		4
1583	41×35	14.9		4
1584	47×37	29.6		4
1585	41×27	5.3		3
1586	50×38	19.2		3
1587	44×43	14.2		3
1588	28×23	19.8		3
1589	44×34	25.2		3
1590	32×26	39.6		8
1591	52×44	29.2		5
1592	40×39	16.3		5
1593	70×61	29.5		5
1594	50×(26)	17.9		5
1595	50×49	38.2		5
1596	41×(32)	30.3		5
1597	47×43	19.1		5
1598	33×28	21.4		5
1599	24×20	33.8		35
1600	42×40	33.9		5
1601	35×34	22.7	5 42	
1602	50×45	22.8	5 42	
1603	31×30	15.3		21
1604	(42)×36	10.5		21
1605	35×32	11.5		21
1606	48×43	31		5
1607	39×38	23.8		5
1608	35×33	16.3		5
1609	36×35	14.3		5
1610	25×23	9		5
1611	31×29	23.8		5
1612	39×37	15.4		5
1613	35×34	9.4		5
1614	55×50	35		5
1615	47×43	23.1		5
1616	44×37	30.1		5
1617	45×26	22.1		5
1618	28×21	13.7		5
1619	47×38	26.2		5
1620	39×36	14.1		5
1621	41×40	20.9		5
1622	44×36	3.4		5
1623	41×35	19.3		5
1624	49×48	21.5		5
1625	36×32	22.2		5
1626	34×30	19.8		5
1627	48×40	14.6		5
1628	30×27	20.5		5
1629	39×29	18.7		5
1630	87×86	9.9		3
1631	22×18	15.3		4
1632	40×32	39.7		4
1633	37×(23)	13		4
1634	40×39	9.8		3
1635	40×32	8.3		5
1636	29×(16)	4.2		6
1637	24×24	13.5		6
1638	48×44	14.7		6
1639	39×36	11.9		6
1640	35×34	17.1		3
1641	39×28	19.8		3
1642	47×42	41.8		3

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1643	26×22	5.3		3
1644	28×21	5.8		3
1645	64×60	21.1		8
1646	23×22	14.7		8
1647	52×45	27.8		8
1648	40×29	28.8		8
1649	41×41	30.1		8
1650	42×41	11.6		8
1651	35×26	26.7		3
1652	26×23	16.3		3
1653	25×23	19.2		3
1654	27×25	22.6		3
1655	28×28	18.2		3
1656	28×26	23.4		3
1657	22×21	15.7		3
1658	35×35	16		3
1659	31×26	17.6		3
1660	29×23	25		3
1661	81×67	10.5		3
1662	69×61	10.6		3
1663	42×31	28.4		9
1664	59×44	37.3		9
1665	60×48	30.5		29
1666	40×37	9.7		29
1667	26×21	8.4		29
1668	41×34	3.2		29
1669	46×32	15.5		29
1670	46×45	16.8		36
1671	40×34	36.8		39
1672	30×24	19.2		31
1673	30×26	7.2		31
1674	36×27	32.9		31
1675	19×15	18.8		87
1676	21×21	9.4		87
1677	31×28	31.4		87
1678	27×26	20.5		87
1679	23×29	10		87
1680	19×18	12.1		87
1681	21×21	9.7		87
1682	26×20	17.4		87
1683	53×37	43.2		87
1684	28×24	17.4		87
1685	40×36	33.1		87
1686	28×25	19.2		87
1687	49×44	54.2		87
1688	21×19	13.6		87
1689	23×22	22.1		87
1690	20×18	8.9		87
1691	26×24	15.7		87
1692	28×24	17		87
1693	24×22	13		87
1694	23×21	14.3		87
1695	29×22	15.4		90
1696	30×28	18.4		90
1697	24×18	15.8		90
1698	29×29	22.7		86
1699	26×25	10.8		86
1700	26×25	23.4		90
1701	40×36	23.5		90
1702	46×44	11.7		90
1703	23×20	24.2		90
1704	28×24	31.1		90
1705	18×16	20.7		90
1706	30×22	13.9		90
1707	25×18	17.3		90
1708	49×41	19.7		90
1709	34×32	25.5		90
1710	32×29	27.9		90
1711	28×25	28.4		90
1712	30×26	16.7		90
1713	18×15	8.5		90
1714	24×19	16.8		90
1715	18×16	14.1		90

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1716	27×24	17.2		90
1717	28×24	20.1		90
1718	61×38	36.5		82
1719	25×22	12.4		82
1720	25×21	33.5		82
1721	33×28	14.7		82
1722	38×24	4.6		82
1723	64×44	18.7		89
1724	36×29	9.6		89
1725	33×29	14		89
1726	27×25	4.5		89
1727	43×43	15.1		89
1728	33×30	11		89
1729	43×24	24.9		89
1730	27×(22)	8.3		93
1731	50×47	25.2		85
1732	37×37	16.1		85
1733	27×26	12.7		85
1734	32×27	10.8		85
1735	27×25	9.1		85
1736	25×25	24.7		85
1737	40×35	21.4		84
1738	30×22	25		23
1739				
1740				
1741				
1742				
1743				
1744				
1745				
1746				
1747	55×22	14.6		23
1748	30×22	25		23
1749				
1750				
1751				
1752				
1753				
1754				
1755				
1756				
1757				
1758				
1759				
1760				
1761	45×43	28.5		15
1762	42×37	41.8		15
1763	73×68	56.9		15
1764	45×43	37.6		15
1665	45×42	37.4		15
1766	55×53	47.9		15
1767				
1768	156×114	67.6		15
1769	41×37	35.9		15
1770	69×66	10.5		15
1771	47×40	40.8		15
1772	52×51	38.4		15
1773	42×49	26.8		15
1774	81×79	53.1		15
1775	55×38	28.1		15
1776	68×53	55.3		33
1777	54×26	25.2		33
1778	43×42	—		33
1779	56×54	—		33
1780	30×22	—		33
1781	30×25	—		33
1782	43×40	—		33
1783	66×44	25.5		70
1784	25×19	17.5		61
1785	45×32	21.4		49
1786	44×32	33.2		72

## 10 出土遺物

### (1) 土師器・須恵器

遺構内外含めてコンテナ約35箱(42×32×30cm)の土師器、須恵器が出土した。今回の26次調査では68棟もの古代の竪穴住居跡が検出され、大半の土師器・須恵器はここから出土したものが殆どである。なお、台太郎遺跡全体では古代の竪穴住居跡が400棟以上存在すると予想されることから、遺跡のどこを掘っても土師器、須恵器が出土し、時代の異なる中・近世の遺構などにも入っている。掲載した416点は、その中から遺構に伴っていると判断したものを優先し、次に遺構廃絶後に捨てられた、或いは流れ込んだと思われるものを若干掲載した。不本意ながら平安時代の竪穴住居跡出土の土師器・須恵器については他の竪穴住居跡及び別の遺構との重複関係があるものが多く、厳密に遺構に伴っている遺物を示せないものが多かった。

各遺構の項では出土個体数(口縁部及び底部破片から求めた推定個体数)と出土状況・共伴関係などに触れ、また遺物観察表を作成し法量・器面調整・焼成などを、Vまとめでは簡単な形態分類と大まかな年代観を記載したので、ここでは代表的な遺物の特徴のみを記述したい。

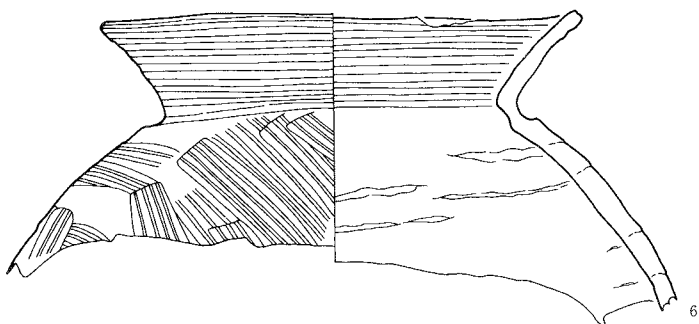
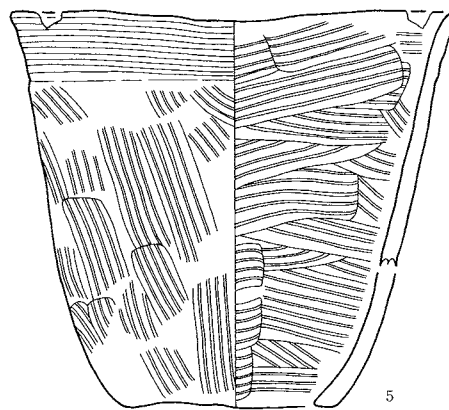
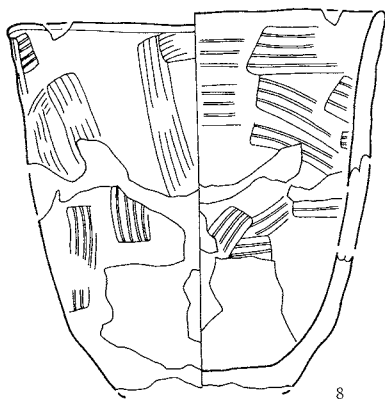
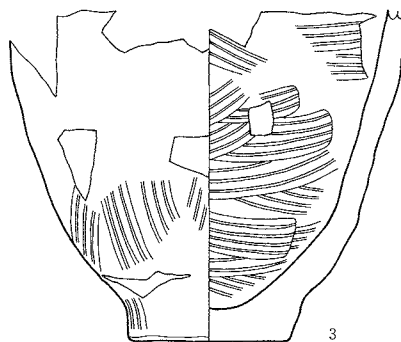
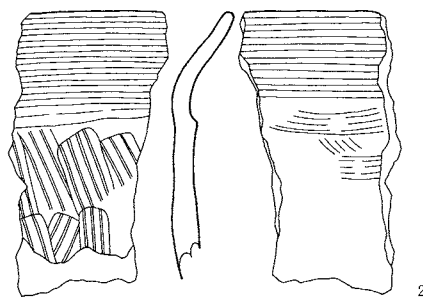
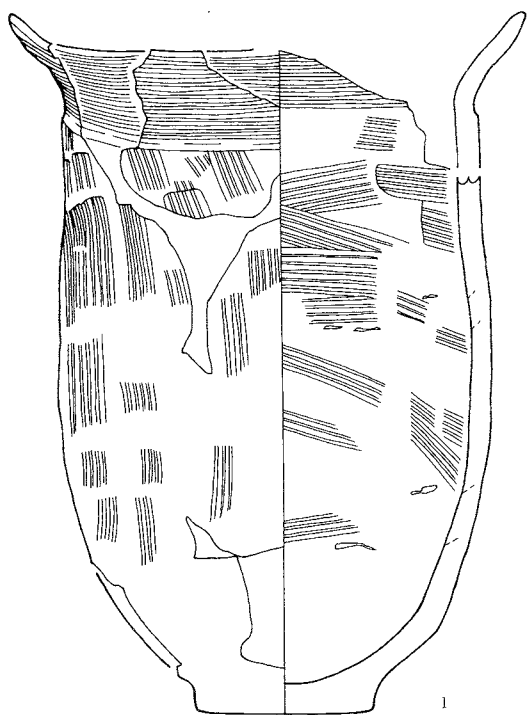
#### <古墳時代末～奈良時代> (第150～163図、写真図版132～144・165・166)

1の土師器甕は口唇部が丸く、底部から体部下端が少しだけ突出している。土師器甕で体部下端がやや突出するものとしては他に3・10・105があり、今回の26次調査ではそれほど多く出土しなかった。7の土師器坏は口縁部と体部の境界外面に浅い沈線が見られ底部は平底となっている。土師器坏で平底となるものには8・26・33・34・59・66・91・100などがある。8の土師器坏などは破片であるが碗のような器形となりそうである。143は小型の高坏でつくりは粗末である。17は他孔式の甑である。小型なのは特別な用途に使われたからであろうか。19は大型の土師器坏である。底部から内湾気味に立ち上がっており、外面には口縁と体部の境界に浅い段を持ち、体部から底部は不明瞭ながらヘラケズリを施しているようである。大型の土師器坏は他に73がある。21土師器坏は口縁部が外反し、体部境界の内外面に段が付く。23土師器甕は胴部の最大径が中央部付近に求められる。24土師器甕の口唇部は角張り浅く窪む。26の土師器坏には口縁部と体部の境界に段や沈線が見られない。同様の坏は他に8・33・90・100がある。27土師器坏では口縁と体部境の内外面に段が付く。口縁部はやや内湾している。29土師器球胴甕の口縁部には縦縞状に赤色塗彩されている。恐らく胴部にも塗彩されていたと考えられるが既に取れてしまったようである。赤色塗彩された球胴甕は他に112があり、坏では412がある。35は土師器高坏で口縁部は緩やかに内湾し、脚部を欠く。口縁部と体部との境には外面にのみ段が見られる。37は土師器壺の胴部と思われる。39甕は底部が少しだけ横に張り出している。口唇部断面が角張って浅く窪む。40・42の甕も同様に口唇部が角張っている。44～48の土師器坏は口縁部と体部の境界に外面のみ沈線もしくは段が施されている。49坏では底面に線刻で「×」と見られる。同じく54の坏にも線刻「×」が施される。50土師器甕の口縁部には複数の段が施されている。同じような特徴を有する甕は38・82・102・103・399などがある。53の土師器甕は口縁部の外反が強い。57の甕には口縁部と体部境が判然としない。67の土師器坏には体部に段が複数施される。同様の特徴をもつ坏には47・69・54・390が出土している。69土師器坏は内外面に黒色処理とヘラミガキを施し、底部から内湾して立ち上がっている。73は大型の坏で口縁と体部境の外面には段を内面には陵を持つ。口縁部は直立気味に立ち上がっている。74は高坏で脚部が75となると思われる。76は土師器の壺で口縁部のみが欠損した状態で出土している。84の球胴甕は他の個体と異なり口縁部が外反せず、直立して立ち上がっており、口唇部の断面はやや丸

味を帯びている。89土師器甕の口縁部は幅が短く外反が強い。94の甕の口唇部断面はやや丸味がある。95の土師器甕も同様の特徴をもつ上に、口唇部内側に浅い沈線が巡っている。97の球胴甕は胴部下半に最大径を持つ下膨れの器形を呈する。109は土師器壺の口縁部であろう。112の球胴甕にも赤色塗彩が施されており胴部に格子目状に塗られていたようである。

#### <平安時代> (第164~190図、写真図版145~164・167~176)

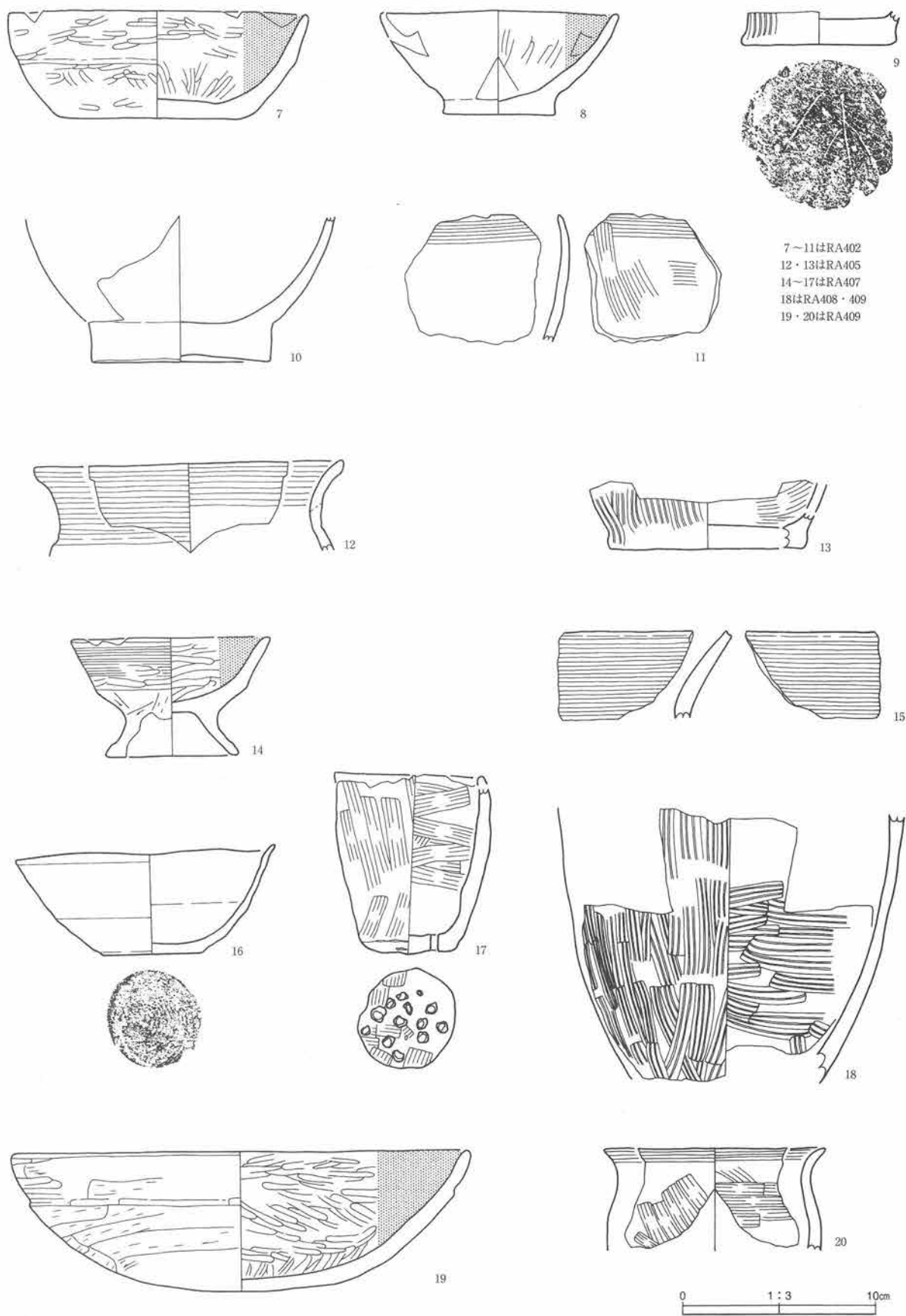
117坏には墨書が見られる。121土師器高台付坏には底部に菊花状のなでつけが施される。124には内面に黒色処理が施されており器種は鉢になるかもしれない。R A 312では土師器が少ない。出土した赤焼き坏125~135は口縁部の外反するもの(126~131・134)と外反しないもの(125・132・133・135)とがある。同住居の須恵器坏137~143では口縁部があまり外反しないものが多く底径も大きくはない。146~148甕の口縁部は短く、外反もやや弱い。R A 399より出土した土師器坏の中で164~166には底部に再調整が施される。口縁部は何れも若干外反する程度である。同じく赤焼き坏169~172でも口縁部は若干外反する程度である。甕180~183の口縁部は短く外反も弱い。189の土師器は口縁部の歪みが大きい甕になるかもしれない。R A 401出土の坏(192・194~200)は底部糸切りのもののみで構成されている。口縁部はやや外反するものと、外反しないものとが混在してある。甕類(201~208)は非ロクロとロクロ整形のものがある。207甕の口縁端部は上方に挽き出されている。227土師器坏の底部には再調整が施されている。228土師器坏も摩耗しているが再調整の可能性がある。R A 408から出土した土師器高台付坏の口唇部は強く外反している。その一方で須恵器231~230の口縁部はそれほど外反しない。242は須恵器大甕で底部は丸味を帯びる。246は単孔式の甗であるが一緒に使ったであろう甕が見つからなかった。R A 413から出土した坏(247~252)では口縁部が幾分外反するものが主体を占めている。256の土師器甕は口縁部が強く外反している。261甕の口縁端部は短く上方に挽き出されている。R A 415の坏(263~273)には底部回転糸切りで無調整、口縁部の外反は顕著ではない。この中で土師器坏263~265は共伴している。同様に土師器甕(274~277)の口縁部も短く、あまり外反しない。284土師器坏では底部付近を再調整している。288土師器甕の口縁部は幅が短く、底径が口径に対して大きい。R A 424から出土した土師器坏301・302も底部付近を再調整しており口縁部は外反しない。R A 430出土の坏(312~320)には底部再調整を施したものはなく、口縁部の外反も弱いものが多い。土師器甕326・328のように短い口縁部をもつものが出土している。R A 431から出土した坏(338~348)は口縁部が若干外反するもの(339・342・345)がある。341・344赤焼き坏などは他と比べ小振り器高も低い。338の土師器坏は大型で底面に再調整が見られる。R A 437から出土した土師器甕も器形全てを知る資料はない。R A 437には土師器甕の口縁部が外反するもの(364・365)と直立気味に立ち上がるもの(362・366)とがある。R E 049から出土した土師器高台付坏は口縁部の外反が強い。R G 320は平安時代から近世の捨て場であったようである。ここから出土した土師器・須恵器は時期幅があると思われる。



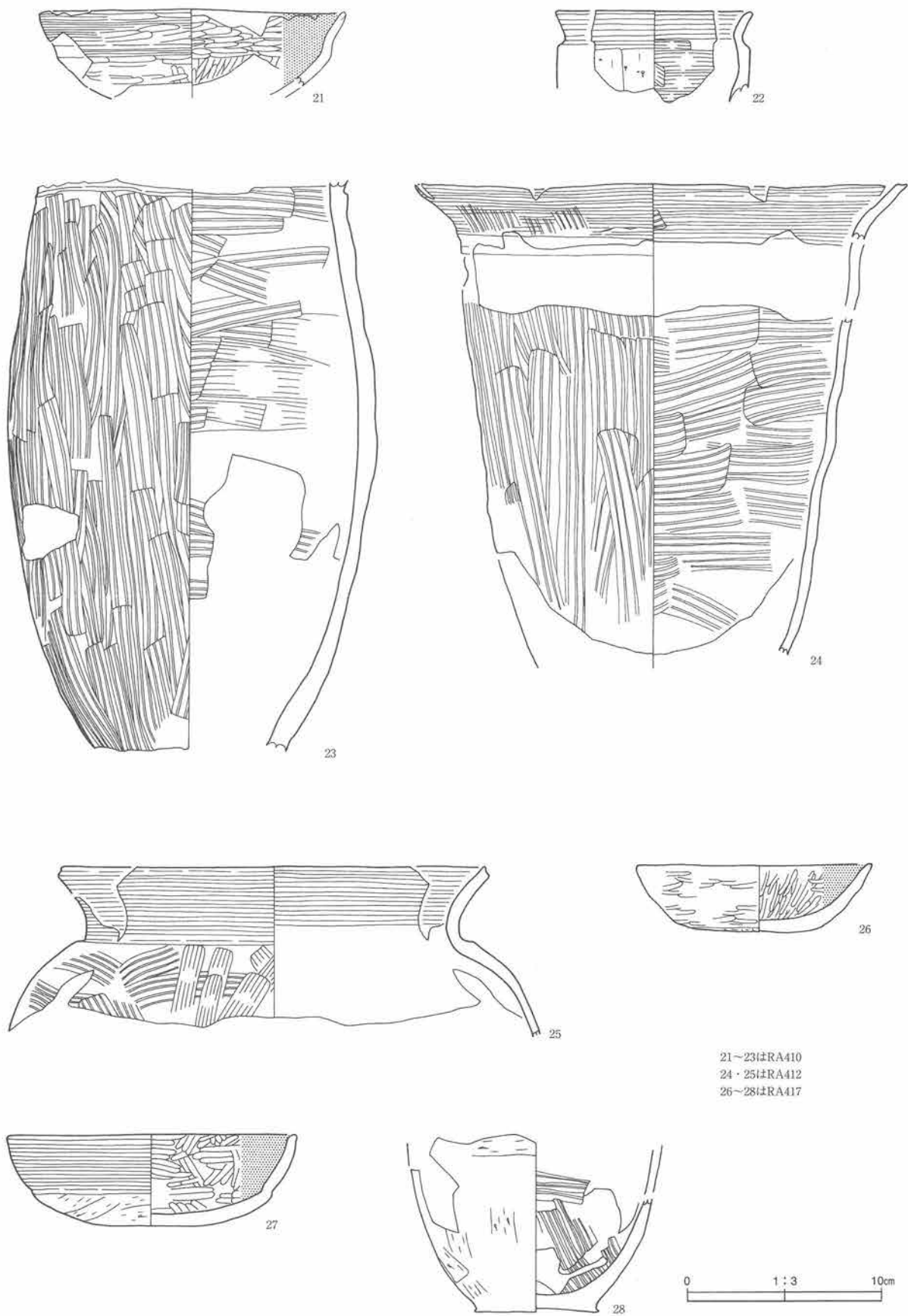
1~6はRA210

0 1:3 10cm

第150図 土師器・須恵器 (1)



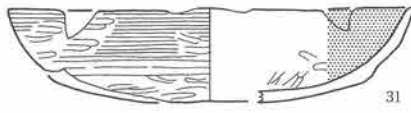
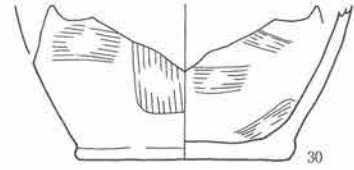
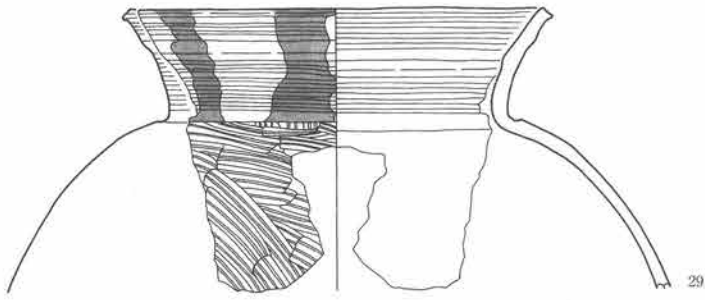
第151図 土師器・須恵器（2）



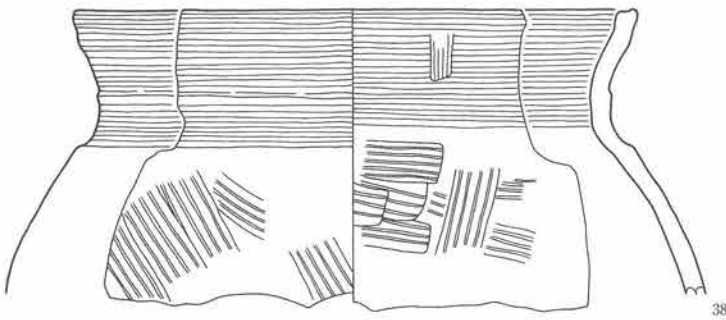
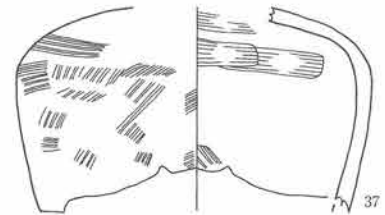
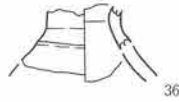
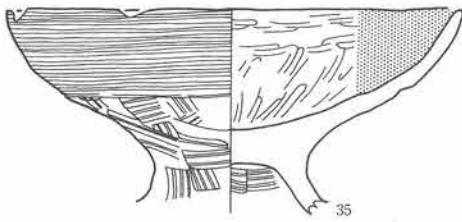
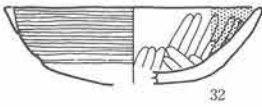
21~23はRA410  
 24・25はRA412  
 26~28はRA417

第152図 土師器・須恵器（3）



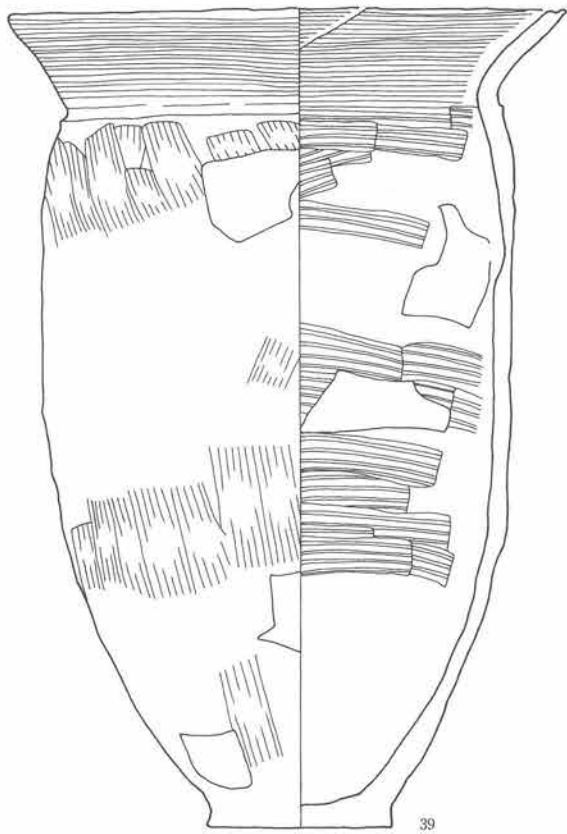


29・30はRA418  
31はRA439  
32～38はRA441

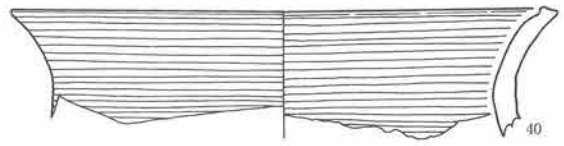


0 1:3 10cm

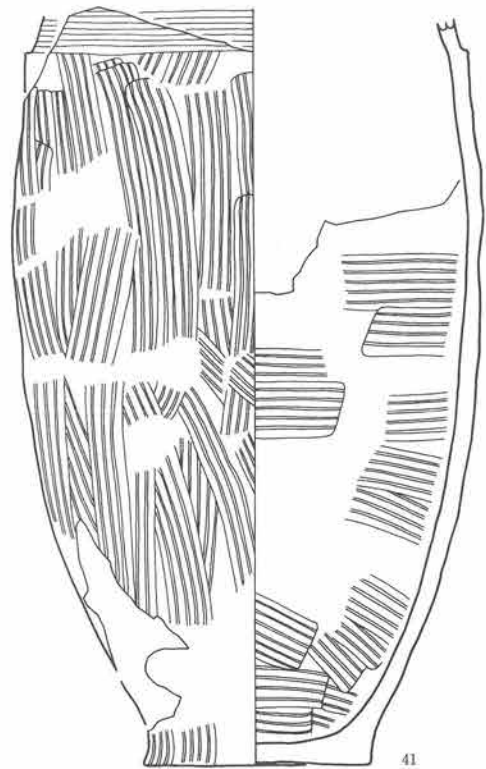
第153図 土師器・須恵器（4）



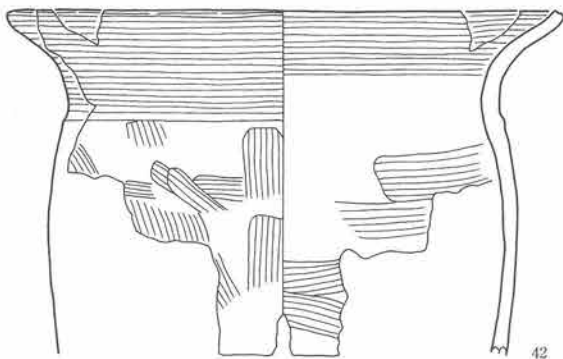
39



40

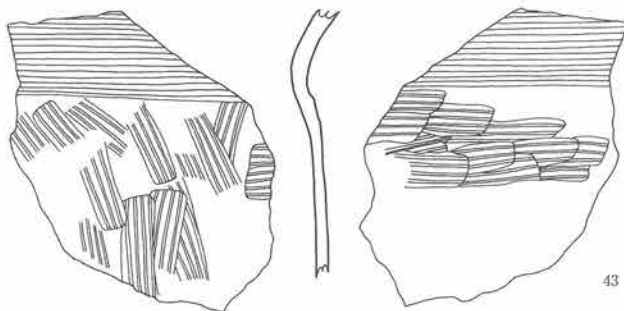


41



42

39~43はRA441



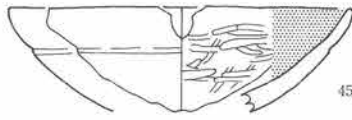
43

0 1:3 10cm

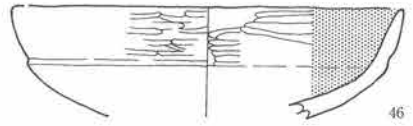
第154図 土師器・須恵器 (5)



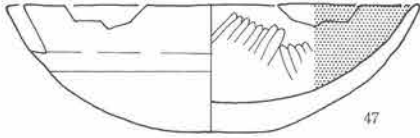
44



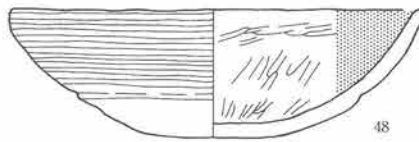
45



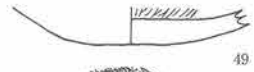
46



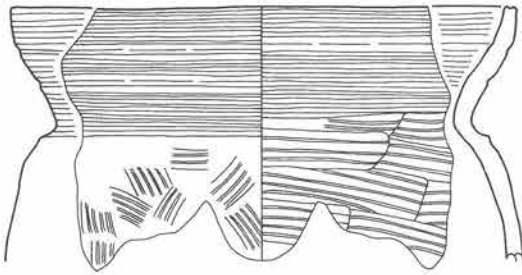
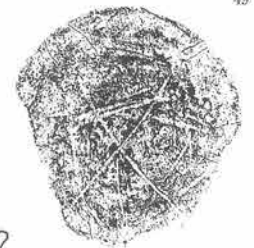
47



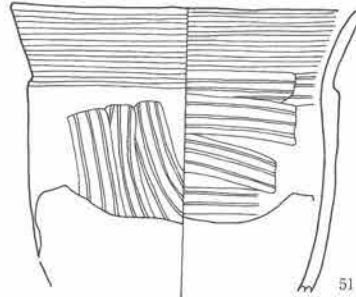
48



49

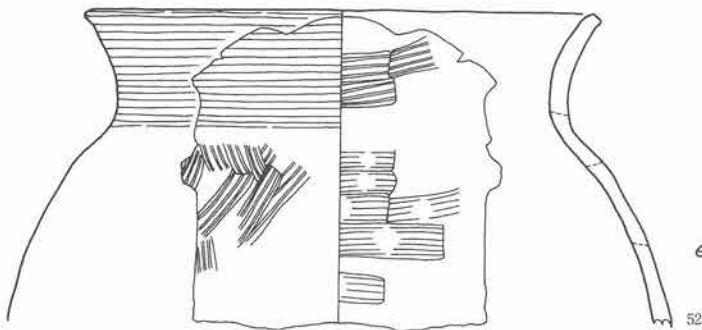


50

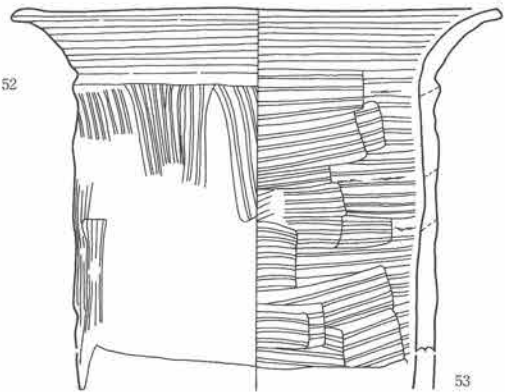


51

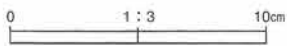
44~52はRA442  
53はRA443



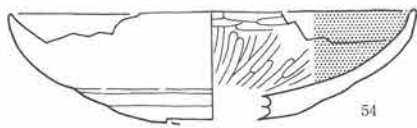
52



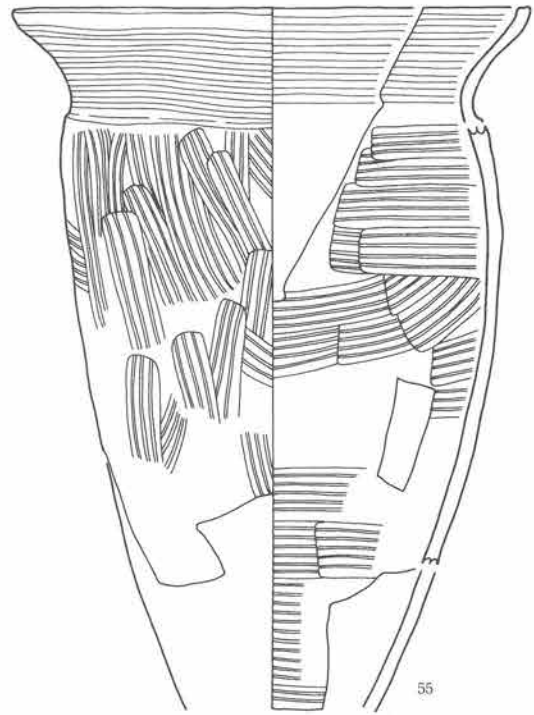
53



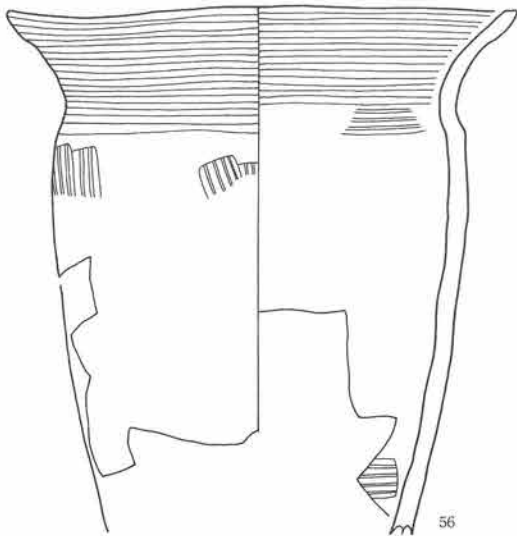
第155図 土師器・須恵器 (6)



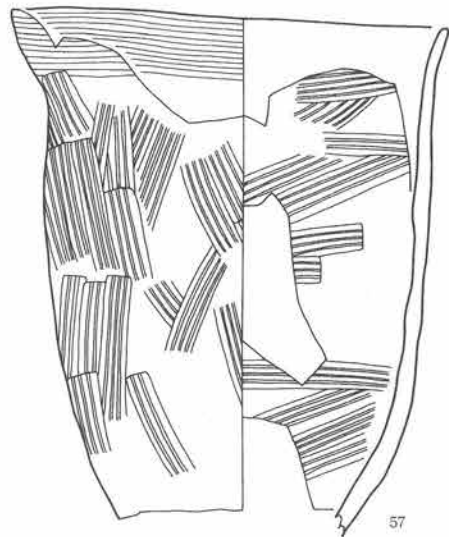
54



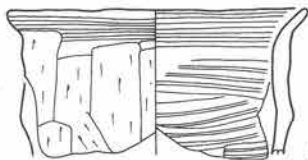
55



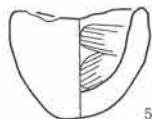
56



57

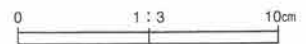


58

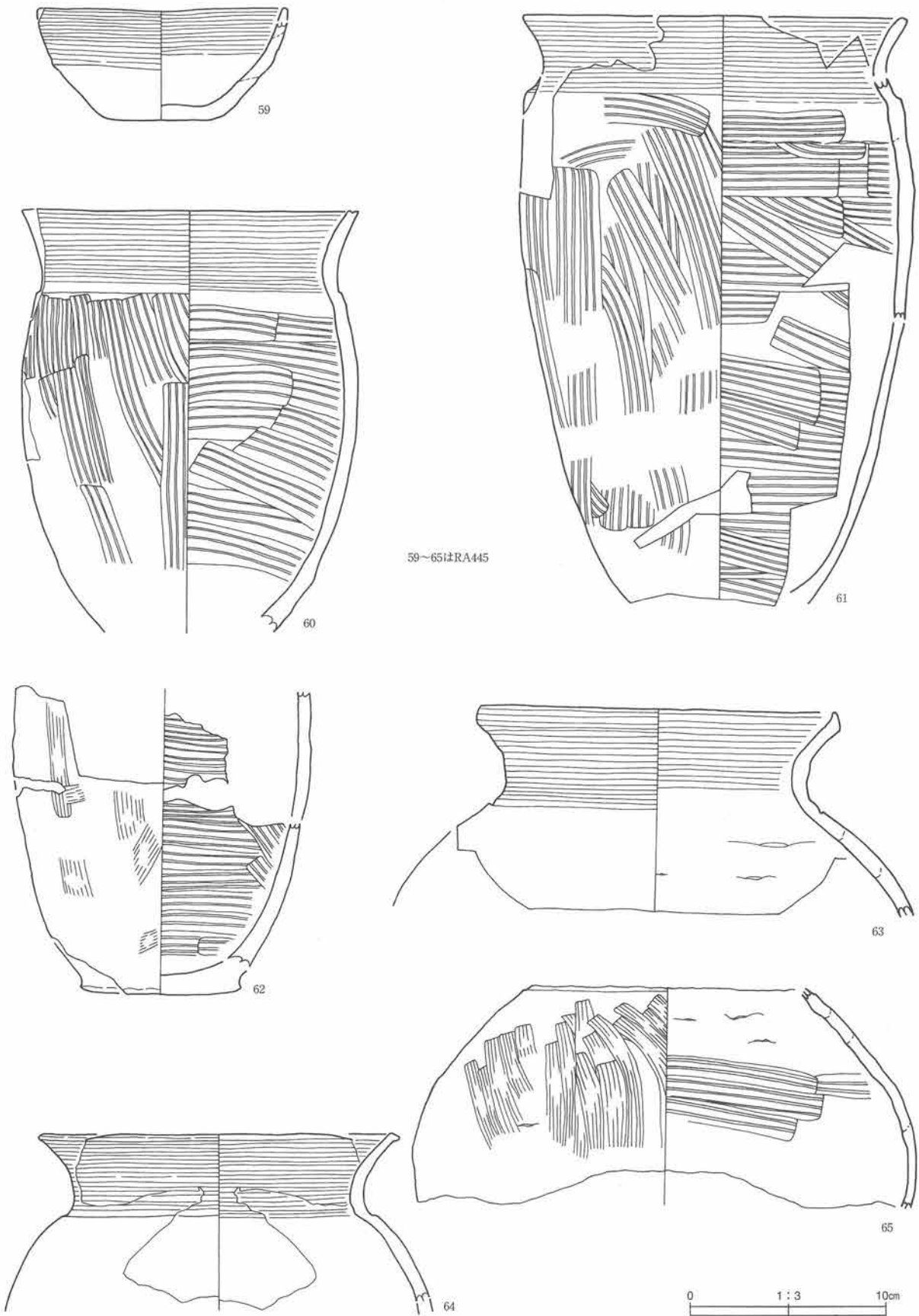


520

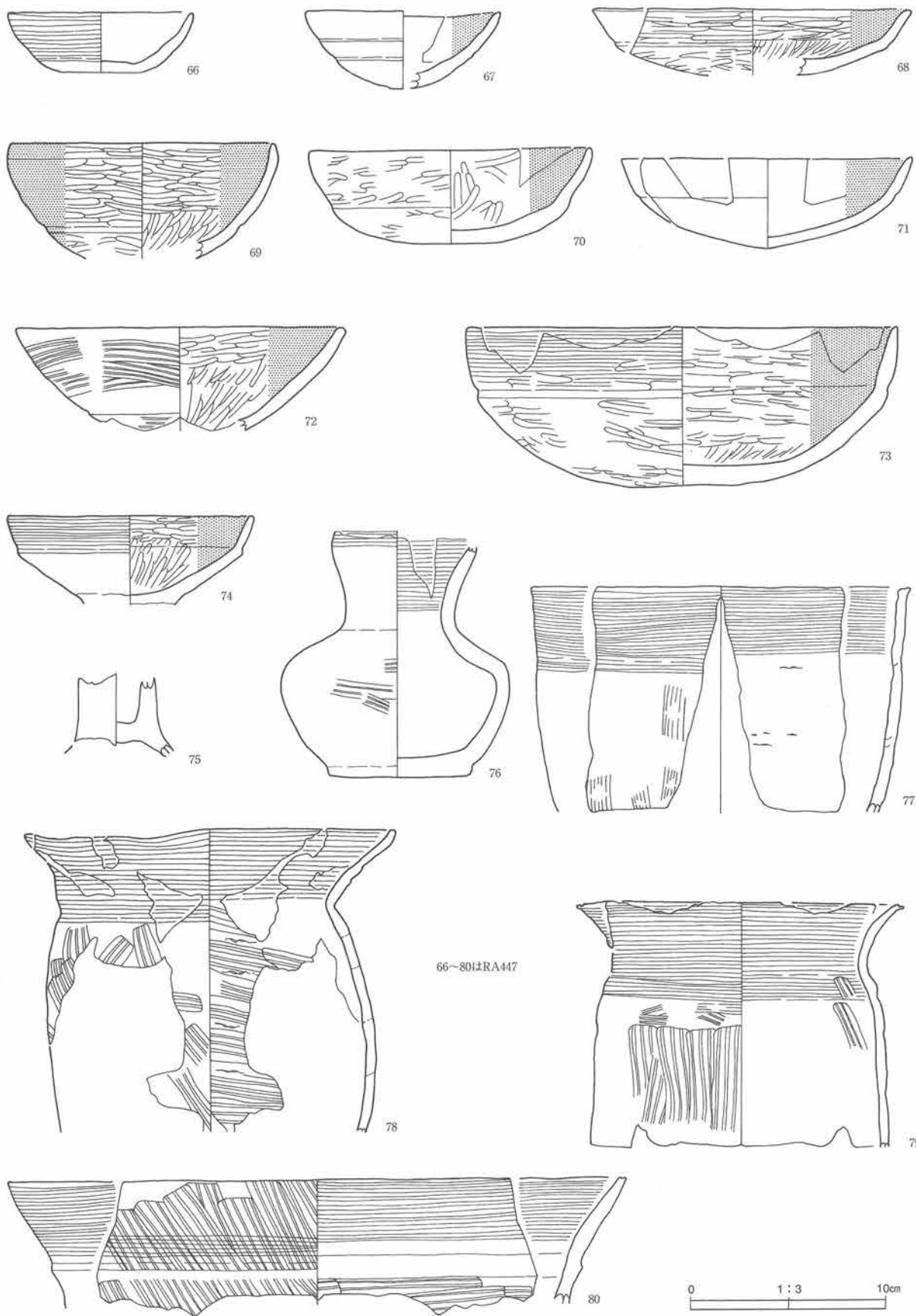
54-58・520I RA444



第156図 土師器・須恵器 (7)

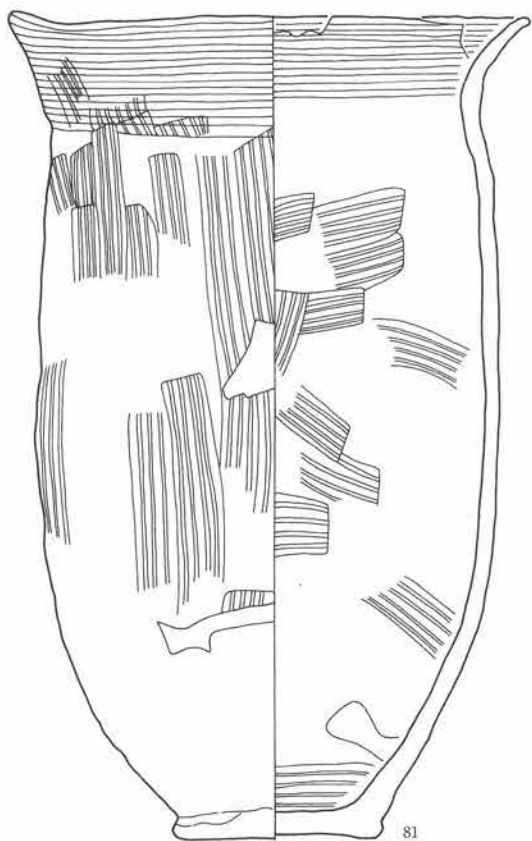


第157図 土師器・須恵器（8）

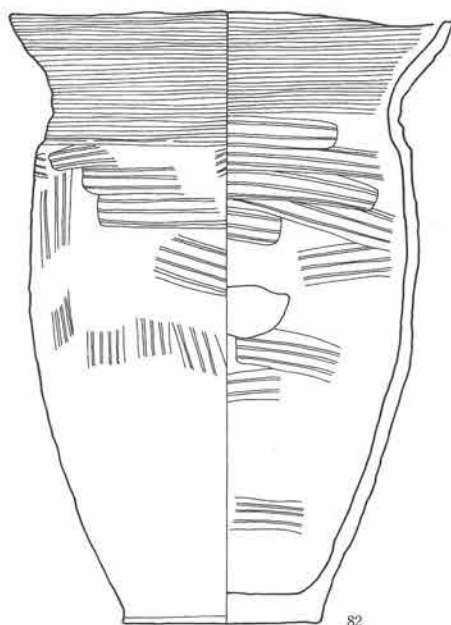


66~80 RA447

第158図 土師器・須恵器（9）

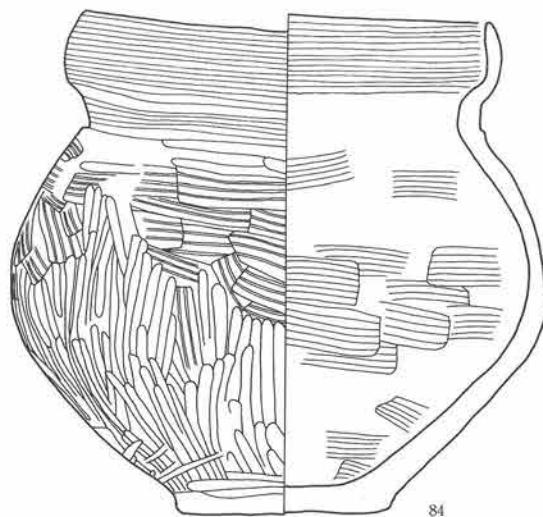


81

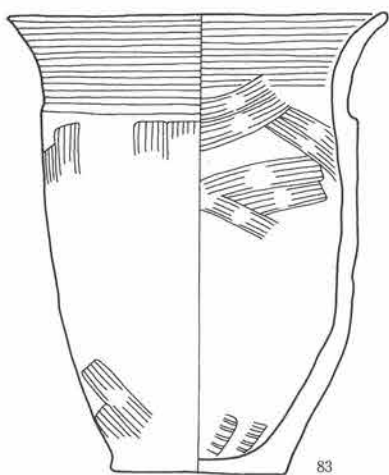


82

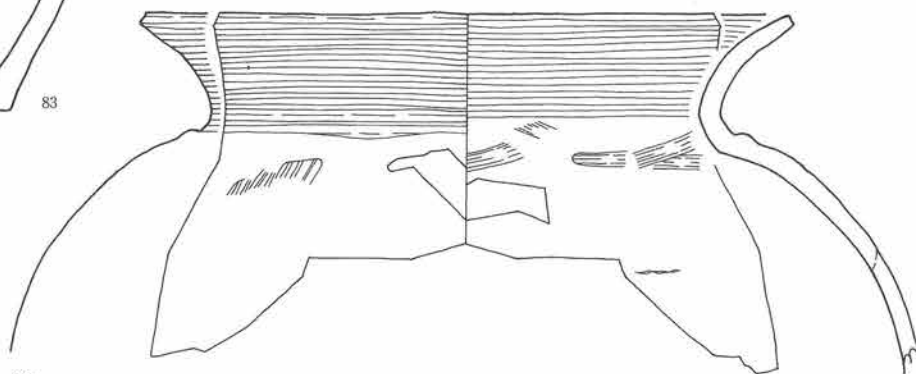
81~85はRA448



84



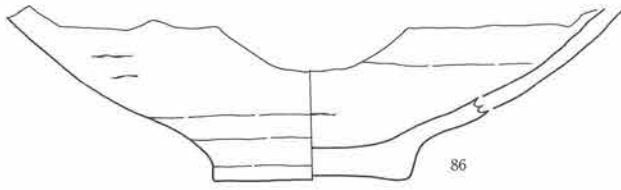
83



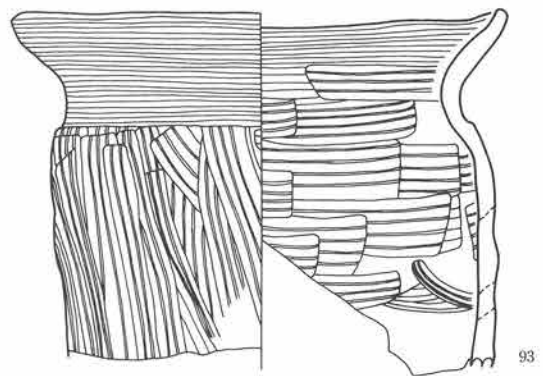
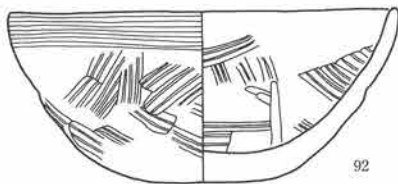
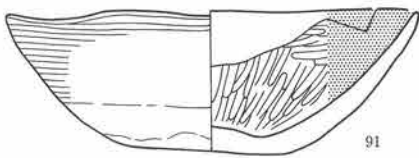
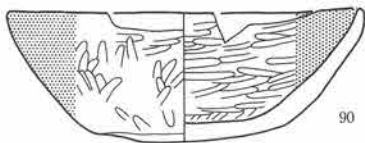
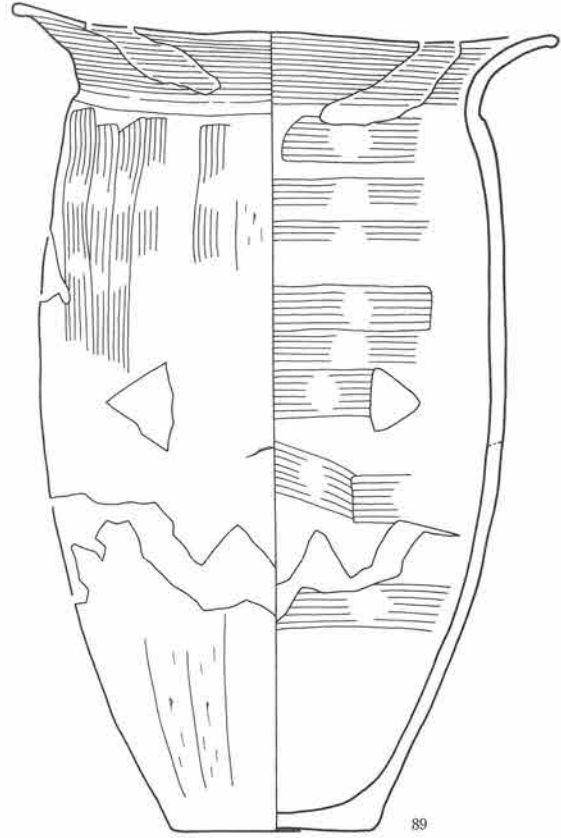
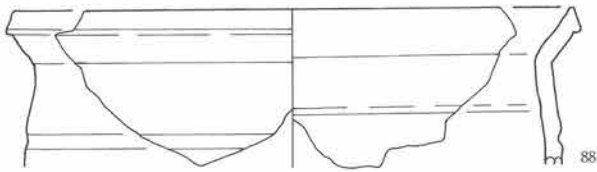
85

0 1:3 10cm

第159図 土師器・須恵器 (10)



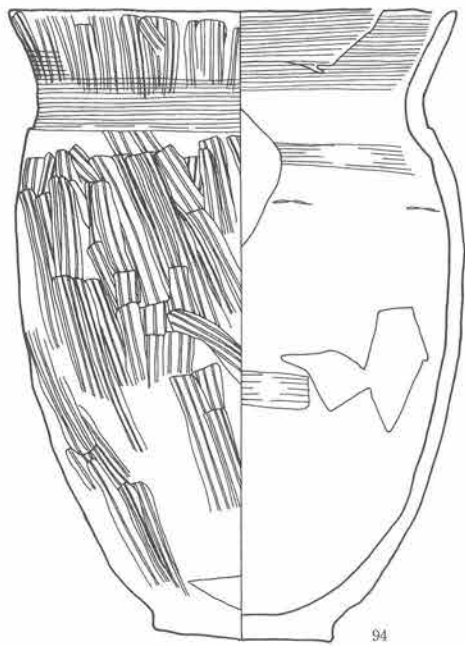
86はRA448  
87~89はRA449  
90~93はRA451



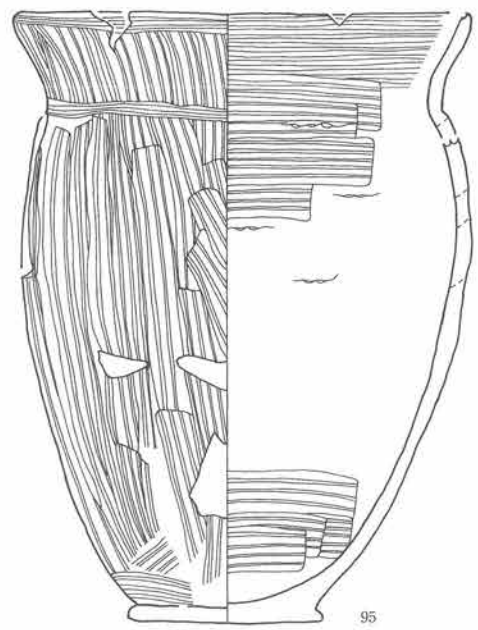
0 1:3 10cm

第160図 土師器・須恵器 (11)

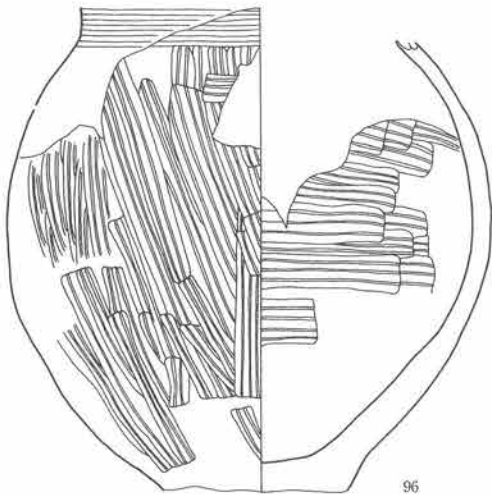




94



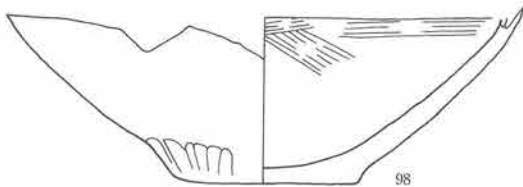
95



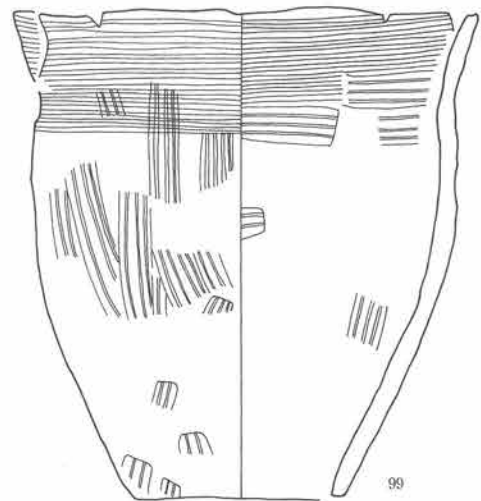
96



97

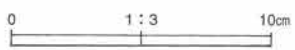


98

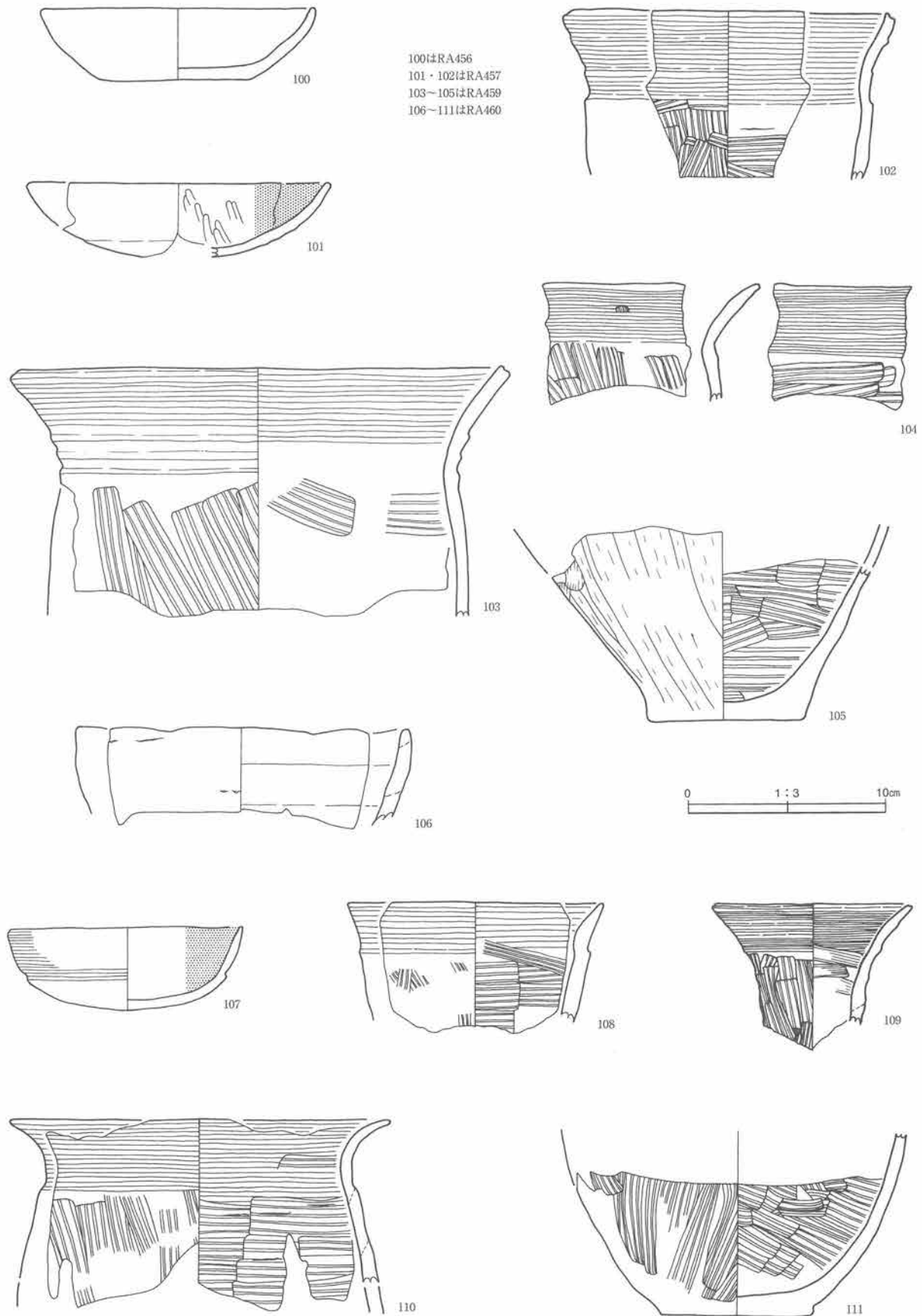


99

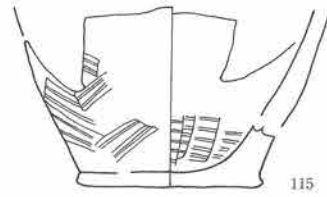
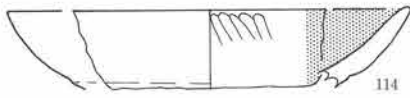
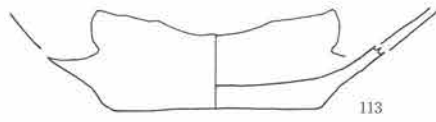
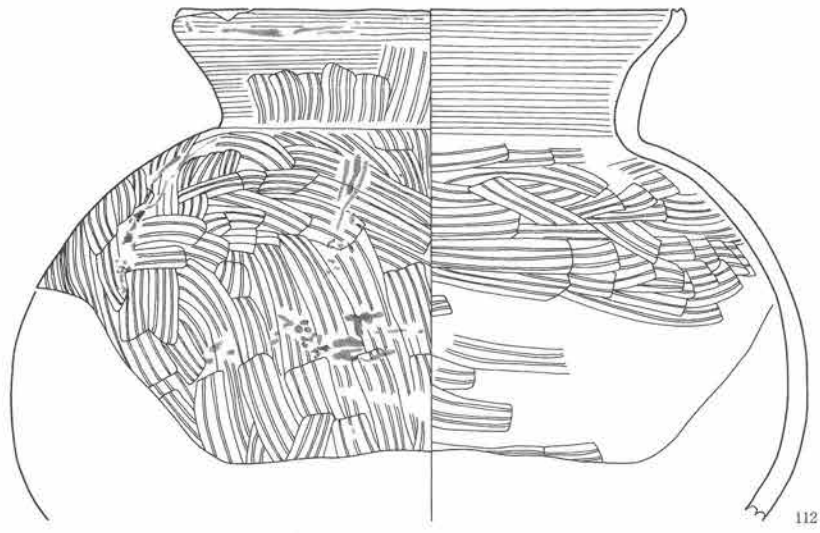
94~99 土師器A451



第161図 土師器・須恵器 (12)



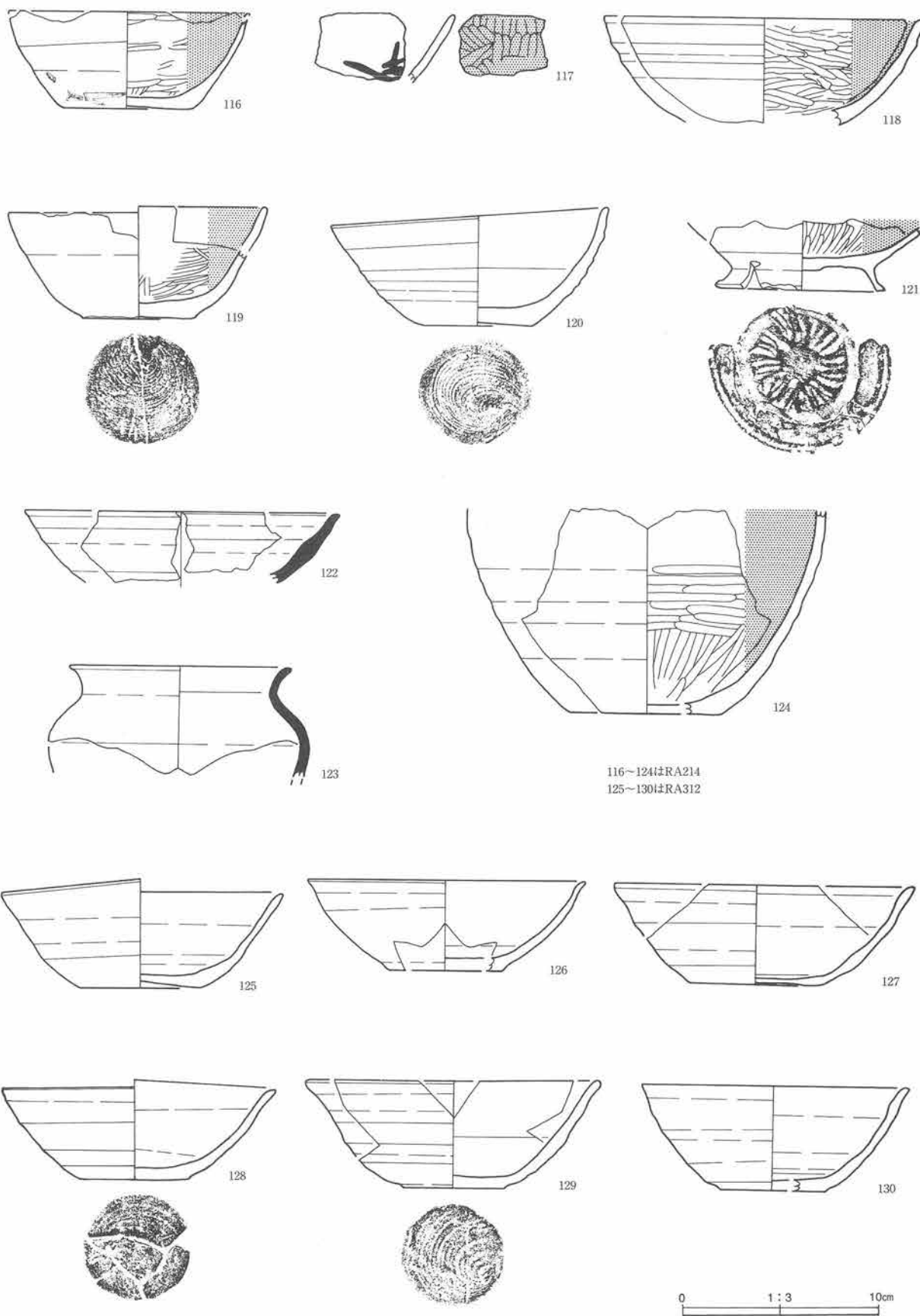
第162図 土師器・須恵器 (13)



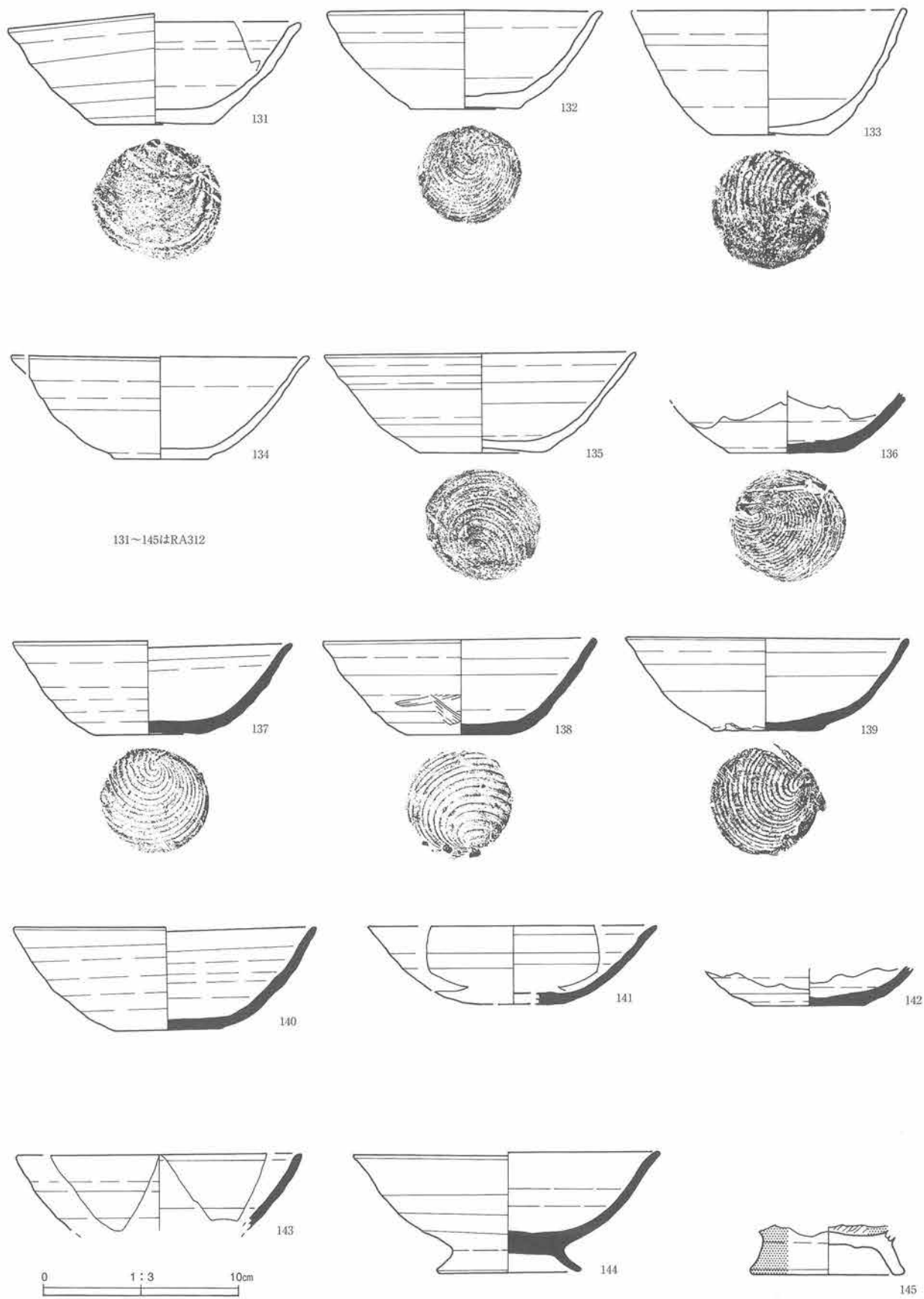
112・113 土師器  
114・115 須恵器

0 1:3 10cm

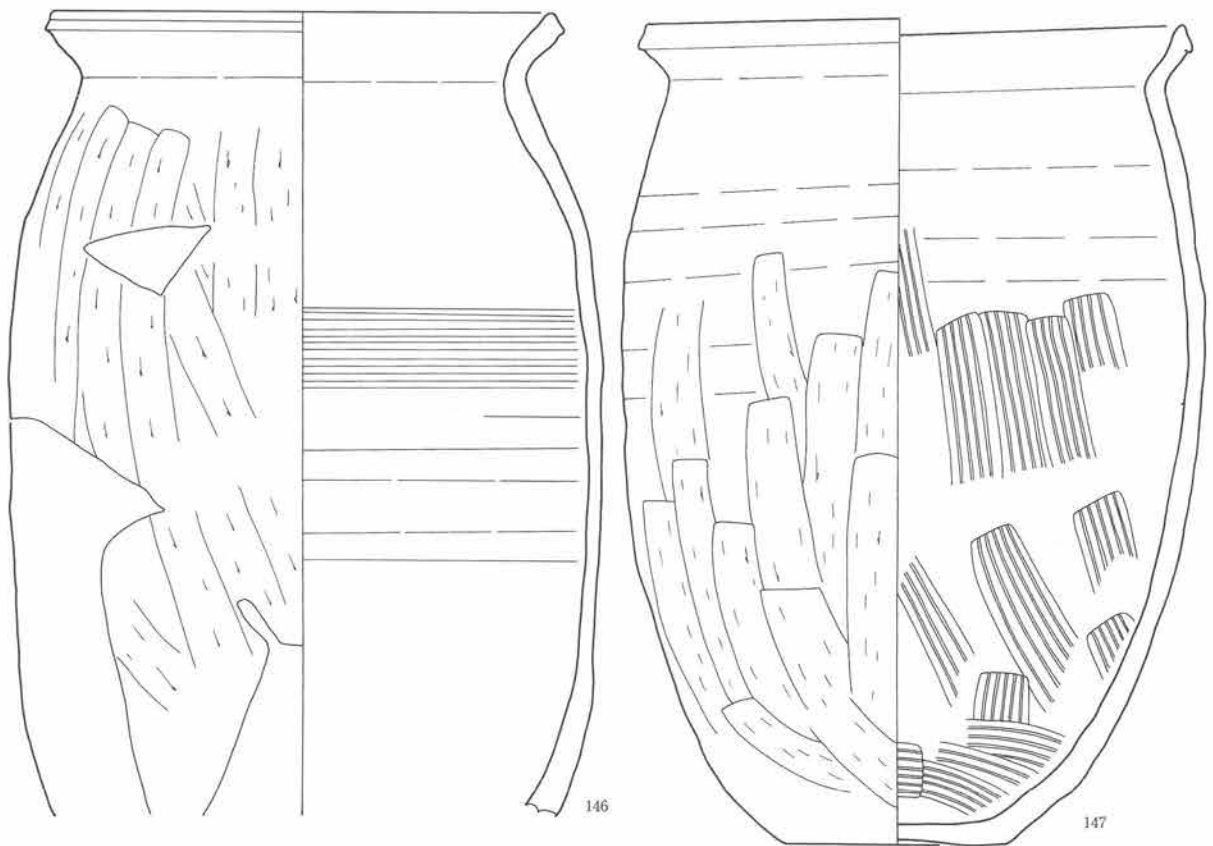
第163図 土師器・須恵器 (14)



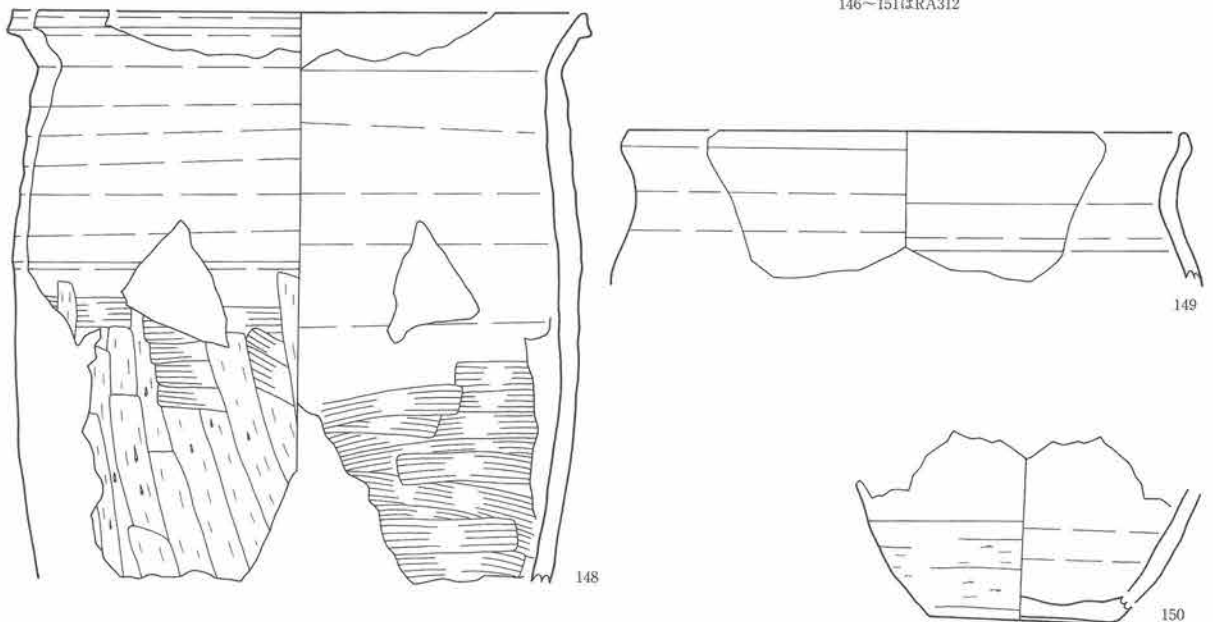
第164図 土師器・須恵器 (15)



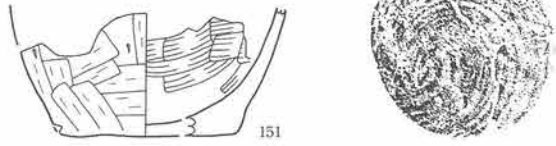
第165図 土師器・須恵器 (16)



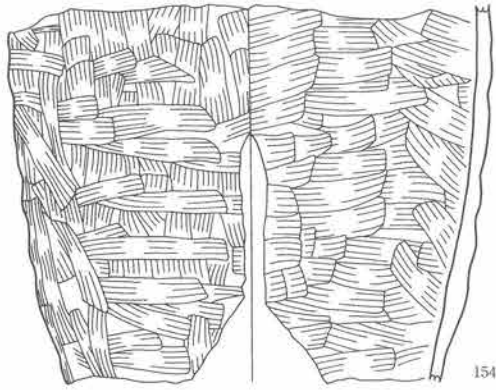
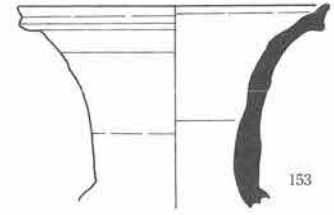
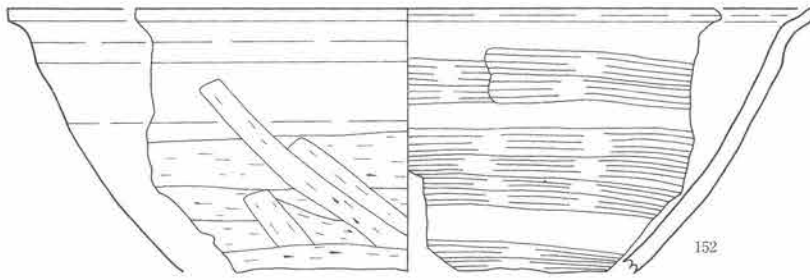
146~151はRA312



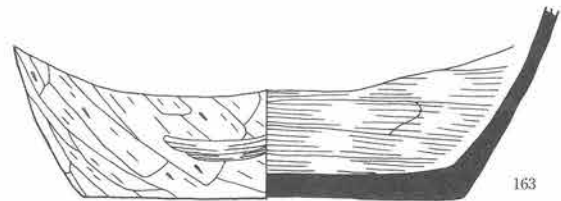
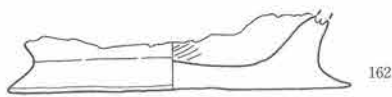
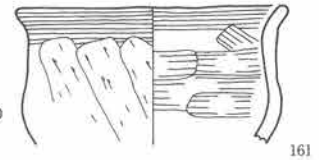
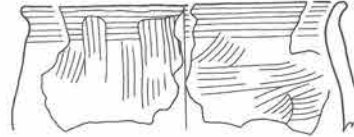
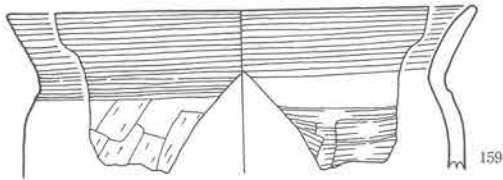
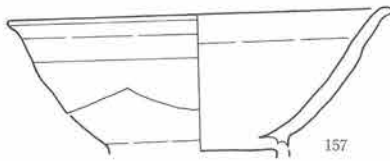
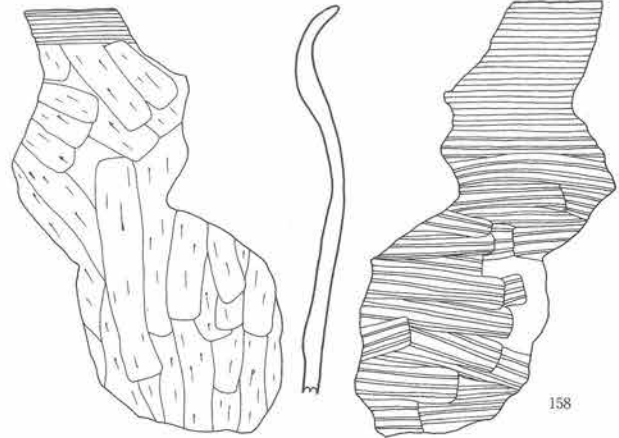
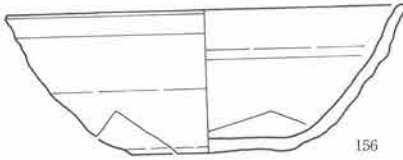
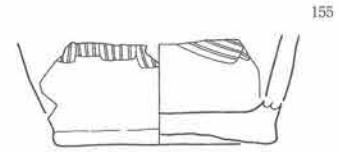
0 1:3 10cm



第166図 土師器・須恵器 (17)

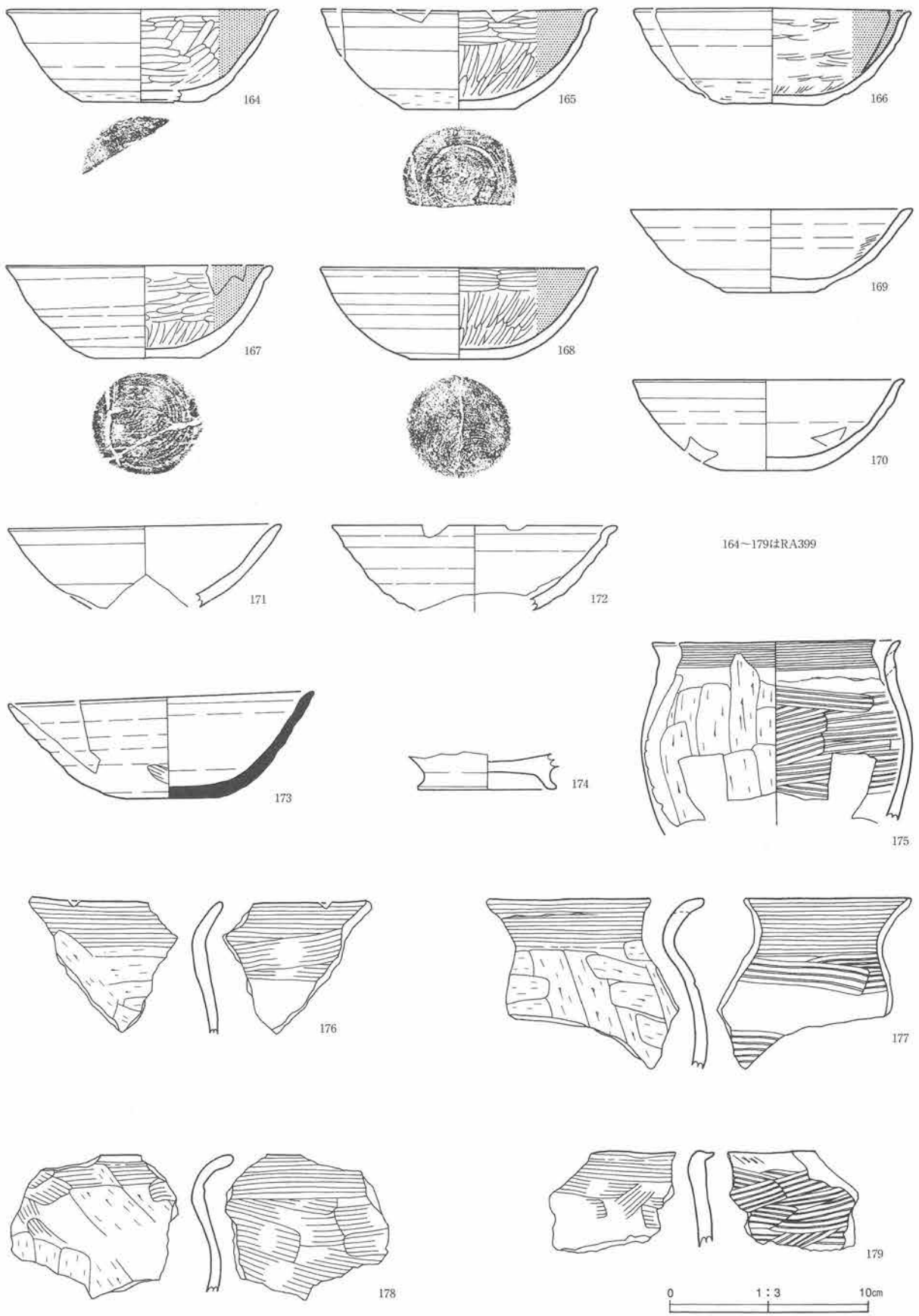


152・153 RA312  
154・155 RA316  
156～163 RA397



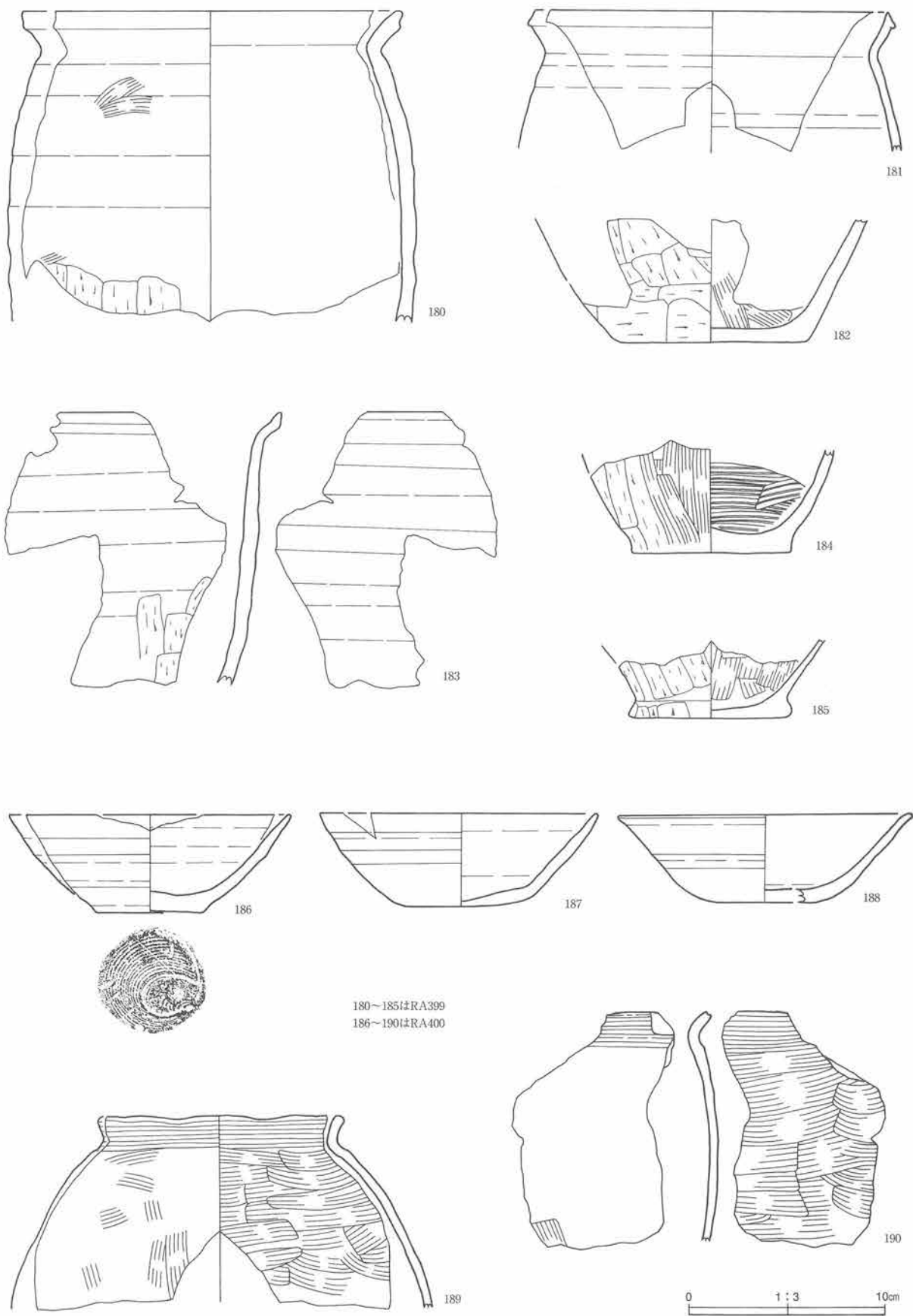
0 1:3 10cm

第167図 土師器・須恵器 (18)

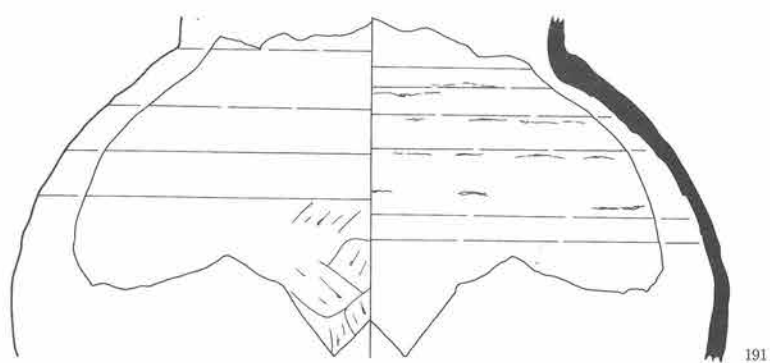


第168図 土師器・須恵器 (19)





第169図 土師器・須恵器 (20)

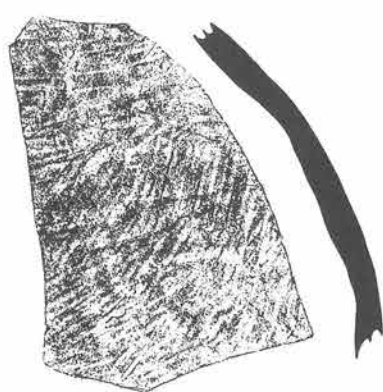


191

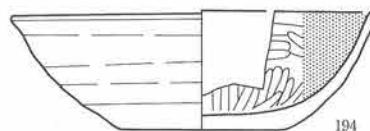
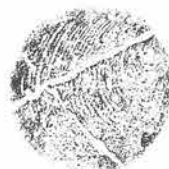
191・193はRA400  
192・194～200はRA401



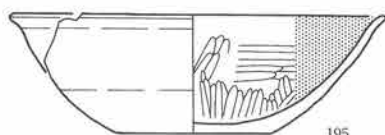
192



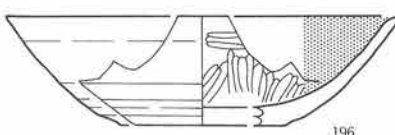
193



194



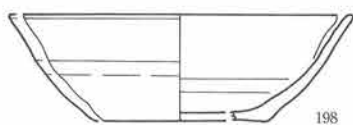
195



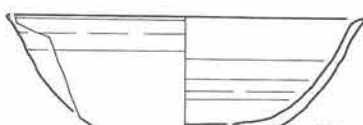
196



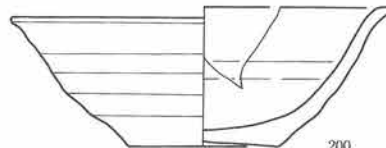
197



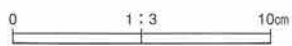
198



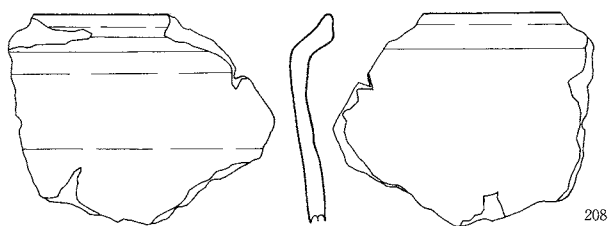
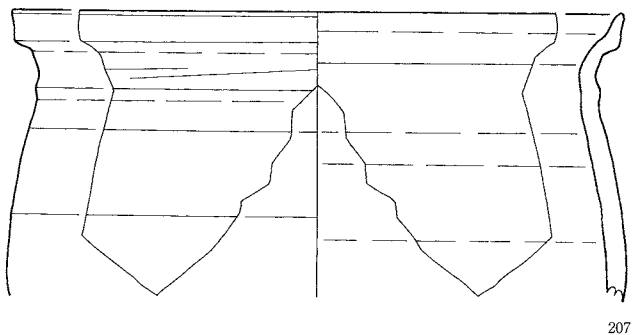
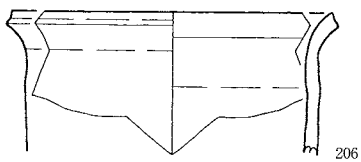
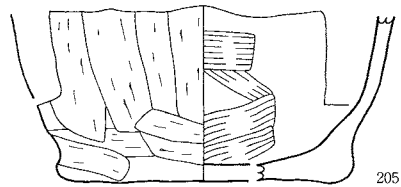
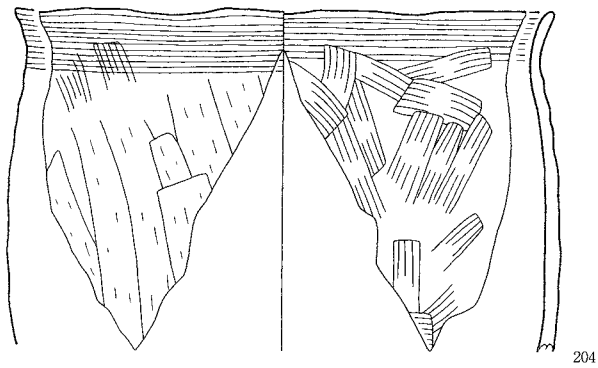
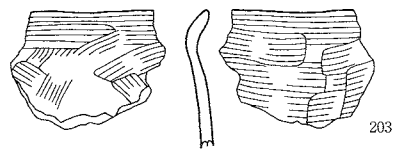
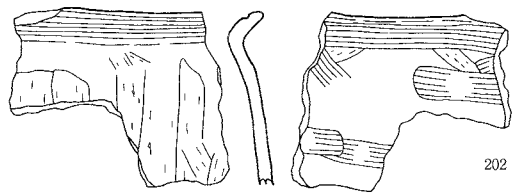
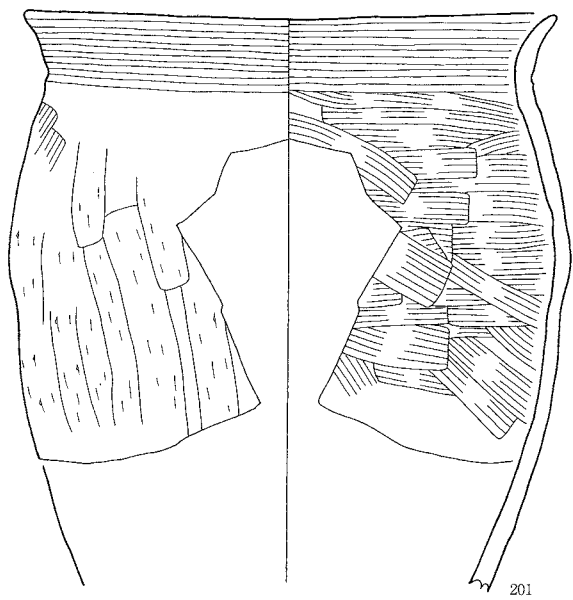
199



200



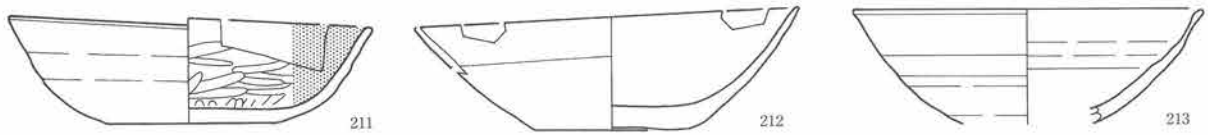
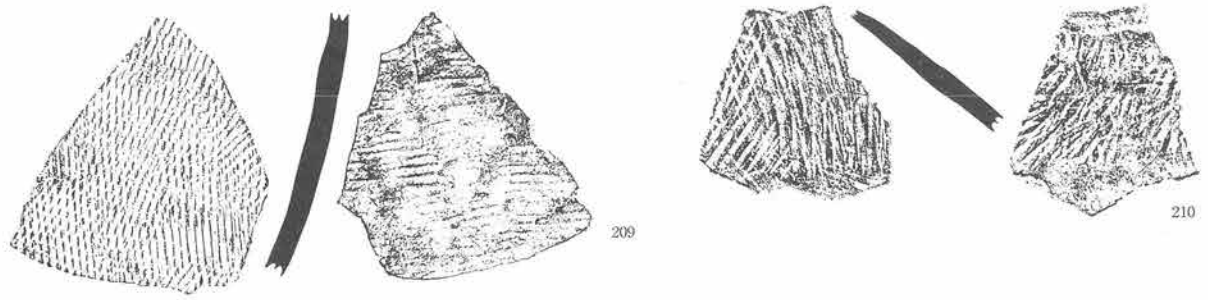
第170図 土師器・須恵器 (21)



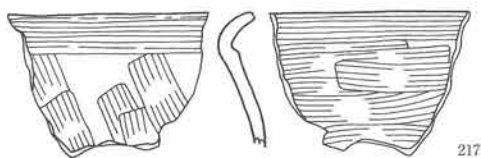
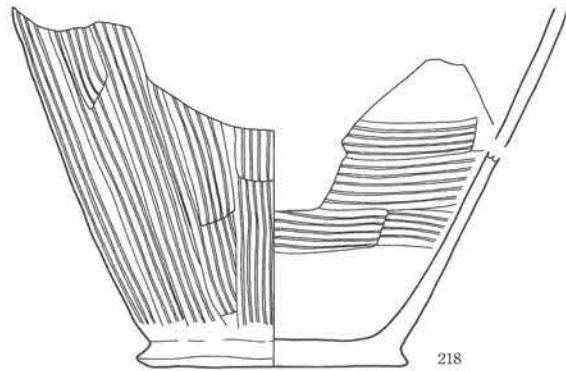
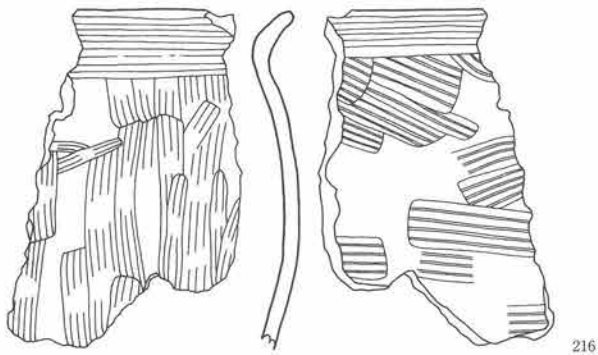
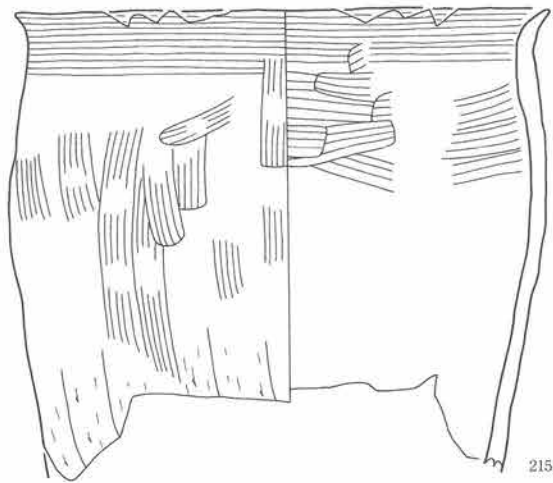
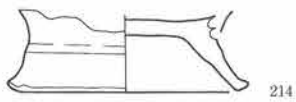
201~208はRA401

0 1:3 10cm

第171図 土師器・須恵器 (22)

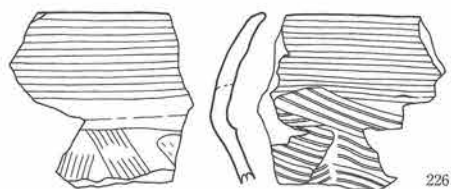
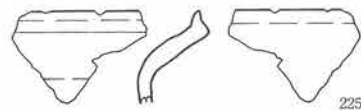
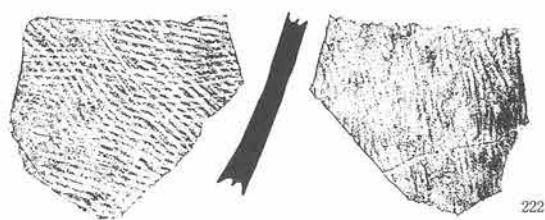
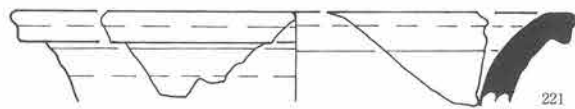
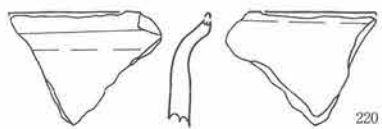
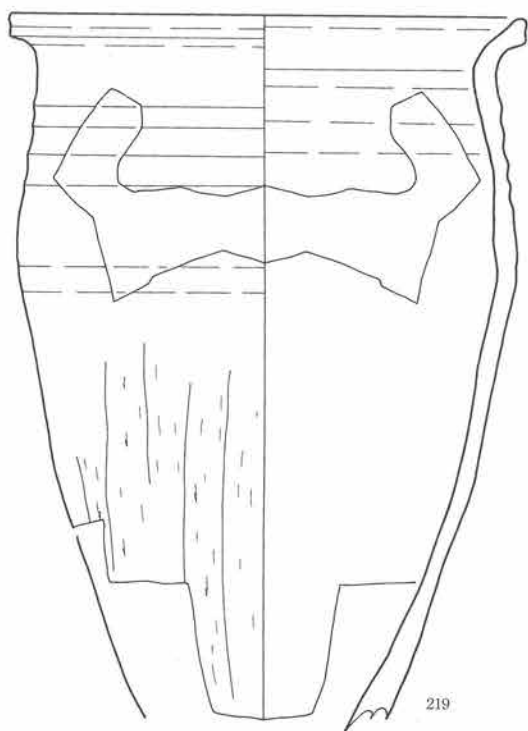


209・210はRA401  
211～218はRA403

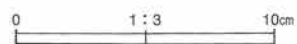
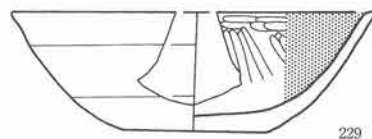
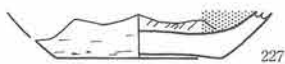


0 1:3 10cm

第172図 土師器・須恵器 (23)



219~222はRA403  
223~226はRA406  
227~229はRA408

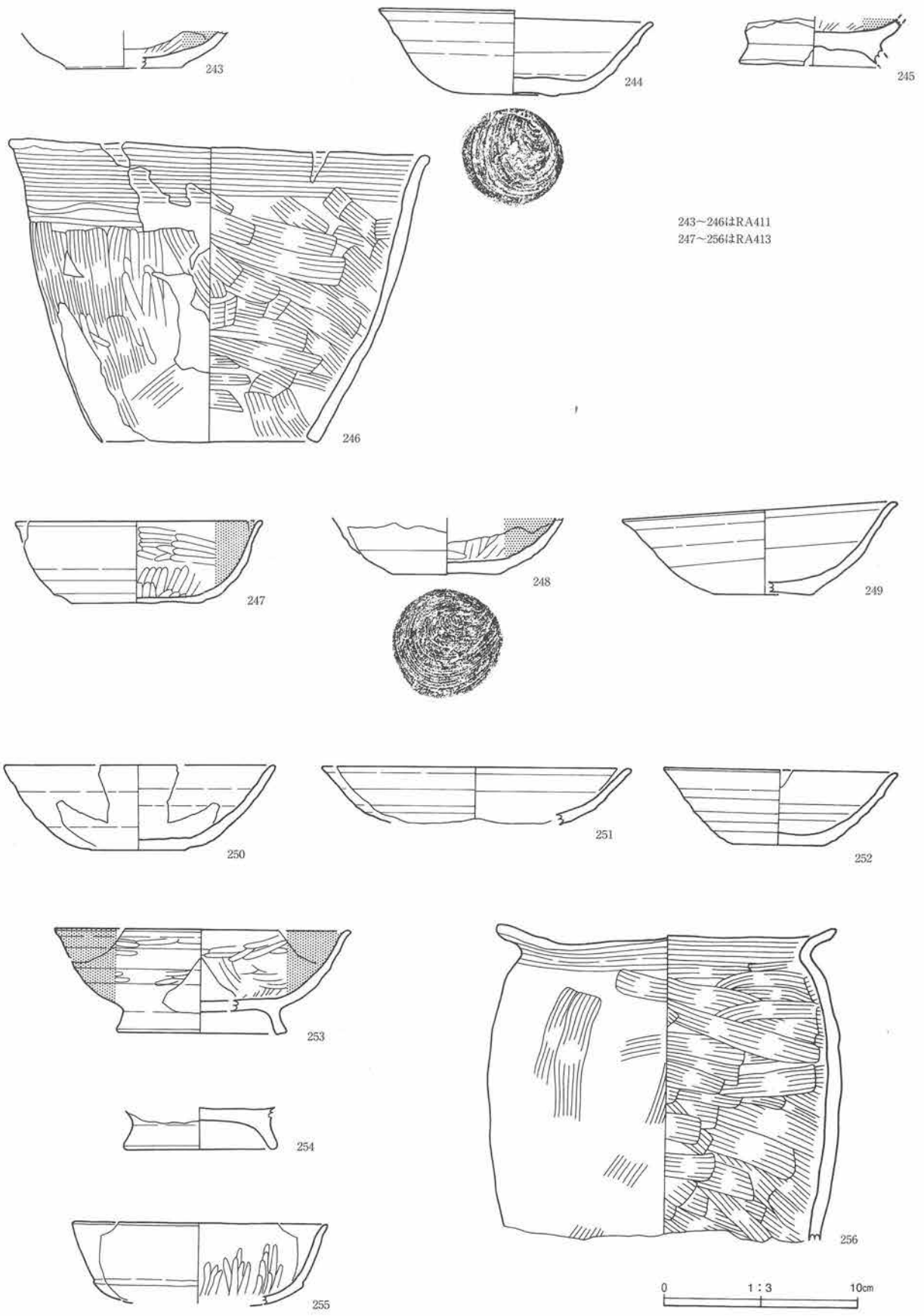


第173図 土師器・須恵器 (24)



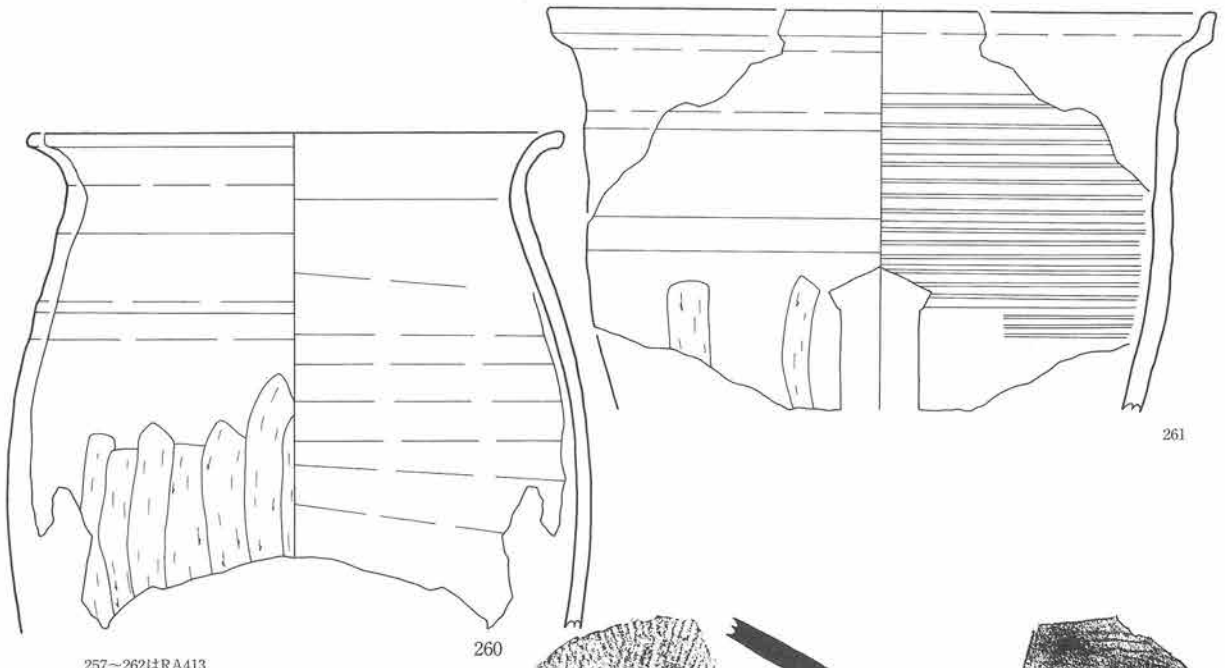
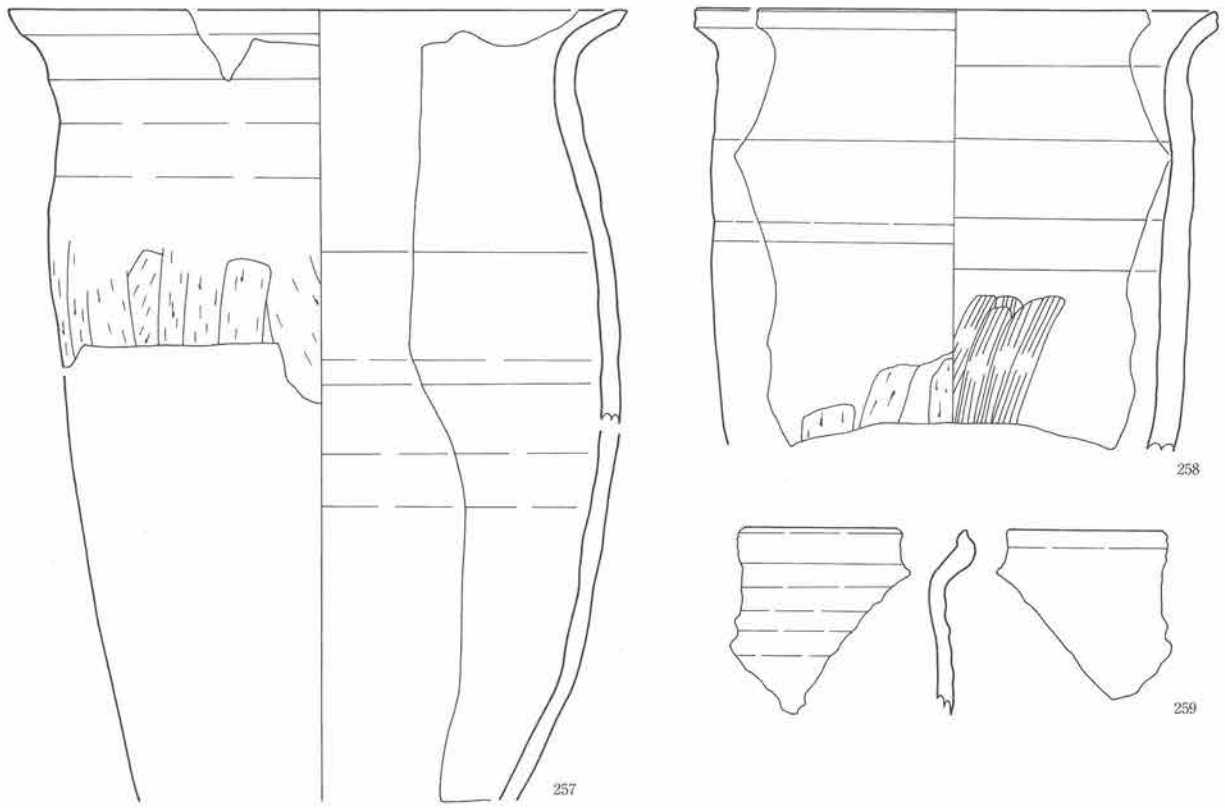
230~242 RA408

第174図 土師器・須恵器 (25)



243~246はRA411  
247~256はRA413

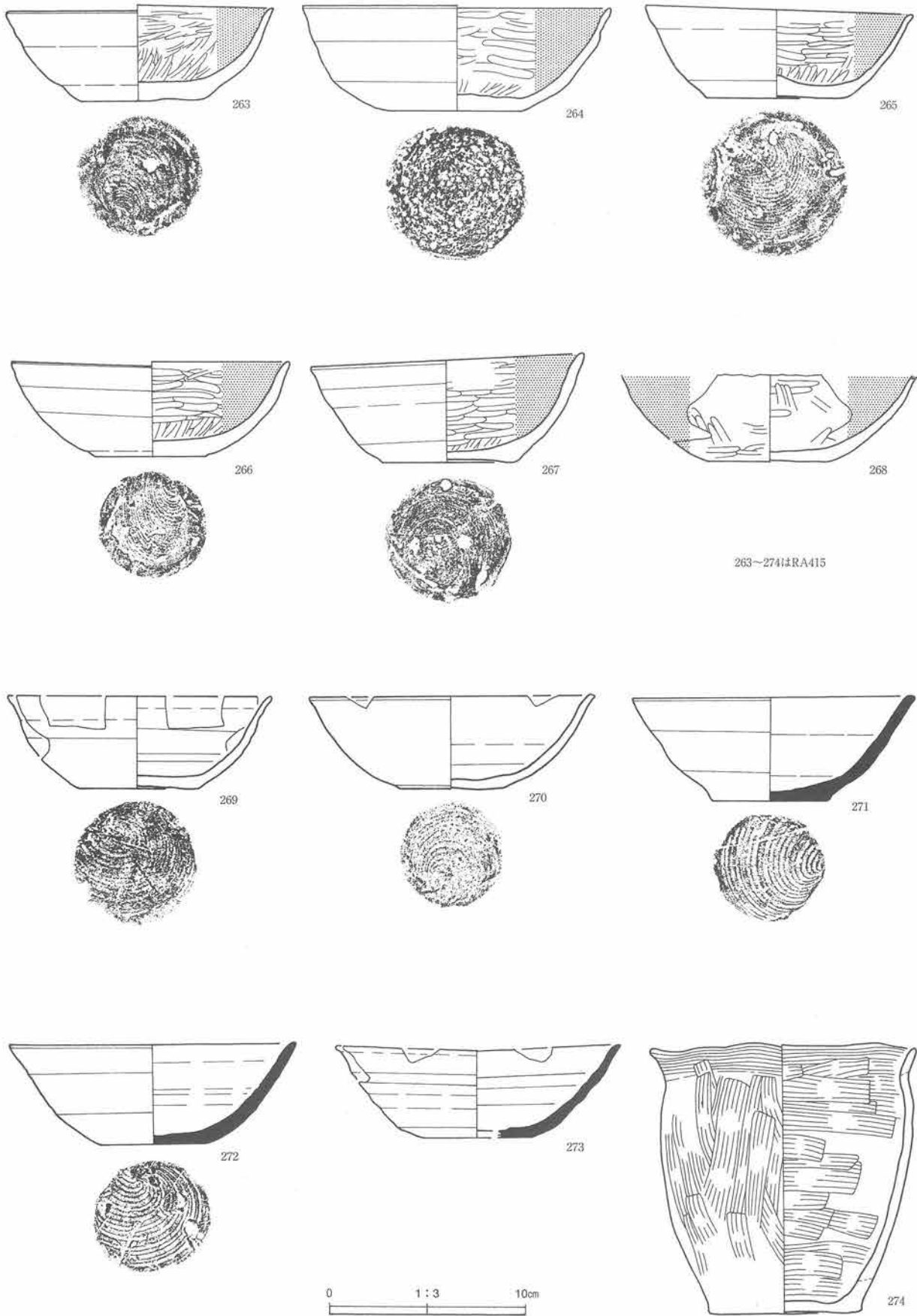
第175図 土師器・須恵器 (26)



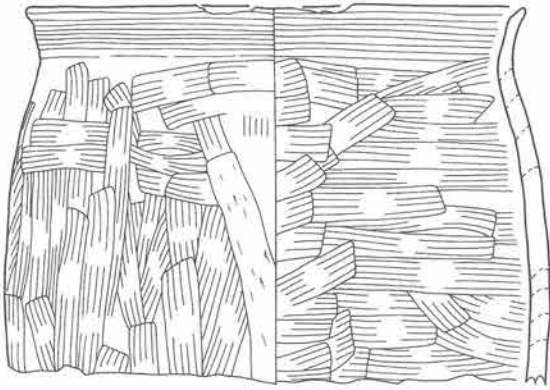
0 1:3 10cm

第176図 土師器・須恵器 (27)

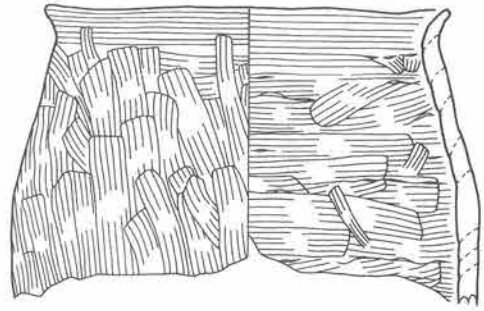




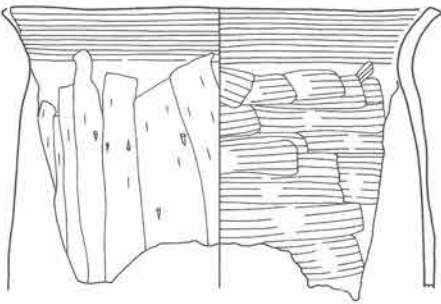
第177図 土師器・須恵器 (28)



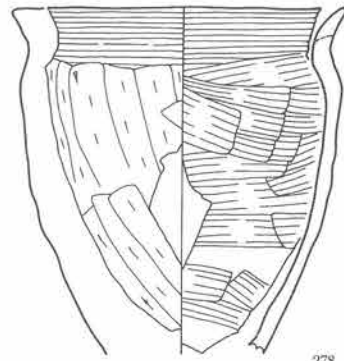
275



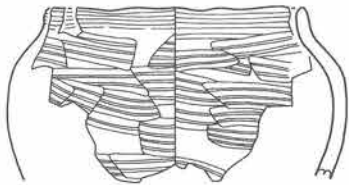
276



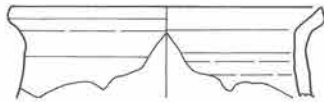
277



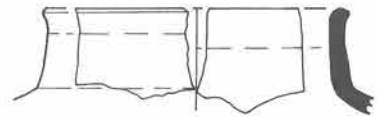
278



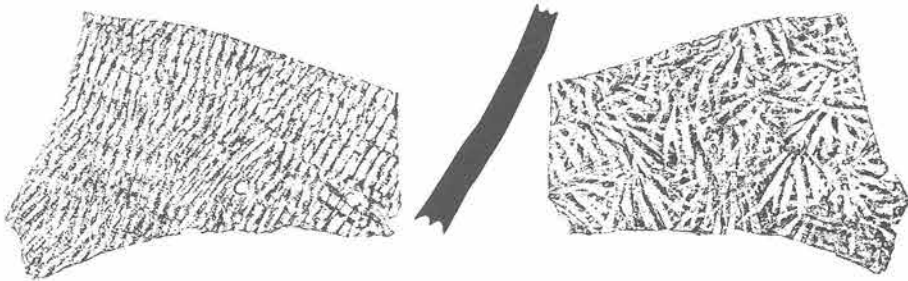
279



280



281

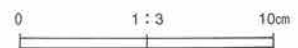


282

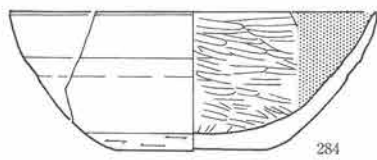
275~283IARA415



283



第178図 土師器・須恵器 (29)

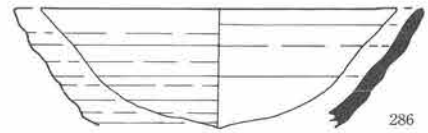


284

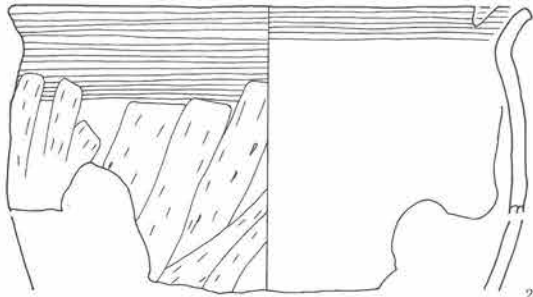


285

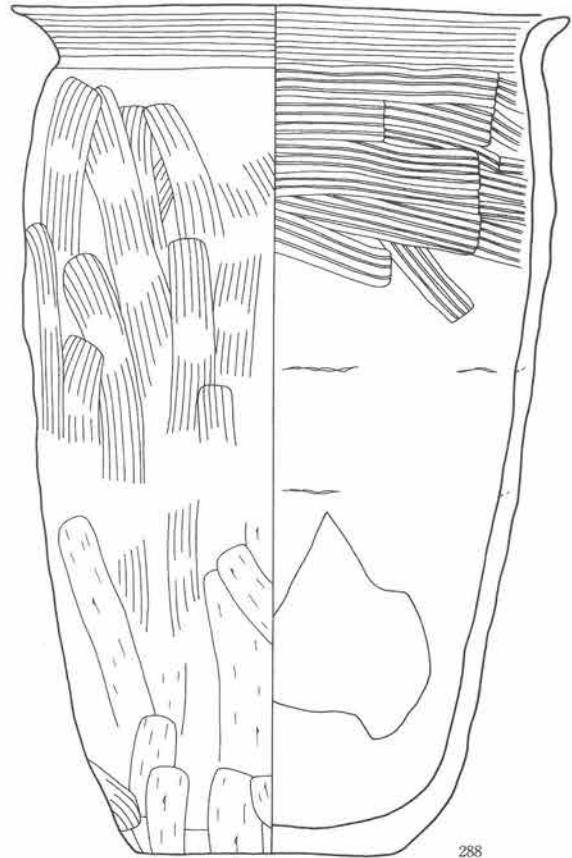
284~291はRA419



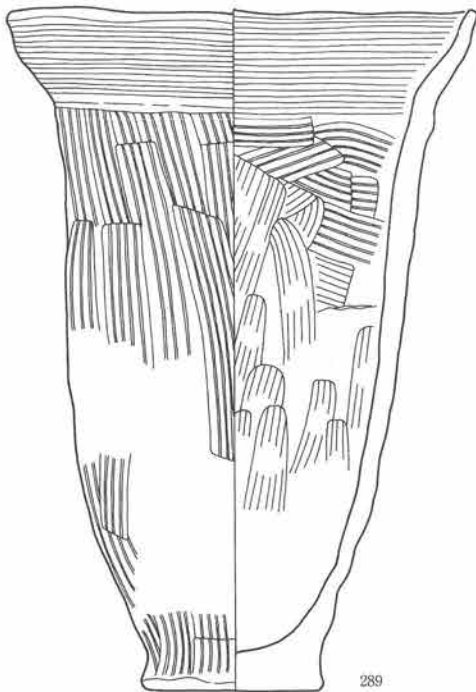
286



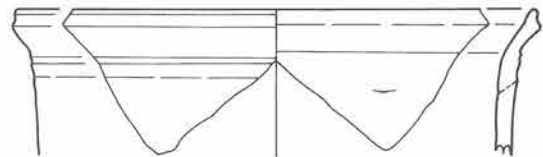
287



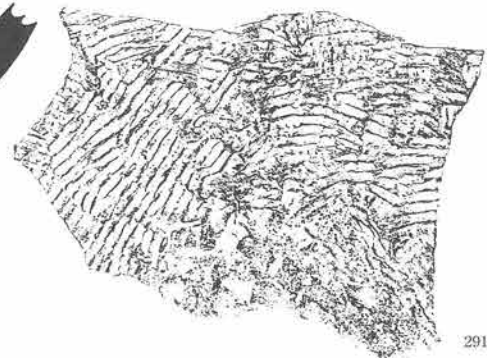
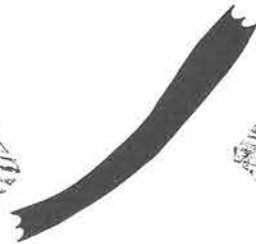
288



289



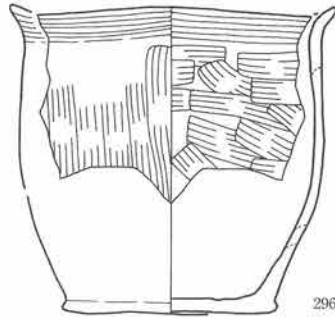
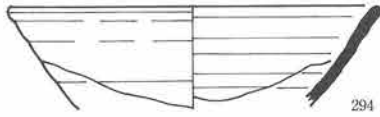
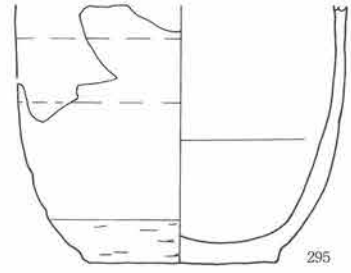
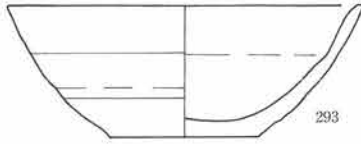
290



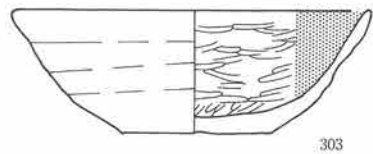
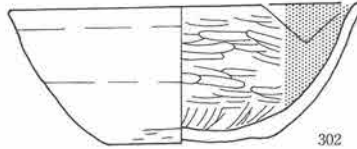
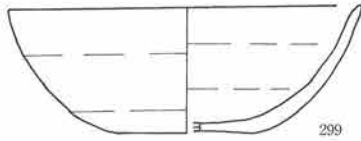
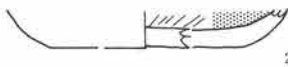
291

0 1:3 10cm

第179図 土師器・須恵器 (30)

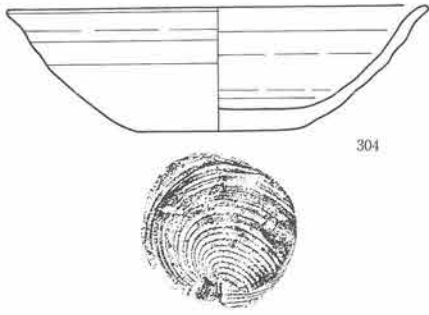


292-297(±)RA420  
298-300(±)RA423  
301-303(±)RA424

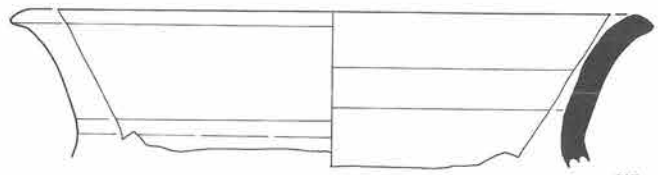


0 1:3 10cm

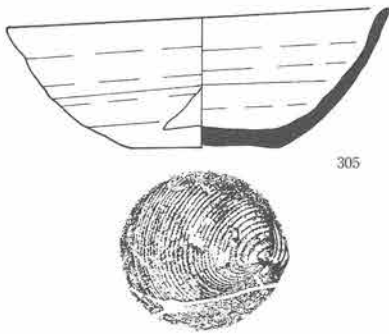
第180図 土師器・須恵器 (31)



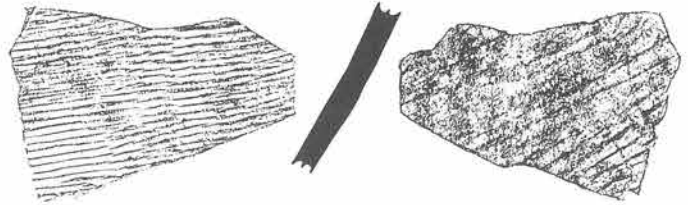
304



307

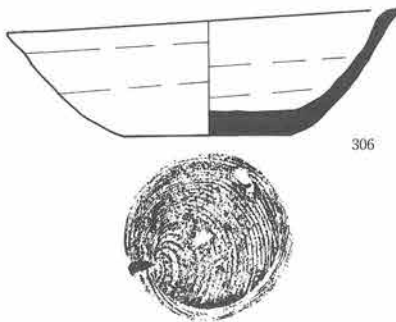


305

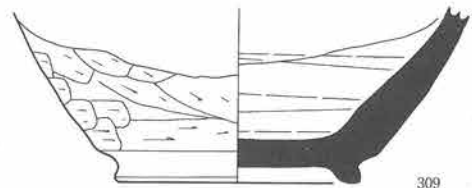


308

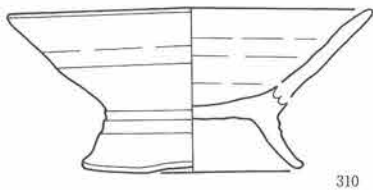
304~308はRA424  
309はRA427  
310・311はRA429



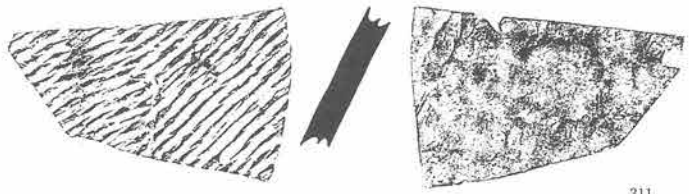
306



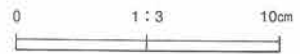
309



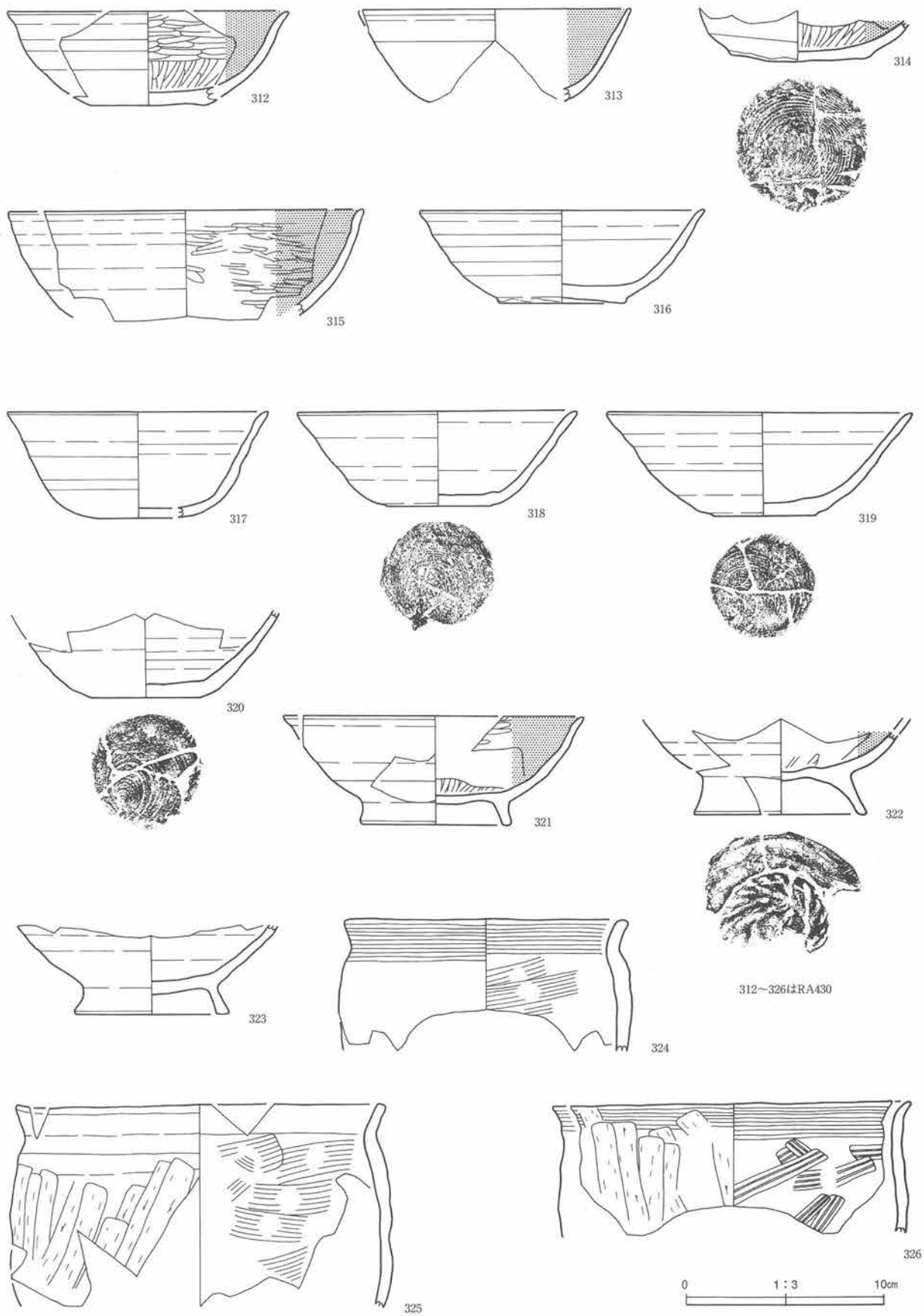
310



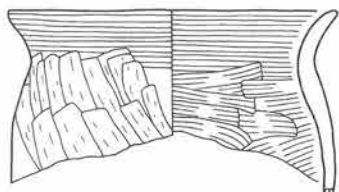
311



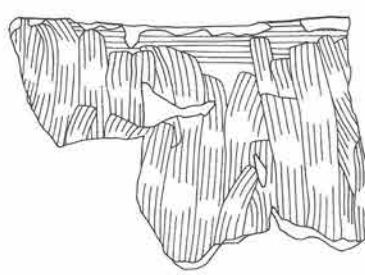
第181図 土師器・須恵器 (32)



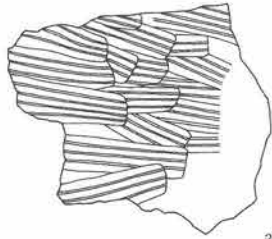
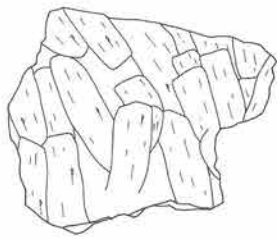
第182図 土師器・須恵器 (33)



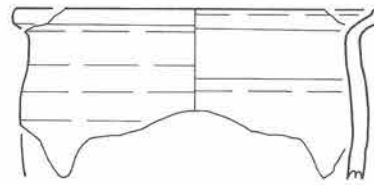
327



328



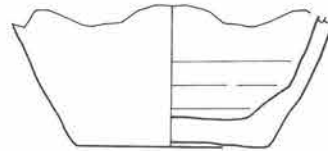
329



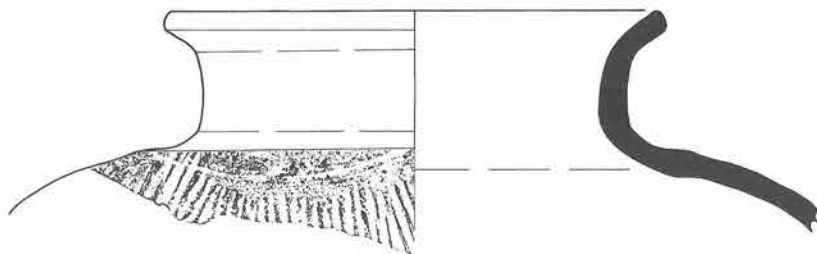
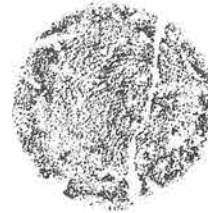
330



332

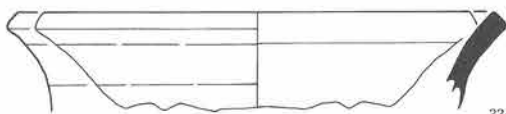


331



327-335 RA430

333

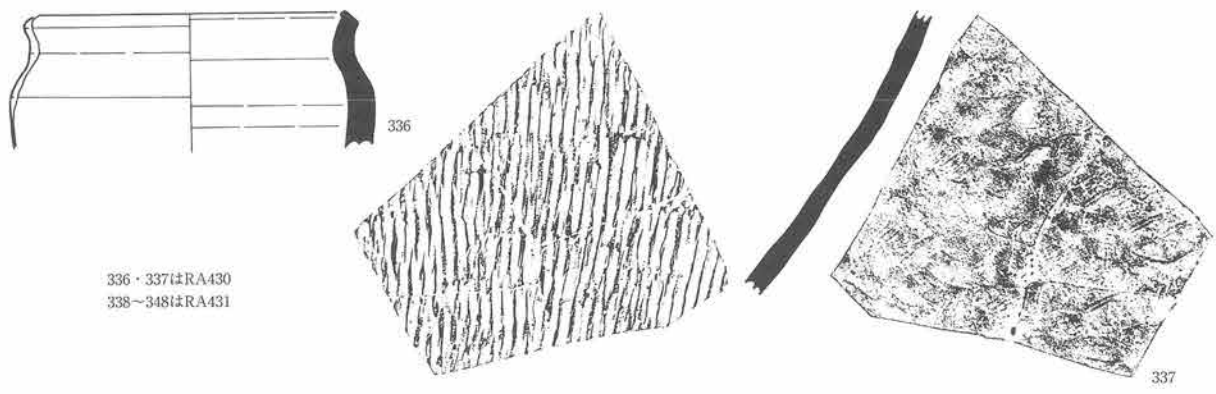


334

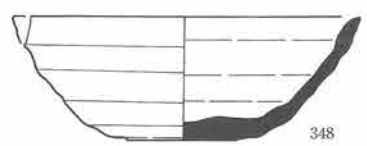
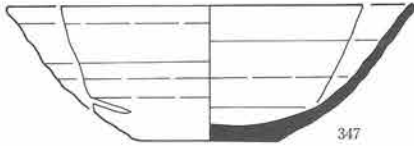
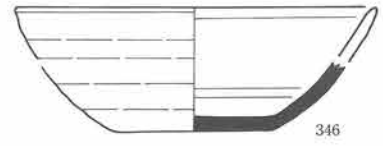
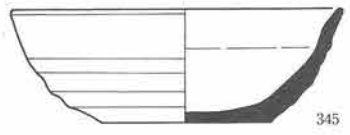
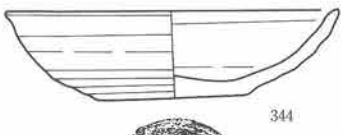
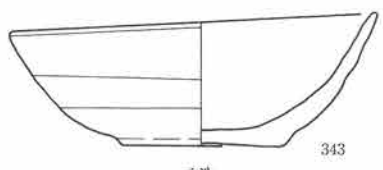
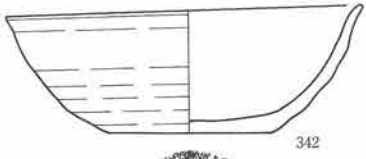
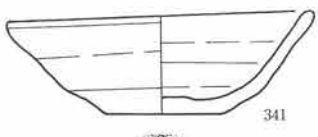
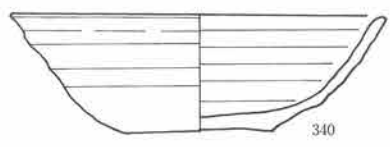
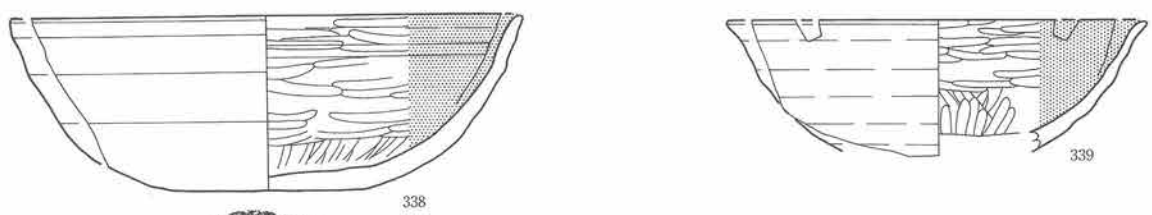


335

第183図 土師器・須恵器 (34)



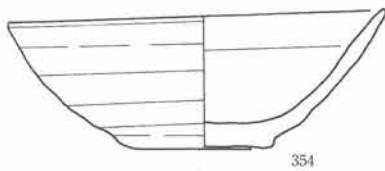
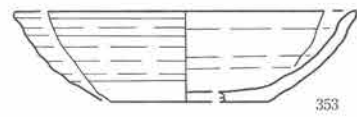
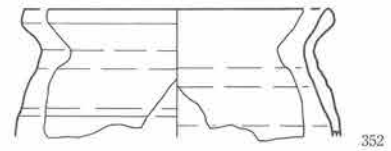
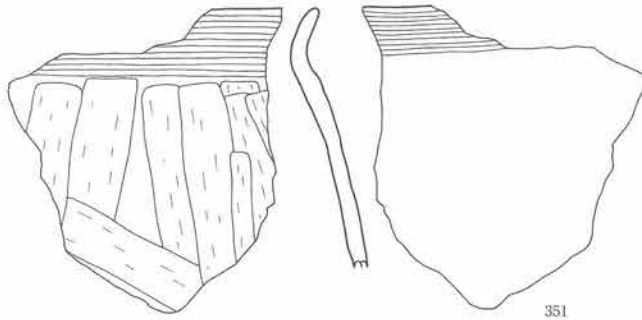
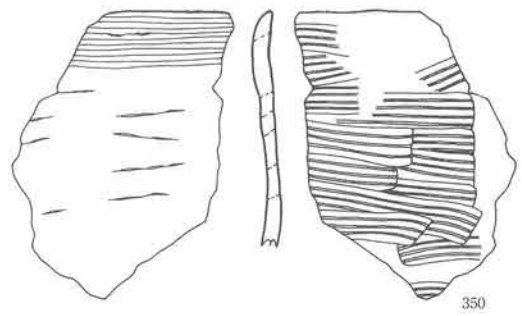
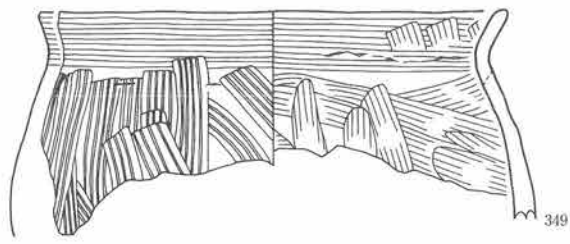
336・337はRA430  
338～348はRA431



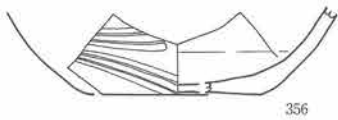
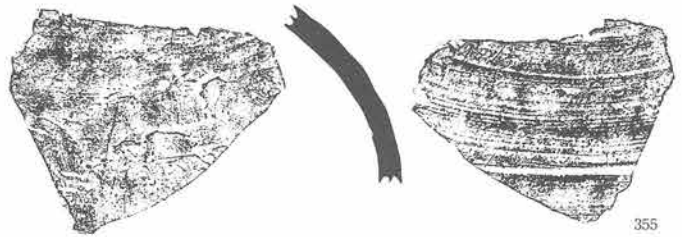
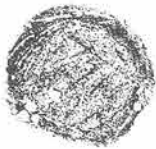
0 1 : 3 10cm

第184図 土師器・須恵器 (35)

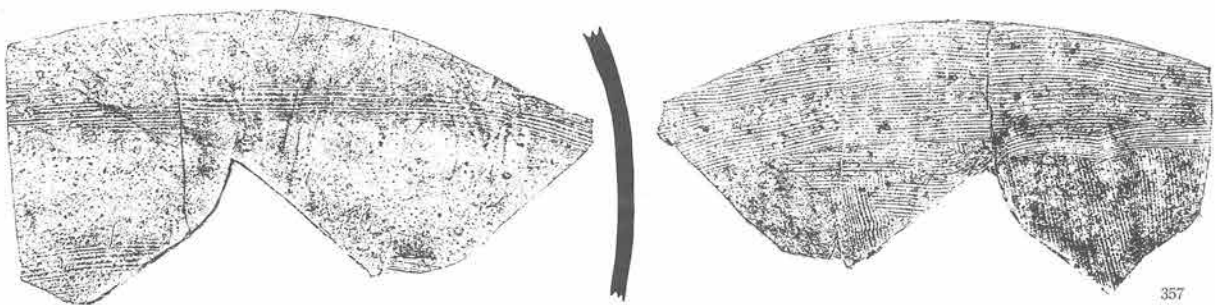




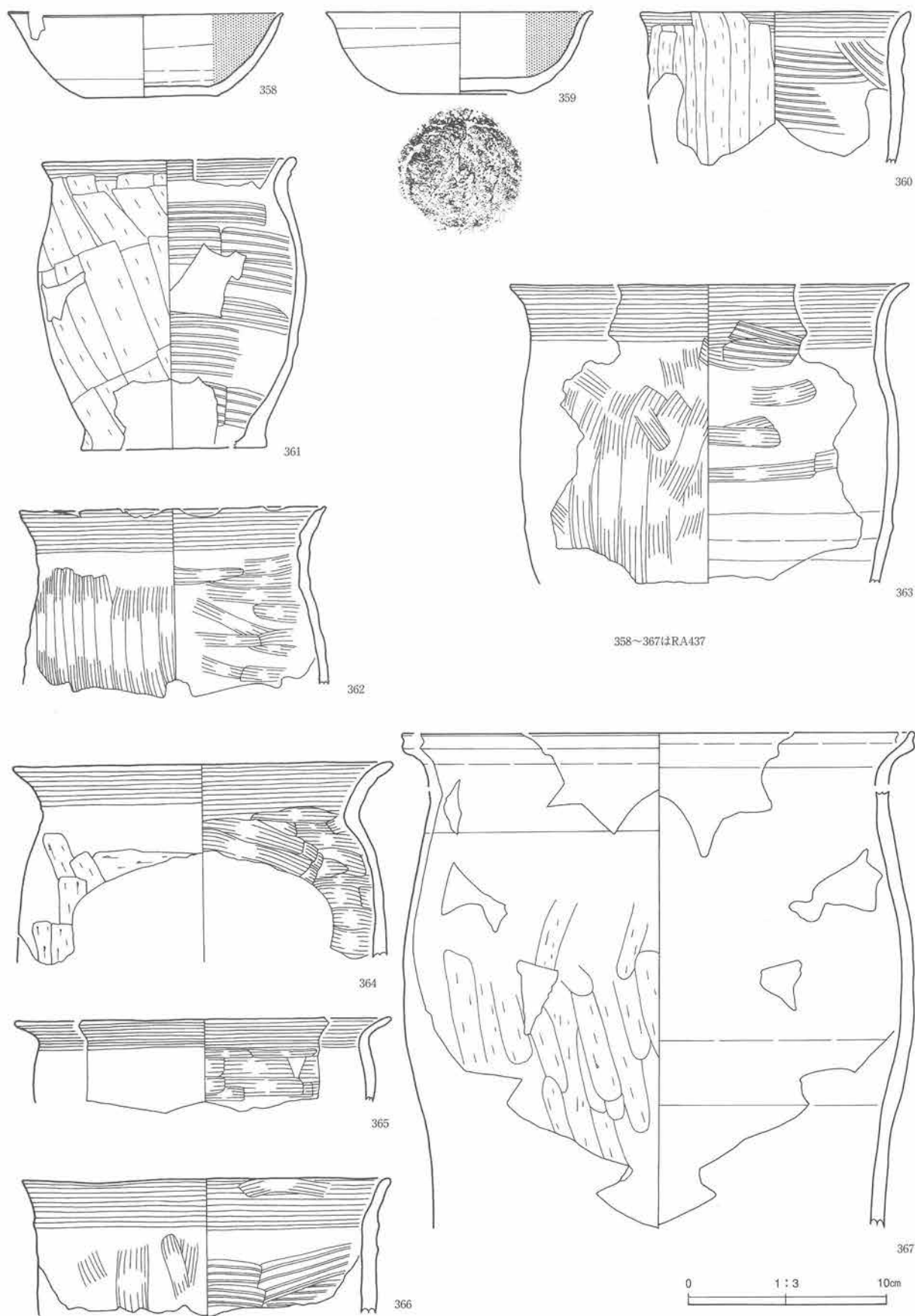
349-352はRA431  
353はRA432  
354・355はRA433  
356・357はRA435



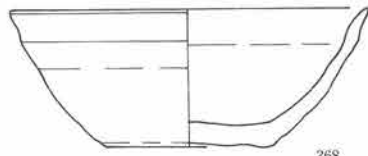
0 1:3 10cm



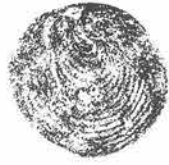
第185図 土師器・須恵器 (36)



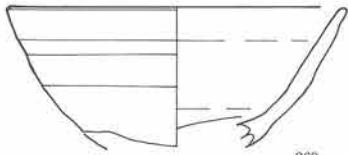
第186図 土師器・須恵器 (37)



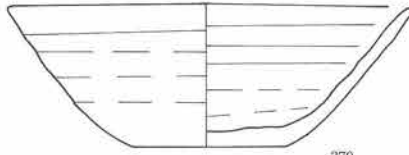
368



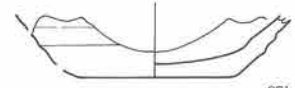
368はRA440  
369~375はRA452  
376はRA398



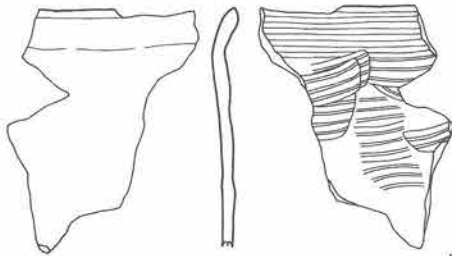
369



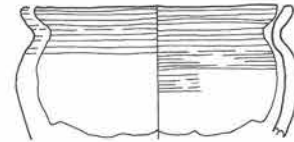
370



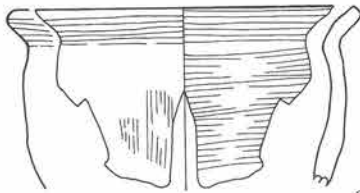
371



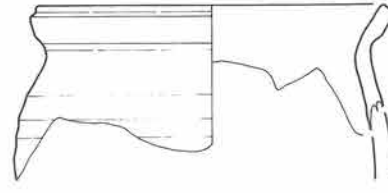
372



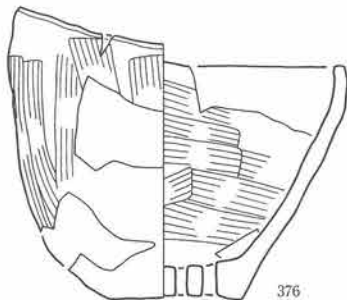
373



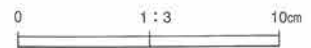
374



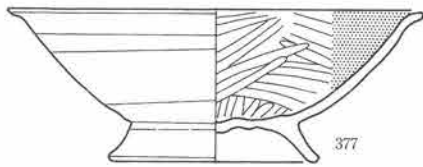
375



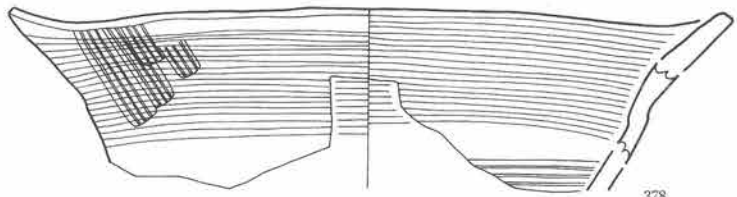
376



第187図 土師器・須恵器 (38)



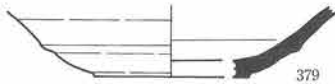
377



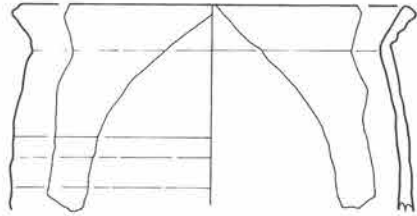
378



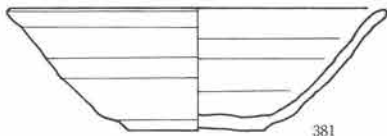
377はRE049  
378はRE050  
379はRD426  
380はRD637  
381~384はRD644  
385~387はRD808  
388・389はRD934



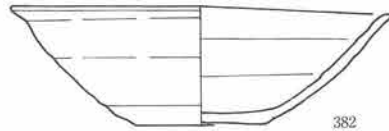
379



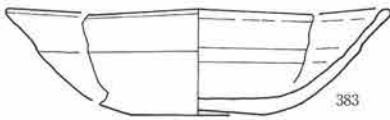
380



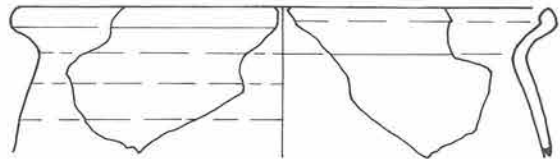
381



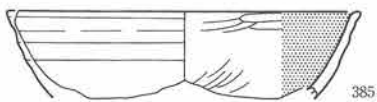
382



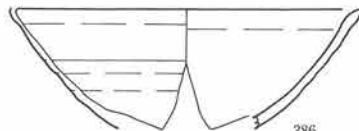
383



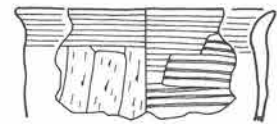
384



385



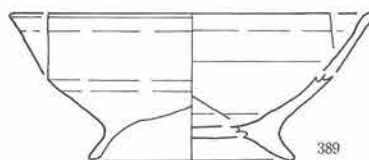
386



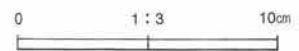
387



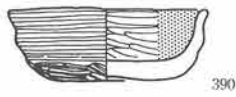
388



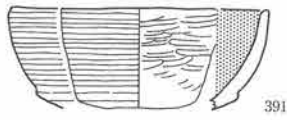
389



第188図 土師器・須恵器 (39)



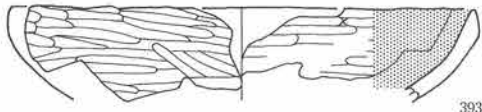
390



391



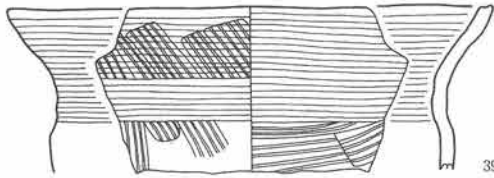
392



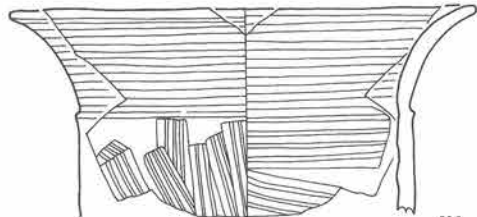
393



394

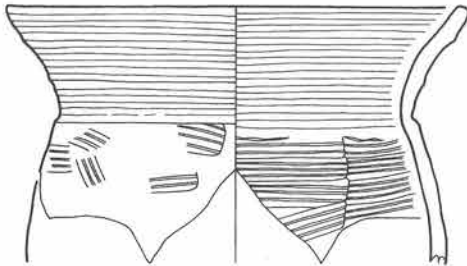


395

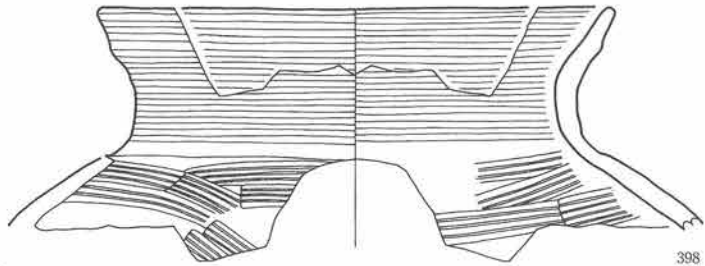


396

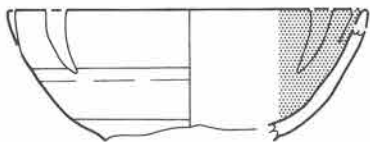
390~395(≠RD988)  
396(≠RD1034)  
397(≠RG045)  
398(≠RG073)  
399~404(≠RG320)



397



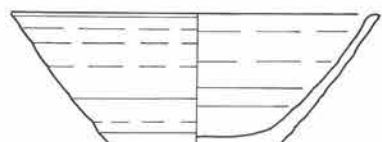
398



399



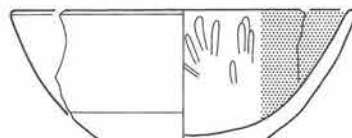
400



401



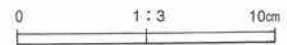
402



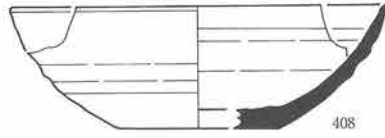
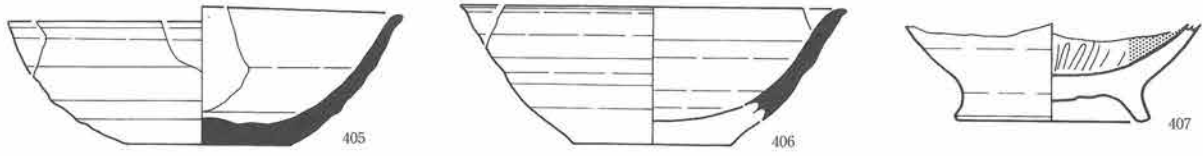
403



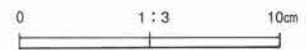
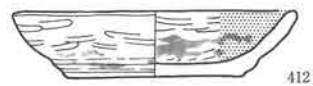
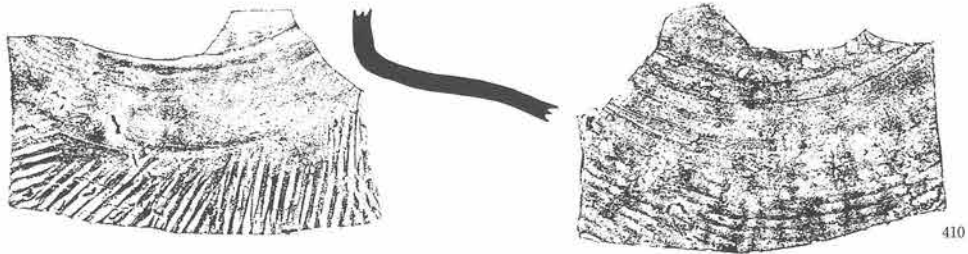
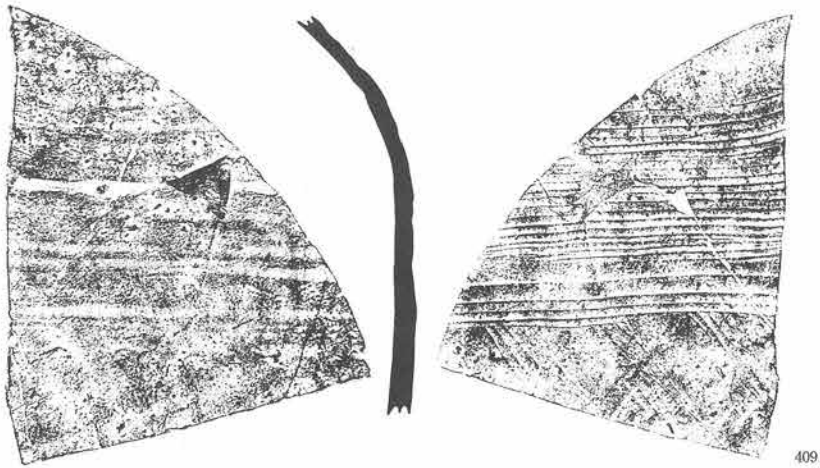
404



第189図 土師器・須恵器 (40)



405~410はRG320  
411はRG338  
412は不明



第190図 土師器・須恵器 (41)

## (2) 陶磁器 (第191・192図・写真図版176・178・179)

今回の26次調査区で近世陶磁器が出土する地点をみると、東から2D・2Cグリッド、2-C・2-Dグリッドがやや多く、これらの地区で検出された遺構及び表土内から出土している。ここでは中近世のみならず、近現代の陶磁器も多量に出土したが本報告にあたり遺構に伴うもの、中近世のものを優先し掲載した。

521染付は見込みに壽字がある皿であろう。520染付の高台裏には「大明成化年製」の銘が見られる。426染付の壘付はやや幅広となっている。428染付碗は見込みを蛇の目釉剥ぎし、口縁部には簡略された雨降り文を施す。430は内面無釉としている。徳利であろうか。433と434陶器碗は同一個体であろう。鉄釉は茶色に発色している。436は腰鏝の碗である。437の高台脇から腰部にかけて2重の沈線が巡っている。438は唐津の皿で長石釉を施している。439の皿は幅広の壘付きで、見込みには何らかの文様と目跡が見られる。440と441はR G 343からの出土である。441には内外面に釉を施しているようで、内面の釉は風化が著しい。442の播鉢は生焼けの状態のものかもしれない。443の播鉢は見込みを平たくつくり口縁への立ち上がりに丸味を持たせずにつくり出している。446播鉢は胎土が軟質で風化が著しい。

## (3) 縄文土器ほか (第193図・写真図版176・177)

出土地点は大きく2カ所に分けられる。第1に遺跡西側に位置するR G 320に流れ込んだもの(413~415)で、時期は後期後葉から晩期に属するとみられる。第2に遺跡南東側の3DグリッドのIV層面から遺構外ではあるもののほぼその場で潰れたような状態で2個体の土器が出土したものである。420は角張った折り返しの口縁部に刺突文を配する甕で、その胴部破片が421・422である。破片はもっと出土したが接合せず、その中から比較的大きい破片を載せている。時期は弥生時代初頭頃だと思われ、県内では北上市金附遺跡の試掘調査でも口縁部に刺突文が巡る甕と変形工字文を配する浅鉢とが出土している(合せ口甕棺)。420~423も出土状況から推察すると合せ口甕棺であったものかもしれないが、周囲には該期の遺構は全く確認することはできなかった。423は胴部(若しくは口頸部)に平行沈線を配している。これも弥生時代初頭に位置付けられると思われる。

## (4) 金属製品 (第194・195図・写真図版180・181)

鉄製品 447は鋤もしくは鍬先で平安時代の住居跡R A 401から出土した。サキは当初から丸く作られていたものと思われる。448は鉄鏃と思われる。先端部は欠損している。449~454は刀子であろう。449には柄に孔をもつ。455は用途不明である。時期は近代以降と思われる。456~463は釘と考えられる。406は管状に曲げたものだが用途は判然としない。465は金具の一部であろうか。

銅製品 467と468は煙管である。

銭貨 出土した銭貨は近代以降のもの以外のすべてを掲載している(第196図・写真図版182)。中世に属するものと近世に属するものがあり、中世の銭貨は墓壙から出土しているものが多い。近世の銭貨は土坑(墓ではない)や溝跡などからの出土が多い。469~471はR D 822に副葬されていたとみられる。471は判

読できなかった。472と473はR D933に副葬されたものと判断されが共に判読できなかった。475は中世墓が密に分布する3 Bグリッドに位置する柱穴P P 657から出土している。

近世の銭貨はすべて寛永通寶であった。この中で479・481・483・485が古寛永である。

#### (5) 土製品ほか (第197図・写真図版180)

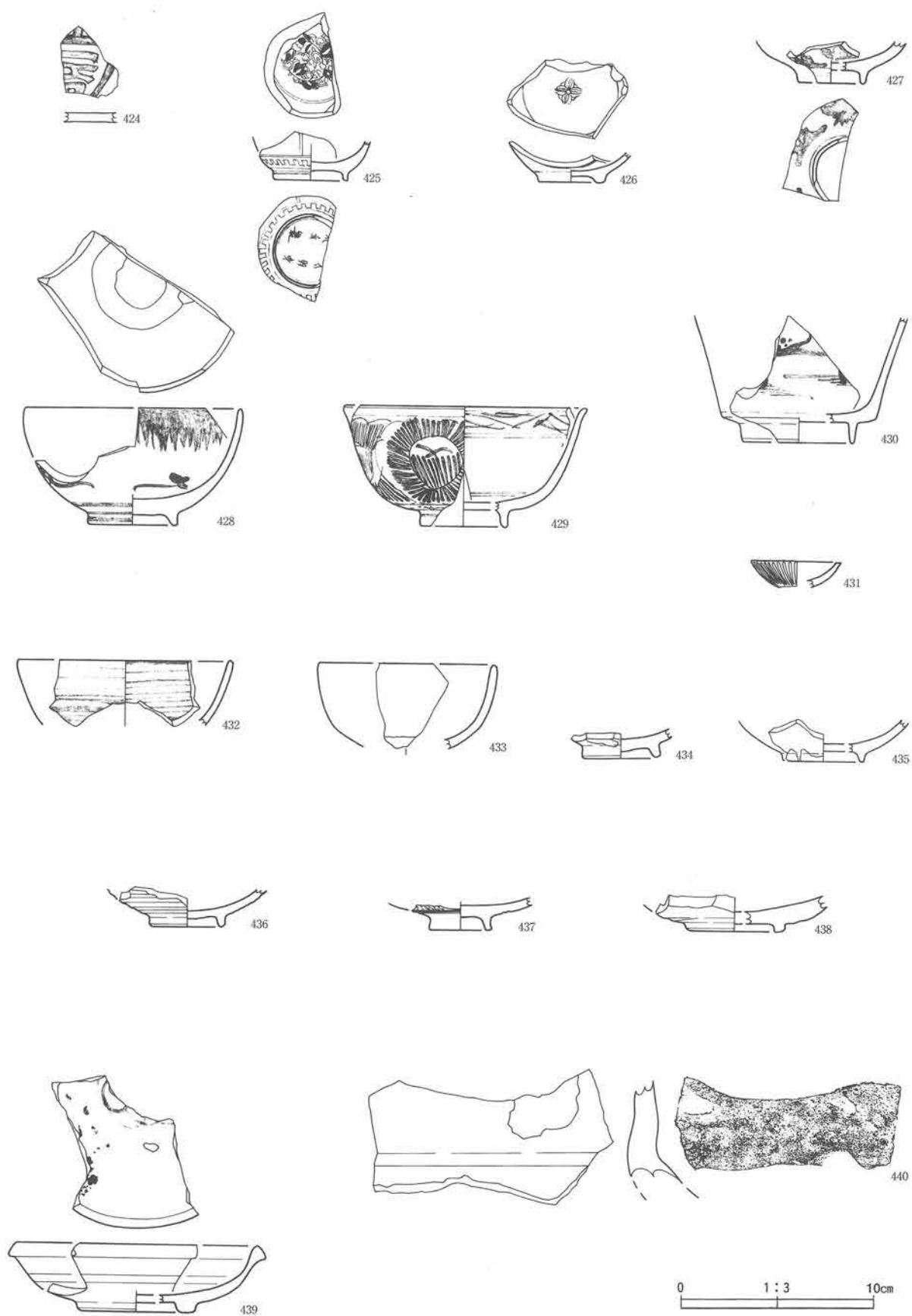
出土した土製品他はそのすべてを掲載している。486の切り子玉には孔の部分に487玉が付いた状態で出土した。488には外面にくまなく刺突を施している。489と490は土製の勾玉である。491～493は環状を基調とする装飾品であろう。494は自然に摩耗して円盤状になったものかもしれない。

495～502は土製紡錘車である。殆どが奈良時代の竪穴住居跡からの出土であった。

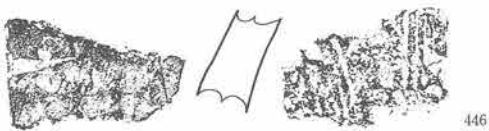
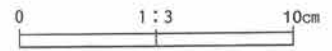
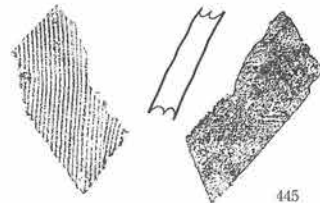
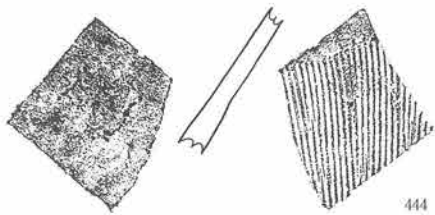
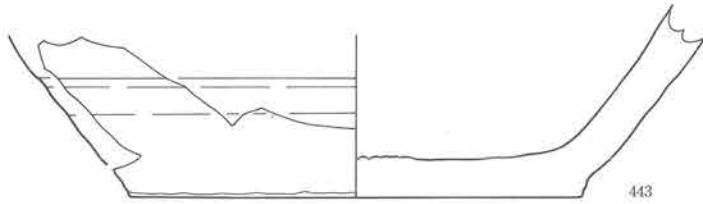
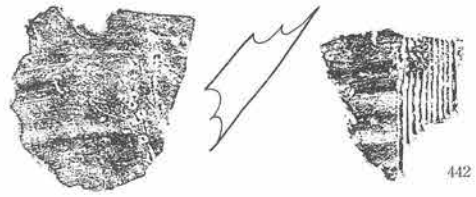
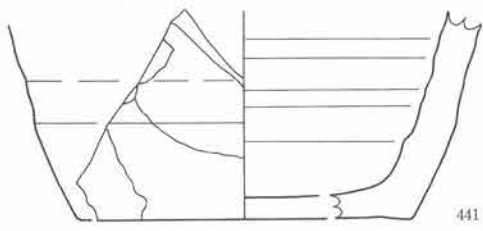
#### (6) 石器・石製品 (第198～201図・写真図版183～186)

503～506は縄文時代の剥片石器である。576は円盤状石製品で端部を両面から打ち欠いて円形に整えている。509～513は砥石である。使用した面が2面以上のものが殆どで510などはかなり使い込まれ身が薄くなっている。515は片面がレンズ状に磨り減り、その反対面の中央には丸い窪みが付いている。516は扁平な方形基調の自然礫の両面ほぼ中央に煤が丸く付着していた。用途は不明である。R A 463の埋土からは多数の礫(径20～40cm前後)が一度に投げ込まれたような状態で出土した。殆どが自然礫であったが、その中で518・519は石皿的に用いられていたものようである。

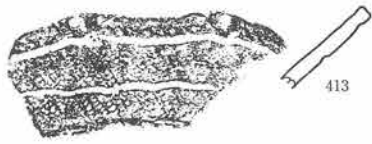




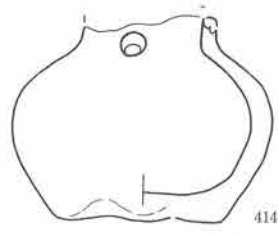
第191图 陶磁器(1)



第192図 陶磁器(2)



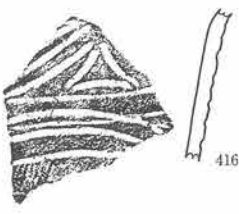
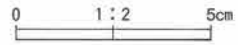
413



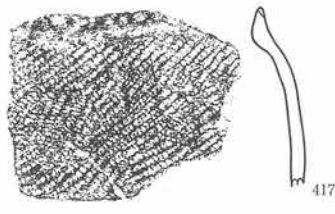
414



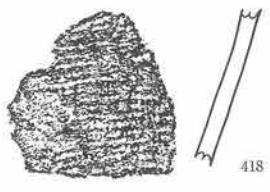
415



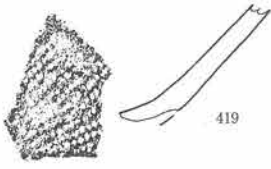
416



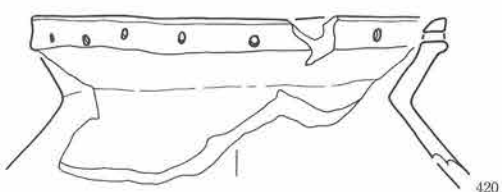
417



418



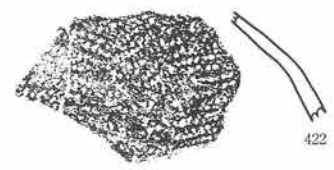
419



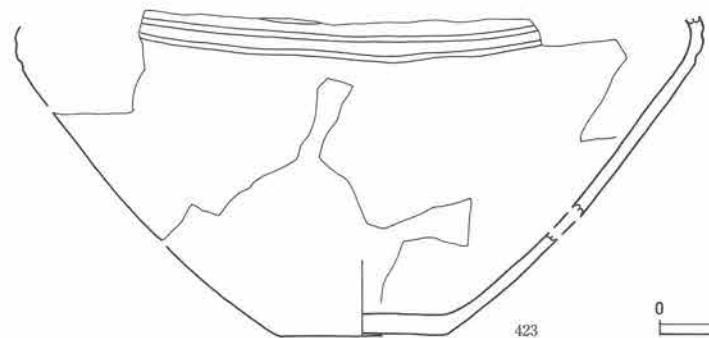
420



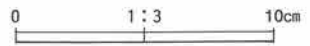
421



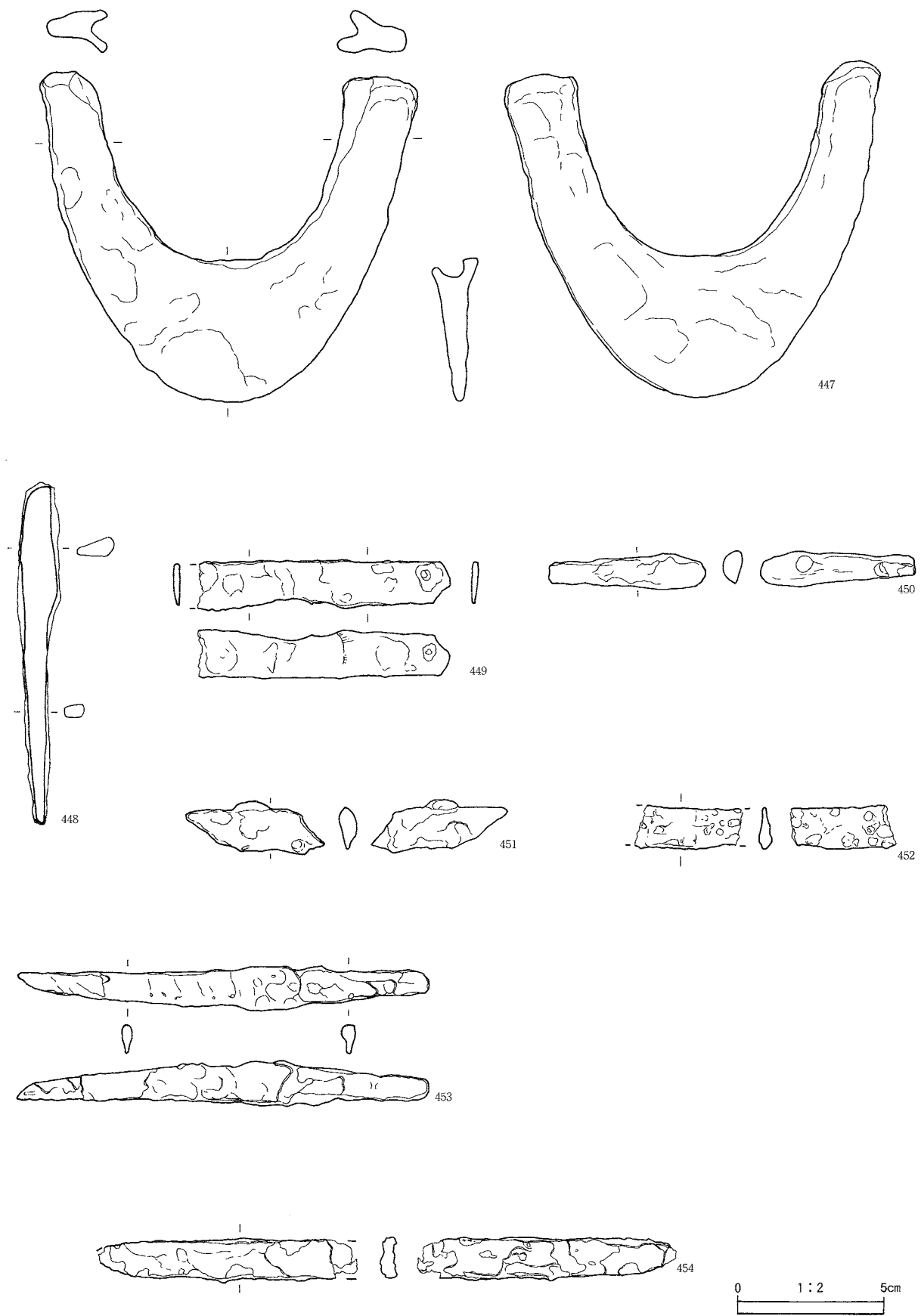
422



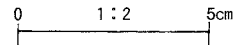
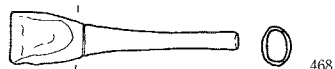
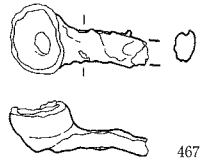
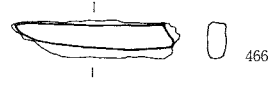
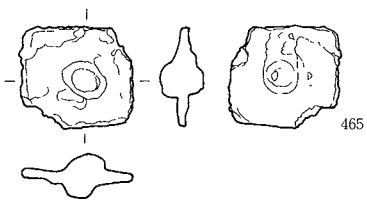
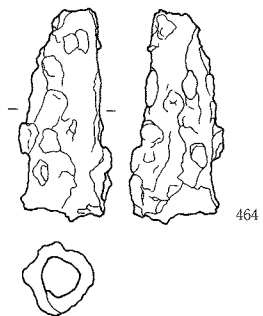
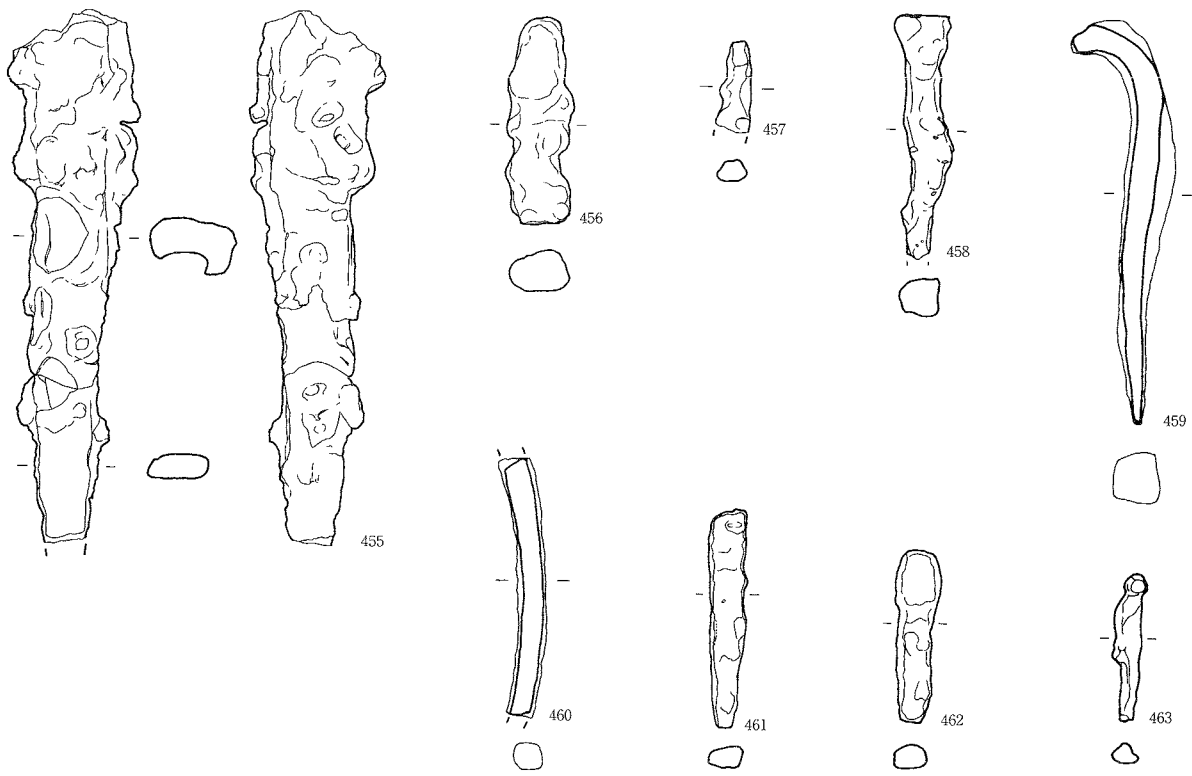
423



第193図 縄文土器



第194図 金属製品 (1)



第195図 金属製品 (2)



469



470



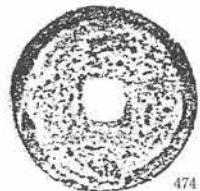
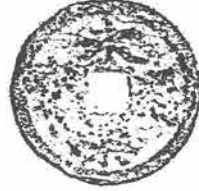
471



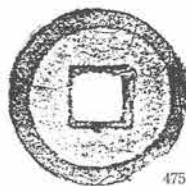
472



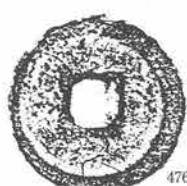
473



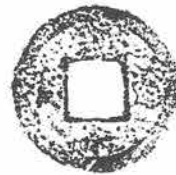
474



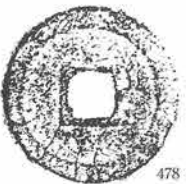
475



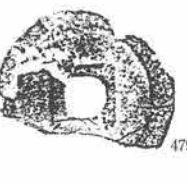
476



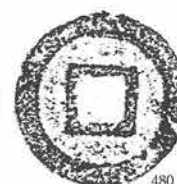
477



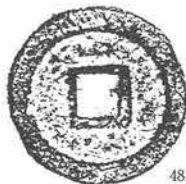
478



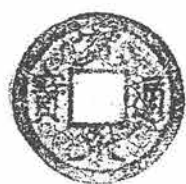
479



480



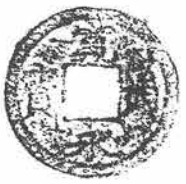
481



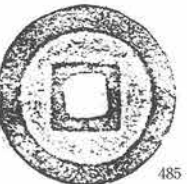
482



483



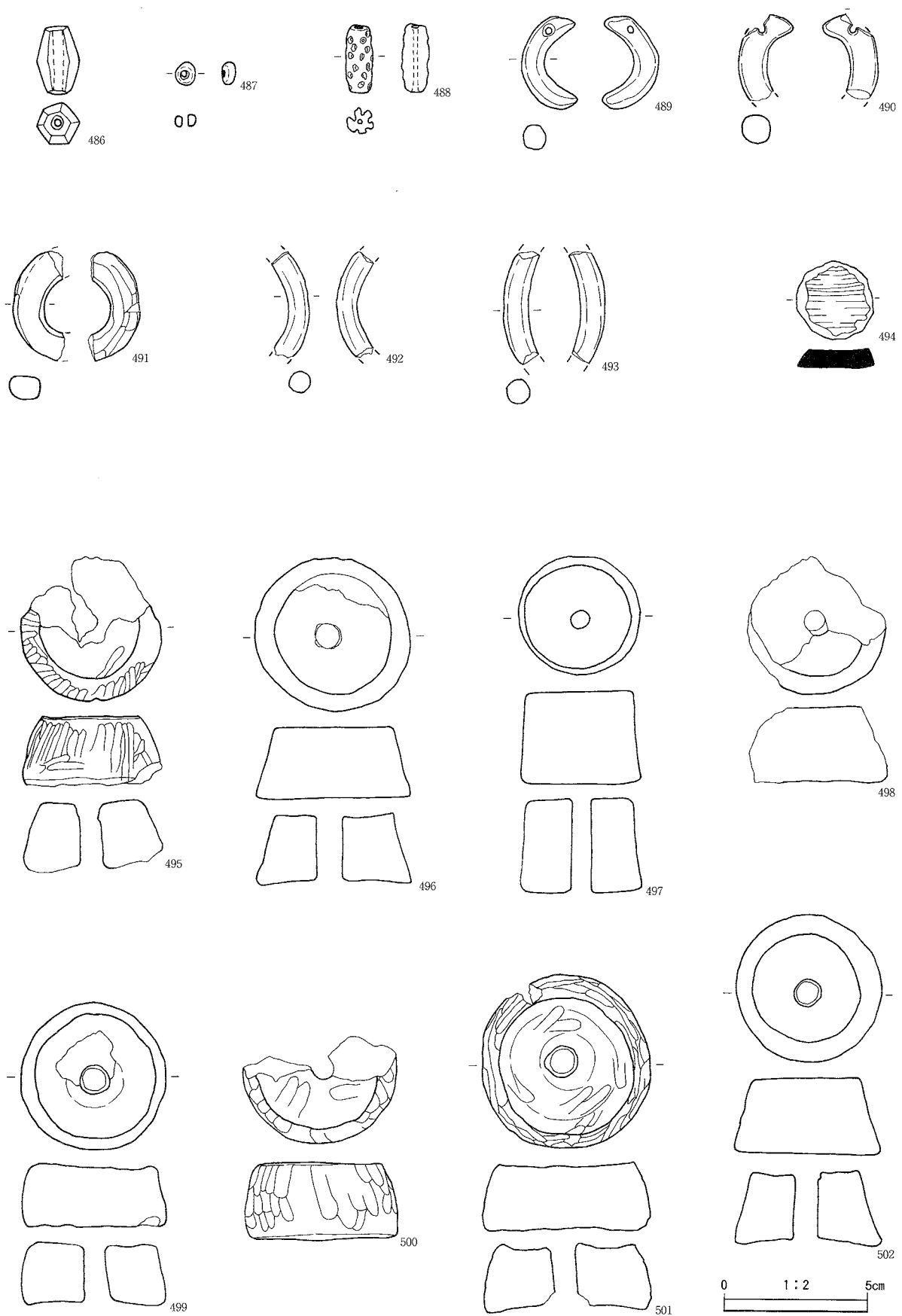
484



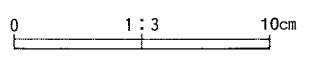
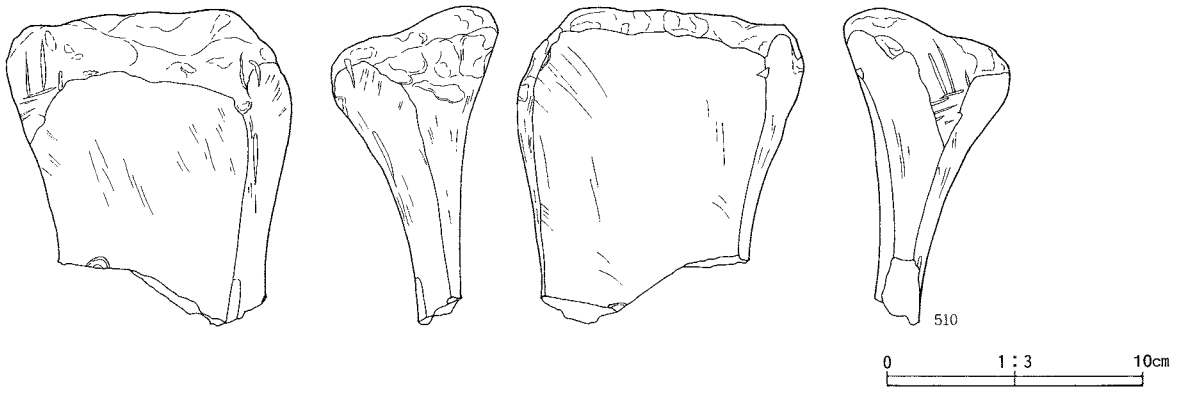
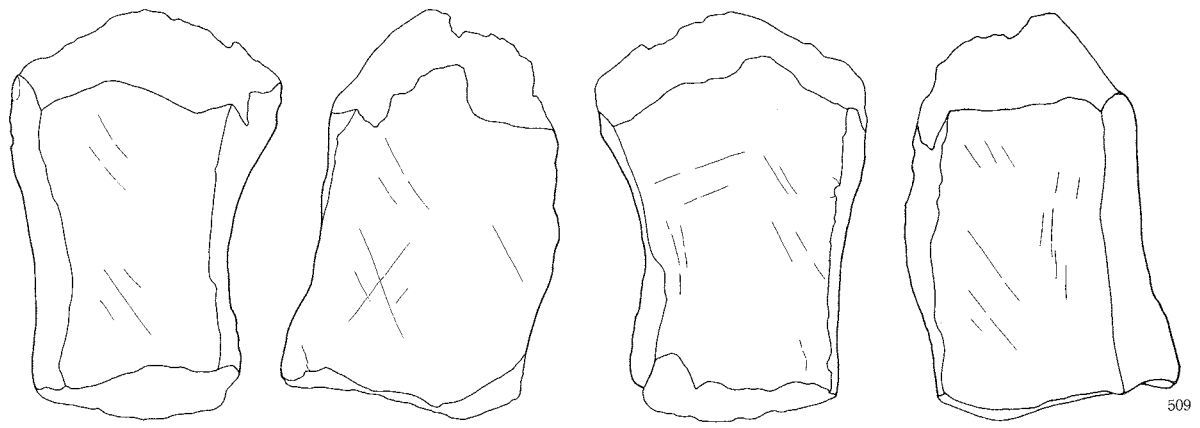
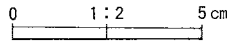
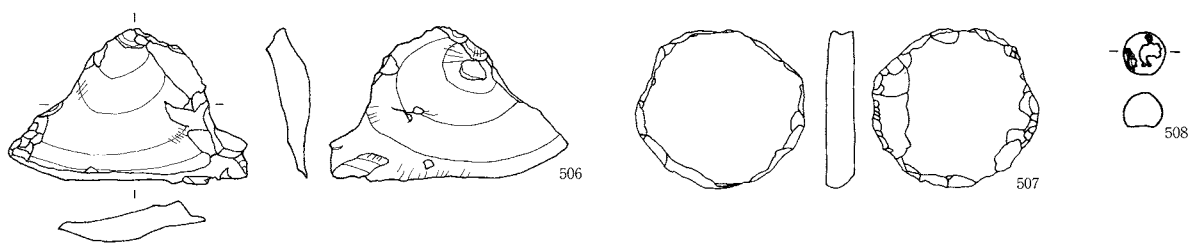
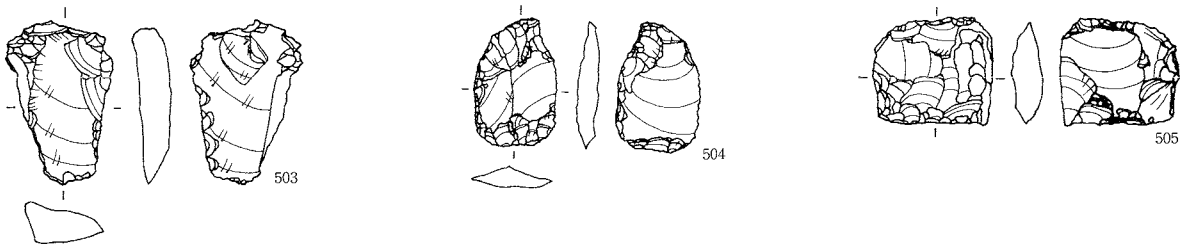
485

1:1

第196図 錢貨

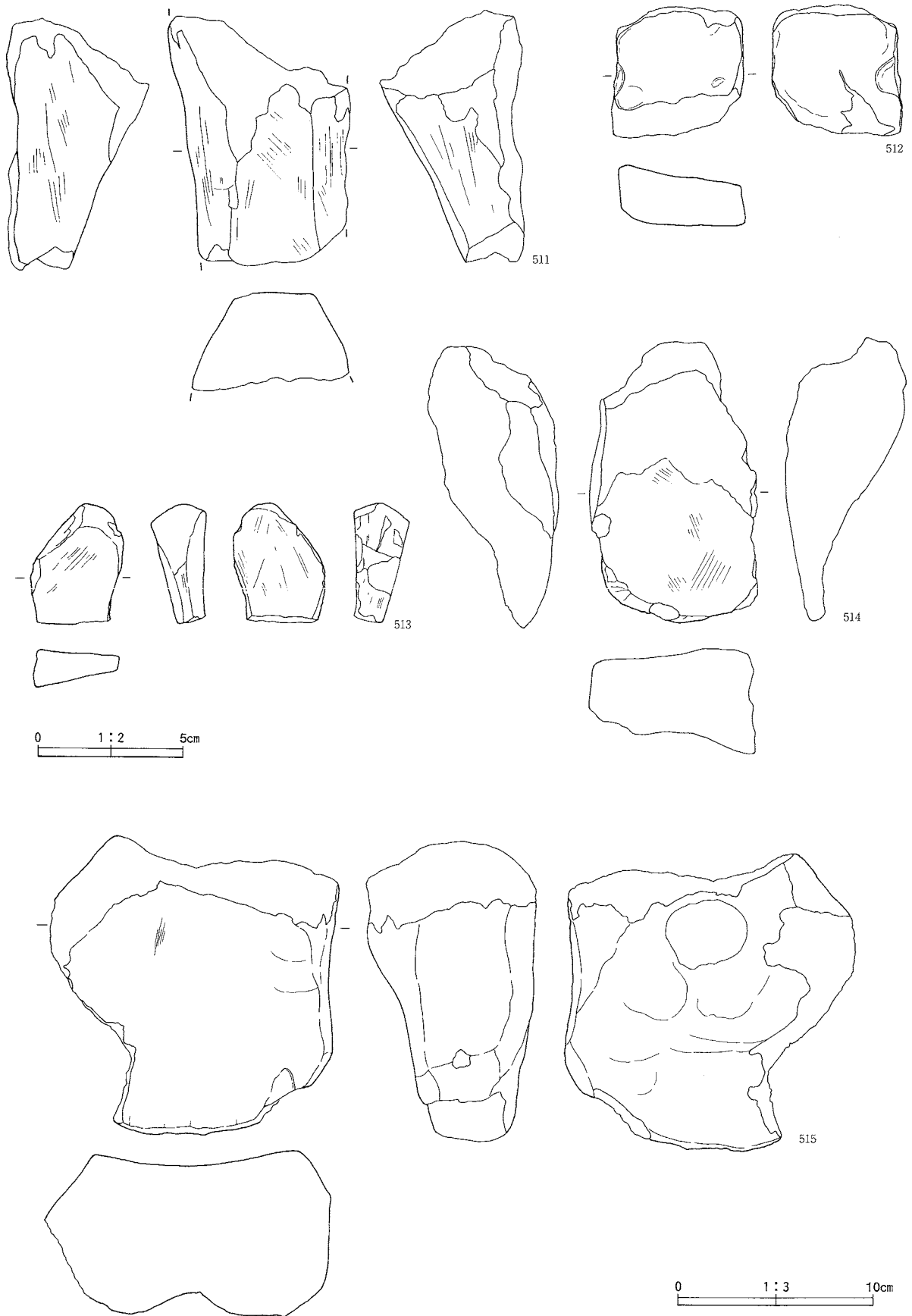


第197图 土製品他

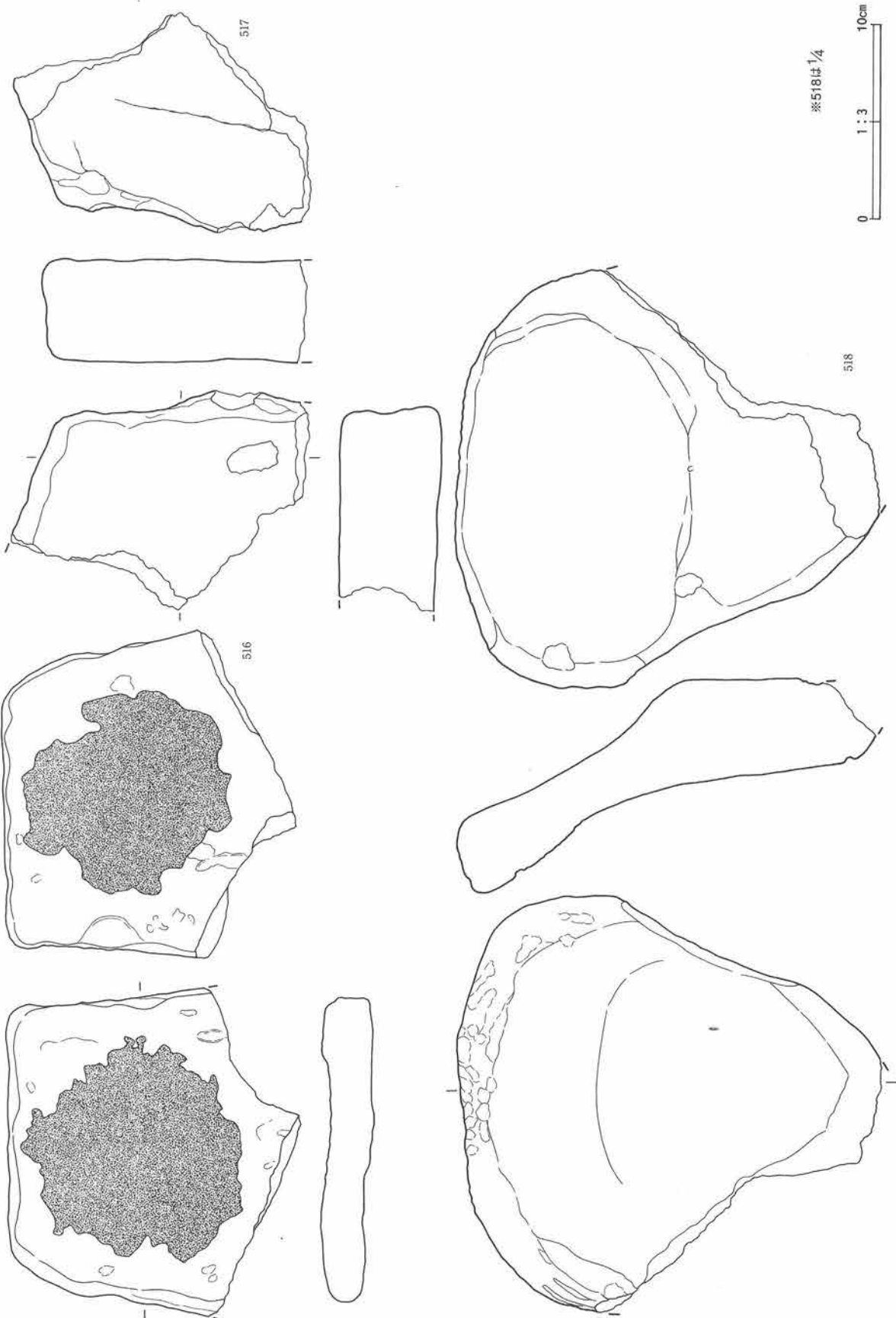


第198図 石器・石製品 (1)

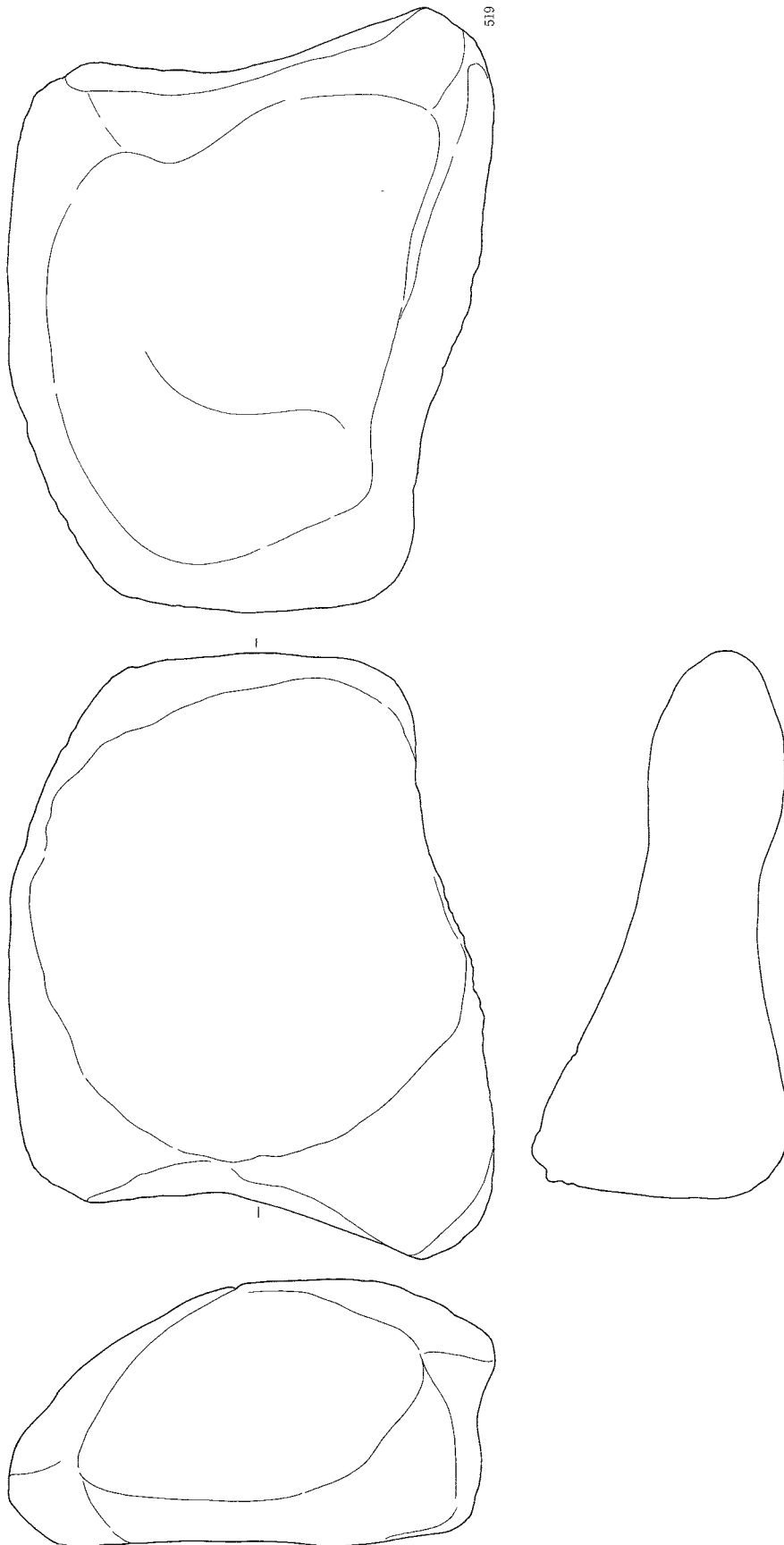




第199図 石器・石製品（2）



第200図 石器・石製品 (3)



第201図 石器・石製品（4）

## 土師器・須恵器観察表

番号＝掲載番号

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
472	1	土師器 長胴甕	RA210カマド 東袖脇	20.2	6.9	27.5	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		浅黄橙	
474	2	土師器 甕	RA210カマド 東袖脇	-	-	-	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
479	3	土師器 甕	RA210カマド 東袖脇	-	6.4	(13.0)			ハケメ		ハケメ		赤褐	
475	4	土師器 鉢	RA210カマド 東袖脇	14.5	-	(14.8)	ハケメ、ヘラナデ			ハケメ			橙	
478	5	土師器 甕	RA210カマド 焚口付近	17.4	8.2	15.5	ヨコナデ	ハケメ		ハケメ			色入る	
477	6	土師器 球胴甕	RA210カマド 東袖脇	18.7	-	(12.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	不明		にぶい 黄褐	
191	7	土師器 環	RA402床面	15.5	9.1	5.6	ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理			黒	
188	8	土師器 環	RA402埋土	12.0	5.7	5.4	不明			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
173	9	土師器 甕	RA402床面	-	8.0	(1.7)			ハケメ			不明		
166	10	土師器 甕	RA402床面	-	9.1	(7.6)			不明			不明	浅黄橙	
184	11	土師器 器種不明	RA402埋土	-	-	-	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	ヘラナデ		浅黄橙	
198	12	土師器 甕	RA405カマド	16.0	-	(4.6)	ヨコナデ			ヨコナデ			浅黄橙	
174	13	土師器 甕	RA405カマド	-	10.0	(2.4)			ハケメ			ヘラナデ	橙	
143	14	土師器 高坏	RA407カマド袖	10.2	6.8	6.1	ヨコナデ、 ヘラミガキ	ヘラケズリ	不明	ヘラミガキ、黒色処理			灰白	
152	15	土師器 球胴甕	RA407埋土	-	-	-	ヨコナデ			ヨコナデ			浅黄橙	
147	16	赤焼き 坏	RA407埋土	13.5	5.0	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
148	17	土師器 甕	RA407カマド 付近	7.8	5.1	9.3	ヘラナデ			ヘラナデ			浅黄橙	
219	18	土師器 甕	RA408・RA409 カマド	-	-	(14.0)		ハケメ		ハケメ			浅黄橙	
220	19	土師器 大型坏	RA409床面	23.6	-	7.3	ヘラケズリ、 ハケメ、 ミガキ	ヘラケズリ		ヘラミガキ、 黒色 処理			黄橙	
55	20	土師器 甕	RA409埋土	11.0	-	(5.3)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙	
98	21	土師器 環	RA410埋土	15.6	-	(4.5)	ヨコナデ、 ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ黒色処理			にぶい 橙	
58	22	土師器 甕	RA410埋土	9.2	-	(4.7)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ			
99	23	土師器 長胴甕	RA410埋土	-	-	(29.7)		ハケメ		ヘラナデ、ハケメ			灰白	
330	24	土師器 甕	RA412埋土	25.3	-	(24.3)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		褐	
455	25	土師器 球胴甕	RA412南東壁 際床	21.4	-	(8.8)	ヨコナデ	ハケメ、 ヘラナデ		ヨコナデ	不明		にぶい 黄橙	
326	26	土師器 環	RA417カマド 焚き口	11.8	6.7	3.6	ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理				
313	27	土師器 環	RA417カマド 燃焼部	14.8	-	4.8	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
333	28	土師器 甕	RA417カマド 燃焼部	-	6.2	(9.2)			ヘラケズリ			ハケメ	橙	
29	29	土師器 球胴甕	RA418埋土	15.8	-	(11.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ			明赤褐	赤色塗彩
344	30	土師器 甕	RA418袖部	-	8.1	(6.1)			ヘラナデ			ヘラナデ	淡橙	
69	31	土師器 環	RA439埋土	15.3	-	3.7	ヨコナデ、 ミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙	
71	32	土師器 環	RA411埋土	10.0	-	3.0	ヨコナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄橙	
68	33	土師器 環	RA411 P17	8.6	6.2	1.9	ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理			黒	
66	34	土師器 環	RA 441 埋土	14.6	8.4	3.0	不明			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
314	35	土師器 高坏	RA461埋土 中央	17.7	-	(8.0)	ヨコナデ	ハケメ		ヘラミガキ黒色処理		ハケメ	灰白	

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下		
231	36	土師器 高坏	RA441東南 柱穴	-	-	(2.8)	不明						浅黄	
316	37	土師器 壺	RA441北西 壁際床面	-	-	(8.0)		ハケメ			ヘラナデ		にぶい 橙	
78	38	土師器 球胴甕	RA411埋土	21.5	-	(11.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
315	39	土師器 甕	RA441埋土	21.5	7.2	32.0	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
80	40	土師器 甕	RA411床面	21.2	-	(5.0)	ヨコナデ			ヨコナデ			にぶい 橙	
299	41	土師器 甕	RA411床面 南側	-	8.8	(27.9)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ		黄橙	
102	42	土師器 甕	RA441南側壁際、 埋土、カマド周辺	23.6	-	(13.5)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙	
72	43	土師器 甕	RA441床面 南側	-	-	-	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
320	44	土師器 坏	RA442カマド 際	10.9	-	3.3	ヘラミガキ、黒色処理		ヘラミガキ、黒色処理				灰	
317	45	土師器 坏	RA442カマド 北袖	13.4	-	(4.1)	不明			ヘラミガキ黒色処理			浅黄橙	
318	46	土師器 坏	RA442カマド	15.2	-	(4.3)	ヘラミガ キ	不明		ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄橙	
321	47	土師器 坏	RA422カマド 西端部	16.0	4.5	5.0	不明		ヘラミガキ、黒色処理					
322	48	土師器 坏	RA442カマド 近	15.8	-	5.1	ヨコナデ	不明		ヘラミガキ、黒色処理			橙	
319	49	土師器 坏	RA442カマド 前	-	-	(1.5)			不明			ヘラミガ キ、黒色 処理	明黄橙	底部線刻 「×」
77	50	土師器 甕	RA442埋土	19.2	-	(9.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
325	51	土師器 甕	RA442カマド 南西部	13.6	-	(11.0)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 明褐	
463	52	土師器 球胴甕	RA442埋土	19.3	-	(12.3)	ヨコナデ	ハケメ		ハケメ	ヘラナデ		黄橙	
464	53	土師器 甕	RA443埋土	19.0	-	(14.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		浅黄橙	
467	54	土師器 坏	RA444埋土	15.8	-	(4.3)	不明		ヘラミガキ、黒色処理				にぶい 黄橙	外底に線刻 「×」
468	55	土師器 甕	RA444カマド 北袖	20.0	-	(27.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
469	56	土師器 甕	RA444カマド 北袖、煙道	18.8	-	(20.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 褐	
465	57	土師器 甕	RA444カマド 北袖	16.8	-	(20.6)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ		にぶい 黄橙	
466	58	土師器 甕	RA444カマド 北袖	11.6	-	(5.8)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
355	59	土師器 坏	RA455カマド 上	12.1	5.3	5.6	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明		浅黄橙	
360	60	土師器 甕	RA445埋土	17.0	-	(21.8)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		橙	
470	61	土師器 長胴甕	RA445埋土	19.5	-	(30.3)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		浅黄橙	
362	62	土師器 甕	RA445埋土	-	8.2	(10.8)		ヘラナデ			ハケメ			
363	63	土師器 球胴甕	RA445カマド 北東脇	18.0	-	(10.5)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明			
359	64	土師器 球胴甕	RA445埋土	17.7	-	(9.0)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明		にぶい 黄橙	
366	65	土師器 球胴甕	RA445カマド 北東脇	-	-	(11.2)		ヘラナデ			ハケメ		明黄褐	赤色塗彩
354	66	土師器 坏	RA447埋土	9.4	4.0	3.1	ヨコナデ	不明		不明			浅黄橙	
364	67	土師器 坏	RA447埋土	9.9	-	(4.0)	不明		不明				浅黄橙	
349	68	土師器 坏	RA447埋土	16.4	-	(3.4)	ヘラミガキ		ヘラミガキ、黒色処理				橙	
357	69	土師器 坏	RA447埋土	13.4	-	(6.0)	ヘラミガキ黒色処理		ヘラミガキ黒色処理				褐灰	
312	70	土師器 坏	RA447床面 73と共に	14.4	-	4.9	ヘラミガキ		ヘラミガキ、黒色処理				黒	
350	71	土師器 坏	RA447埋土	15.4	-	4.6	不明		ヘラミガキ、黒色処理				橙	調整不明瞭

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下		
347	72	土師器 杯	RA447埋土	16.8	-	(5.3)	ハケメか			ヘラミガキ黒色処理			浅黄橙	
361	73	土師器 大型杯	RA447床面 70と共に	22.0	-	8.2	ヨコナデ、 ミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ、黒色処理			黄橙	
353	74	土師器 高杯	RA447埋土	12.6	-	(4.6)	ヨコナデ	不明		ヘラミガキ黒色処理				
352	75	土師器 高杯	RA447埋土	-	-	(4.0)			ヘラナデ			不明	にぶい 黄橙	
310	76	土師器 壺	RA447東壁際 床面	7.0	7.1	12.7	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ			橙	
351	77	土師器 甗	RA447埋土	18.9	-	(11.6)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	不明		にぶい 黄橙	
471	78	土師器 甗	RA447埋土	18.7	-	(15.6)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		褐灰	
356	79	土師器 甗	RA447床面	16.4	-	(12.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
358	80	土師器 球胴甗	RA447付属RE 050内	31.4	-	(6.2)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		浅黄橙	
390	81	土師器 長胴甗	RA448中央床 面	19.8	8.0	32.2	ハケメ、 ヘラナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		明黄褐	
311	82	土師器 甗	RA448カマド 東袖脇	17.1	(7.4)	24.1	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄褐	
392	83	土師器 甗	RA448南東側 床面	14.0	6.6	18.1	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメ	浅黄橙	
309	84	土師器 球胴甗	RA448カマド 東袖脇	15.6	8.0	19.5	ヨコナデ	ハケメ、 ヘラミガ キ	ヘラミガ キ	ヨコナデ	ヘラナデ			倒立した状 態で出土
393	85	土師器 球胴甗	RA448埋土	24.8	-	(14.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙	
391	86	土師器 球胴甗	RA448カマド 周辺	-	7.4	(6.6)			不明			不明	橙	
324	87	土師器 杯	RA449埋土	-	-	-	ヨコナデ			ヘラミガ キ、黒色 処理			にぶい 黄橙	
323	88	赤焼き 甗	RA449埋土	21.5	-	(6.3)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 橙	
164	89	土師器 甗	RA449床面	21.2	7.7	32.5	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄橙	
228	90	土師器 杯	RA451南東床 面	15.9	-	5.2	ヘラミガキ、黒色処理			ヘラミガキ、黒色処理			黒	
226	91	土師器 杯	RA451南東床 面	16.0	-	5.4	ヨコナデ	不明	不明	ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄橙	
227	92	土師器 杯	RA451南東床 面	15.0	2.4	6.8	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	不明			にぶい 橙	
222	93	土師器 甗	RA451カマド 東脇床	18.5	-	(14.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 褐	
308	94	土師器 甗	RA451北東壁 際床面	17.3	6.8	24.7	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ	不明	灰褐	
306	95	土師器 甗	RA451床面	17.8	7.2	23.9	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		灰褐	
224	96	土師器 球胴甗	RA451カマド 東脇床	-	7.1	(19.0)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ		浅黄橙	
225	97	土師器 球胴甗	RA451床面	-	7.0	(17.8)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ		にぶい 褐	
300	98	土師器 球胴甗	RA451北東壁 際床面	-	7.0	(7.1)			ミガキ?			ヘラナデ		
307	99	土師器 甗	RA451南東床 面	17.8	8.0	(18.8)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	不明	にぶい 黄橙	
381	100	土師器 杯	RA486埋土は RA456埋土確 認済み	14.0	7.2	(3.7)	不明			不明			浅黄橙	
377	101	土師器 杯	RA457埋土	15.6	-	(3.8)	不明			ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄橙	
382	102	土師器 甗	RA457埋土	15.5	-	(8.6)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
373	103	土師器 甗	RA459南東壁 際床面	25.2	-	(12.8)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		明黄褐	
375	104	土師器 甗	RA459床面	-	-	-	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
370	105	土師器 甗	RA459南東壁 際床面	-	8.0	(10.0)			ヘラケズ リ			ハケメ	褐灰	
379	106	土師器 器種不明	RA460埋土	16.8	-	(5.1)	不明			不明			浅黄橙	

仮番	番号	種類器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下		
385	107	土師器 壺	RA460西側埋 土	12.0	-	(4.2)	ヨコナデ	不明		ヘラミガキ、黒色処理			褐灰	
458	108	土師器 甕	RA460西側埋 土	12.8	-	(6.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		灰白	
374	109	土師器 壺	RA460西側埋 土	10.2	-	(7.6)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙	
383	110	土師器 甕	RA460西側埋 土	19.1	-		ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
386	111	土師器 甕	RA460西側埋 土	-	7.8	(9.5)			ハケメ			ハケメ	にぶい 橙	
229	112	土師器 球胴甕	RA460南西隅 床面	19.4	-	(20.1)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	赤色塗彩
371	113	土師器 球胴甕	RA460南西隅 床面	-	7.8	(3.9)			不明			不明	にぶい 黄橙	
303	114	土師器 壺	RA461埋土	15.4	-	(3.1)	不明			ヘラミガキ黒色処理			浅黄橙	
301	115	土師器 甕	RA461埋土	-	6.8	(7.0)			ヘラナデ			ハケメ	にぶい 橙	
1	116	土師器 壺	RA214煙出底	12.3	6.4	5.0	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理				墨書
548	117	土師器 壺	RA214床面	-	-	-	ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理				墨書
456	118	土師器 壺	RA214埋土	16.2	-	(5.5)	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄橙	
214	119	土師器 壺	RA214埋土	12.9	5.8	5.5	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
457	120	赤焼き 壺	RA214埋土	13.8	5.4	6.2	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
2	121	土師器 高台付 壺	RA214床面	-	8.6	(3.6)	ロクロナデ				ヘラミガ キ、黒色 処理			
434	122	須恵器 壺	RA214床面	16.0	-	(3.6)	ロクロナデ			ロクロナデ			オリ ーブ 灰	
440	123	須恵器 壺	RA214埋土	11.2	-	(5.6)	ロクロナデ			ロクロナデ			黒	
4	124	土師器 鉢類か	RA214埋土	-	7.6	10.6		ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理		にぶい 黄橙	
20	125	赤焼壺	RA312床面	14.4	6.2	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
8	126	赤焼壺	RA312埋土	14.2	5.8	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
15	127	赤焼壺	RA312埋土	14.0	7.2	5.1	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
9	128	赤焼き 壺	RA312埋土	13.8	5.1	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
5	129	赤焼壺	RA312カマド	15.0	5.2	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
14	130	赤焼壺	RA312北西隅 床面	13.6	5.6	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
22	131	赤焼き 壺	RA312カマド	15.1	6.4	5.7	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
18	132	赤焼壺	RA312カマド 南袖	14.2	5.5	5.1	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
7	133	赤焼壺	RA312床面	14.4	6.0	6.5	ロクロナデ			ロクロナデ				
21	134	赤焼き 壺	RA312煙出	15.6	5.4	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
10	135	赤焼壺	RA312埋土	16.0	6.4	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
438	136	須恵器 壺	RA312埋土	-	6.0	(3.1)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	灰	
23	137	須恵器 壺	RA312埋土	14.5	4.9	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
453	138	須恵器 壺	RA312北壁際 床面	14.1	5.0	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
452	139	須恵器 壺	RA312カマド 南袖	14.6	5.5	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
17	140	須恵器 壺	RA312埋土	15.7	5.4	5.4	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
436	141	須恵器 壺	RA312埋土	14.8	5.4	4.1	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
437	142	須恵器 壺	RA312埋土	-	5.5	(1.9)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	灰	
435	143	須恵器 壺	RA312床面	14.8	-	(4.0)	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	

仮番	番号	種類器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
433	144	須恵器 高台付 坏	RA312床面	15.6	7.5	6.1	ロクロナデ			ロクロナデ			灰	
459	145	土師器 高台付 坏	RA312埋土	-	8.0	(2.5)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	黒	外面も黒色 処理か
460	146	赤焼き 甕	RA312カマド 付近埋土	19.6	-	(31.5)	ロクロナ デ	ヘラケズリ		ロクロナ デ	カキメ	ロクロナ デ	橙	
221	147	赤焼き 甕	RA312南壁隅 床掘り込み	20.6	8.5	32.4	ロクロナ デ	ヘラケズリ		ロクロナ デ	ハケメ		橙	
12	148	赤焼き 甕	RA312煙出	22.2	-	22.5	ロクロナ デ	ヘラナデ ・ヘラケ ズリ		ロクロナ デ	ヘラナデ		にぶい 赤褐	
11	149	赤焼き 甕	RA312埋土	21.8	-	(6.1)	ロクロナデ			ロクロナデ				
16	150	赤焼き 甕	RA312カマド	-	7.4	(6.3)		ロクロナ デ	ヘラケズ リ		ロクロナデ			底糸切痕
19	151	土師器 甕	RA312カマド	-	7.0	(5.1)			ヘラケズ リ			ヘラナデ	にぶい 黄橙	
25	152	赤焼き 鉢	RA312焚き口 付近床面	31.1	-	(10.4)	ロクロナ デ	ロクロナ デ、ヘラ ケズリ		ヘラナデ			にぶい 橙	
429	153	須恵器 壺	RA312床面	12.0	-	(7.2)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			暗褐灰	
6	154	土師器 甕	RA316埋土中 位東壁付近	-	-	(14.8)		ヘラナデ			ヘラナデ		黄橙	
3	155	土師器 甕	RA316埋土	-	8.7	(4.1)			ハケメ			ハケメ	橙	
82	156	赤焼き 坏	RA397埋土	15.2	6.0	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
81	157	赤焼き 高台付 坏	RA397埋土	14.6	7.0	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
90	158	土師器 甕	RA397埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
83	159	土師器 甕	RA397埋土	18.2	-	(6.4)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ			
85	160	土師器 甕	RA397埋土	12.5	-	(5.1)	ヨコナデ、 ヘラナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ			
95	161	土師器 小甕	RA397	10.4	-	(5.4)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ			
91	162	土師器 甕	RA397床直	-	13.0	(2.0)			不明			ヘラナデ	にぶい 黄橙	
439	163	須恵器 甕	RA397埋土	-	14.4	(7.5)			ヘラケズ リ			ナデ	灰白	
217	164	土師器 坏	RA399カマド	13.8	6.0	4.8	ロクロナデ		ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	底ヘラ切り
213	165	土師器 坏	RA399埋土	14.0	5.6	5.2	ロクロナデ		ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙	底回転ヘラ 切り
87	166	土師器 坏	RA399埋土	14.1	5.2	5.1	ロクロナデ		ヘラケズ リ	ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄橙	
84	167	土師器 坏	RA 399 埋土	13.0	5.4	4.7	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			灰黄	
212	168	土師器 坏	RA399埋土	14.0	5.0	4.7	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄	
206	169	赤焼坏	RA399埋土	14.6	4.5	4.3	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
204	170	赤焼き 坏	RA399カマド	14.0	4.4	4.7	ロクロナデ			ヨコナデ			浅黄橙	
96	171	赤焼き 坏	RA399焚き口 付近	14.0	-	4.2	ロクロナデ			ロクロナデ				
97	172	赤焼き 坏	RA399焚き口 付近	14.5	-	(4.3)	ロクロナデ			ロクロナデ				
216	173	須恵器 坏	RA399カマド	15.7	5.0	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
215	174	赤焼高 台付 坏	RA399埋土	-	7.0	(1.9)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	にぶい 黄橙	
86	175	土師器 甕	RA399カマド	12.5	-	(9.6)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ハケメ			
208	176	土師器 甕	RA399埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄橙	
207	177	土師器 甕	RA399カマド	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	



仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下		
211	178	土師器 甕	RA399埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ、 ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
210	179	土師器 甕	RA399埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ハケメ			にぶい 橙	
89	180	赤焼き 甕	RA399埋土	19.8	-	(16.2)	ロクロナ デ	ロクロナ デ、ケズリ		ロクロナ デ			橙	
209	181	赤焼き 甕	RA99カマド	18.0	-	(7.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			明褐	
94	182	土師器 甕	RA399埋土	-	9.2	5.4			ヘラケズ リ			ヘラナデ	浅黄	
88	183	赤焼き 甕	RA399焼き口 付近	-	-	-	ロクロナ デ	ロクロナ デ、ケズリ		ロクロナデ			にぶい 橙	
192	184	土師器 甕	RA401内Pit 1 埋土	-	8.0	(5.8)			ヘラナデ ・ヘラケ ズリ			ハケメ	橙	
93	185	土師器 甕	RA399埋土	-	7.7	(4.0)			ヘラケズ リ			ヘラナデ	暗赤灰	
177	186	赤焼き 坏	RA400北壁床 面	14.3	5.4	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
178	187	赤焼き 坏	RA400床直焼 土	14.5	5.7	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
168	188	赤焼き 坏	RA400埋土	15.3	5.0	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
203	189	土師器 器種不明	RA400埋土	12.1	-	(9.6)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄橙	
202	190	土師器 甕	RA400埋土	-	-	-	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄褐	
430	191	須恵器 壺	RA400埋土	-	-	(13.5)		ロクロナ デ	ヘラケズ リ		ロクロナデ		黄灰	
171	192	土師器 坏	RA401内Pit 1 埋土	14.2	6.3	4.2	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄褐	
441	193	須恵器 大甕	RA400埋土					タタキ			タタキ		黄灰	
179	194	土師器 坏	RA401床面	14.5	6.6	5.6	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			橙	
169	195	土師器 坏	RA401床面	14.5	6.0	4.6	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
183	196	土師器 坏	RA401床面	15.2	6.4	4.3	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
176	197	赤焼き 坏	RA401埋土	13.6	5.8	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
190	198	赤焼き 坏	RA401床面	13.2	6.9	4.2	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
194	199	赤焼き 坏	RA401内Pit 1 埋土	14.0	5.8	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
193	200	赤焼き 坏	RA403北側カ マド	15.1	5.9	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
160	201	土師器 甕	RA401カマド 北脇床面	20.8	-	(22.8)	ヨコナデ	ヘラケズ リ・ヘラ ナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		明赤褐	
187	202	土師器 甕	RA401カマド	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
180	203	土師器 甕	RA401埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		灰黄褐	
197	204	土師器 甕	RA401カマド 周辺	21.0	-	(13.3)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ		浅黄橙	
162	205	土師器 甕	RA401カマド 北脇床面	-	10.1	(6.3)			ヘラケズ リ			ヘラナデ		
189	206	赤焼き 甕	RA401埋土	13.0	-	(5.6)	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
196	207	赤焼き 甕	RA401焼土内 床面	23.6	-	(11.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
182	208	赤焼き 甕	RA401床面	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			浅黄橙	
442	209	須恵器 甕	RA401埋土					タタキ					褐灰	
199	210	須恵器 甕	RA401カマド 南脇床面					タタキ			アテ具			
170	211	土師器 坏	RA403床面	14.0	6.4	4.2	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			黄橙	

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
167	212	赤焼き 坏	RA403南カマ ド燃焼部	14.9	6.0	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
181	213	赤焼き 坏	RA403床面	13.6	-	(4.5)	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
172	214	赤焼高 台付 坏	RA403床面	-	9.3	(3.1)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	浅黄橙	
195	215	土師器 甕	RA403南カマ ド・床面	20.5	-	(18.2)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙	
201	216	土師器 甕	RA403北カマ ド煙道	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 褐	
186	217	土師器 甕	RA403埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄橙	
163	218	土師器 甕	RA403北カマ ド煙道	-	9.8	(14.0)			ハケメ			ハケメ	灰黄褐	
161	219	赤焼き 甕	RA403埋土・ 南カマド前	20.0	-	(28.2)	ロクロナデ		ヘラケズ リ	ロクロナデ		不明	黄橙	
185	220	赤焼き 甕	RA403埋土	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 橙	
445	221	須恵器 甕	RA403床面	22.0	-	(3.5)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
443	222	須恵器 甕	RA403南側カ マド焚口					タタキ			タタキ		黄灰	
157	223	土師器 坏	RA406埋土	-	6.2	(2.0)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理		
158	224	赤焼き 坏	RA406埋土	-	4.8	(1.4)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	淡橙	
159	225	赤焼き 甕	RA406埋土	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			橙	
205	226	土師器 甕	RA406埋土	-	-	-	ヨコナデ	ケズリ、 ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
150	227	土師器 坏	RA408埋土	-	6.4	(1.7)			ケズリ			ヘラミガ キ、黒色 処理		墨書?
144	228	土師器 坏	RA408燃焼部	-	6.0	(1.8)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	橙	
145	229	土師器 坏	RA408床面	14.1	5.4	5.6	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			黄橙	
146	230	須恵器 坏	RA408埋土	14.9	6.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
432	231	須恵器 坏	RA408床面	14.0	6.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 褐	
414	232	須恵器 坏	RA408・RG320	14.8	6.1	4.2	ロクロナデ			ロクロナデ			青灰	
149	233	土師器 高台付 坏	RA408埋土	-	7.6	(2.4)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	浅黄橙	
142	234	土師器 高台付 坏	RA408燃焼部	16.4	9.8	6.0	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 褐	
151	235	土師器 高台付 坏	RA408埋土	-	8.0	(3.9)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	褐灰	
155	236	土師器 甕	RA408床面	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヘラナデ	ハケメ		にぶい 橙	
153	237	土師器 甕か	RA408埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙	
154	238	土師器 甕	RA403埋土は RA408埋土の 間違い	-	5.4	(1.5)			ヘラナデ			不明	橙	
413	239	須恵器 壺	RA408・ RG320	12.2	-	(8.6)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
416	240	須恵器 甕	RA408・ RG320					タタキ			アテ具			
415	241	須恵器 甕	RA408・ RG320	-	9.0	(5.3)			ヘラケズ リ			不明	灰	
450	242	須恵器 大甕	RA408・ RG320	-	-	(12.3)			タタキ				灰褐	
51	243	土師器 坏	RA411埋土	-	6.0	(1.9)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理		
41	244	赤焼き 坏	RA411床面	14.0	5.2	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	

仮番	番号	種類器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
52	245	土師器 高台付 坏	RA411床面	-	7.5	(2.4)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	灰褐	
26	246	土師器 甗	RA411カマド	21.1	11.0	(15.7)	ヨコナデ	ヘラナデ、 ミガキ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ		灰白	
62	247	土師器 坏	RA413煙道部	12.5	6.4	4.3	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄褐	
49	248	土師器 坏	RA413埋土	-	5.6	(3.0)		ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理		にぶい 黄橙	
389	249	赤焼き 坏	RA413埋土	14.0	5.0	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
50	250	赤焼き 坏	RA413埋土	14.0	5.0	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
45	251	赤焼き 坏	RA413埋土	16.0	-	(2.9)	ロクロナデ			ロクロナデ				
388	252	赤焼き 坏	RA413東壁際 床面	12.2	4.7	(3.9)	ロクロナデ			ロクロナデ			淡赤橙	
38	253	赤焼き 高台付 坏	RA413煙道部	15.3	8.7	5.3	ヘラミガキ、黒色処理			ヘラミガキ、黒色処理				
39	253		RA413⑤											
28	254	赤焼き 高台付 坏	RA413カマド 北袖部	-	7.7	(2.2)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	橙	
53	255	土師器 坏	RA413埋土	13.0	-	(4.2)				ヘラミガキ黒色処理			明黄褐	
30	256	土師器 甗	RA413煙道部	19.5	-	(16.3)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 赤褐	
461	257	赤焼き 甗	RA413埋土	23.9	-	(31.0)	ロクロナ デ	ヘラケズ リ		ロクロナデ			橙	
387	258	赤焼き 甗	RA413カマド 北袖部	20.4	-	(17.2)	ロクロナ デ	ヘラケズ リ		ロクロナ デ	ヘラナデ		橙	
42	259	赤焼き 甗	RA413埋土	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
32	260	赤焼き 甗	RA413カマド 南袖部	20.3	-	(19.4)	ロクロナ デ	ロクロナ デ、ヘラ ケズリ		ロクロナデ			にぶい 橙	
36	261	赤焼き 甗	RA413燃烧部	13.0	-	(15.6)	ロクロナデ			ロクロナ デ	カキメ			
444	262	須恵器 甗	RA413カマド 北袖部					タタキ			タタキ		黄灰	
61	263	土師器 坏	RA415南カマド 脇	13.6	6.3	5.0	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
60	264	土師器 坏	RA415南カマド 脇	15.9	6.0	5.5	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄褐	
33	265	土師器 坏	RA415南カマド 脇	13.9	7.2	4.6	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理				
59	266	土師器 坏	RA415床面	14.1	5.6	4.7	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
34	267	土師器 坏	RA415東カマド 煙道部	14.0	6.6	5.3	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙	
46	268	土師器 坏	RA415埋土	-	6.0	(4.5)		ヘラミガキ黒色処理			ヘラミガキ黒色処理		黒	
37	269	赤焼き 坏	RA415埋土	13.3	6.0	5.8	ロクロナデ			ロクロナデ			淡橙	
514	270	赤焼き 坏	RA415南カマド	14.2	5.2	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
411	271	須恵器 坏	RA415南カマド	14.5	5.8	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
446	272	須恵器 坏	RA415床面	14.7	5.7	5.1	ロクロナデ			ロクロナデ			黄灰	
449	273	須恵器 坏	RA415埋土	14.4	5.6	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
462	274	土師器 甗	RA415東カマド 煙道部	13.6	7.8	13.9	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 褐	
31	275	土師器 甗	RA415東カマド 煙道部	19.5	-	15.2	ヨコナデ	ヘラナデ、 ケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
35	276	土師器 甗	RA415東カマド 煙道部	15.8	-	(11.7)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
48	277	土師器 甗	RA415東カマド 煙道部	17.2	-	(11.7)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 褐	
47	278	土師器 甗	RA415埋土	12.8	-	13.9	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙	
27	279	土師器 甗	RA415埋土	10.0	-	(6.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 褐	

仮番	番号	種類器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
54	280	赤焼き甕	RA415床面	12.2	-	(3.6)	ロクロナデ			ロクロナデ				
448	281	須惠器壺	RA415埋土	12.0	-	(4.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			暗青灰	
420	282	須惠器大甕	RA415埋土					タタキ			アテ具		灰	
410	283	須惠器壺	RA415南カマド						ヘラケズリ			ナデ	褐灰	
341	284	土師器坏	RA419埋土	14.2	6.0	5.5	ロクロナデ		ケズリ	ヘラミガキ黒色処理		〃	橙	底再調整か
346	285	土師器坏	RA419カマド	-	6.4	(2.4)			ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理	にぶい橙	
345	286	須惠器坏	RA419埋土	15.6	-	(4.7)	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
340	287	土師器甕	RA419カマド 焚き口	20.0	-	(11.2)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	不明		黒褐	
473	288	土師器甕	RA419北壁際床面	21.5	10.2	33.4	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ハケメ		橙	
513	289	土師器甕	RA419埋土	18.2	5.6	26.8	ヨコナデ		ハケメ	ヨコナデ	ハケメ	ヘラナデ	にぶい黄褐	
44	290	赤焼き甕	RA419埋土	19.9	-	(5.7)	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい褐	
424	291	須惠器大甕	RA419カマド袖					タタキ			タタキ		灰	
447	292	須惠器坏	RA420埋土	14.0	5.2	4.5	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
331	293	赤焼き坏	RA420床面	13.6	5.8	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
431	294	須惠器坏	RA420埋土	14.4	-	(3.9)	ロクロナデ			ロクロナデ			灰	
329	295	赤焼き甕	RA420埋土・床面	-	7.4	(10.1)		ロクロナデ	ケズリ		ロクロナデ		暗赤褐	
40	296	土師器甕	RA420カマド脇	12.5	8.3	11.9	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい褐	
397	297	須惠器甕	RA420埋土					タタキ			アテ具		灰	
339	298	土師器坏	RA423床直	-	7.4	(1.5)			ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理	橙	
332	299	赤焼き坏	RA423カマド東袖	13.4	5.6	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			明赤褐	
409	300	須惠器甕	RA423床面					タタキ					黒褐	
338	301	土師器坏	RA424床面	14.8	6.0	5.3	ロクロナデ		ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	底再調整
327	302	土師器坏	RA424燃烧部	13.6	6.0	5.2	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい橙	
328	303	土師器坏	RA424南袖部	14.0	6.0	(4.8)	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
334	304	赤焼き坏	RA424燃烧部	16.0	6.0	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄	
337	305	須惠器坏	RA424埋土	14.6	6.0	5.4	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
335	306	須惠器坏	RA424燃烧部	14.9	6.4	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
425	307	須惠器甕	RA424燃烧部	23.0	-	(6.0)	ロクロナデ			ロクロナデ				
428	308	須惠器甕	RA424埋土					タタキ			タタキ		にぶい黄橙	
417	309	須惠器壺	RA427埋土	-	9.4	(6.5)			ヘラケズリ			ロクロナデ		
103	310	赤焼き高台付坏	RA429埋土	14.0	8.4	6.3	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい橙	
426	311	須惠器甕	RA429埋土					タタキ					灰白	
127	312	土師器坏	RA430埋土	14.4	5.8	4.8	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい黄橙	
123	313	土師器坏	RA430南カマド	13.9	-	(5.0)	ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理			黄橙	
112	314	土師器坏	RA430南東壁隅	-	7.0	(2.7)			ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理	にぶい橙	
126	315	土師器坏	RA430埋土	18.2	-	(5.5)	ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理			にぶい黄橙	

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他	
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
119	316	赤焼き 杯	RA430埋土	14.6	6.6	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
121	317	赤焼き 杯	RA430埋土	13.4	-	(5.5)	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		
118	318	赤焼き 杯	RA430南カマ ド	15.4	5.5	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙		
128	319	赤焼き 杯	RA430埋土・南 カマド	15.8	5.3	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
101	320	赤焼き 杯	RA430南カマ ド	-	5.6	(4.3)	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙		
100	321	土器 高台付 杯	RA430西カマ ド	15.2	7.8	5.6	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙		
113	322	土器 高台付 杯	RA430埋土	-	8.8	(4.9)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理			
117	323	赤焼高 台付杯	RA430南カマ ド	-	8.0	(4.1)		ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
138	324	土器 甕	RA430埋土	14.6	-	(6.8)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	ヘラナデ				
105	325	土器 甕	RA432.430埋土	18.8	-	(10.4)	ナデ	ヘラケズ リ		ナデ	ヘラナデ			橙	
125	326	土器 甕	RA430埋土	18.1	-	(6.7)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ハケメ			浅黄橙	
130	327	土器 甕	RA430南カマ ド	12.5	-	(7.1)	ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヘラナデ			明赤褐	
133	328	土器 甕	RA430埋土	-	-	-	ヨコナデ	ハケメ		ヘラナデ				橙	
124	329	土器 甕か	RA430南カマ ド	-	-	-		ヘラケズ リ			ハケメ			にぶい 赤褐	
122	330	赤焼き 甕	RA430埋土	13.8	-	(6.6)	ロクロナデ			ロクロナデ					
120	331	赤焼き 甕	RA430西カマ ド	-	7.7	(5.5)			ロクロナ デ			ロクロナ デ		浅黄橙	
131	332	赤焼き 甕	RA430埋土	-	-	-	ロクロナ デ	ヘラナデ、 ヘラケズ リ			ヘラナデ			にぶい 黄橙	
418	333	須恵器 甕	RA430埋土	19.2	-	(8.0)	ロクロナ デ	タタキ		ロクロナ デ				灰	
419	334	須恵器 甕	RA430埋土	19.0	-	(3.8)	ロクロナ デ			ロクロナ デ				灰	
427	335	須恵器 甕	RA430埋土				ロクロナ デ	タタキ		ロクロナ デ				黄灰	
421	336	須恵器 小甕	RA430埋土	12.0	-	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			灰		
422	337	須恵器 甕	RA430埋土					タタキ						浅黄	
108	338	土器 杯	RA431焼土上 面・壁側北	19.8	8.4	6.8	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色土器				底ヘラ切り	
106	339	土器 杯	RA431埋土	16.2	-	(5.2)	ロクロナデ			ヘラミガキ黒色土器			にぶい 黄橙		
451	340	赤焼き 杯	RA431焼土上 位	14.4	5.8	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ					
109	341	赤焼き 杯	RA431焼土上 面・RA432埋土	12.2	3.5	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		
104	342	赤焼き 杯	RA431焼土上 面	13.0	6.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙		
110	343	赤焼き 杯	RA431焼土上 面・RA432埋土	14.3	6.2	4.3	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白		
107	344	赤焼き 杯	RA431炭化物 付近埋土	13.0	5.7	3.4	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		
404	345	須恵器 杯	RA440埋土	12.7	6.4	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			オリ ー ブ 灰		
407	346	須恵器 杯	RA431埋土	14.0	6.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			色無し		
423	347	須恵器 杯	RA431埋土	15.6	5.4	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			オリ ー ブ 灰		
403	348	須恵器 杯	RA431埋土	13.1	4.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			灰		
140	349	土器 甕	RA431埋土	18.0	-	(8.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ			橙	
136	350	土器 甕	RA431埋土	-	-	-	ヨコナデ	不明		ハケメ	ハケメ			にぶい 橙	

仮番	番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他	
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
134	351	土師器 甕	RA431埋土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	不明		にぶい 橙		
135	352	赤焼き 甕	RA431埋土	11.7	-	(4.9)	ロクロナデ			ロクロナデ					
139	353	赤焼き 坏	RA432埋土	12.2	6.2	3.5	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白		
129	354	赤焼き 坏	RA433カマド 及び袖	14.4	5.4	5.1	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
406	355	須恵器 壺	RA433カマド					ヘラケズリ			ロクロナ デ		灰		
230	356	赤焼坏	RA435埋土床面	-	7.0	(1.9)		ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
405	357	須恵器 壺か	RA435埋土床面					ヘラケズリ・ヘラ ナデ			ヘラナデ		黒		
70	358	土師器 坏	RA437埋土	13.6	6.6	5.4	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			黄橙		
79	359	土師器 坏	RA437カマド袖	14.0	6.0	4.0	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙		
223	360	土師器 甕	RA473はRA437 の間違いか	13.8	-	(7.8)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ				
65	361	土師器 甕	RA437カマド 袖部	12.9	9.3	15.0	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ				
74	362	土師器 甕	RA437埋土	15.5	-	(8.9)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙		
75	363	土師器 甕	RA437カマド 煙道	20.4	-	(15.5)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		橙		
76	364	土師器 甕	RA437カマド 煙道	19.4	-	(10.1)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ		明赤褐		
67	365	土師器 甕	RA437カマド 袖部	19.4	-	(4.3)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	ヘラナデ		浅黄橙		
73	366	土師器 甕	RA437埋土	18.7	-	(7.1)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙		
64	367	赤焼き 甕	RA437カマド 及び袖	26.2	-	(25.8)	ロクロナ デ	ヘラケズリ		ロクロナデ			明黄褐		
336	368	赤焼き 坏	RA440埋土	13.6	6.0	5.8	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		
380	369	赤焼き 坏	RA452埋土	13.2	-	(5.5)	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙		
384	370	赤焼き 坏	RA452埋土	15.6	5.2	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
369	371	赤焼き 坏	RA452埋土	-	6.3	(2.5)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	橙		
480	372	土師器 甕	RA452埋土	-	-	-	不明	不明		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄橙		
367	373	土師器 小甕	RA452埋土	10.2	-	(5.1)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙		
368	374	土師器 甕	RA452埋土	13.0	-	(7.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		浅黄橙		
481	375	須恵器 小甕	RA452カマド 燃烧部	14.0	-	6.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
218	376	土師器 甕	RA 408・ RA 398	12.5	5.0	11.2	ヘラナデ			ヘラナデ			淡橙		
499	377	土師器 高台付坏	RE049埋土	16.0	8.2	6.0	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理					
500	378	土師器 甕	RE050南	28.0	-	(7.0)	ハケメ、 ヨコナデ			ヨコナデ	ハケメ		にぶい 橙		
402	379	須恵器 坏	RA426埋土	-	6.0	(3.1)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	灰		
482	380	赤焼き 甕	RD637埋土	15.0	-	(8.1)	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙		
483	381	赤焼き 坏	RD644埋土	13.4	5.4	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
484	382	赤焼き 坏	RA644埋土	14.8	5.1	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙		
485	383	赤焼き 坏	RD644埋土	15.0	5.4	4.2	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		
486	384	赤焼き 甕	RD644埋土	20.1	-	(5.9)	ロクロナ デ			ロクロナ デ					
487	385	土師器 坏	RD808埋土	13.7	-	(3.4)	ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄橙		
489	386	赤焼坏	RD808埋土	13.8	-	(4.7)	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙		

仮番	番号	種類	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半		
488	387	土師器 甕	RD808埋土	10.0	-	(4.3)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ		明赤褐	
490	388	土師器 坏	RD934埋土	14.3	-	(4.7)	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理				
491	389	赤焼き 高台付 坏	RD934埋土	14.2	8.0	5.8	ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
495	390	土師器 坏	RD988埋土	7.7	4.4	2.9	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメ	ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄橙	
494	391	土師器 坏	RD988埋土	9.7	-	(3.9)	ヨコナデ	不明		ヘラミガキ黒色処理			浅黄橙	
497	392	土師器 坏	RD988埋土	15.4	-	4.7	ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理				
496	393	土師器 坏	RD988埋土	17.7	-	(3.5)	ヘラミガキ			ヘラミガ キ、黒色 処理				
493	394	土師器 坏	RD988埋土	17.0	-	(4.4)	ヘラナデ か	ヘラミガ キ		ヘラミガキ黒色処理			浅黄橙	
492	395	土師器 甕	RD988埋土	18.8	-	(5.4)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		明褐	
498	396	土師器 甕	RD1034埋土	17.8	-	(8.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		明褐灰	
505	397	土師器 甕	RG045埋土	18.0	-	(10.0)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		橙	
511	398	土師器 球胴甕		19.6	-	(9.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		明黄褐	
503	399	土師器 坏	RG320埋土	7.0	-	(5.2)	ロクロナデ			ヘラミガキ黒色処理			黒褐	
507	400	土師器 坏	RG320埋土	15.0	4.9	5.4	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙	
510	401	赤焼き 坏	RG320埋土	14.2	5.5	(5.7)	ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
504	402	赤焼き 坏	RG320埋土	14.5	5.7	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
509	403	土師器 坏	RG320埋土	13.4	4.8	5.7	ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
395	404	須恵器 坏	RG320埋土	-	5.8	(2.9)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	灰白	
394	405	須恵器 坏	RG320埋土	15.2	6.4	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
401	406	須恵器 坏	RG320埋土	15.8	6.0	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			灰白	
508	407	土師器 高台付 坏	RG320埋土	-	7.3	(3.7)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	にぶい 橙	
396	408	須恵器 坏	RG320埋土	14.4	6.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			灰	
399	409	須恵器 壺	RG320埋土					ロクロナ デ	ヘラケズ リ		ロクロナデ		黒	
400	410	須恵器 甕	RG320埋土				ロクロナ デ	タタキ			アテ具		にぶい 橙	
398	411	須恵器 甕	RG338埋土	14.1	6.4	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			オリ ー ブ 灰	
506	412	土師器 坏		11.0	6.8	2.5	ヘラミガ キ			ヘラミガキ			にぶい 橙	内外面に塗 彩
561	520	小型土 器	RA444埋土				不明			ヘラナデ				
365	521	土師器 坏	RA447埋土	-	-	-	ヘラミガ キ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙	
378	522	土師器 坏	RA460埋土	-	-	(3.8)	不明			不明			にぶい 黄褐	
175	523	赤焼き 器種不 明	RA401埋土	-										
200	524	土師器 甕	RA401④	-	-	-		ヘラケズ リ			ハケメ		にぶい 橙	
156	525	土師器 坏	RA408埋土	-	-	-	ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理			浅黄橙	

陶磁器観察表

番号=掲載番号

仮番	番号	器種	出土位置	法量 (cm)			胎土	釉薬・絵付	制作地	生産年代	その他
				口径	底径	器高					
521	424	磁器	RG320埋土上位				白	染付	中国	17cか	
520	425	磁器碗	遺構外一括	-			白	染付	中国か	16c~	
543A	426	磁器碗	不明	-	3.2	(2.1)	灰白	染付	肥前か	18c末~19c	
543B	426	磁器碗	不明	-	3.7	(2.5)	灰白	染付			
540	427	磁器碗	遺構外一括	-	3.6	(2.2)	灰白	染付	肥前	18c	
537	428	磁器碗	2 D区 II層	11.3	5.1	6.1	灰白	染付	肥前	18c中~末	
525	429	磁器碗	RD983埋土	12.4	2.3	6.3	白	染付	不明	19c以降	
534	430	磁器壺類か	2 D区	-	5.7	(6.6)	灰白	染付	不明	近世か	
526	431	磁器紅皿	調査区北側	4.6	-	(1.3)	白	内面のみ施釉	不明	19c	
515	432	陶器碗	RA412埋土	11.2	-	(3.4)	灰	白釉・透明釉	不明	近世以降	
528	433	陶器天目碗	遺構外一括	9.0	-	(4.4)	灰白	鉄釉	瀬戸・美濃	18c代か	
529	434	陶器天目碗	遺構外一括	-	4.0	(1.5)	灰白	鉄釉	瀬戸・美濃	18c代か	
524	435	陶器碗	RD983埋土	-	4.2	(2.2)	灰白	藁灰釉	大堀相馬	19c	
530	436	陶器碗	1-D区IV層	-	3.9	(2.0)	灰白	灰釉・鉄釉	大堀相馬	18c	
535	437	陶器碗か	2 D区	-	3.1	(1.7)	浅黄橙	藁灰釉	大堀相馬	19c	
517	438	陶器碗	RG224・RA237重複部分	-	5.1	(1.9)	にぶい橙	長石釉	唐津	16c末か	
538	439	陶器皿	2 D区 II層	12.4	5.8	3.5	褐灰	灰釉	東北在地	19c	
523	440	陶器甕	RG343埋土	-	-	(7.0)	黄灰				
522	441	陶器甕類	RG343埋土	-	12.0	(7.6)	明褐灰	鉄釉か	不明	近世	
539	442	陶器搦鉢	遺構外一括				にぶい黄橙				
519	443	陶器搦鉢	仮520と接合								
520	443	陶器搦鉢	RG224・RA237重複部分	-	16.4	(4.2)	灰褐	無釉	不明	近世	
516	444	陶器搦鉢	RA430埋土				赤褐				
408	445	陶器搦鉢	表採								
412	446	陶器搦鉢	RA408埋土								
518	526	陶器碗	RG320埋土				灰	灰釉	不明	18c頃か	
531	527	陶器皿	1-D区IV層				浅黄橙	釉薬不明	不明	近世か	
532	528	陶器甕類	2 C区				灰	白濁した青白色の釉	東北在地	19c	
536	529	陶器壺か	2 D区				灰褐	鉄釉	不明	近代以降	
533	530	陶器器種不明	2 D区				灰	銅緑釉	瀬戸か	18cか	
541	531	陶器土瓶	遺構外一括				浅黄橙	銅緑釉	不明	19c頃	
542	532	磁器皿	遺構外一括				灰白	染付	不明	近代以降	

縄文土器ほか観察表

仮番	番号	出土地点	器種	部位	文様の特長・その他
502	413	RG320埋土	深鉢	口縁	波状口縁、2個1対の小突起、浅い沈線、縄文RL
565	414	RG320埋土	小型土器	口縁-底部	脚4、口縁部に穿孔2その内1つは貫通していない
501	415	RG320埋土	深鉢		小山形口縁、平行沈線文
545	416	遺構外一括	深鉢	口縁付近	沈線による曲線文、縄文LR
544	417	遺構外一括	鉢	口縁	縄文RL、内外面に煤附着
454	418	RA399埋土	深鉢	体部	縄文LR、419と同一個体か
92	419	RA399埋土	深鉢	底部付近	縄文LR、418と同一個体か
547	420	3 D IV層	壺か鉢	口縁	口縁部に外側から内側へ穿孔
547	421	3 D IV層	壺か鉢	体部	原体LR、420と同一個体か
547	422	3 D IV層	壺か鉢	体部	原体LR、420と同一個体か
546	423	3 D IV層	壺か鉢	体部-底部	平行沈線文



金属製品観察表

仮番	番号	種類	出土位置	金属の種類	計測値 (cm)			重量 (g)	その他
					長さ	幅	厚さ		
3	447	鋤先	RA401埋土	鉄	11.4	12.3	-	111.6	
2	448	鉄鍬	RA400埋土	鉄	11.6	1.4	0.6	11.6	
1	449	刃物か	RA400埋土	鉄	8.6	1.7	0.2	7.0	
596	450	刀子	RA408埋土⑤	鉄	5.3	1.2	0.6	6.6	
598	451	刃物か	RA429カマド	鉄	4.7	1.8	0.6	5.2	
589	452	刃物か	RA312カマド	鉄	3.6	1.5	0.5	2.1	
604	453	刀子	堀埋土	鉄	14.0	1.6	0.4	12.4	
602	454	楔?	RD823埋土中層	鉄	8.8	1.5	0.5	13.1	
603	455	楔?	3E区水路跡	鉄	14.1	3.4	-	85.9	
587	456	釘か	RA312埋土	鉄	5.4	1.8	1.1	15.5	
590	457	釘	RA400埋土	鉄	2.4	0.9	0.6	1.7	
594	458	釘	RA403埋土③	鉄	6.4	1.4	1.0	7.0	頭を潰している
5	459	釘	RA413埋土	鉄	10.6	1.3	1.2	27.3	
6	460	釘か	RA430埋土	鉄	7.2	0.9	0.7	10.1	
599	461	釘	RA448③	鉄	5.8	1.0	0.6	4.8	
605	462	釘	3D区遺構外	鉄	4.6	1.1	0.6	4.6	
606	463	釘	3D区遺構外	鉄	3.9	0.8	0.5	1.8	
595A	464	不明	RA408埋土	鉄	5.6	2.5	2.0	14.9	管状のもの
601	465	金具	RD823埋土中層	鉄	2.7	2.9	1.1	6.4	
4	466	不明	RA401埋土	鉄	4.4	1.0	0.5	2.9	
597	467	煙管	RA412埋土	銅	3.6	-	-	4.5	
620	468	煙管	RG320埋土	銅	6.0	1.4	-	4.2	
588	533	鉄滓	RA312床面						
591	534	鉄滓	RA400埋土						
592	535	鉄滓	RA401カマド						
593		鉄滓	RA401カマド						不掲載
600									不掲載
595B		釘	RA408埋土	鉄	5.6	0.9	0.6	3.9	不掲載

銭貨観察表

仮番	番号	種類	出土位置	直径 (cm)	重さ (g)	金属の種類	铸造年代	その他
609A	469	元祐通寶	RD822埋土中層	-	0.6	銅	1086	
609B	470	皇宋通寶	RD822埋土中層	-	0.6	銅	1038	
608	471	不明	RD822埋土中層	-	0.7	銅		中世期の銭貨
610A	472	不明	RD933埋土	2.0	1.2	銅		中世期の銭貨
610B	473	□和□□	RD933埋土	-	0.9	銅		中世期の銭貨
611	474	永樂通寶	RD943埋土	2.5	3.1	銅	1408	
618	475	紹聖元寶	p657埋土	2.3	2.5	銅	1094	
615	476	天聖元寶	RG328埋土	2.4	2.2	銅	1023	
617	477	寛永通寶	土捨て場	2.2	1.5	銅	不明	
607	478	寛永通寶	RA422内撈乱部	2.4	2.5	鉄	1739~	
610C	479	寛永通寶	RD933埋土	2.4	1.4	銅	1636~1659	古寛永
612	480	寛永通寶	RD953埋土上層	2.3	1.4	銅	1697~1781	新寛永
613A	481	寛永通寶	土坑	2.4	3.5	銅	1636~1659	古寛永
613B	482	寛永通寶	土坑	2.3	2.4	銅	1697~1781	新寛永
614	483	寛永通寶	RG242埋土	2.5	3.4	銅	1636~1659	古寛永
616	484	寛永通寶	RG320埋土	2.3	2.1	銅	1697~1781	新寛永
619	485	寛永通寶	調査区東端	2.3	2.3	銅	1636~1659	古寛永

土製品ほか観察表

仮番	番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	その他
				上幅	下幅	高さ		
550	486	切子玉	RA441埋土	2.3	1.5	1.5	5.8	孔にガラス玉が入っていた
550B	487	玉	RA441埋土					切子玉と共伴
554	488	装飾品	RA459カマド東床面	長さ 2.4	幅 1.0	厚さ 1.0	1.5	側面に貫通していない刺突
551	489	土製勾玉	RA447埋土	長さ 3.3	幅 1.8	厚さ 0.8	3.9	
555	490	土製勾玉	RA447埋土	長さ (3.0)	幅 1.0	厚さ 1.0	3.7	
552	491	装飾品	RA448埋土	長さ (3.9)	幅 1.1	厚さ 0.8	3.6	
553	492	装飾品	RA459カマド東床面	長さ (3.7)	幅 0.8	厚さ 0.8	2.8	
556	493	装飾品	RA459埋土	長さ (3.9)	幅 0.8	厚さ 0.8	3.6	
549	494	円盤状製品	RA408・RG320埋土	2.8	2.7	0.7	6.8	
558	495	土製紡錘車	RA214床面	3.5	4.9	2.4	46.3	
621	496	土製紡錘車	RA441埋土	5.1	5.4	2.5	70.1	
559	497	土製紡錘車	RA441床面	3.7	4.3	3.2	63.1	
560	498	土製紡錘車	RA441床面	-	-	2.6	41.1	
562	499	土製紡錘車	RA447埋土	4.2	5.0	2.1	63.0	
563	500	土製紡錘車	RA456埋土	-	5.4	2.7	45.0	
564	501	土製紡錘車	RG320埋土	4.7	5.7	3.3	80.0	
622	502	土製紡錘車	不明	3.8	5.1	2.6	68.2	

石器・石製品観察表

仮番	番号	出土地点	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	その他	備考
				長さ	幅	厚さ			
572	503	RG320埋土	不定形石器	4.3	2.8	1.1	12.03	頁岩、奥羽山脈	
570	504	RG320埋土	搔削器	3.4	2.2	0.6	5.42	頁岩、奥羽山脈	
571	505	RG320埋土	楔形石器	2.8	3.1	0.8	9.95	頁岩、奥羽山脈	
573	506	RZ023埋土	不定形石器	4.0	6.3	0.8	16.04	頁岩、奥羽山脈	
576	507	RG320埋土	石製円盤	4.4	4.2	0.7	21.32	砂岩、奥羽山脈	
574	508	RD983埋土	玉	1.1	1.1	0.9	6.81	凝灰岩 (表面)、奥羽山脈	内部不明密度大
583	509	RA408床面	砥石	16.2	10.6	9.6	1060.00	玄武岩、岩手山?	
580	510	RA444埋土	砥石	(12.5)	11.2	6.5	710.00	凝灰岩、奥羽山脈	
577	511	RA400埋土	砥石	(13.0)	(9.2)	(7.4)	720.00	凝灰岩、奥羽山脈	
578	512	RA408床面	砥石	6.7	6.7	2.5	167.90	凝灰岩、奥羽山脈	
575	513	RA400埋土	砥石	6.2	4.7	2.8	69.34	凝灰岩、奥羽山脈	
582	514	RA408床面	石皿	19.5	11.5	8.4	860.00	玄武岩、岩手山?	
581	515	RA443埋土	台石	20.7	19.8	-	2960.00	玄武岩、岩手山?	
584	516	pp 5 埋土	不明	(15.1)	(16.8)	2.7	980.00	安山岩、奥羽山脈	2面に煤付着
579	517	RA420カマド	台石	15.6	15.0	7.0	3200.00	安山岩、奥羽山脈	
585	518	RA443埋土	台石	29.2	28.7	7.0	4100.00	玄武岩、岩手山?	
586	519	RA443埋土	台石	33.2	26.8	14.7	7420.00	玄武岩、岩手山?	

## V まとめ

### 出土遺物について

#### 土師器の分類と年代

台太郎遺跡からは、ここ数年継続されている発掘調査によって多数の土師器が出土し、23・26次調査でもその数は掲載点数にして865点に達している。これらの土師器は概ね古墳時代末から奈良時代のものと、平安時代に位置付けられるものとに分けられる。本項では、今回の23・26次調査で出土した古墳時代末から奈良時代における土師器の形態分類と大まかな年代観について検討してみた。

本来であれば台太郎遺跡のこれまでの調査成果も網羅して検証すればより大きな成果が見込めるはずであるが、今後も本遺跡の調査が継続される予定であること、報告書も作成途中のものが多いことなどから、ここでは23・26次調査の資料に限定した試案ということにしたい。

#### (1) 器種の分類

台太郎遺跡の土師器（古墳時代末から奈良時代のもの）は、これまで報告されている事例を参考にして次のように分類した。

器種	特徴
坏 大 型	ロクロは使用されていない。口径が20cm以上あり、口縁部は外反するものと内湾するものが見られる。底部は丸底で、底部と体部の境に段（もしくは沈線）をもつ。
坏 大 型	口径は20cm未満でロクロは使用されていない。底部は丸底のものが目立つが、平底気味及び平底のものもある。口縁部と底部との境に段（或いは稜や浅い沈線）を有するものが多く、口縁部は内湾するもの、直立するもの、外反するものが見られる。
高 坏	坏部は丸底で、口縁部と体部の境に段（或いは稜や浅い沈線）を持ち、脚部は残存する個体がなく詳細は不明である。
碗	坏に類似するが、坏に比べて器高が高い（深い）ものを碗とした。口縁部は内湾するものが多い。
長 胴 甕	体部が長胴を呈し、器高は25cm以上になるもの。口径は体部の最大幅よりも大きいか同じ位のものが主体をなす。
甕	体部が長胴を呈し、器高が25cm未満のもの。口径は体部の最大幅よりも大きいか同じ位のものが多数を占める。
球 胴 甕	体部が球形をしており、口径が体部の最大幅よりも明らかに小さいものを原則とする甕。
小型手握ね土器	器高が15cmに満たない土器を一括した。底径より口径が大きい筒状のものが多い。
扁平長胴土器	粗末なつくりの筒形の土師器で上から見ると横から潰したように扁平をしている。

#### (2) 古墳時代末から奈良時代の土師器の細分

##### ① はじめに

今回の23・26次調査では、この時期に属する69棟の住居跡が検出され住居跡の重複は認められないものの、配置関係からみて数期にわたり複数の集落が営まれていたと考えられる。出土した土師器もこれに対応して、若干異なる特徴をもつものがみられる。このことから、該期の住居跡及び出土した土師器は、何時期かの段階に分けることができるのではないかという印象を持つに至った。以下、出土した土師器の形態分類と他遺跡の類例との比較、従来の編年などから本遺跡の土師器についての凡の位置付けをしたい。

##### ② 各器種の細分

実際に細分化を行った器種は、大型坏・小型坏・長胴甕・甕・球胴甕で、他の器種は個体数が少ないことと、口縁から底部まで復元できた資料が少ないことなどから細分を見合わせた。

細分に当たっては、これまで報告されている事例を意識しながら器形の特徴を基本とした。各器種毎に分類表を作成しその中に分類基準を示した。

<坏大型分類表>

器種	底部の形状	口縁部から底部にかけての境	口縁部の形状	口縁部の幅	分類	遺物番号 括弧なしは23次、括弧は26次
坏大型	M 丸底	I 内外面とも有段	A 外反		M I A	5
		II 外面のみ有段	B 内湾		M II B	116・376・(19・73)

<坏小型分類表>

器種	底部の形状	口縁部から底部にかけての境	口縁部の形状	口縁部の幅	分類	遺物番号 括弧なしは23次、括弧は26次
坏小型	M 丸底	I 内外面とも有段	A 外反	1 幅広い	M I A 1	
				2 幅狭い	M I A 2	76・(21・68)
			B 内湾	1 幅広い	M I B 1	6・142・169・192・(27・70)
				2 幅狭い	M I B 2	(46)
		II 外面のみ有段	A 外反	1 幅広い	M II A 1	1
				2 幅狭い	M II A 2	75
			B 内湾	1 幅広い	M II B 1	42・43・49・61・93・117・118・119・120・135・141・146・147・158・159・160・167・380・(31・32・44・48・54・67・69・101・107)
				2 幅狭い	M II B 2	35・51・377・378・379・(45・47・71)
		III 内外面とも無段	A 外反	1 幅広い	M III A 1	
				2 幅狭い	M III A 2	III A : 136・191
			B 内湾	1 幅広い	M III B 1	36・41
				2 幅狭い	M III B 2	90・91・92・(26)
	H 平底	I 内外面とも有段	A 外反	1 幅広い	H I A 1	50
				2 幅狭い	H I A 2	
			B 内湾	1 幅広い	H I B 1	169・179
				2 幅狭い	H I B 2	
		II 外面のみ有段	A 外反	1 幅広い	H II A 1	
				2 幅狭い	H II A 2	79
			B 内湾	1 幅広い	H II B 1	108・112・161・178・(7・34・59)
				2 幅狭い	H II B 2	
		III 内外面とも無段	A 外反	1 幅広い	H III A 1	
				2 幅狭い	H III A 2	78・80
			B 内湾	1 幅広い	H III B 1	34・(8・33・66・90・91・100)
				2 幅狭い	H III B 2	III B : 69・180

分類表の補足をしたい。口縁部から底部にかけての境については明らかに段を有するものの他に、沈線に近いものも含めた。なお時代が下るに従い段は不明瞭になり、単に沈線を巡らすだけの様な個体が目立ち、ついには無段化するといった従来の考え方は年代観を検討する際にも意識した。口縁部の形状については外反するものの中に外傾するものを含め、内湾と分類した中に内傾及び直立気味の個体を含めた。

<長胴甕・甕分類表>

器種	体部最大径の位置	底部の形状	口唇部の形状	分類	遺物番号 括弧なしは23次、括弧は26次		
甕類	I 体部上半	A 短く直立	1 平坦	IA1	14・32・133・150	I 1 : 2・3・9・31・56・63・65・73・84・98・131・132・134・143・153・165・174・183・185・(24・42・51・55・56・60・61・78・79・80・93・102・103)	
			2 丸味	IA2	64・122・152・(94)		
		B 外に張り出す	1 平坦	IB1	149・(39・40・41)		
			2 丸味	IB2	72・95・151・187・188・(95)		
		C その他	1 平坦	IC1	24・173・(82)		
			2 丸味	IC2	20・83・111・139・164・(83・89)		
	II 体部下半	A 短く直立	1 平坦	IIA1		II 1 : 13・58	
			2 丸味	IIA2	(1)		
		B 外に張り出す	1 平坦	IIB1			
			2 丸味	IIB2	59・(81)		
		C その他	1 平坦	IIC1			II 2 : 45・66・171・181・190
			2 丸味	IIC2	67		

体部最大径の位置に関しては所謂胴部下膨れの甕を意識したもので、下膨れの甕をII類とし、そうでないものをI類に分類した。底部の形状とは体部下端から底部にかけての形状を意味する。口唇部の形状については平坦と分類した中に角状あるいは沈線状に窪むものも含め、そういった特徴のあまりみられない個体を丸味と分類した。口縁部付近に複数の段（若しくは沈線）をもつ甕はここで言うI類に施される。

<球胴甕分類表>

器種	体部最大径の位置	口唇部の形状	体部最大径に対する口径	分類	遺物番号 括弧なしは23次、括弧は26次	
球胴甕	I 上半から中央	A 平坦	1 大	IA1	4・110・115・(85)	
			2 小	IA2	(112)	
		B 丸味	1 大	IB1	48・74・86・104・156・157・383・389・(84)	
			2 小	IB2	68・103・125	
	II 下半	A 平坦	1 大	IIA1		II : 96・97
			2 小	IIA2		
B 丸味		1 大	IIB1	12・16・17		
		2 小	IIB2	105		

③ 細分した土師器の各遺構における共伴状況

分類した土師器の共伴状況を、各遺構別に一覧表にまとめてみた（次ページ）。本来であれば口縁部から底部まで復元できた個体を用いるべきであるが、そうすると検討資料が少なくなってしまうため、各部位の特徴を掴めるものは可能な限り表に加えて作成している。以下この一覧表をもとに台太郎遺跡出土土師器の出土状況について整理したい。

まず、各遺構内での細分した各器種の共伴状況をみると各器種のうち何類かが一緒に出土している例がある。坏の場合は、その出土点数が多い遺構に於いては、何類かの別形態を呈するものが共にみられることが多く、一つの形態で構成される例は少ない。

因みに細分した各器種のうち、複数の遺構から出土するものには23次調査が16類、26次調査では11類ある。同一分類（似たような特徴）の土師器を出土する遺構間には、互いに時期的な関係があると思われる。

表1 台太郎遺跡23次調査 遺構別出土土師器一覽

分類		遺構名																												居住状											
		201	202	203	204	206	207	209	210	211	219	223	225	230	231	233	234	235	236	238	239	240	244	247	273	274	275	276	277		278	279	281	38							
坏大型	MIA			5																																					
	MIB																				116															376					
坏小型	MIA2																																								
	MIB1			6																							169						192								
	MIA1	1														76																									
	MIA2															75																									
	MIB1									42	43	49			61			93			117	118	119	120	135	146	147	158	159	160	167				380						
	MIB2							35			51																									377	378	379			
	MIIA																							136										191							
	MIB1							36		41																															
	MIB2																																								
	MIB						30									77					90	91	92														381				
	HIA1										50																														
	HIB1																									142		168		179											
	HIA2																79																								
	HIB1																				108	112				141		161				178									
	HIA2																78	80																							
	HIA															70									127																
HIB1								34																																	
HIB2								37																																	
HIB															69																				180						
竪類	IA1				14		32													110			133			150															
	IA2													64									122			152															
	IB1																									149															
	IB2															72							125			151								187	188						
	IC1						24																														173				
	IC2						20												83	111					139			164													
	I1	2	3	9				31						56	63	65	73	84	98					131	132	134	143	153	165	174		183	185								
	I2			8			22	23			39	46	52	53	54						99	96	97		124	123	130	137	138	144		162	163	166	172	176	182	186	189	194	
	II2														59																										
	II2															67																									
球胴甕	II1				13									58																											
	II2									45					66																							171	181		190
	IA1		4																					115																	
	IB1																74	86	104								156	157											383		
	IB2																68																								
II1				12	16	17																																			
II2																			105																						

表2 台太郎遺跡26次調査 遺構別出土土師器一覽

分類	遺構名																																			
	居住跡																																			
	210	237	281	402	404	405	407	409	410	412	414	416	417	418	421	438	439	441	442	443	444	445	446	447	448	449	451	455	456	457	458	459	460	461		
坏大型	MIA																																			
	MIB							19																73												
坏小型	MIA2							21																68												
	MIB1												27											70												
	MIB2																		46																	
	MIIA1																																			
	MIIA2																																			
	MIB1																	31	32	44 · 48					67 · 69					101			107			
	MIB2																			45 · 47					71											
	MIII A																																			
	MIII B1																					54														
	MIII B2													26														92								
	MIII B																																			
	IIA1																																			
	IIB1																																			
	IIA2																																			
	IIB1																																			
	IIB2																																			
IIIA2																																				
IIIA																																				
IIIB1																																				
IIIB2																																				
IIIB																																				
甕類	IA1																																			
	IA2																																			
	IB1																																			
	IB2																																			
	IC1																																			
	IC2																																			
	I1																																			
	I2																																			
	IIA2	1																																		
	IIB2																																			
II C2																																				
球胴甕	II1																																			
	II2																																			
	IA1																																			
	IA2																																			
	IB1																																			
IIB1																																				
IIB2																																				
II B1																																				
II B2																																				

その一方で、全体的な出土量とともに、出土する遺構も多い細分各器種、例えば坏小型のMⅡB1類（丸底で外面に段があり、口縁部は内湾して幅が広い坏）のようなものは、台太郎遺跡（この地域）の代表的、普遍的器形で時期幅も広いと解釈することもできると思われる。こうしたことを踏まえ、一覧表をもとに各遺構の土師器の共伴状況を全体的に検証し類型化を行うと次のようになる。

区分	類型化する際の基準・特徴など		遺構名
	坏類	甕類	
I	坏大型をもつ。坏小型は丸底で口縁と底部の境に段をもつ（MⅠA2・MⅠB1・MⅡA1・MⅡA2・MⅡB1・MⅡB2）	詳細不明だが口唇部は平坦なものが多い。	RA203、239、409、447、RE038
Ⅱ	坏小型は丸底で口縁部と底部の境に段をもつものによって構成される（MⅠA2・MⅠB1・MⅡA1・MⅡA2・MⅡB1・MⅡB2）	体部最大径の位置が体部上半のものと体部下半のものがみられる。底部は径が小さく形状は短く直立したり、外に張り出すものが多い。	RA201、204、206、207、211、225、230、234、235、244、247、273、275、279、410、417、439、444、457、460
Ⅲ	坏小型は丸底のものと同底のものとがみられる。（M類・H類）	口唇部は丸味をもつものが多いが全容を把握できる程の資料はなく詳細は不明である。	RA209、219、277、441
Ⅳ	坏小型は平底のものが主体となる。口縁部から底部にかけての境は不明瞭になる。（HⅢ類）	体部最大径の位置が体部上半にあるもので構成されるが資料が少ないため詳細は不明である。	RA231、233、236、240、404、445、451、456

類型化する基準の第一は坏類を対象として行った。坏大型の有無と坏小型の底部形状や口縁部と底部の境にある段に着目し、その結果Ⅰ～Ⅳの4つに区分された。次に坏類による類型化を前提として、Ⅰ～Ⅳの区分に共伴する甕類について検証してみたが、区分毎に形態分類が異なるといった傾向を示すには至らなかった。そのため単に共伴する甕類の特徴を抽出するだけに留めた。強いて挙げるならば、所謂下膨れの甕はⅢ・Ⅳには殆どみられなくなることで、また分類の基準には用いなかったが、口縁部の段（段及び沈線）が複数施される甕はⅠ・Ⅱに多く、Ⅲ・Ⅳには少なくなるという傾向がみられるようである。

#### ④ 類型した土師器群の年代観

ところでこうした細分及び類型化は、古墳時代末～奈良時代の土師器変遷と密接な関係にあると思われる。本県における当該期の編年には近年では八木1992があり、東北地方北部でみれば宇部1989・2000があるので、次にこれらを参考にして類型土師器群の時期的関係について考えたい。

I 類型の土器群は、坏大型をもち、坏は丸底で底部と口縁部の境に段を有するもので構成される。RA203・239・409・447住居跡、RE038竪穴状遺構の土師器群を位置付けた。八木編年のA～B群・宇部編年のⅠ～Ⅱ群及び1～2段階に相当すると思われる。具体的にはRA203出土の坏大型5は滝沢村高柳遺跡（Dh63住居址2）・八戸市根城SⅠ111住居の資料・八戸市丹後谷地遺跡の資料と類似していると思われる。RE038出土の坏大型376は上田面遺跡（C06住）・八戸市田面木平遺跡（59号竪穴住居跡2）などの土師器に類似しているという印象を持つが、時期は7世紀代と広く捉えるに留めておきたい。本稿では大型坏の有無に着目して分類してみたが、本県では8世紀代にも大型の坏は存在するようで坏大型があるからといって安易に7世紀代と考えるのは問題があるかもしれない。宮城県南部などでは7世紀中頃以降には大型の坏は見られなくなるようだが、時期が下っても見られるのは器種構成の面での特徴といえるかもしれない。

Ⅱ 類型の土器群とは、坏は丸底で底部と口縁部の境に段を有するものによって構成され、I 類型のように坏大型や、Ⅲ・Ⅳ類型のように平底の坏を伴わない。八木編年のC群・宇部編年のⅡ～Ⅲ群及び3段階を中心にした時期と思われる。ここで両氏の編年とは別に年代観を想定したものを次に示しておきたい。RA279住居跡からは本遺跡では珍しく土師器と共伴して須恵器の高台付坏193が出土している。これは宮城県涌谷町長根窯産の須恵器に酷似しており、仮に193が長根窯産の製品であるとすれば、RA279の土器群は8世紀初頭が上限と考えられる。以上のことを踏まえてⅡ 類型の土器群については8世紀前半を主体としつつ、



8世紀初頭から中葉の範囲で捉えたい。それからR A244住居跡出土の坏135、R A273住居跡出土の坏146、R A442住居跡出土坏49、R A444住居跡出土坏54には何れも底面に「×」と線刻されている。この「×」線刻はI類型に位置付けたR E038竪穴状遺構出土の坏377・379やR A239住居跡出土の坏117にも見られ、互いに密接な関係にあると考えられる。このことからR A244・273・442・444住居跡出土土器群に関してはI類型としたR E038竪穴状遺構やR A239住居跡から変遷していると推測し、8世紀代でも古いほうに位置付けたい。次にR A235住居跡に於いて他の坏とは雰囲気が違う土師器坏90・91・92が出土している。やや小ぶりで内面黒色処理はなされず、口縁部付近はヨコナデ調整としている。一様に赤っぽい焼き上がりを意識し、加えて内外面を赤色塗彩している。一見して他の坏との区別がつくこれらの坏についてはその位置付けに苦慮している。共伴した坏93を見ると底部は平底気味であり、外面の段も簡略化されてきている。Ⅲ・Ⅳ類型に含めた方が適当であったかもしれない。赤色塗彩は球胴甕に見られるものが多く、本遺跡のように坏に施されるのは極めて珍しい事例である。当初は宮城県などで事例の多い関東系の土師器を模したものと思ったが、違うようである。

Ⅲ・Ⅳ類型の土器群は、坏の底部が丸底と平底になるものと、平底となる坏が多くなる段階とで構成される。八木編年のD・E群、宇部編年Ⅳ群に対応し、時期は8世紀後葉から末葉にあたる。これまでの事例から8世紀の土師器坏には新しくなるにつれて小型化、境界の無段化、平底化の傾向が指摘されている。こうした考えに則ってⅢ類型を8世紀後葉、Ⅳ類型を8世紀末葉に位置付けたい。R A234住居跡出土土師器の中には坏がなかったため時期的位置付けには自信がない。一応、83長胴甕がR A235住居跡出土の長胴甕95に類似すること、R A235住居跡ではカマドの作り替えが行われており、住居として機能していた時期が長いのではないかと考え共に8世紀中葉から後葉の段階としたい。

宇部2000では馬淵川流域在地土器（7～8世紀前半）のあり方として、坏は丸底で外面に段をもつものであるが、大別して口縁部が内湾する坏と外傾する坏の2系統が存在し、同じく甕には胴部上半が膨らみ、底部が強く突き出る甕と胴部下半が膨らむ甕が認められるとしている。そして後者は共に東北南部の系統、前者は何れも在地的なものとして位置付けている。そしてこの在地的な甕の口縁部には鋸歯文・横走沈線文・多条沈線文を施すものと指摘している。本遺跡でも23次調査で、甕2・3・8・24・31・62・65・111・131・139・143・149・152・153、球胴甕4・12・48・68・104・105、坏147に、26次調査では、甕50・78・82・102・103、球胴甕29・38、加えて坏54・67などには横走沈線文・多条沈線文が認められ、何れも宇部氏のいう在地的な土師器に施されていた。また東北南部の系統としている土器に相当するものとして、例えば23次調査の坏類では5、甕類には16・67・171などが出土している。本遺跡の今回の調査で見える限りは、在地的な土器の中に馬淵川流域系統の土器が見られたり、東北南部の系統の土器が散見され、その多くは在地的な土器と一緒に出土するといった傾向にあるようである。

#### ⑤ 小結

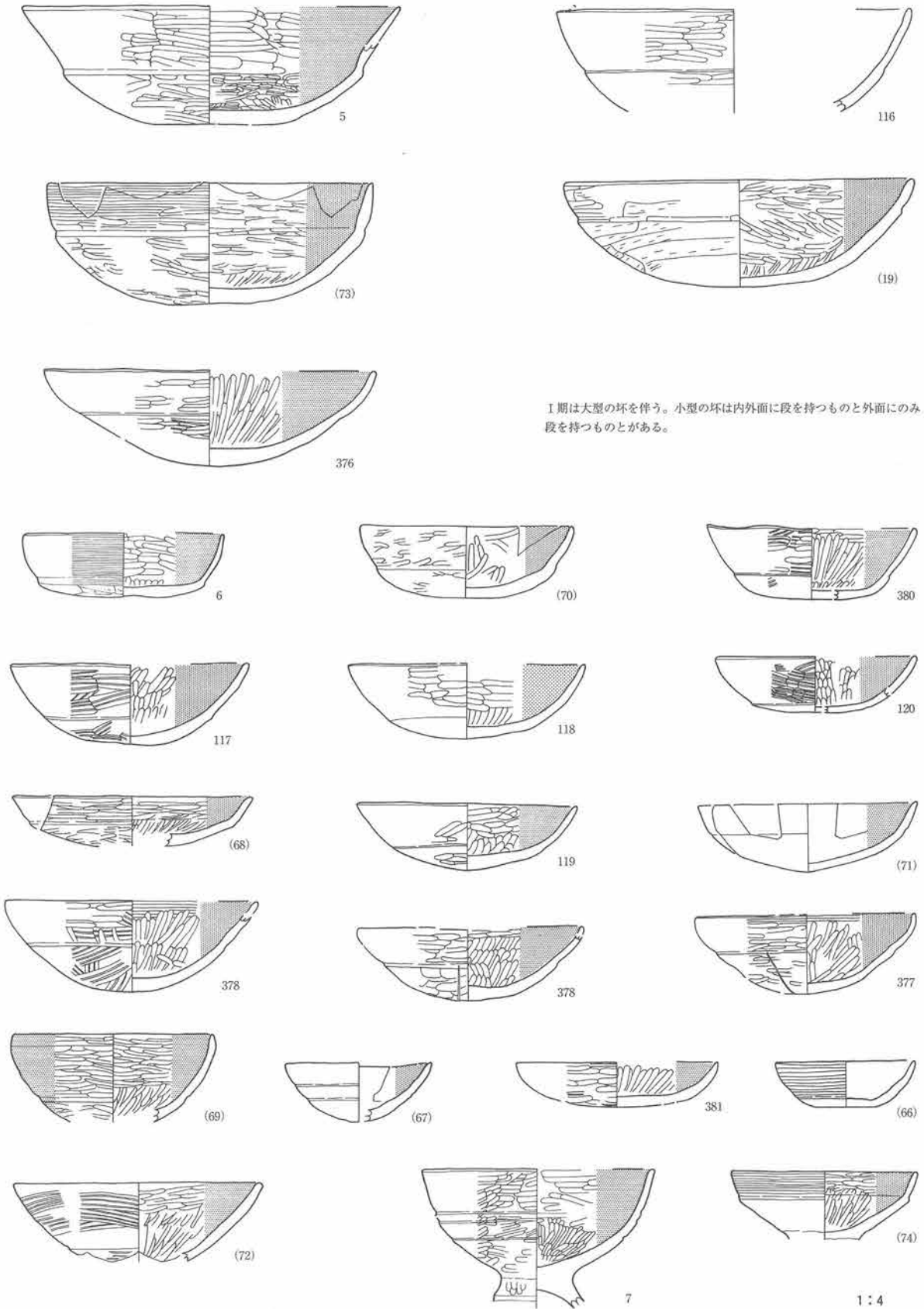
以上のように、ここで扱った台太郎遺跡23・26次調査で出土した土師器の年代については、上限を7世紀代、下限を8世紀末と一応考えている。しかし、各時期の年代観については、I類型を7世紀代、II類型は8世紀前半を主体とし8世紀初頭から中葉を含む、Ⅲ類型を8世紀後葉、Ⅳ類型を8世紀末葉と位置付けたものの、数少ない資料の検証に立脚しているため甚だ大雑把な括りとなっている。土師器の形態分類だけでは不十分な感を持っており、須恵器と共伴する事例が今後増加すれば7・8世紀の土器様相もより明確になるであろう。現時点では7世紀代～8世紀末の集落跡で、その時期的中心は8世紀前半頃とすることができるという印象を持つ。類例資料の増加を待ち、本遺跡の中で見られる在地的な土器の特徴をより具体的に示

し、馬淵川流域的土器や東北南部系統の土器とのあり方について再度検討する必要がある。

9世紀初頭には本遺跡から西に約2kmの地点に古代城柵志波城が築かれる。土器様相も大きな画期を迎えるこの段階の遺構・遺物が広大な面積を調査しているにもかかわらず本遺跡では見られない。9世紀中葉～10世紀代の遺構・遺物は多数検出されている中で本遺跡でも集落のあり方にも大きな変容が想定されるのである。7世紀代から8世紀末まで継続的に営まれていた集落が9世紀初頭には一旦何処かへ移り、志波城が廃絶して暫く後、再びこの地に集落が展開していくように見える。そしてまた、台太郎遺跡周辺にも該期の集落は多く分布するようになる。本遺跡の周辺で9世紀初頭頃の遺跡としては、西隣にあたる飯岡沢田遺跡があげられる。遺跡の詳しい内容については調査継続中の遺跡でもあり見解が異なるかもしれないが、単なる集落ではなく群集墳も多数検出されており、墓域と日常生活の場とが分けられないような遺構分布をしている。恐らくは近隣集落（台太郎遺跡ほか）の有力者が飯岡沢田遺跡や飯岡才川遺跡などに埋葬されていたものと推察される。今後も本遺跡の発掘調査は予定されており9世紀以降の土器様相についてもまとめる必要がある。

台太郎遺跡では近年、当センターと盛岡市教育委員会とにより大規模な発掘調査が継続されており遺跡のほぼ全域が調査される予定になっている。将来的には遺跡の全容が明らかになるはずである。23・26次調査は遺跡の南半部を主な対象としており、広範囲に渡り調査したため遺跡中央より南半部の様相はかなり明らかになってきた。調査区の南端部からは湿地が検出されこれが遺跡としての南端部でもあると考えることができそうである。本遺跡では古墳時代末から平安時代の竪穴住居跡は400棟以上が確認され古代志波郡でも有数な大規模な集落であったことが判明した。中世に於いては墓壙が密集して330基検出された。これは一般農民の墓地であると考えられ、13世紀後半から15世紀頃まで営まれていたようである。墓地に隣接して2重に巡る方形の堀に囲まれた御堂のような施設も確認された他、周辺には何か所か屋敷跡が存在し、村落を構成していることも把握できた。そして遺跡中央部には環濠を巡らせた地元有力者の屋敷跡と見られる遺構も確認されており、中世の村落様相についても良好な資料が得られた。これら検出された遺構群のまとめについては23次調査の報告書に記載している。

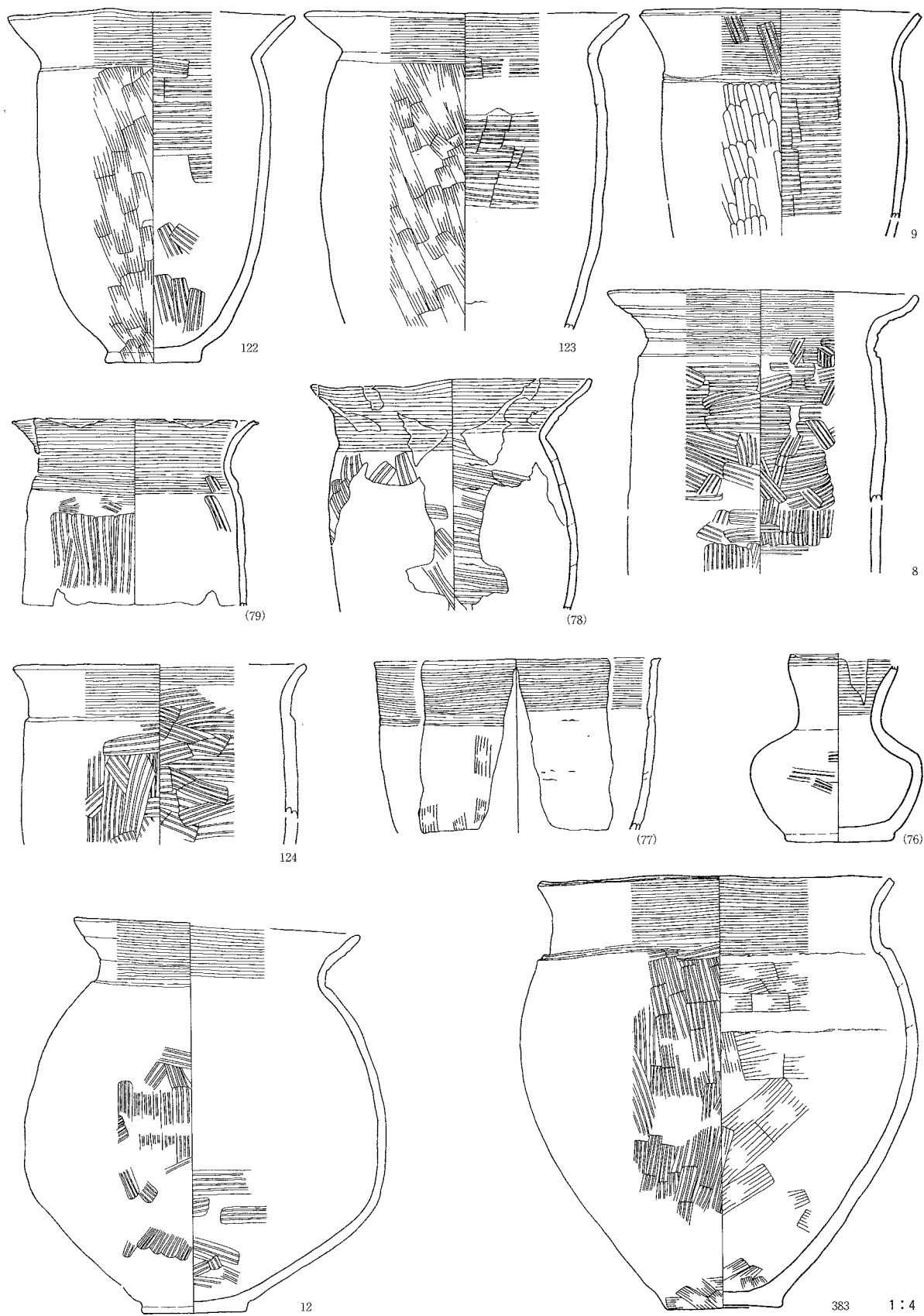
I期土器群(1)



I期は大型の坏を伴う。小型の坏は内外面に段を持つものと外面にのみ段を持つものがある。

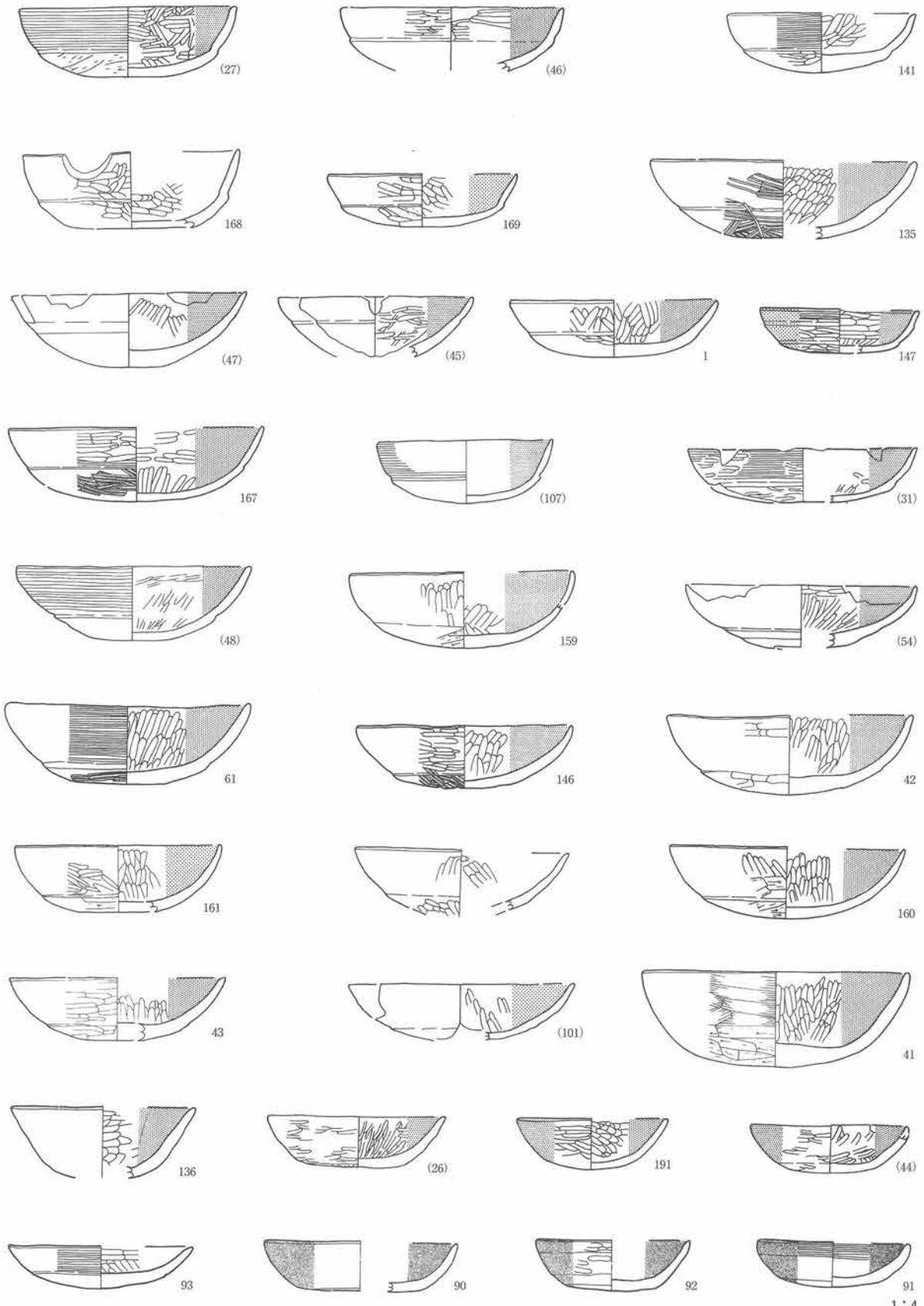
第202図 出土土師器集成図1

I 期土器群 (2)



第203图 出土土器集成图 2

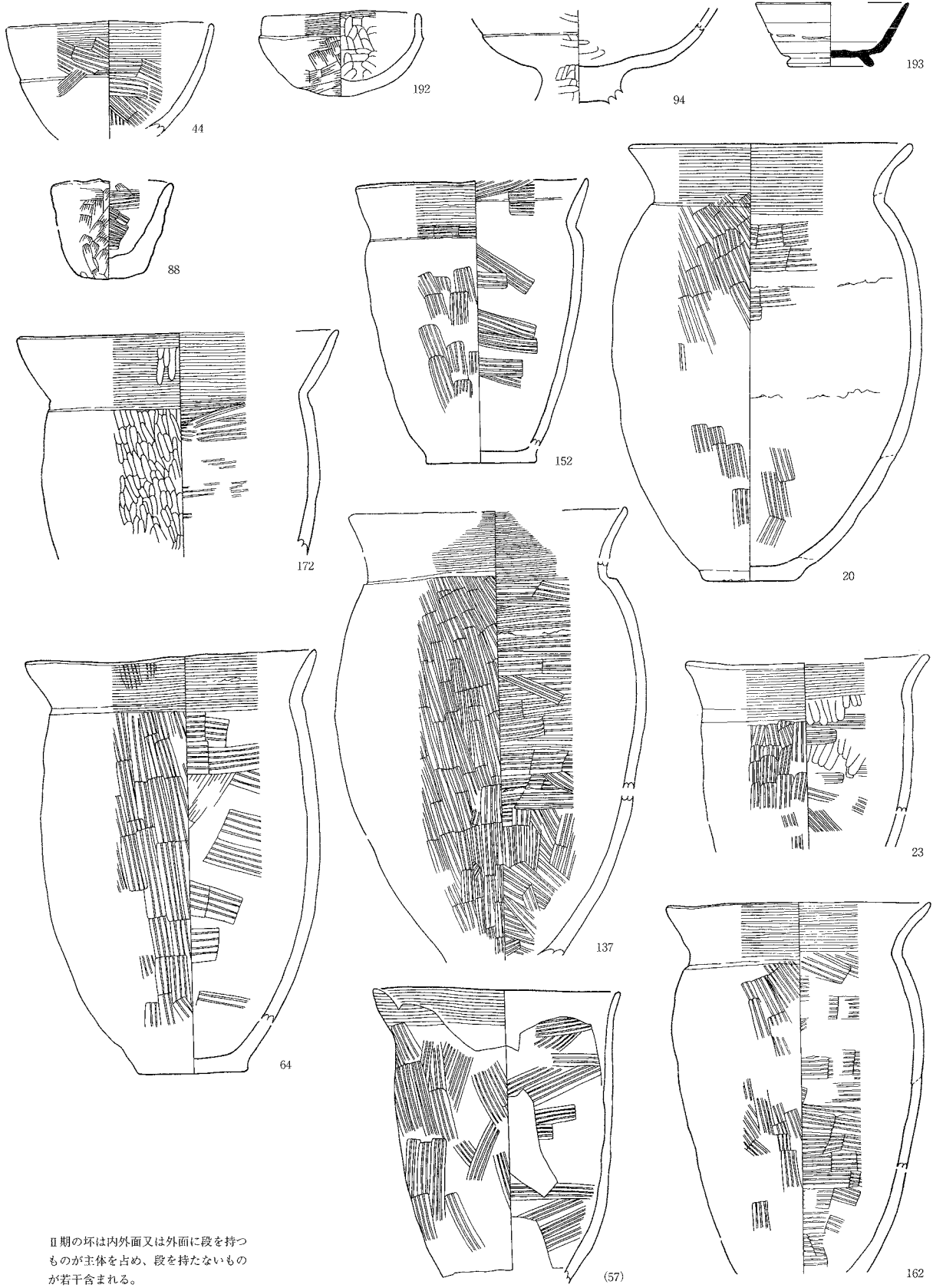
II 期土器群 (1)



第204图 出土土器集成图 3

1:4

Ⅱ期土器群（2）

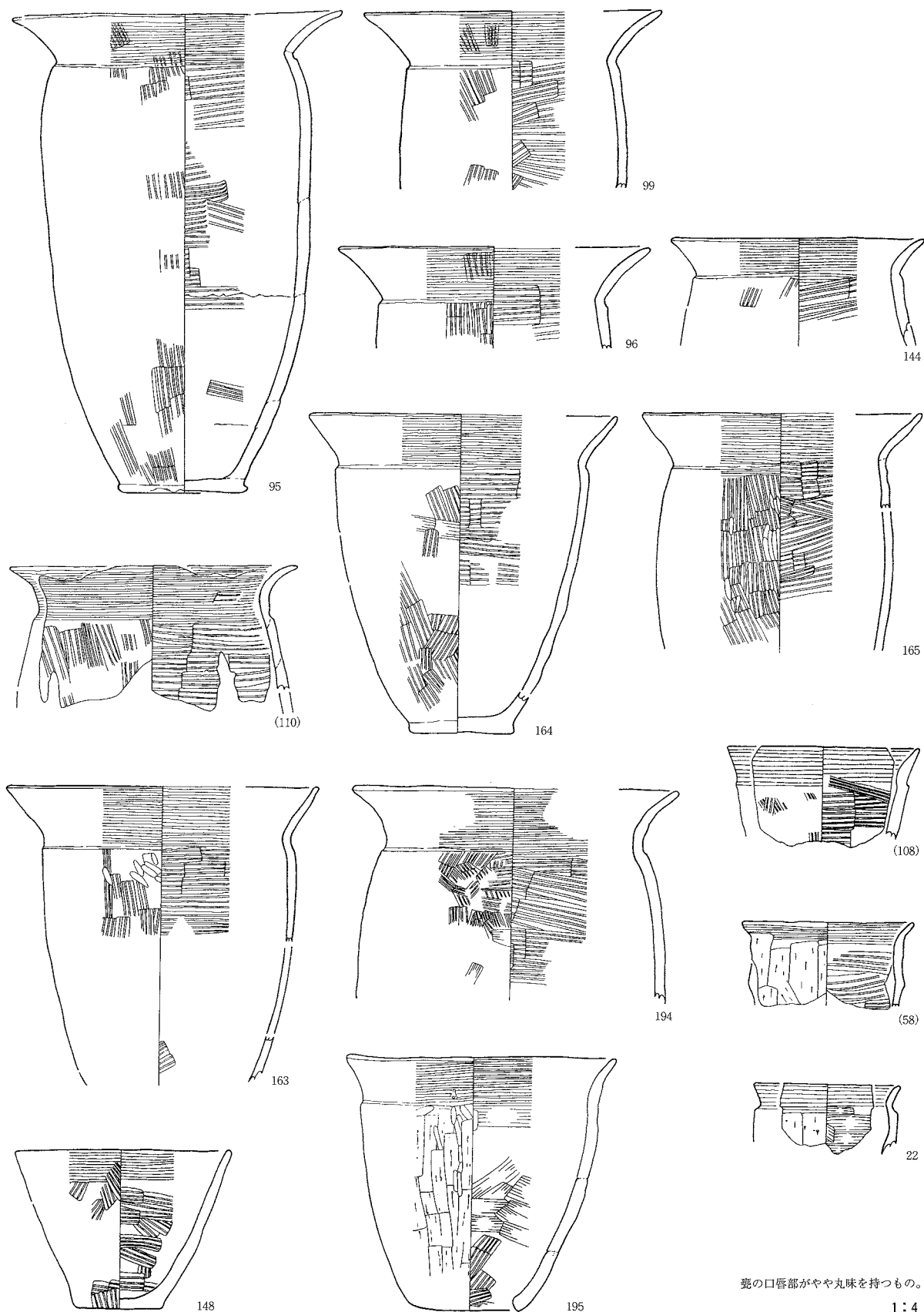


Ⅱ期の坏は内外面又は外面に段を持つものが主体を占め、段を持たないものが若干含まれる。

第205図 出土土師器集成図4

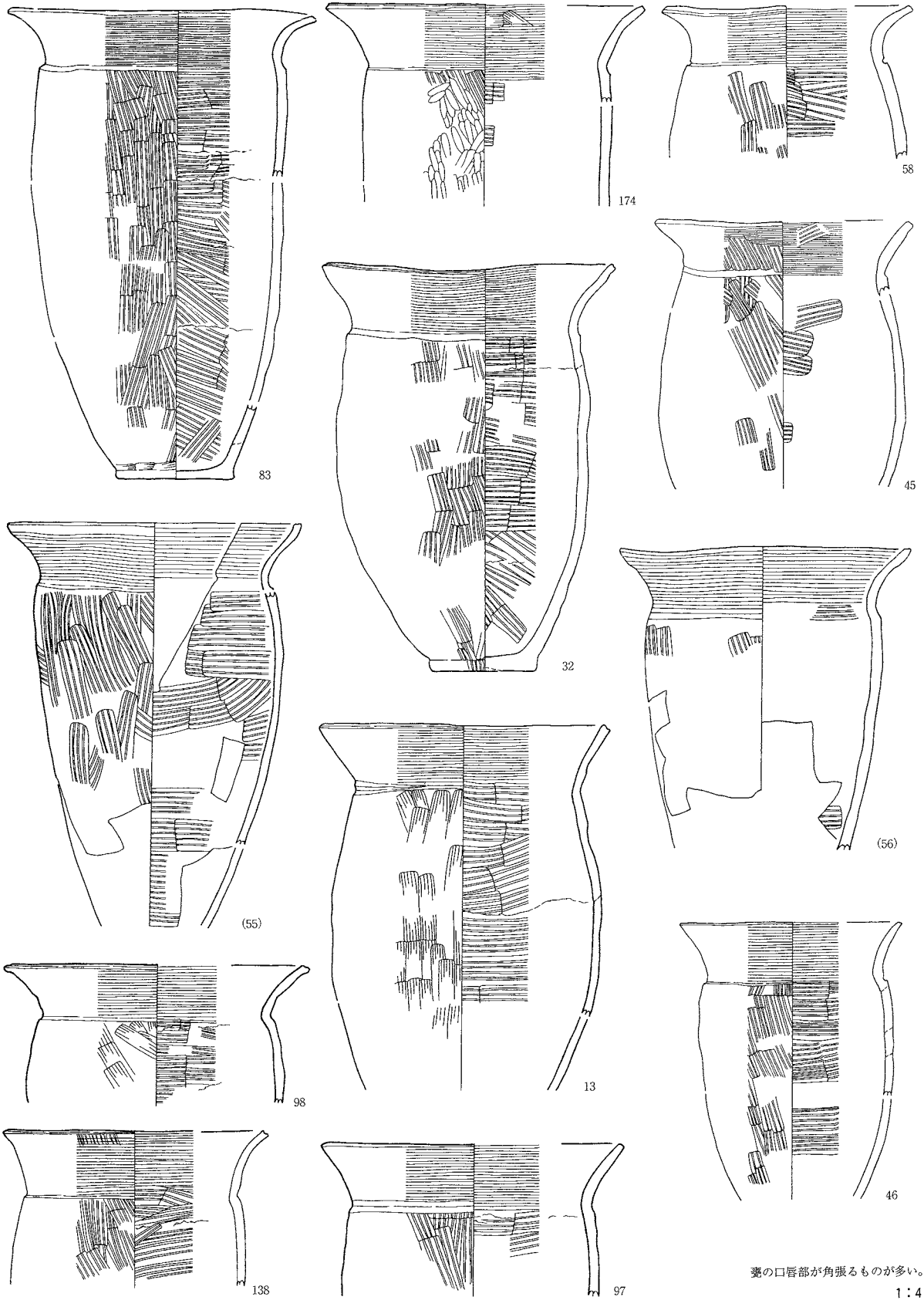
1:4

II期土器群(3)



第206図 出土土師器集成図5

II 期土器群 (4)

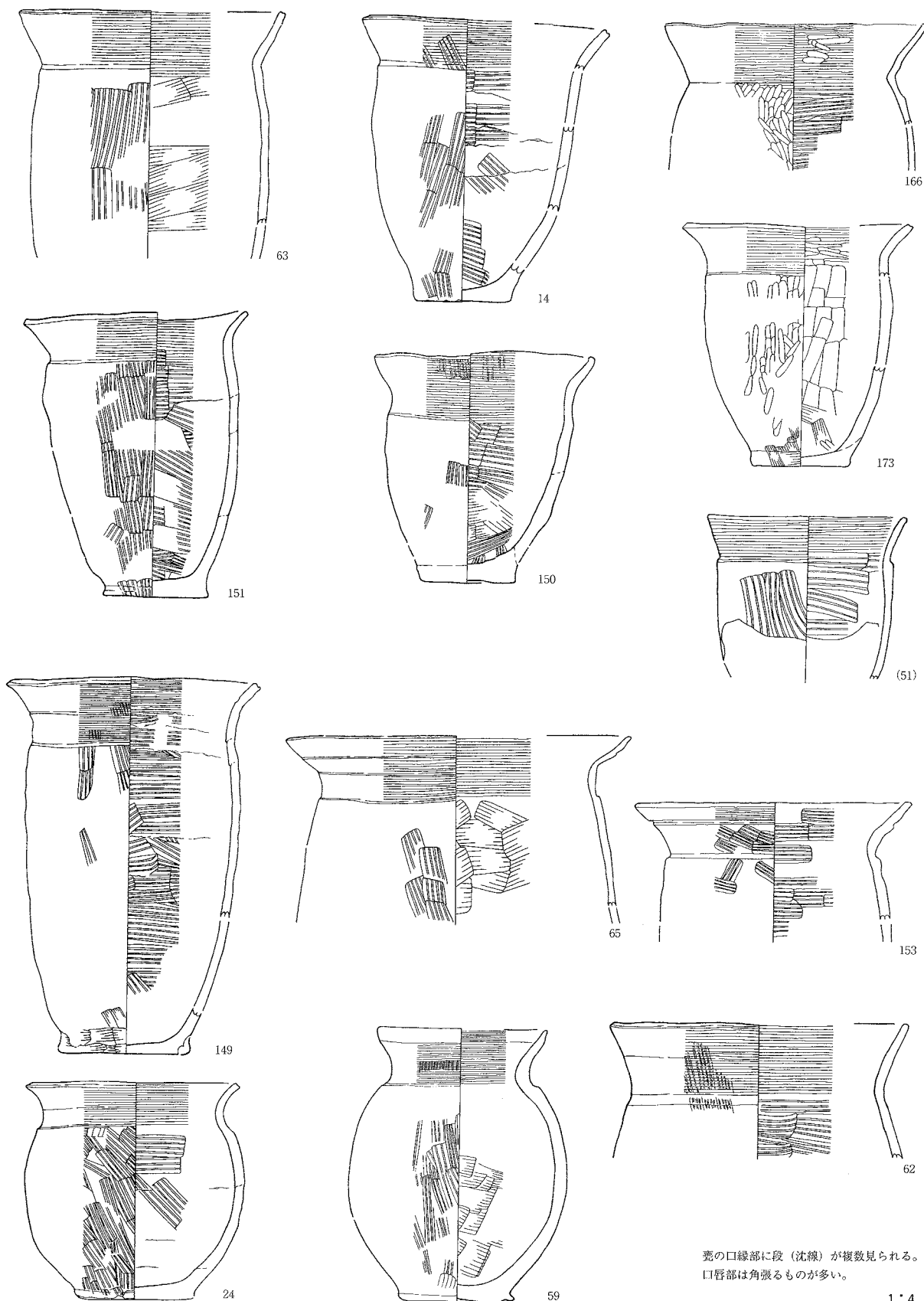


甕の口唇部が角張るものが多い。  
1:4

第207図 出土土器集成図6



Ⅱ期土器群（5）

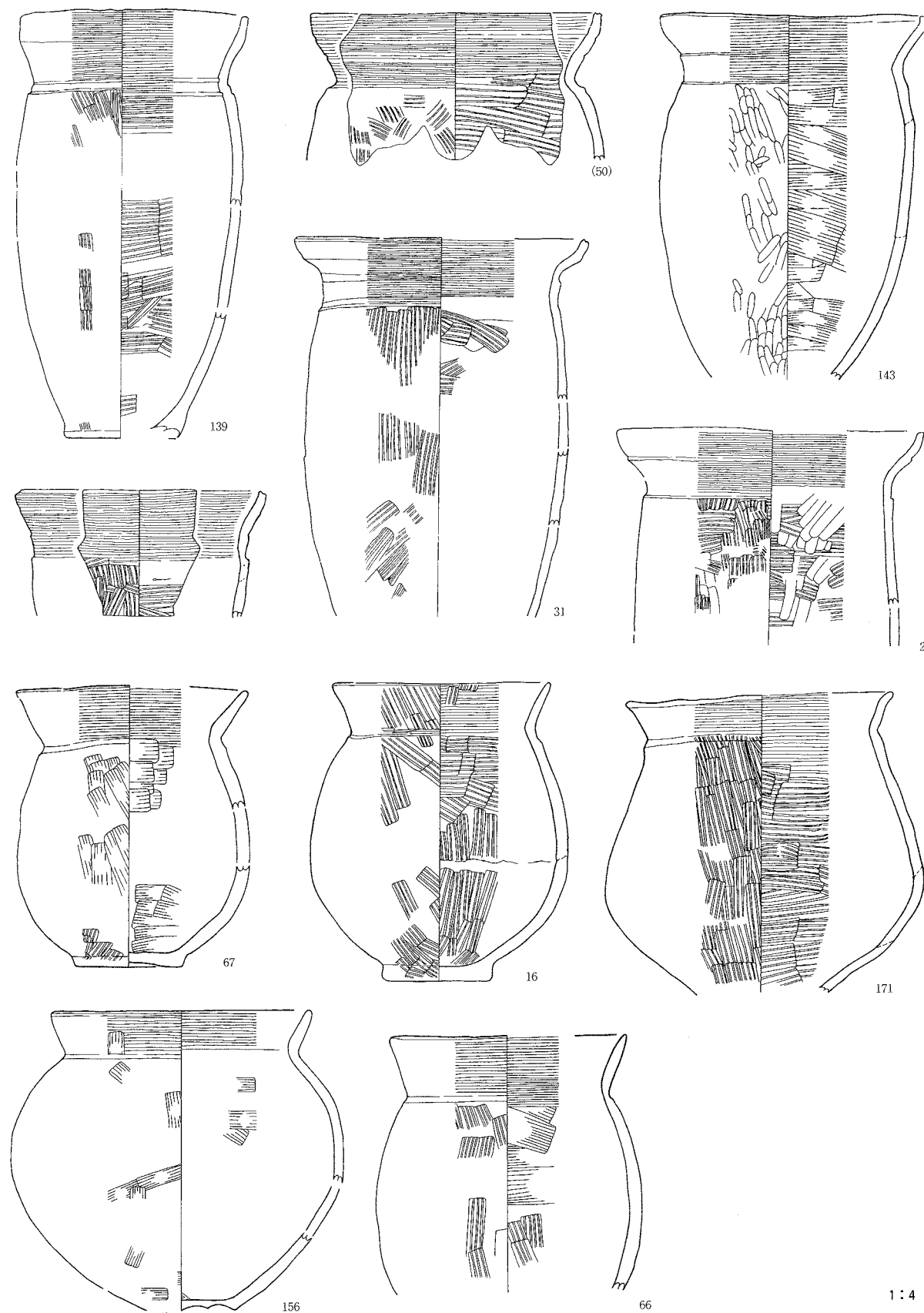


甕の口縁部に段（沈線）が複数見られる。  
口唇部は角張るものが多い。

1:4

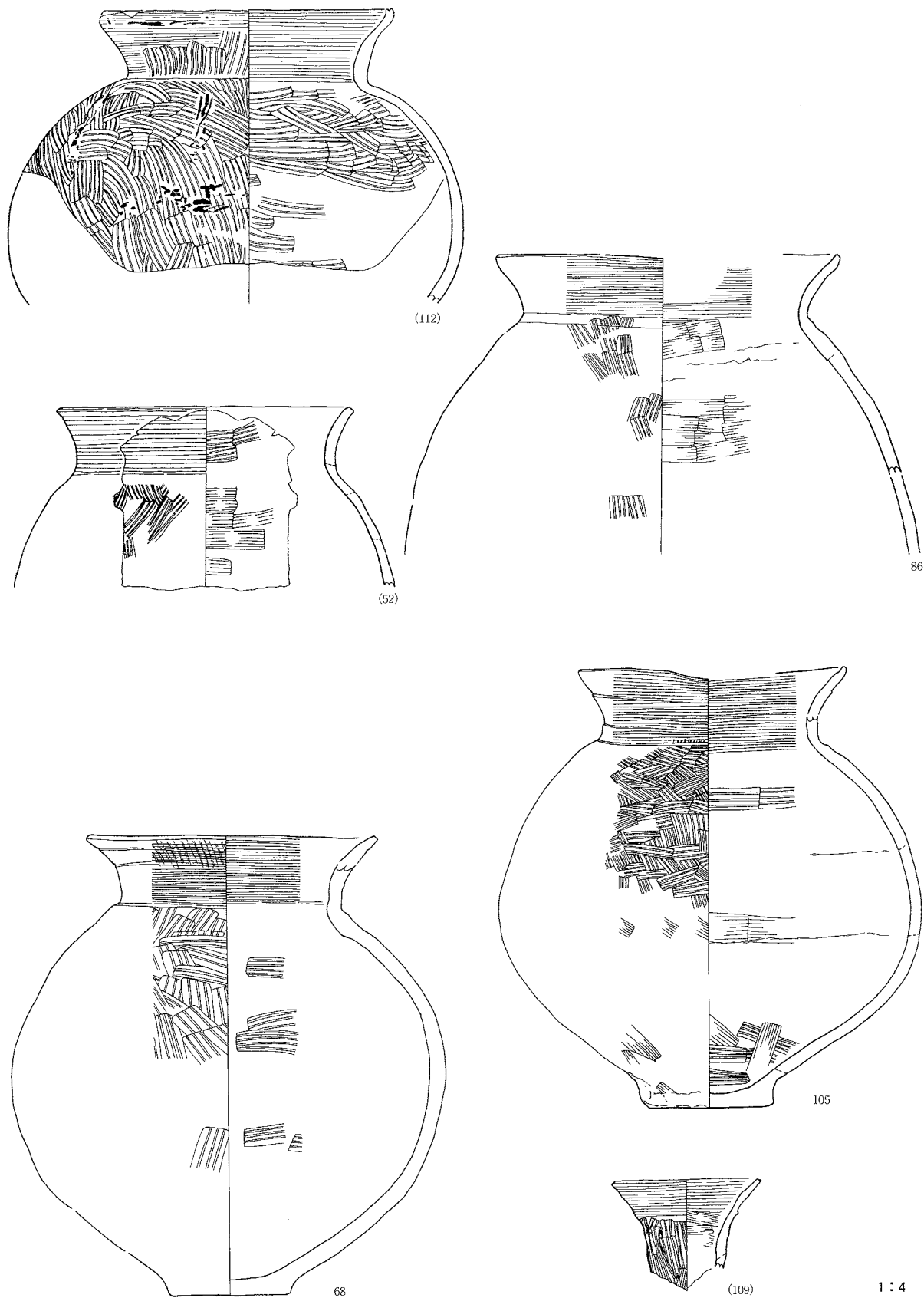
第208図 出土土器集成図7

II期土器群 (6)



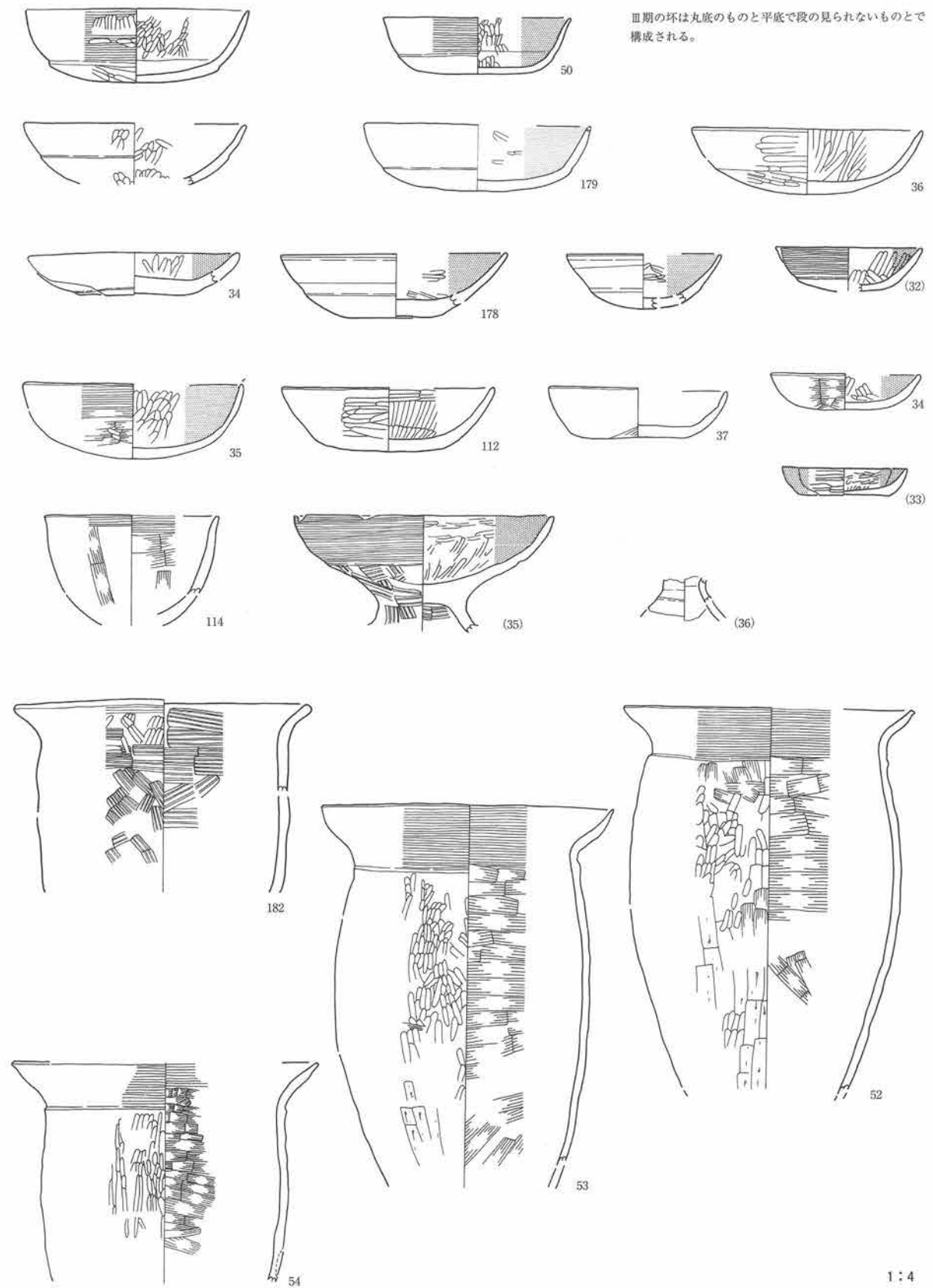
第209图 出土土師器集成图 8

II期土器群 (7)



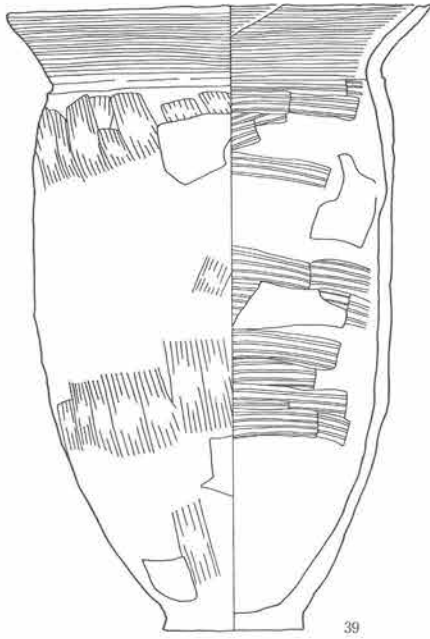
第210图 出土土師器集成图9

Ⅲ期土器群 (1)

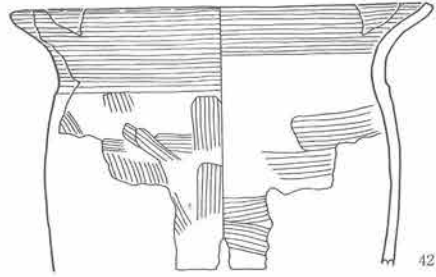


第211図 出土土師器集成図10

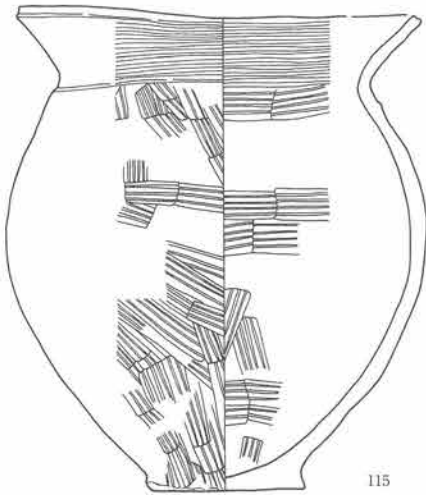
Ⅲ期土器群 (2)



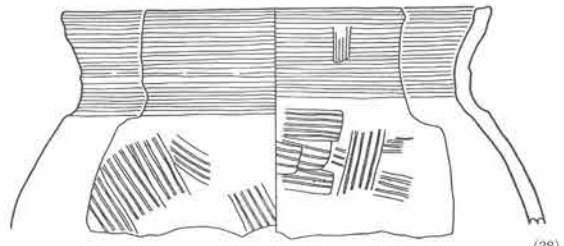
39



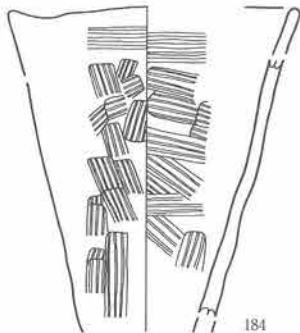
42



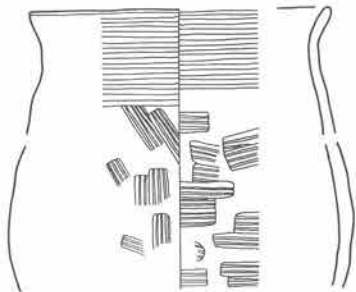
115



(38)



184



181

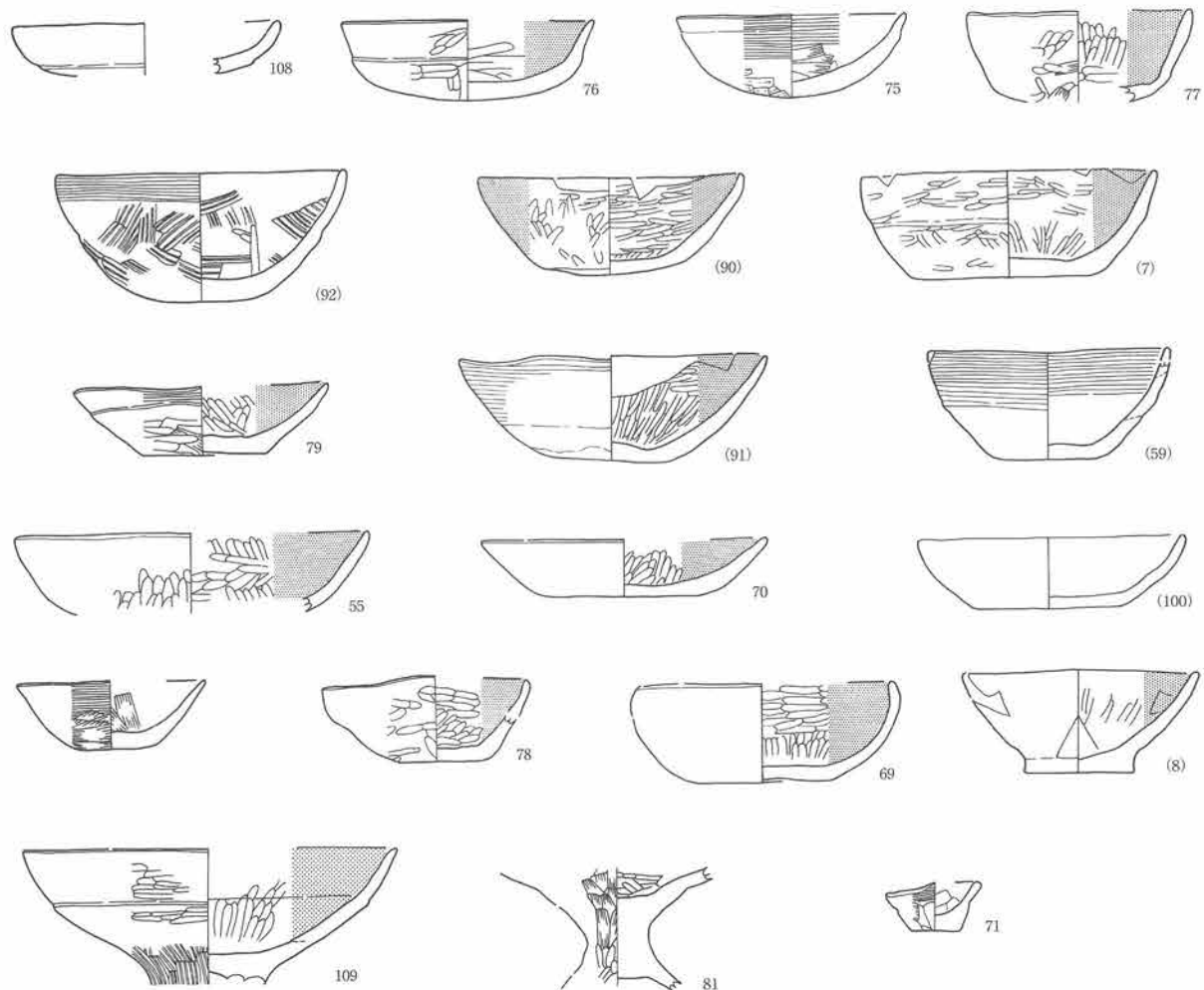


(37)

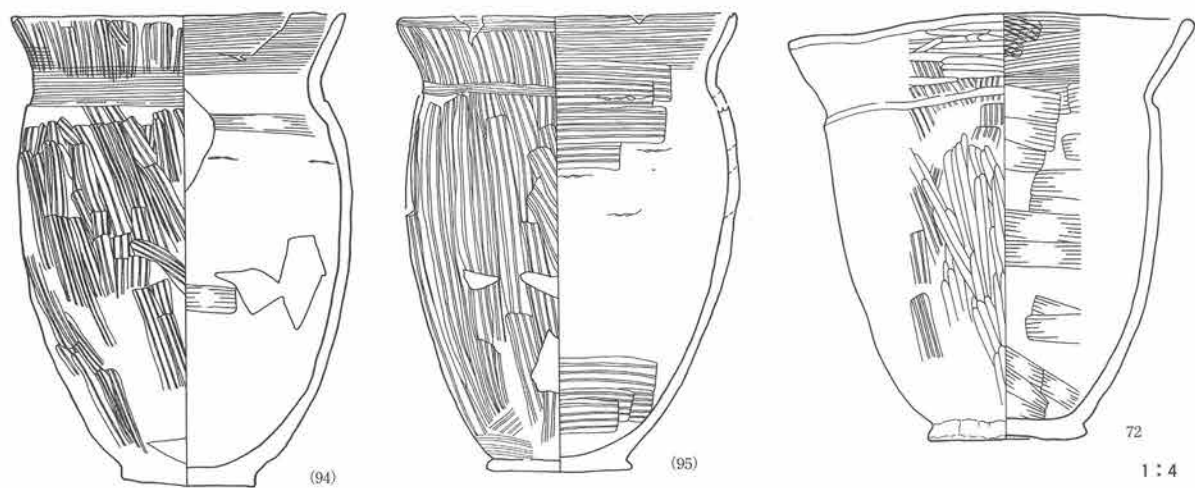
1:4

第212図 出土土師器集成図11

IV期土器群（1）

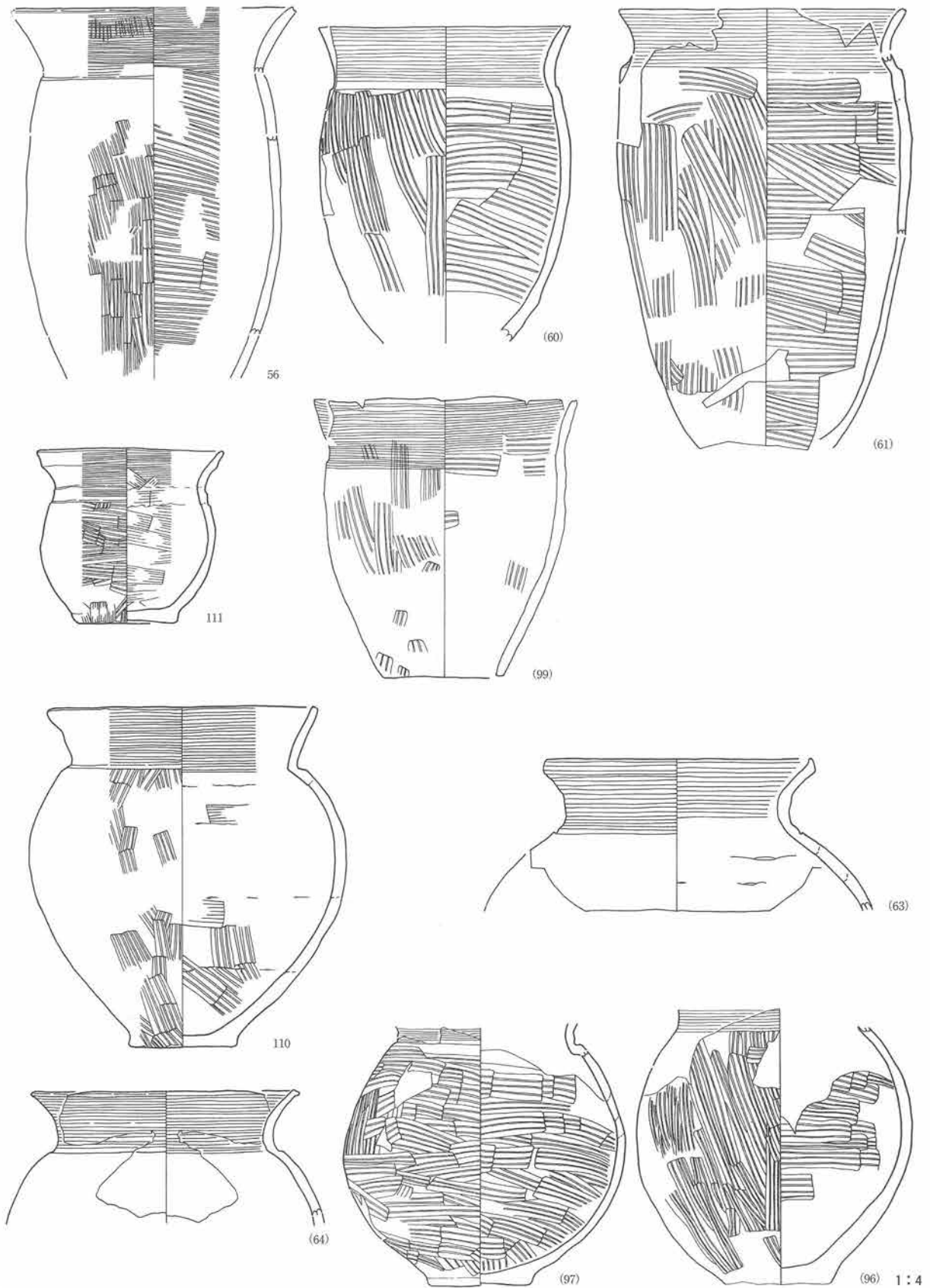


IV期は坏の平底化・無段化がより顕著になる段階。



第213図 出土土師器集成図12

IV期土器群（2）



第214図 出土土師器集成図13

## 引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」 ニュー・サイエンス社
- 宇部 則保 1989 「青森県における7・8世紀の土師器－馬淵川下流域を中心として」北海道考古学第25
- 宇部 則保 2000 「古代東北地方北部の沈線文のある土師器」考古学ジャーナル462
- 大橋 康二 1993 「肥前陶磁」考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
- 草間 俊一 昭和40年 「岩手県福岡町 堀野遺跡」福岡町教育委員会
- 工藤 雅樹 平成10年 「古代蝦夷の考古学」吉川弘文館
- 笹生 衛 平成7年 「東国における中世墓地の諸相」研究紀要16 財団法人千葉県文化財センター
- 永井久美男 1994 「中世の出土銭」－出土銭の調査と分類－ 兵庫埋蔵銭調査会
- 村田 晃一 2000 「宮城県における8世紀前後の土器」第3回東北古代土器研究会（宮城大会）資料
- 一戸町教育委員会 1982 「一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅱ」一戸町文化財調査報告書第2集
- 一戸町教育委員会 1999 「姉帯城跡」一戸町文化財調査報告書第41集
- 磐田市教育委員会 1993 「一の谷中世墳墓群遺跡」本文編
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」岩手県文化財調査報告書第52集
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」岩手県文化財調査報告書第53集
- 岩手県文化財愛護協会 昭和49年 「内史略（1）～（4）」岩手史叢 第3巻
- （財）岩手県埋文センター 昭和52・53・54年度 「二戸バイパス関連 上田面・大淵・火行塚遺跡」岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 「館山遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 「水神遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第96集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 「台太郎遺跡第15次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「台太郎遺跡第18次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集
- 金ヶ崎町教育委員会 1990 「柏山館跡遺跡」金ヶ崎町文化財報告書第18集
- 古代城柵官衙遺跡検討会 1992 「古代ス波郡と爾薩体の土器様相」第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 古代城柵官衙遺跡検討会 1998 「東北地方の古代集落」第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 古代の土器研究会第4回シンポジウム 1996 「古代の土器研究－律令土器様式の西・東4 煮炊具－」古代の土器研究会
- 古代の土器研究会第5回シンポジウム 1997 「古代の土器研究－律令土器様式の西・東5 7世紀の土器－」古代の土器研究会
- （財）瀬戸市埋蔵文化財センター 2001 「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品」（財）瀬戸市埋文センター設立10周年記念シンポジウム・講演会資料集
- 仙台市教育委員会 昭和57年 「栗遺跡」仙台市文化財調査報告書第43集
- 仙台市教育委員会 1998 「柳生台畑遺跡」仙台市文化財調査報告書第230集
- 大東町教育委員会 1984 「伊勢館－昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書」大東町文化財調査報告書第8集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「諸葛川遺跡」滝沢村文化財調査報告書第4集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「高柳遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第7集
- 滝沢村教育委員会 平成元年 「高柳遺跡 室小路Ⅱ遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第9集
- 東北中世考古学会 平成11年 「東北地方の中世出土貨幣」東北中世考古学会第5回研修集会資料集
- 都南村教育委員会 1979 「岩手県紫波郡都南村 百目木遺跡発掘調査報告書」
- 都南村教育委員会 1981 「西鹿渡遺跡発掘調査報告書」
- 都立学校遺跡調査会 1990 「白鷗」
- 南部叢書刊行会 昭和三・四年 「南部叢書」第2・5冊
- 日本考古学協会 1997年度秋田大会 「蝦夷・律令国家・日本海」－シンポジウムⅡ・資料集－ 日本考古学協会 1997年度秋田大会実行委員会
- 日本貿易陶磁研究会 1998 「貿易陶磁研究 No1-5」六一書房
- 八戸市教育委員会 昭和63年 「田面木平遺跡（1）八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ」八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 八戸市教育委員会 平成元年 「八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 田面木平(1)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集
- 八戸市教育委員会 平成2年 「丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ」八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 八戸市教育委員会 平成7年 「丹後平(1)遺跡 丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ」八戸市埋蔵文化財調査報告書第66集
- 盛岡市 平成2年 「もりおかの地名」
- 盛岡市 昭和54年 「盛岡市史 近世期上」復刻版第二巻
- 盛岡市教育委員会 1981 「志波城跡Ⅰ 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告」
- 盛岡市教育委員会 2000 「竹鼻遺跡」『盛岡市内遺跡群』－盛岡市教育委員会－
- 昭和36・38年 「岩手県史 第三巻 中世篇下」・「岩手県史 第5巻 近世篇2」





# 写 真 图 版





遺跡全景



遺跡全景

写真図版 1 遺跡全景



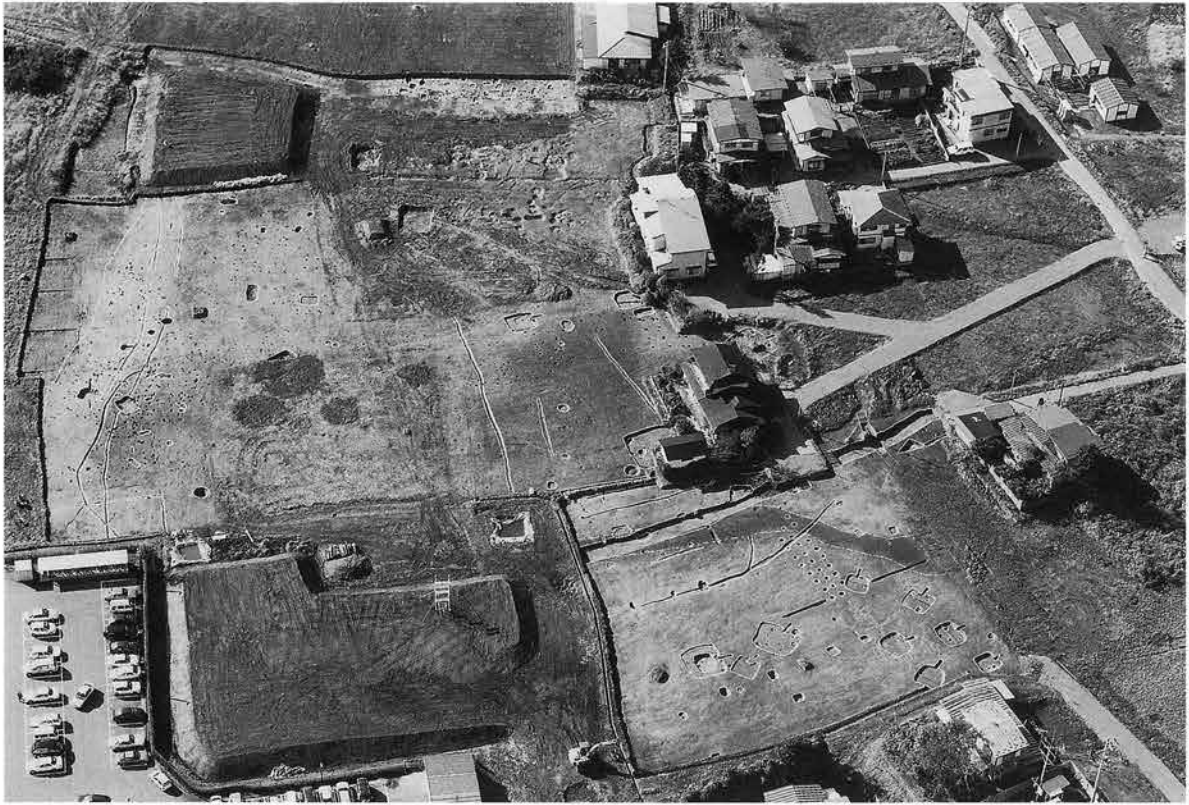
写真図版 2 遺跡近景 2-D他 (上が西)



写真図版3 遺跡近景 4-C~5-B (上が北)



写真図版 4 遺跡近景 2D~4B (上が西)



遺跡全景



遺跡全景

写真図版 5 遺跡全景





RA210 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



カマド断面 (西から)



遺物出土状況

写真図版 6 RA210 竪穴住居跡



RA234 竖穴住居跡 平面

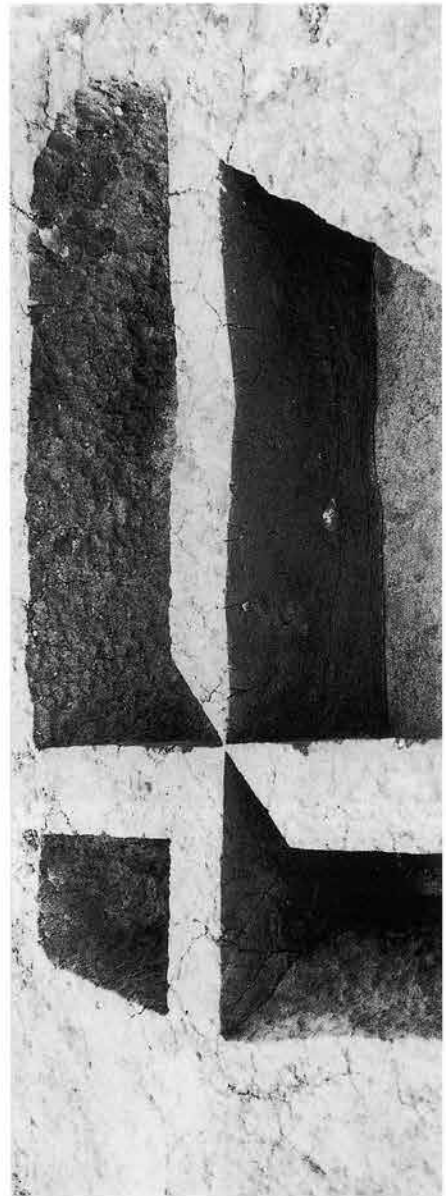


断面（西から）

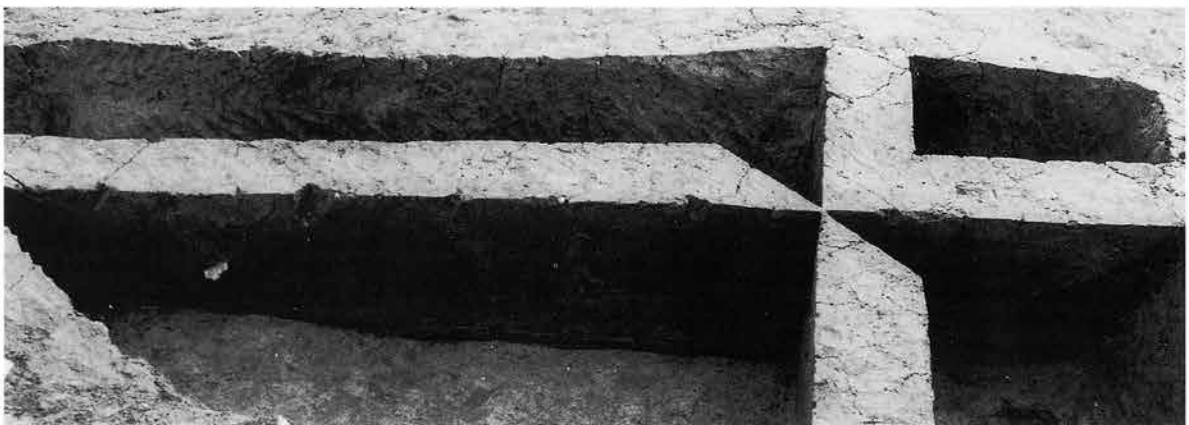
写真図版 7 RA234 竖穴住居跡



RA237 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



断面 (東から)

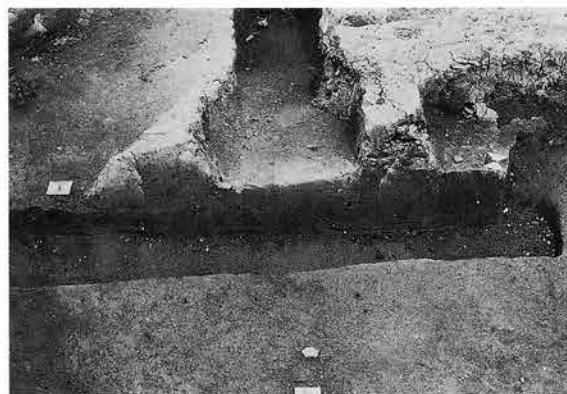
写真図版 8 RA237 竪穴住居跡



RA402 竪穴住居跡 平面



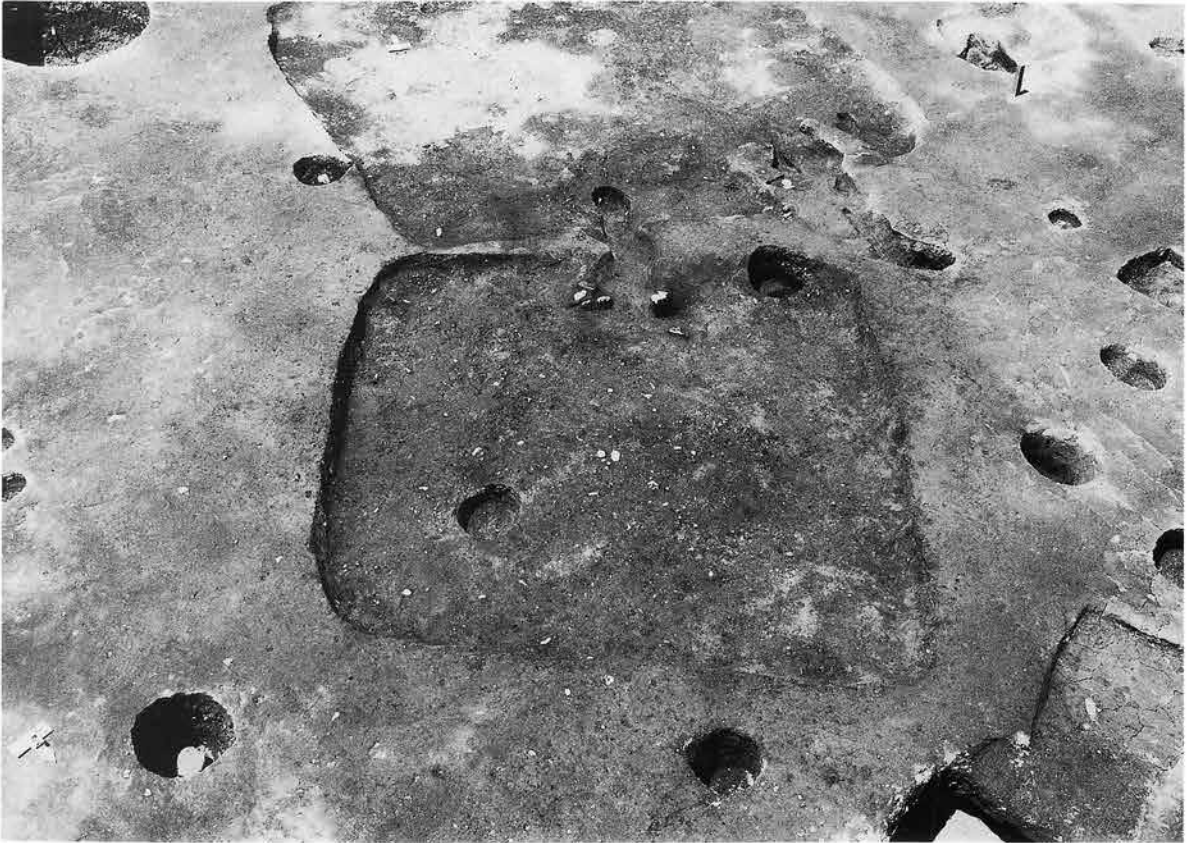
断面 (南から)



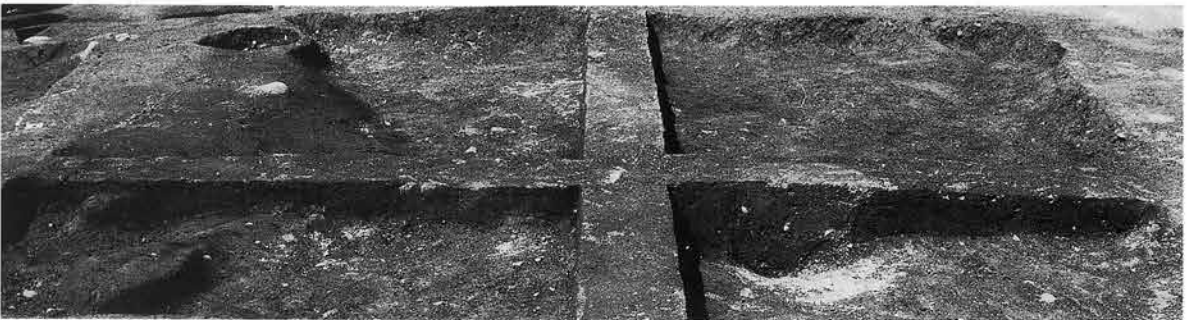
カマド断面 (南東から)



遺物出土状況



RA404 竪穴住居跡 平面



断面（南から）

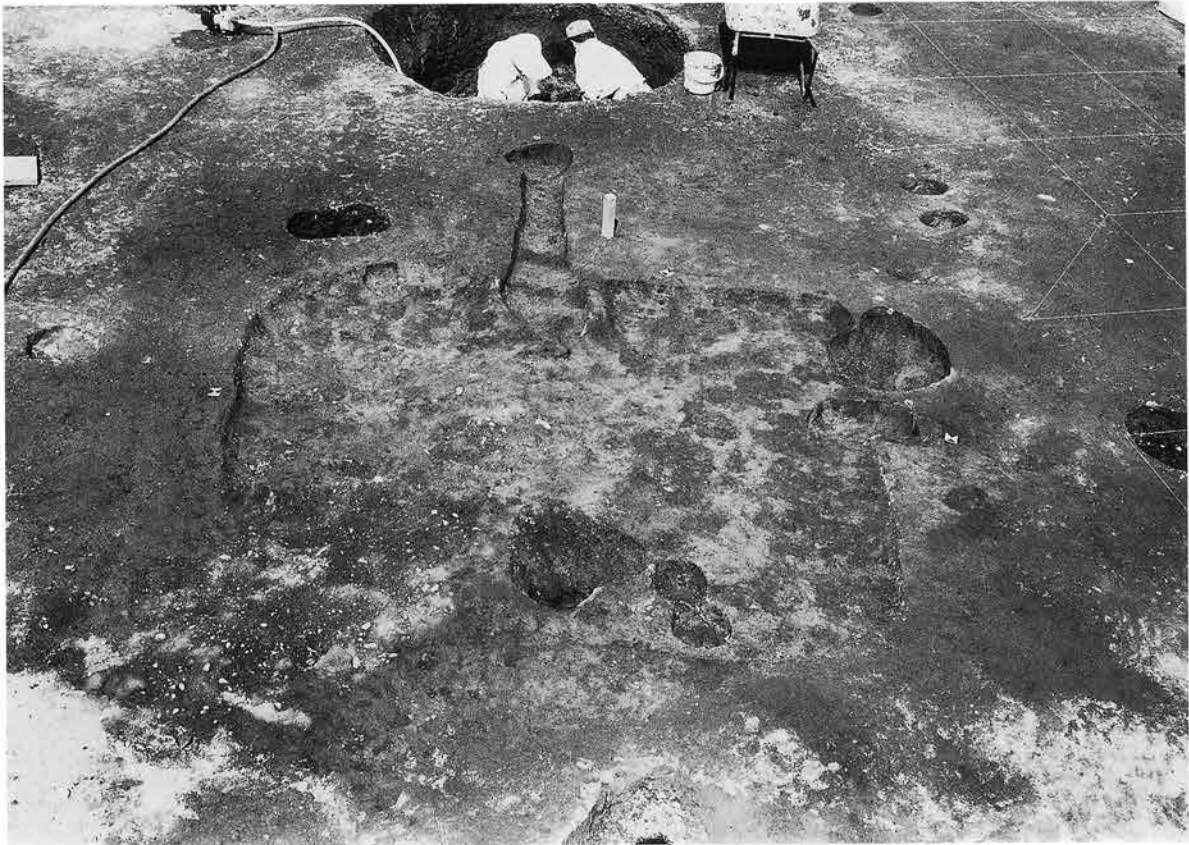


カマド平面



カマド断面（南から）

写真図版10 RA404 竪穴住居跡



RA405 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (東から)

写真図版11 RA405 竪穴住居跡



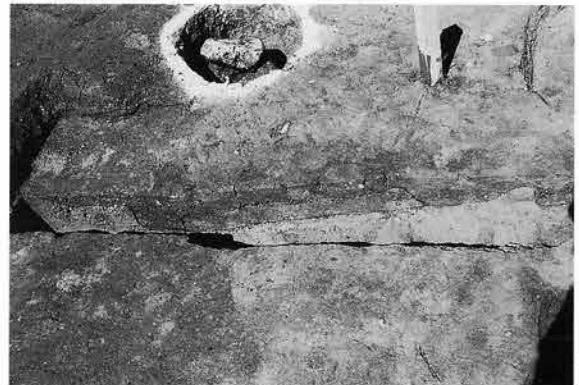
RA407 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)

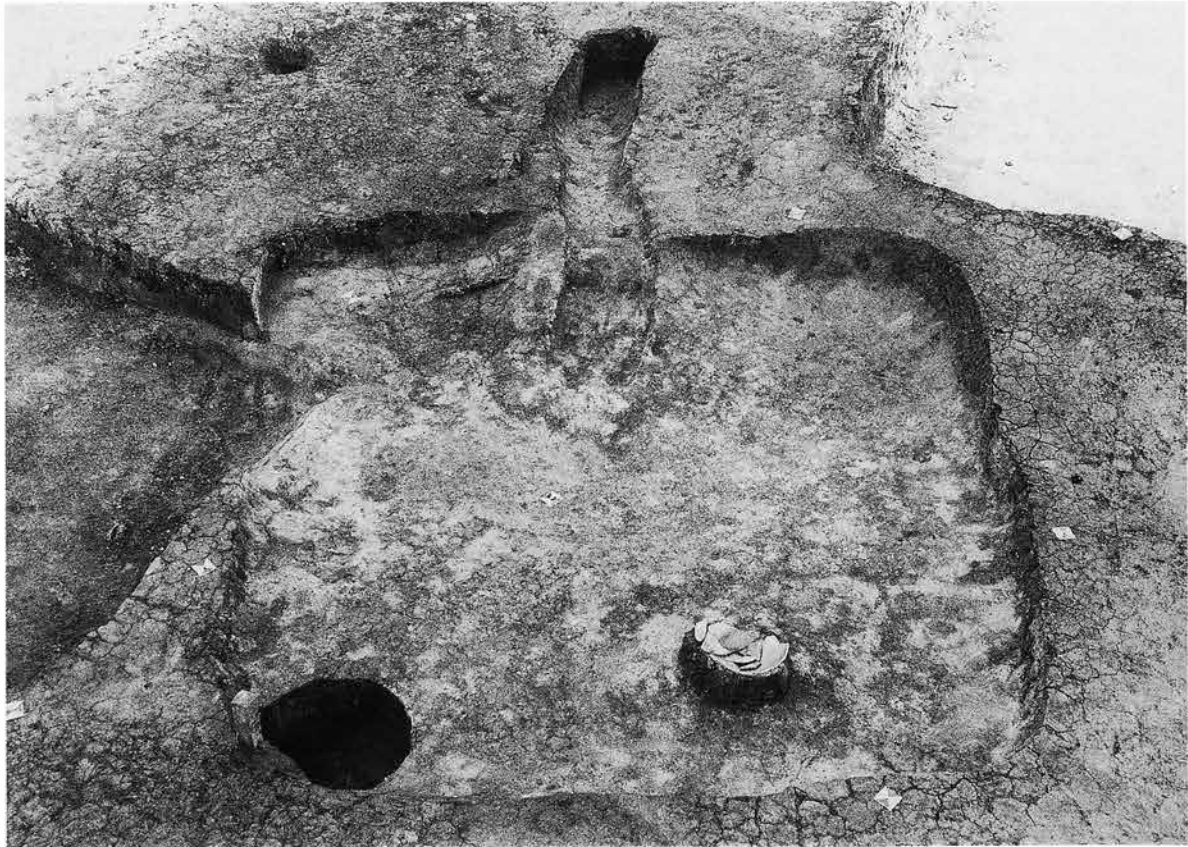


カマド平面



カマド断面 (西から)

写真図版12 RA407 竪穴住居跡



RA409 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



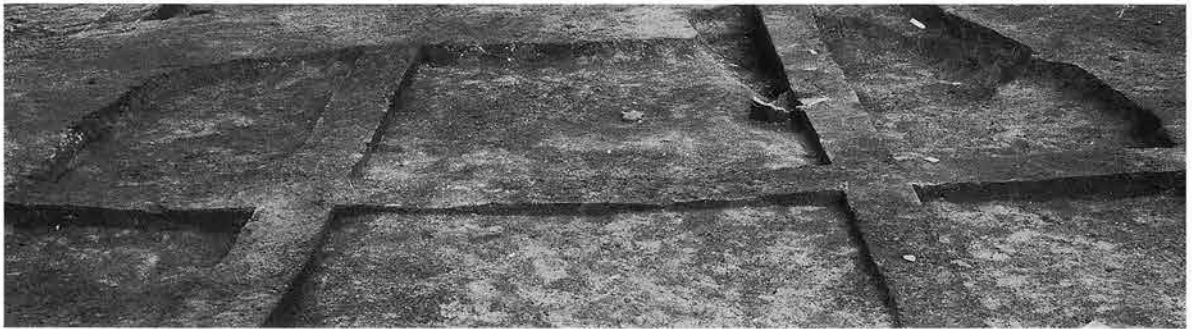
遺物出土状況

写真図版13 RA409 竪穴住居跡





RA410 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（南から）

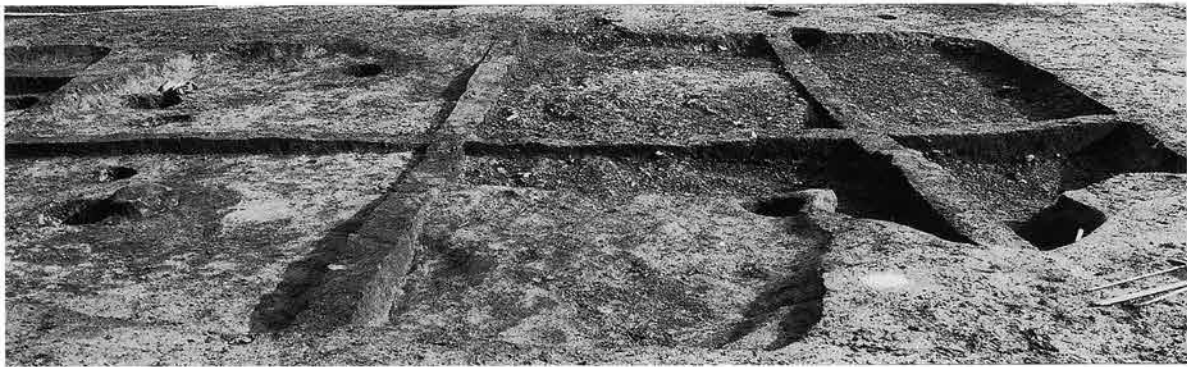


カマド断面（東南から）

写真図版14 RA410 竪穴住居跡



RA412 竪穴住居跡 平面



断面（北から）

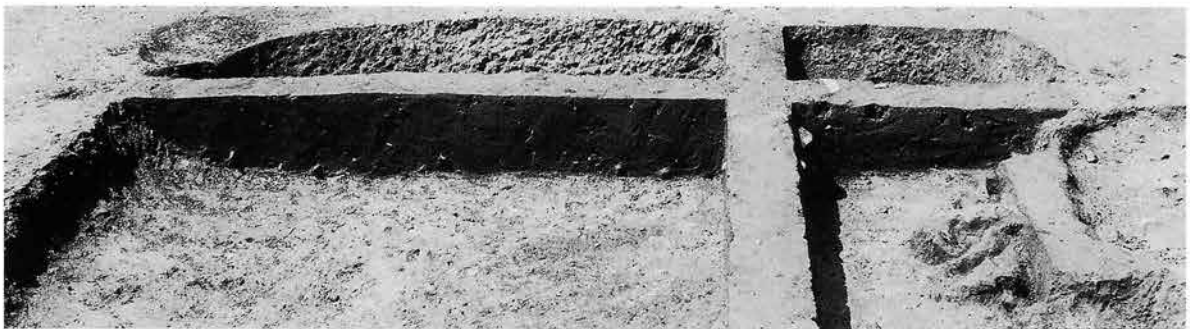


断面（西から）

写真図版15 RA412 竪穴住居跡



RA414 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



カマド断面（西から）



カマド断面（南から）

写真図版16 RA414 竪穴住居跡



RA416 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)

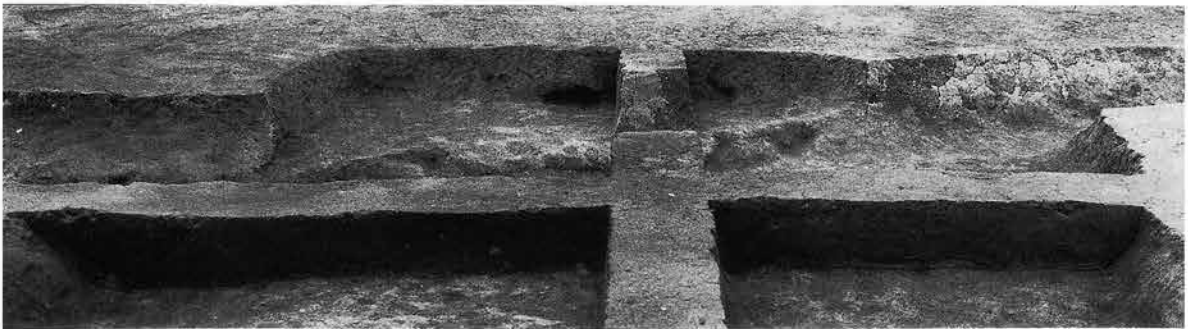


カマド断面 (南から)

写真図版17 RA416 竪穴住居跡



RA417 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（南から）

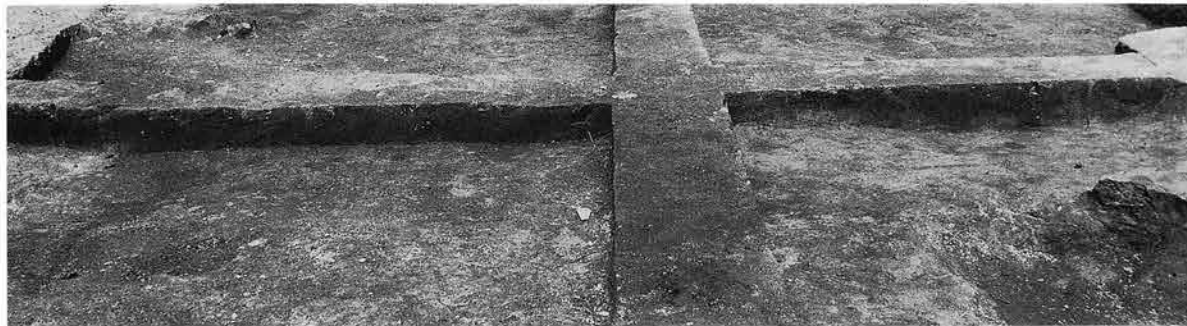


カマド断面（東から）

写真図版18 RA417 竪穴住居跡



RA418 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド平面



カマド断面 (南から)



RA421 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（北から）

写真図版20 RA421 竪穴住居跡



RA438・439 竪穴住居跡 平面



断面（南から）

写真図版21 RA438・439 竪穴住居跡





RA441 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



カマド断面（南から）

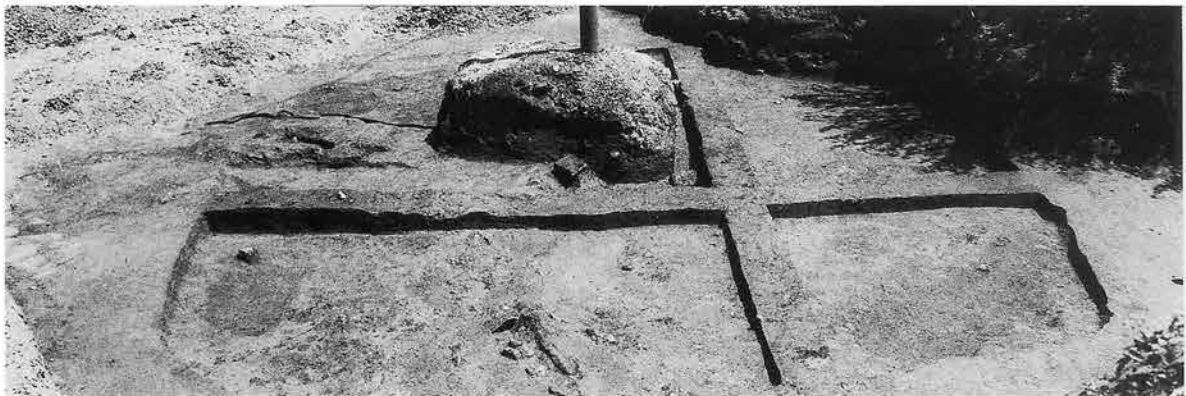


遺物出土状況

写真図版22 RA441 竪穴住居跡



RA442 竪穴住居跡 平面



断面（西から）

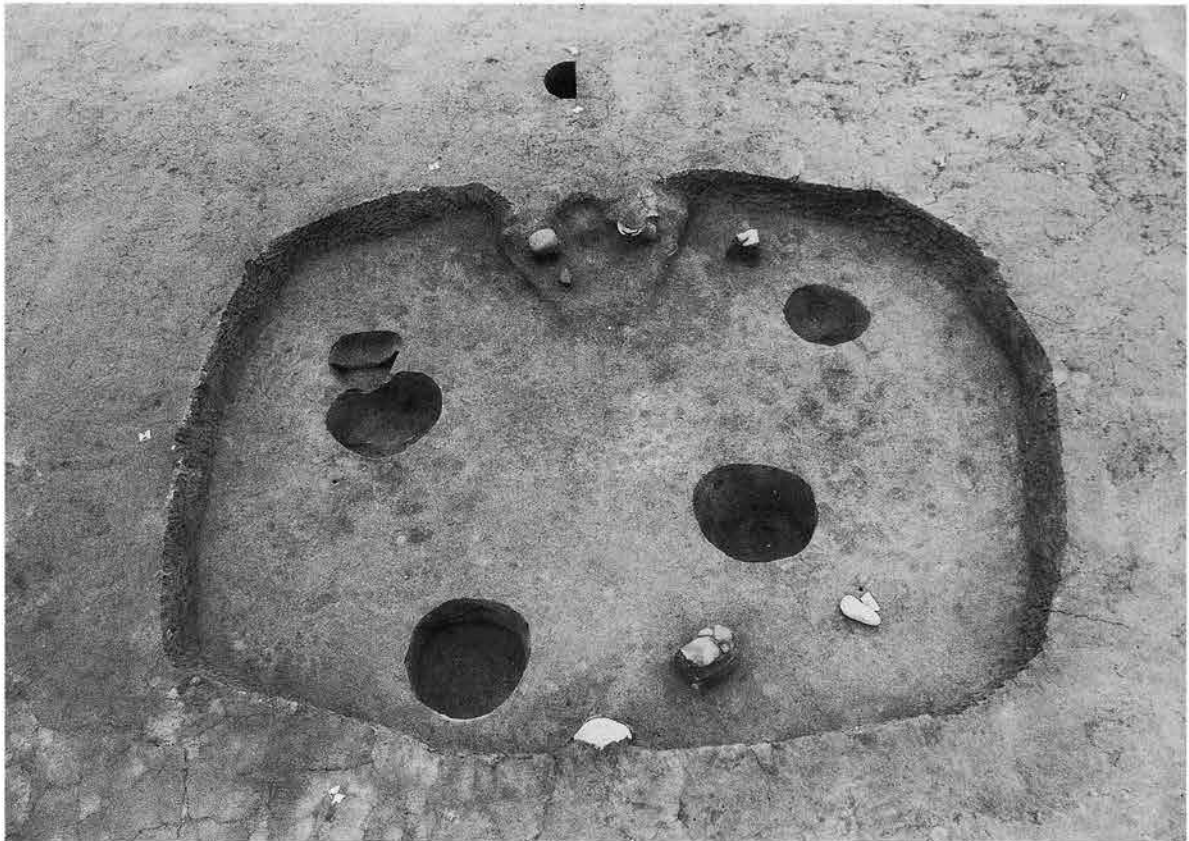


カマド断面（南から）



カマド断面（西から）

写真図版23 RA442 竪穴住居跡



RA444 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況



RA445 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)

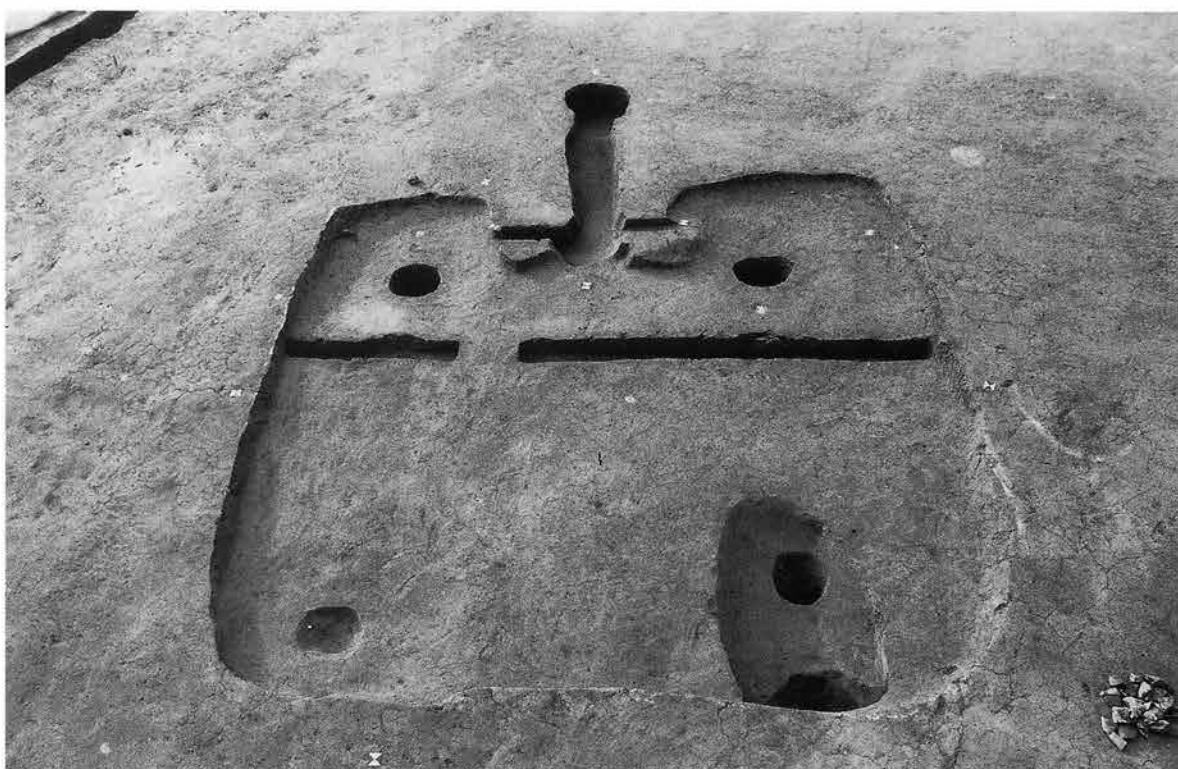


カマド断面 (南から)



遺物出土状況

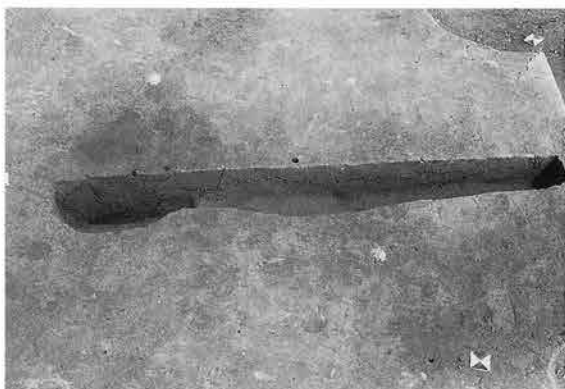
写真図版25 RA445 竪穴住居跡



RA446 竪穴住居跡 平面



断面（南から）

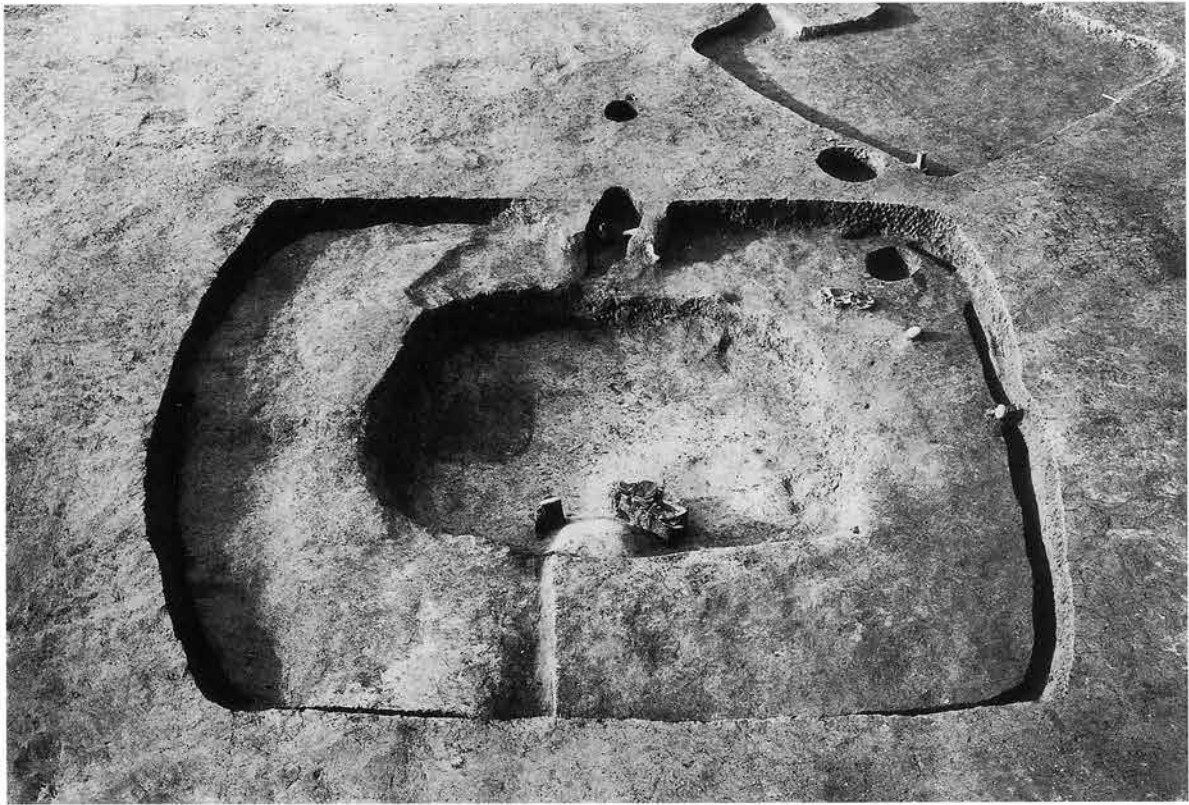


カマド断面（西から）



カマド断面（南から）

写真図版26 RA446 竪穴住居跡

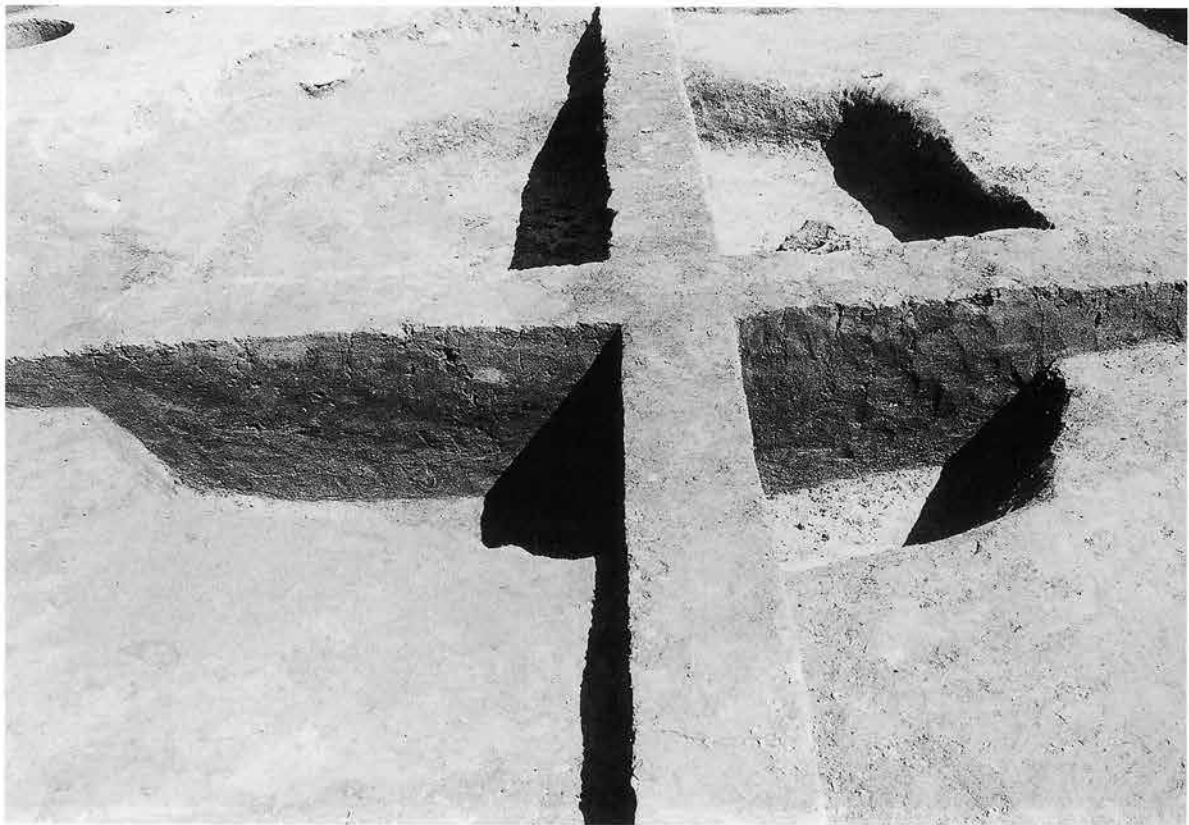


RA447 竪穴住居跡 平面

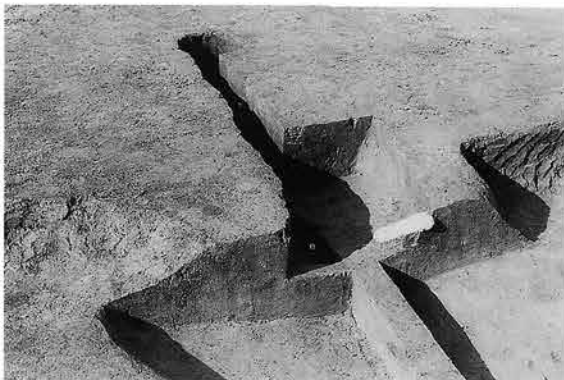


断面（南から）

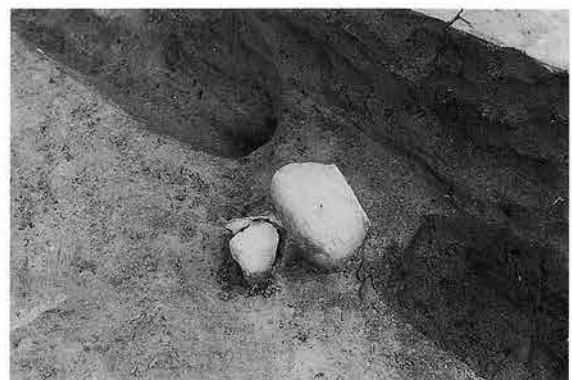
写真図版27 RA447 竪穴住居跡(1)



RA447 竪穴住居跡 断面（西から）



カマド断面（西から）



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



RA448 竖穴住居跡 平面



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



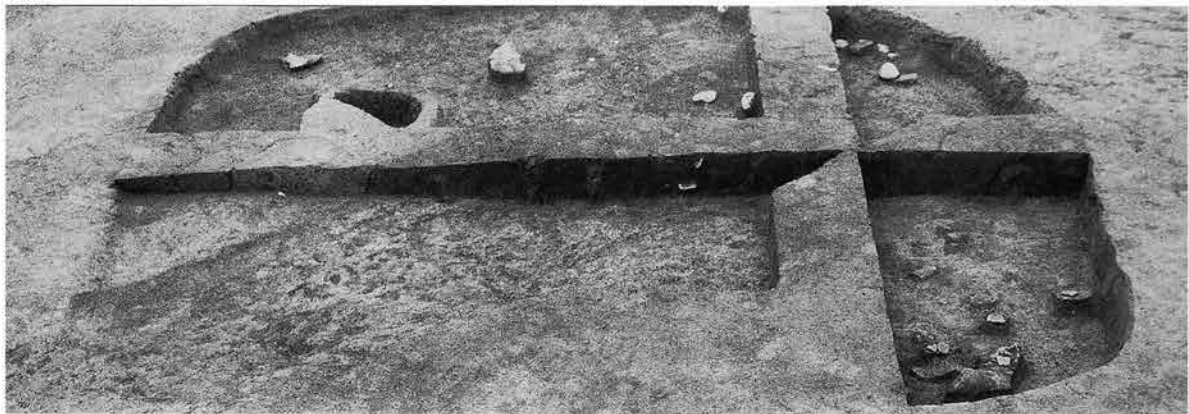
遺物出土状況

写真図版29 RA448 竖穴住居跡





RA449 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



断面（西から）

写真図版30 RA449 竪穴住居跡

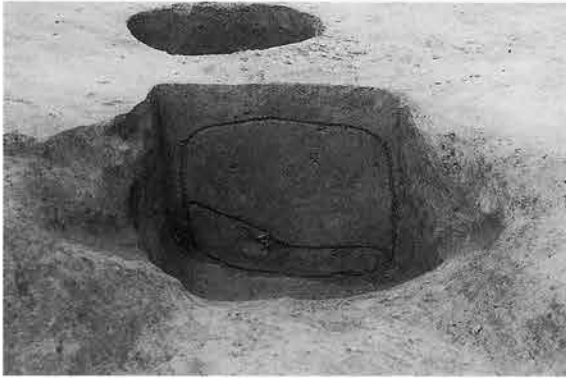


RA451 竪穴住居跡 平面

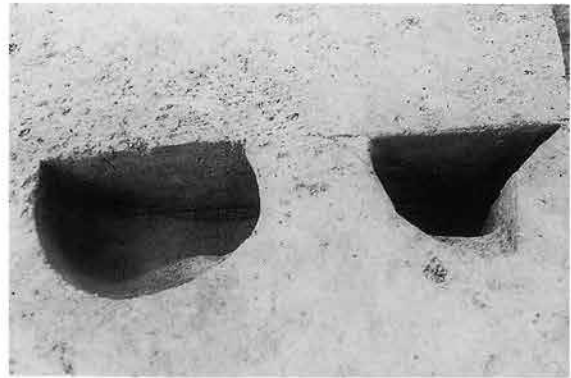


断面（南から）

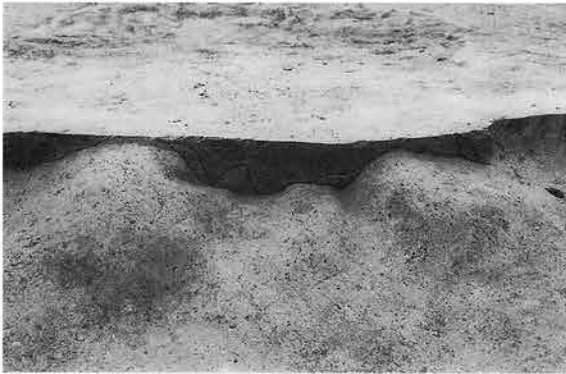
写真図版31 RA451 竪穴住居跡(1)



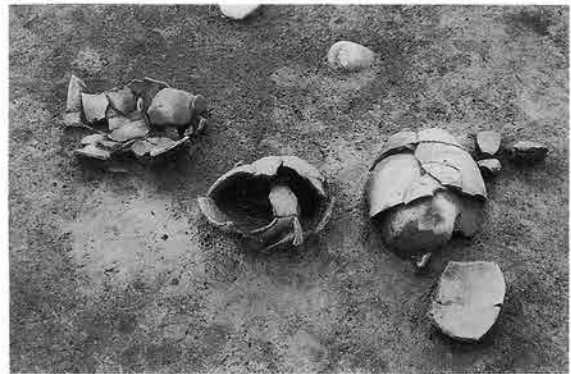
カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)



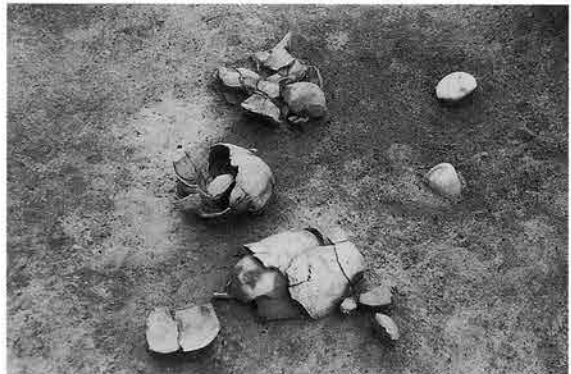
カマド断面 (南から)



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物検出



遺物検出



RA455 豎穴住居跡 平面



RA453 豎穴住居跡 平面

写真図版33 RA453・455 豎穴住居跡



RA456 竪穴住居跡 平面

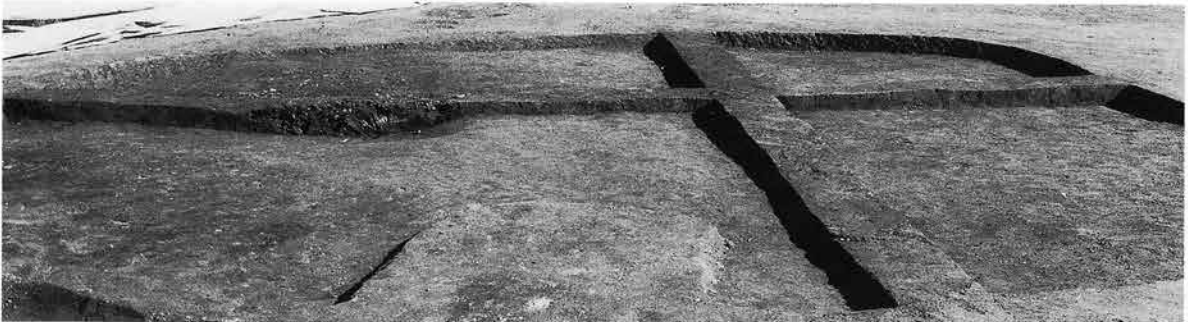


断面（南から）

写真図版34 RA456 竪穴住居跡



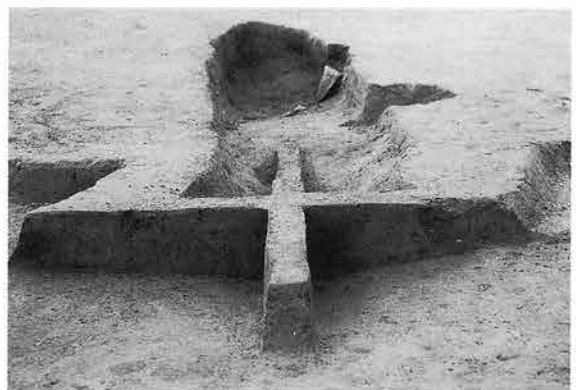
RA457 竪穴住居跡 平面



断面（北西から）

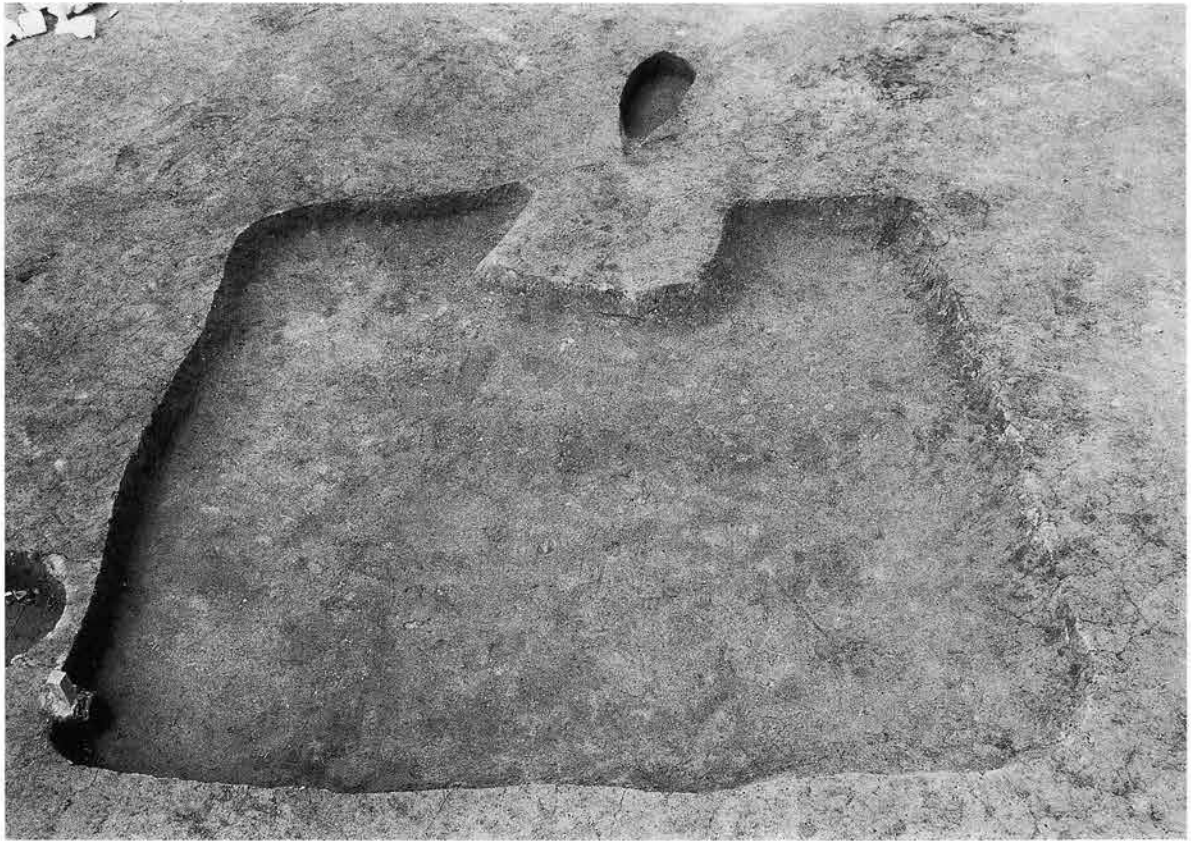


カマド断面（西から）

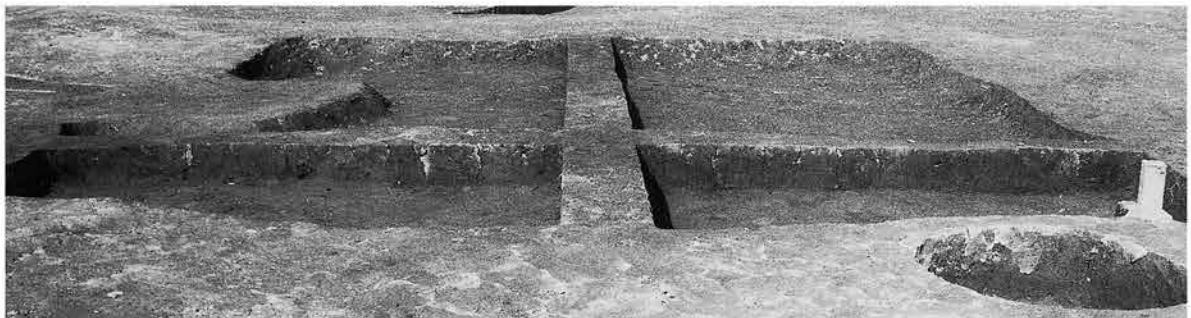


カマド断面（南から）

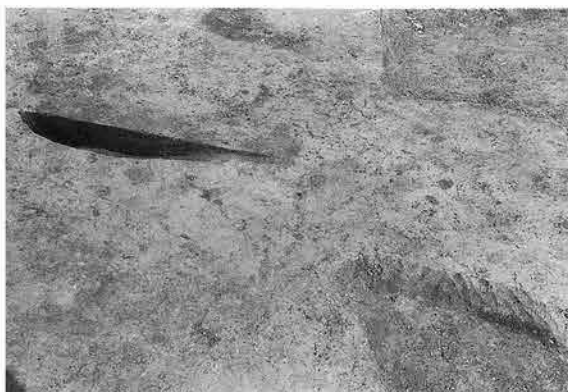
写真図版35 RA457 竪穴住居跡



RA458 竪穴住居跡 平面



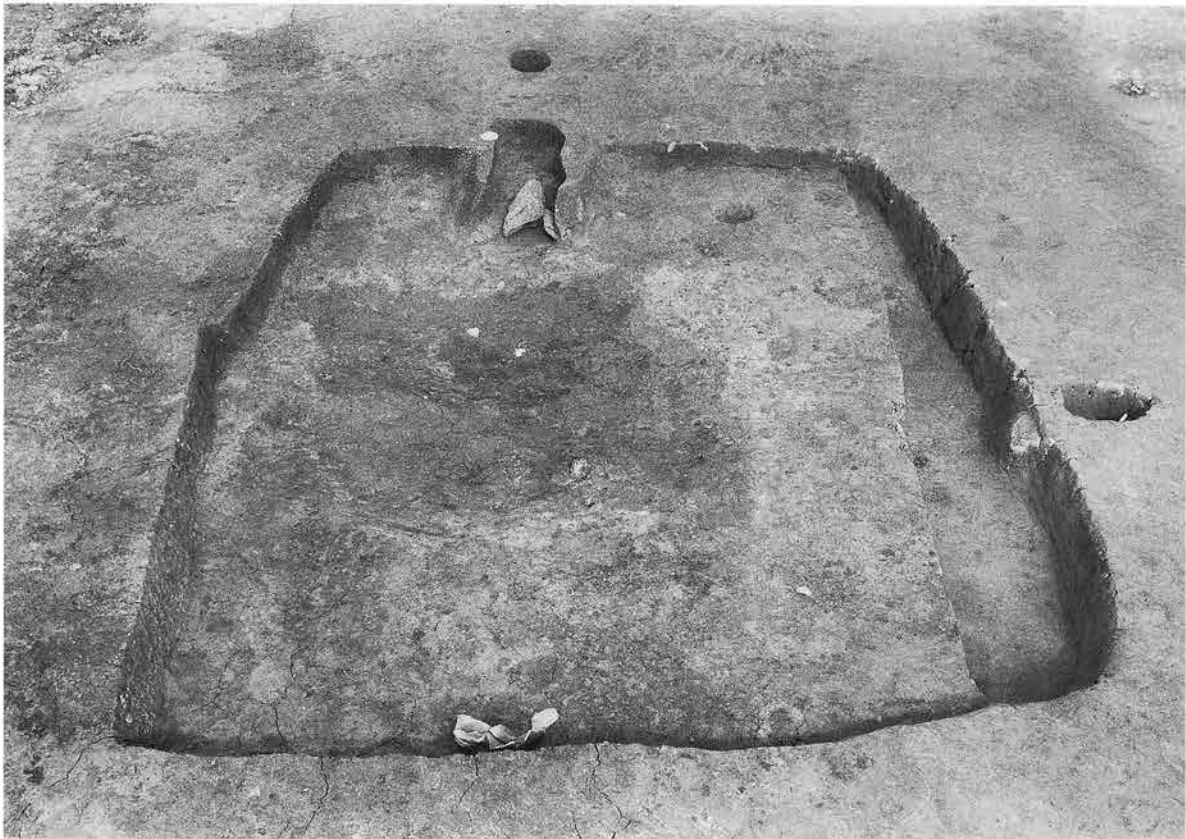
断面（西から）



カマド断面（東から）



カマド平面



RA459 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（南から）

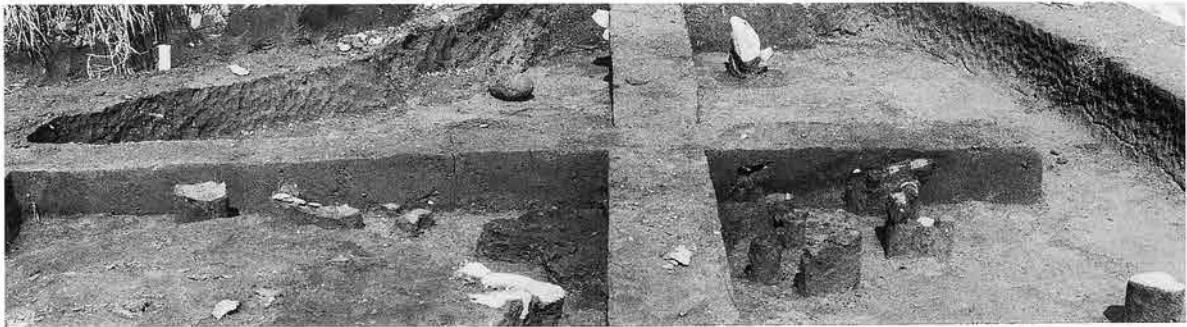


遺物出土状況





RA460 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



遺物出土状況



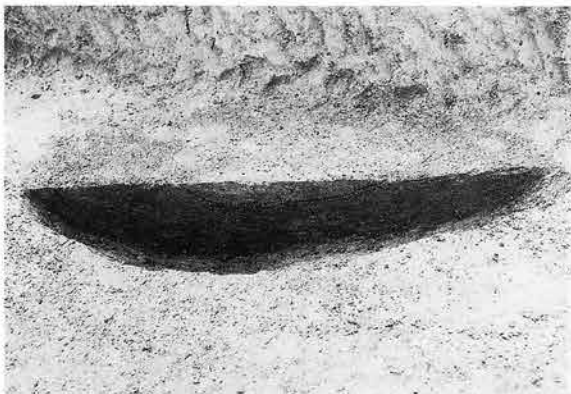
遺物出土状況



RA461 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



Pit 1 断面（北から）



遺物出土状況



RA214 竪穴住居跡 平面



断面（東から）

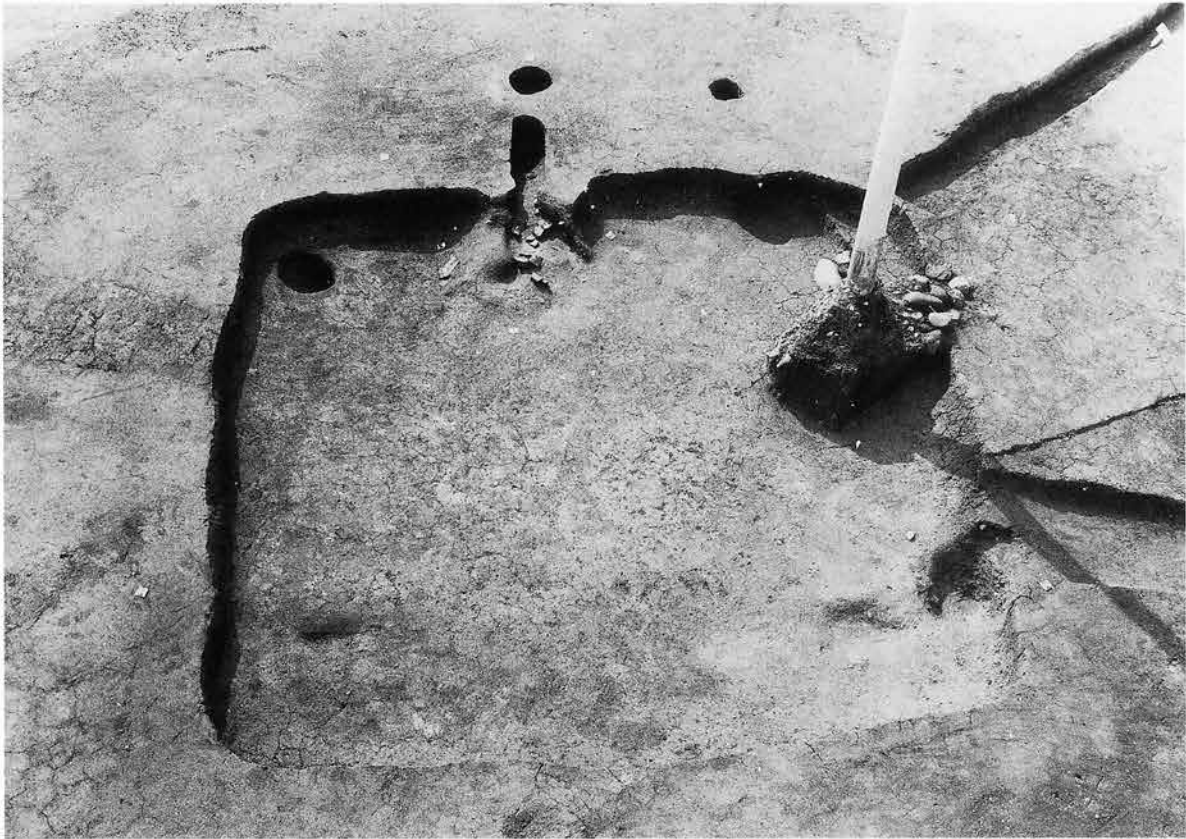


カマド断面（南から）



カマド平面

写真図版40 RA214 竪穴住居跡



RA312 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)

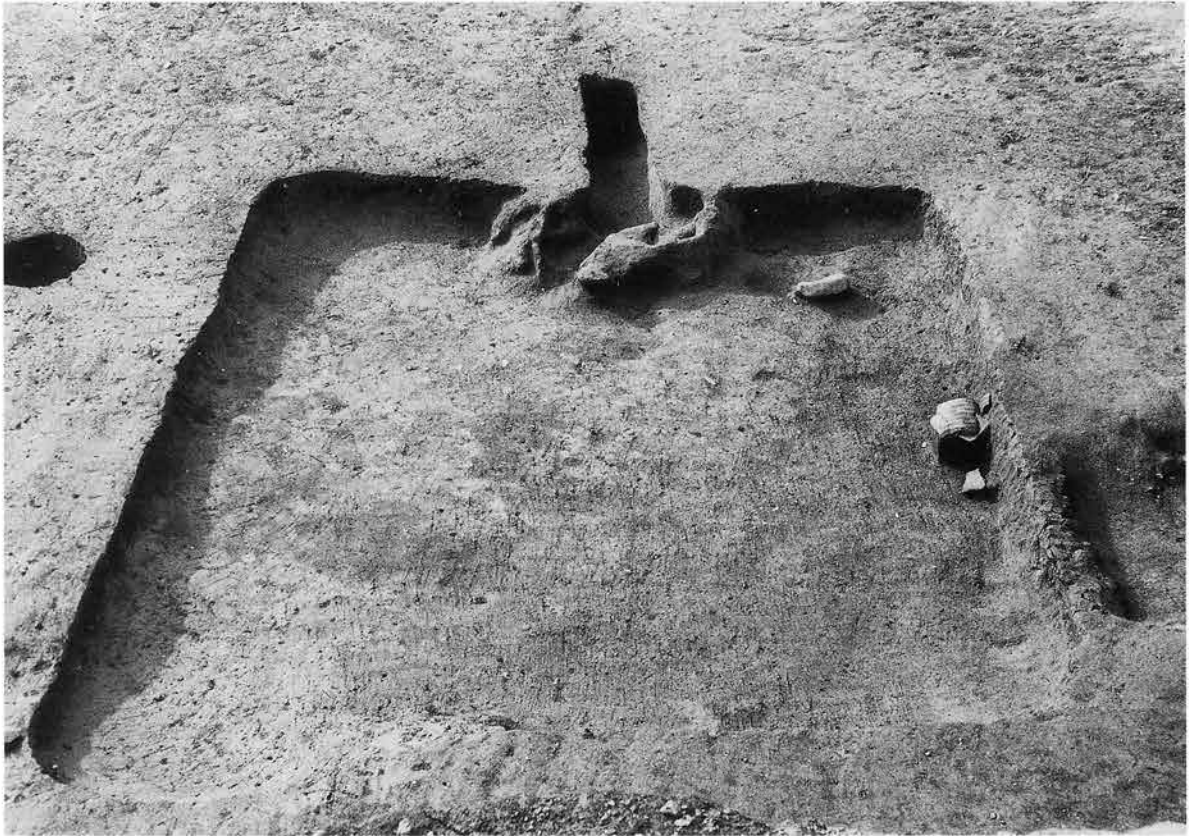


カマド断面 (東から)

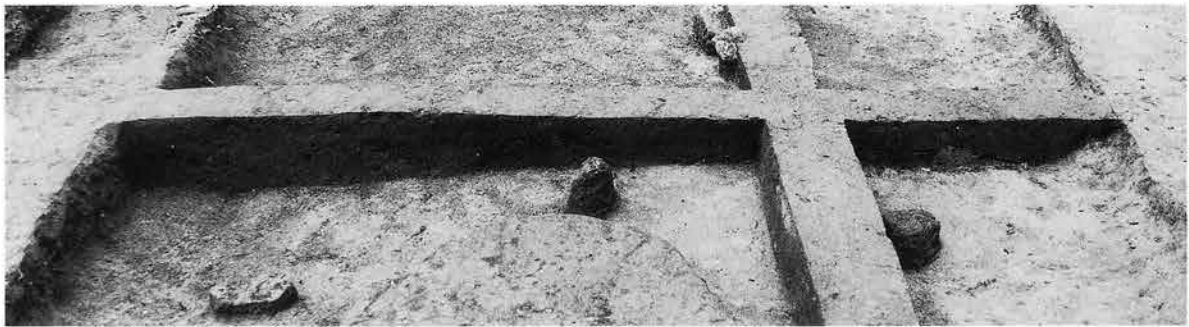


遺物出土状況

写真図版41 RA312 竪穴住居跡



RA316 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



カマド断面（南から）

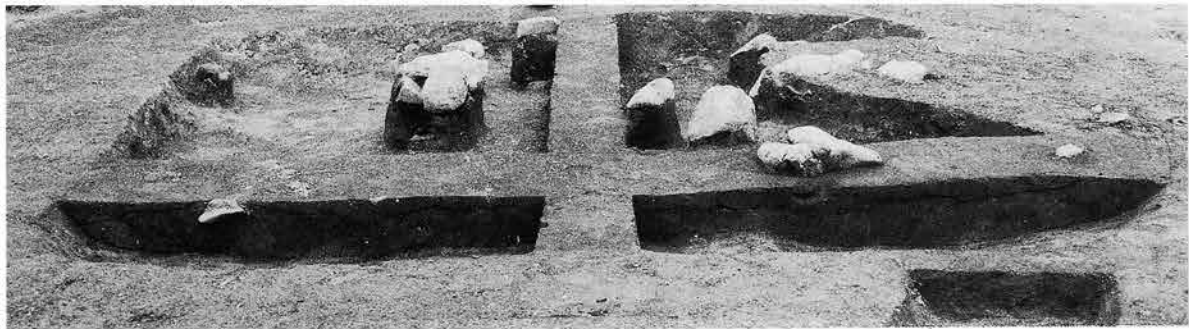


遺物出土状況

写真図版42 RA316 竪穴住居跡



RA397 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)

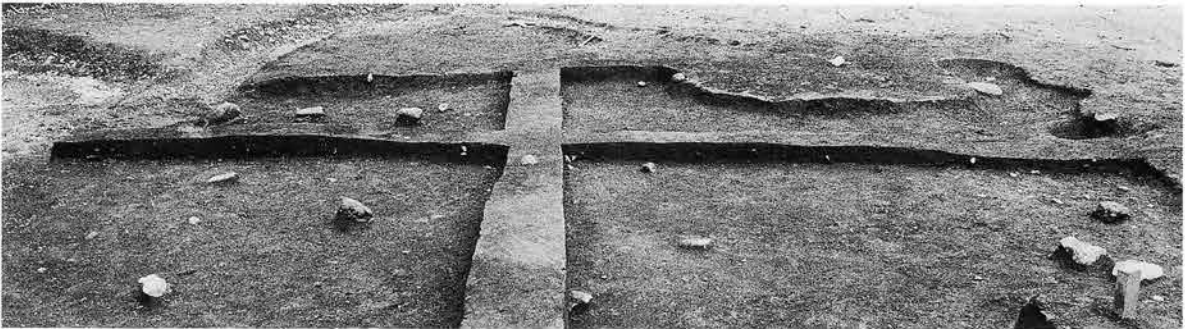


カマド断面 (西から)

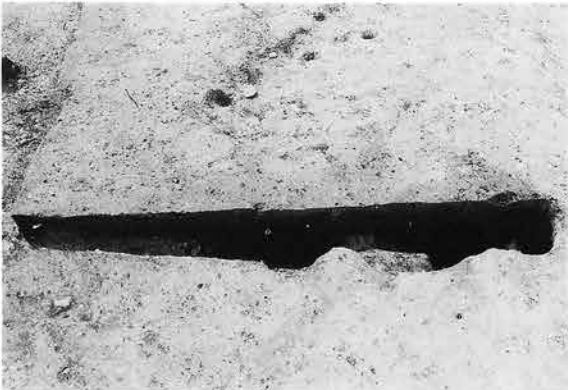
写真図版43 RA397 竪穴住居跡



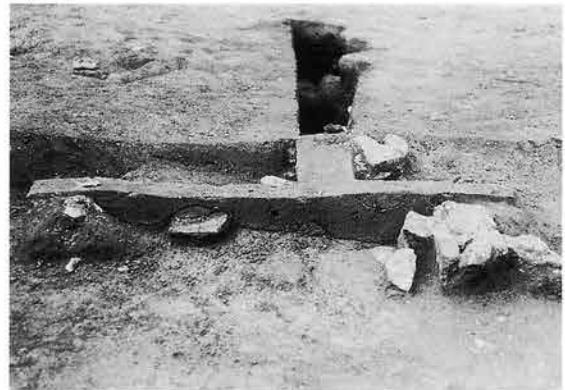
RA399 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)

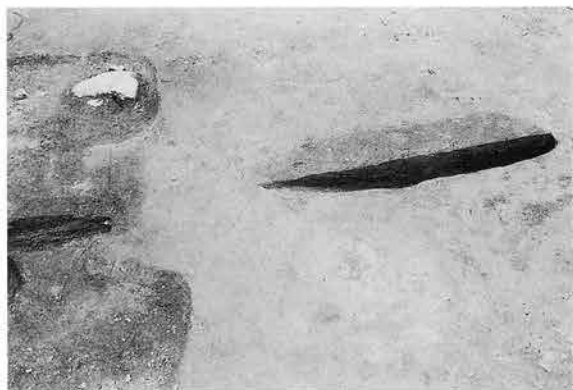
写真図版44 RA399 竪穴住居跡



RA400 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



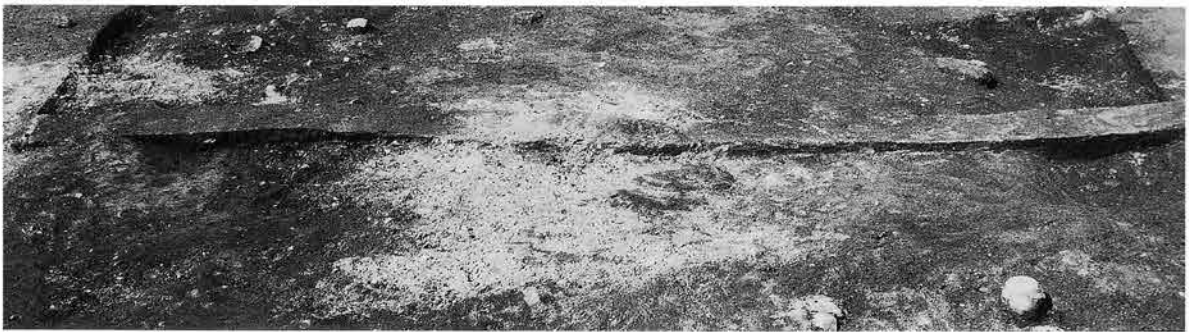
カマド断面 (西から)

写真図版45 RA400 竪穴住居跡





RA401 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



カマド断面（西から）

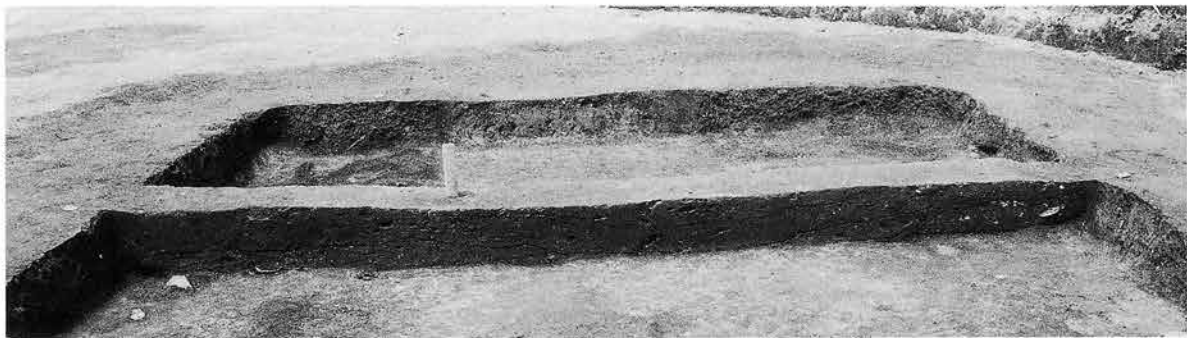


カマド断面（南から）

写真図版46 RA401 竪穴住居跡



RA403 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



南側カマド・煙道部

写真図版47 RA403 竪穴住居跡



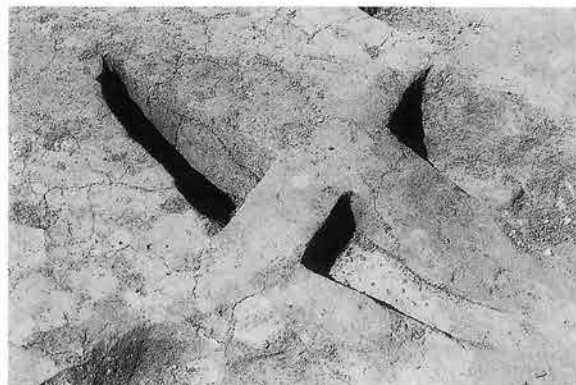
RA406 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド平面



カマド断面 (西から)

写真図版48 RA406 竪穴住居跡



RA408 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド (南から)



カマド断面 (東から)

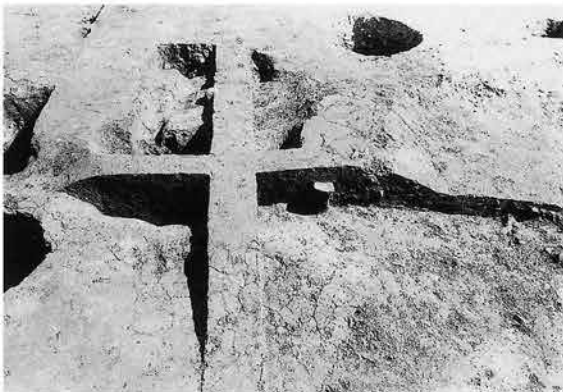
写真図版49 RA408 竪穴住居跡



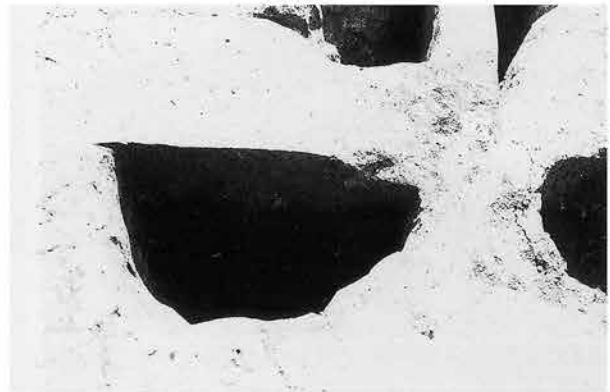
RA411 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（北から）



カマド断面（東から）

写真図版50 RA411 竪穴住居跡



RA413 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



カマド断面（南から）



遺物出土状況



RA415 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



東側カマド断面（南から）



南側カマド（北から）

写真図版52 RA415 竪穴住居跡



RA419 竪穴住居跡 平面



断面（西から）

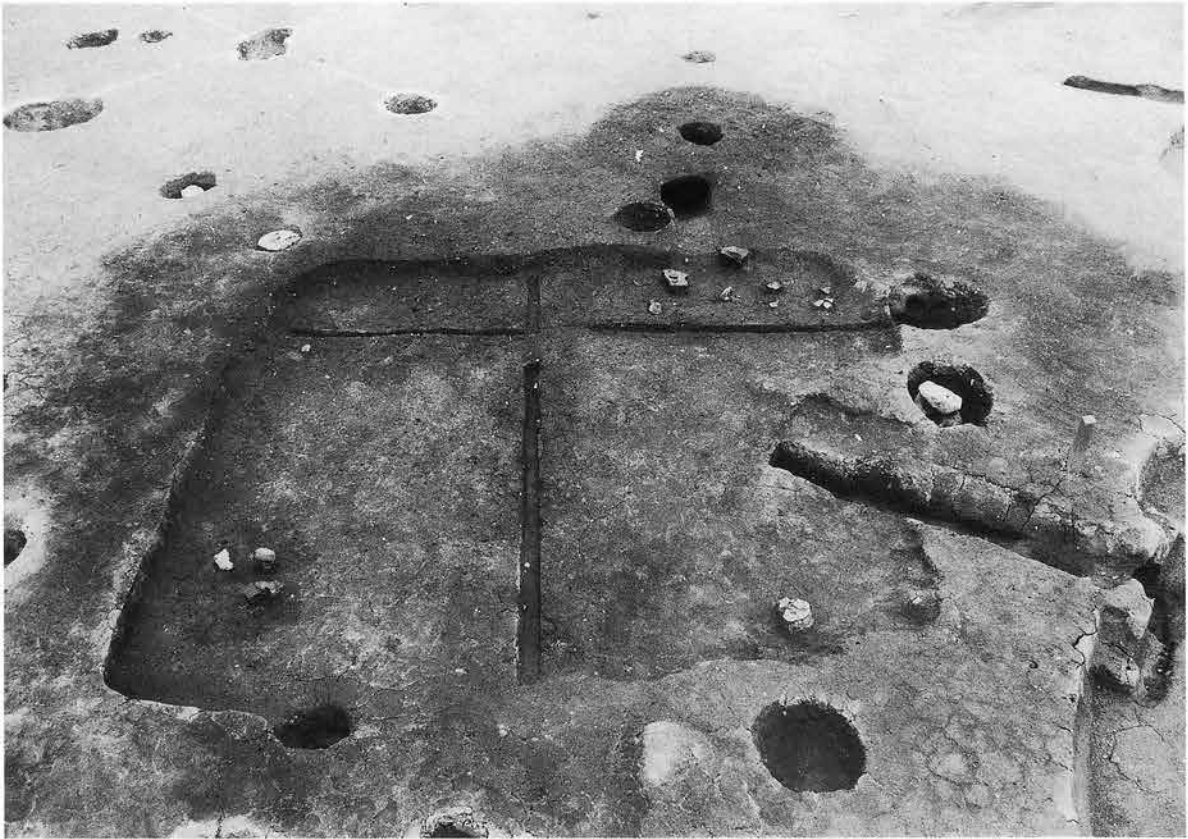


カマド断面（南から）

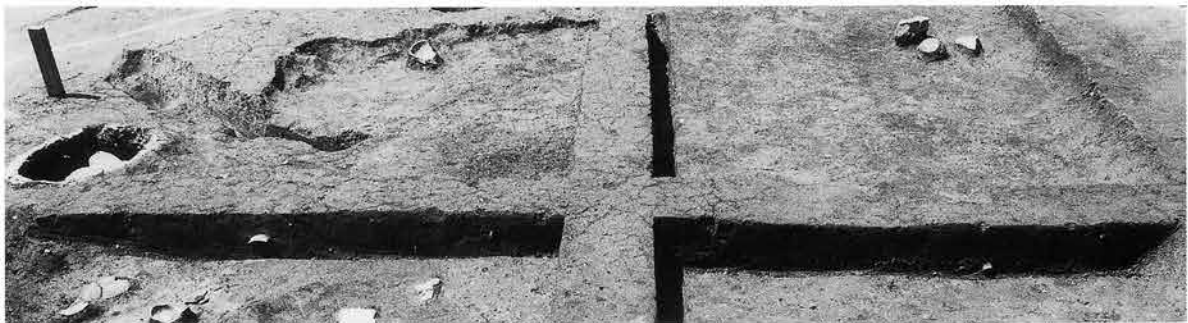


遺物出土状況

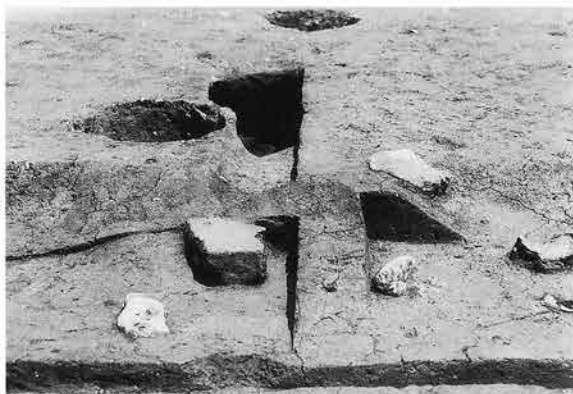




RA420 竪穴住居跡 平面



断面（東から）



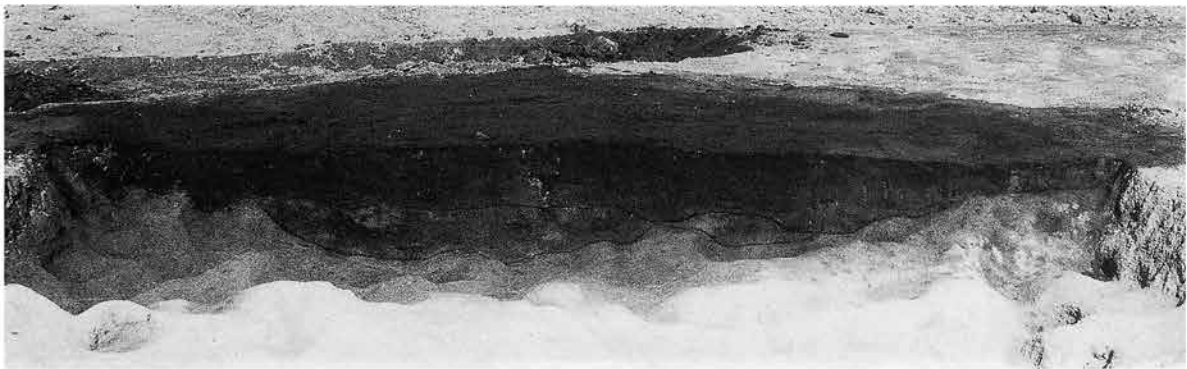
カマド断面（西から）



遺物出土状況



RA422 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



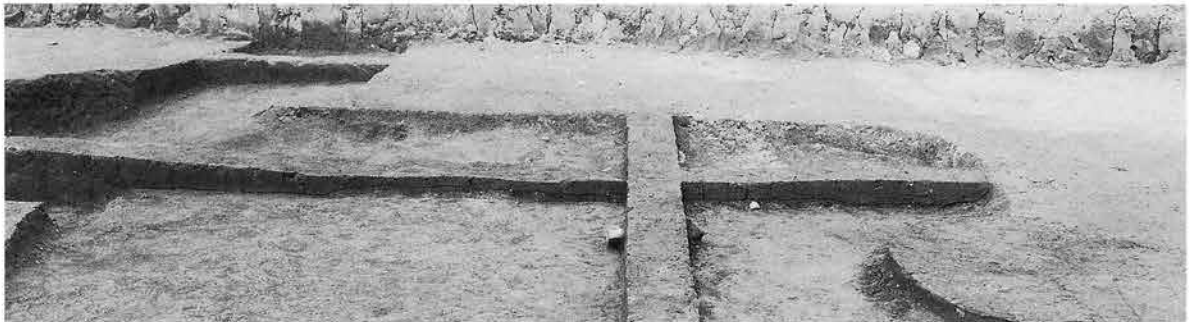
カマド平面



カマド断面（西から）



RA423 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)

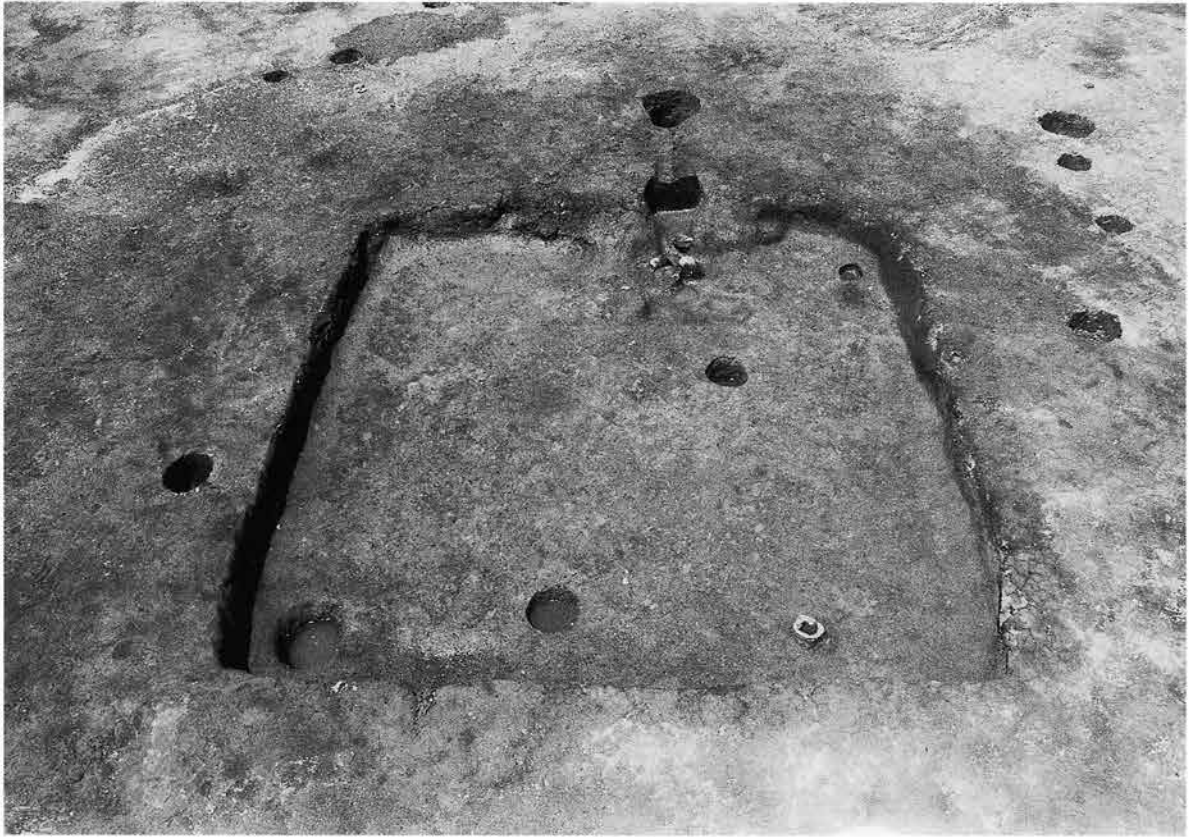


カマド断面 (南から)

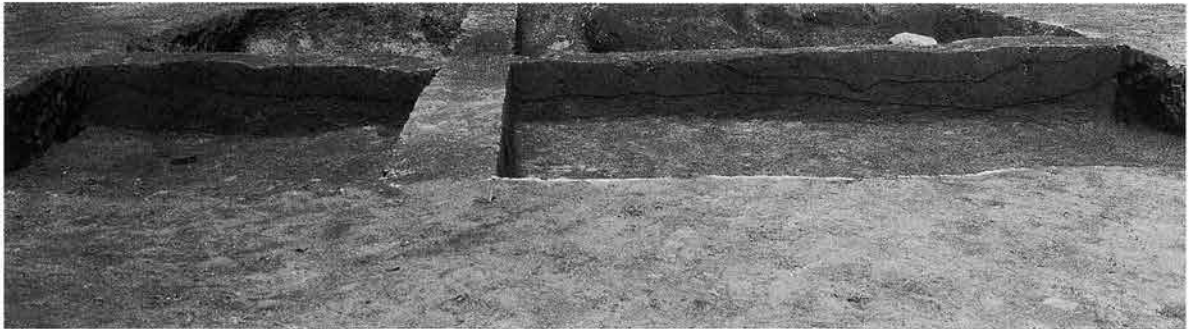


カマド断面 (東から)

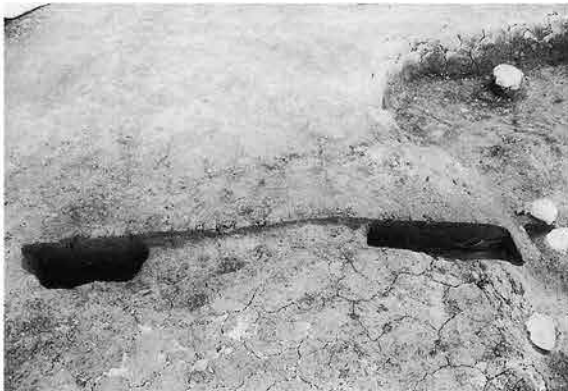
写真図版56 RA423 竪穴住居跡



RA424 竪穴住居跡 平面



断面（東から）



カマド断面（南から）



カマド本体（東から）

写真図版57 RA424 竪穴住居跡



RA424 竪穴住居跡 平面



カマド全景



カマド正面から

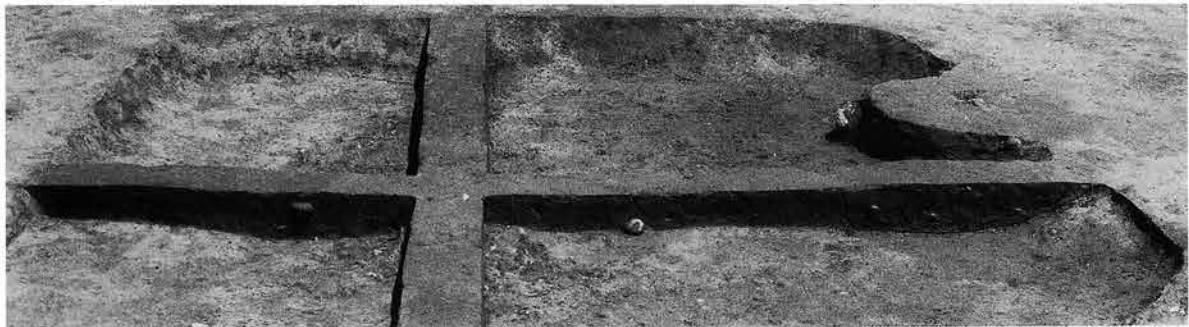


カマド上から

写真図版58 復元したRA424 竪穴住居跡



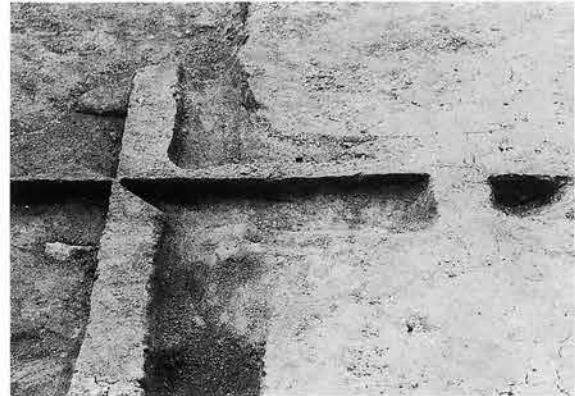
RA425 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)

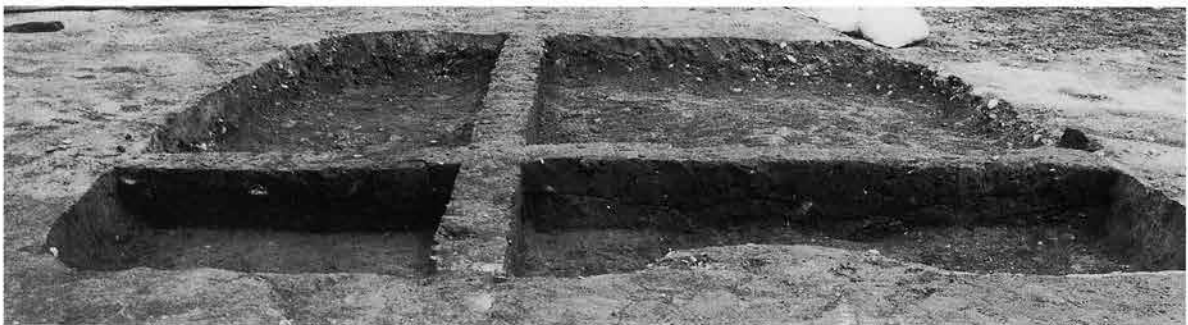


カマド断面 (東から)

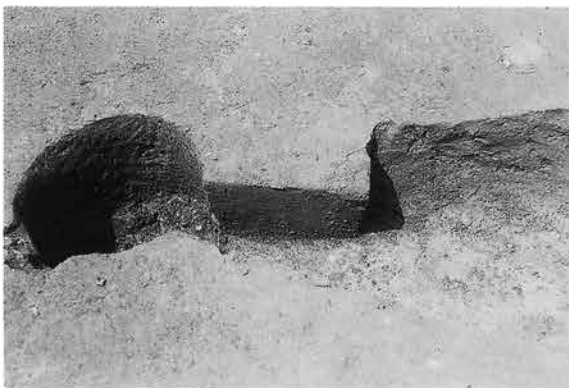
写真図版59 RA425 竪穴住居跡



RA426 竖穴住居跡 平面



断面（南から）



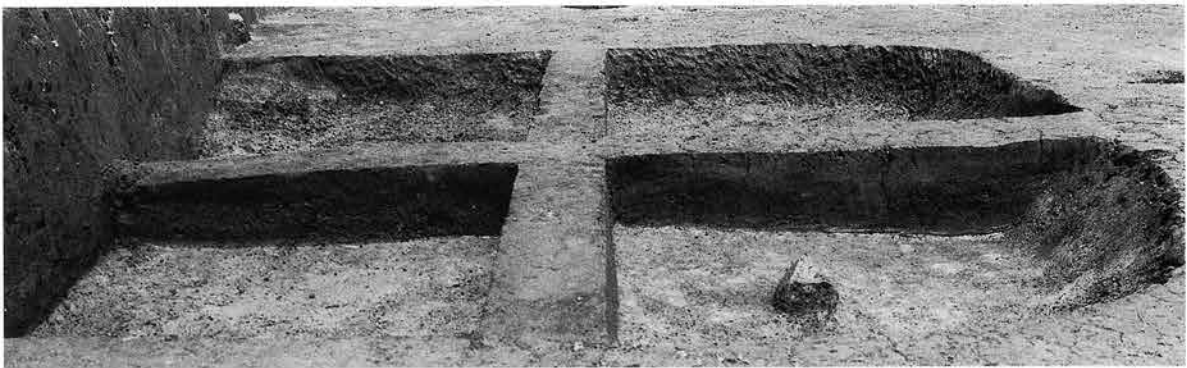
カマド断面（東から）



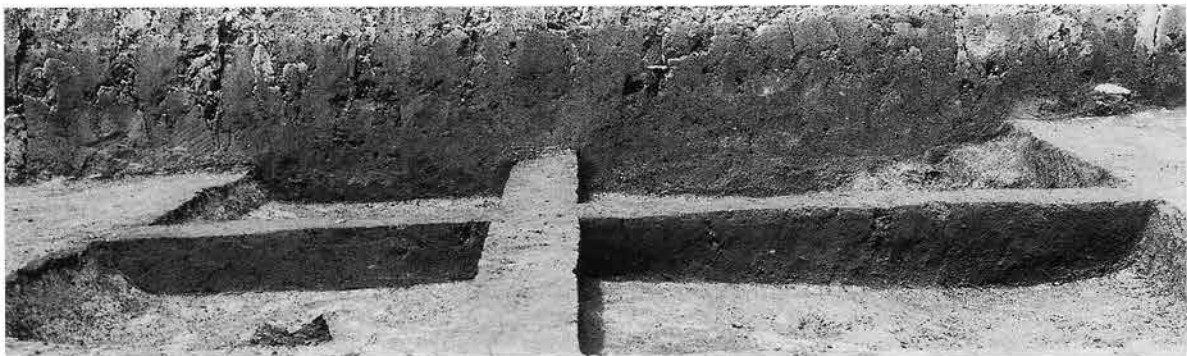
カマド断面（北から）



RA427 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



断面 (東から)

写真図版61 RA427 竪穴住居跡

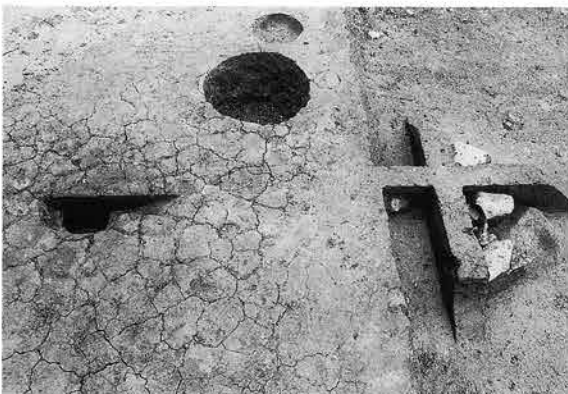




RA429 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



カマド断面（西から）

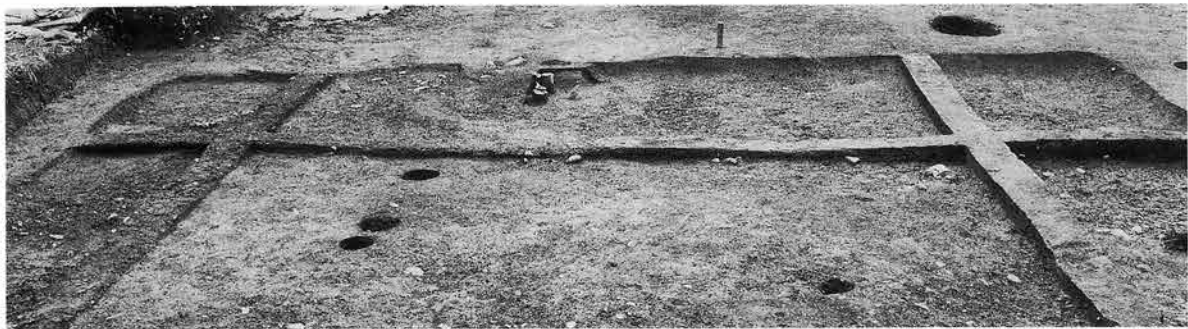


カマド断面（南から）

写真図版62 RA429 竪穴住居跡



RA430 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



Pit 1 平面



Pit 2 平面



南側カマド平面



南側カマド断面（北から）



南側カマド断面（西から）



西側カマド平面



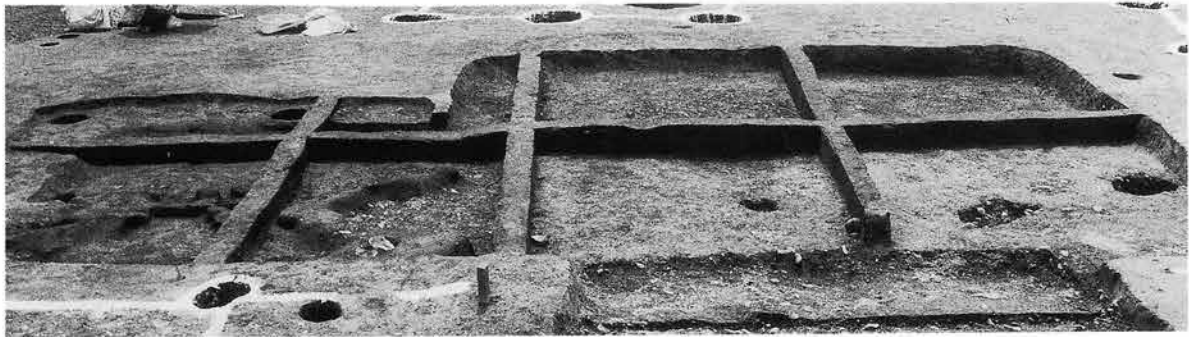
西側カマド断面（西から）



遺物出土状況



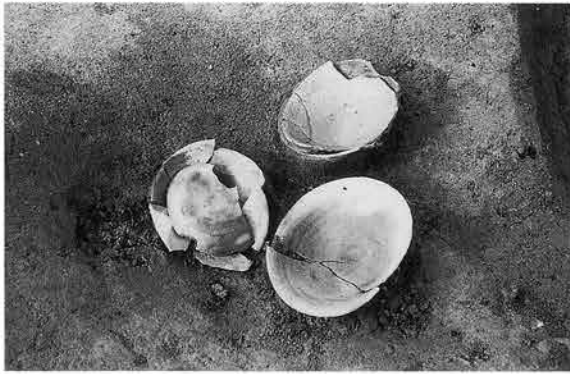
RA426・431・432・434 竪穴住居跡 平面



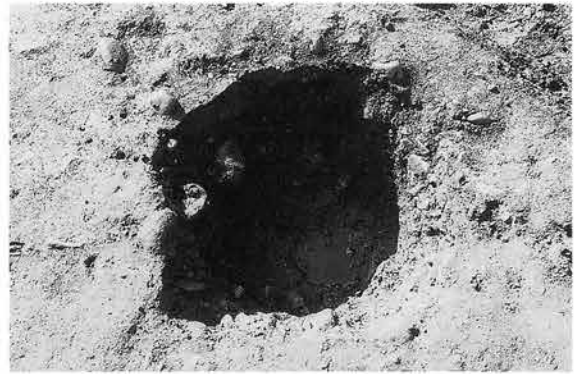
断面（北から）



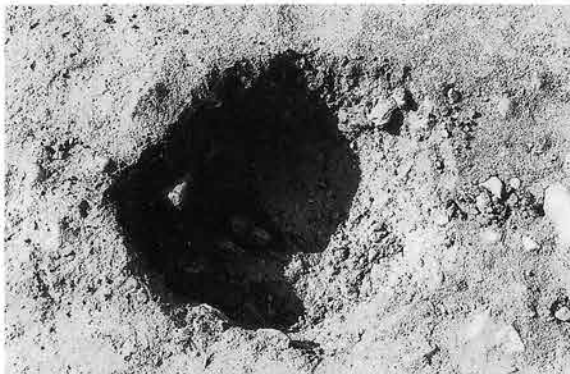
断面（西から）



RA431 竪穴住居跡 出土遺物



RA431 竪穴住居跡 Pit 1 平面



RA431 竪穴住居跡 Pit 2 平面



RA431 竪穴住居跡 Pit 2 断面 (南から)



RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (北から)



RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



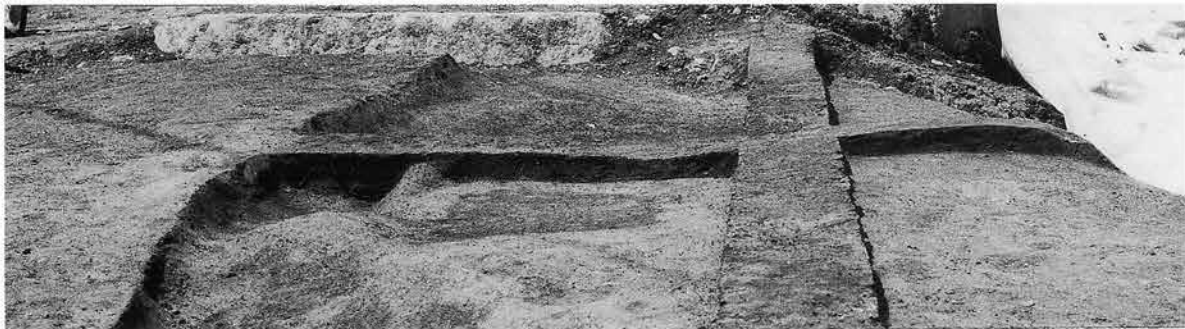
RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



RA432 竪穴住居跡 カマド平面



RA433 竪穴住居跡 平面



断面（東から）



カマド断面（北から）



遺物出土状況

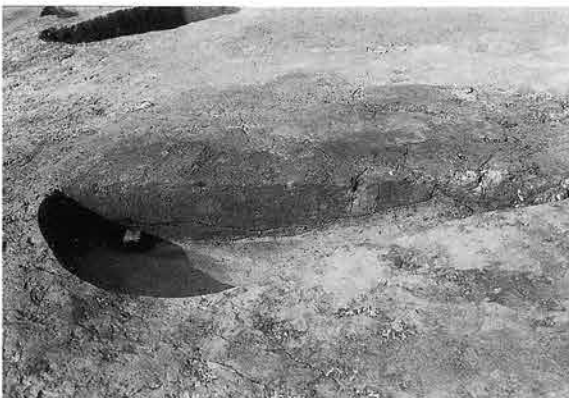
写真図版67 RA433 竪穴住居跡



RA435 竪穴住居跡 平面



断面（東から）



カマド断面（カマド）



遺物出土状況



RA437 竪穴住居跡 平面



カマド (西から)



断面 (南から)

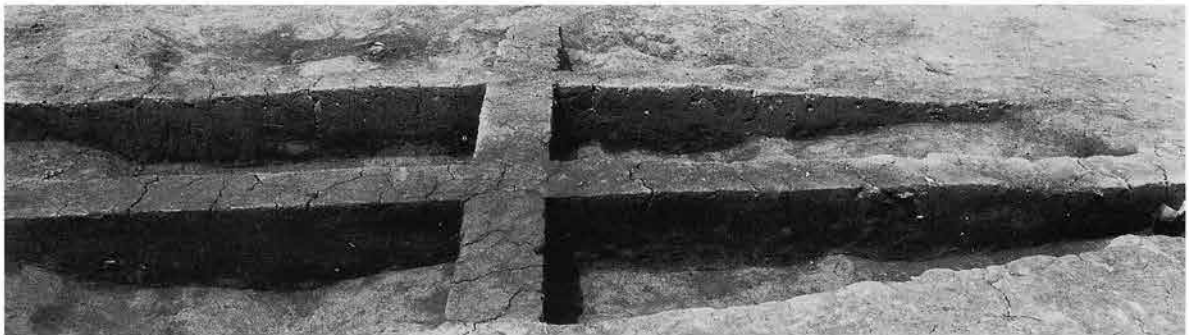


断面 (西から)





RA440 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



カマド断面（西から）



カマド断面（西から）



RA452 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



カマド断面（南から）



遺物出土状況



RA398 竪穴住居跡 平面



断面（南から）

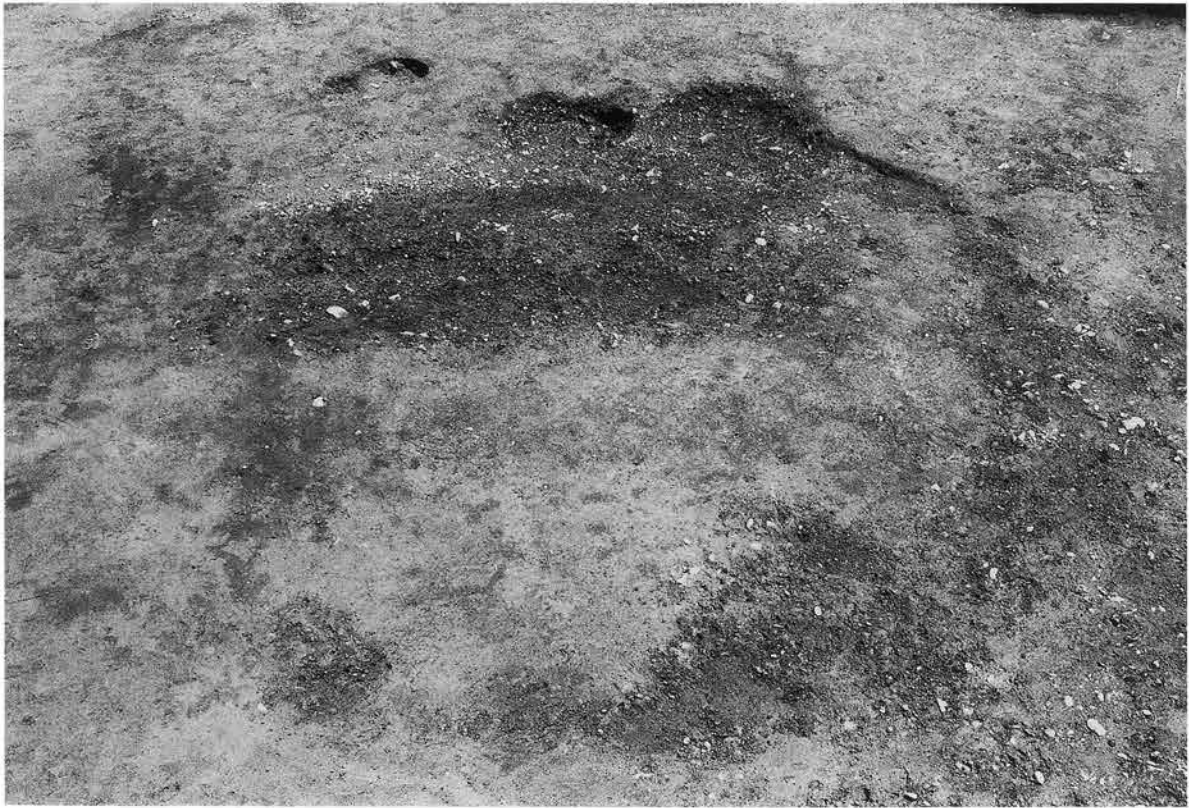


カマド断面（北から）



カマド断面（西から）

写真図版72 RA398 竪穴住居跡



RA428 竪穴住居跡 平面



断面（西から）

写真図版73 RA428 竪穴住居跡



RA436 竖穴住居跡 平面



断面（南から）



断面（西から）

写真図版74 RA436 竖穴住居跡

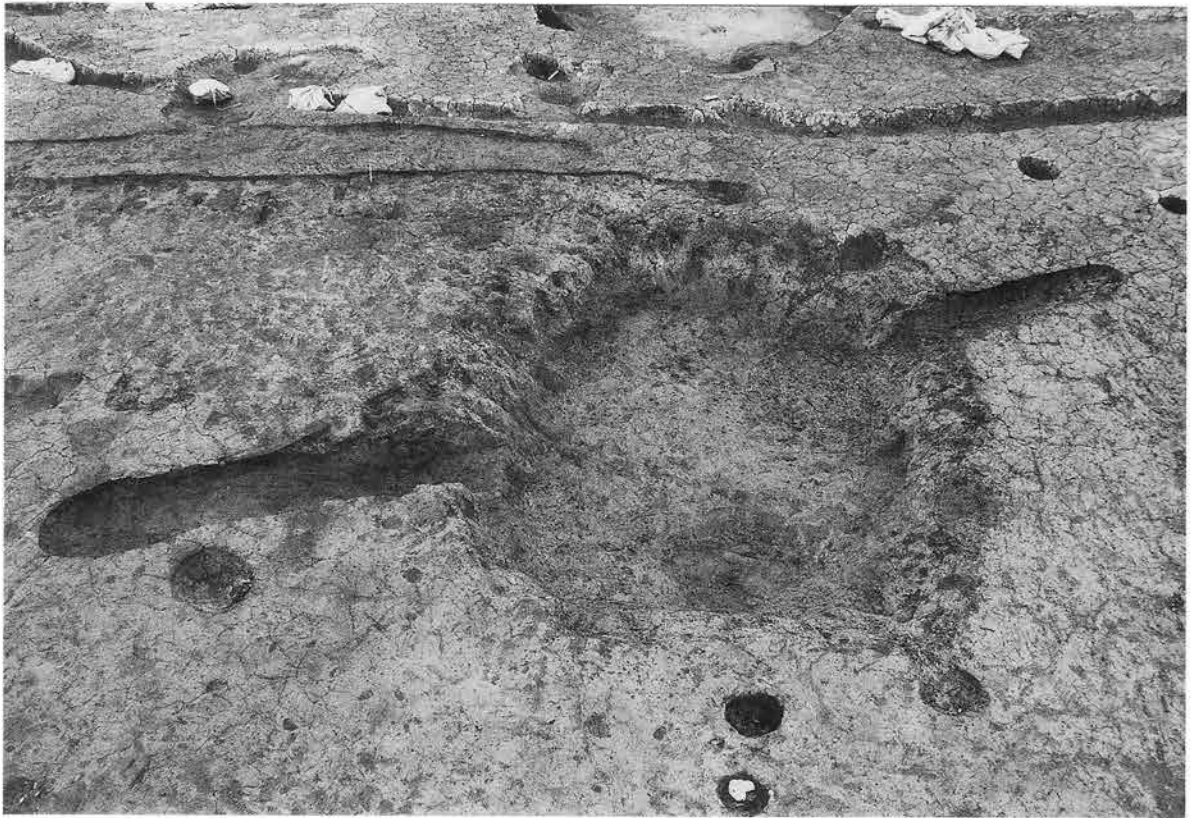


RA232 竖穴建物跡 平面



断面 (南から)

写真図版75 RA232 竖穴建物跡



RA443 竪穴建物跡 平面

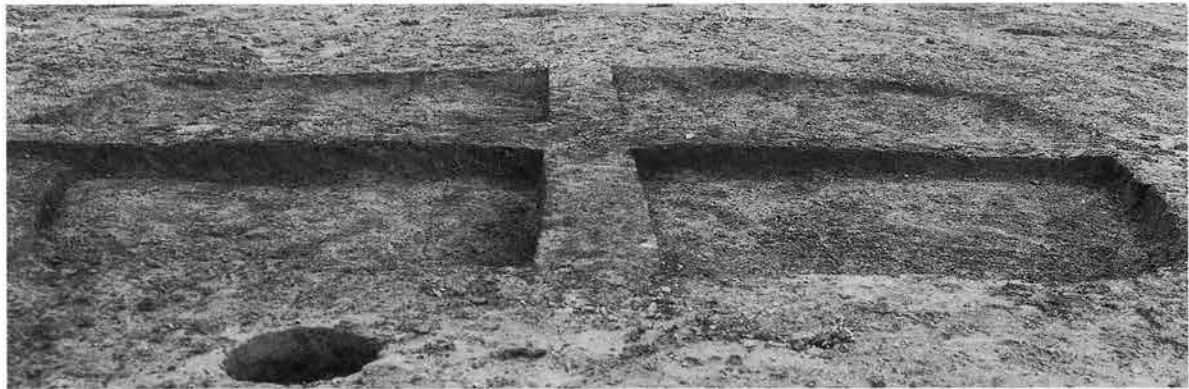


断面（東から）

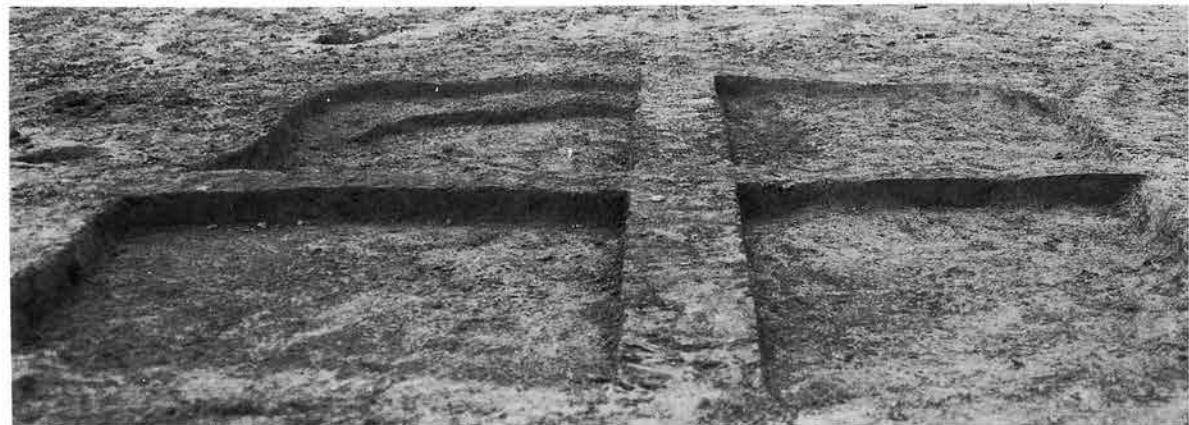
写真図版76 RA443 竪穴建物跡



RA450 竪穴建物跡 平面



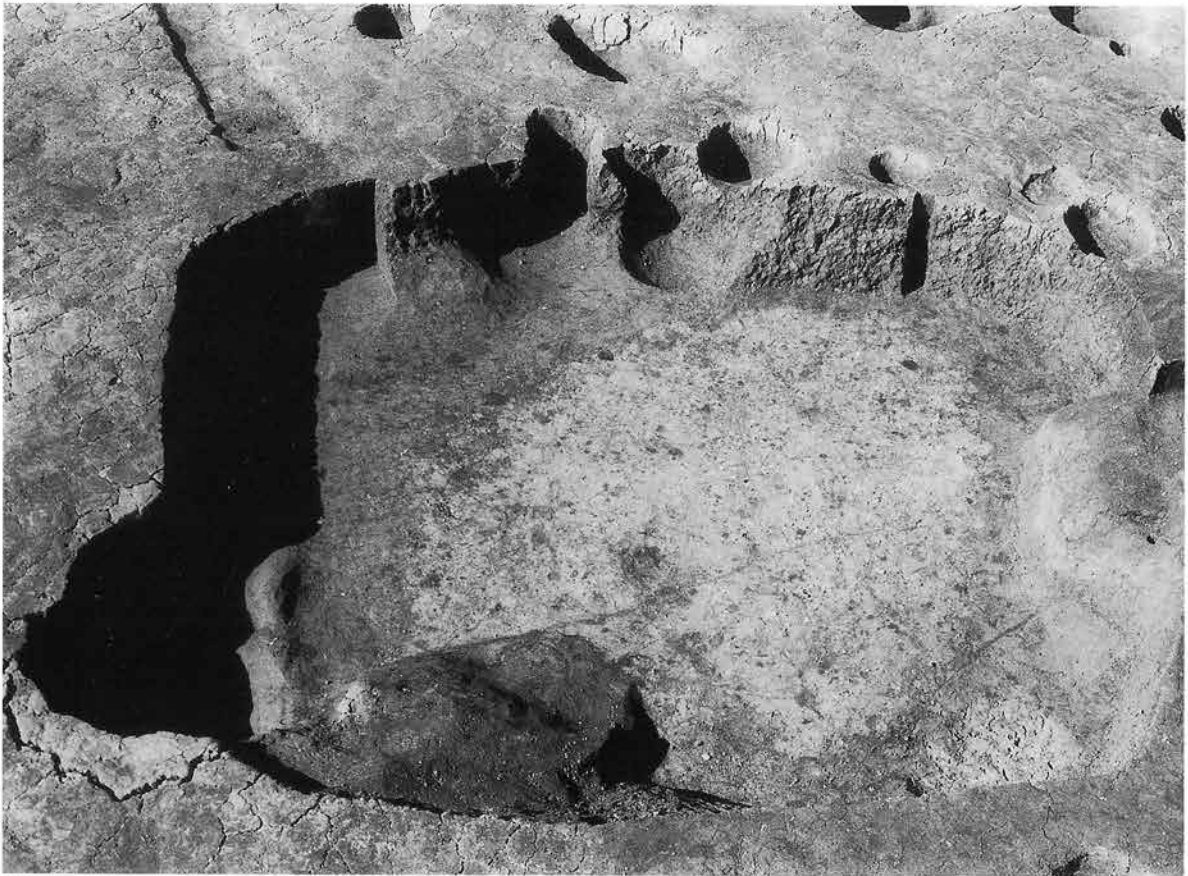
断面（西から）



断面（南から）

写真図版77 RA450 竪穴建物跡



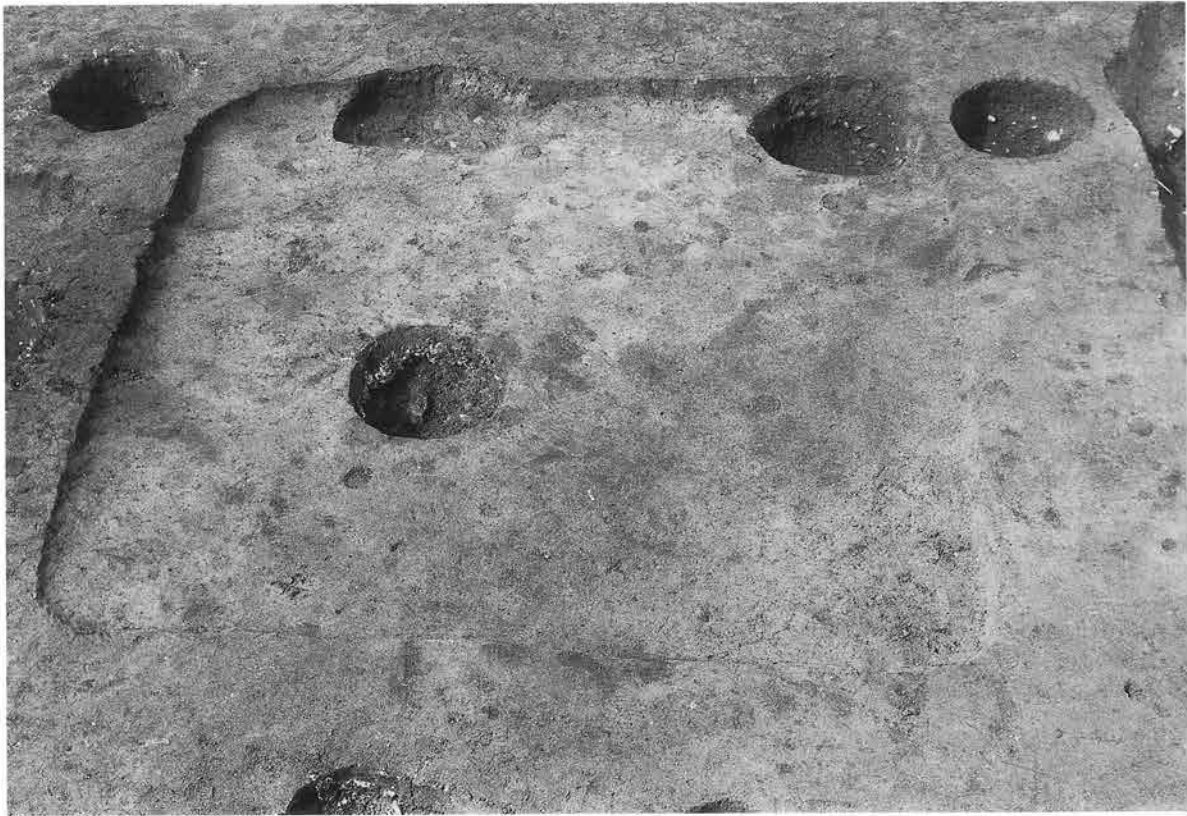


RA454 竖穴建物跡 平面



断面（南東から）

写真図版78 RA454 竖穴建物跡

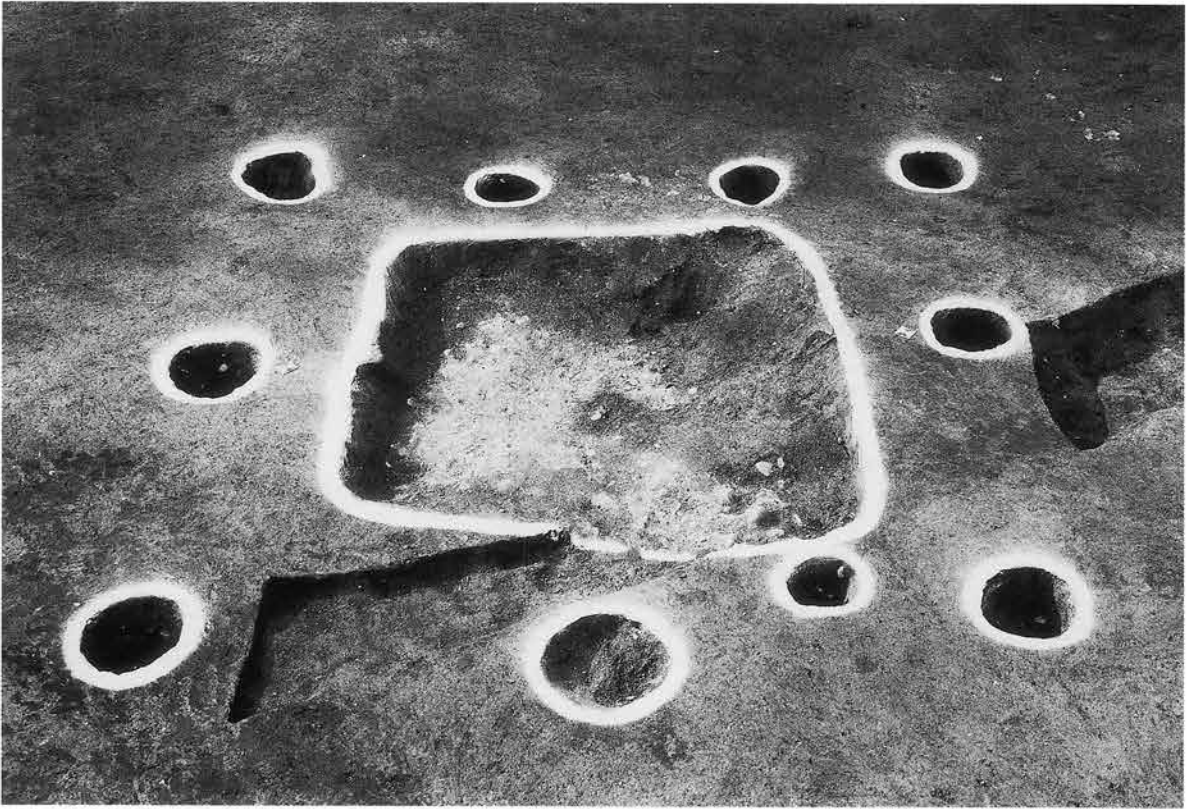


RE048 豎穴状遺構平面



RE049 豎穴状遺構平面

写真図版79 RE048・049 豎穴状遺構

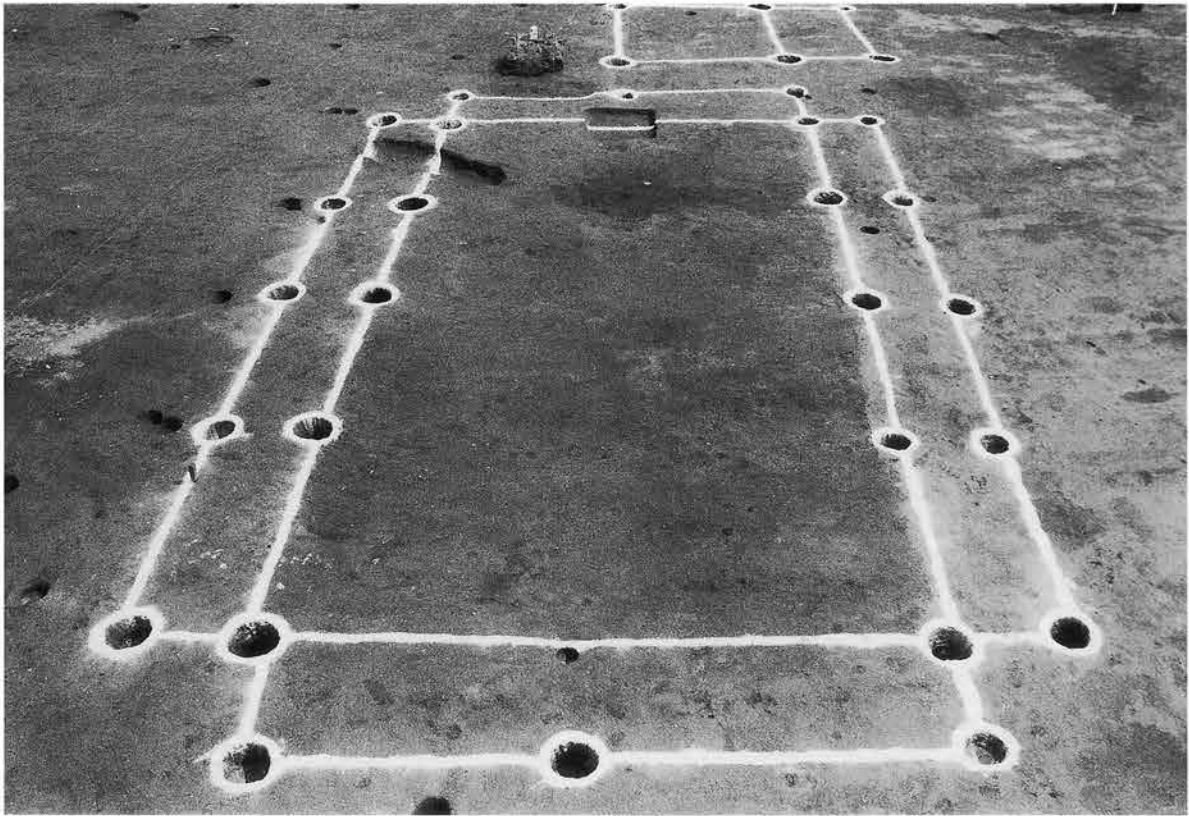


RB031 掘立柱建物跡平面

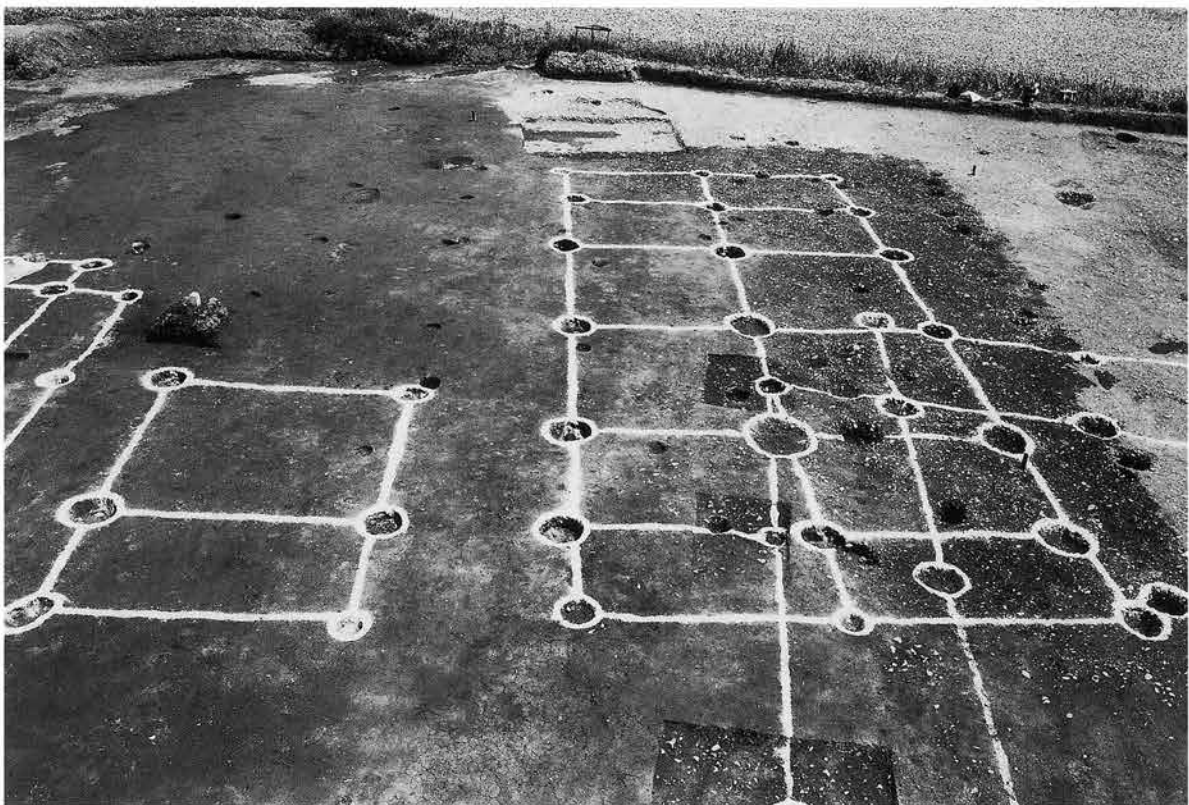


RB034 掘立柱建物跡平面

写真図版80 RB031・034 掘立柱建物跡

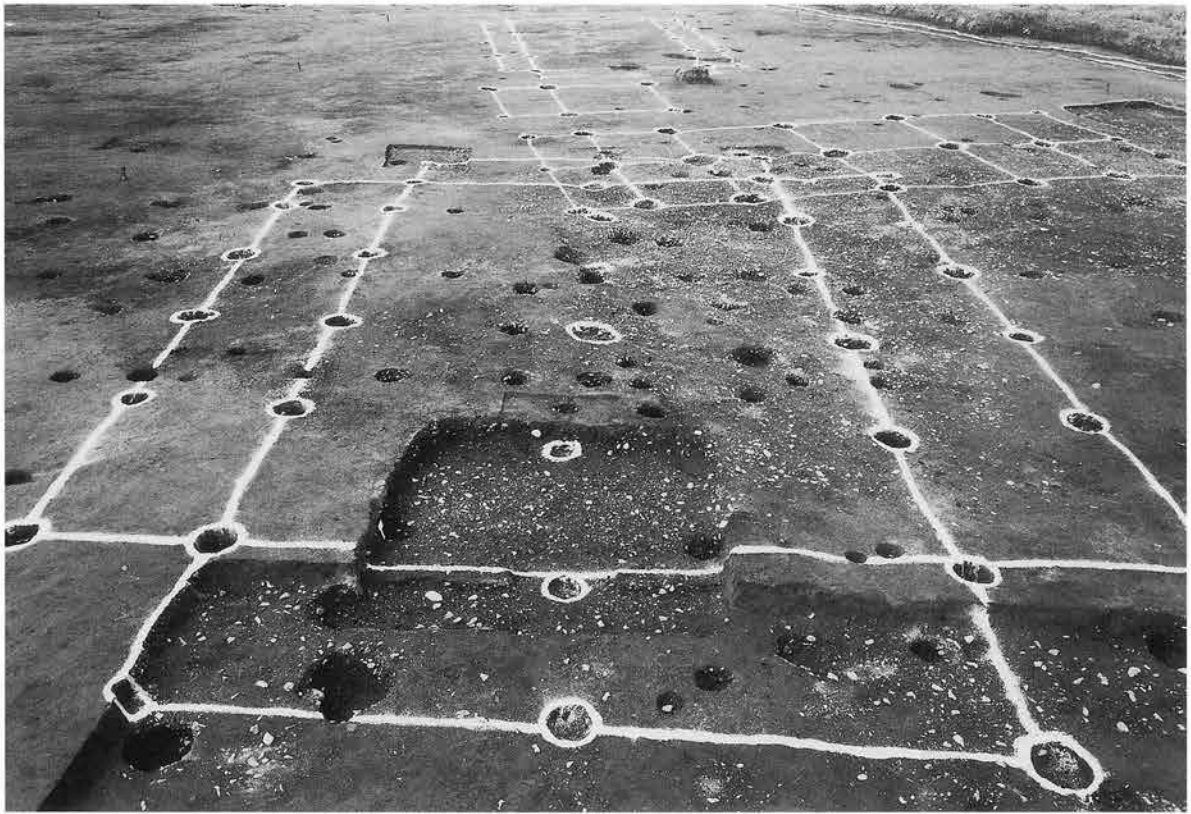


RB035 掘立柱建物跡平面

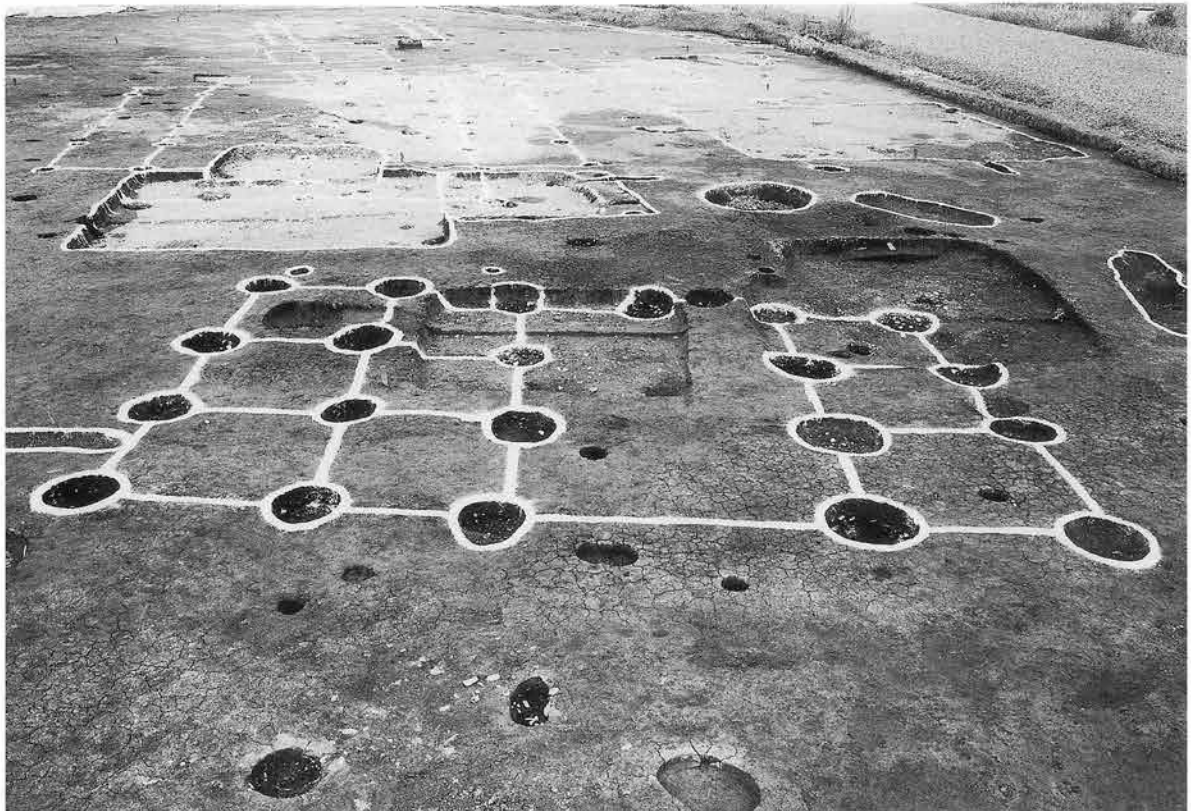


RB036・037 掘立柱建物跡平面

写真図版81 RB035~037 掘立柱建物跡

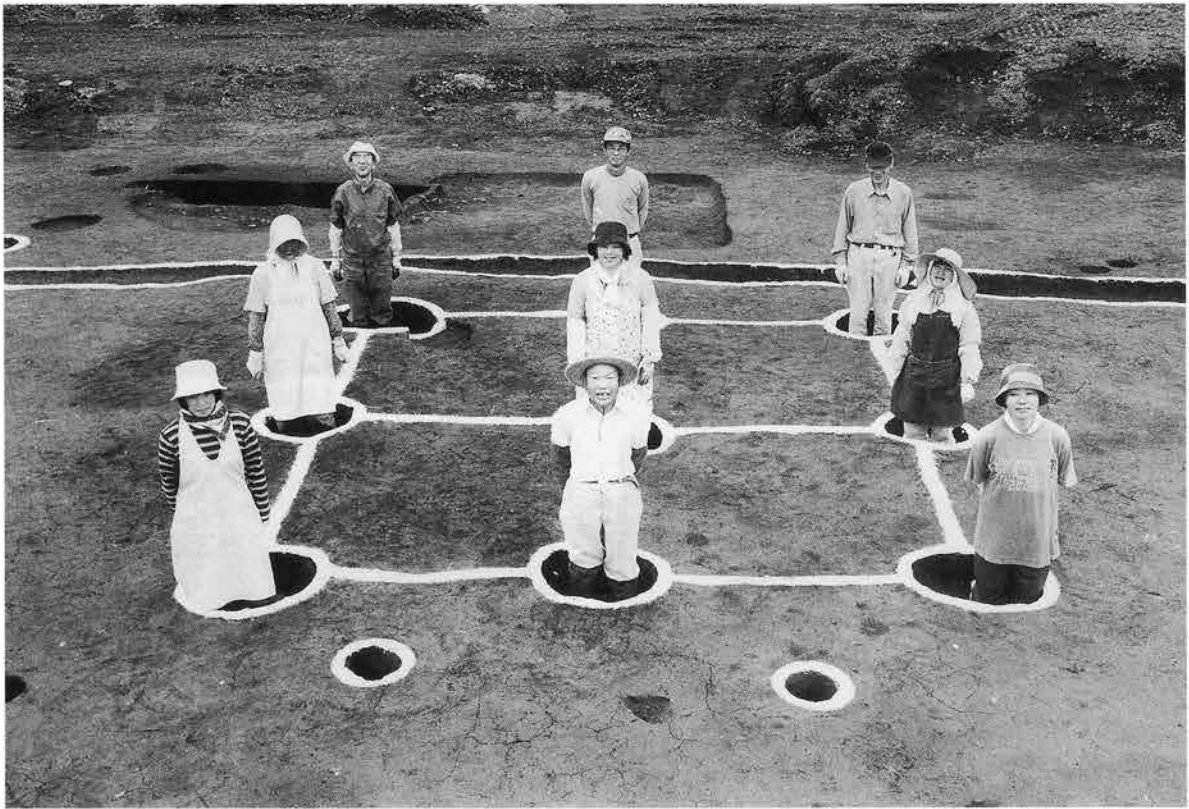


RB038 掘立柱建物跡平面

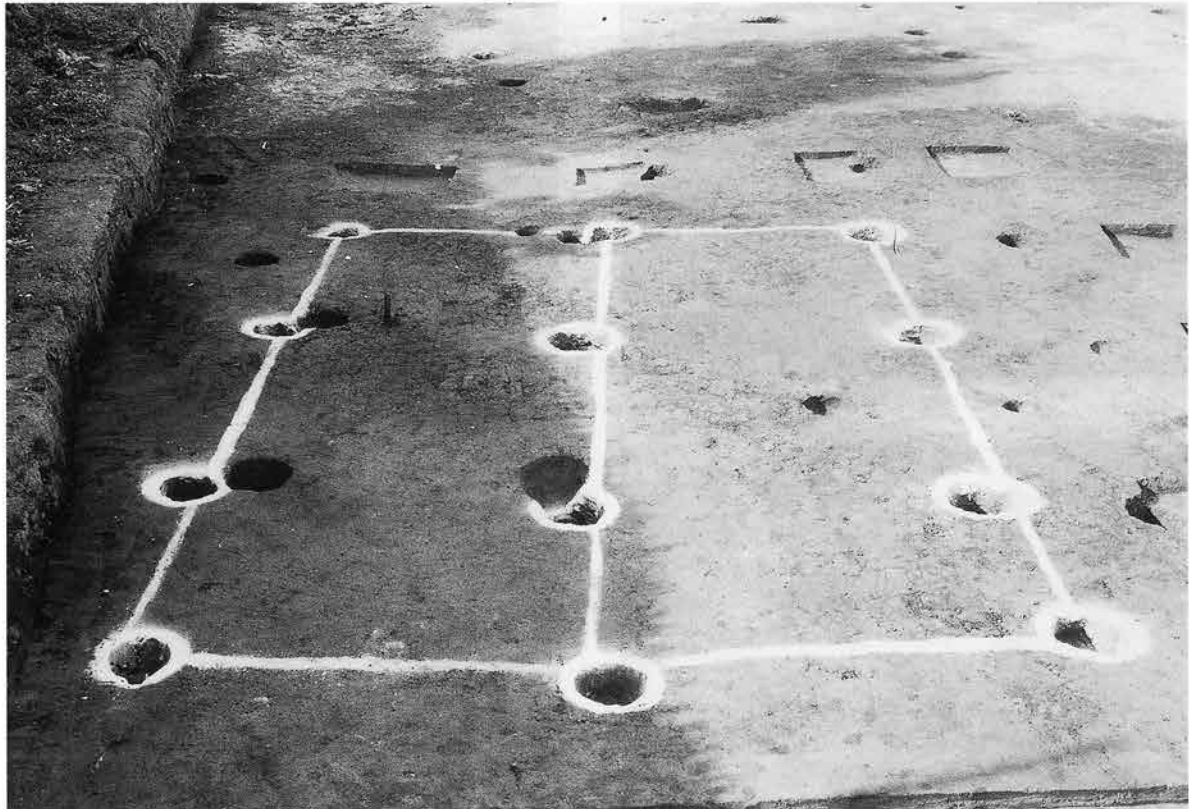


RB039 掘立柱建物跡平面

写真図版82 RB038・039 掘立柱建物跡



RB040 掘立柱建物跡平面

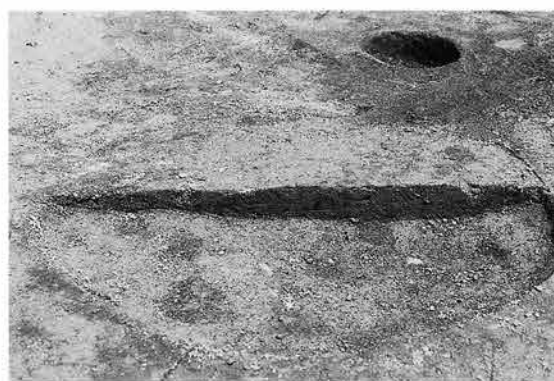


RB041 掘立柱建物跡平面

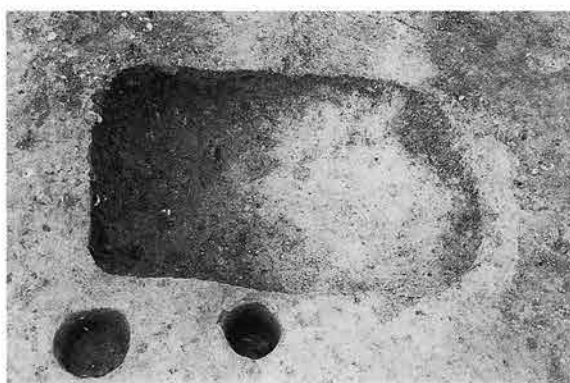
写真図版83 RB040・041 掘立柱建物跡



RD586 土坑平面



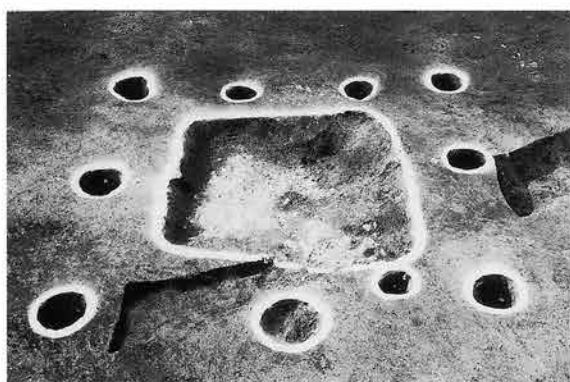
RD586 土坑断面 (西から)



RD596 土坑平面



RD596 土坑断面 (南から)



RD622 土坑平面



RD622 土坑断面 (南から)



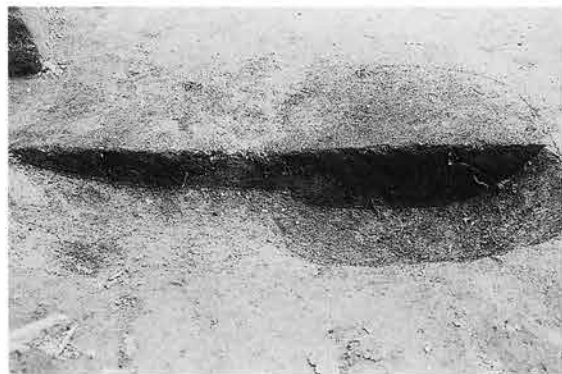
RB034 掘立柱建物跡平面



RD626 土坑断面 (西から)



RD633・634 土坑平面



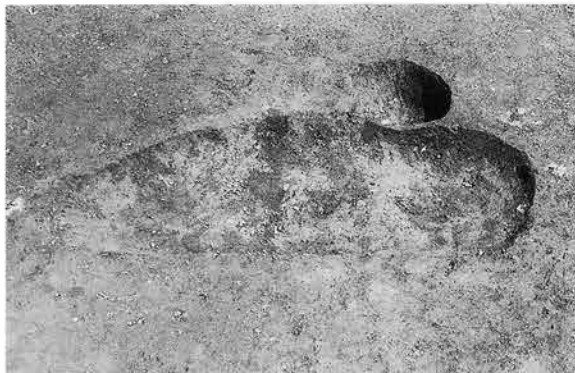
RD633・634 土坑断面（西から）



RD635 土坑平面



RD635 土坑断面（東から）



RD636 土坑平面



RD636 土坑断面（南から）



RD637 土坑平面

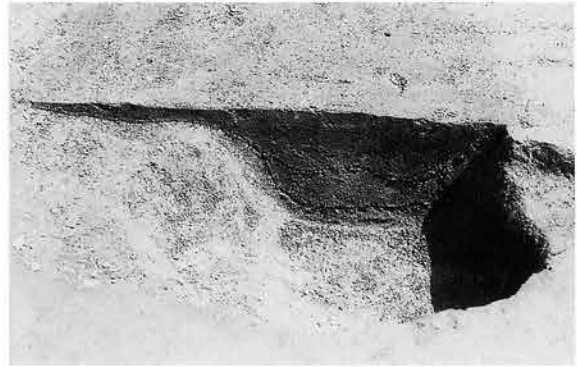


RD637 土坑断面（南から）

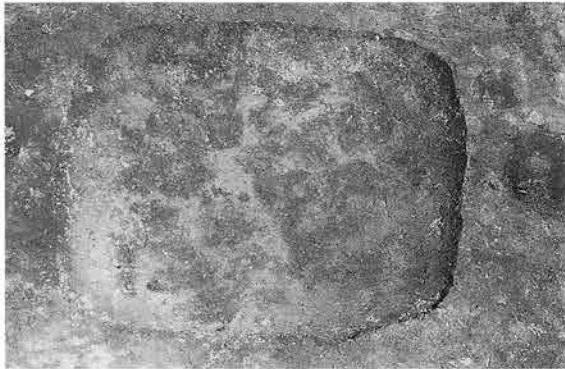




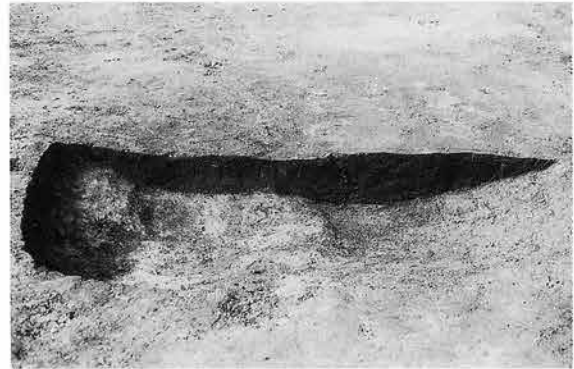
RD639 土坑平面



RD639 土坑断面 (南から)



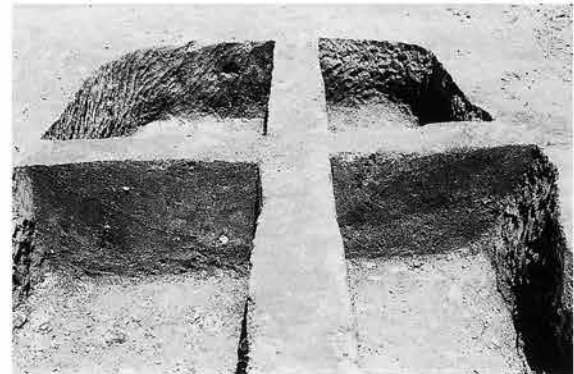
RD643 土坑平面



RD643 土坑断面 (南から)



RD644 土坑平面



RD644 土坑断面 (南から)



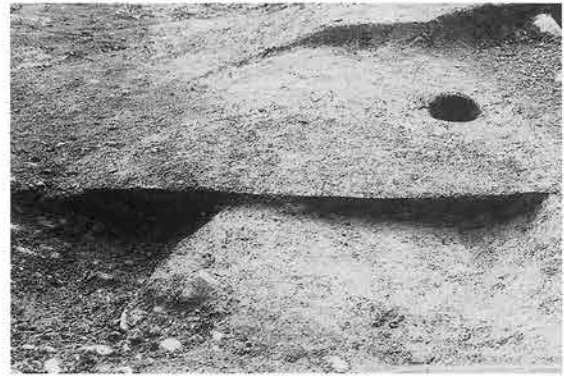
RD645 土坑平面



RD645 土坑断面 (南から)



RD660 土坑平面



RD660 土坑断面 (北から)



RD692 土坑平面



RD692 土坑断面 (南から)



RD796 土坑平面



RD796 土坑断面 (南から)



RD808 土坑平面



RD810 土坑平面

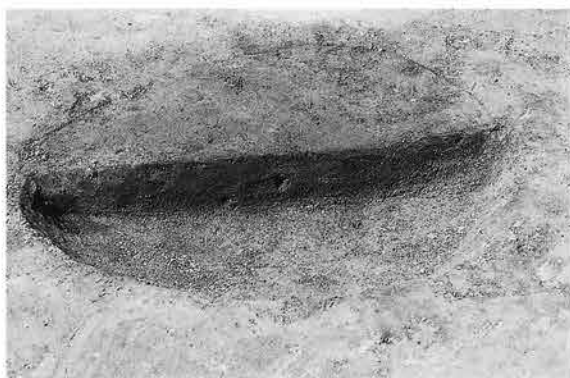
写真図版87 RD660・692・796・808・810 土坑



RD814 土坑断面 (南東から)



RD819 土坑断面 (西から)



RD820 土坑断面 (南から)



調査区全景



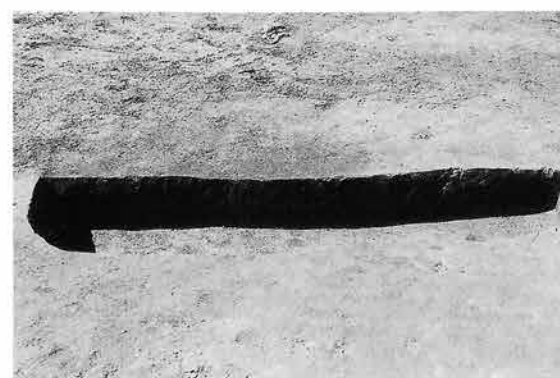
RD822・823 土坑平面



RD822・823 土坑断面 (西から)

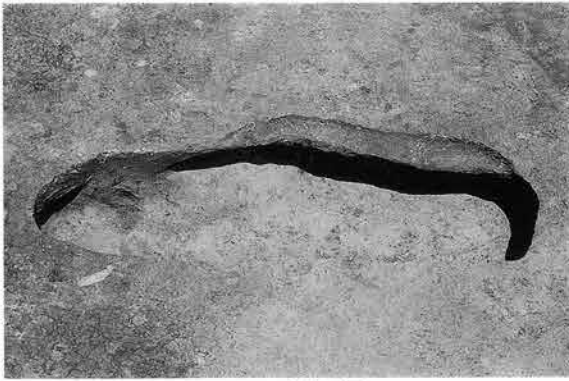


RD825 土坑平面



RD825 土坑断面 (東から)

写真図版88 RD814・819・820・822・823・825 土坑



RD826 土坑平面



RD826 土坑断面 (南から)



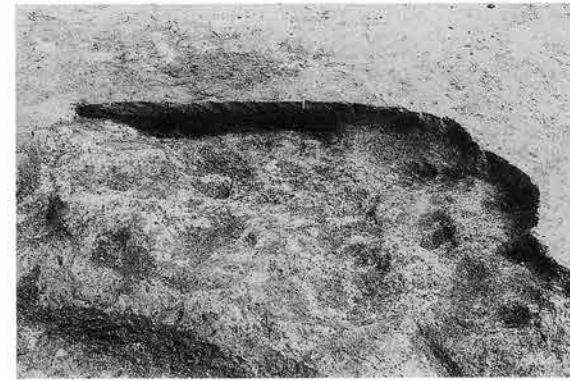
RD827 土坑平面



RD827 土坑断面 (北から)



RD828 土坑平面



RD828 土坑断面 (北から)



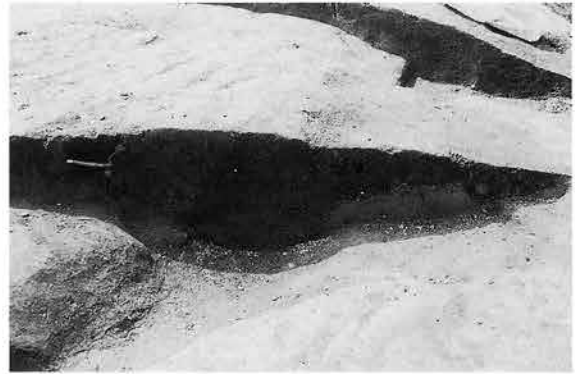
RD829 土坑断面 (西から)



調査区全景



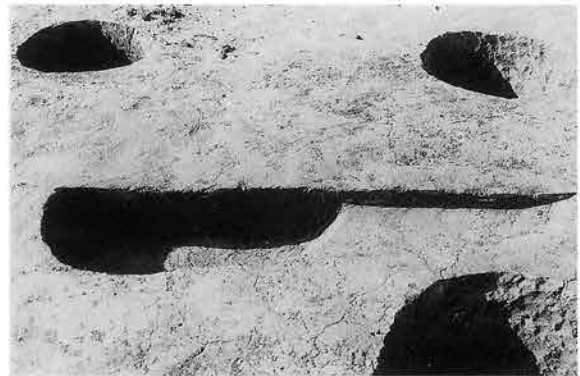
RD830 土坑平面



RD830 土坑・RG325 溝跡断面 (南から)



RD831・832 土坑平面



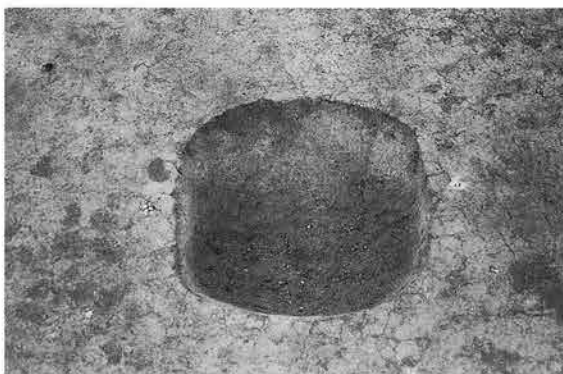
RD831・832 土坑断面 (南から)



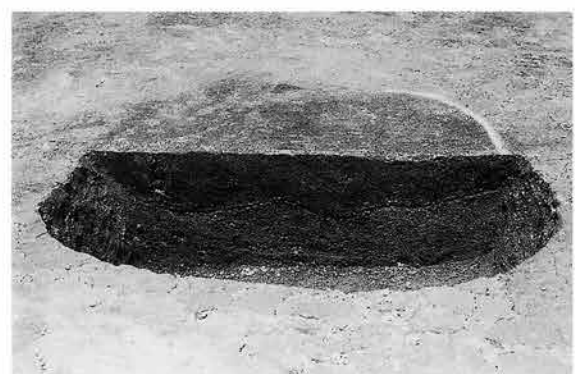
RD833 土坑平面



RD833 土坑断面 (東から)



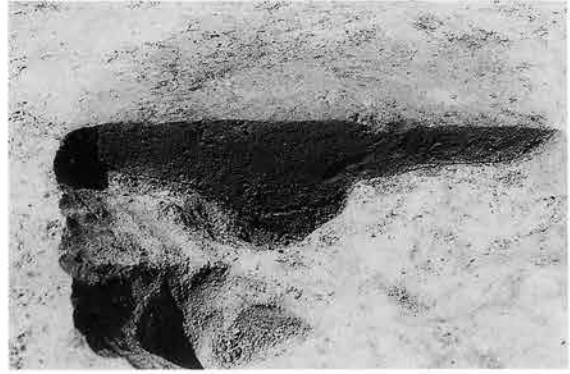
RD926 土坑平面



RD926 土坑断面 (南から)



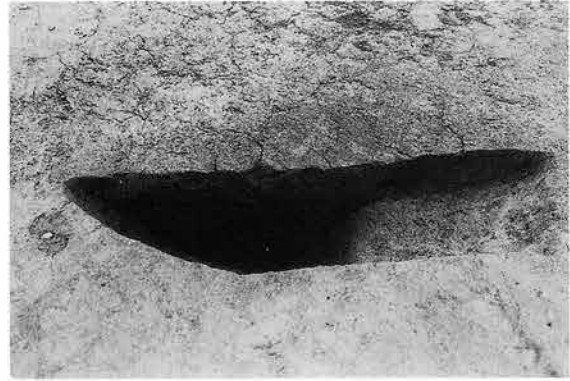
RD927 土坑平面



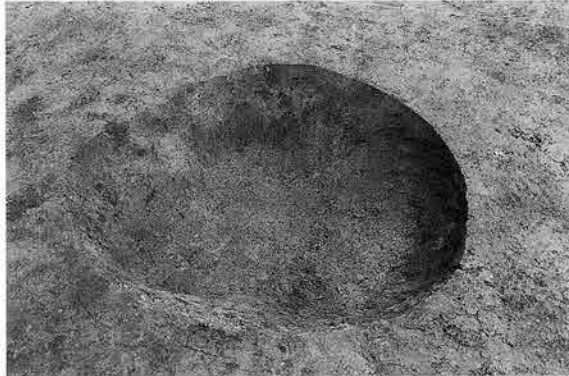
RD927 土坑断面 (南から)



RD928 土坑平面



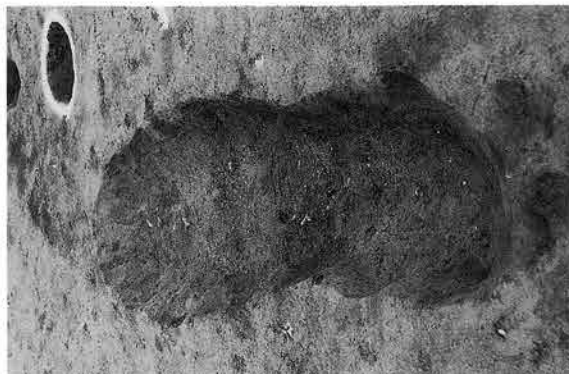
RD928 土坑断面 (西から)



RD929 土坑平面



RD929 土坑断面 (北から)

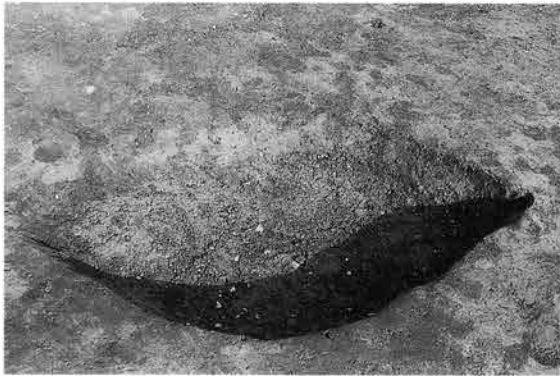


RD930 土坑平面

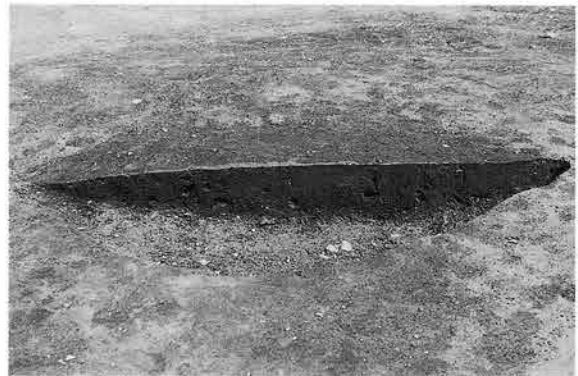


RD930 土坑断面 (西から)

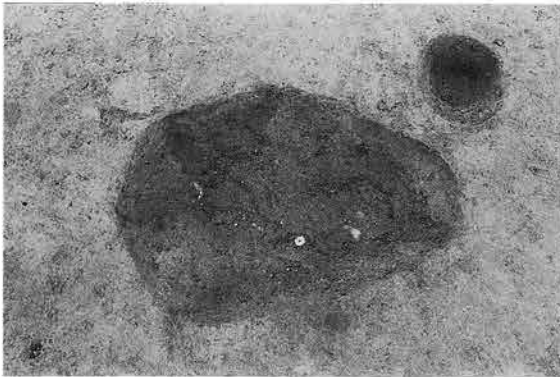
写真図版91 RD927~930 土坑



RD931 土坑平面



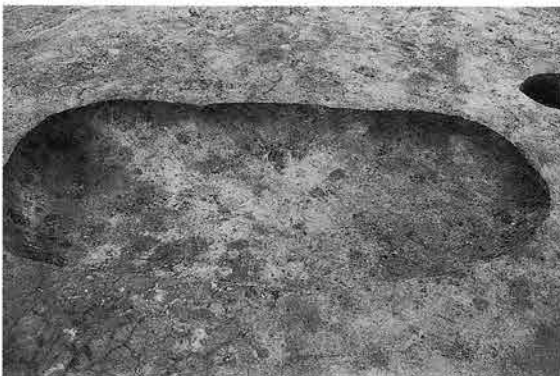
RD931 土坑断面 (西から)



RD933 土坑平面



RD933 土坑断面 (南から)



RD934 土坑平面



RD934 土坑断面 (南西から)



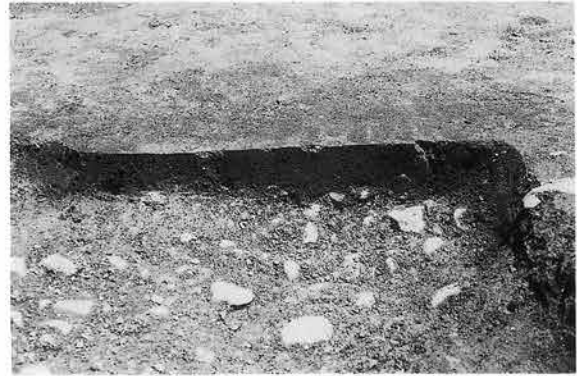
RD935・936 土坑平面



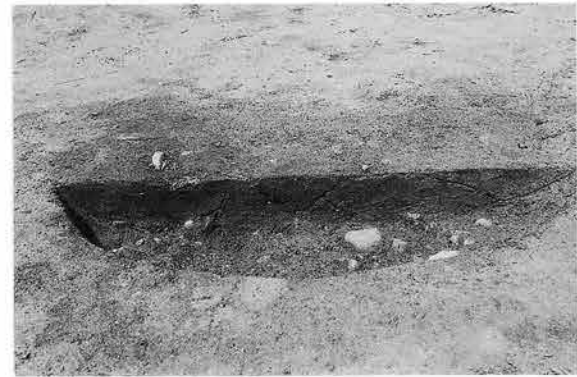
RD935・936 土坑断面 (東から)



RD937 土坑平面



RD937 土坑断面（南西から）



RD939 土坑断面（南から）



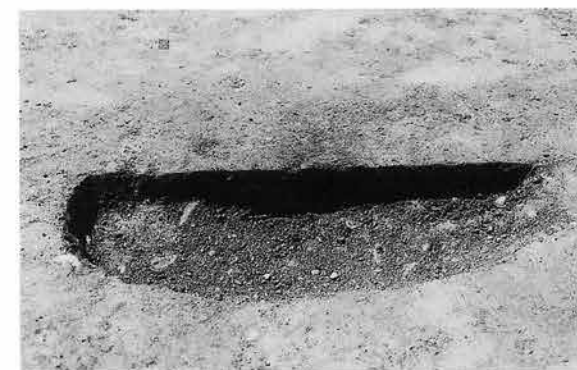
RD940 土坑平面



RD940 土坑断面（南から）

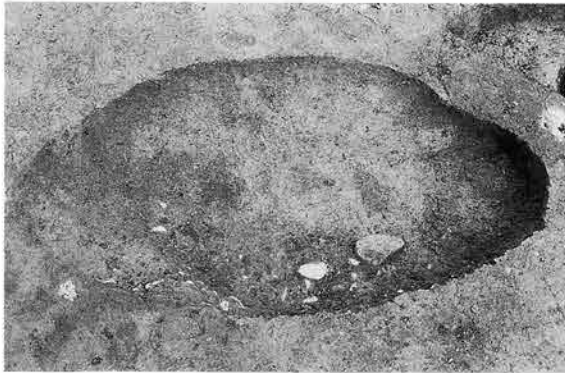


RD941 土坑平面

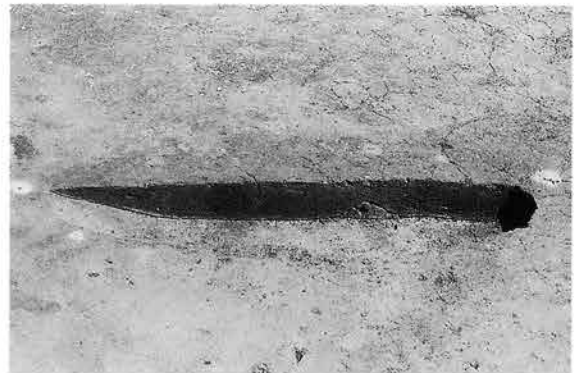


RD941 土坑断面（北東から）





RD942 土坑平面



RD942 土坑断面 (西から)



RD943 土坑平面



RD943 土坑断面 (北から)



RD943 土坑平面



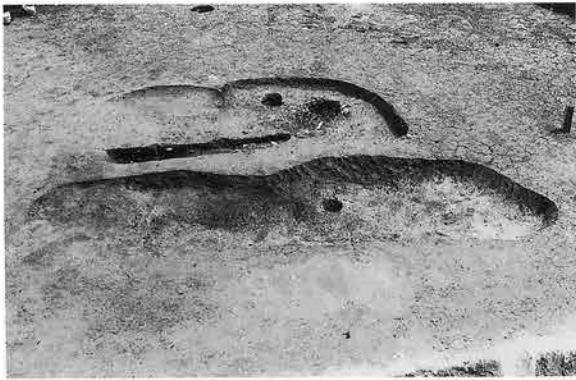
RD943 土坑断面 (西から)



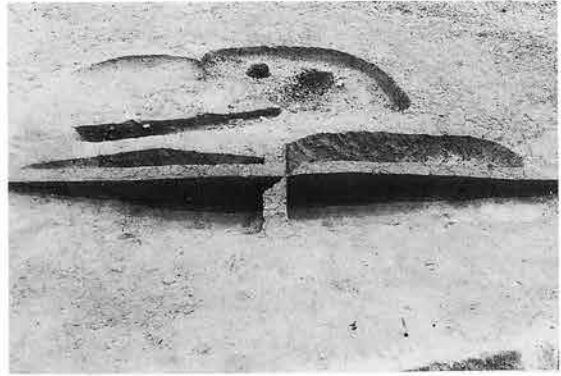
RD944 土坑平面



RD944 土坑断面 (西から)



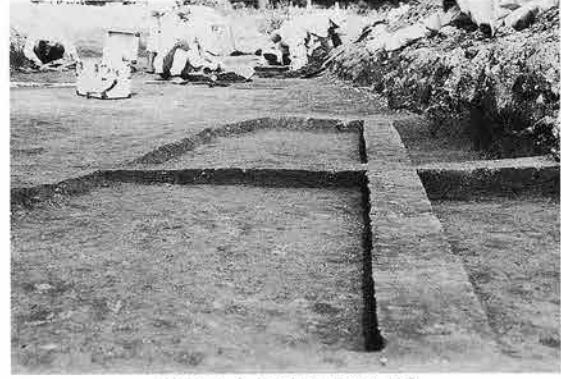
RD945 土坑平面



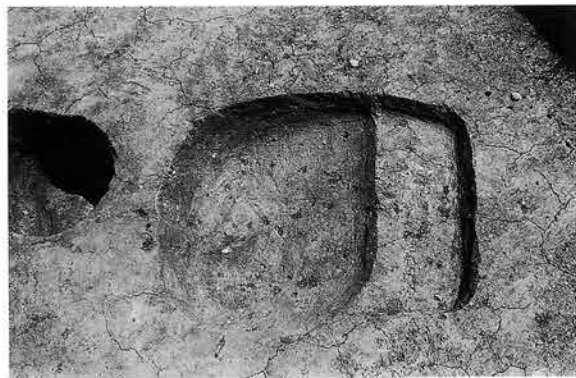
RD945 土坑断面（西から）



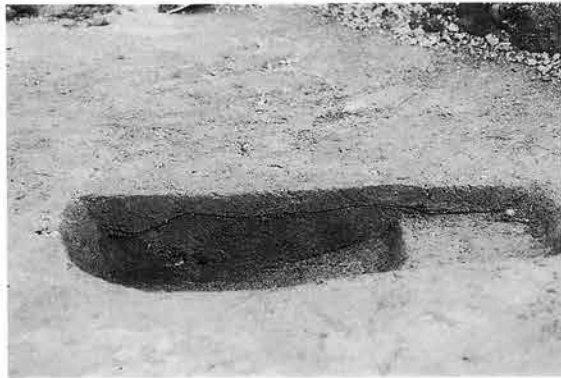
RD946 土坑平面



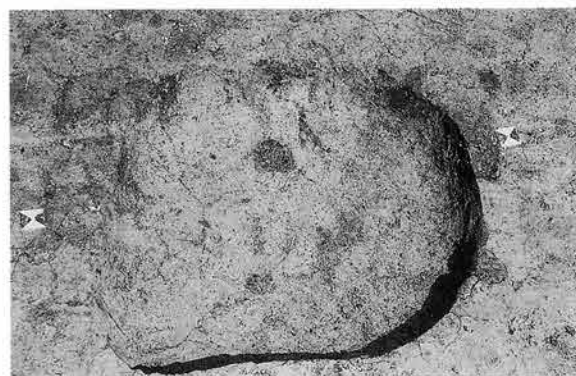
RD946 土坑断面（西から）



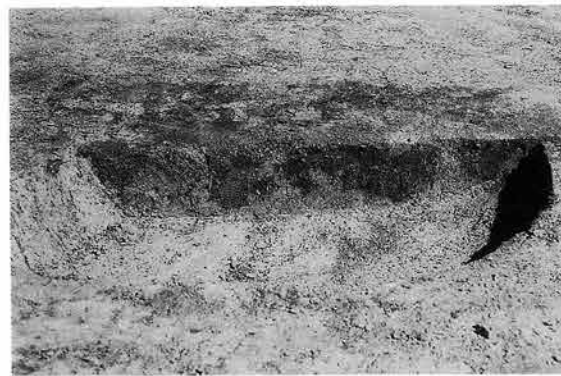
RD947 土坑平面



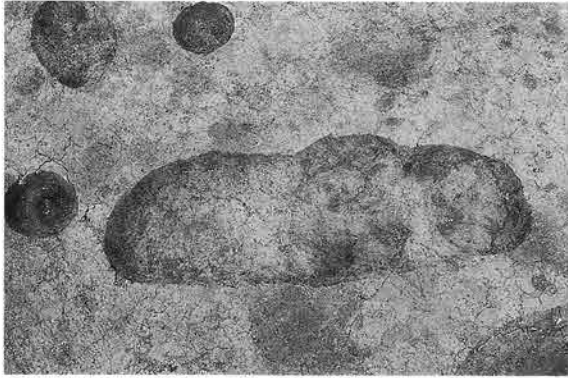
RD947 土坑断面（西から）



RD948 土坑平面



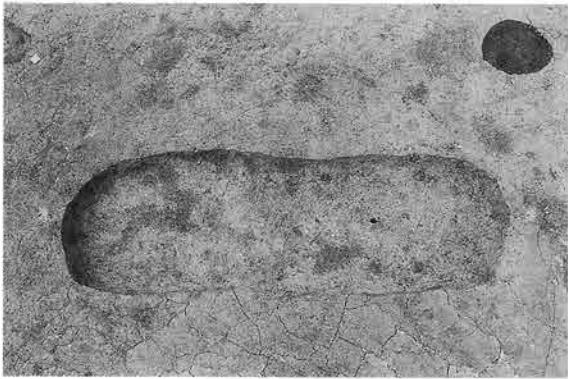
RD948 土坑断面（南から）



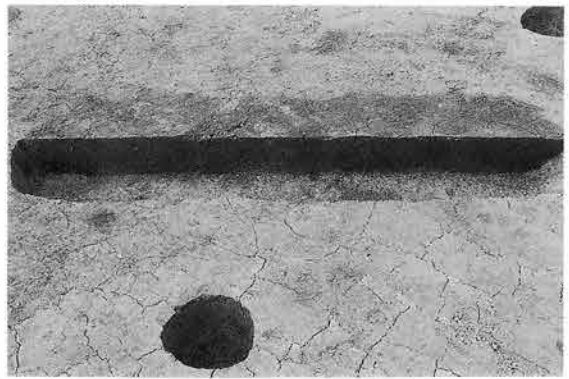
RD949 土坑平面



RD949 土坑断面（東南から）



RD950 土坑平面



RD950 土坑断面（東南から）



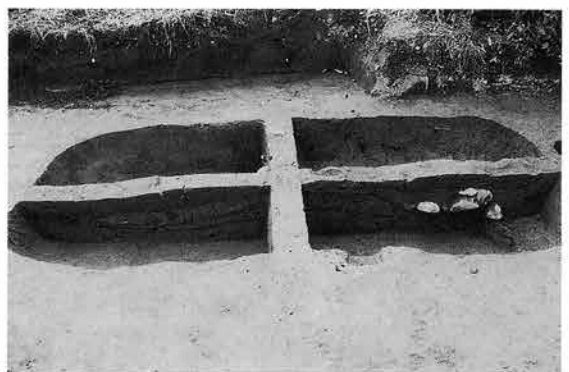
RD951 土坑平面



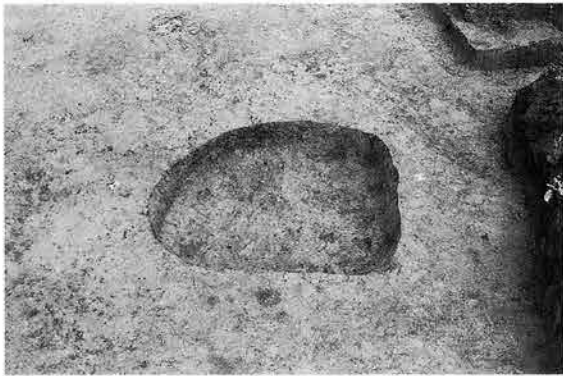
RD951 土坑断面（南から）



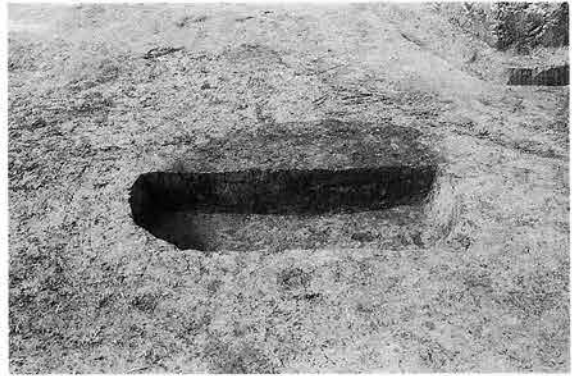
RD953 土坑平面



RD953 土坑断面（東から）



RD954 土坑平面



RD954 土坑断面 (南から)



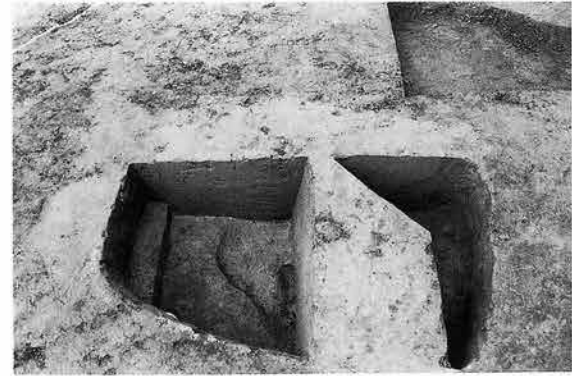
RD955 土坑平面



RD955 土坑断面 (南から)



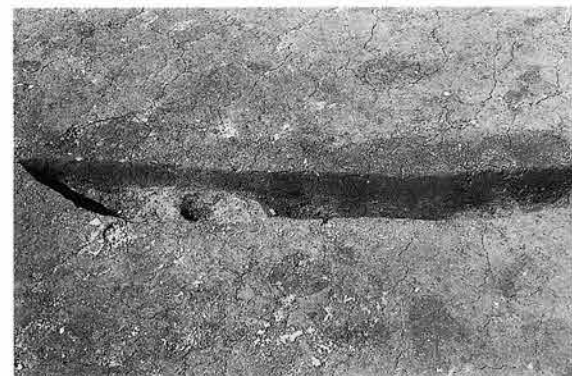
RD956 土坑平面



RD956 土坑断面 (東から)



RD971 土坑平面



RD971 土坑断面 (南から)

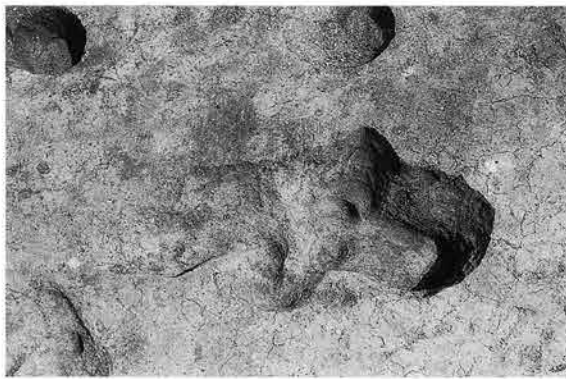
写真図版97 RD954~956・971 土坑



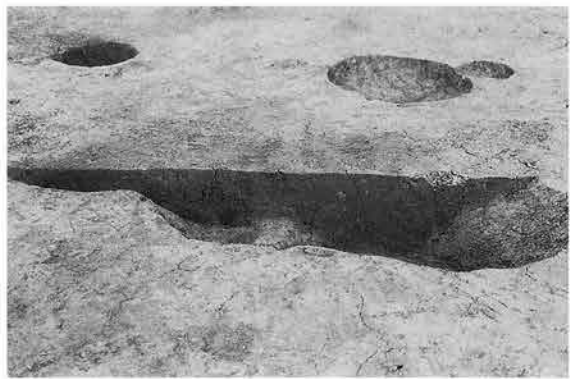
RD972 土坑平面



RD972 土坑断面 (西から)



RD973 土坑平面



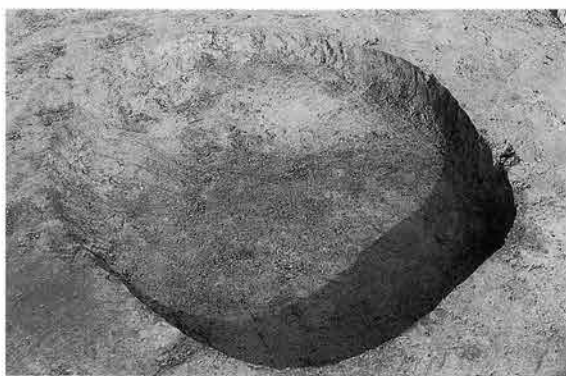
RD973 土坑断面 (西から)



RD974 土坑平面



RD974 土坑断面 (西から)



RD975 土坑平面



RD975 土坑断面 (西から)



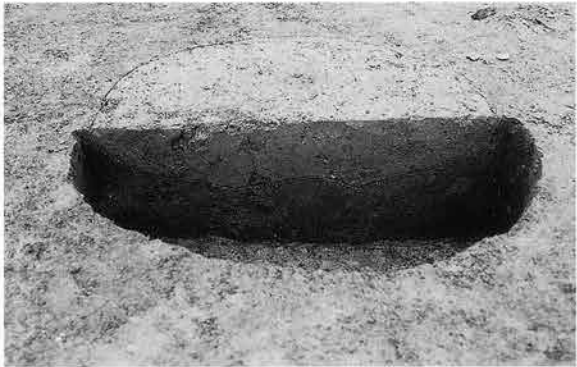
RD976 土坑平面



RD976 土坑断面（北から）



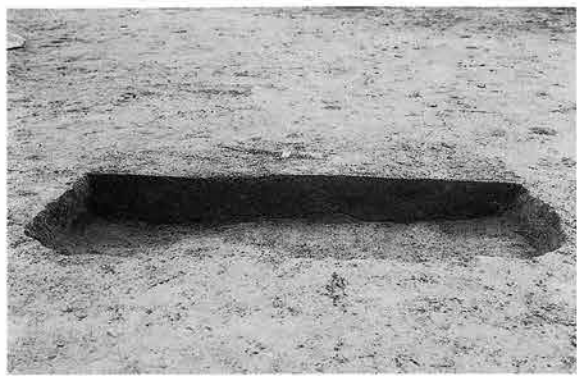
RD977 土坑平面



RD977 土坑断面（南から）



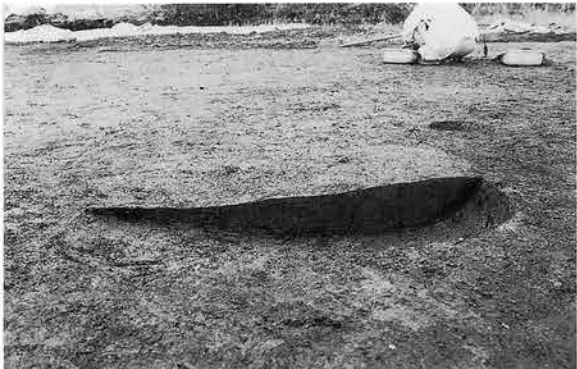
RD978 土坑平面



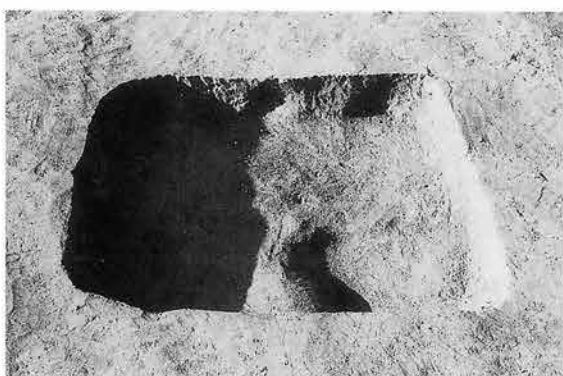
RD978 土坑断面（西から）



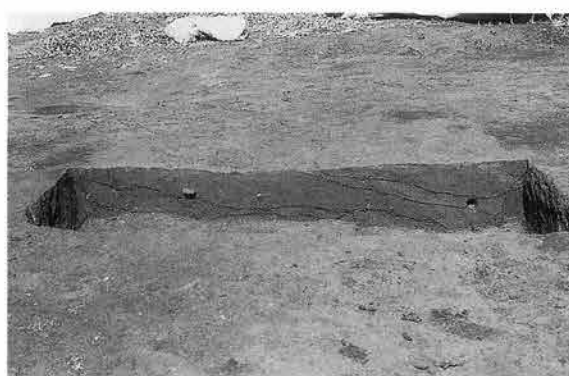
RD979 土坑平面



RD979 土坑断面（南から）



RD980 土坑平面



RD980 土坑断面 (南から)



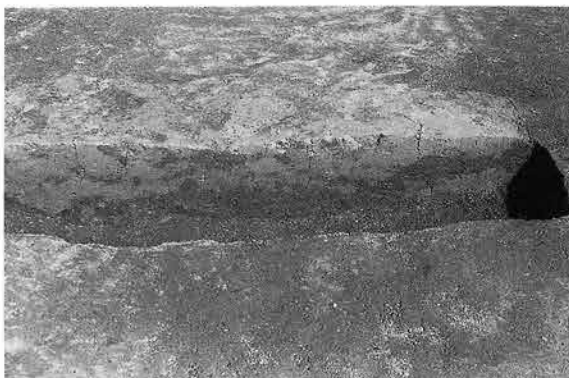
RD981 土坑平面



RD981 土坑断面 (西から)



RD982 土坑平面



RD982 土坑断面 (西から)



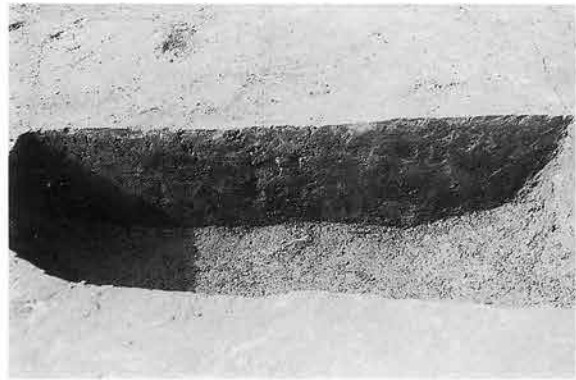
RD983 土坑平面



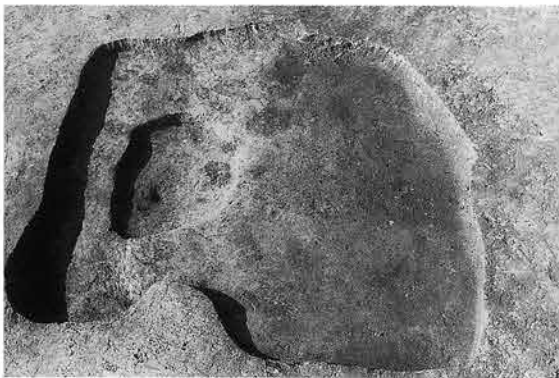
RD983 土坑断面 (西から)



RD984 土坑平面



RD984 土坑断面（南から）



RD985 土坑平面



RD985 土坑断面（南から）



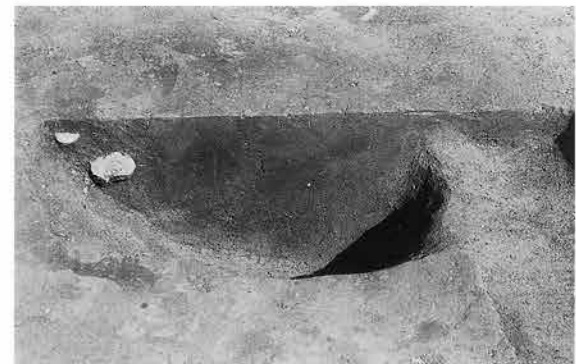
RD986 土坑平面



RD986 土坑断面（南から）



RD987 土坑平面

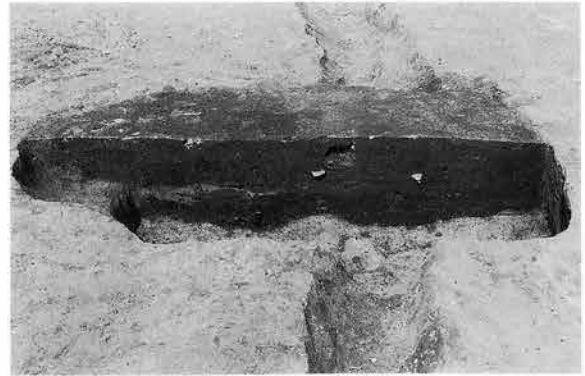


RD987 土坑断面（南から）





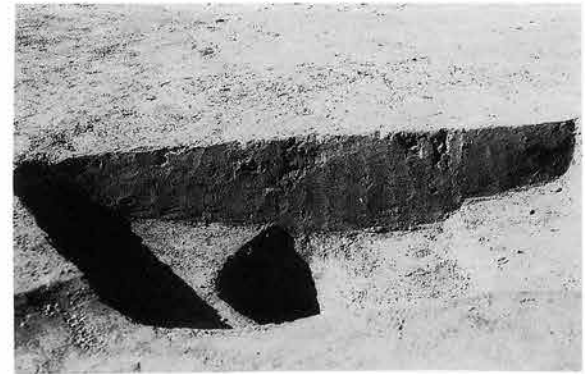
RD988 土坑平面



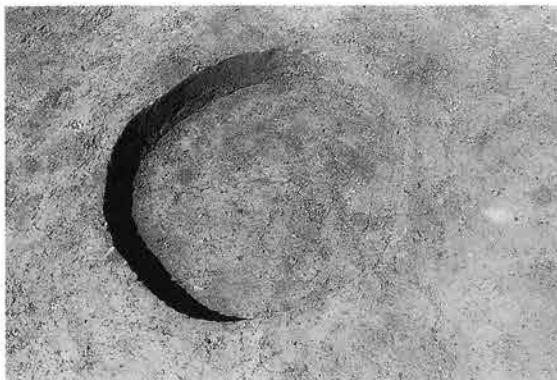
RD988 土坑断面 (南から)



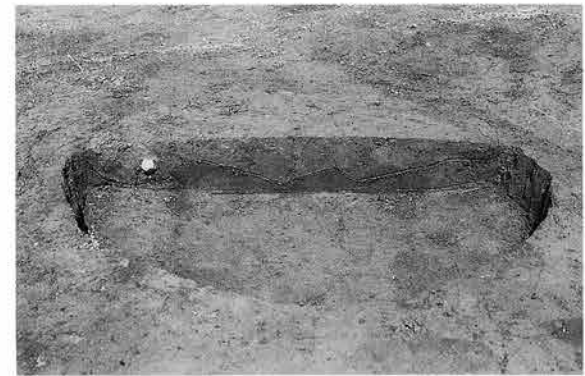
RD989 土坑平面



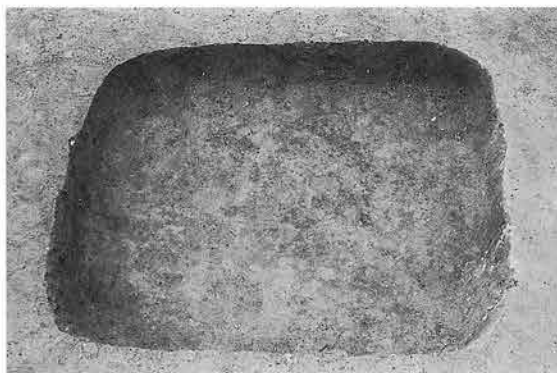
RD989 土坑断面 (南から)



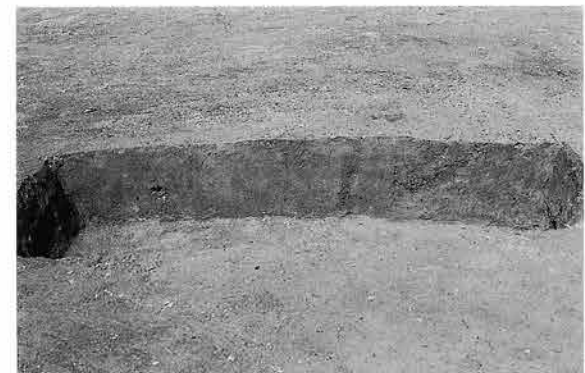
RD990 土坑平面



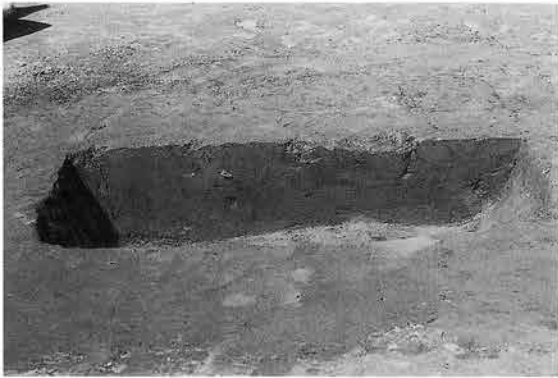
RD990 土坑断面 (南から)



RD991 土坑平面



RD991 土坑断面 (南から)



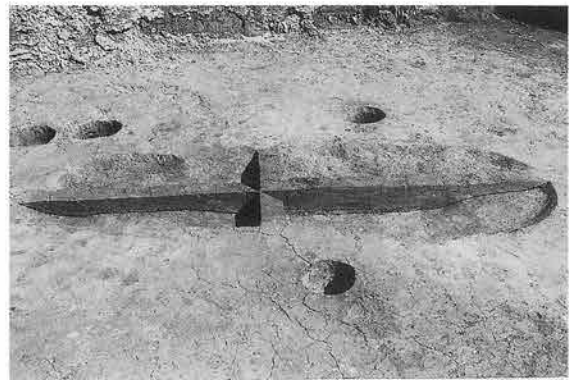
RD992 土坑断面 (南から)



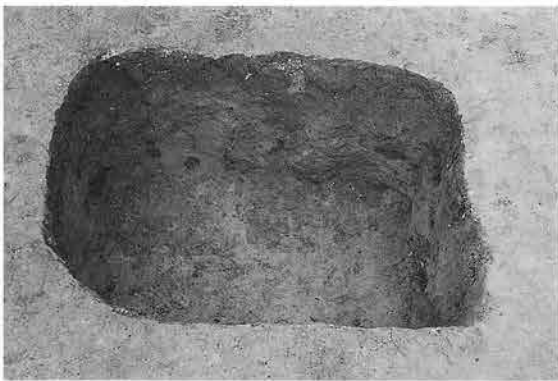
調査前風景



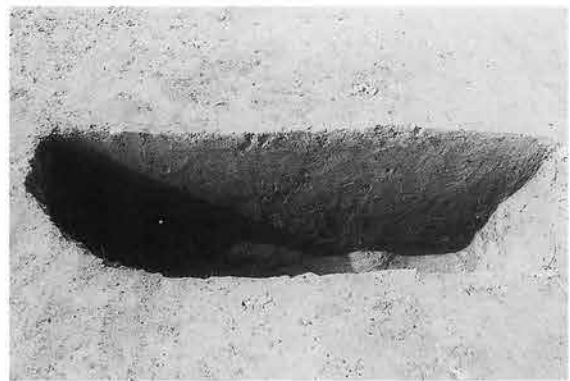
RD993 土坑平面



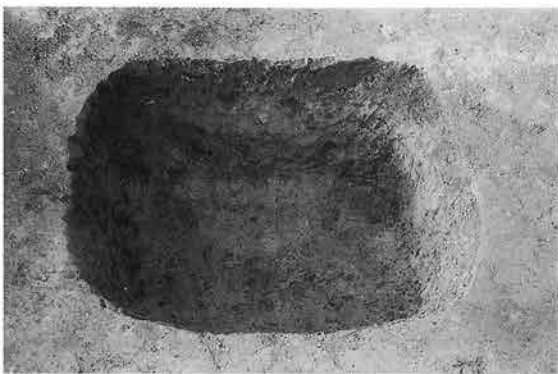
RD993 土坑断面 (西から)



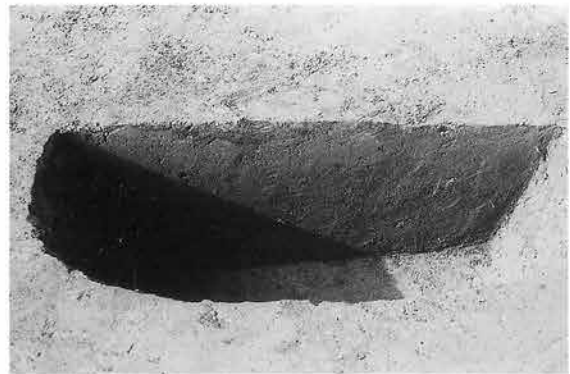
RD994 土坑平面



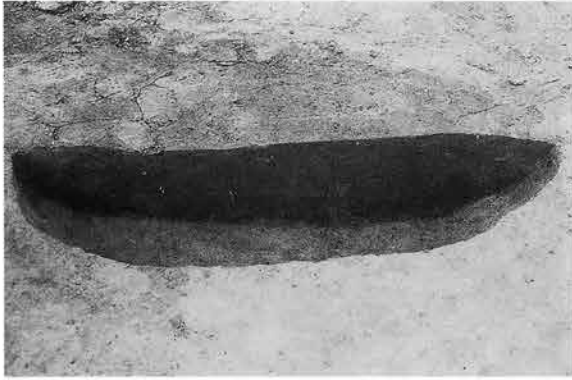
RD994 土坑断面 (西から)



RD995 土坑平面



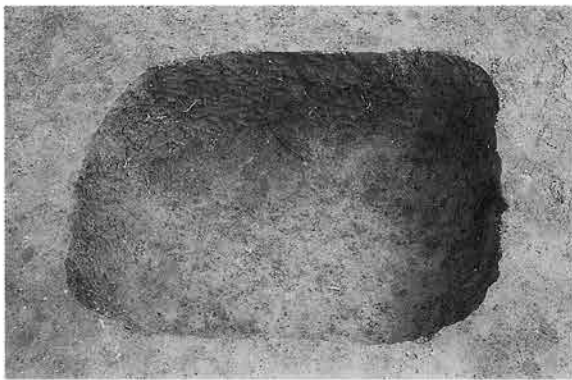
RD995 土坑断面 (南から)



RD996 土坑断面（南から）



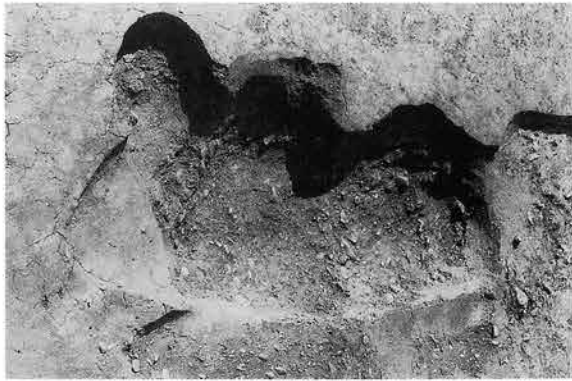
調査前風景



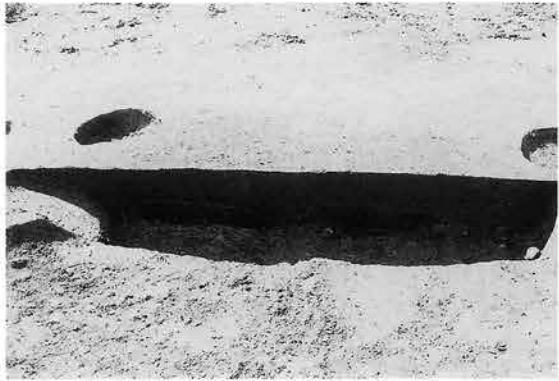
RD997 土坑平面



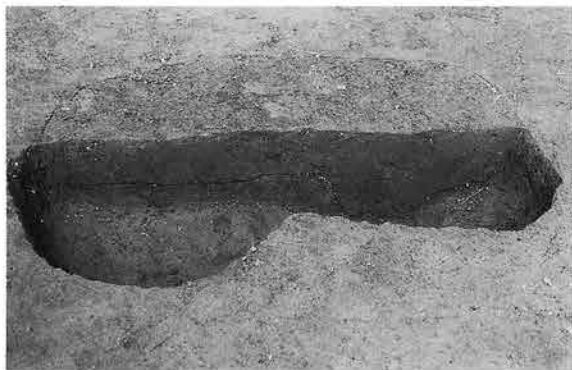
RD997 土坑断面（西から）



RD998 土坑平面



RD998 土坑断面（北から）



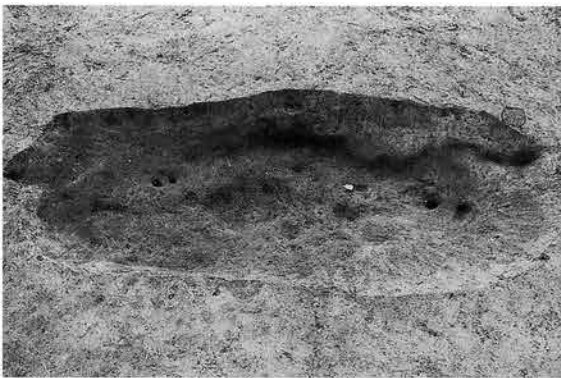
RD999 土坑断面（南から）



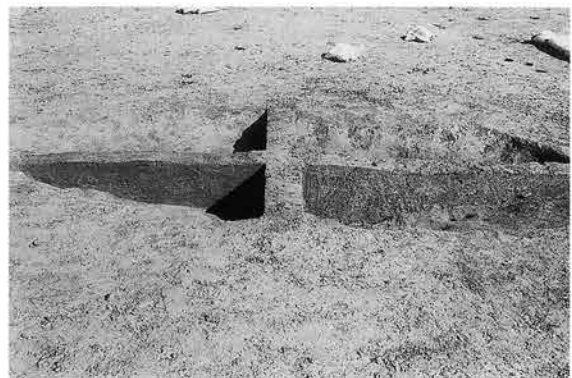
現況（3-D他）



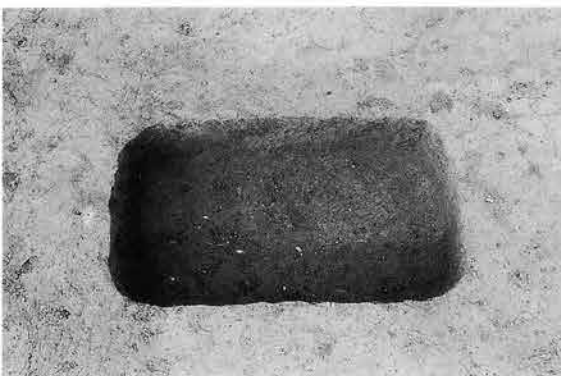
調査区全景



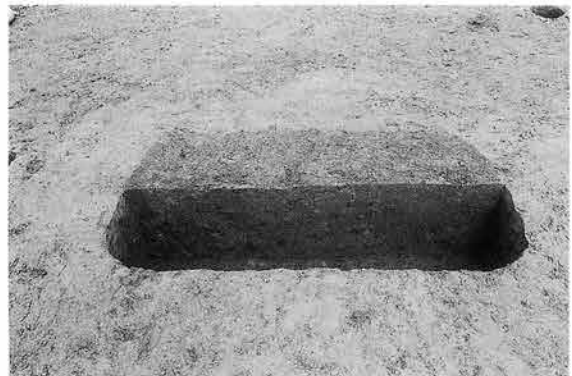
RD1001 土坑平面



RD1001 土坑断面 (南から)

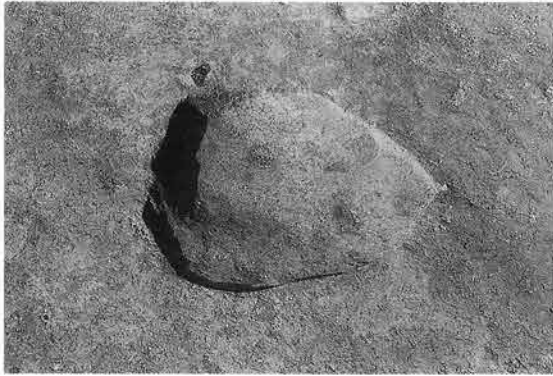


RD1002 土坑平面

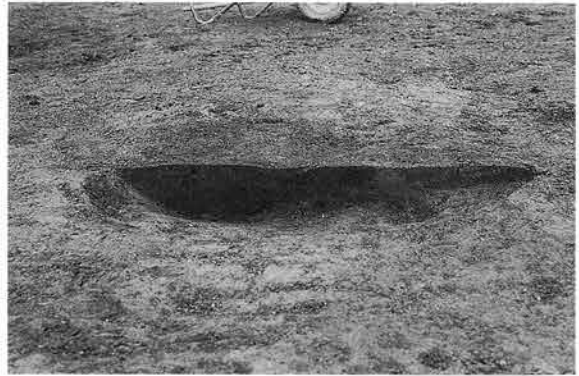


RD1002 土坑断面 (南から)

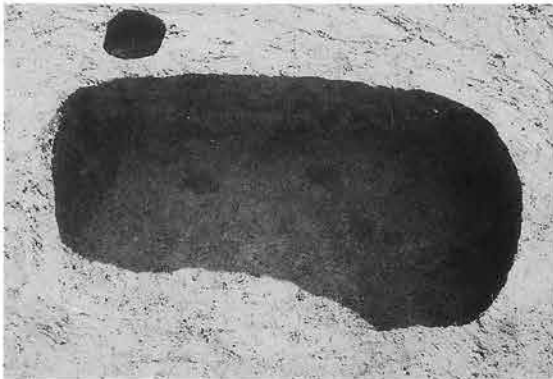
写真図版105 RD1001・1002 土坑



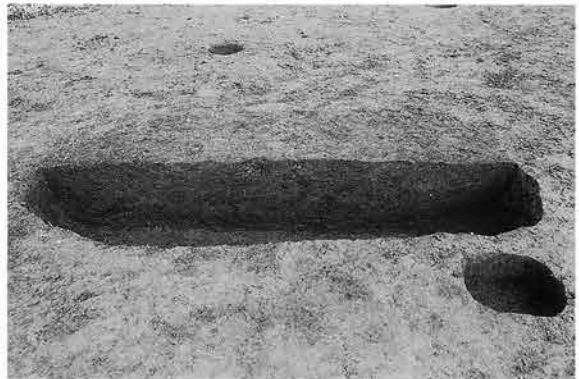
RD1003 土坑平面



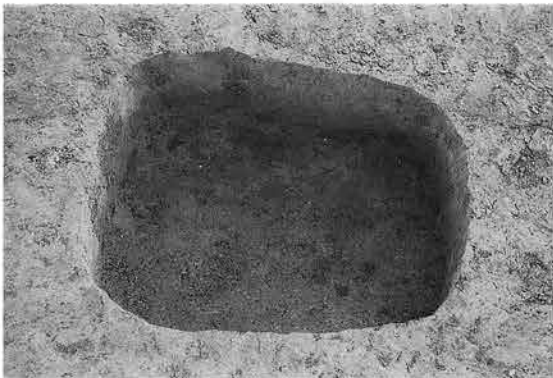
RD1003 土坑断面（南から）



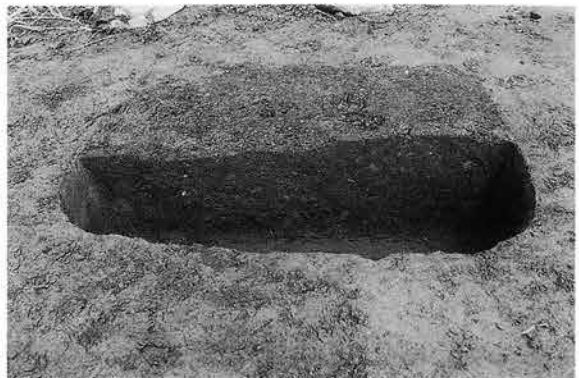
RD1004 土坑平面



RD1004 土坑断面（南から）



RD1005 土坑平面



RD1005 土坑断面（南から）



RD1006 土坑平面



RD1006 土坑断面（東から）

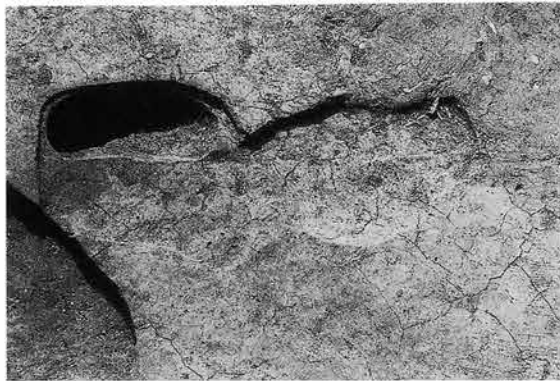
写真図版106 RD1003~1006 土坑



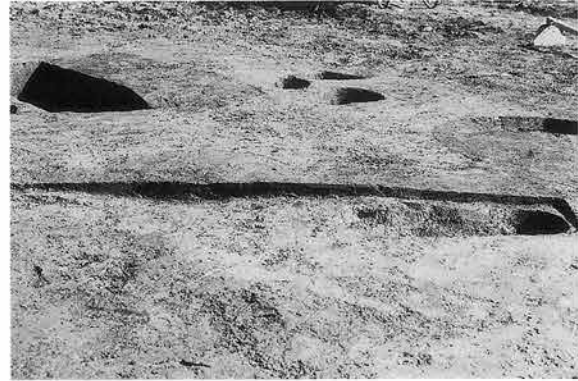
RD1007 土坑平面



RD1007 土坑断面 (東から)



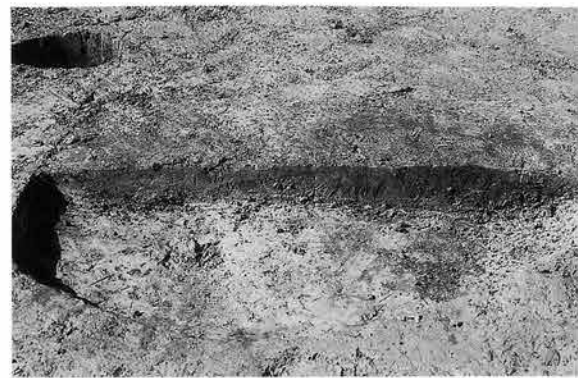
RD1008・1009 土坑平面



RD1008・1009 土坑断面 (南西から)



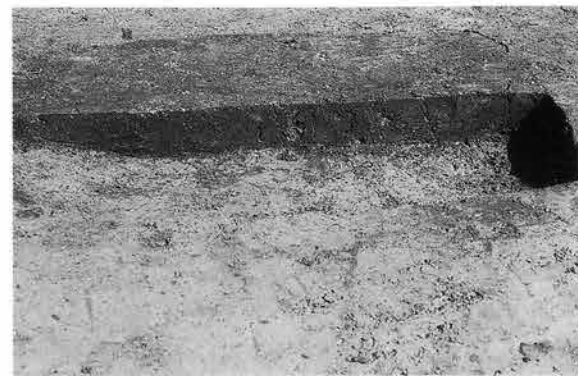
RD1010 土坑平面



RD1010 土坑断面 (東から)



RD1011 土坑平面



RD1011 土坑断面 (南から)



RD1012 土坑平面



RD1012 土坑断面（南東から）



RD1013 土坑平面



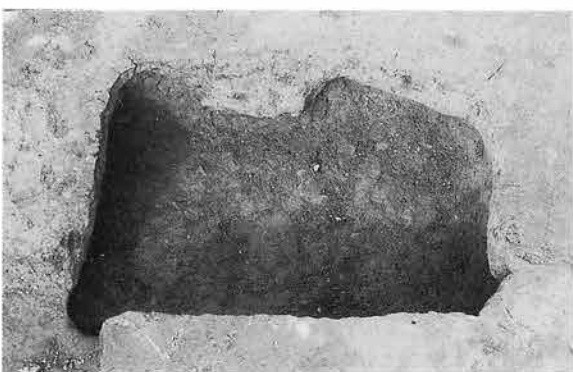
RD1013 土坑断面（南から）



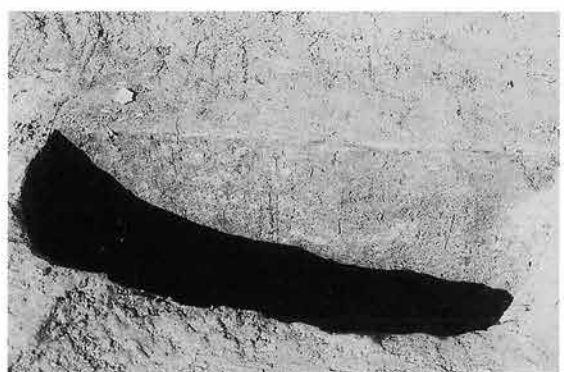
RD1014 土坑平面



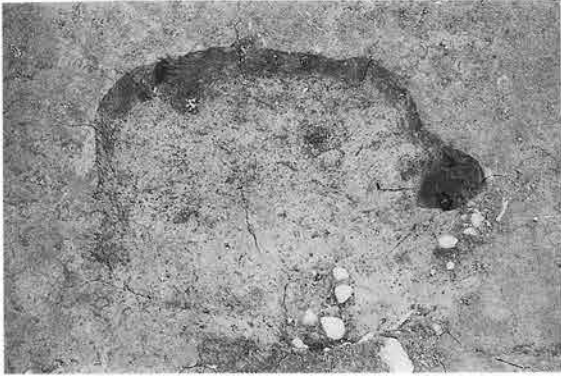
RD1014 土坑断面（南から）



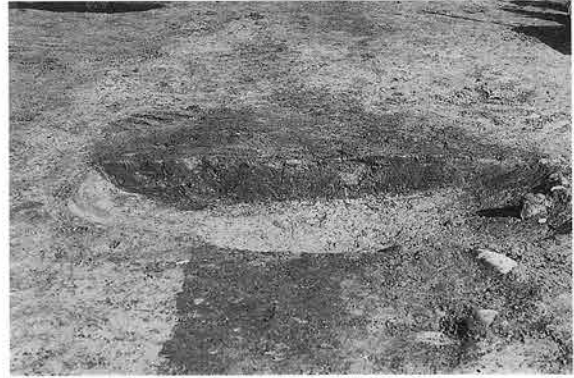
RD1015 土坑平面



RD1015 土坑断面（東から）



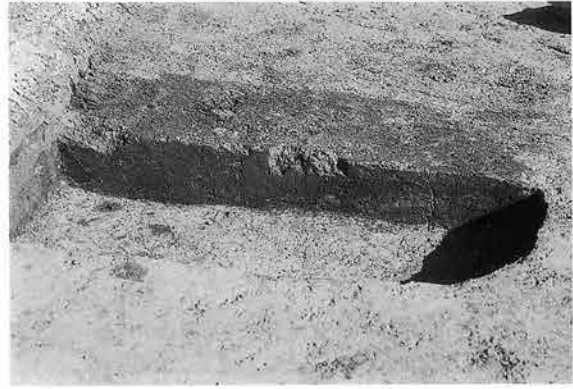
RD1016 土坑平面



RD1016 土坑断面 (南から)



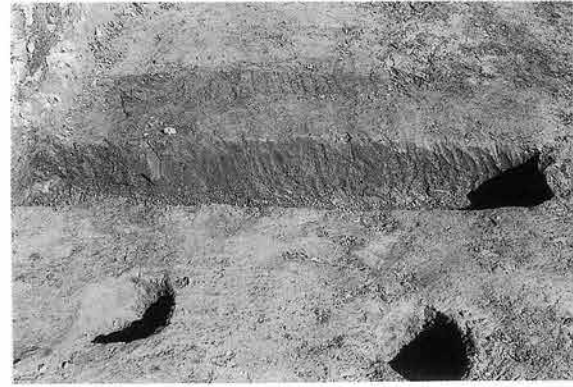
RD1017 土坑平面



RD1017 土坑断面 (南から)



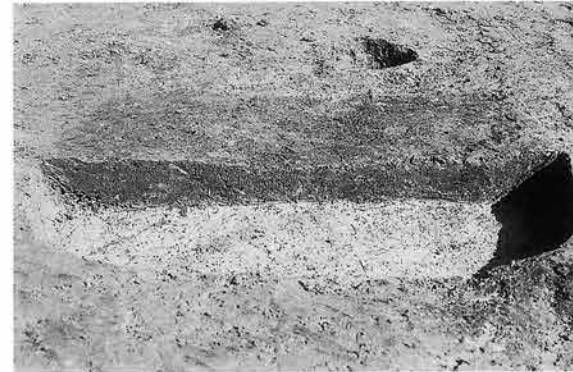
RD1018 土坑平面



RD1018 土坑断面 (南から)



RD1019 土坑平面

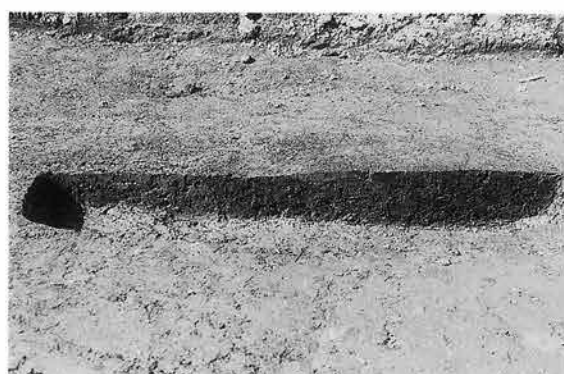


RD1019 土坑断面 (南から)





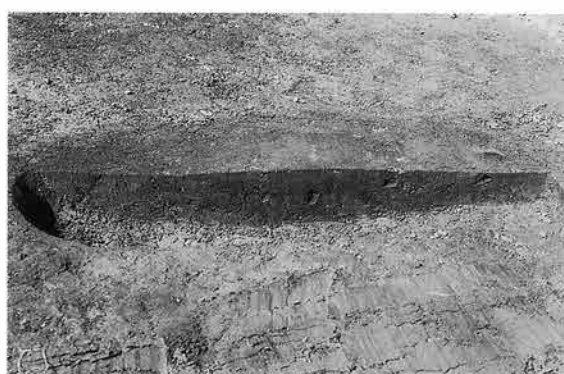
RD1020 土坑平面



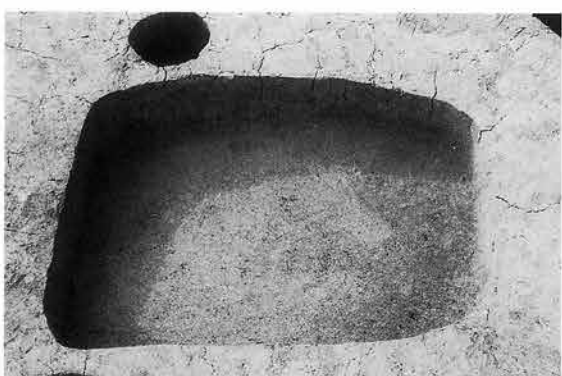
RD1020 土坑断面（東から）



RD1021 土坑平面



RD1021 土坑断面（東から）



RD1022 土坑平面



RD1022 土坑断面（西から）



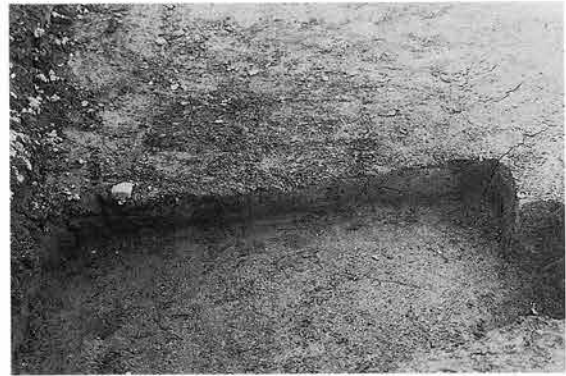
RD1023 土坑平面



RD1023 土坑断面（南から）



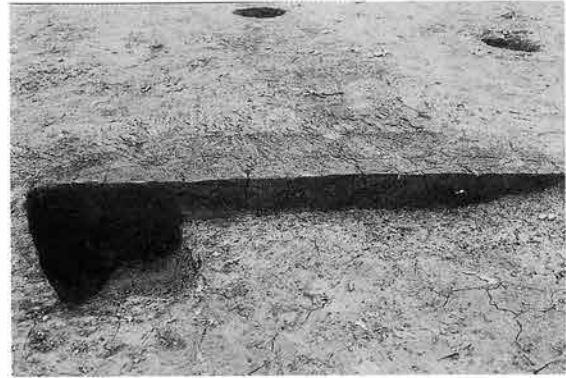
RD1024 土坑平面



RD1024 土坑断面（南から）



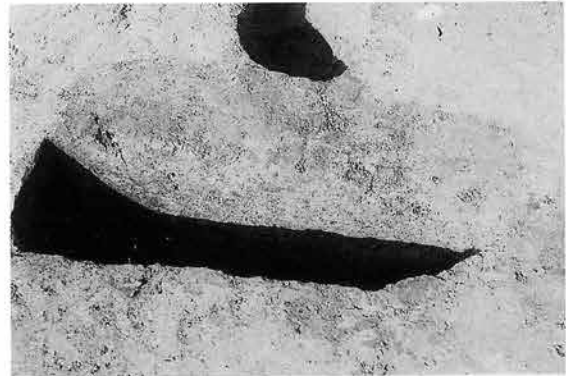
RD1025 土坑平面



RD1025 土坑断面（南から）



RD1026 土坑平面



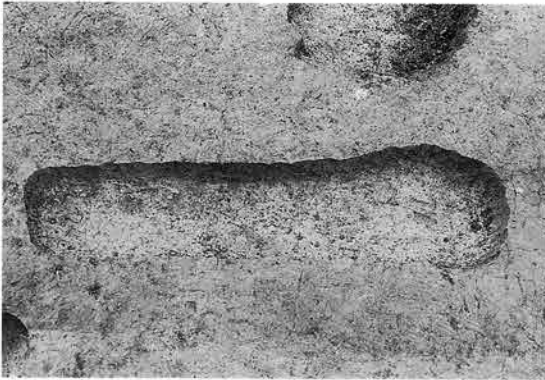
RD1026 土坑断面（東から）



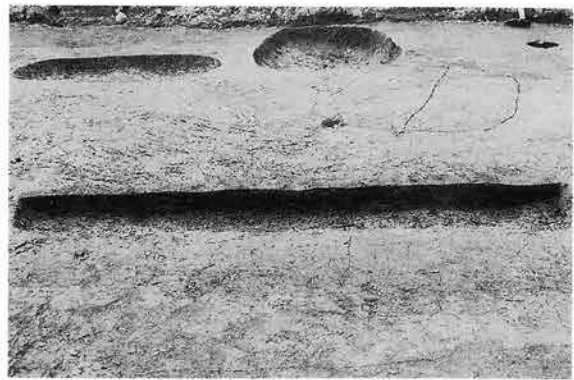
RD1027 土坑平面



RD1027 土坑断面（南東から）



RD1028 土坑平面



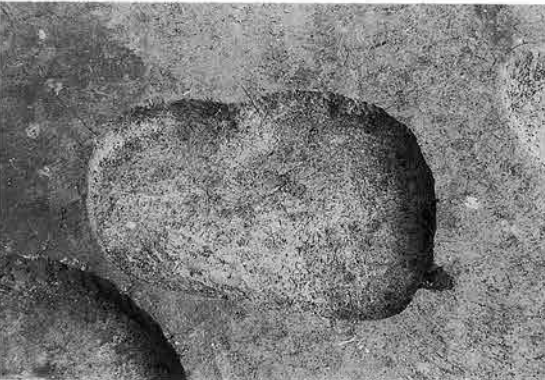
RD1028 土坑断面（東から）



RD1029 土坑平面



RD1029 土坑断面（南から）



RD1030 土坑平面



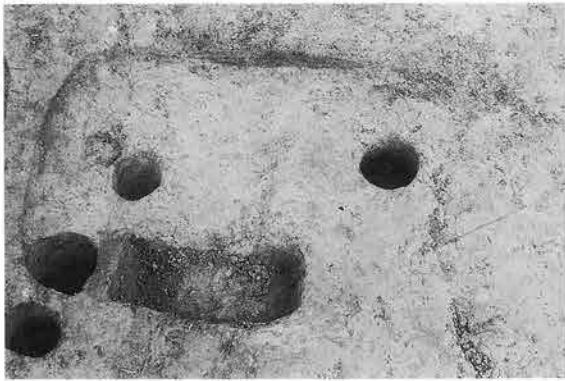
RD1030 土坑断面（南西から）



RD1031 土坑平面



RD1031 土坑断面（東から）



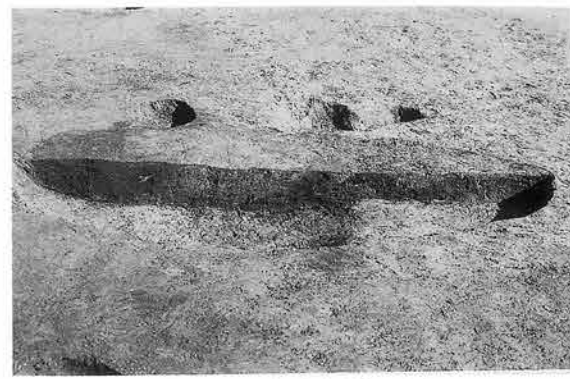
RD1032 土坑平面



RD1032 土坑断面（東から）



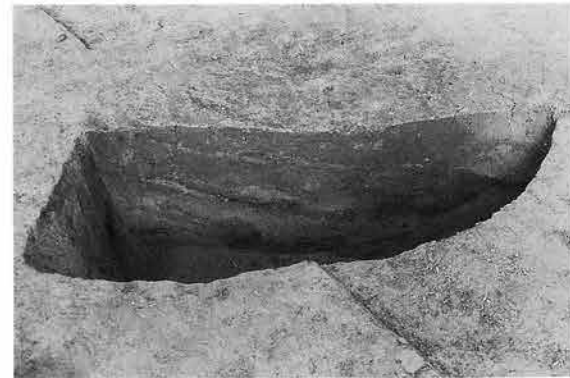
RD1033 土坑平面



RD1033 土坑断面（南から）



RD1034 土坑平面



RD1034 土坑断面（東南から）



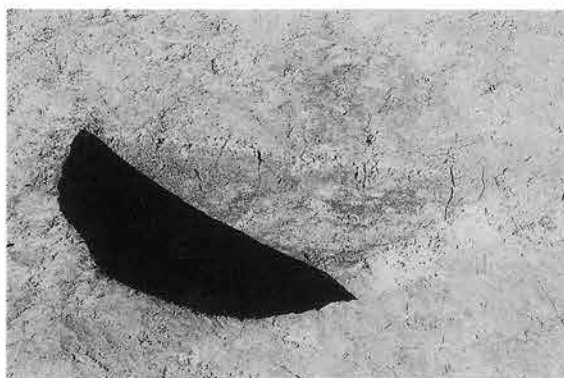
RD1035 土坑平面



RD1035 土坑断面（南から）



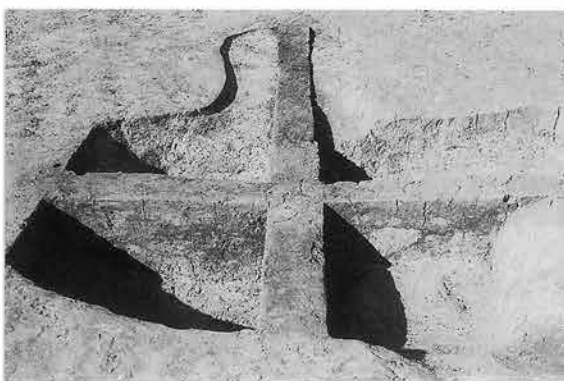
RD1036 土坑平面



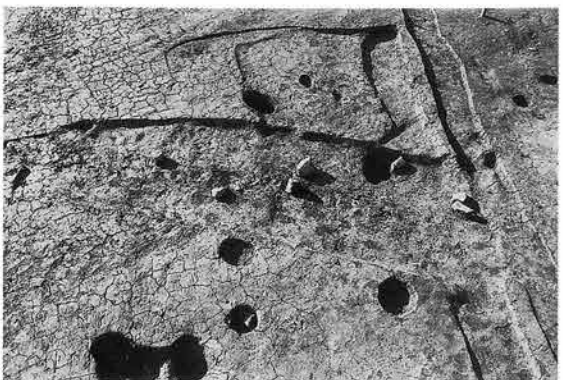
RD1036 土坑断面（南東から）



RD1037 土坑平面



RD1037 土坑断面（東から）



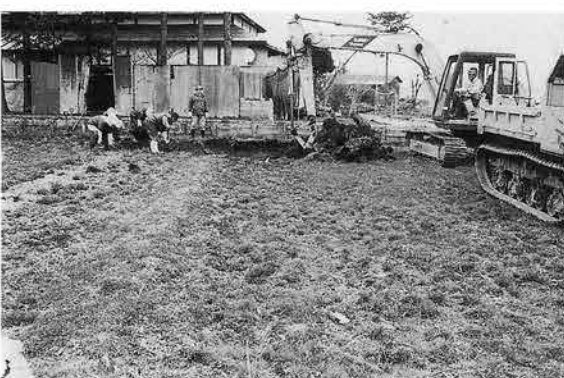
RD1038 土坑平面



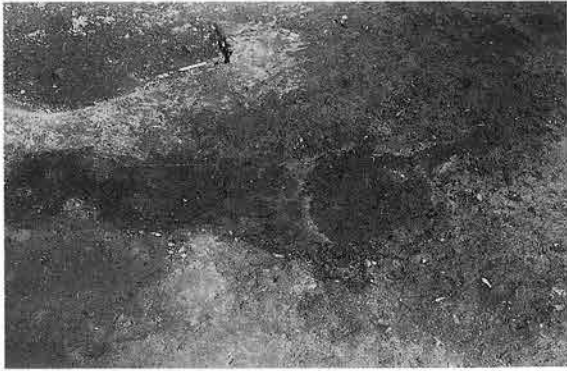
RD1038 土坑断面（東から）



現況（2-D）



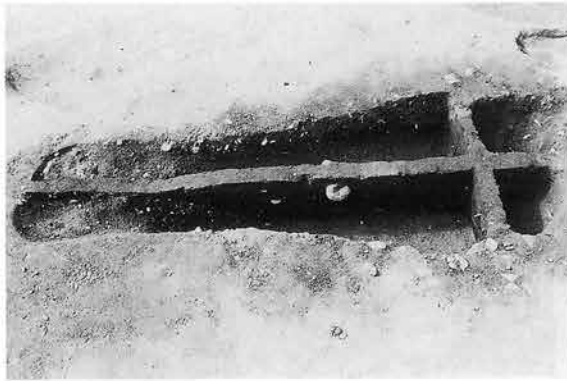
現況（1-C）



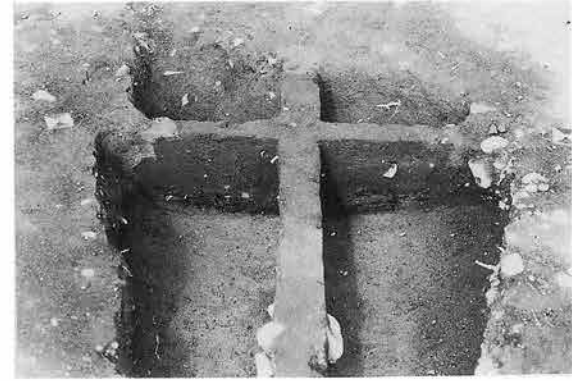
RF024 平面



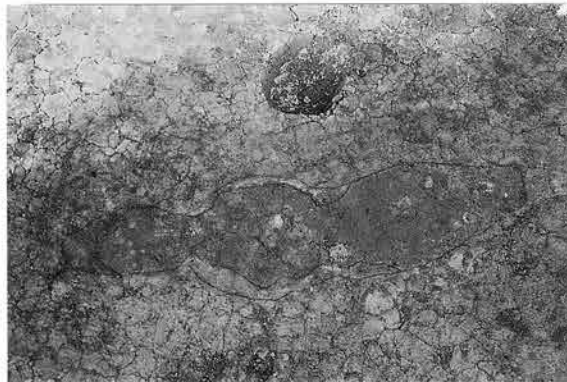
RF024 平面



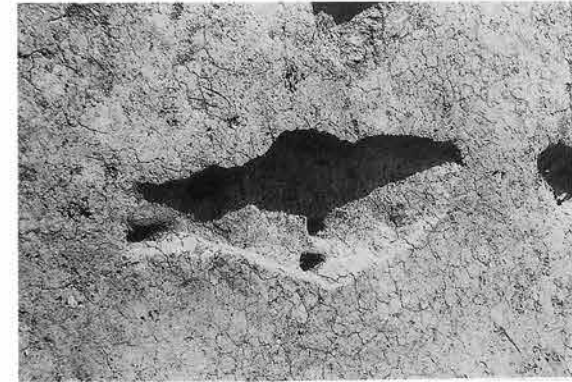
RF024 断面 (南から)



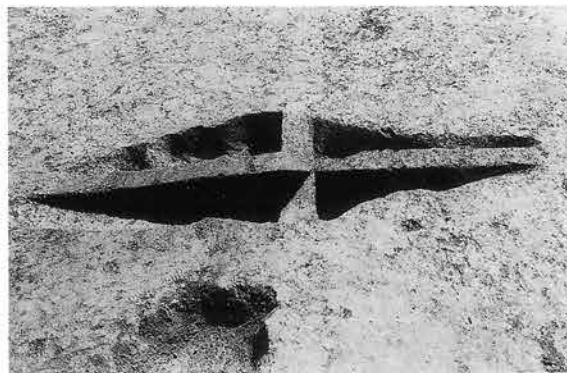
RF024 断面 (西から)



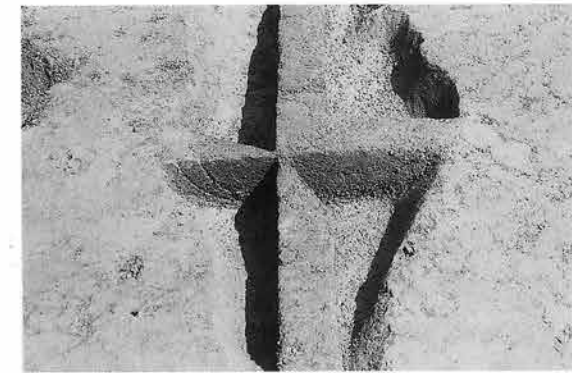
RF052 平面



RF052 平面

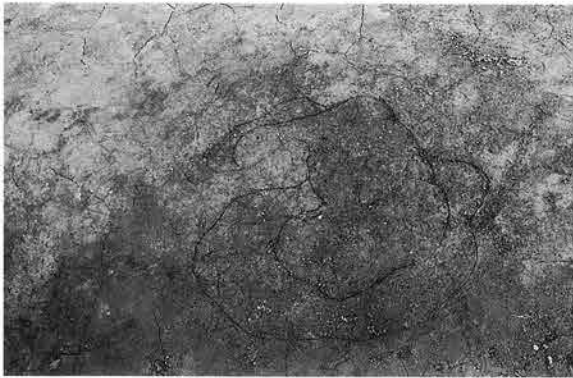


RF052 断面 (西から)

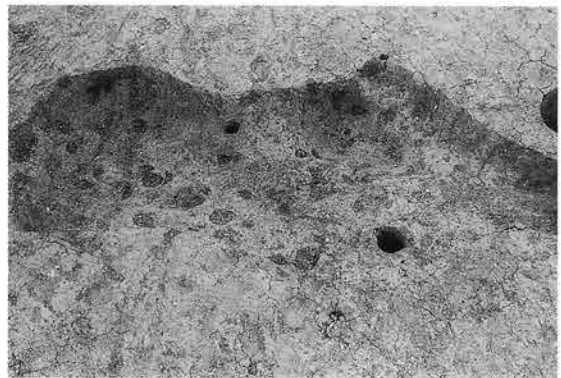


RF052 断面 (南から)

写真図版115 RF024・052 焼土・炉跡



RF053 平面



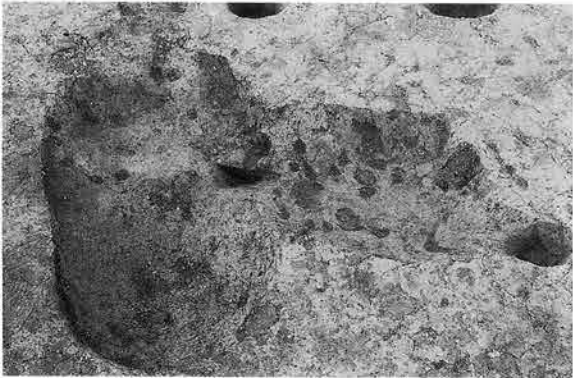
RF054 平面



RF054 断面 (西から)



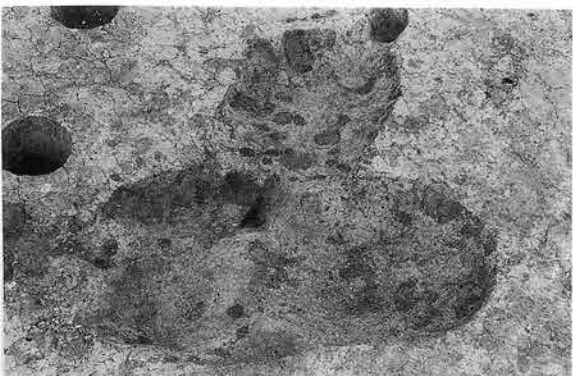
RF054 断面 (南から)



RF055・056 平面



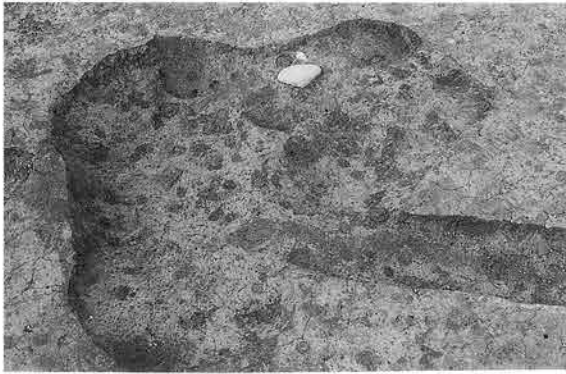
RF055・056 断面 (南から)



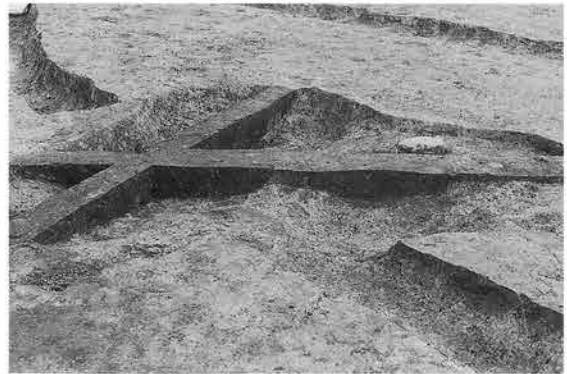
RF055・056 平面



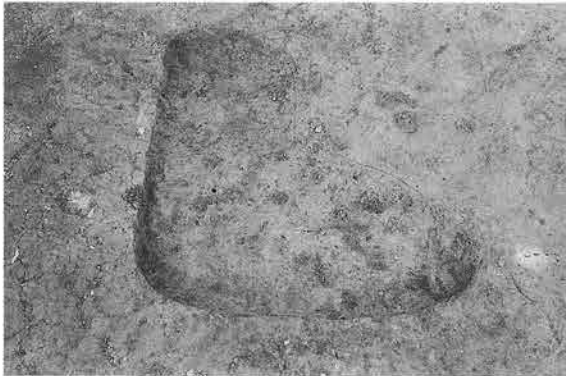
RF055・056 断面 (西から)



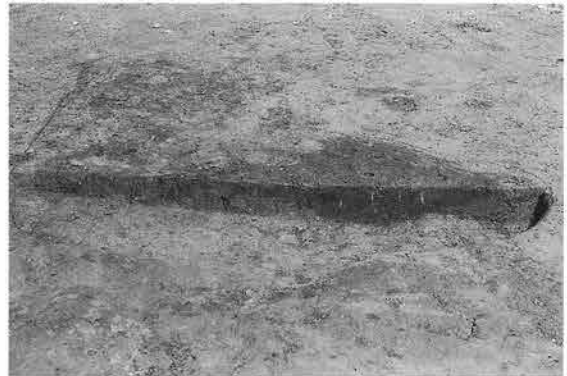
RF057・058 平面



RF057・058 断面（西から）



RF059 平面



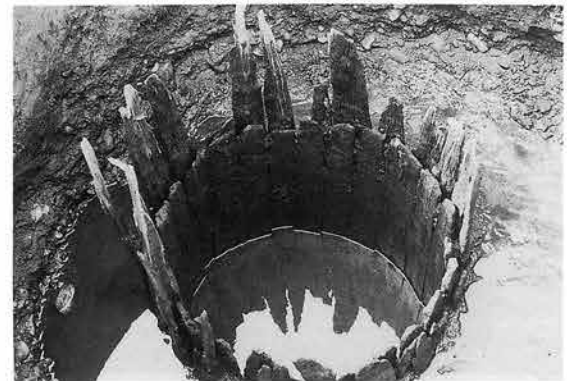
RF059 断面（南から）



RI 011 井戸跡



RI 011 井戸跡



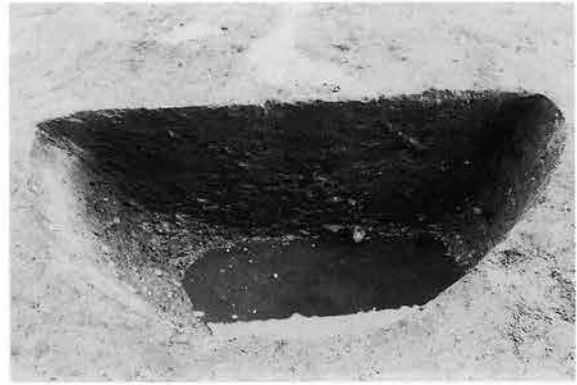
RI 011 井戸跡

写真図版117 RF057～059 焼土・炉跡, RI 011井戸跡

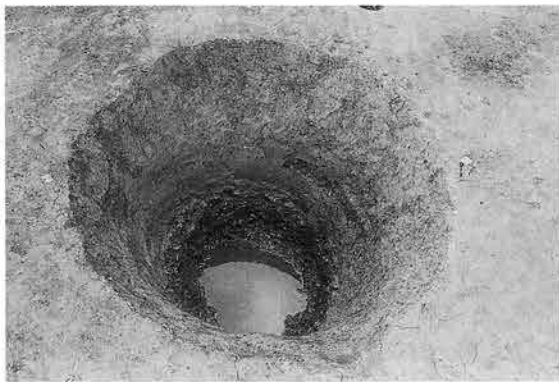




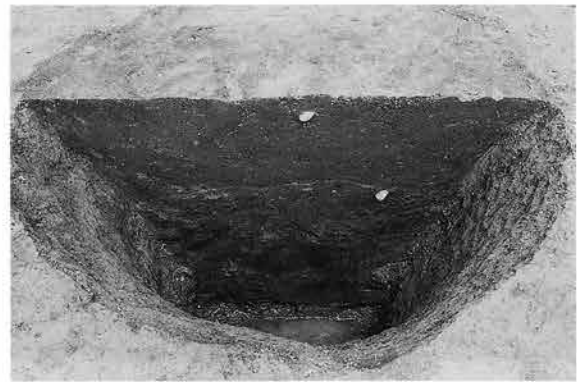
RI 012 井戸跡平面



RI 012 井戸跡断面（北から）



RI 013 井戸跡平面



RI 013 井戸跡断面（南から）



RG045 溝跡平面

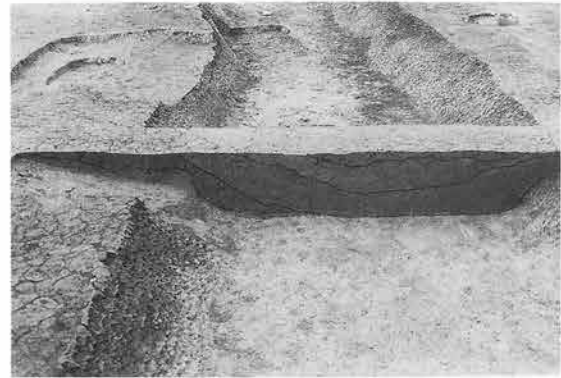
写真図版118 RI 012・013井戸跡, RG045溝跡



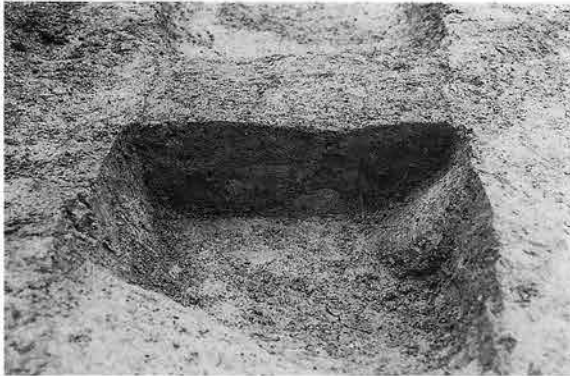
RG045 溝跡平面



RG045 溝跡断面 (南から)



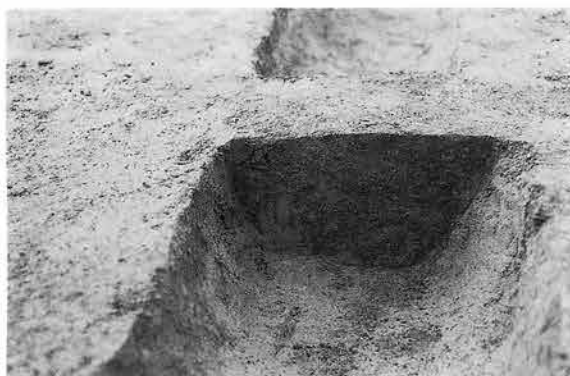
RG045 溝跡断面 (南から)



RG229 溝跡断面 (南から)



RG231 溝跡断面 (南から)



RG235 溝跡断面 (南から)



RG235・352 溝跡断面 (南から)

写真図版119 RG045・229・231・235・352 溝跡



RG073・088 溝跡平面



RG073 溝跡断面 (南から)



RG088 溝跡断面 (西から)



RG170 溝跡平面



RG200 溝跡平面



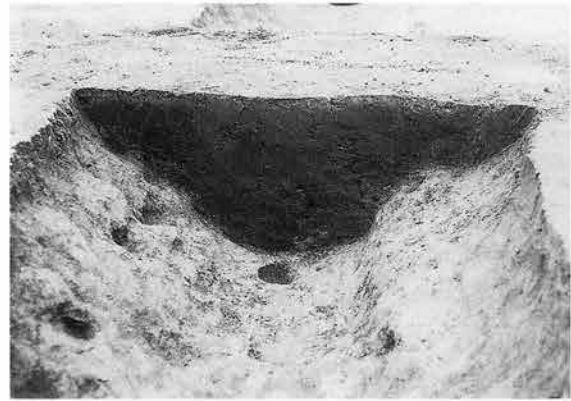
RG170 溝跡断面 (北から)



RG200 溝跡断面 (西から)



RG223 溝跡平面



RG223 溝跡断面 (南から)



RG224 溝跡断面 (南から)



RG224 溝跡平面



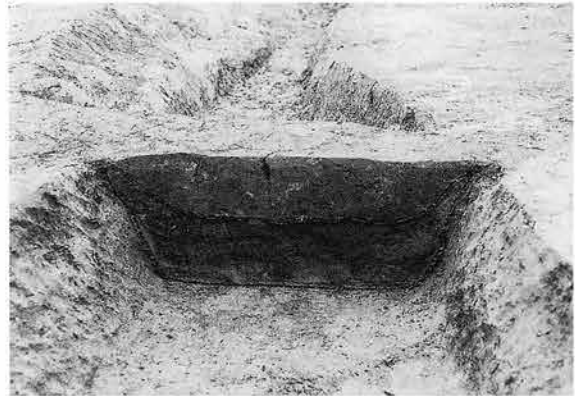
RG228 溝跡平面



RG228 溝跡断面 (西から)



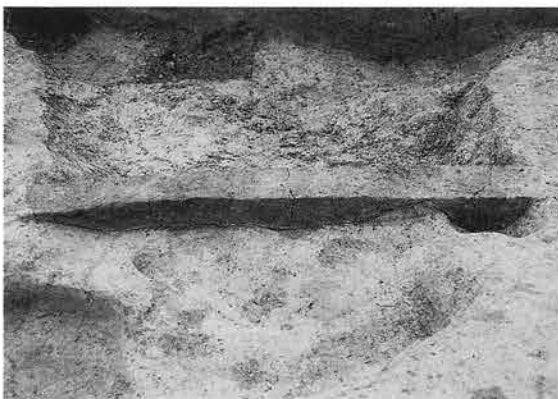
RG242・321・322 溝跡平面



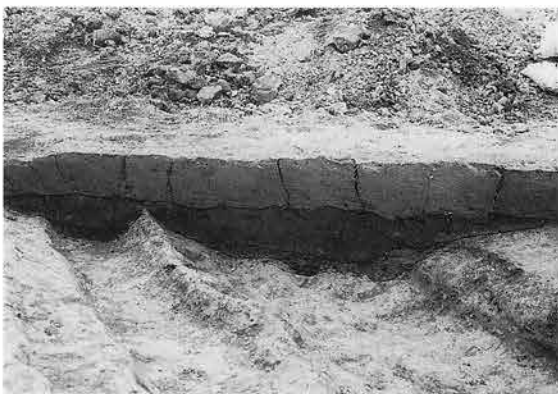
RG242 溝跡断面 (東から)



RG321 溝跡断面 (南から)



RG322 溝跡断面 (南から)



RG319・323 溝跡断面 (東から)



RG319・323 溝跡平面



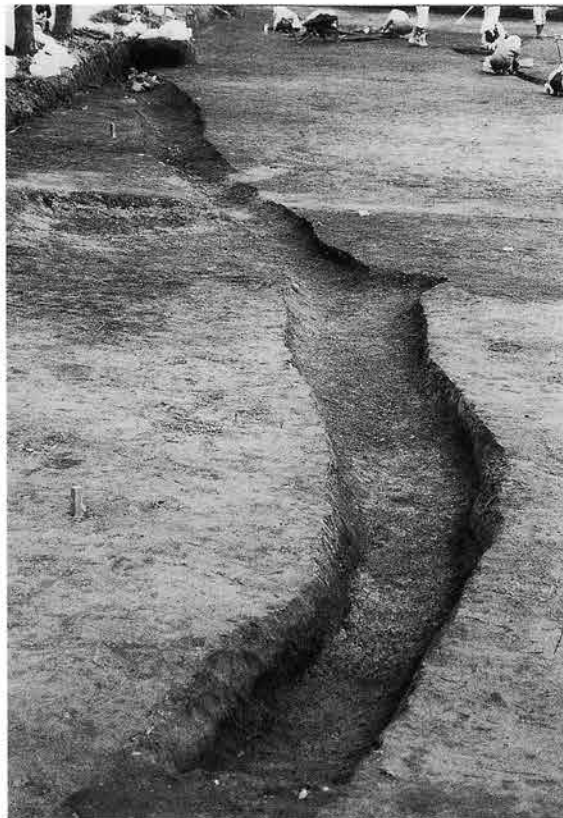
RG307 溝跡平面



RG307 溝跡断面 (東から)



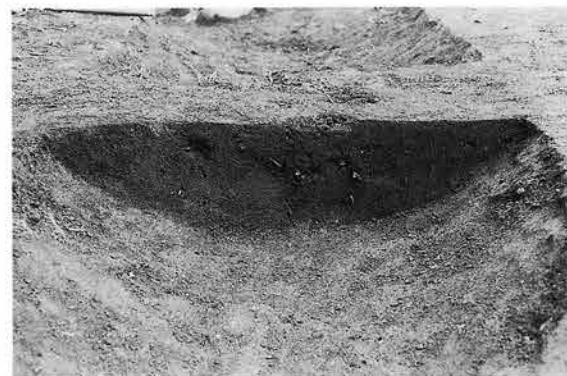
RG315 溝跡平面



RG318 溝跡平面



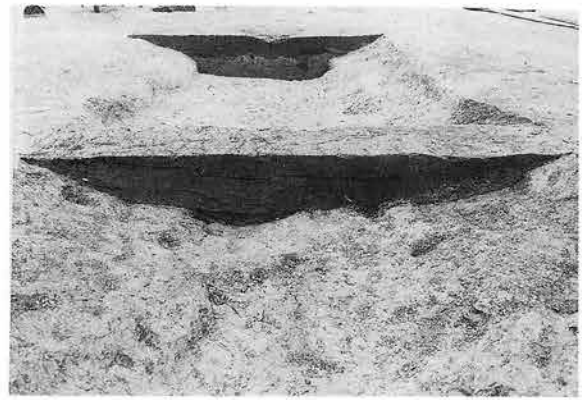
RG315 溝跡断面 (南から)



RG318 溝跡断面 (南西から)



RG320 溝跡平面



RG320 溝跡断面 (西から)



RG325 溝跡平面



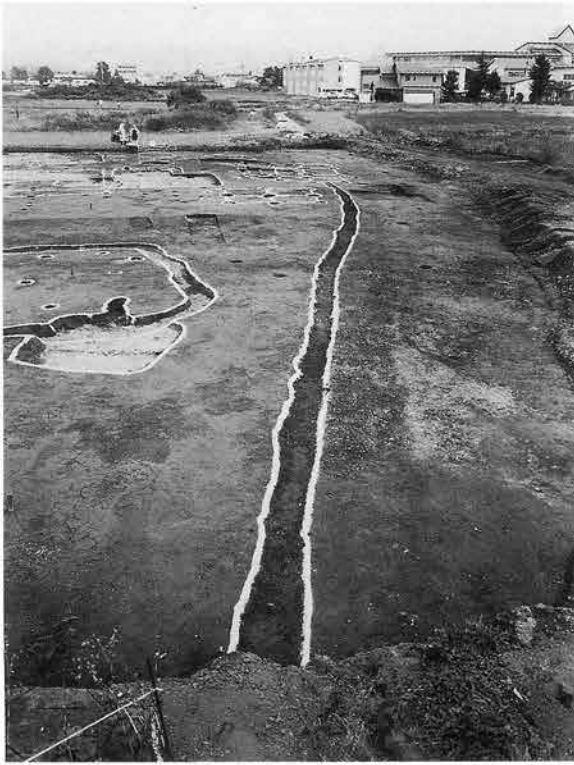
RG325 溝跡断面 (南から)



RG324・327 溝跡断面 (北から)



RG324・327 溝跡平面



RG328 溝跡平面



RG326 溝跡断面 (西から)



RG329 溝跡平面



RG329 溝跡断面 (東から)



RG331 溝跡断面 (西から)



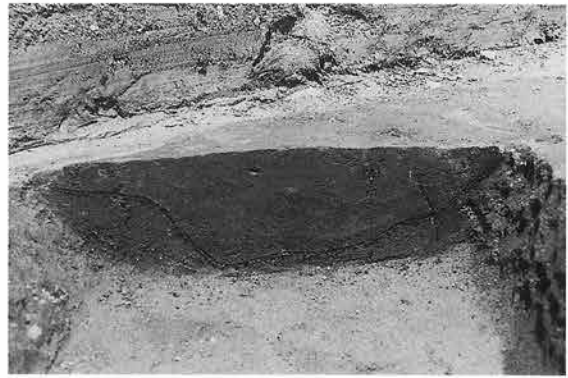
RG332 溝跡断面 (西から)

写真図版125 RG326・328・329・331・332 溝跡





RG331~336・338 溝跡平面



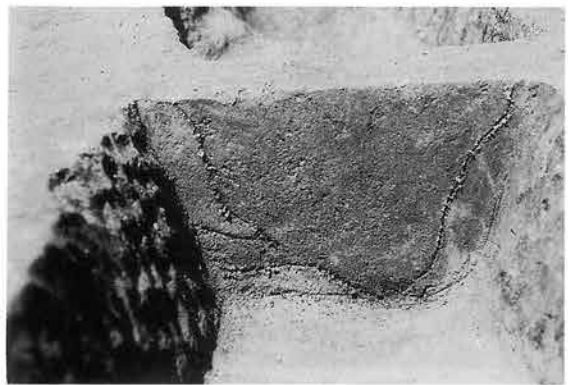
RG333 溝跡断面 (南から)



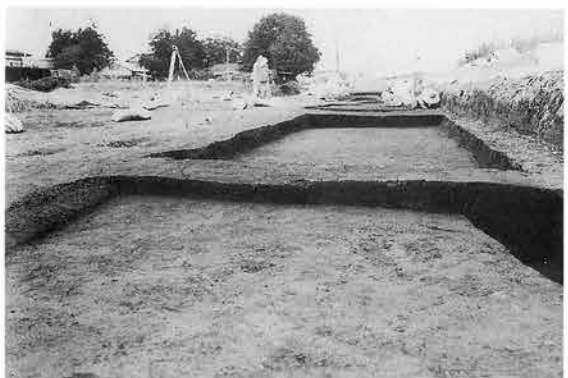
RG334 溝跡断面 (南から)



RG331~336・338 溝跡平面



RG335 溝跡断面 (北東から)



RG336 溝跡断面 (東から)



RG341 溝跡平面



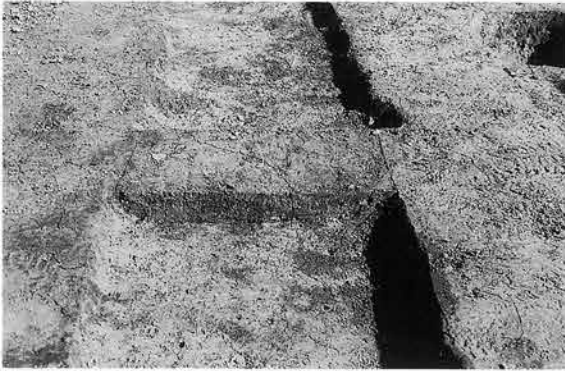
RG342 溝跡平面



RG339・340・354～358 溝跡平面



RG339・340・354～358 溝跡平面



RG354 溝跡断面 (西から)



RG355 溝跡断面 (西から)



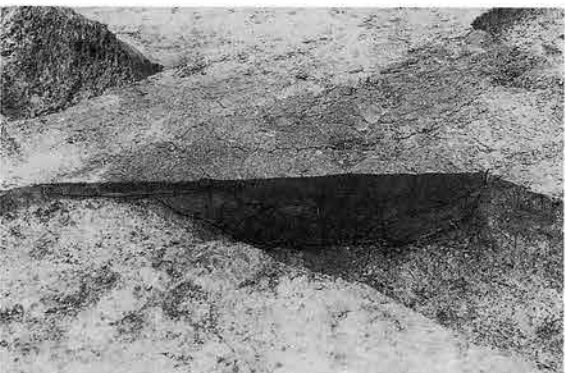
RG356 溝跡断面 (西から)



RG357 溝跡断面 (東から)



RG358 溝跡断面 (東から)



RG340・351 溝跡断面 (南東から)



RG340・351 溝跡平面



RZ023 性格不明遺構平面



RZ023 性格不明遺構平面



断面（西から）



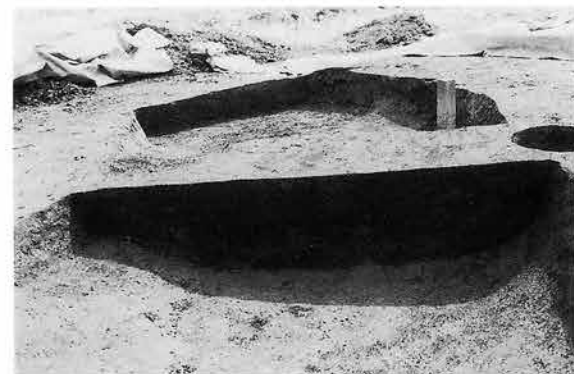
断面（西から）



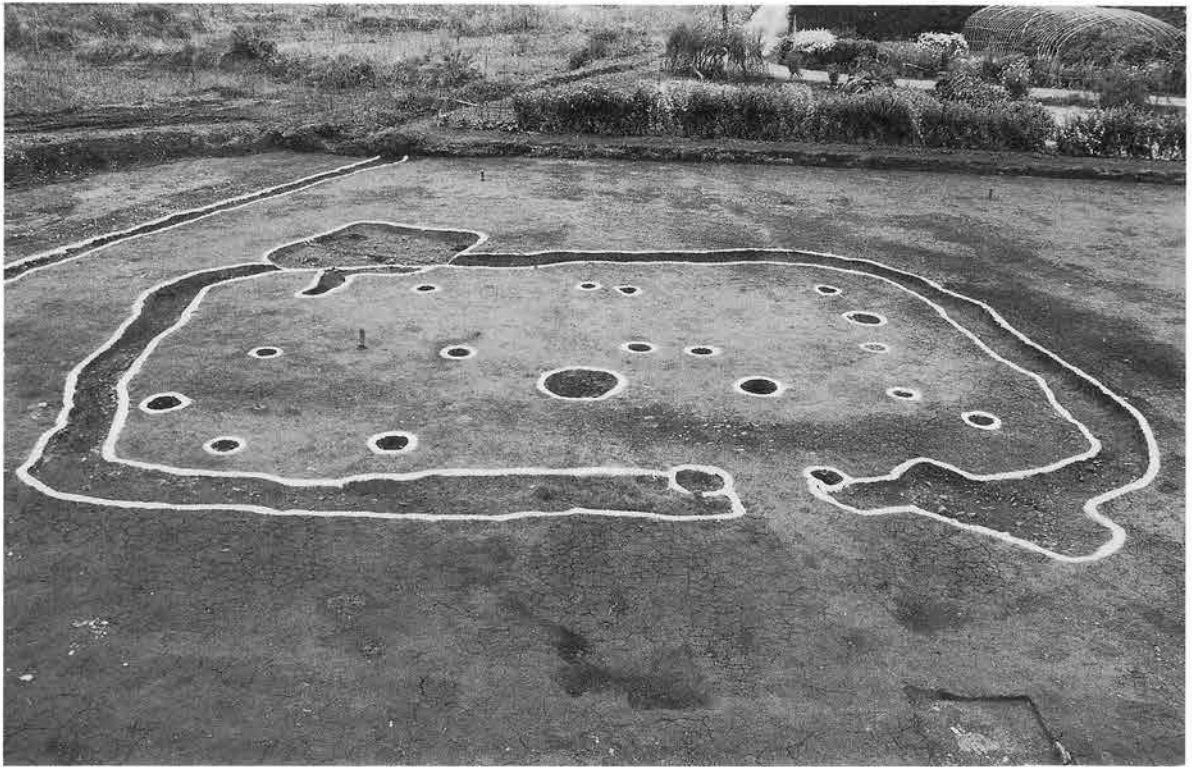
RZ028 円形周溝跡平面



断面（北から）



断面（東から）



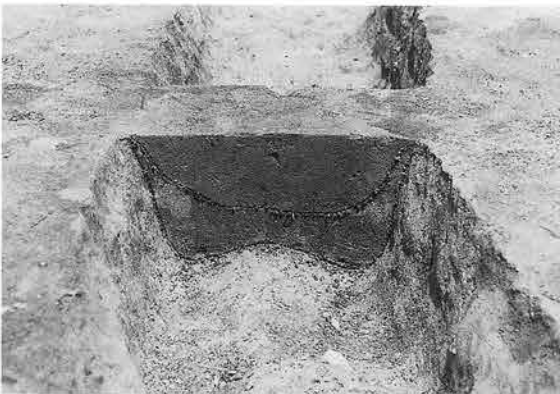
RZ027 方形周溝跡平面



断面（東から）



断面（西から）



断面（南から）

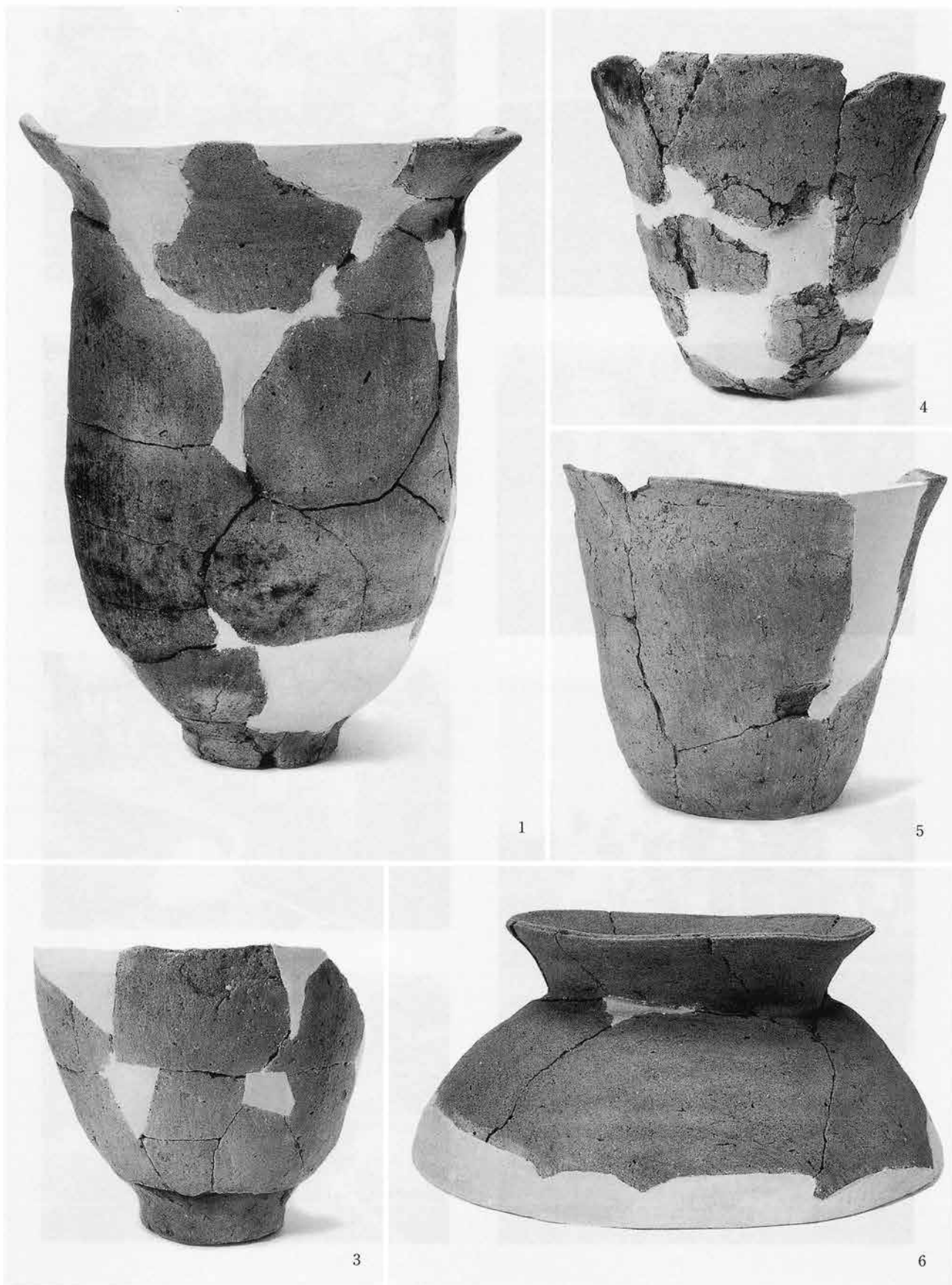


断面（南から）

写真図版130 RZ027 方形周溝跡

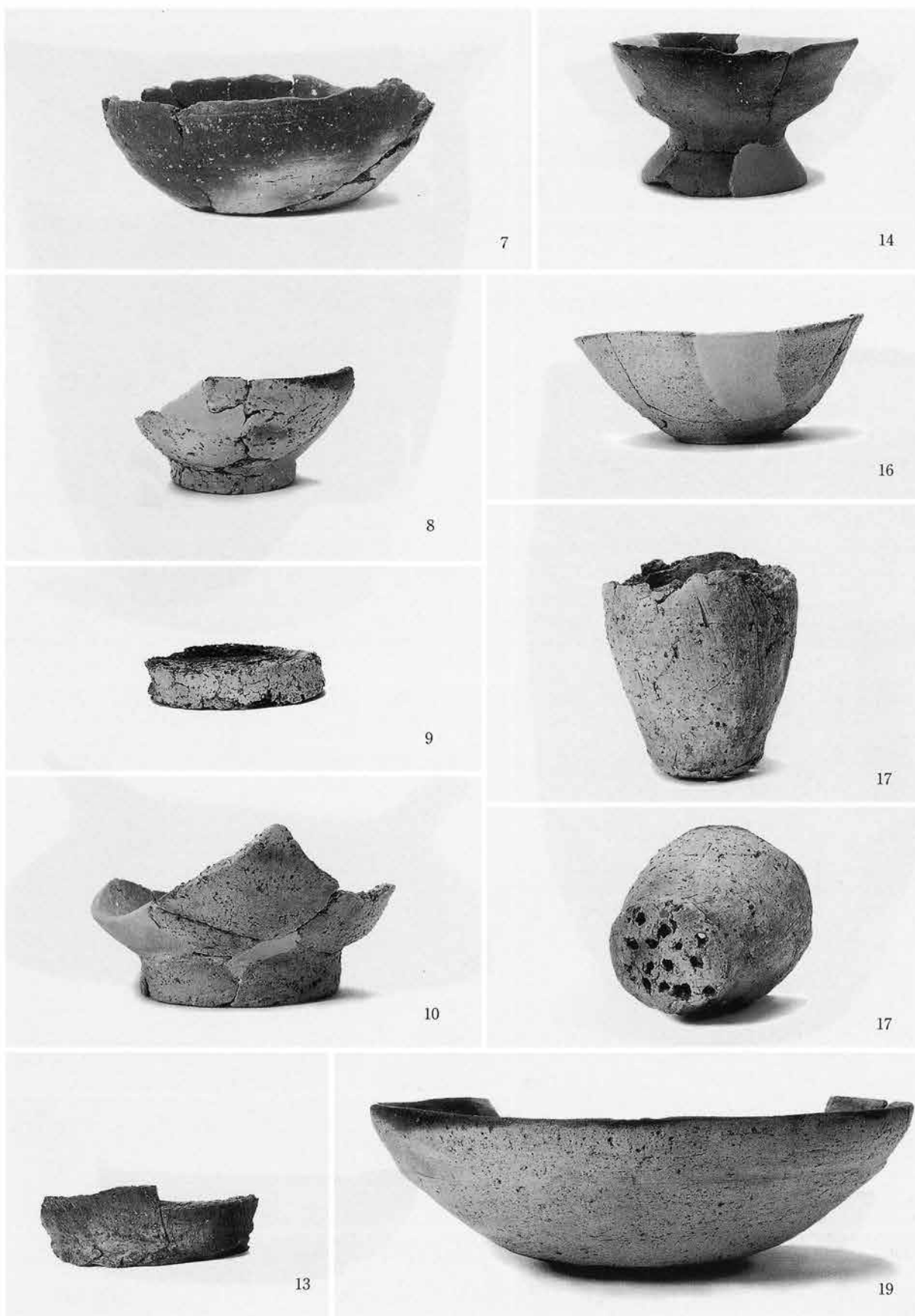


写真図版131 現地説明会



写真図版132 土師器・須恵器(1)

2:5



写真図版133 土師器・須恵器(2)

2:5

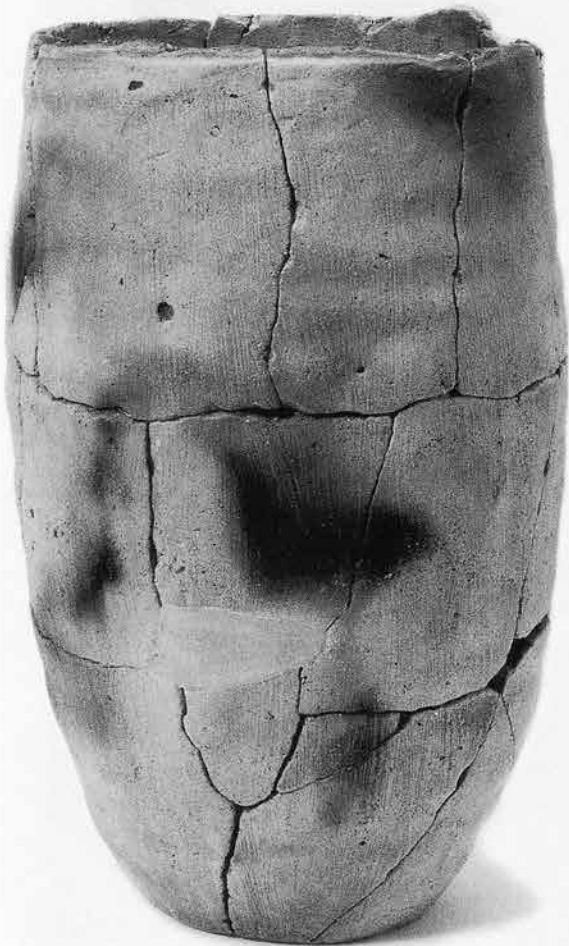




21



24



23



25



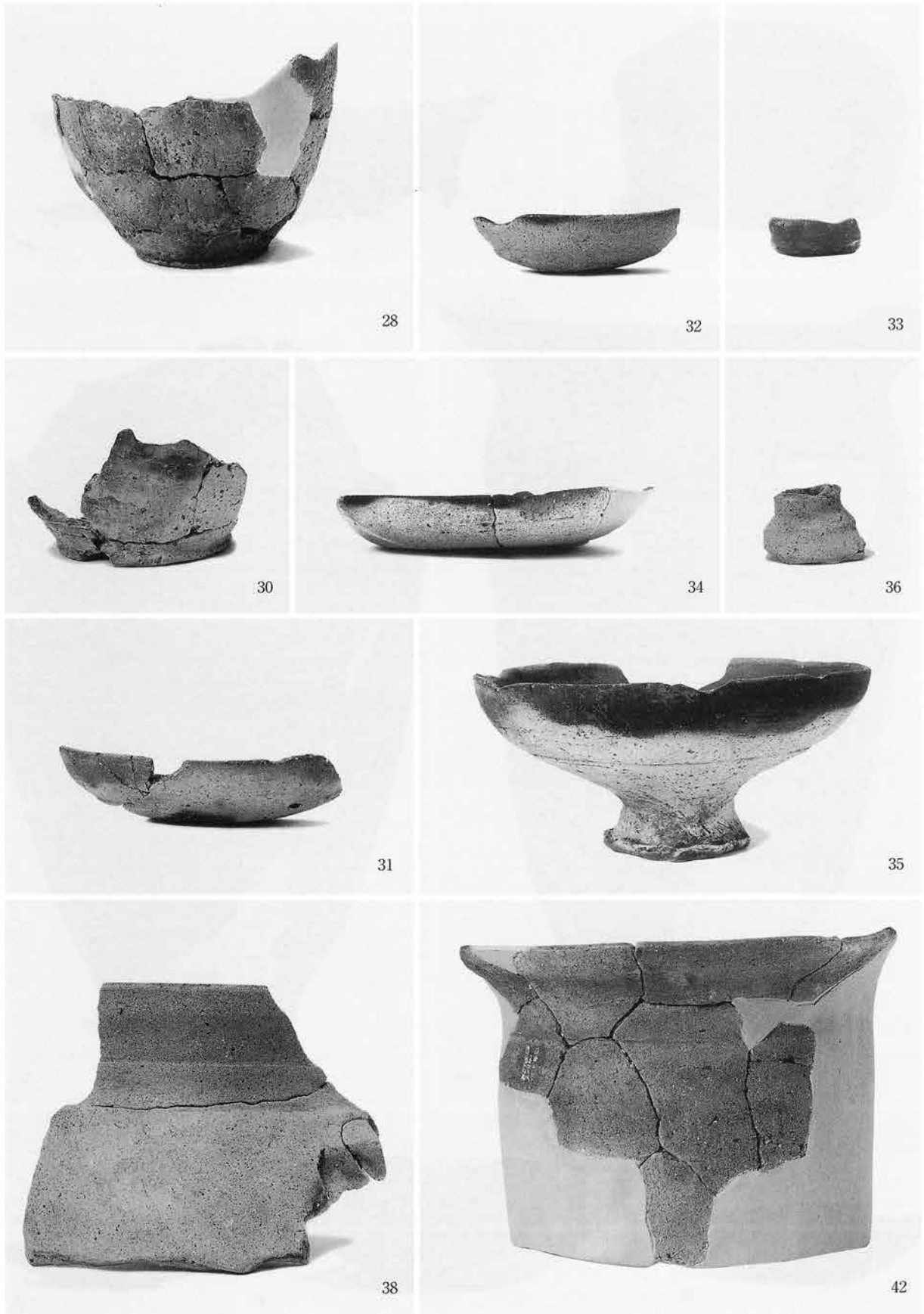
26



27

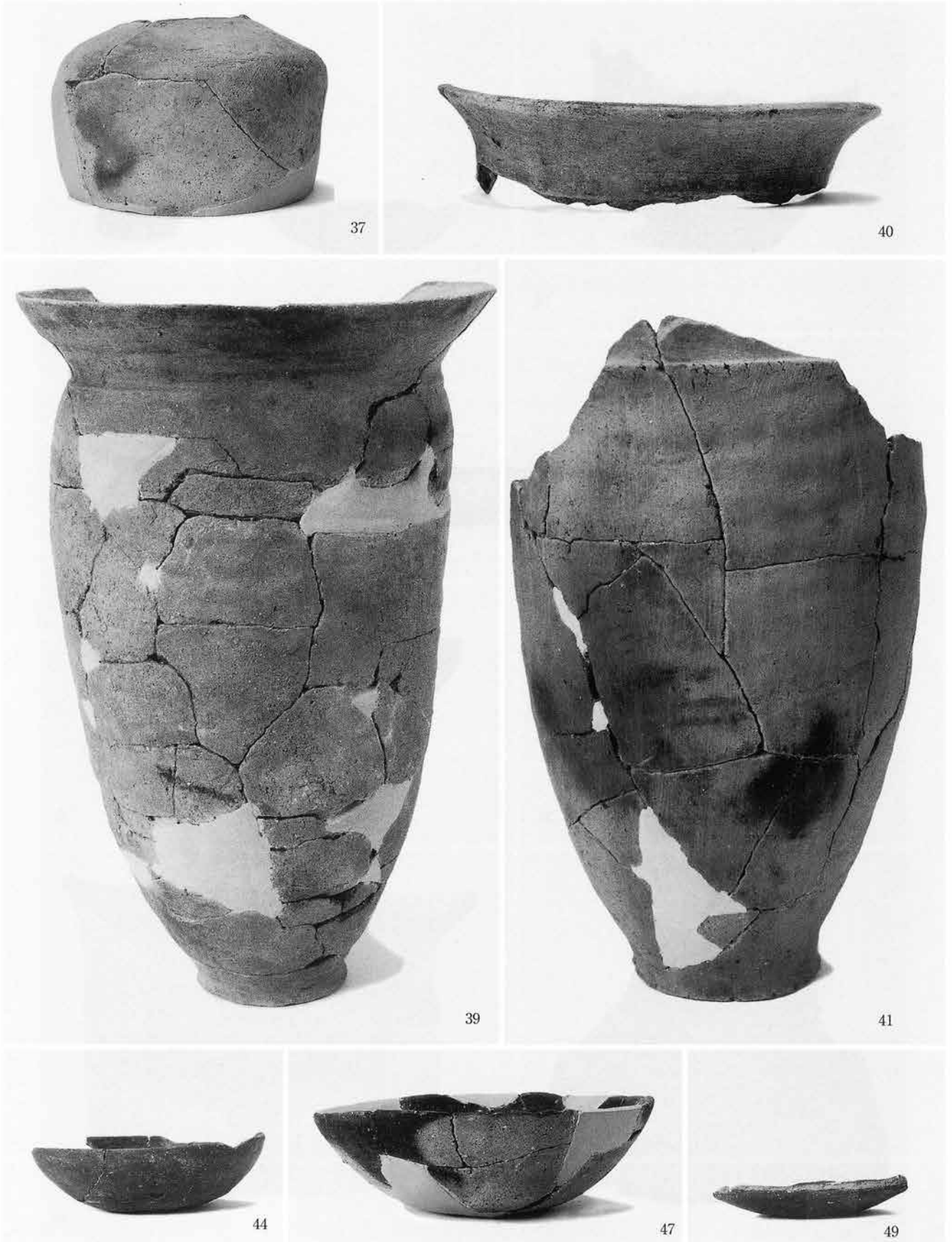
2:5

写真図版134 土師器・須恵器(3)



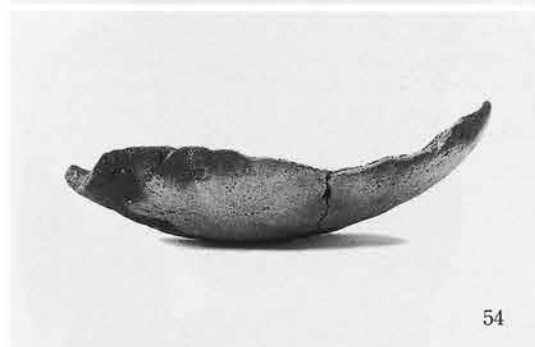
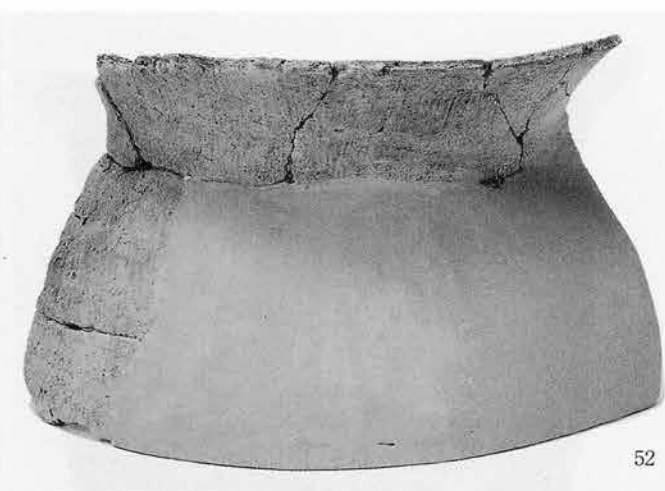
写真図版135 土師器・須恵器(4)

2:5



写真図版136 土師器・須恵器(5)

2:5



2:5

写真図版137 土師器・須恵器(6)



写真図版138 土師器・須恵器(7)

2:5



61



66



67



68



69



63



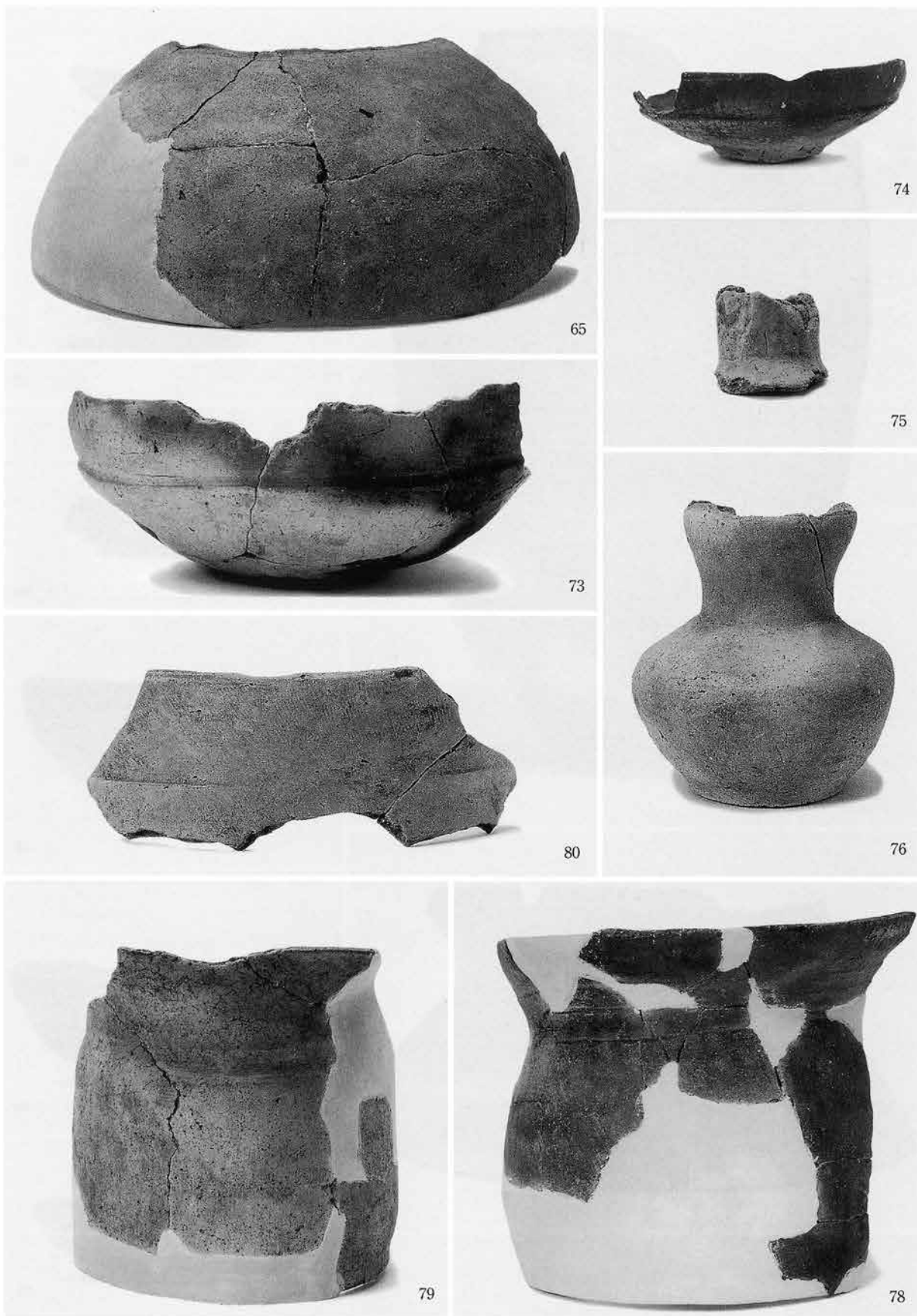
70



71

2 : 5

写真図版139 土師器・須恵器(8)



写真図版140 土師器・須恵器(9)

2:5



81



82



83

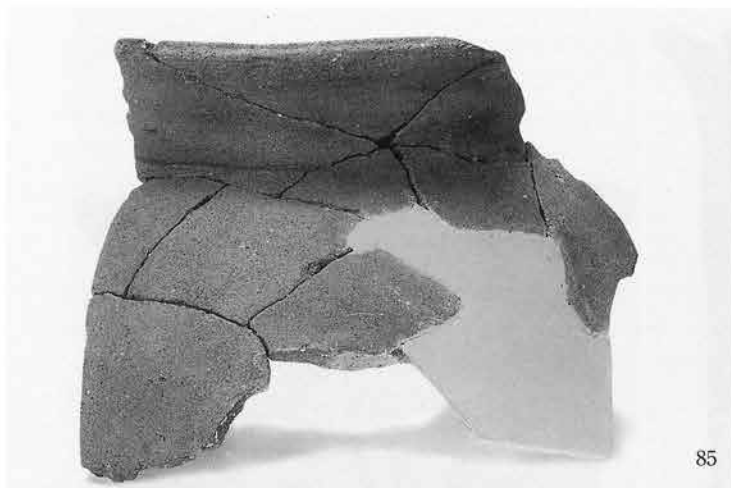


84

2:5

写真図版141 土師器・須恵器(10)





85



90



86



91



92



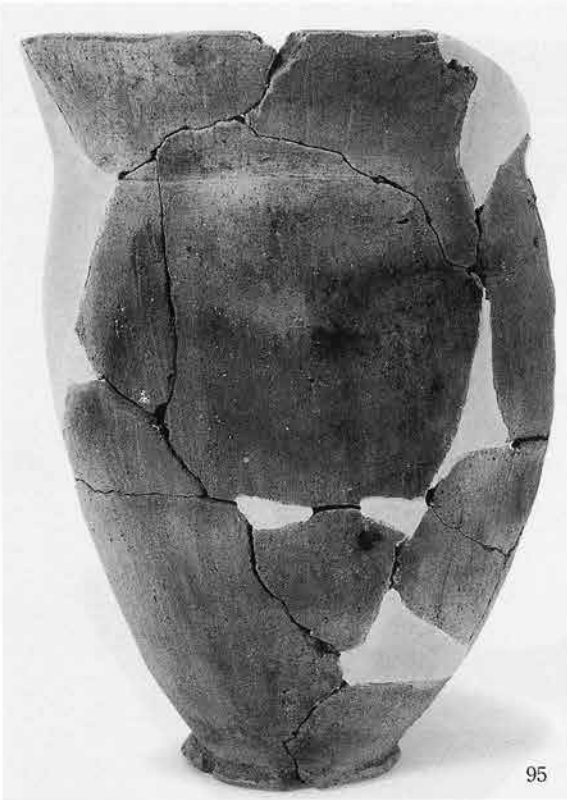
89



94

2:5

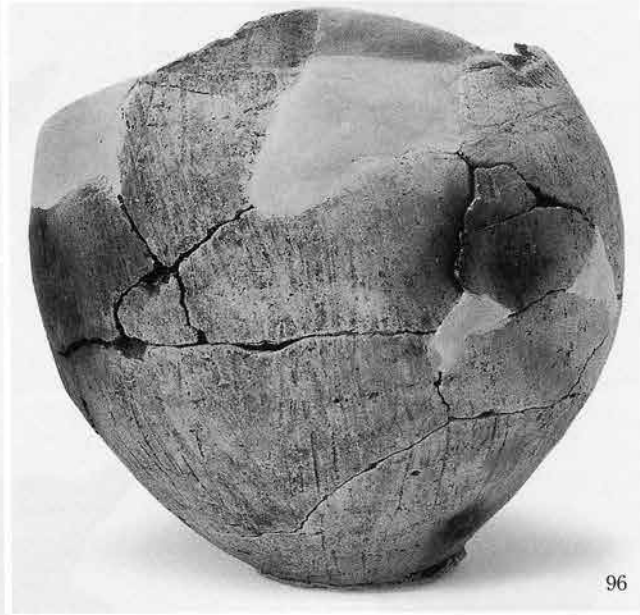
写真図版142 土師器・須恵器(11)



95



93



96



99



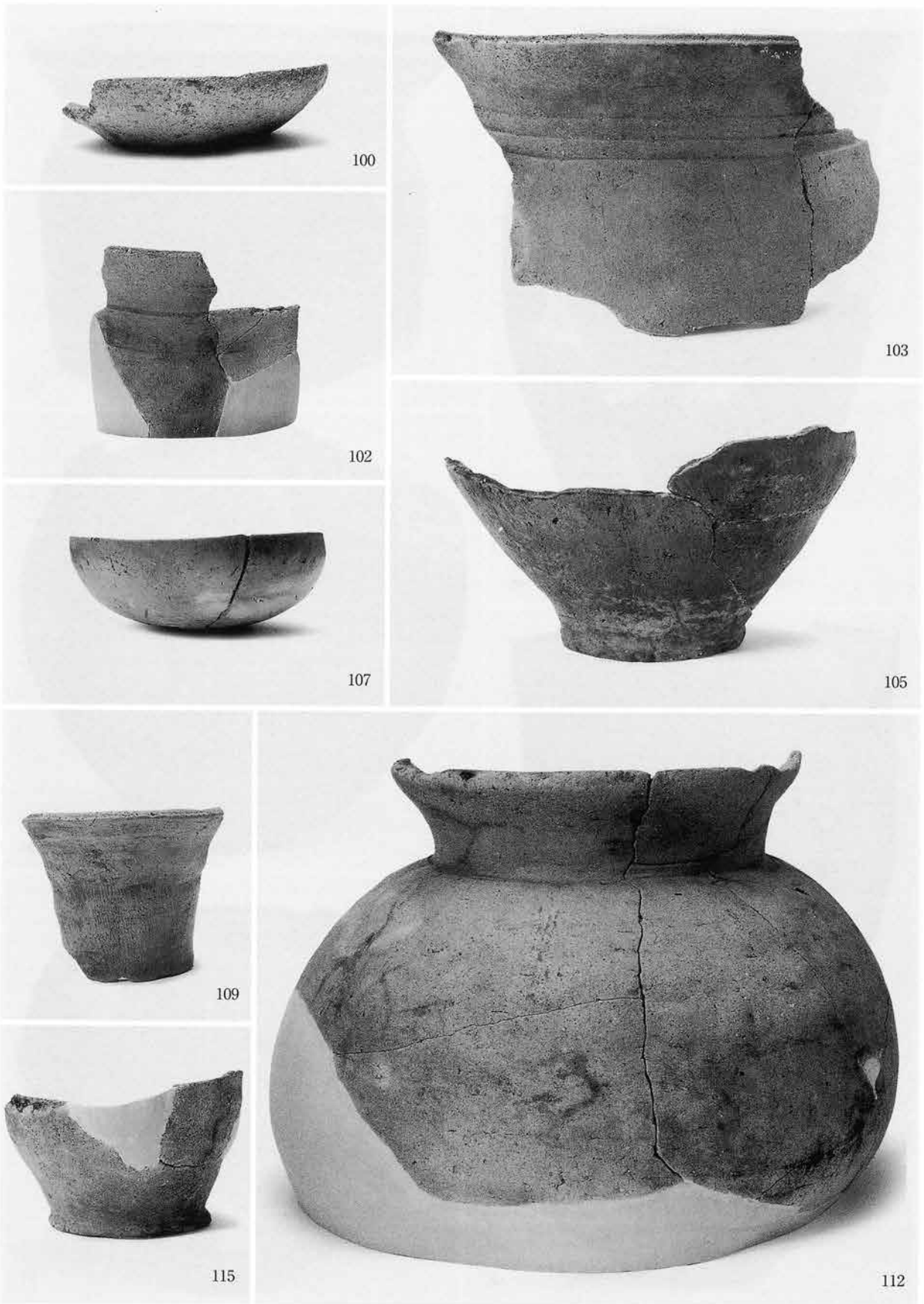
98



97

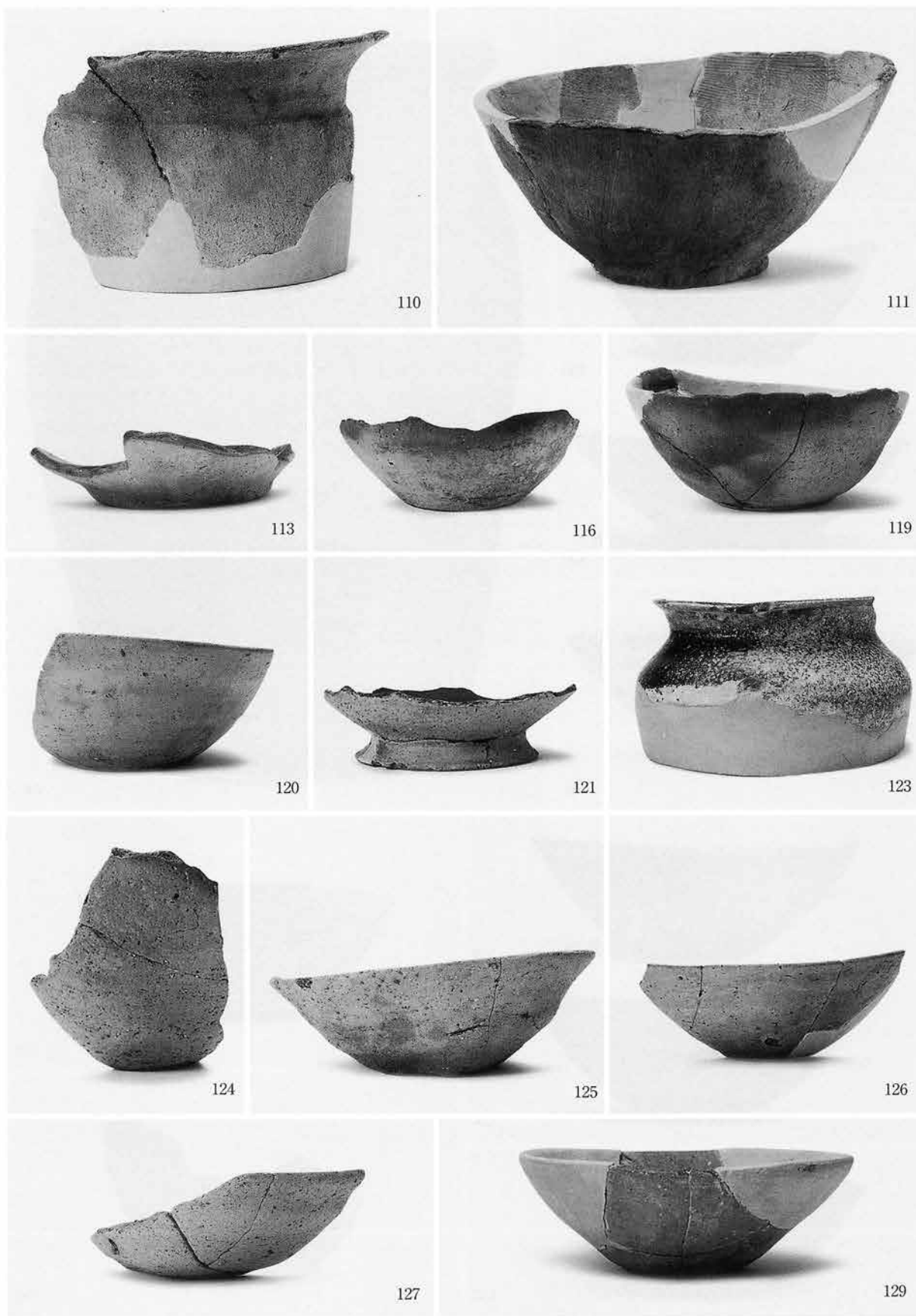
2:5

写真図版143 土師器・須恵器(12)



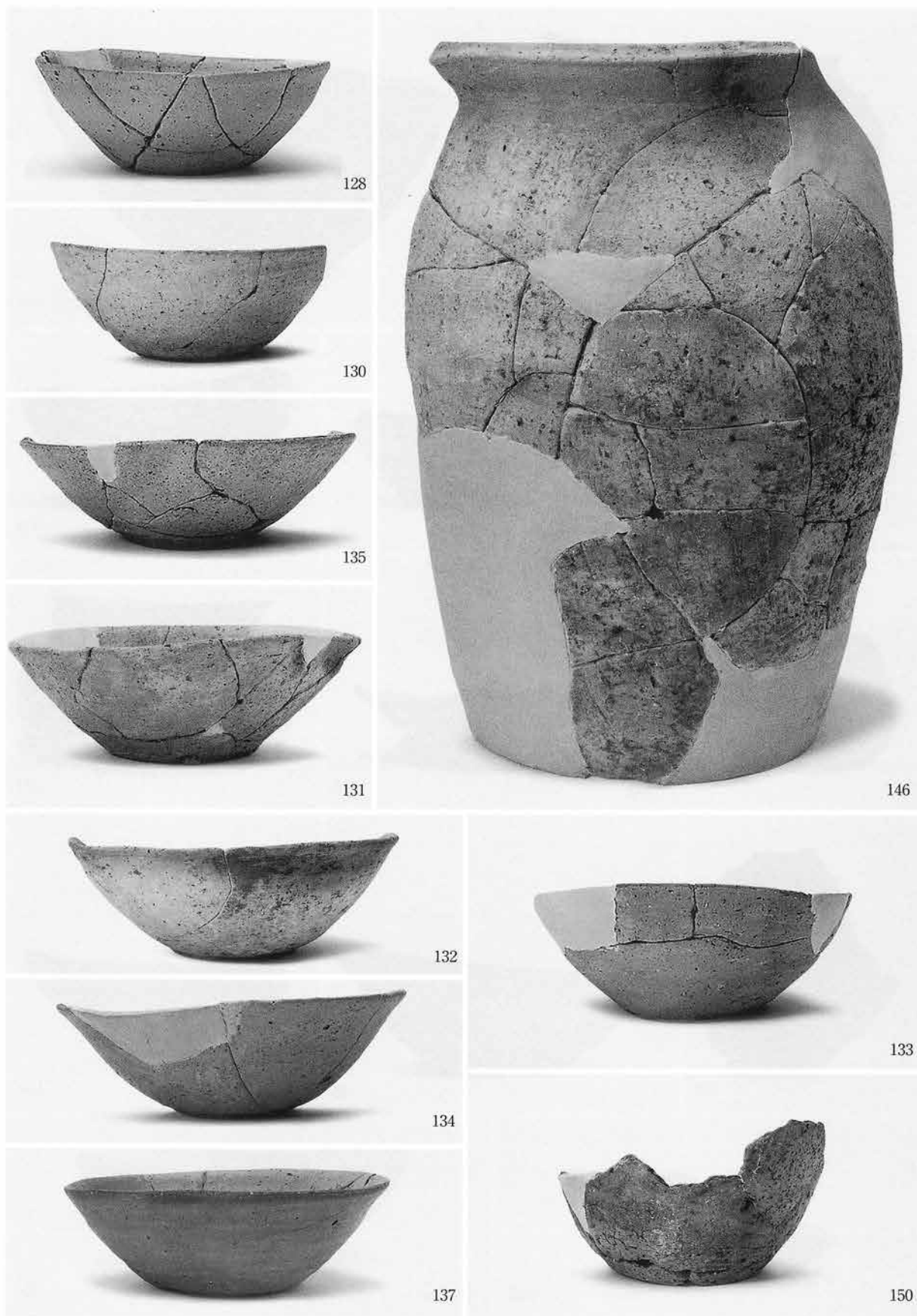
写真図版144 土師器・須恵器(13)

2:5



写真図版145 土師器・須恵器(14)

2:5



写真図版146 土師器・須恵器(15)

2:5



138



139



140



144



151



153



136



141



142



145



147

2 : 5

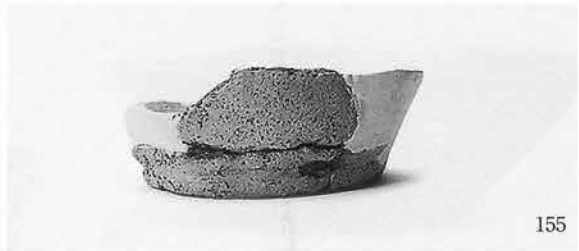
写真図版147 土師器・須恵器(16)



148



154



155



156



157



161



163



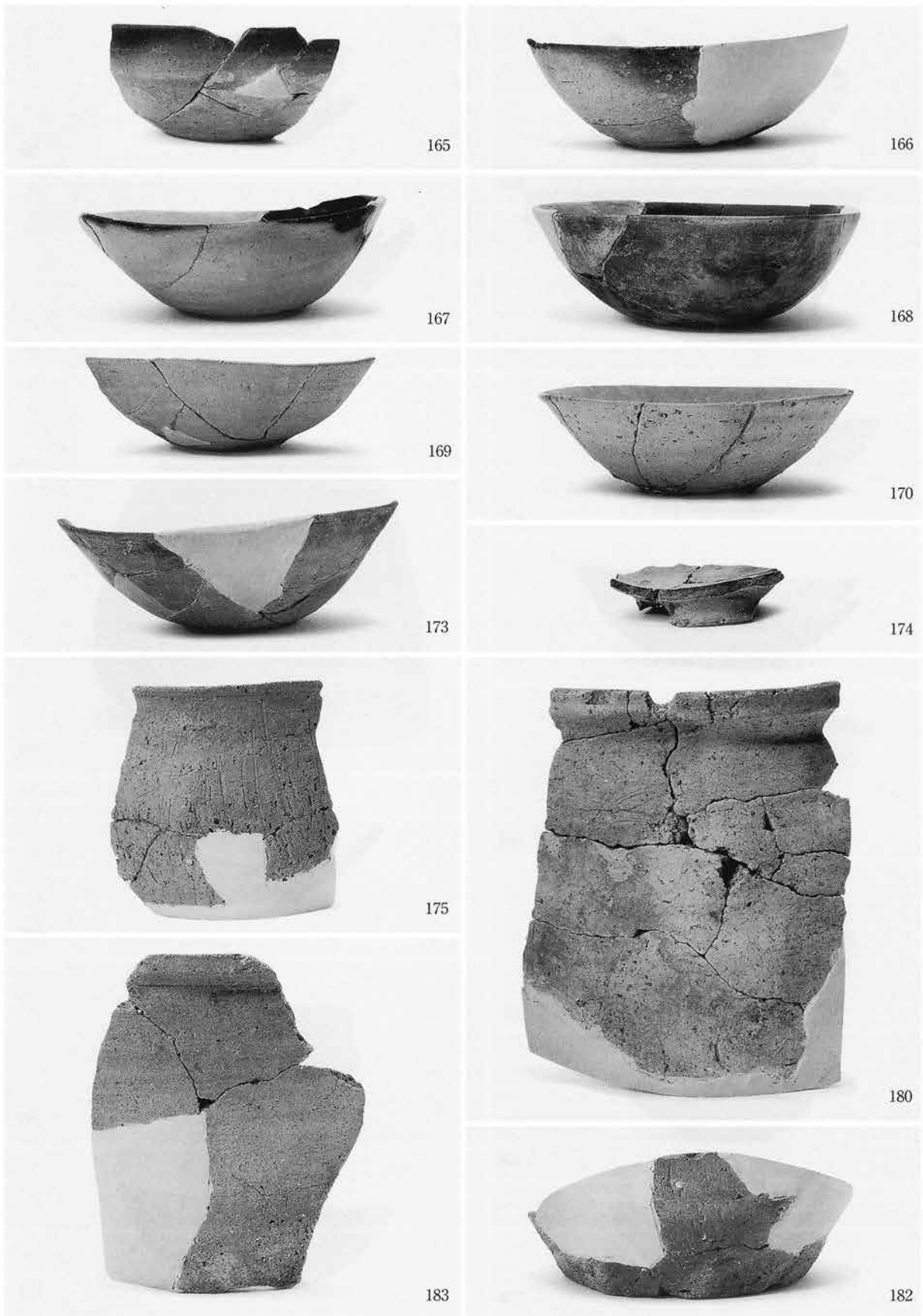
162



164

写真図版148 土師器・須恵器(17)

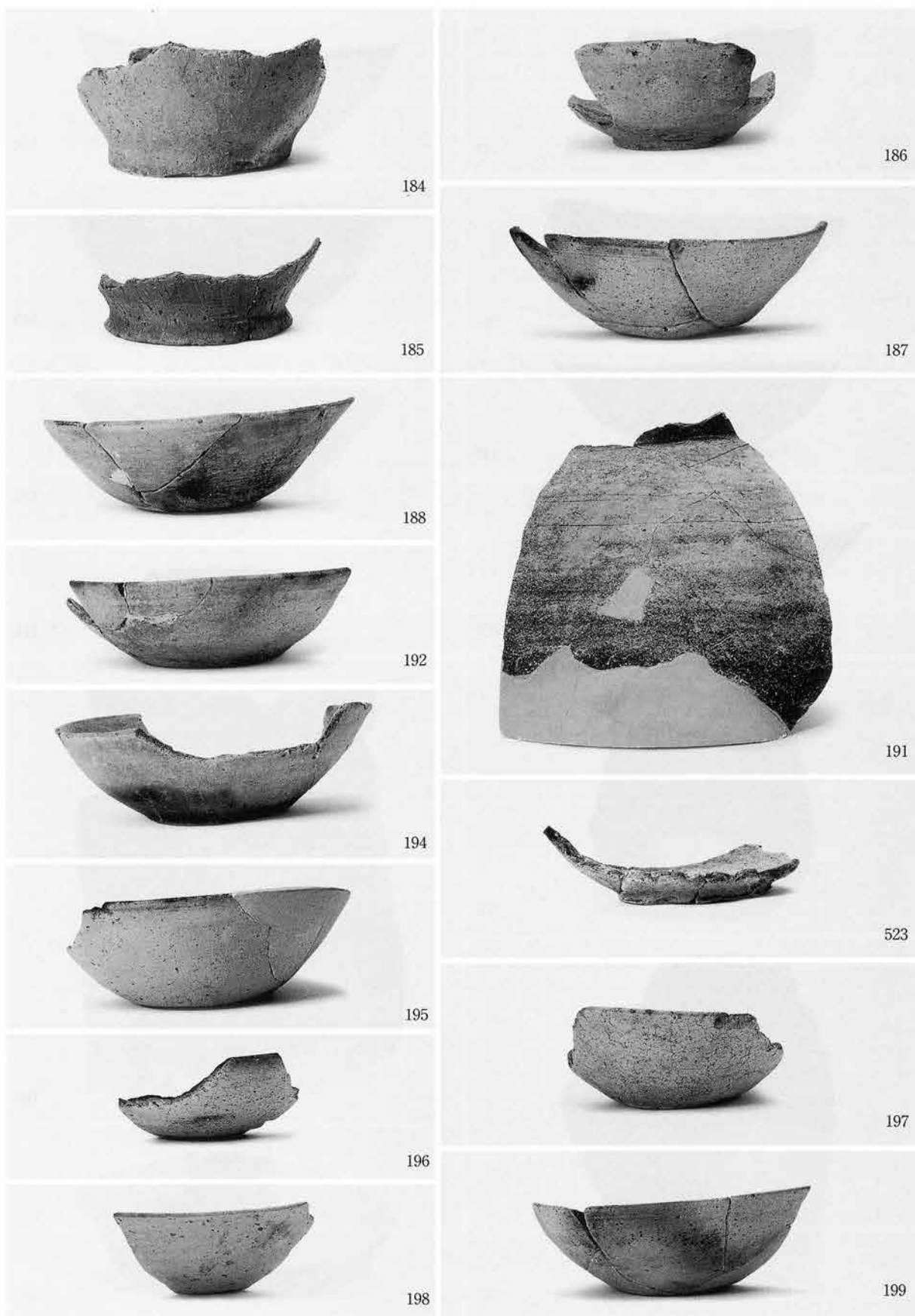
2:5



写真図版149 土師器・須恵器(18)

2:5





写真図版150 土師器・須恵器(19)

2 : 5



200



205



211



212



214



201



215

2:5

写真図版151 土師器・須恵器(20)



218



223



224



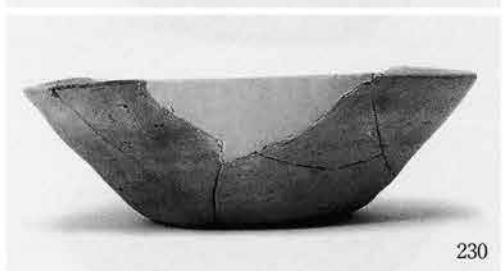
227



228



229



230



231



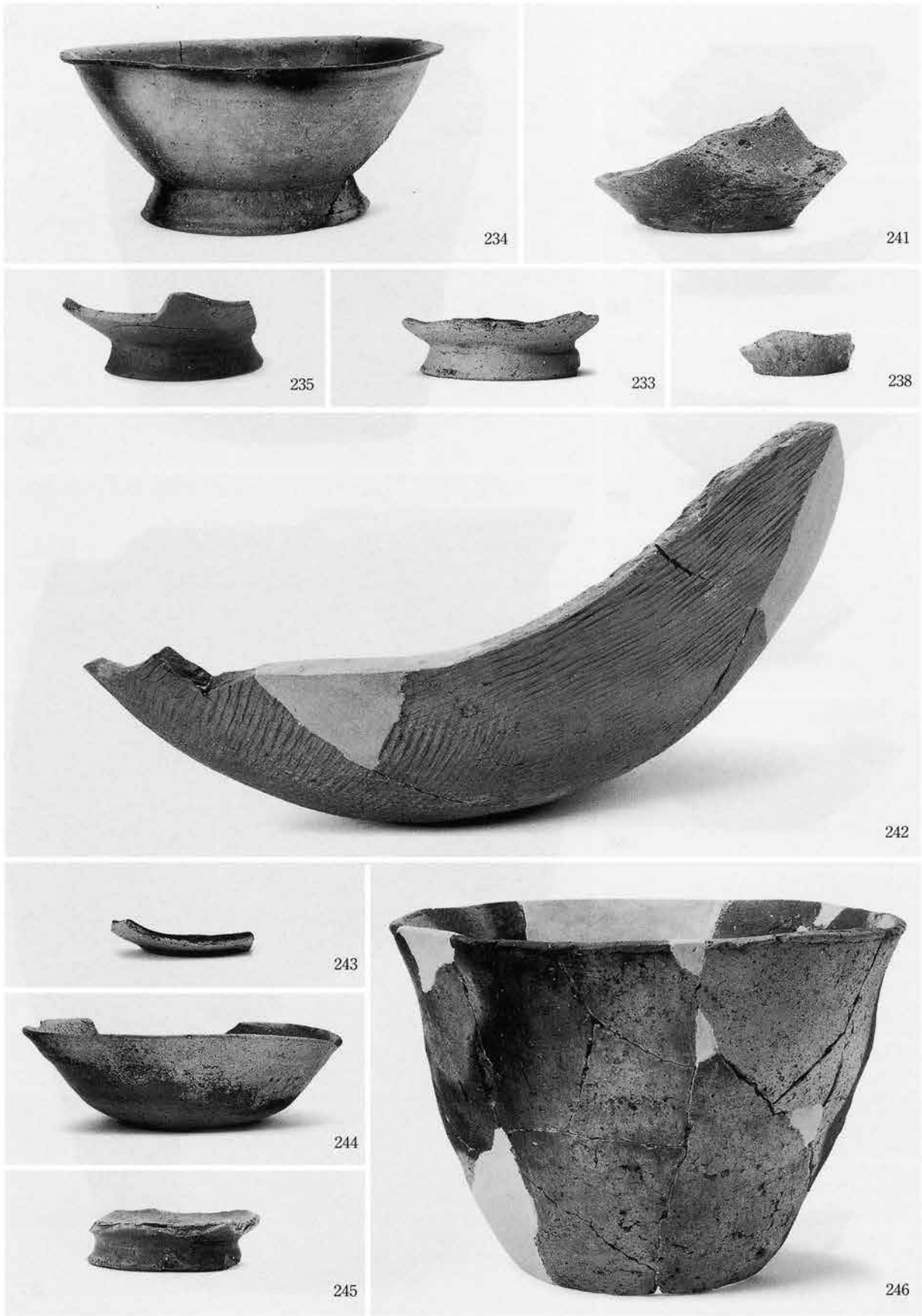
232



219

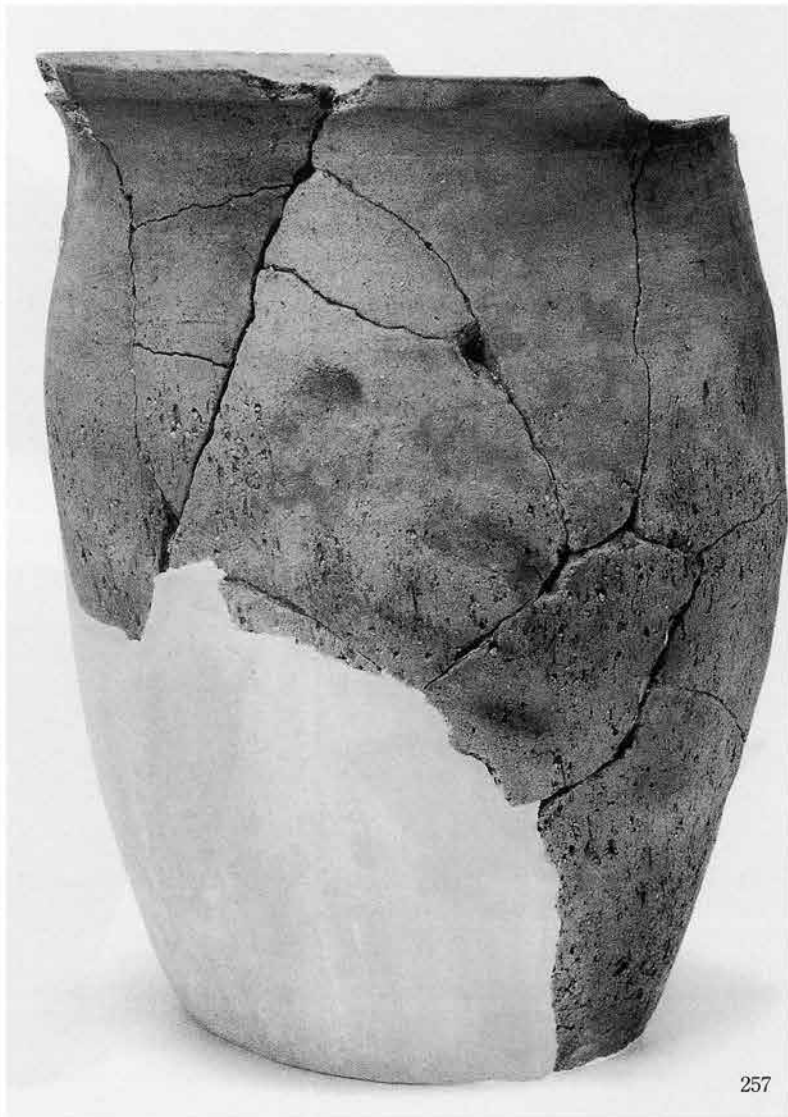
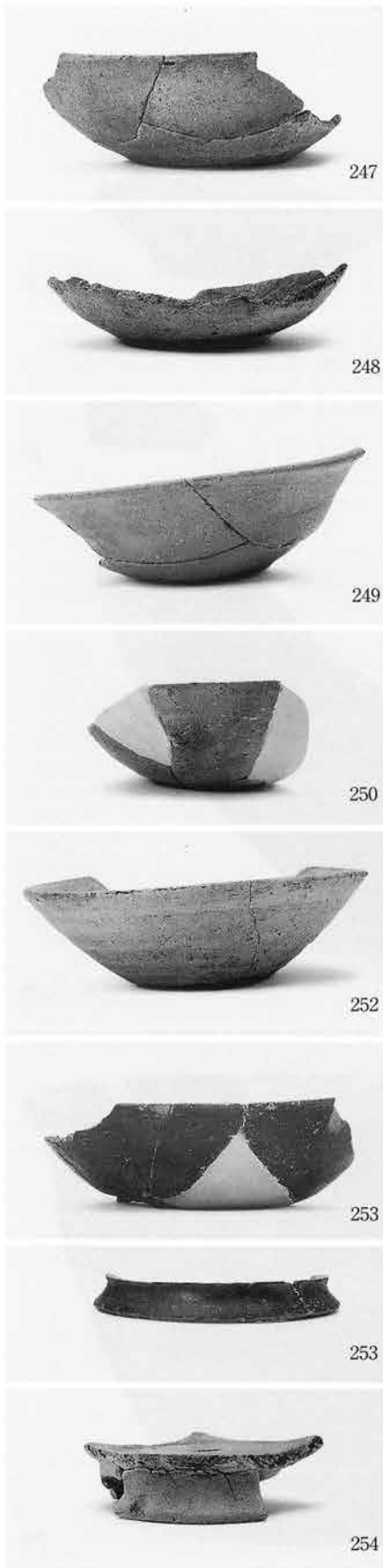
2 : 5

写真図版152 土師器・須恵器 (21)



2 : 5

写真図版153 土師器・須恵器(22)



写真図版154 土師器・須恵器 (23)

2 : 5



258



261



260



263



264



265



266



267

2 : 5

写真図版155 土師器・須恵器(24)



268



269



270



271



272



273



275



277



278



279

2 : 5

写真図版156 土師器・須恵器 (25)



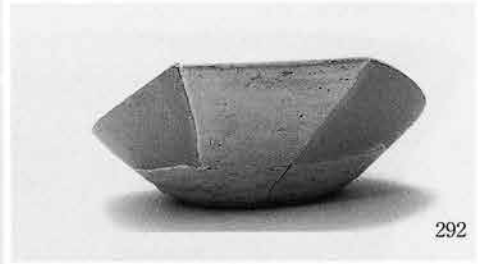
274



284



285



292



293



295



288



294

2 : 5

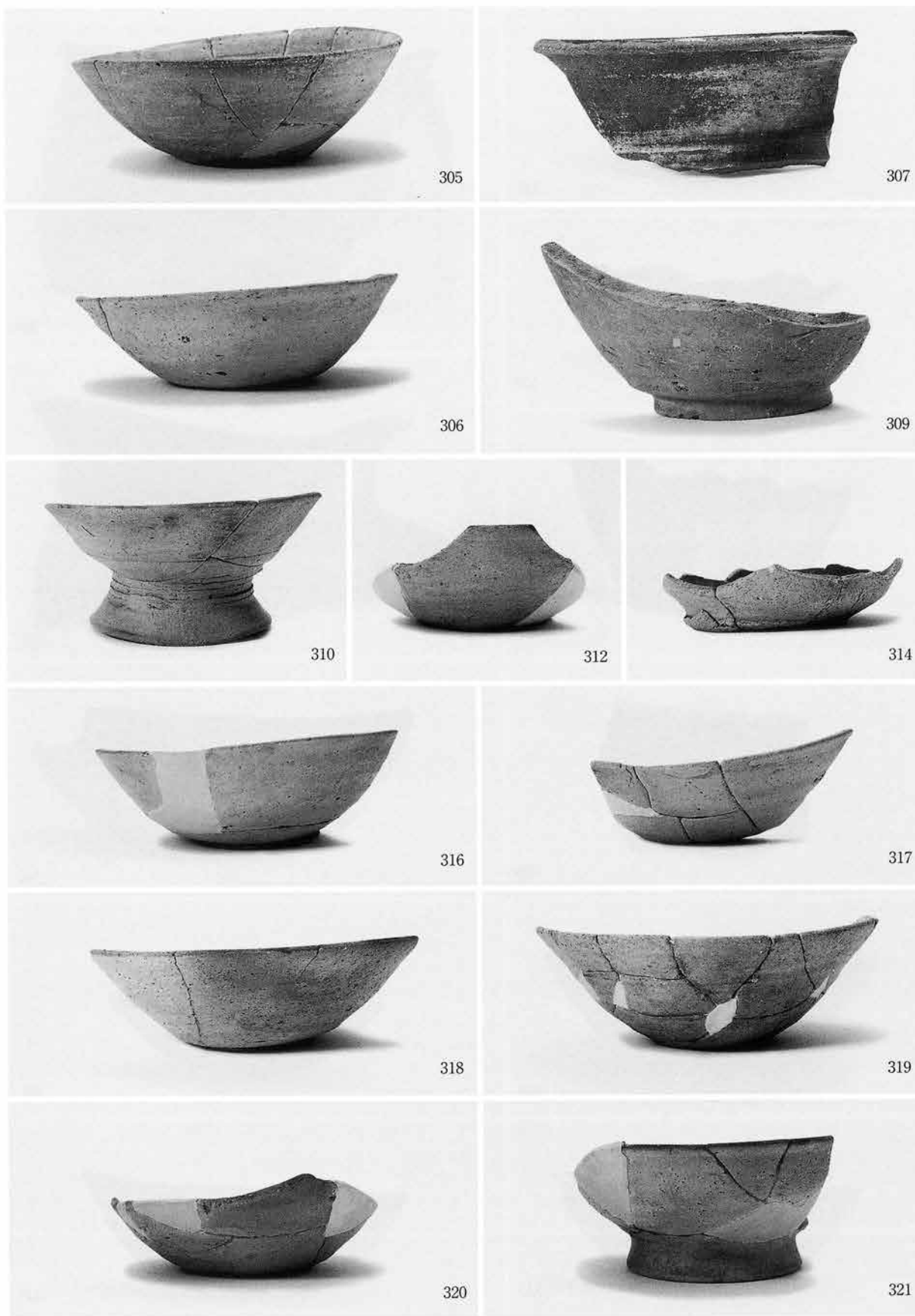
写真図版157 土師器・須恵器(26)





写真図版158 土師器・須恵器 (27)

2 : 5



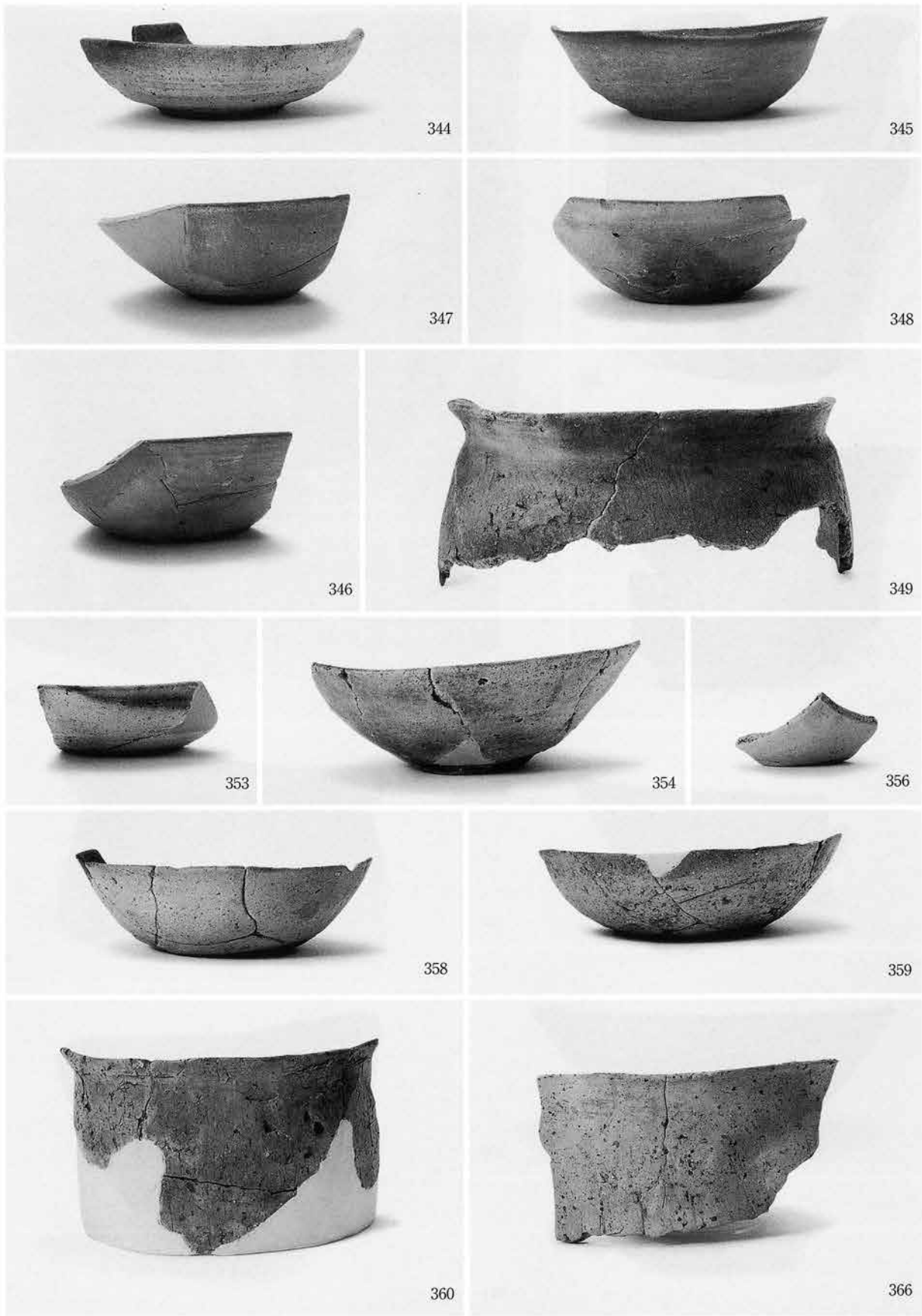
写真図版159 土師器・須恵器(28)

2:5



写真図版160 土師器・須恵器(29)

2:5

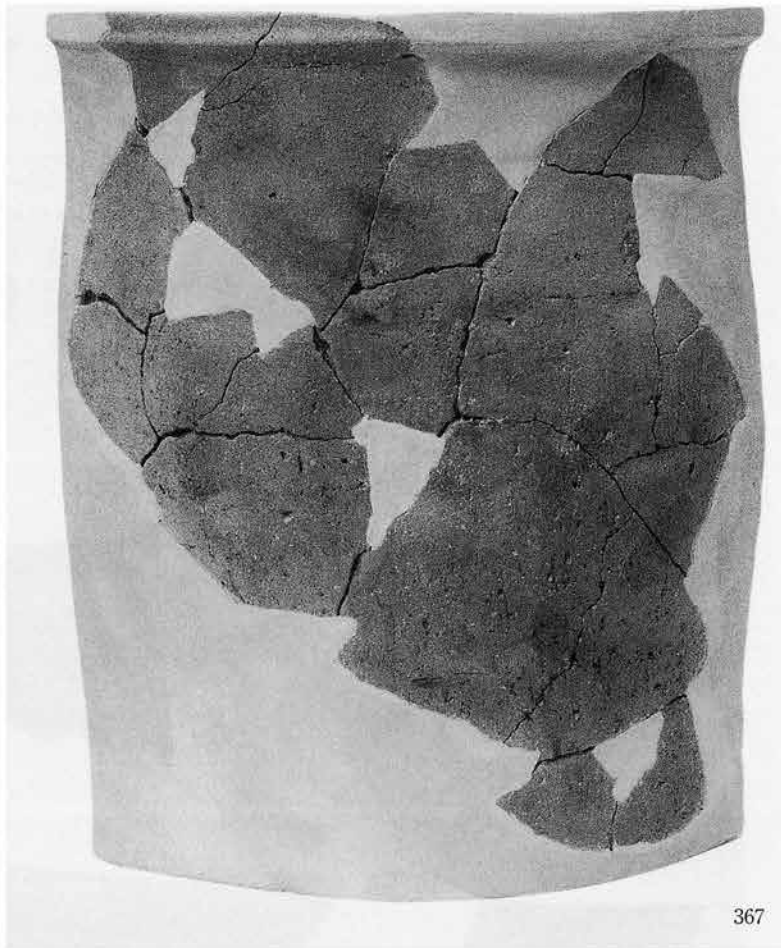


写真図版161 土師器・須恵器(30)

2:5



361



367



362



368



375



370



376



371

写真図版162 土師器・須恵器(31)

2:5



376



377



378



379



381



382



383



388



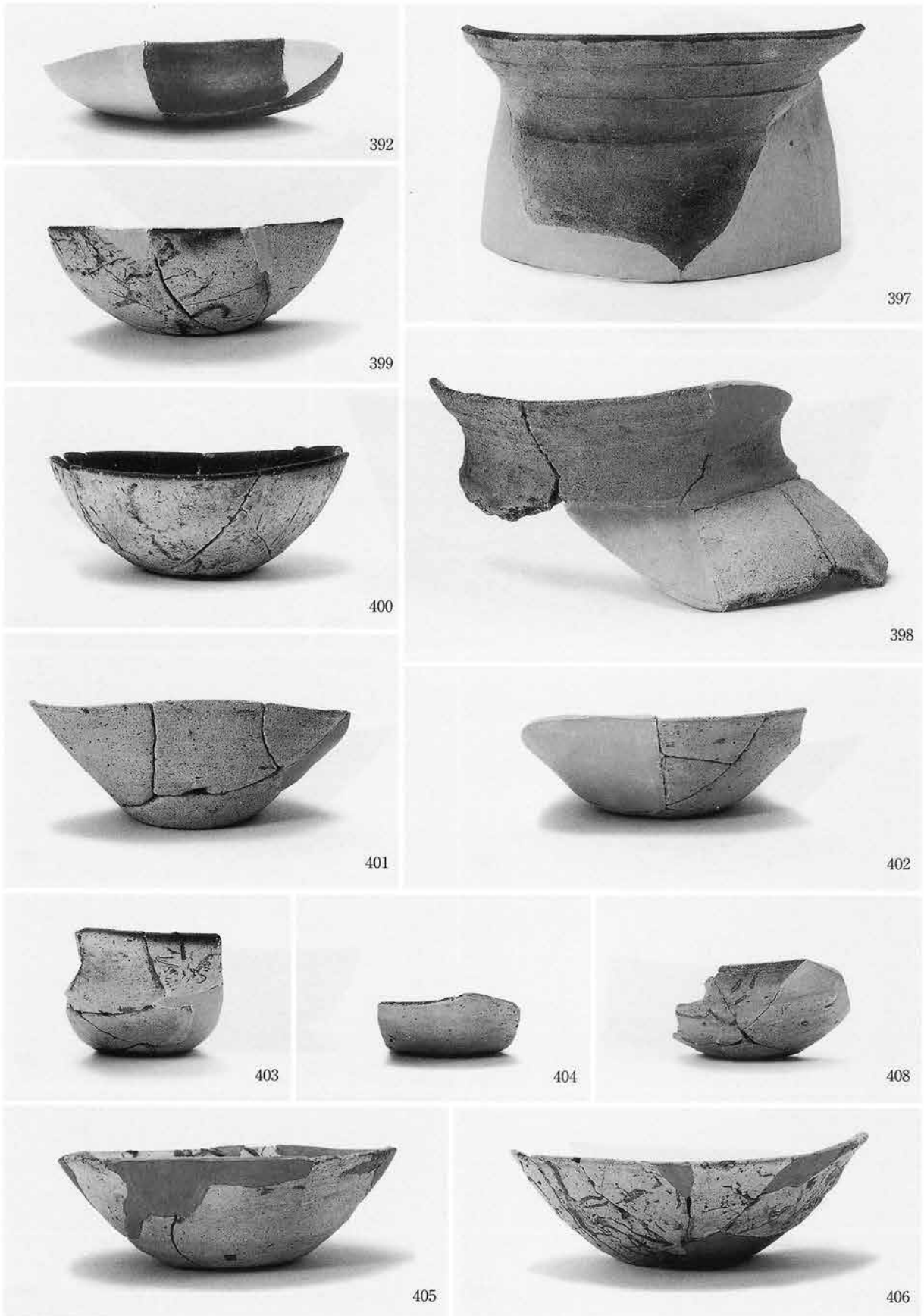
389



390

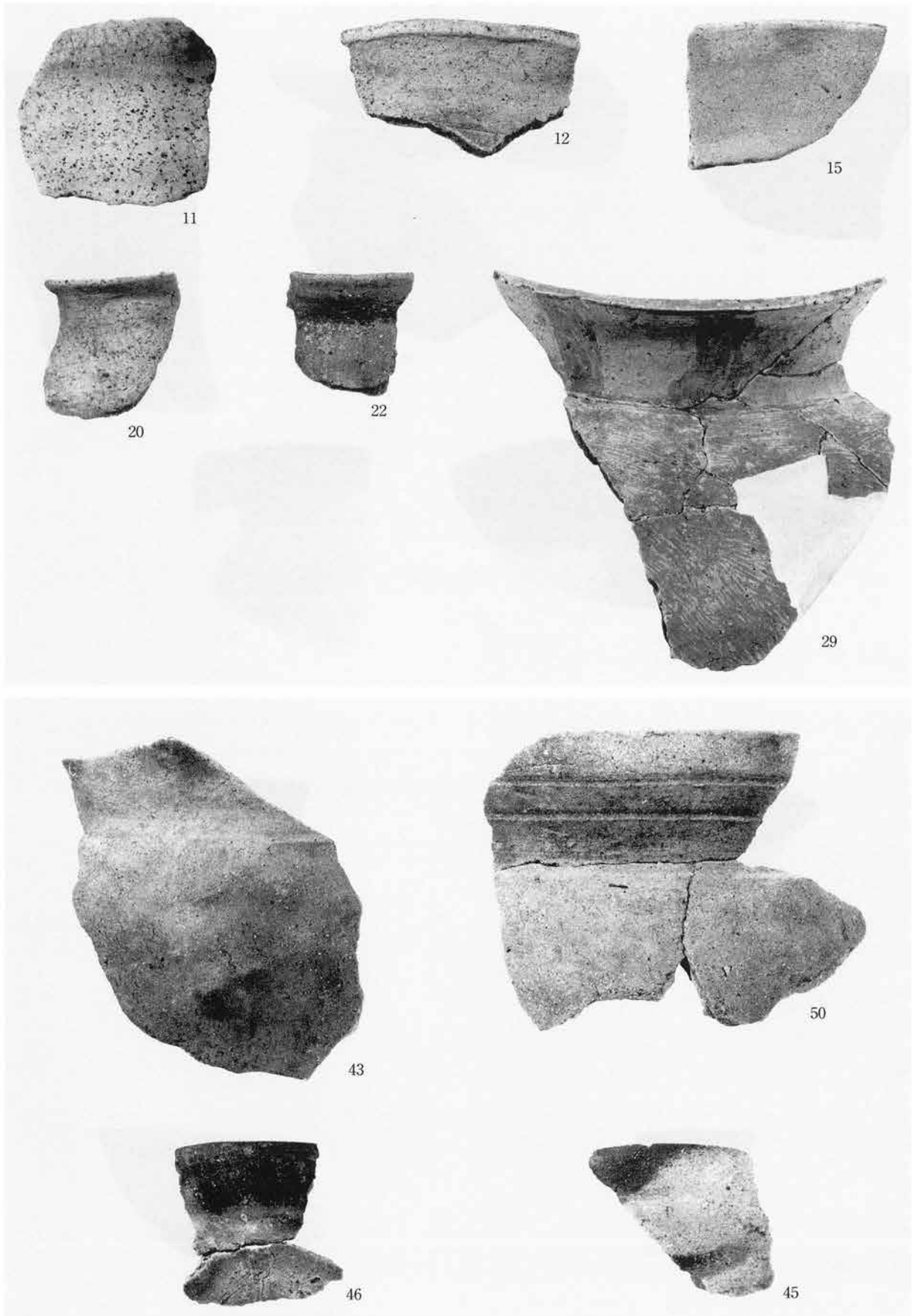
写真図版163 土師器・須恵器(32)

2 : 5



写真図版164 土師器・須恵器(33)

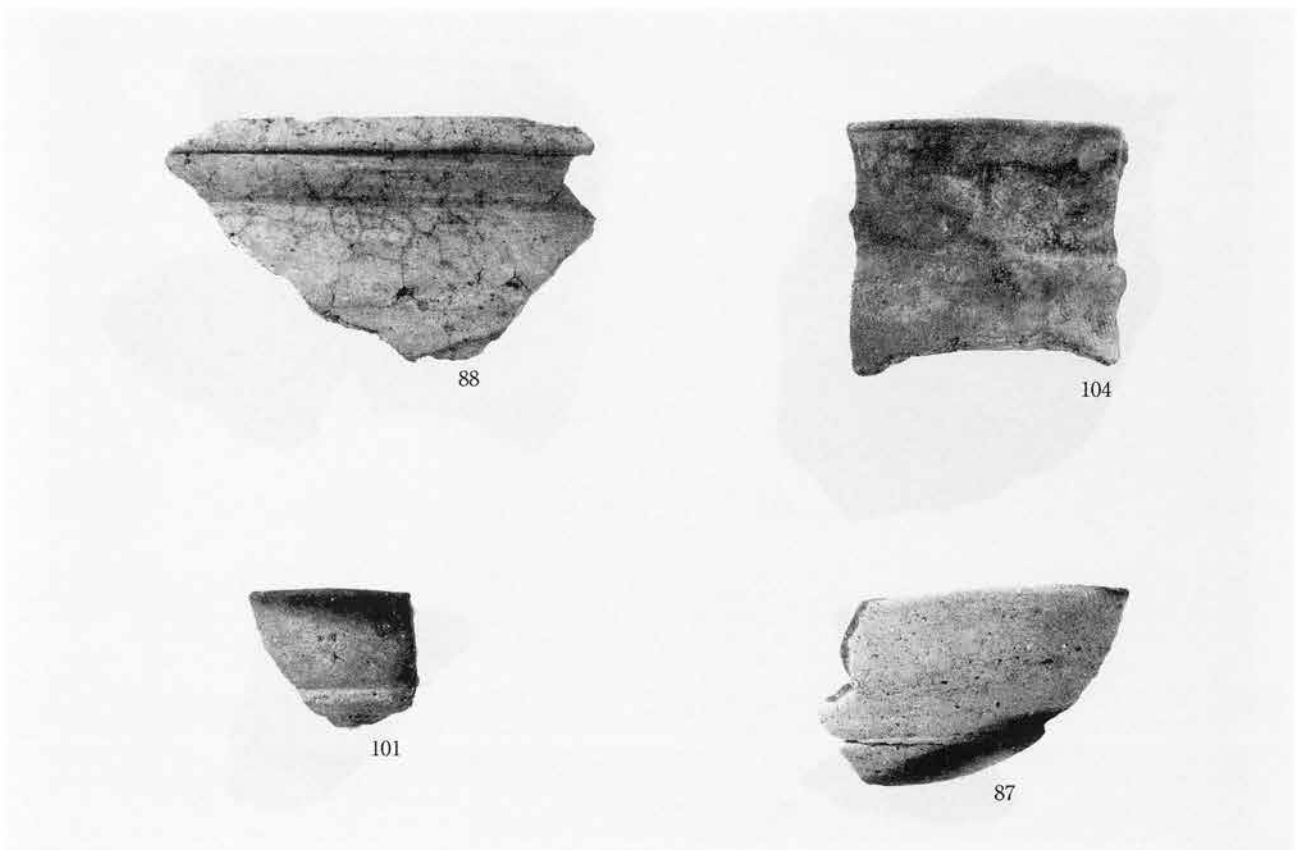
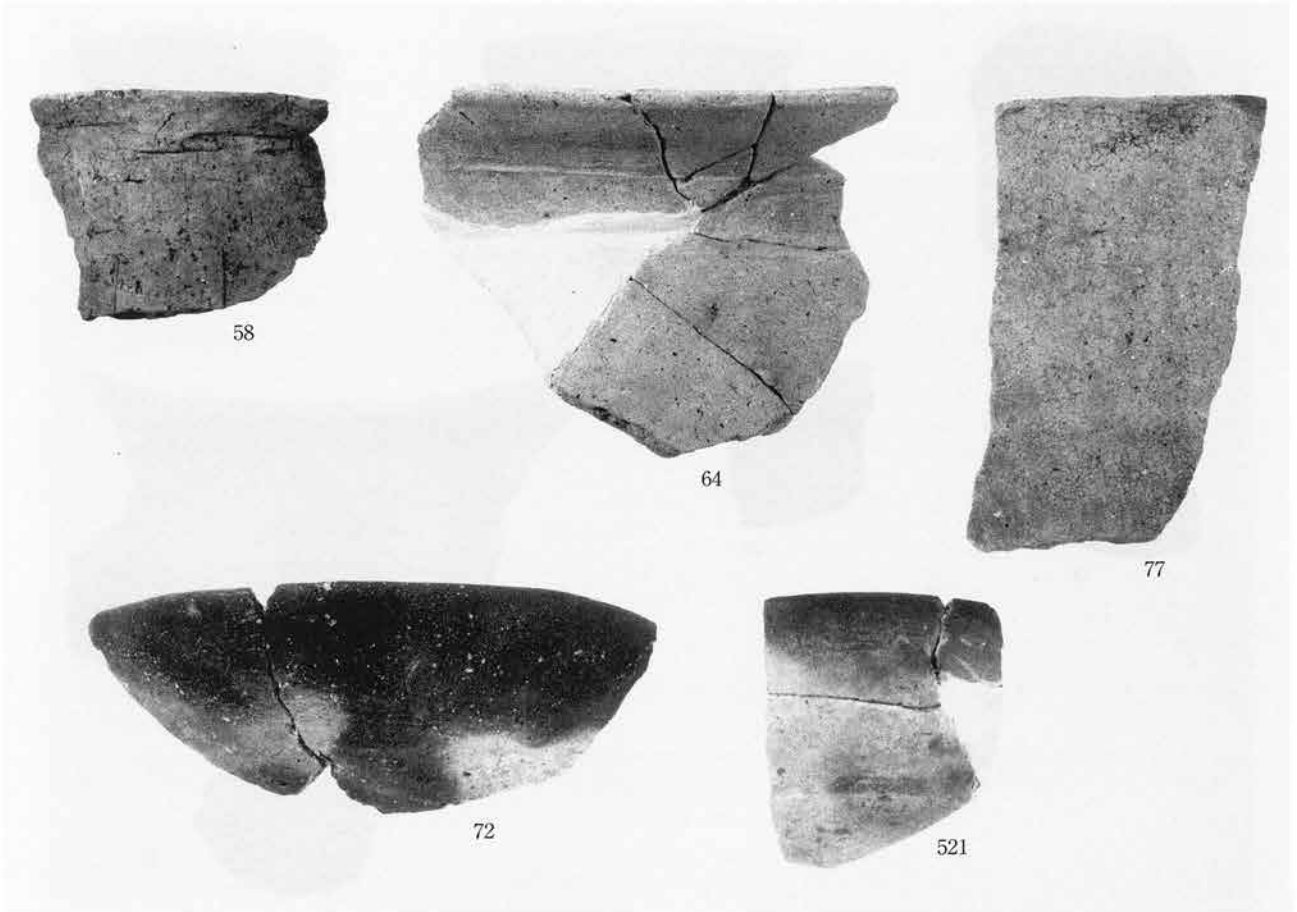
2 : 5



写真図版165 土師器・須恵器(34)

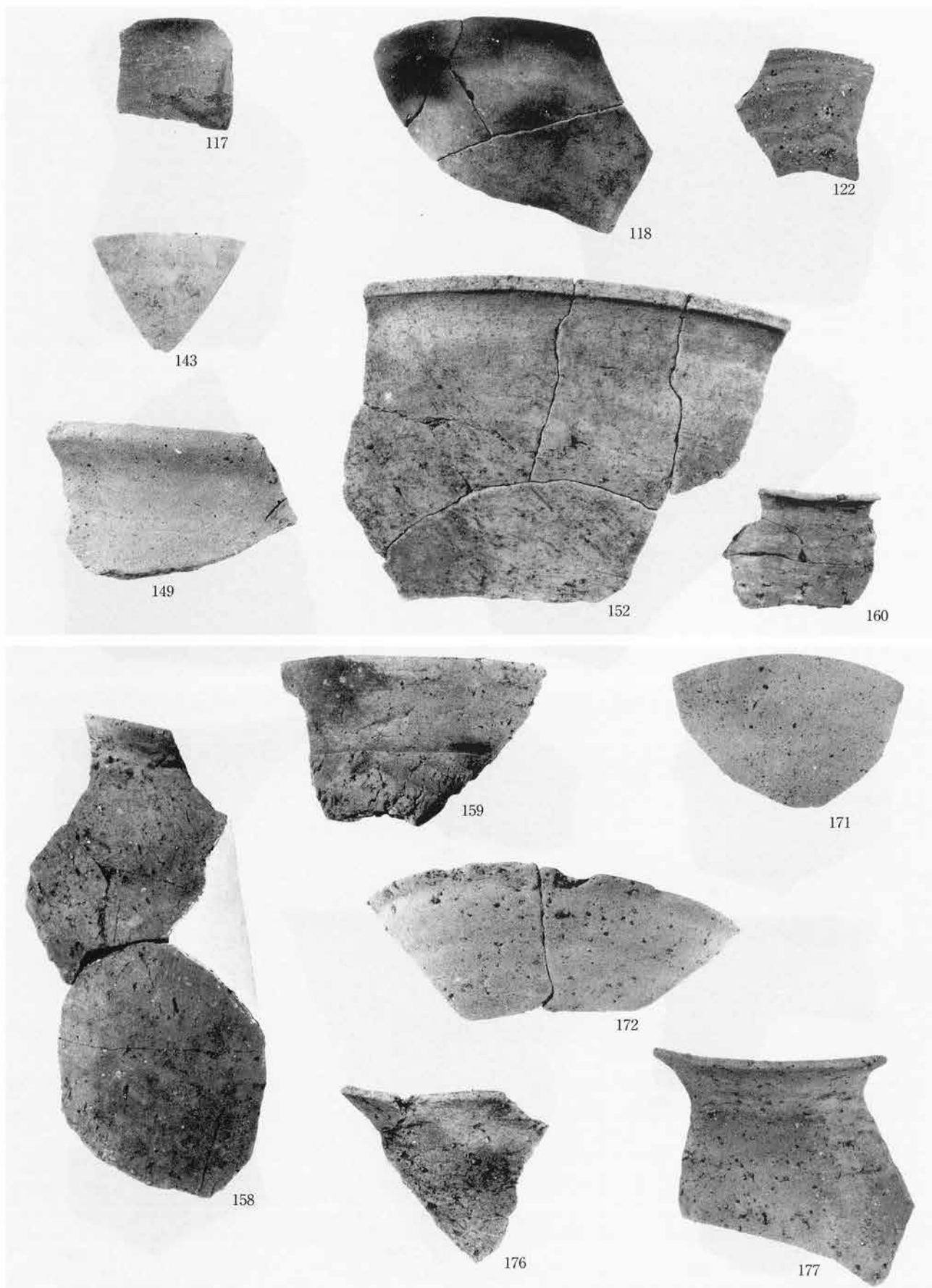
1:2





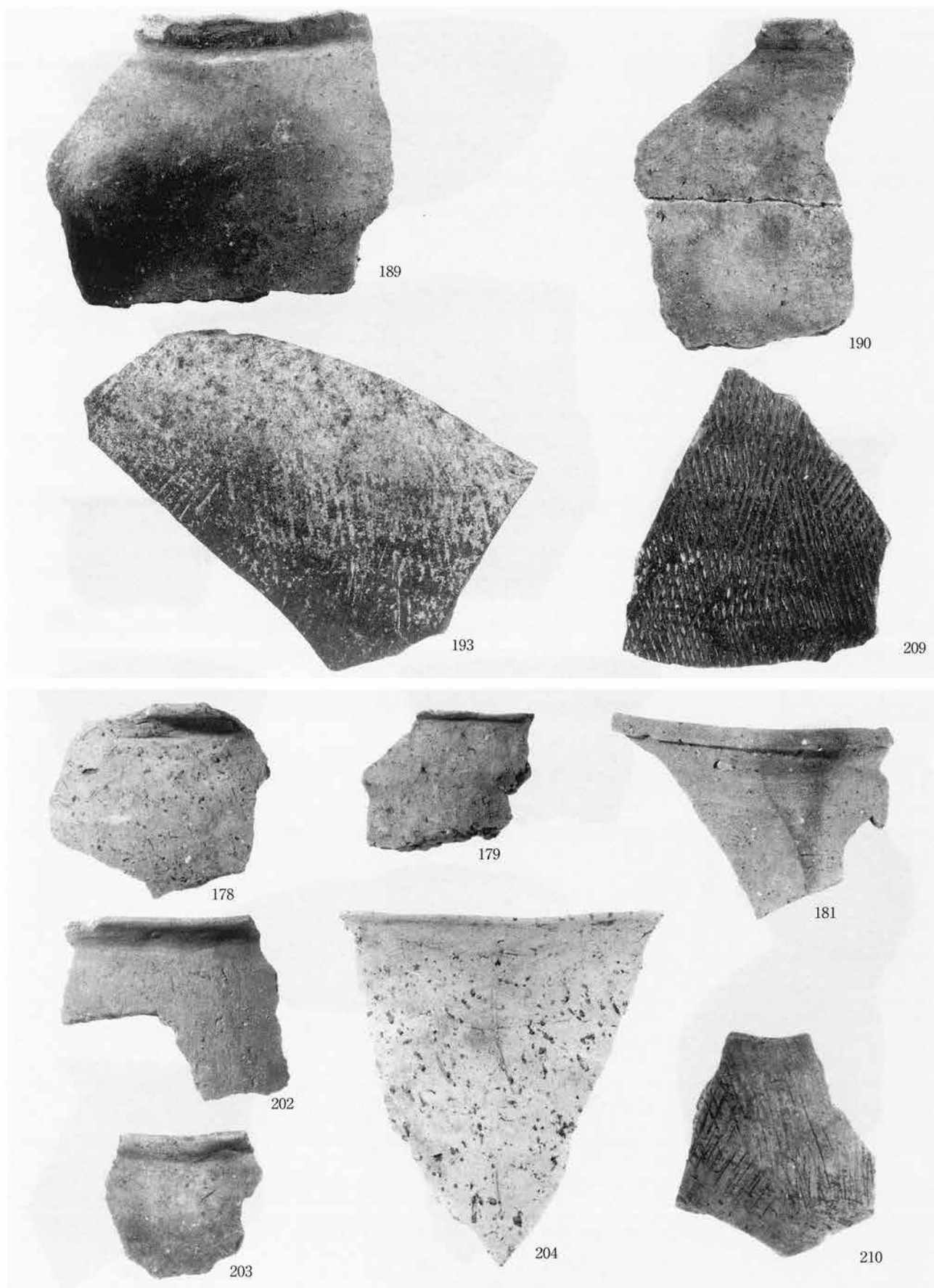
写真図版166 土師器・須恵器(35)

1:2



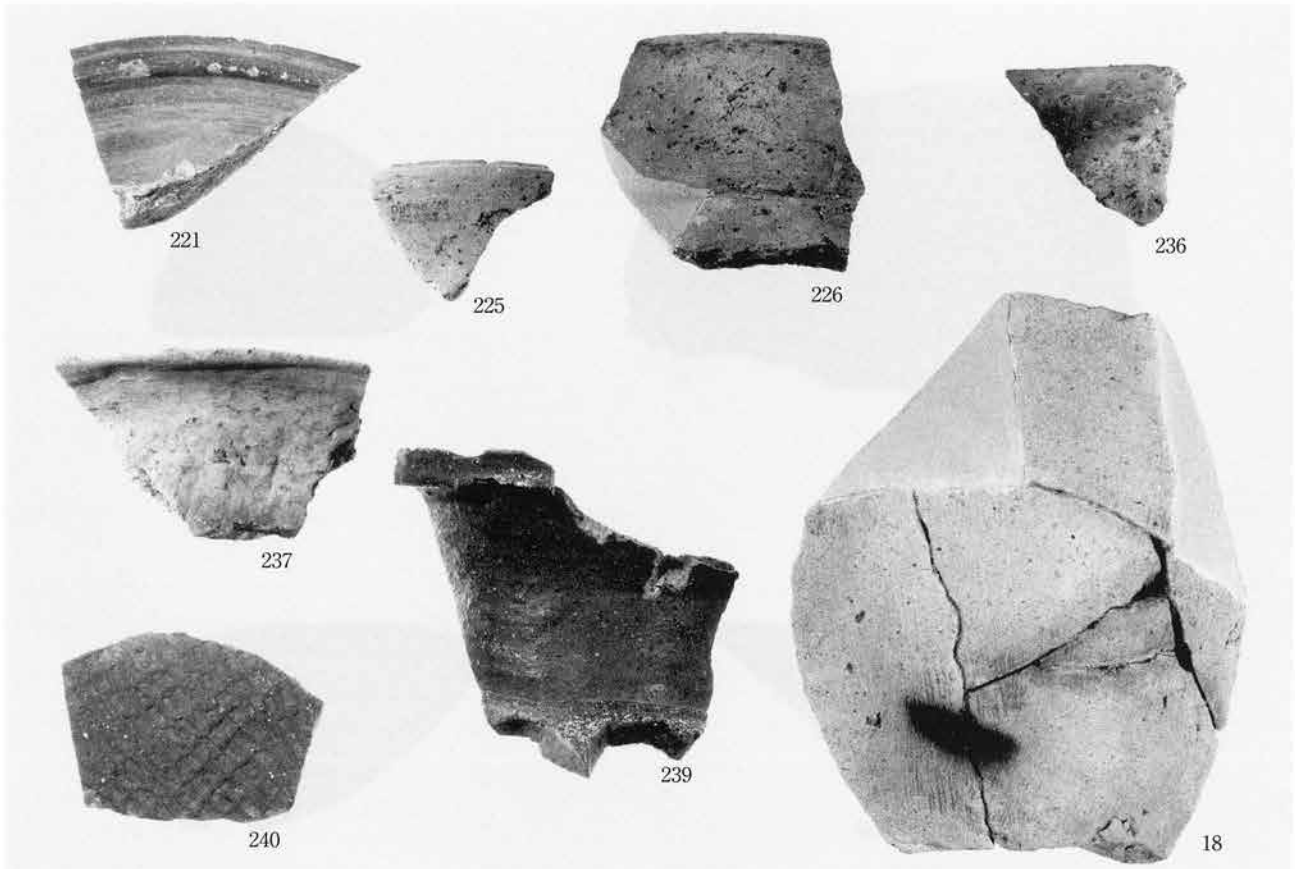
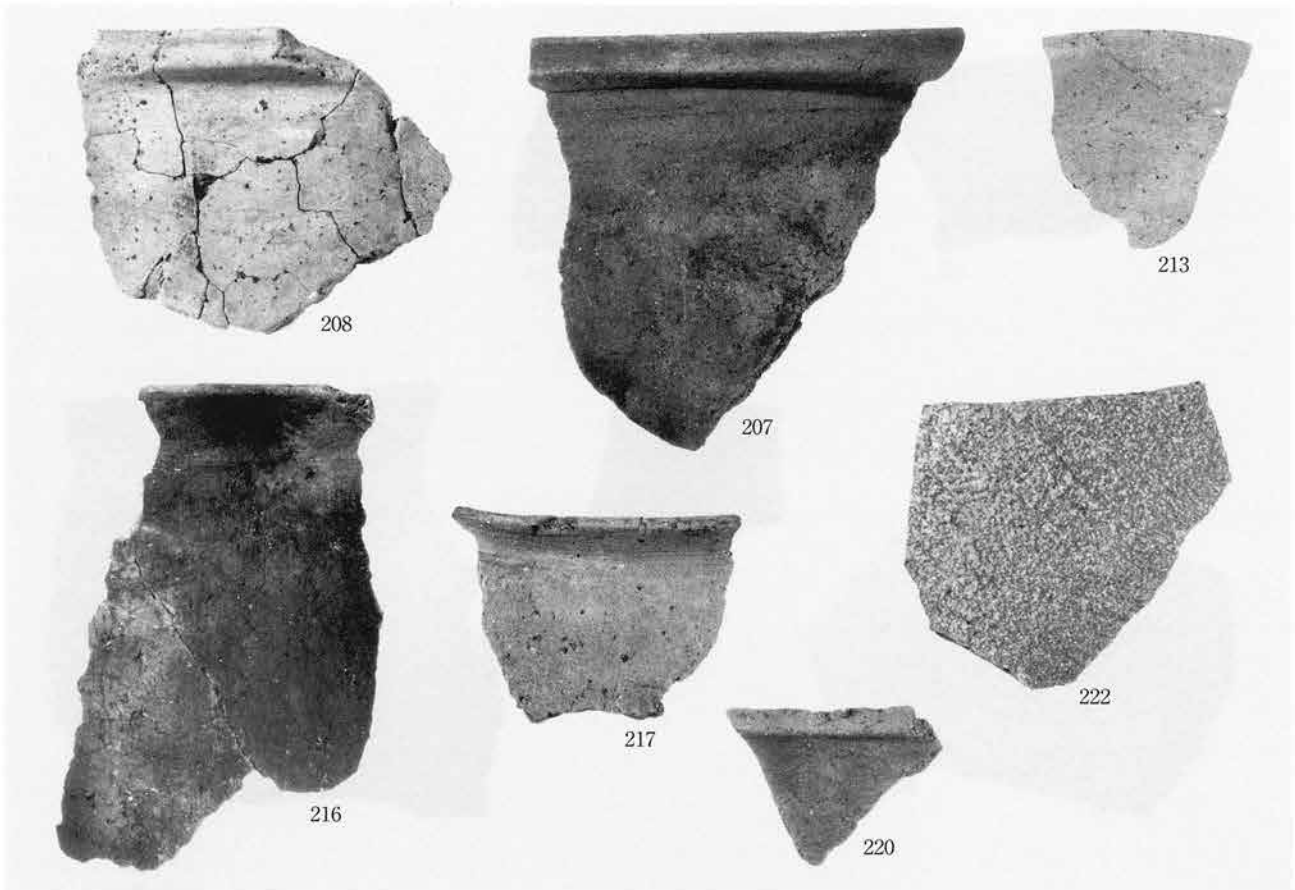
写真図版167 土師器・須恵器(36)

1:2



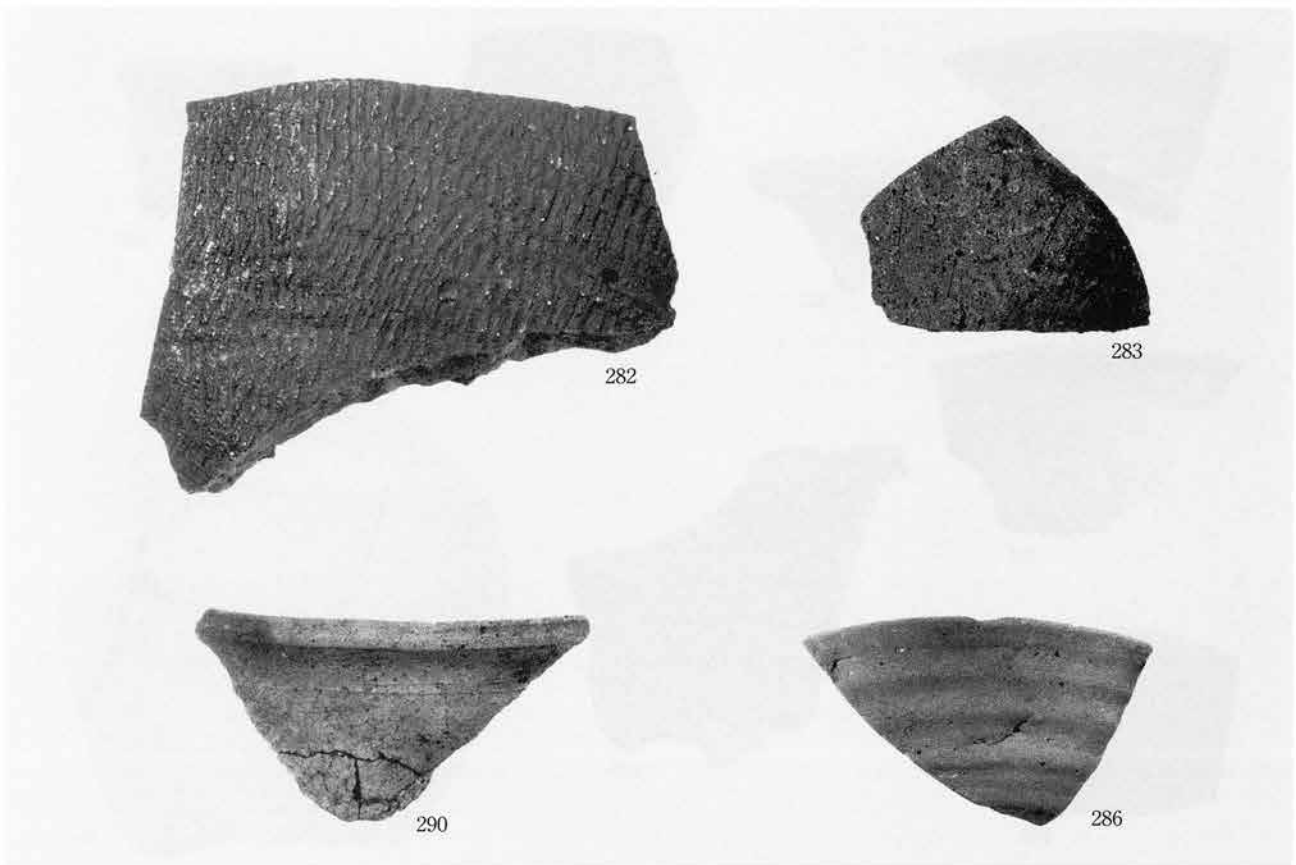
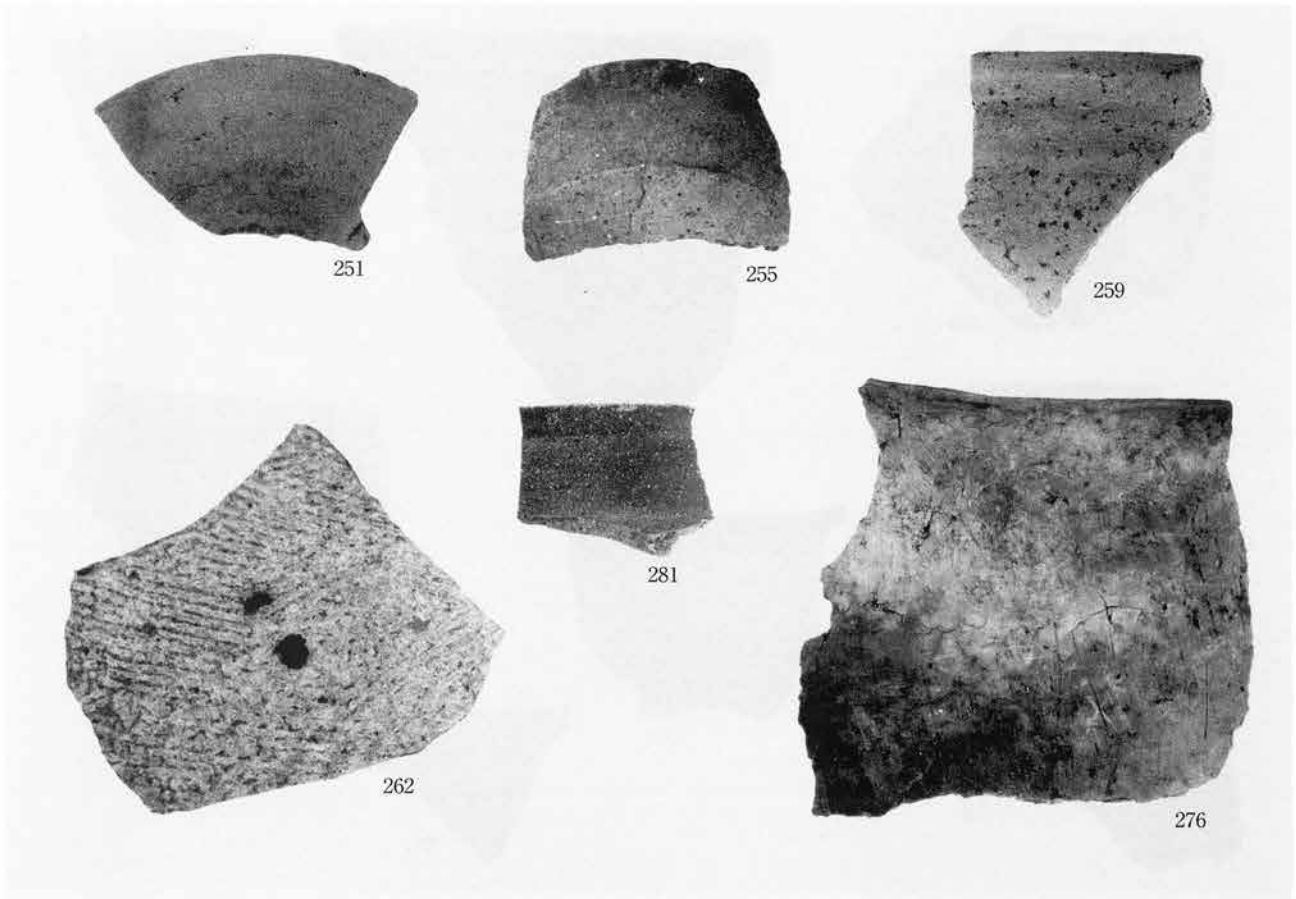
写真図版168 土師器・須恵器 (37)

1 : 2



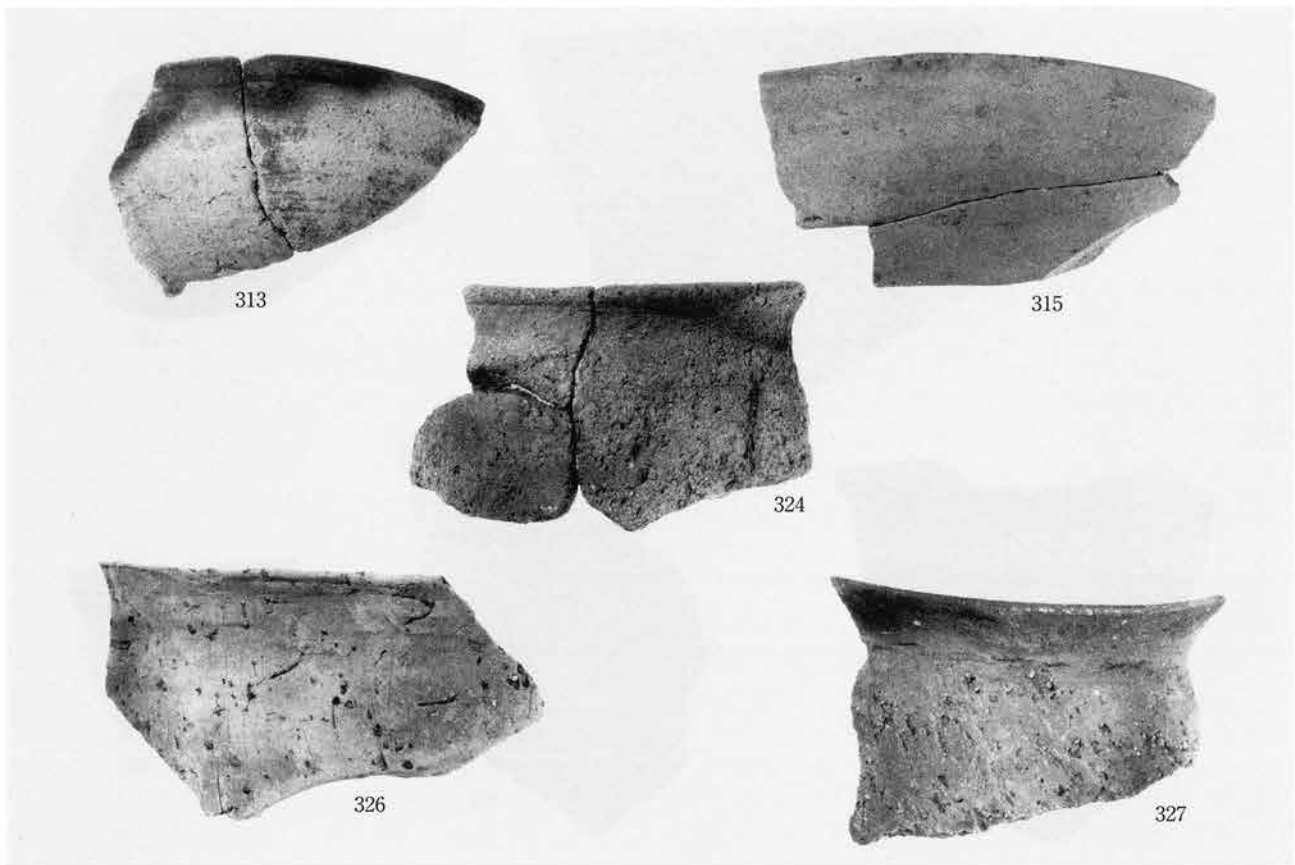
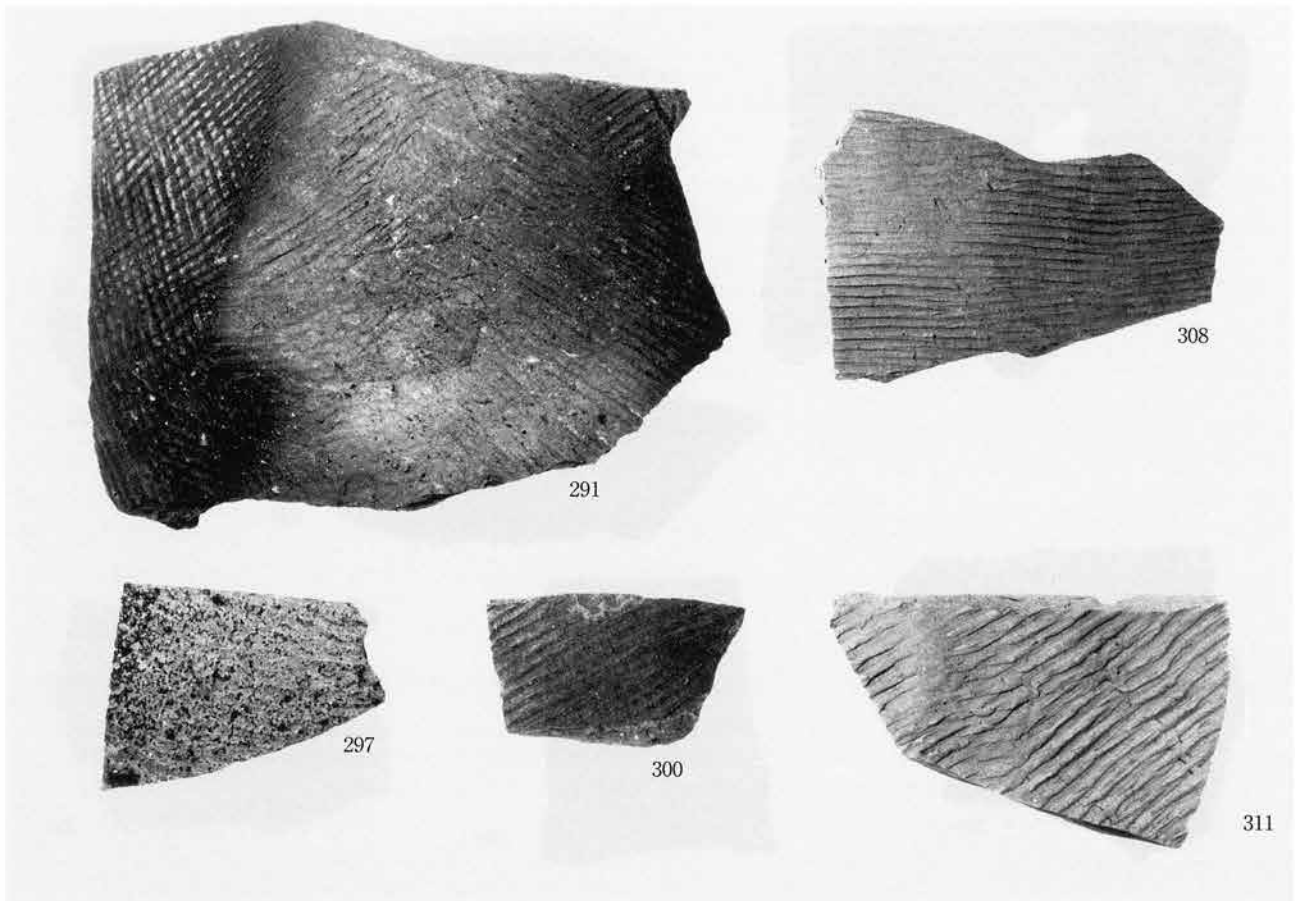
写真図版169 土師器・須恵器(38)

1:2



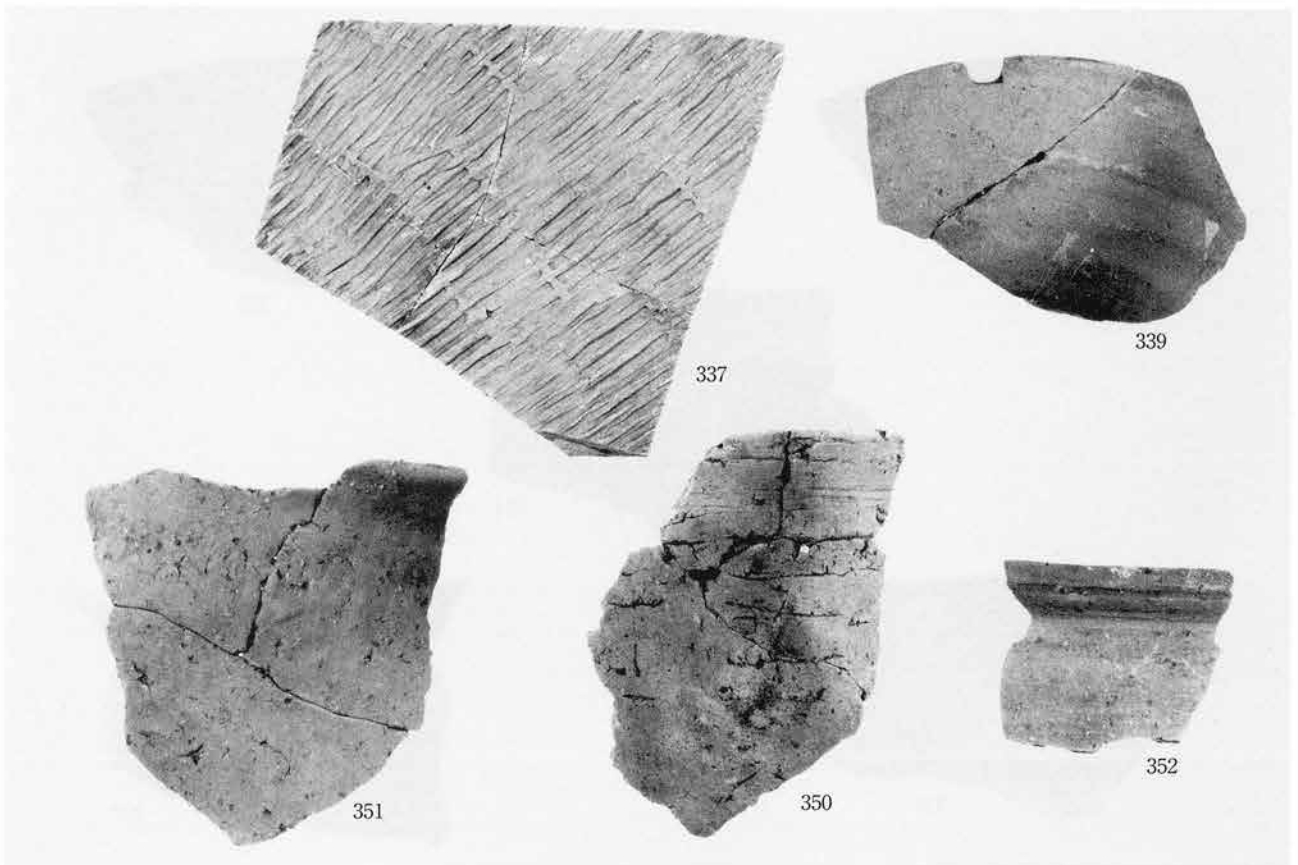
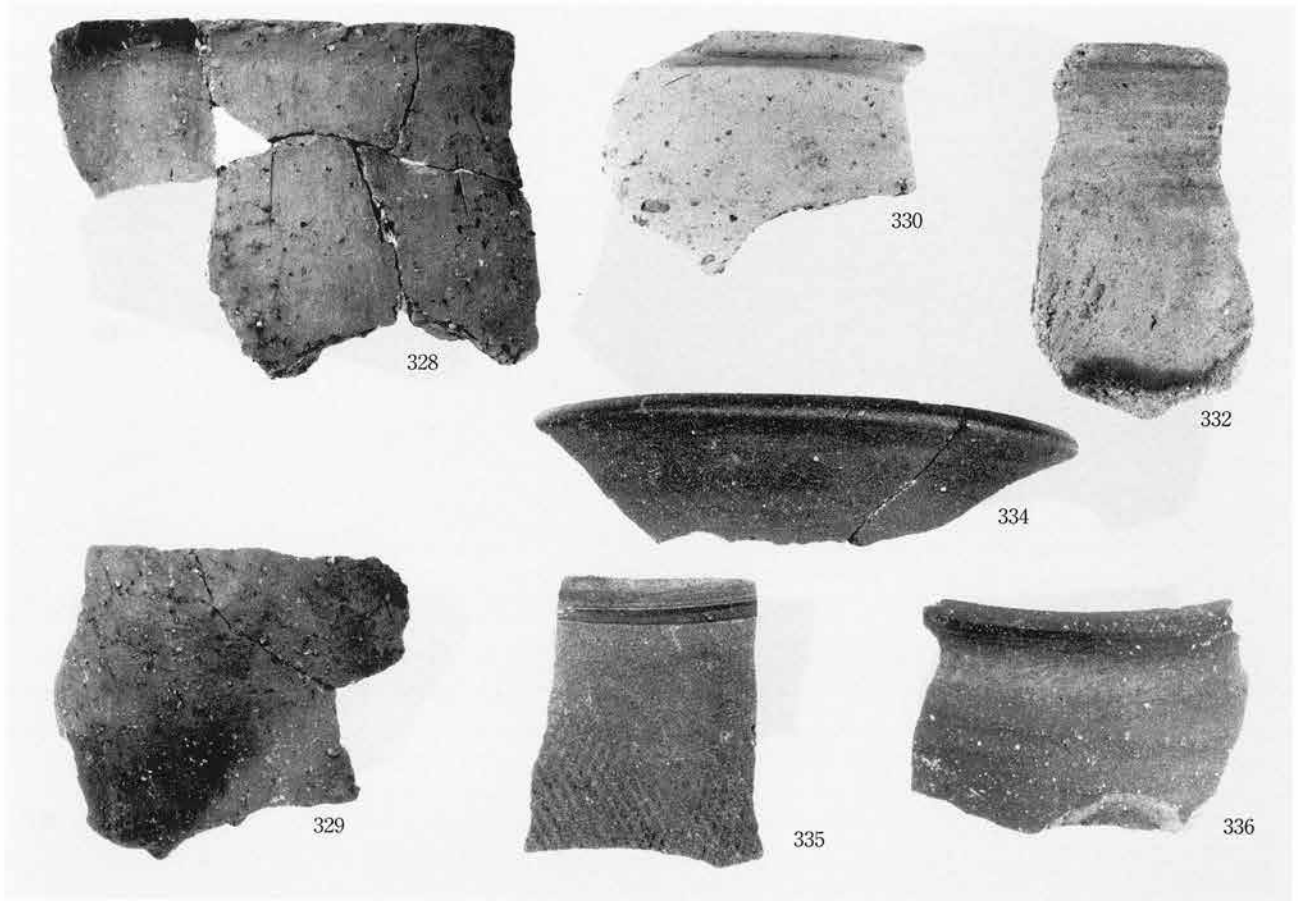
写真図版170 土師器・須恵器(39)

1:2



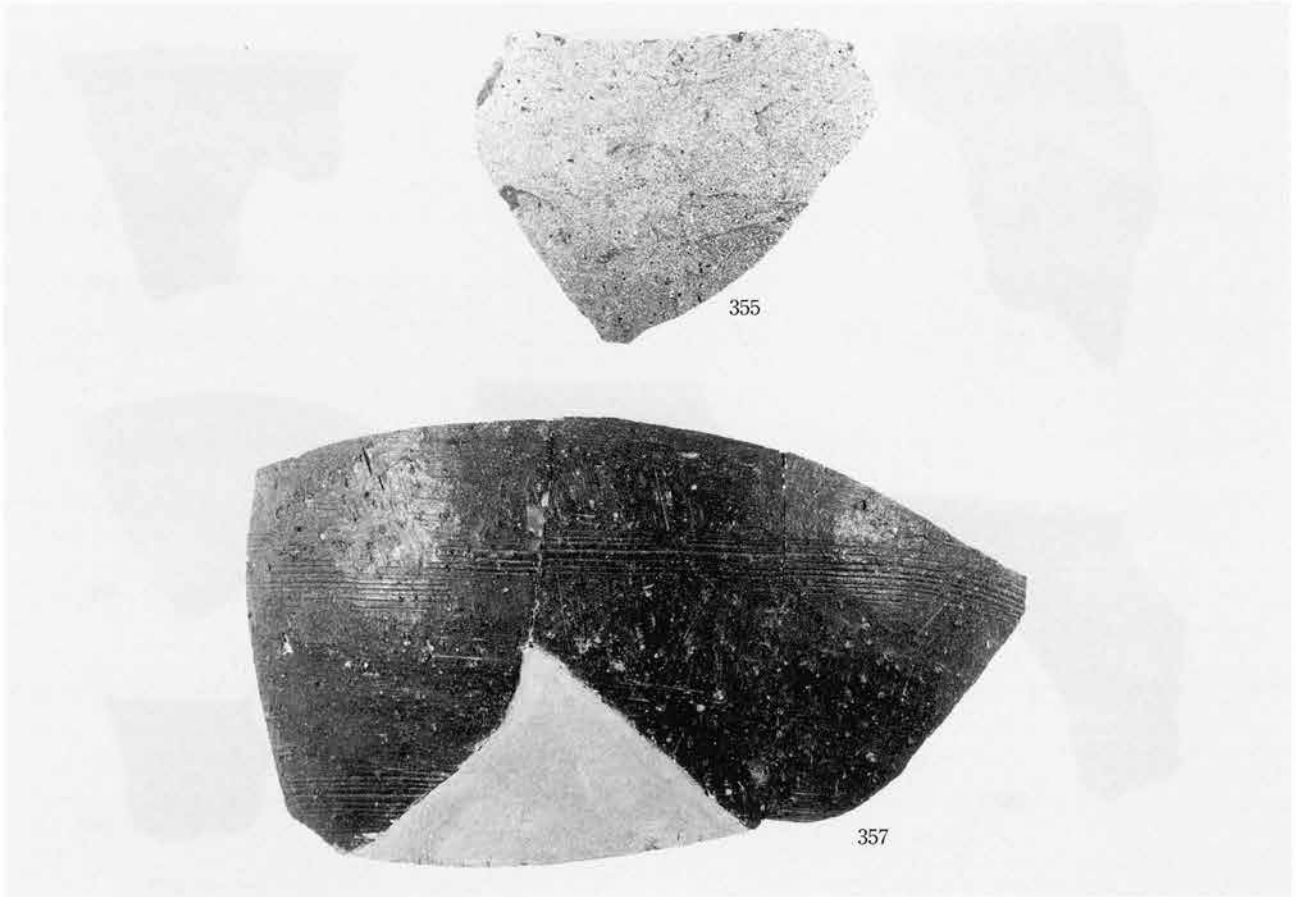
写真図版171 土師器・須恵器(40)

1:2



写真図版172 土師器・須恵器(41)

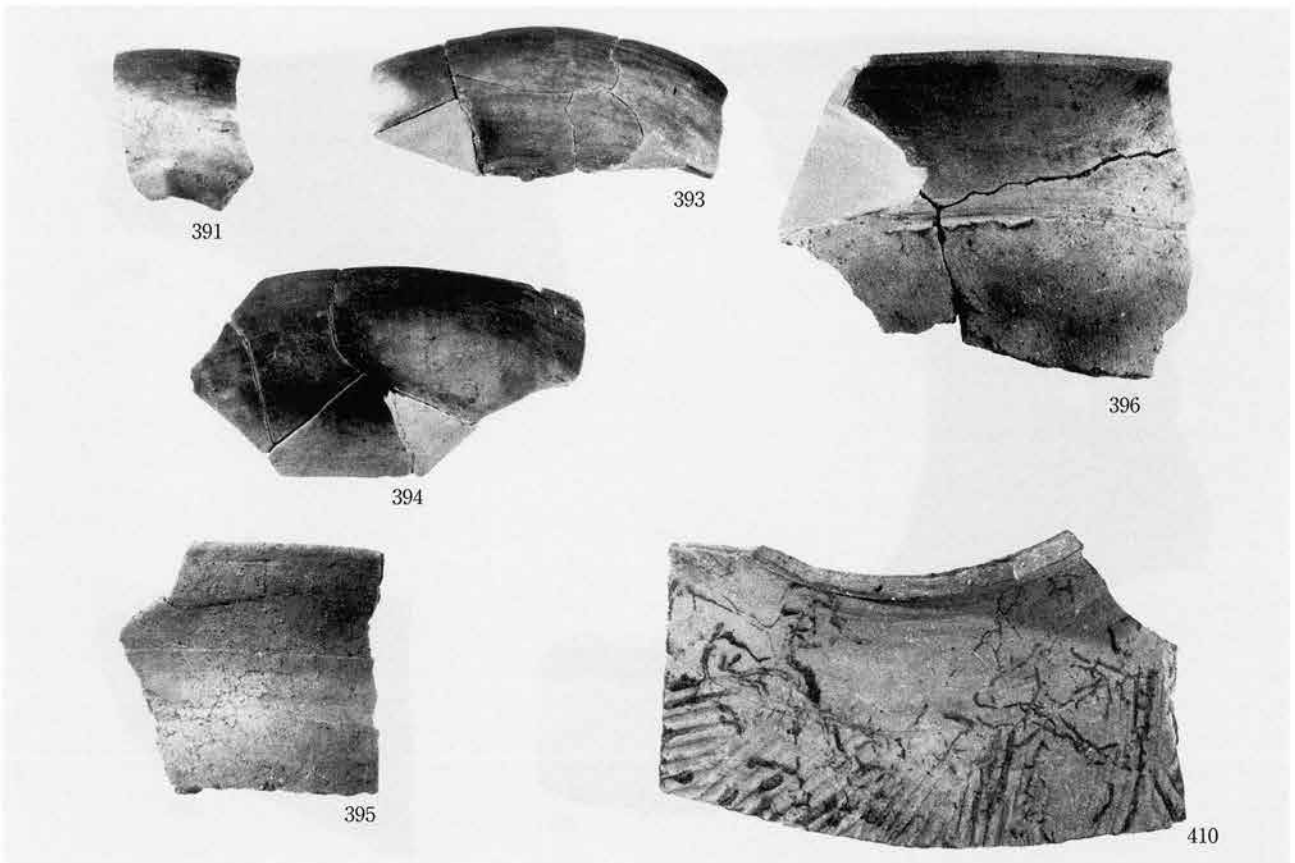
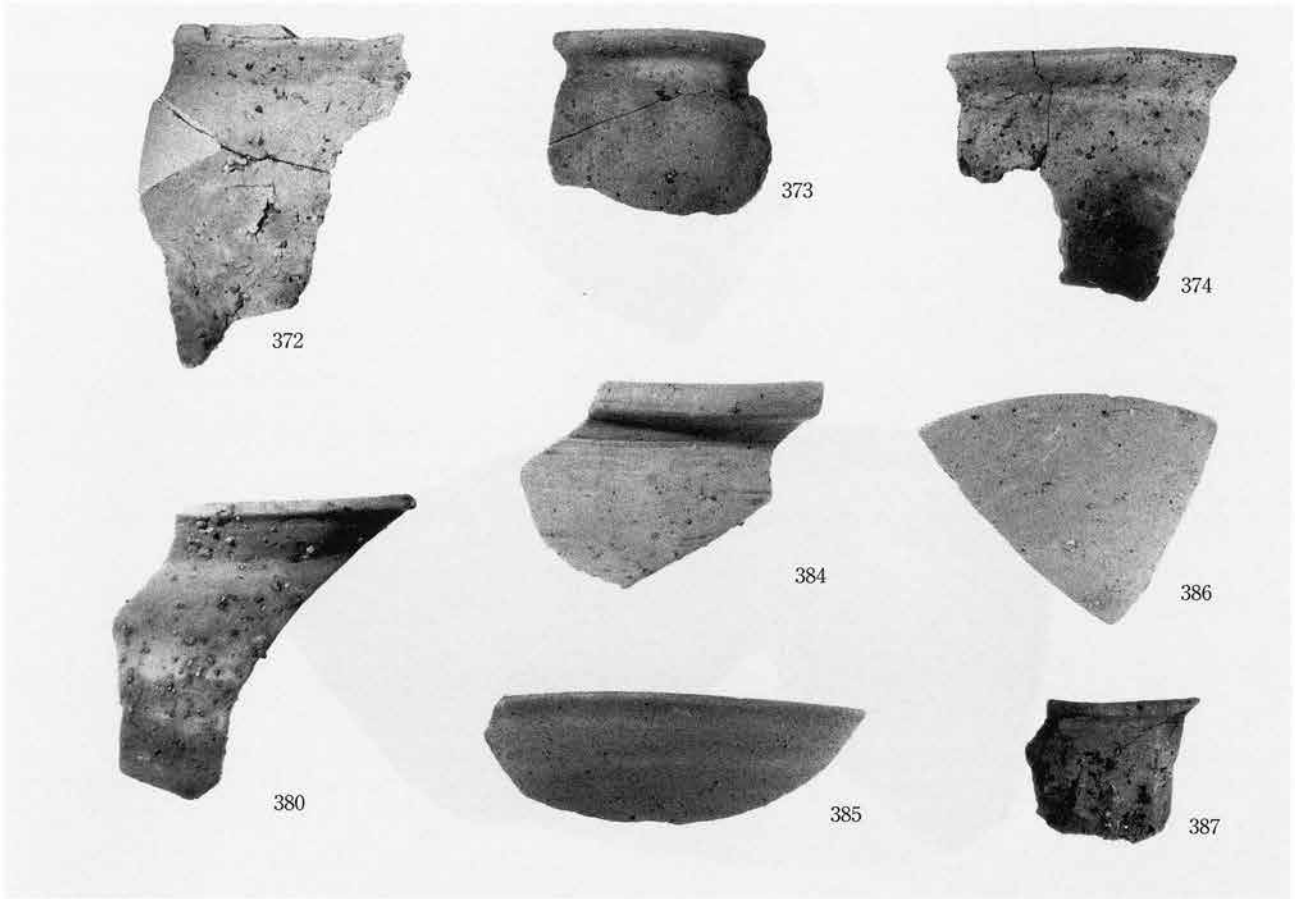
1:2



写真図版173 土師器・須恵器(42)

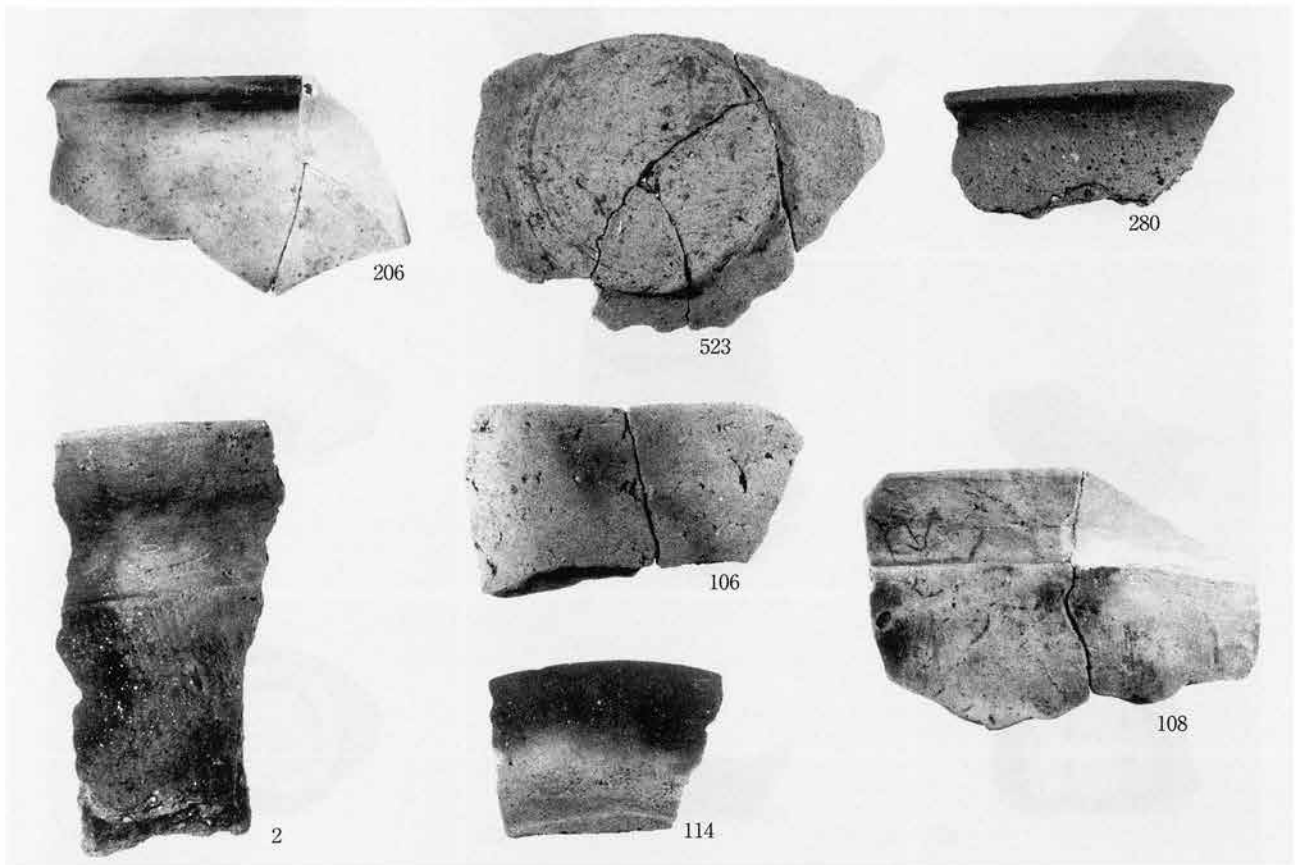
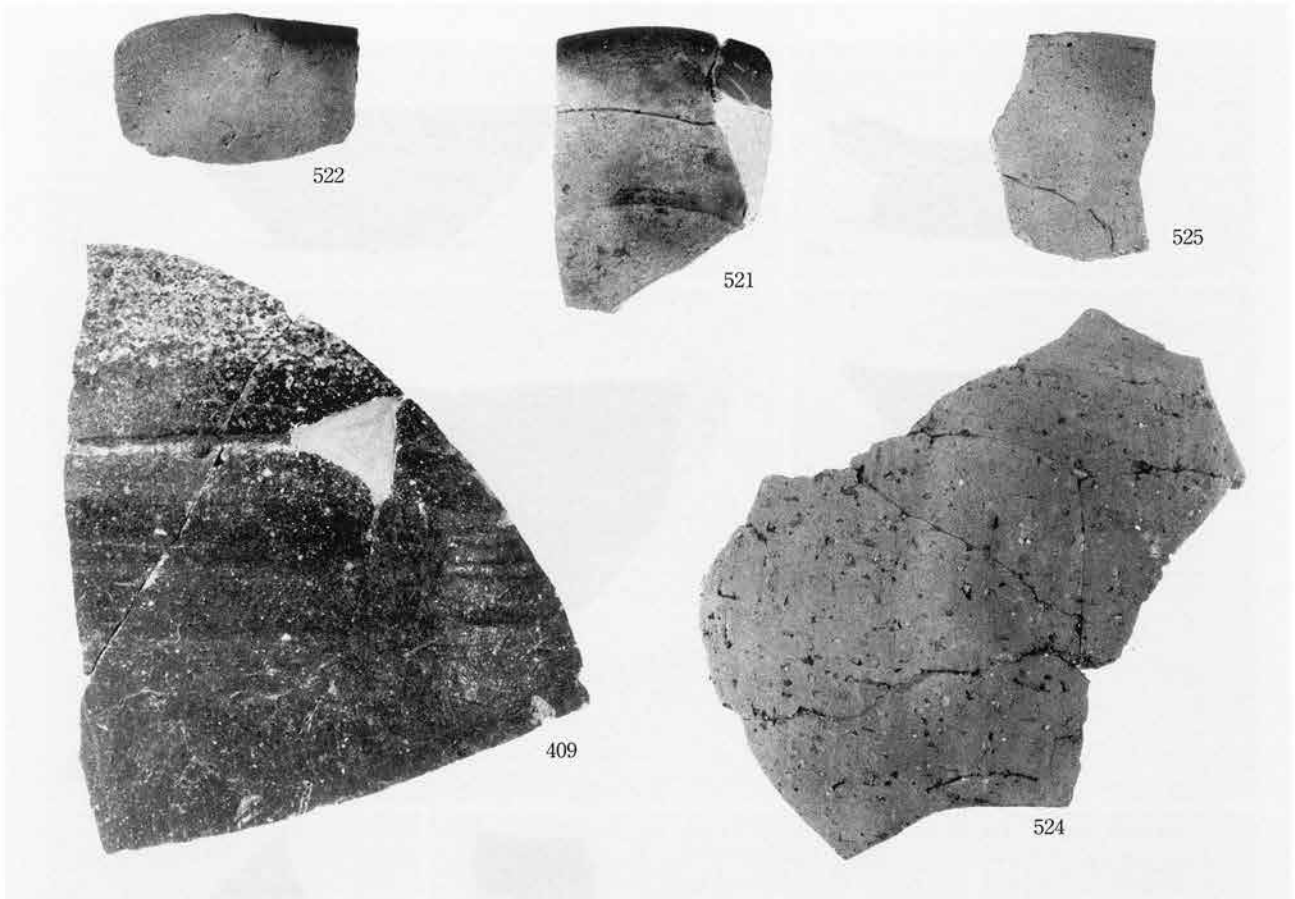
1:2





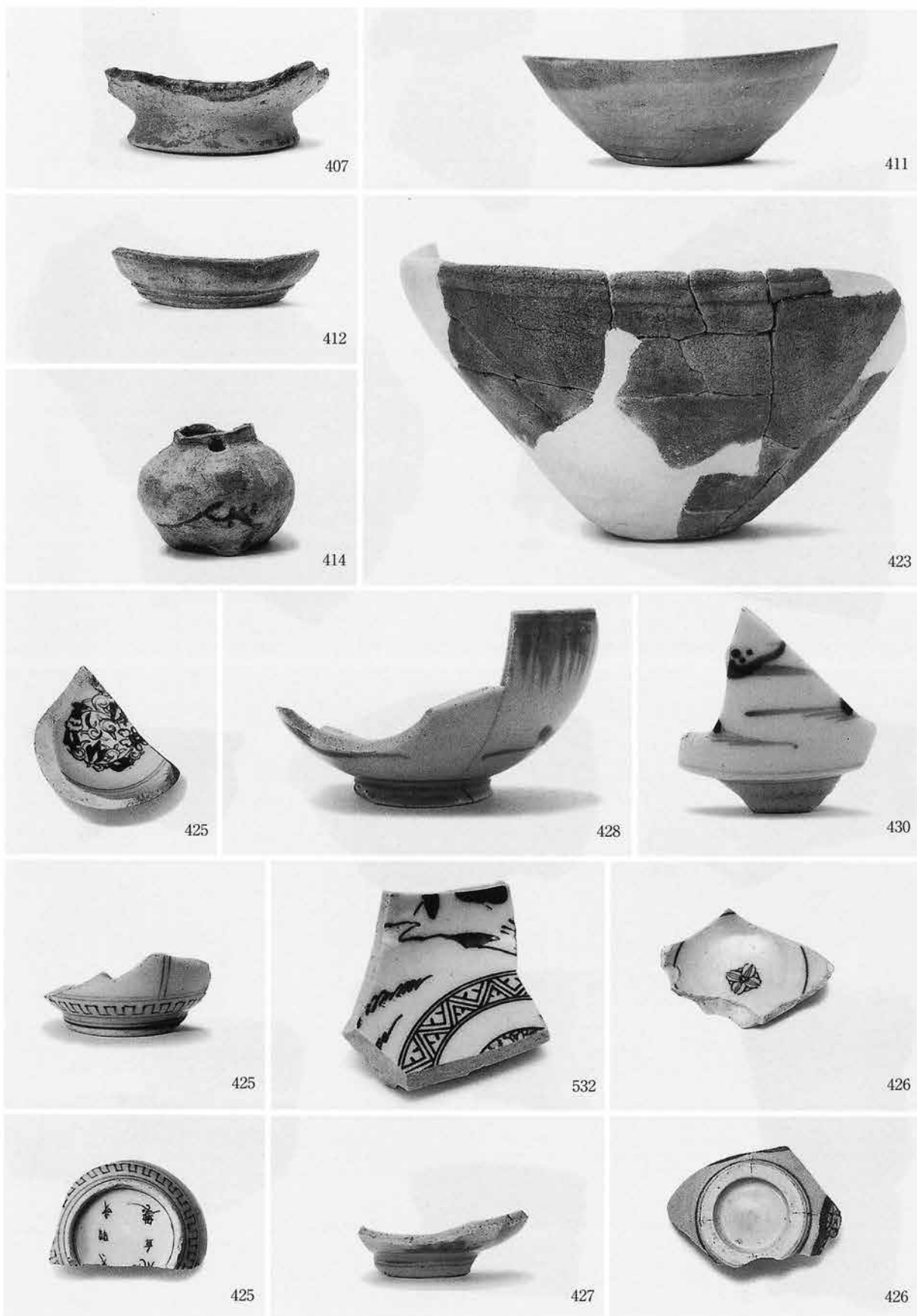
写真図版174 土師器・須恵器(43)

1:2



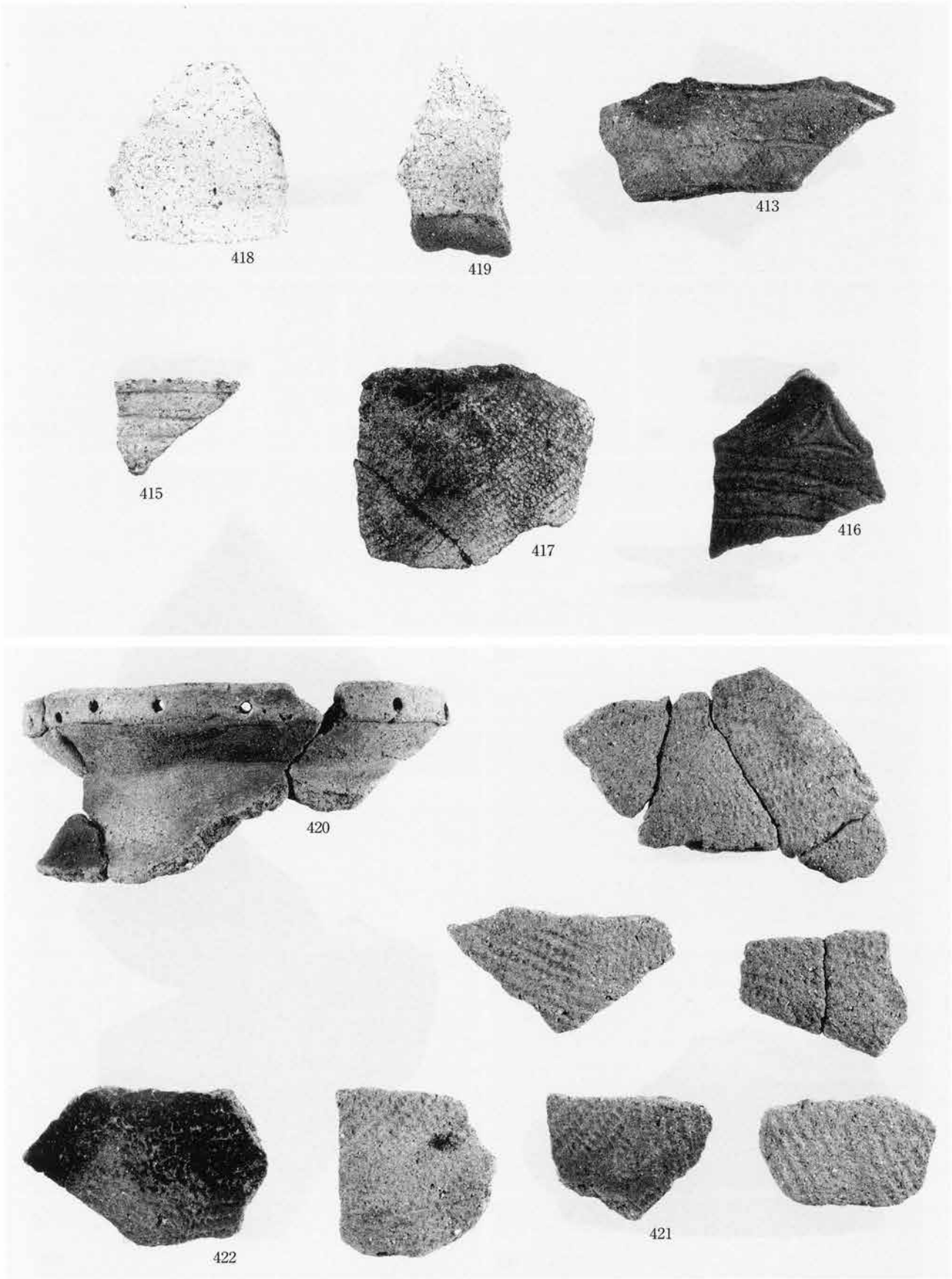
写真図版175 土師器・須恵器(44)

1:2



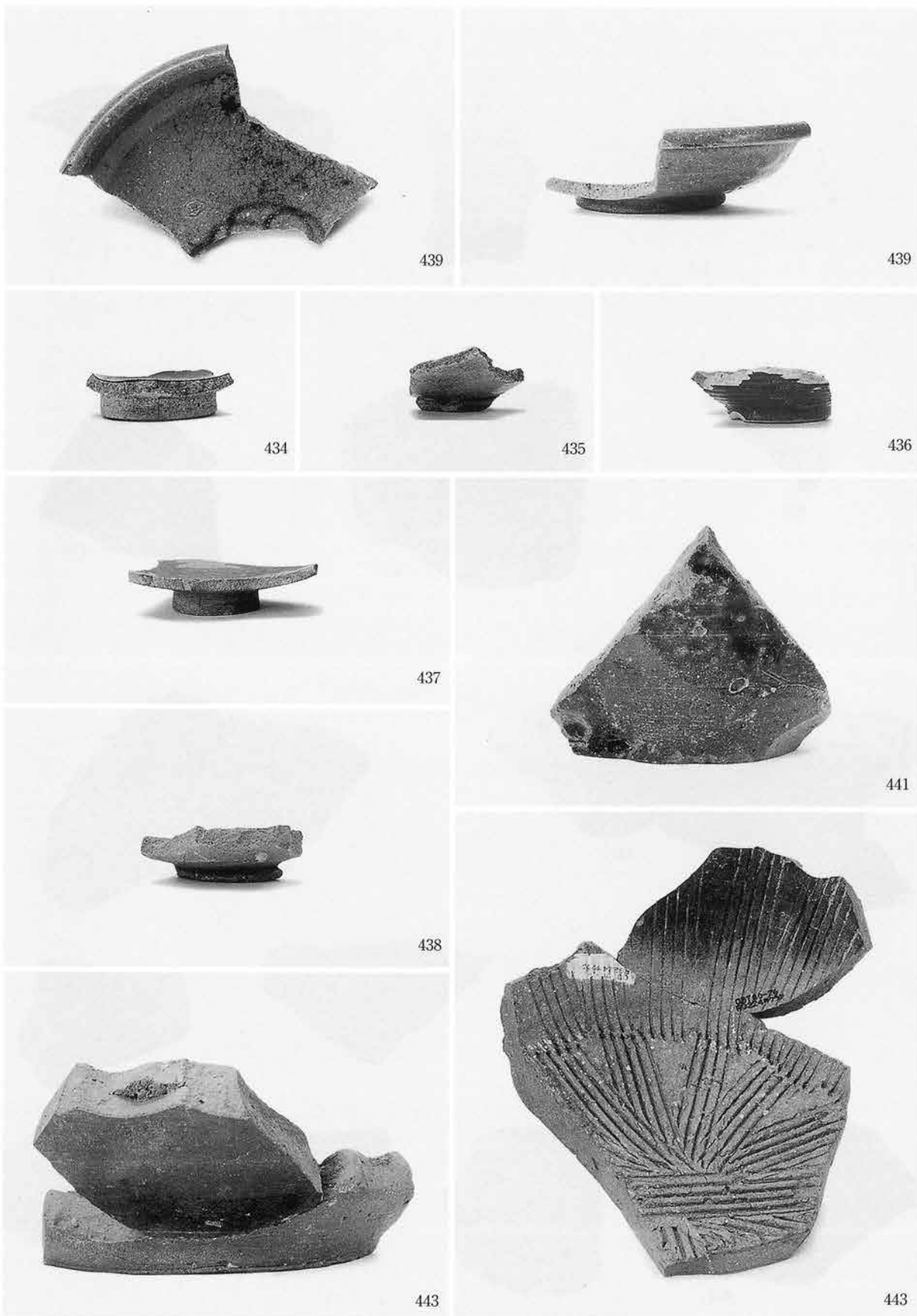
写真図版176 土師器・須恵器(45)、縄文土器(1)・陶磁器(1)

2:5



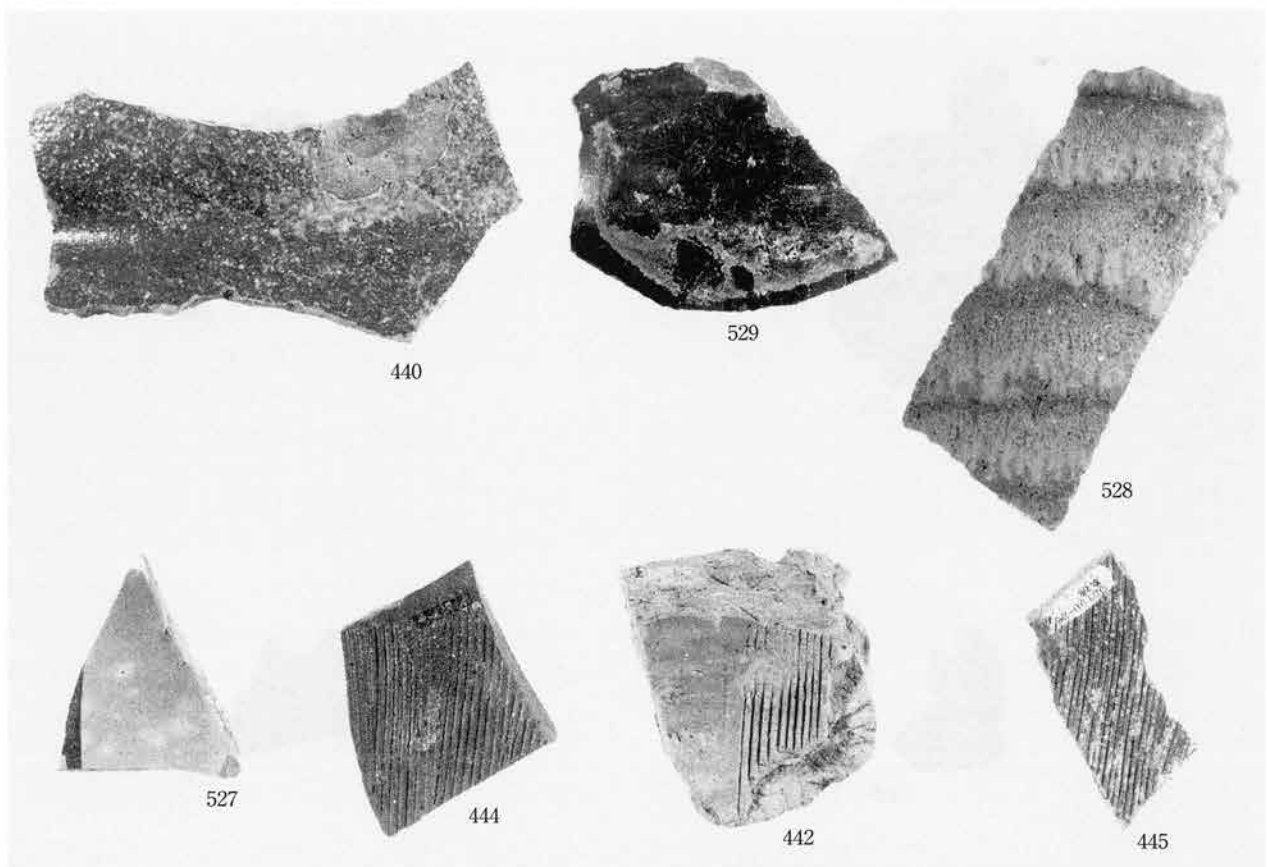
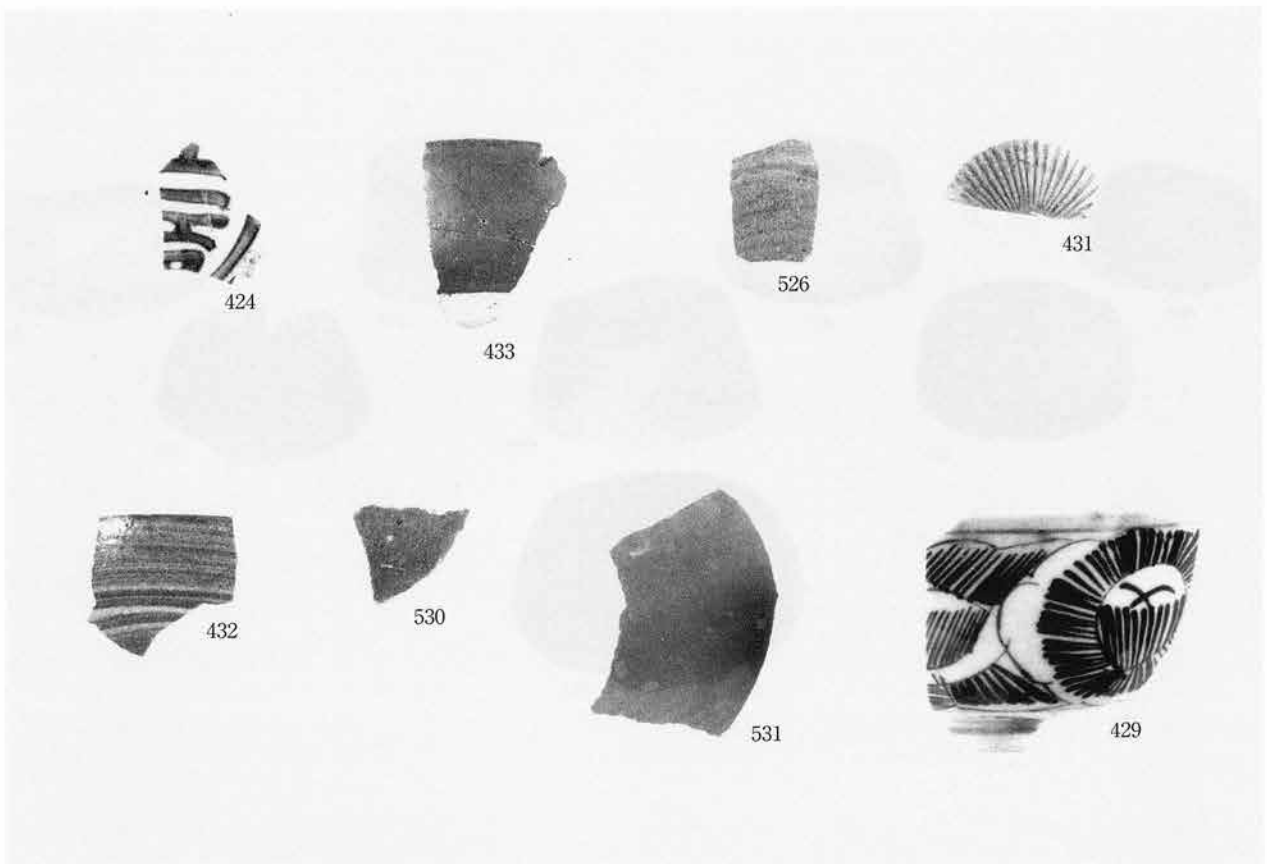
写真図版177 縄文土器(2)

1:2



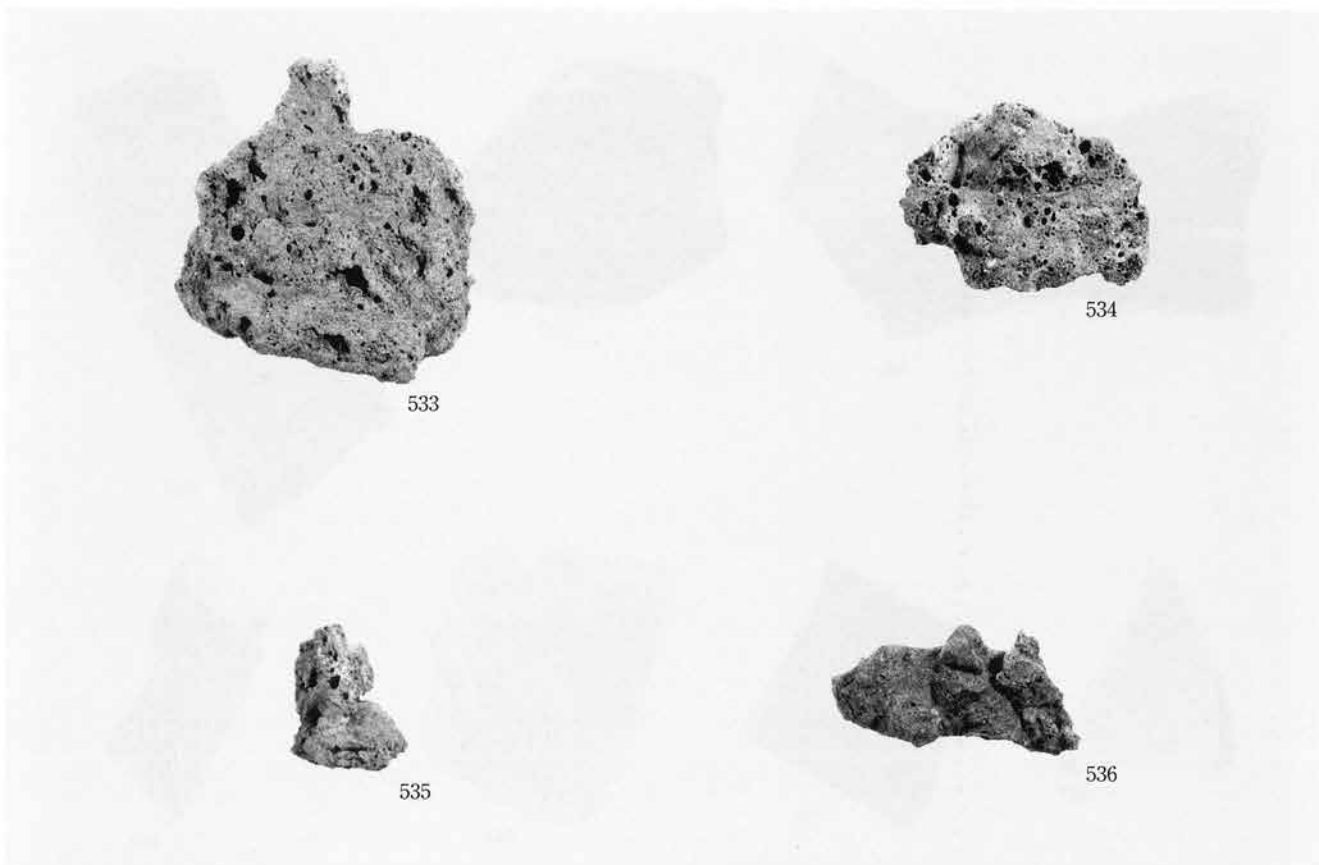
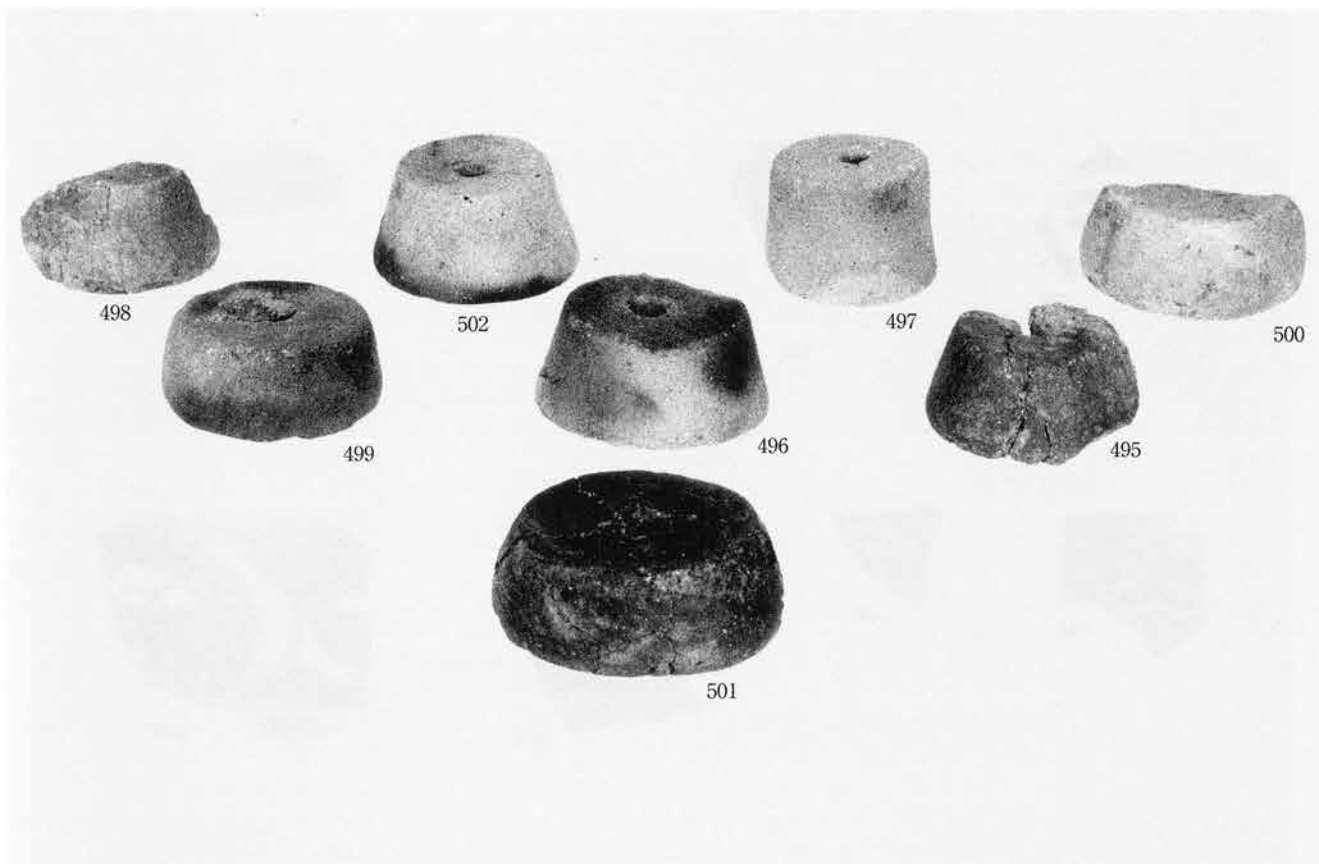
写真图版178 陶磁器(2)

2:5



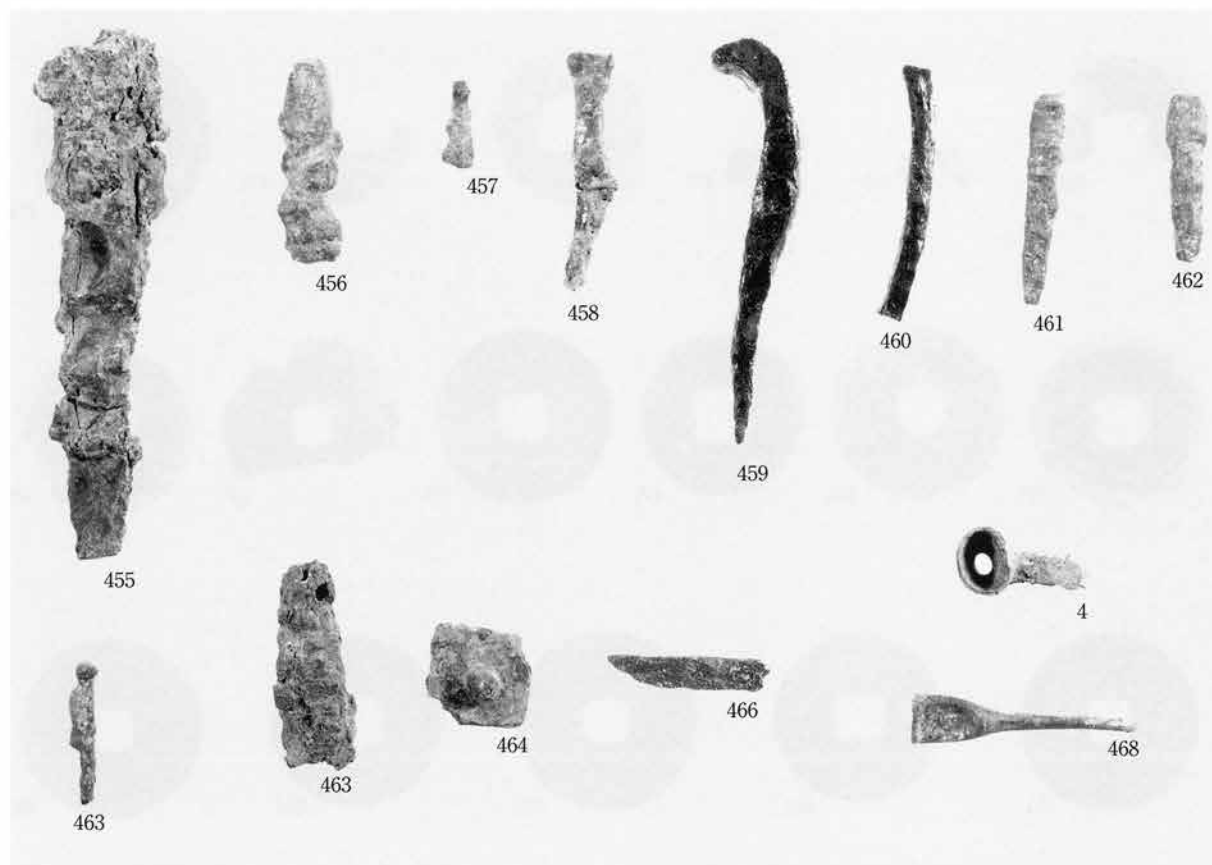
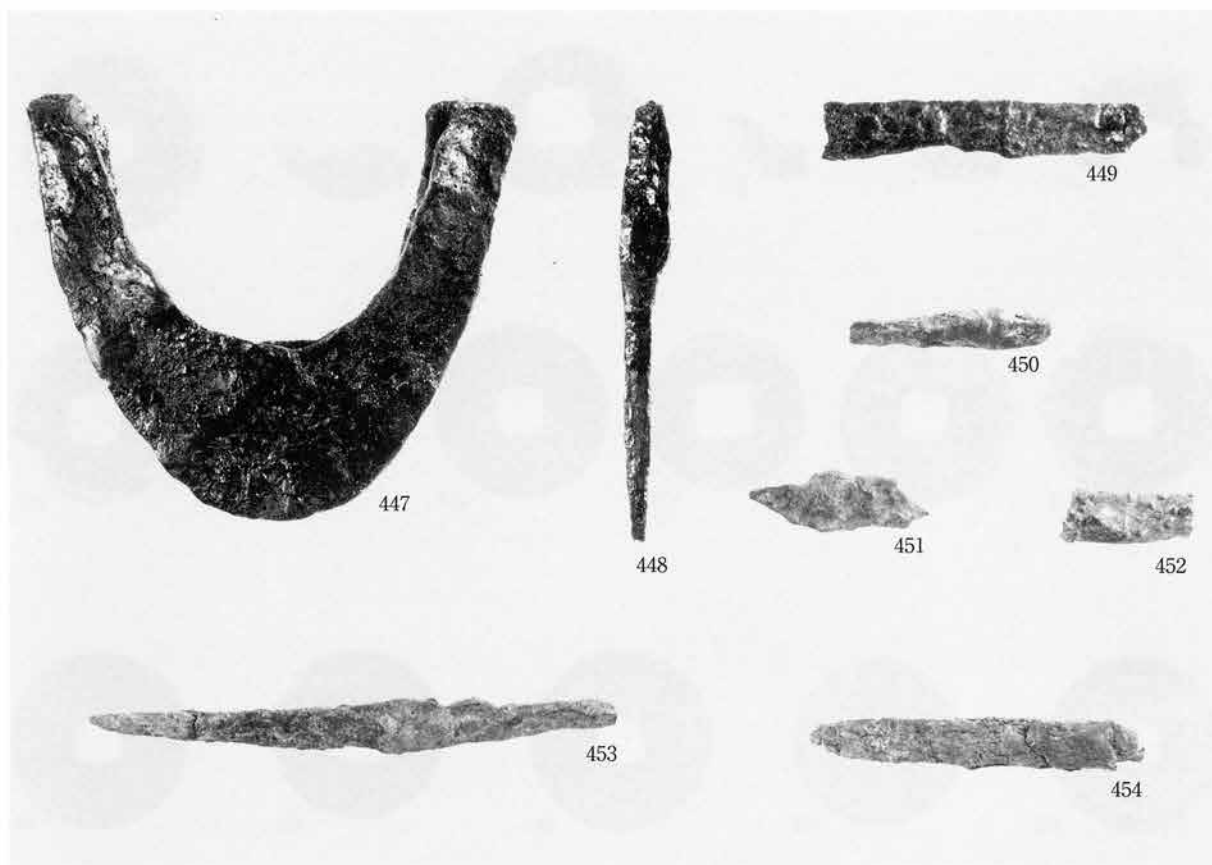
写真図版179 陶磁器(3)

1:2



写真図版180 土製品、鉄製品(1)

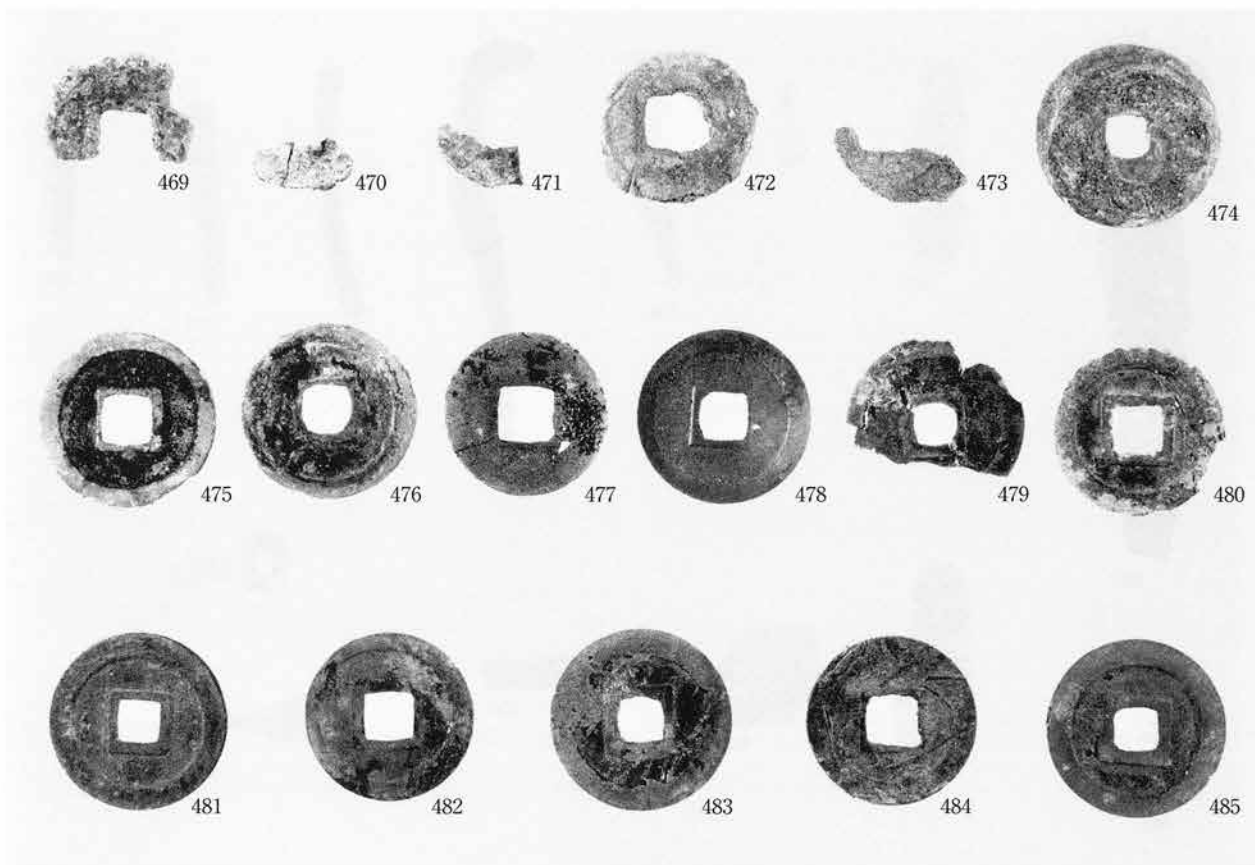
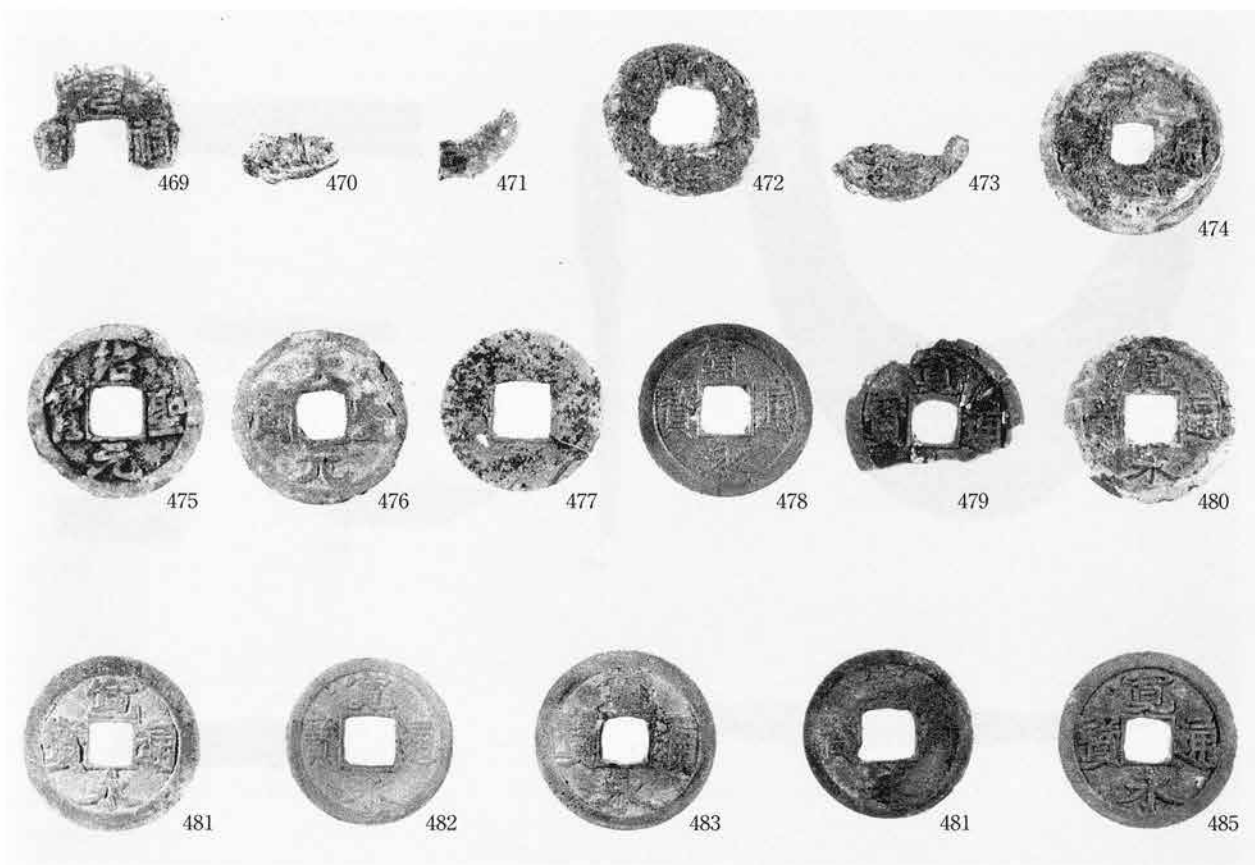
1:2



写真図版181 鉄製品(2)

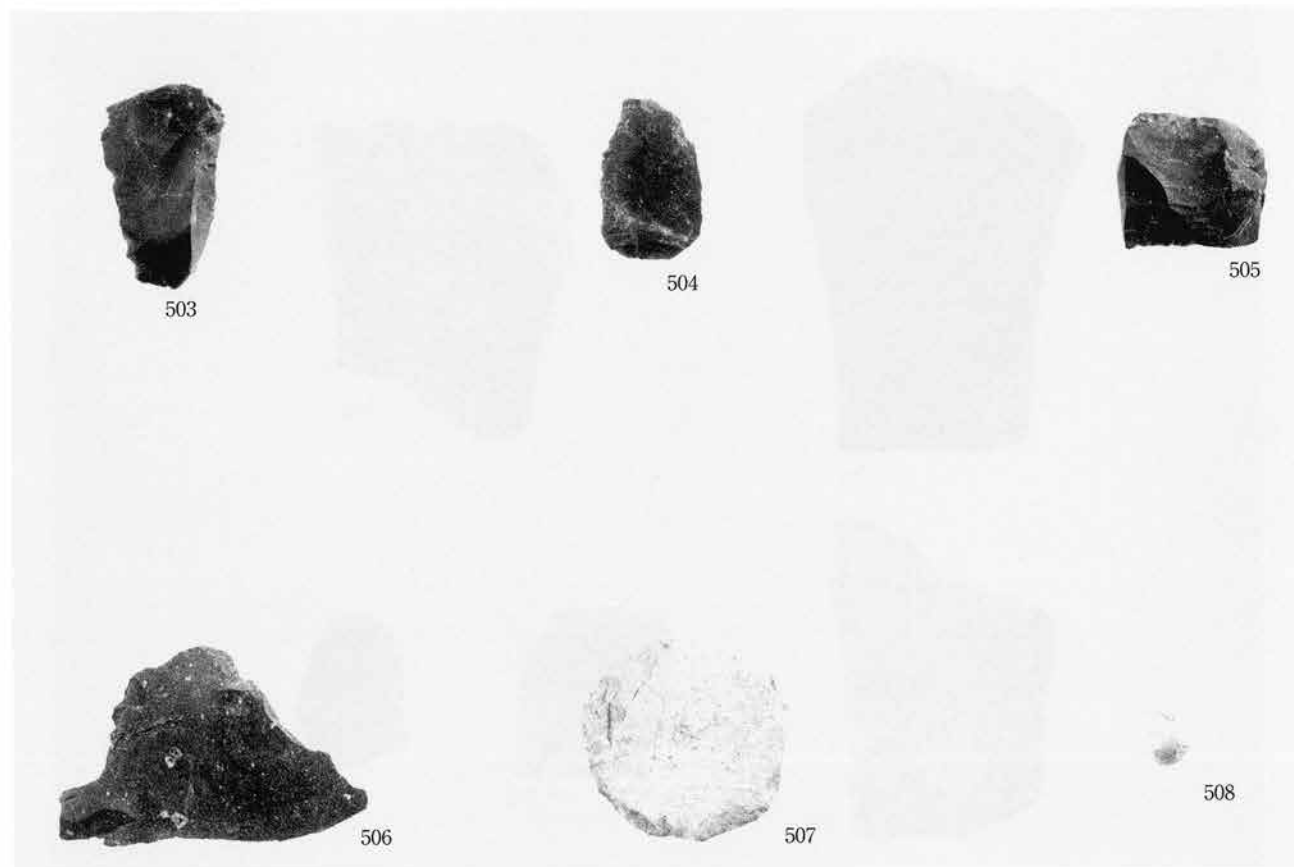
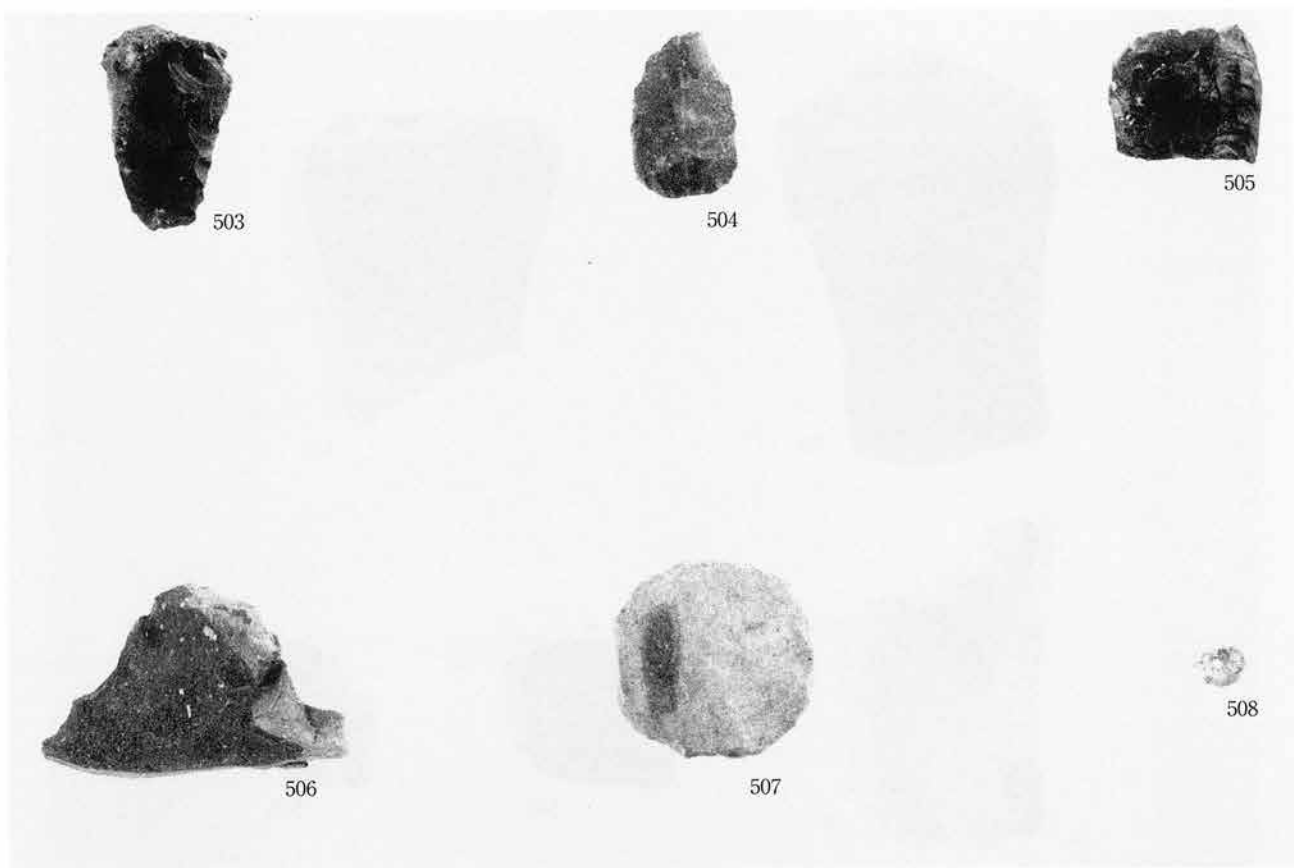
1 : 2





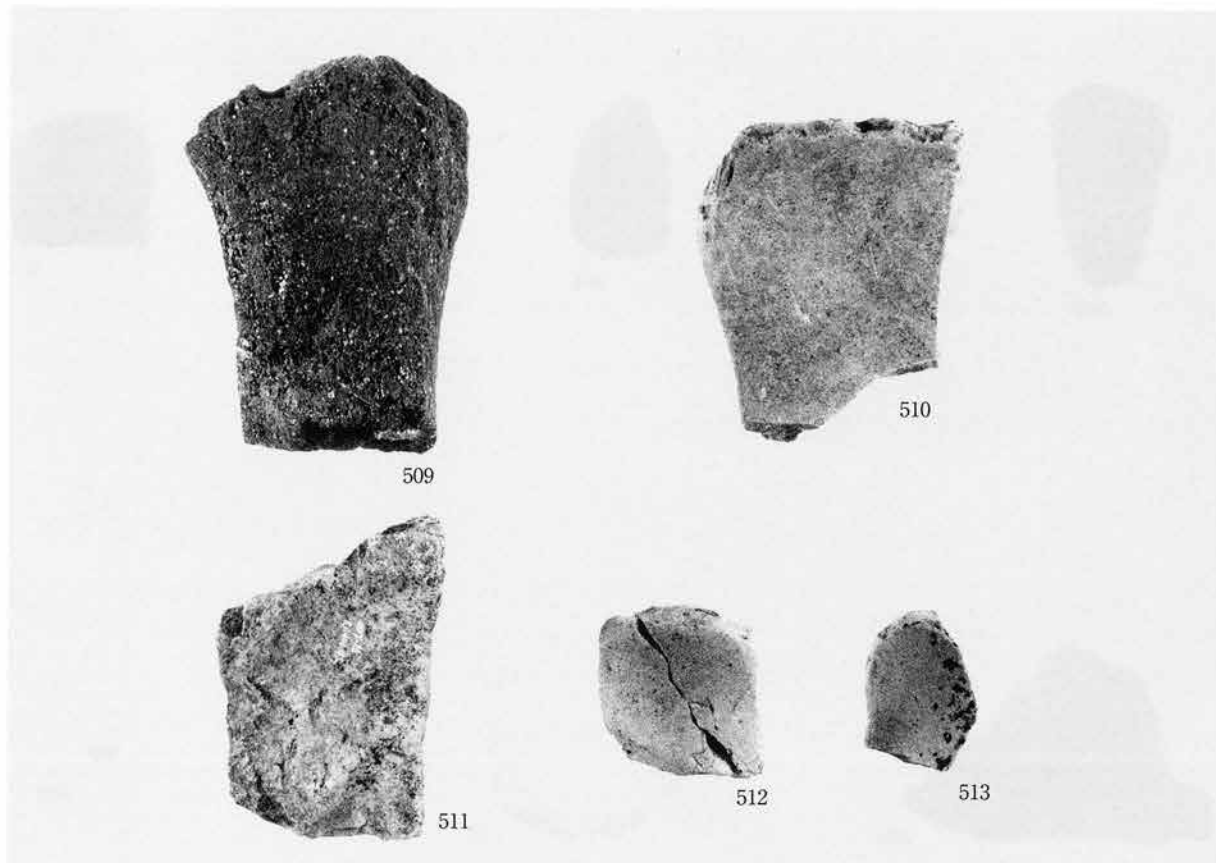
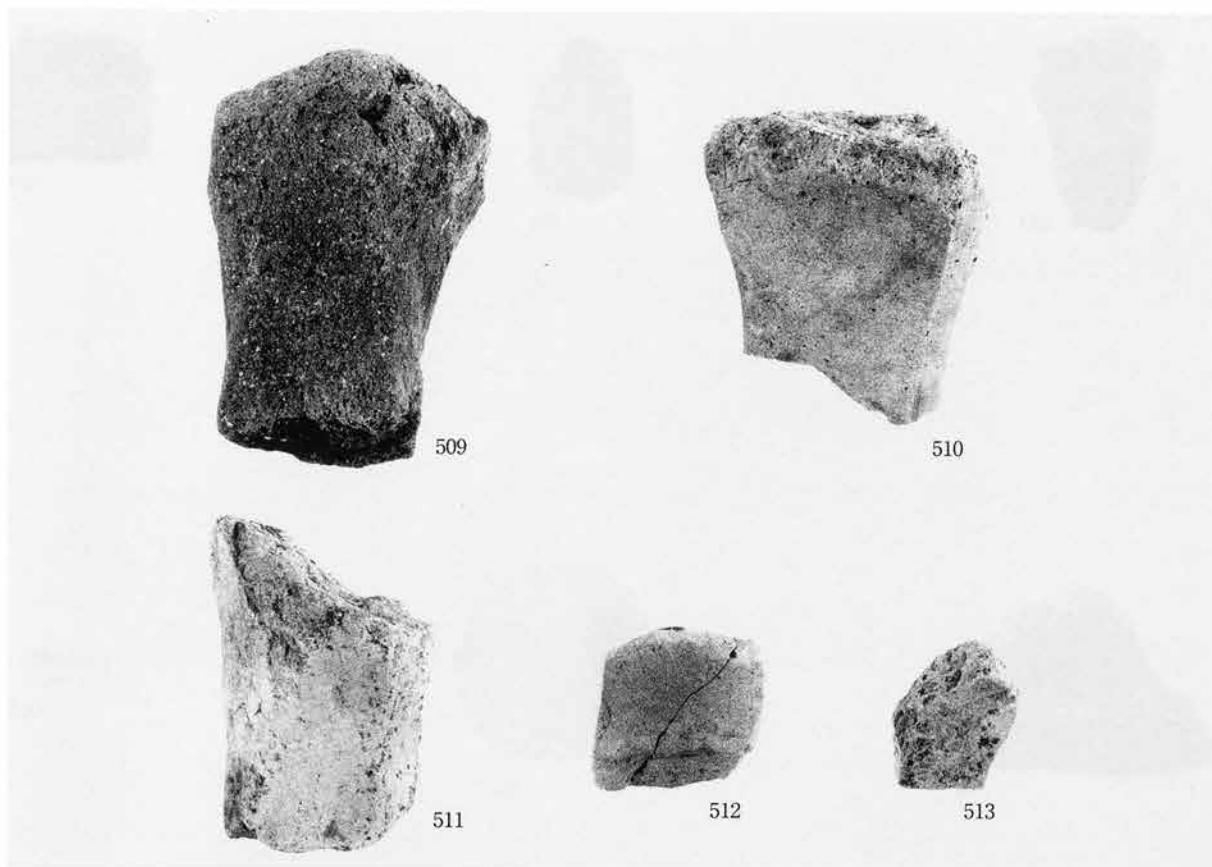
写真図版182 銭貨

原寸



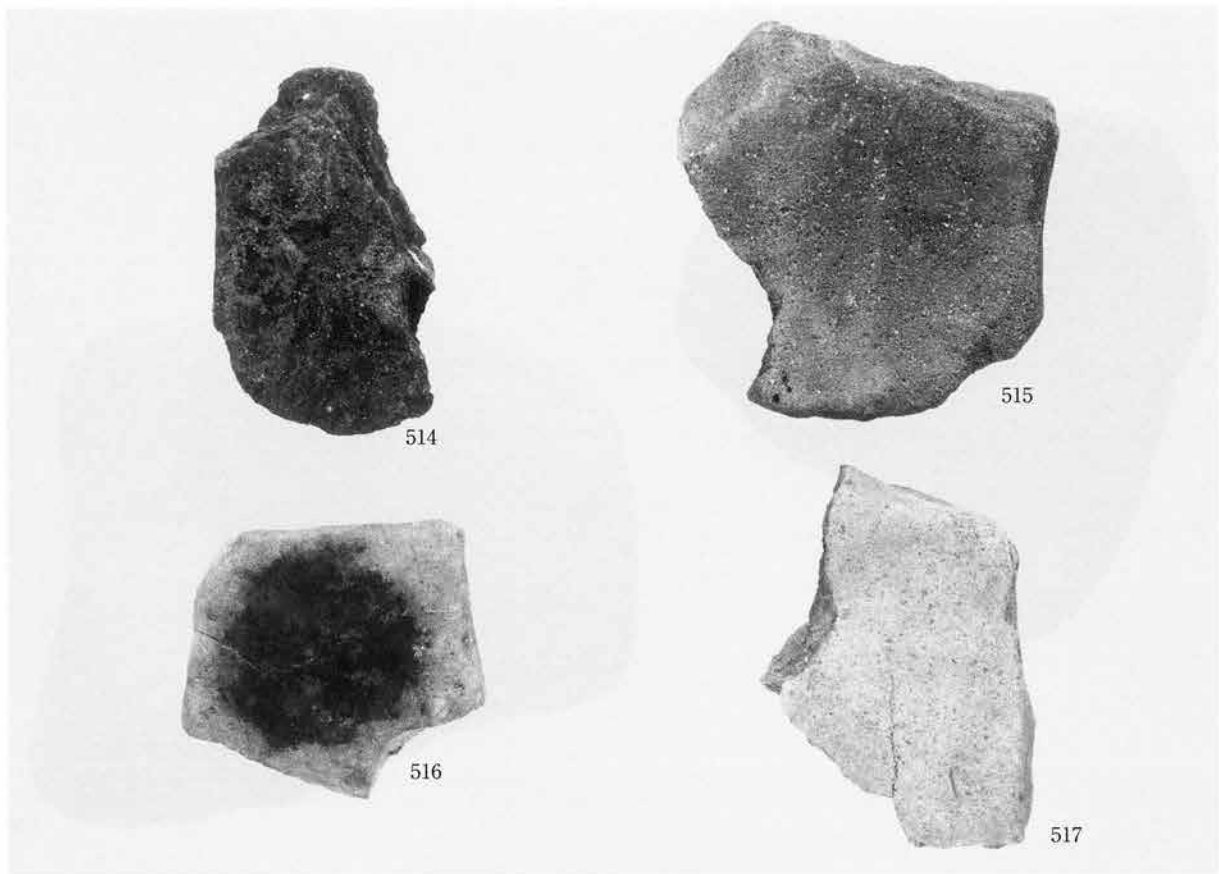
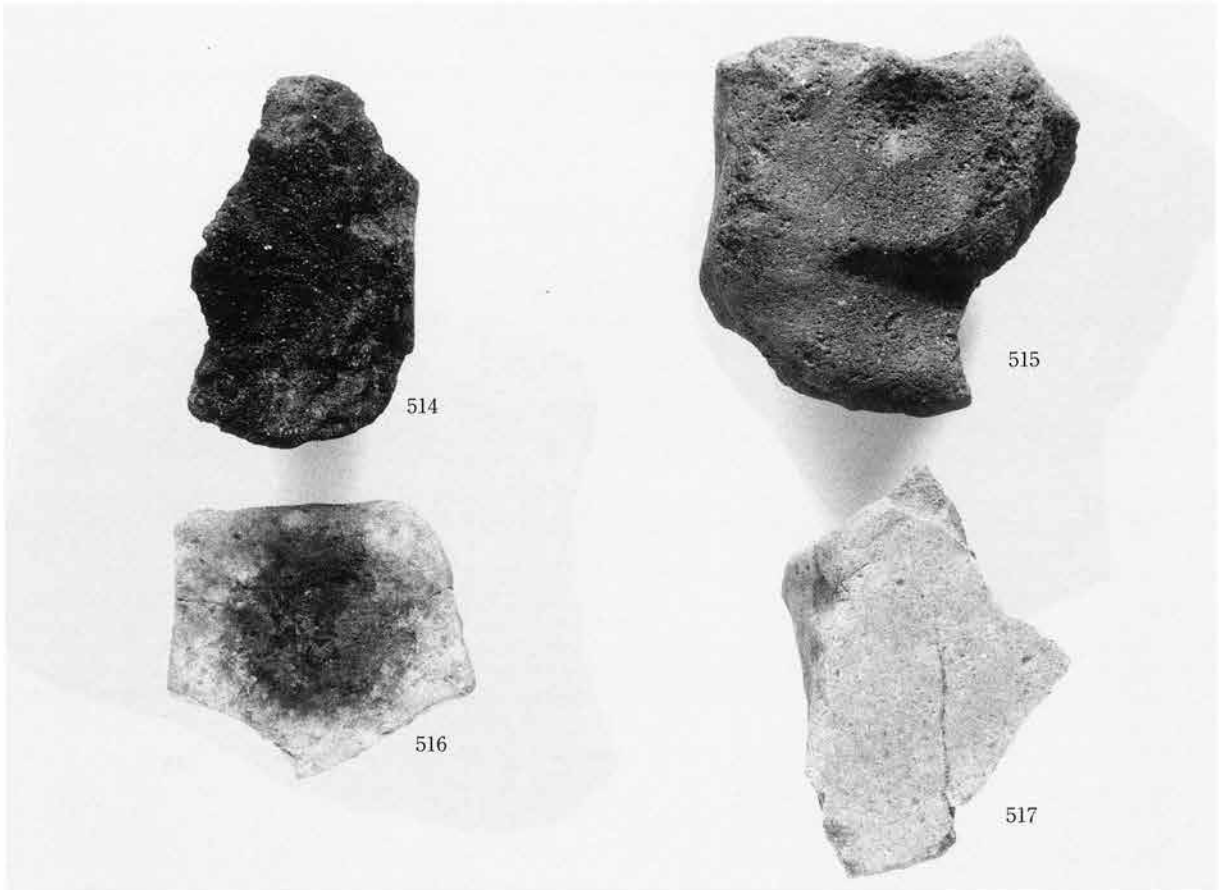
写真図版183 石器・石製品(1)

1:2



写真図版184 石器・石製品(2)

1:3



写真図版185 石器・石製品(3)

1:4



518

519



518

519

写真図版186 石器・石製品(4)

1:4

## 報告書抄録

ふりがな	だいたろういせきだいにじゅうろくじはくつちようさほうこくしょ							
書名	台太郎遺跡第26次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第416集							
編著者名	杉沢昭太郎 半澤武彦 古舘貞身							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦 2001年11月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だいたろう 台太郎 いせき 遺跡 なかい 第23次 ちようき 調査	いわてけん 岩手県 もりおかし 盛岡市 むかいなかの 字向中野 あざむかいなかの 16-15ほか	03201	LE16-2269	39度 40分 43秒	141 度 8分 40秒	1999年 4月 19日 から 10月 30日	13,662 m <sup>2</sup>	盛岡南新都市開発整備事業にともなう事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
台太郎遺跡 (26次)	集落	古墳時代末 ～奈良時代	竪穴住居跡34棟、竪穴状遺構1棟		土師器(坏、高坏、甕類、甑など) 須恵器(高台付坏)			
		平安時代	竪穴住居跡34棟、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構1棟、溝1条、土坑3基、円形周溝ほか1基		土師器(墨書あり、坏、高台付坏、甕など)須恵器、鉄器(鋤先)			
	墓地集落 ほか	中世	墓壙29基、竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡6棟、竪穴状遺構1棟、焼土・炉跡7基、溝6条、井戸2基、土坑21基、その他1基		陶磁器(青磁、白磁、染付、瀬戸、常滑、東北在地など) かわらけ 銭貨(北宋ほか) 木製品(漆器、木槌など)			
			民家 ほか	近世及びそれ以降等	掘立柱建物跡2棟、土坑69基、井戸1基、溝38条、その他1基			陶磁器、銭貨、鉄器、木製品



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

**台太郎遺跡第26次発掘調査報告書**  
盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成14年11月22日

発 行 平成14年11月29日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
TEL (019) 638-9001  
FAX (019) 638-8563

印 刷 株式会社 杜陵印刷  
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ2-22-50  
TEL (019) 641-8000  
FAX (019) 641-8085

---

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002



岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第416集

だい たらう

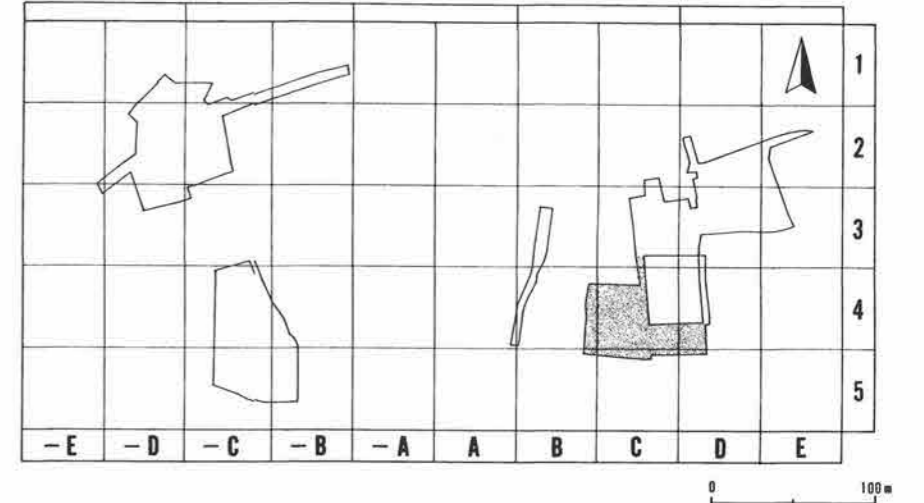
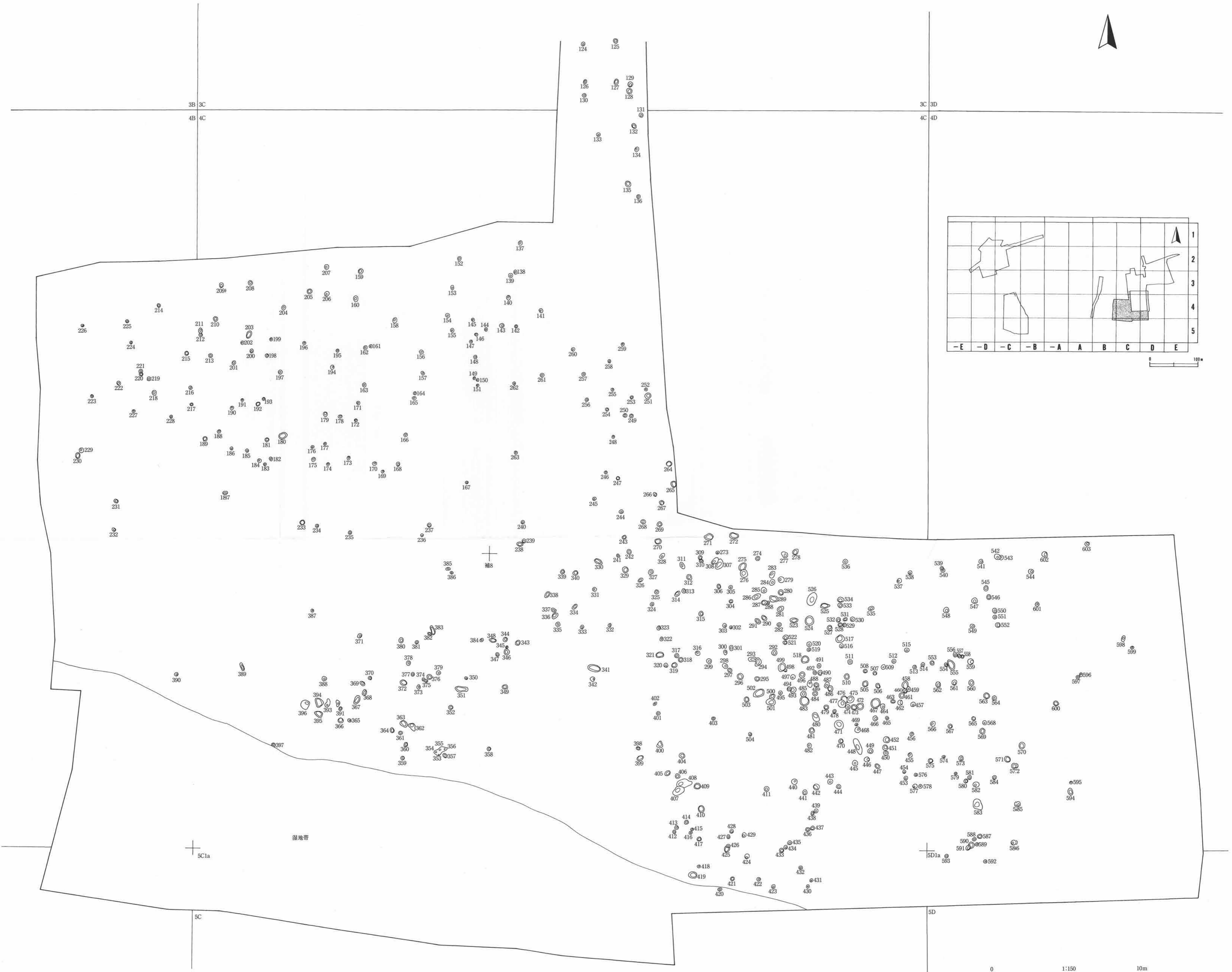
# 台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

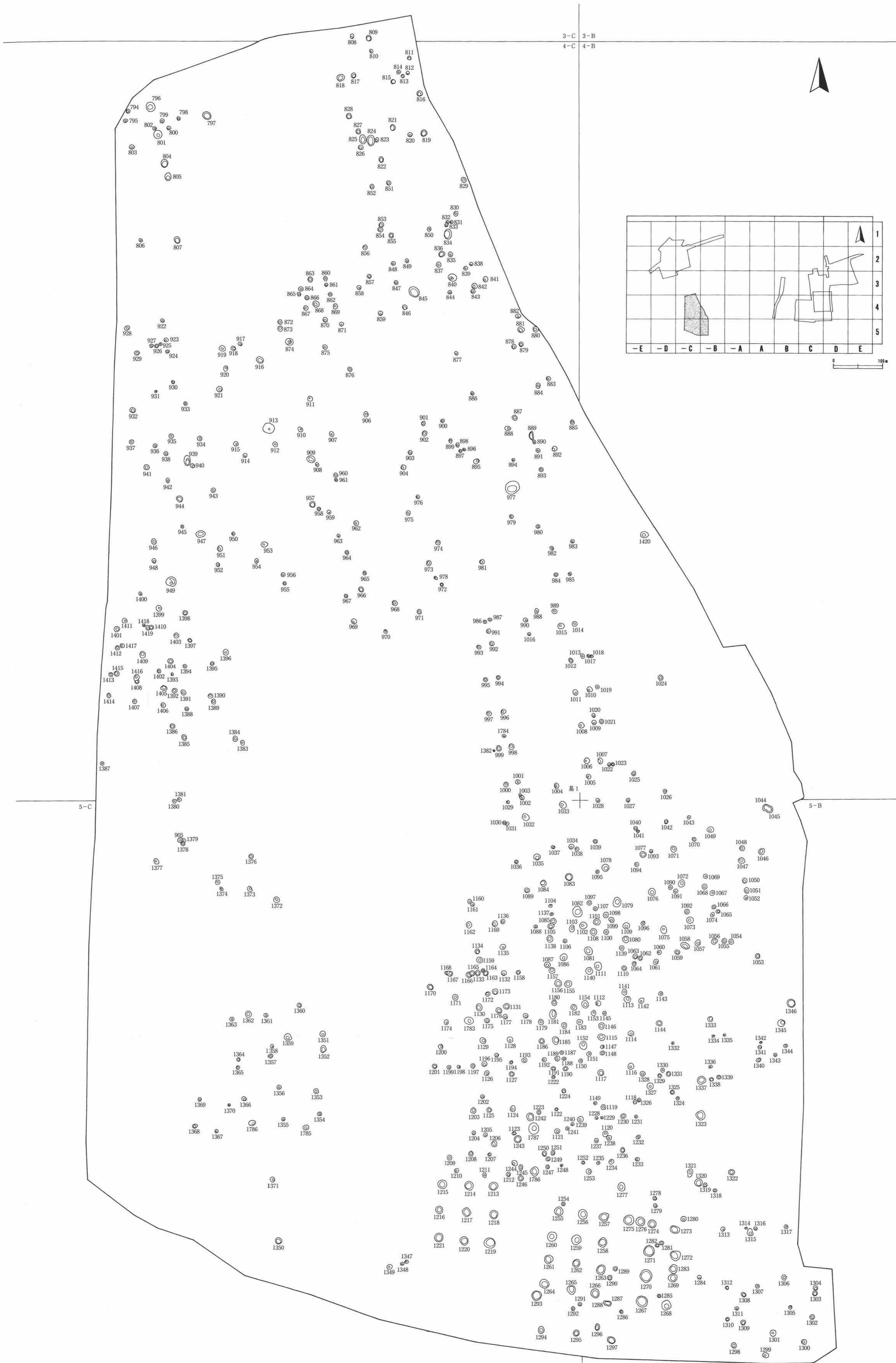
折込図版（3枚）



付図1 台木郎遺跡15・18・23・26次、  
向中野館跡遺構配置図



付図2 柱穴群



0 1:150 10m

付图 3 柱穴群

